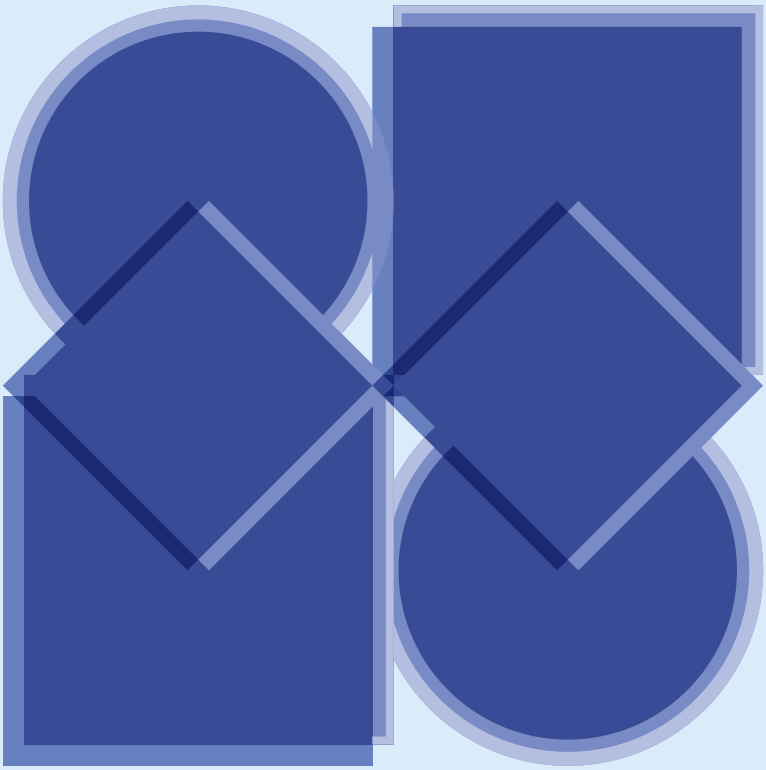
平成28年度老人保健事業推進費等補助金老人健康増進等事業

医療・介護ニーズがある高齢者等の地域居住のあり方に関する調査研究事業

報 告 書



平成29年3月

一般財団法人 高齢者住宅財団
Foundation for Senior Citizens' Housing

はじめに

高齢者住宅財団では、高齢者を中心として、その住まいと住まい方の問題について各種の調査研究を実施してきた。

近年、ケアと住まいの関係のあり方について関心が高まり、サービス付き高齢者向け住宅をはじめ、住宅からケアへのアプローチが本格化している。このような流れのなかで、「ケア・イン・プレイス」、あるいは「エイジング・イン・プレイス」という概念が我が国でも定着し、これを「地域居住」という日本語で表現するようになった。

介護保険の導入においても居宅サービスの充実が強調され、さらに地域包括ケアの概念が介護保険だけではなく、医療や高齢者以外の分野にも拡張されるにようになった。「住みなれた地域で多様な支援を利用して、生活を継続する」という考え方は、地域包括ケアシステム構築の基本的な考え方である。

「地域包括ケア研究会」が提起した地域包括ケアを説明する通称「鉢植えの図」において、医療、看護、介護、福祉等の専門サービスがその十全な役割を発揮するためには、「本人の選択と本人・家族の心構え」を基礎に、住まいと住まい方がその枠組となり、介護予防及び生活支援を媒介していなければならないとしている。

このような視点に立つと、住まいと住まい方の問題はケアを成り立たせる上で改めて重要な役割を果たすことが理解できよう。

高齢人口の増大と高齢者の生活形態の変容、家族介護力の脆弱化のなかで、医療や介護が必要になったときに、施設や医療機関の利用が当然なこととして行われてきたが、そのようなことを可能にする条件が大きく縮小され、また、家族や地域の介護力が脆弱化するなかで、あらためて、「医療や介護」と「住まいと住まい方」の関係が問われるようになってきた。

とりわけ、在院日数の短縮化を求める診療報酬改定の動向や、医療機関の利用が必ずしも必要が無いにもかかわらず、入院を継続するいわゆる社会的入院問題の克服が議論されてきたが、いよいよこの問題が解決すべき課題として、まったなしの状況になってきた。

本財団はこのような問題意識も持ち、序章の目的でもふれているとおり、昨年度は都市圏の急性期病院を対象に退院支援担当者の調査を行い、自宅復帰が可能になった場合と自宅復帰をせず他の生活の場所に移った高齢者の比較検討を行い、その要因の分析を行った。[i]

その結果として、退院先を決定する要因として、本人の心身の状態もさることながら家族介護力および、とりわけ経済的な条件が大きい要因であることが明らかにされた。

この経済的要因とかかわる単身の低所得高齢者が移り住む先の一つとして住宅型有料老人ホーム、とりわけ届出がされないまま、高齢者の生活の場となっている未届の有料老人ホームがある。ここへの入居の動機が、本年度、当財団で実施した別調査でも医療機関が主な紹介窓口の一つになっていることが明らかにされた。

一方、昨年度調査では支払い能力が低い者が、他に手段がないため「やむを得ない在宅」をしていることも明らかにされた。

それでは、今後増大する、高齢者が地域居住を継続するために「やむを得ない在宅」ではなく「当たりまえの在宅」を可能にする条件は何だろうか。今後、85歳以上の超高齢層での死亡が通常化するという予測を前提にすると、自宅での看取りが、たとえ単身であっても可能になるためにはどのような条件が必要になるのか、現状では家族を前提として、在宅での看取りが可能ということが通念であるが、家族の介護力が前提とならない場合に在宅でも看取りの条件は何かについての検討がこれから必要とされるのは間違いない。

そのような検討の前提として、現在の自宅看取りの現状について、重要な役割が期待される在宅療養支援診療所等の医療機関や訪問看護事

業所、居宅介護支援事業所へのアンケート調査を通じて、現状の自宅看取りが完遂された事例と、自宅での療養を中断した事例をあげてもらい、自宅看取りの状況についての要因を明らかにする調査を行うこととした。

その際、その地域における、在宅死亡率の水準と都市規模を考慮して、地域特性を区分して、自宅看取りの実態を把握することとした。また、人口動態統計では在宅死に自宅での異状死も含まれるということを考慮し、死亡診断書の全数調査によって異状死を除いたデータが利用できる横浜市を行政区ごとの自宅看取り率の水準で区分し、現状を把握した。

また、自宅看取りに直結する、見るべき地域ケアの活動が行われている地域を選定して、看取りの状況も併せ調査した。

その成果を本編で報告するが、恐らくこの種の調査として前例がないと思われることもあり、試行錯誤を含めた複雑な調査の分析になっており、やもすると晦渋な部分もあることをお断りしておきたい。

なお、この調査にアンケート調査の回答者として、ご協力をいただいた医療機関、事業者の方々およびヒアリング調査に応じていただいた方々に厚く御礼申し上げるとともに、検討委員会のメンバーとして調査の企画と検討の作業に参画していただいた委員の方々に謝意を申し上げる。

なお、調査の実施にあたって、多大の貢献をいただいた、株式会社メディヴァの皆さん、さらに調査地域選定のためのデータ処理にご協力をいただいた方々に感謝したい。

平成２９年３月

一般財団法人高齢者住宅財団理事長

髙橋紘士

---

[i] 平成 27 年度老人保健事業推進費等補助金老人保健健康増進等事業による「医療・介護ニーズがある高齢者等の地域居住のあり方に関する調査研究事業報告書」平成 28 年 3 月　一般財団法人高齢者住宅財団

「医療・介護ニーズがある高齢者等の地域居住のあり方に関する調査研究事業」

報告書 目次

はじめに

序章　調査の実施目的と内容、検討体制
１．調査の目的 1
２．調査フロー 1
３．調査体制 2
４．検討経過 2

第１章　医療・介護ニーズがある高齢者に関する実態調査
１．アンケート調査の概要 5
（１）実態調査の枠組 5
（２）調査項目と調査方法、調査票の配布数と回収数 8
（３）実態調査の内容と構成 11
２．調査対象事業所の特性と事業の状況 13
（１）調査対象機関・事業所の基礎統計の記述統計 13
Ⅰ．在宅療養支援診療所/病院 13
Ⅱ．訪問看護事業所 20
Ⅲ．居宅介護支援事業所 27
（２）調査対象事業所の需要構造 30
Ⅰ．在宅療養支援診療所/病院 30
Ⅱ．訪問看護事業所 36
Ⅲ．居宅介護支援事業所 42
３．在宅療養関連事業所からみた自宅看取りとその中断の状況 48
（１）地域の在宅療養の環境要因 48
Ⅰ．在宅療養の開始に寄与した居住地域の要因 48
Ⅱ．自宅看取りに寄与した要因 50
Ⅲ．自宅看取りの阻害要因となった要因 51
（２）自宅看取りとその中断の状況 52
Ⅰ．基礎属性 52
Ⅱ．状態像の比較 56
Ⅲ．家族状況 60
Ⅳ．本人・家族の意向 62

Ⅴ．経済状況……64
Ⅵ．サービス利用状況……65
Ⅶ．看取りをめぐる想定……68
（３）自宅復帰と療養の中断に至る過程……71
Ⅰ．在宅療養を開始に寄与した本人・家族の要因……71
Ⅱ．自宅看取りの阻害要因となった本人・家族の要因……73
Ⅲ．在宅療養に対する本人・家族の意識の変化……74
Ⅳ．在宅療養中断のきっかけ、入院時の状況……75
（４）自宅看取りに至る過程と要因……76
Ⅰ．自宅看取りができたことに寄与した本人・家族の要因……76
Ⅱ．在宅療養に対する本人・家族の意識の変化……77
４．看取り完遂事例と在宅療養中断事例の地域別分析……78
（１）地域看取り完遂群と在宅療養中断群の地域別分析……78
Ⅰ．在宅療養の需要の増減……78
Ⅱ．自宅看取りの需要の増減……80
Ⅲ．在宅療養需要への対応状況……81
Ⅳ．自宅看取り需要への対応状況……82
Ⅴ．地域環境の状況……83
５．ベストプラクティス群の分析……89
（１）抽出方法と自治体の種類……89
（２）調査対象の事業所の特性と事業の状況……90
Ⅰ．在宅療養支援診療所/病院……90
Ⅱ．訪問看護事業所……94
Ⅲ．居宅介護支援事業所……98
（３）調査対象機関・事業所の需要構造……100
Ⅰ．在宅療養支援診療所/病院……100
Ⅱ．訪問看護事業所……104
Ⅲ．居宅介護支援事業所……108
（４）在宅療養関連事業所からみた自宅看取りとその中断の状況……111
Ⅰ．地域の在宅療養の環境要因……111
Ⅱ．自宅看取りと中断の状況……113
Ⅲ．自宅復帰と療養中断に至る過程……122
Ⅳ．自宅看取りに至る過程と要因……125
（５）看取り完遂事例と在宅療養中断事例の地域別分析……126
Ⅰ．地域看取り完遂群と在宅療養中断事例の地域別分析……126

第２章　事例報告

１．医療法人プラタナス桜新町ｱｰﾊﾞﾝｸﾘﾆｯｸ・ﾅｰｽｹｱｽﾃｰｼｮﾝ 131
２．医療法人聖徳会小笠原内科 133
３．社会医療法人祐愛会織田病院 135
４．医療法人生寿会かわな病院 137
５．板橋区医師会在宅医療センター 139
６．株式会社ケアーズ白十字訪問看護ステーション 141

終章　まとめ

１．考察にかえて 143

資料編

・自治体抽出と分類ロジック 147
・アンケート調査票等 152
・調査対象事業所基礎統計 172
・アンケート単純集計 180

序章　調査の実施目的と内容、検討体制

1. 調査の目的

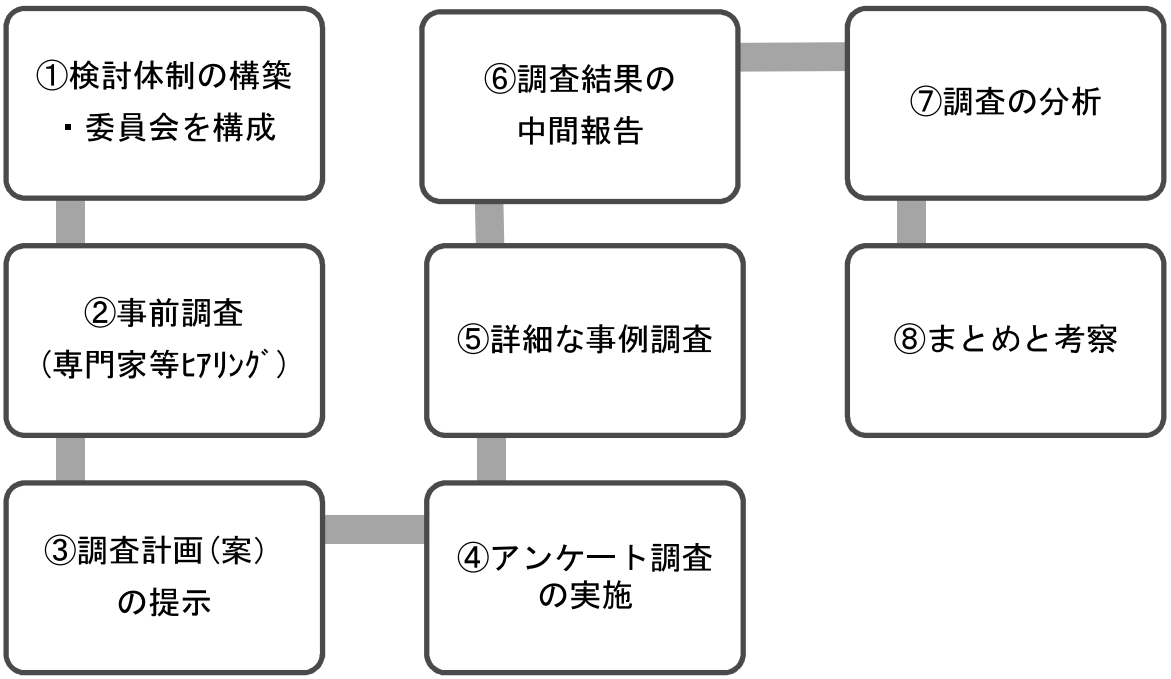
医療・介護ニーズがある高齢者の地域居住の成立要件を
居宅支援を行う在宅医療・看護の観点から整理

医療・介護ニーズがあり、単身や夫婦のみで地域で居住する高齢者が増加している。都市部では特に単身高齢者の増加や在院日数の短縮化等により、退院後の住まい確保が困難な高齢者の問題が顕在化しており、その実態把握のため、当財団では平成 27 年度に、首都圏・大阪圏の急性期病院を対象とした、「退院支援・調整に関する実態調査」を実施した。

その結果、入院前の自宅に戻れるかどうかは、入院中のＡＤＬ低下・認知症等の心身の要因とともに、同居人の有無が大きな要因になっており、また、退院先が経済状態によって規定されていることが明らかになった。「施設・病院から在宅へ」の流れが本格化し、この流れを受け止めることができるような住環境整備は急務であり、また、療養病床・慢性期医療の在り方が検討されていることから、在宅医療・介護と住まいとの関係に着目し、医療・介護ニーズがあり、また単身等で家族介護力のない高齢者等が、どのような条件が整えば地域居住が可能になるかを明らかにすることは、ＱＯＬ（クオリティー・オブ・ライフ）の観点からも重要である。

そこで、本調査では、主として在宅医療・看護の観点から住まいの調査を行った。医療・介護ニーズのある高齢者の自宅を含めた多様な住まいに関する現状と課題、モデル的な好事例を把握し、在宅医療を可能にする住まいとサービスのあり方（ハード、及び医療・看護・介護・リハビリテーション等の入り方等）について整理を行った。

2. 調査フロー



3. 調査体制

＜委員会委員＞（五十音順）

宇都宮　宏子	在宅ケア移行支援研究所　代表･聖路加看護大学　臨床教授
太田　秀樹	医療法人アスムス　理事長
佐藤　好美	産経新聞社編集局　論説委員・文化部編集委員
園田　眞理子	明治大学理工学部建築学科　教授
髙橋　紘士	一般財団法人高齢者住宅財団　理事長
新田　國夫	医療法人社団つくし会理事長・一般社団法人全国在宅療養支援診療所連絡会会長
武藤　正樹	国際医療福祉大学大学院　教授
山本　繁樹	社会福祉法人立川市社会福祉協議会地域生活支援課　課長

＜オブザーバー＞

厚生労働省老健局高齢者支援課

厚生労働省保険局医療介護連携政策課

国土交通省住宅局安心居住推進課

村山　浩和	一般財団法人高齢者住宅財団　専務理事

＜事務局＞

落合　明美	一般財団法人高齢者住宅財団　調査研究部　部長
小川　麗子	一般財団法人高齢者住宅財団　調査研究部　主任
大石　佳能子	株式会社メディヴァ　代表取締役
橋爪　良治	株式会社メディヴァ　コンサルティング事業部　シニアコンサルタント
梅木　恒	株式会社メディヴァ　コンサルティング事業部　コンサルタント

4. 検討経過

主な経過

【平成 28 年】

7 月 7 日　病院ヒアリング①　小笠原医師（小笠原内科）
・教育的在宅緩和ケアとＴＨＰ（トータルヘルスプランナー）について

7 月 11 日　病院ヒアリング②　亀井医師（かわな病院）
・後方支援機能とサービス付き高齢者向け住宅等の住まい確保も含めた地域展開

7 月 14 日　病院ヒアリング③　新田医師（新田クリニック）
・調査方法等に関する助言

7 月 19 日　　居宅介護支援事業所ヒアリング①　ケアマネジャー

8 月 3 日　　病院ヒアリング④　織田医師（織田病院）
・安心して地域に戻すための院内の仕組みづくりとＭＢＣ（メディカル・ベースキャンプ）

8 月 9 日　　訪問看護事業所ヒアリング①　看護師、ケアマネジャー

8 月 31 日　　第 1 回委員会
・初期ヒアリング調査結果について
・アンケート調査の実施方法、調査票について検討

【平成 29 年】

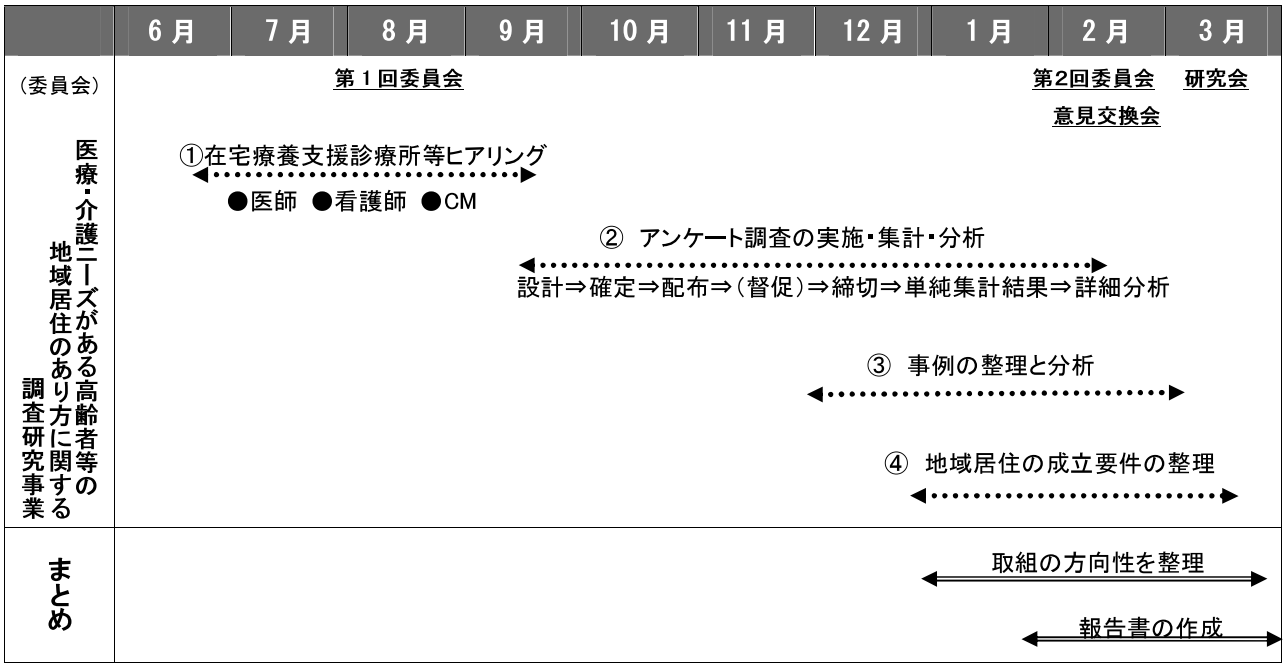
2 月 1 日　　第 2 回委員会
・アンケート調査の分析結果について
・報告書の構成について

2 月 23 日　　住まいの受け皿に関する意見交換会

3 月 28 日　　報告会（研究会）

※以上は今年度のおもな動きである。

事業実施スケジュール表



第１章　医療・介護ニーズがある高齢者に関する実態調査

1. アンケート調査の概要

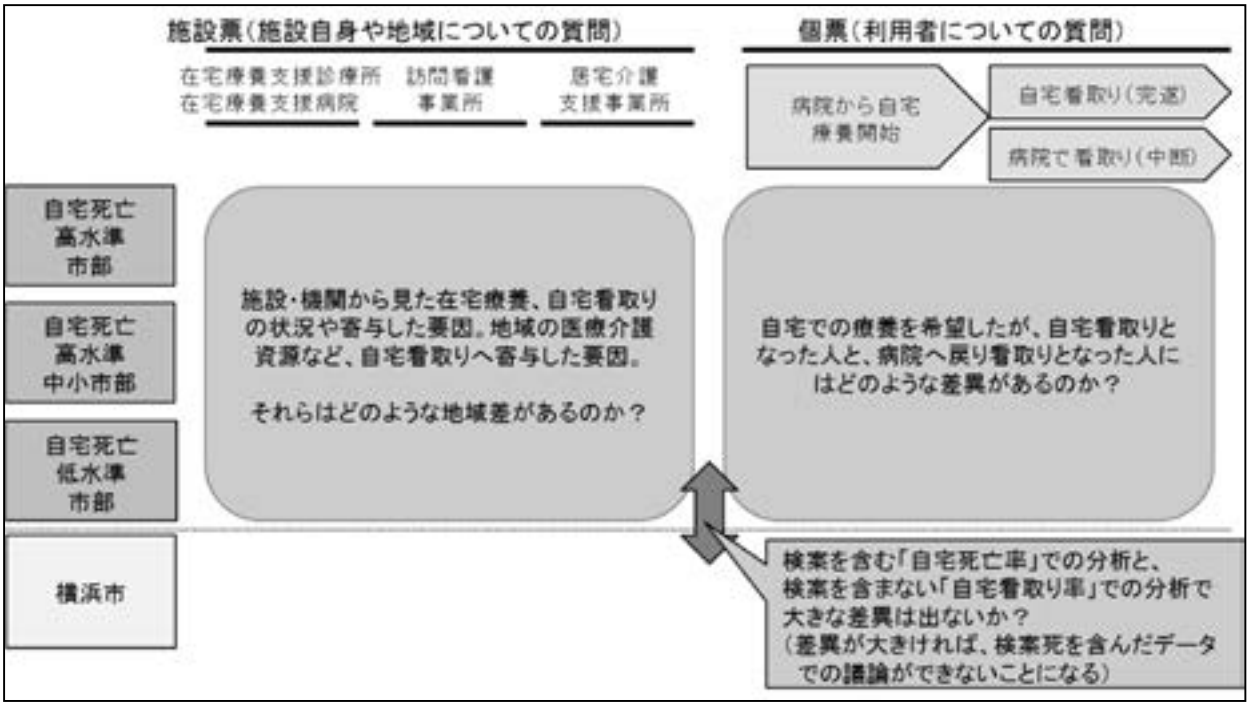
（1） 実態調査の枠組

本調査では、図１のような調査のフレームを設定した。この調査では、在宅療養支援診療所および在宅療養支援病院、訪問看護事業所、居宅介護支援事業所の三事業所を対象として、施設機関からみた在宅療養および自宅看取りの状況およびこれらに寄与した要因等についての調査票と、病院等から自宅に退院して、自宅での看取りに至ったケース（自宅看取り完遂群と呼ぶ）と在宅療養を中断して病院に入院した看取りになったケース（自宅看取り中断群と呼ぶ）の二つの類型について、在宅療養の開始理由、状況、必要とされた医療、また、自宅看取りへの考え方、自宅での療養の中断事由、等に関する調査票によって、アンケート調査を実施した。

まず、これらの事業所の所在地の特性を、死亡診断書による死亡場所をもとにした公表データの区市町村別統計によって、自宅死亡が高水準の地域と自宅死亡が低水準にある地域とした。自宅死亡高水準地域についてはさらに、人口規模（おおむね 20 万人）を勘案して、20 万以上の市部とそれ以下の中小市部にわけて自治体を抽出し、「自宅死亡高水準市部」「自宅死亡高水準中小市部」「自宅死亡低水準市部」の三類型を設定し、それぞれの地域ごとに事業所から寄せられたアンケートの回答結果を集計して、自宅死亡率の高い地域とそうでない地域で、現実の自宅看取りの状況がどのようになっているかを明らかにすることとした。

周知のように我が国では在宅死亡率が一貫して減少し在宅死亡率は全国平均で 12.5%程度となり、病院死の割合が全国平均で 85%を越えた。最近この傾向に反転が見られ、施設での看取りも含め病院以外での死亡の割合が増大傾向にある。

図 1　調査フレーム



しかし一方で、自宅での死亡について、死亡診断書からの統計の関係で孤独死等の検案を含む死亡ケースも、含まれることが指摘されている。横浜市は死亡小票の全件分析を 2011 年以降経年で行っており、総死亡における検案死を含まない死亡者数の割合の推移を把握しており、今回横浜市当局の好意によって、検案死を除いた自宅看取り率の推移を、横浜市内 18 区別で提供を受けることができた。そのため当調査では、横浜市について

は、自宅看取り率の水準の区ごとのデータによって三区分し、先に述べた全国と同様の調査を実施した。以降の調査結果での集計はこの全国と横浜市の二本立てで行っている。

図２，３は、調査対象として抽出された全国の自治体と横浜市の行政区の分類基準を示したものである。詳しくは巻末の資料を参照されたい。

図 2　全国調査対象自治体とその分類基準

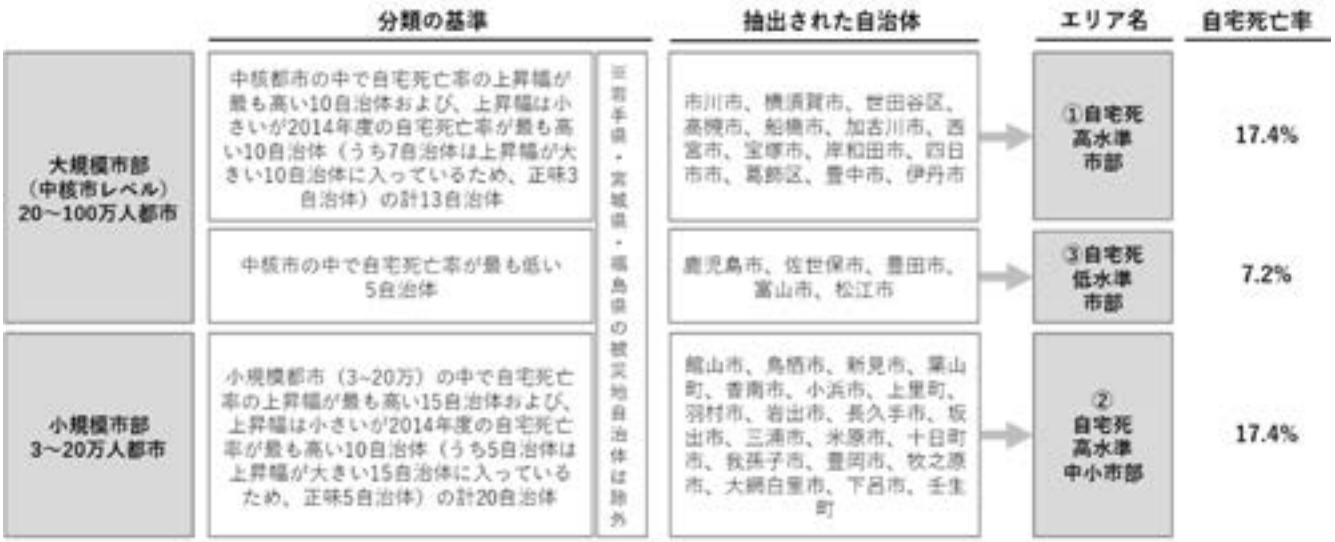
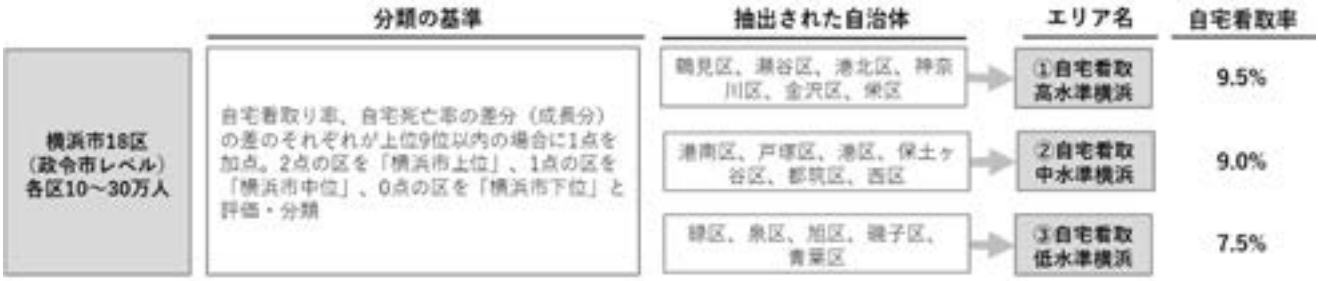


図 3　横浜市の特別区の分類基準



また、調査委員会の委員から自宅の看取りに関連する見るべき地域活動が展開しているとみられる、いわゆるベストプラクティス自治体を推薦いただきこれらの地域についても同様の調査を実施した。なお、このベストプラクティス地域の調査結果については煩雑さを避けることもあり、巻末に収録したことをお断りしておく。

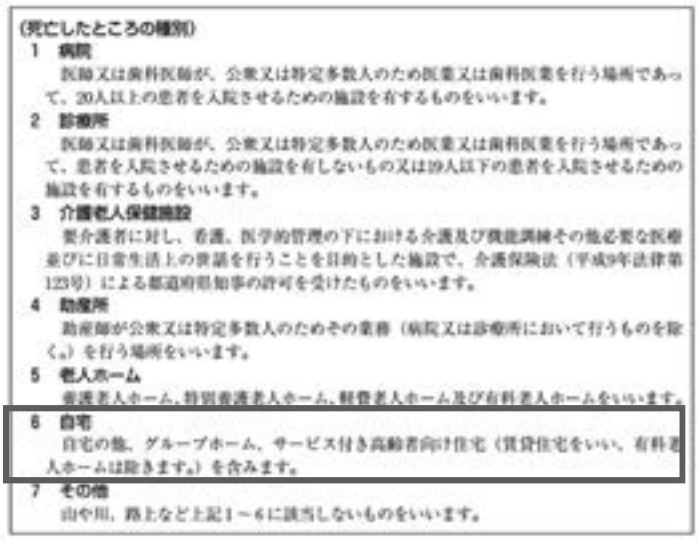
上記の調査フレームの縦軸（地域区分）では、在支診の数など様々な要因はあるものの、客観的に自宅での看取りの量が図れるよう、先行研究[1]で提示された 2011 年と 2014 年の自治体別の自宅死亡率（検案死も含む自宅で亡くなられた方）のデータを用い、自宅死亡率の伸び率・総量が高い上位自治体、低い自治体を抽出した。また、先行研究のデータや、公開データの中に自宅での検案死（事故や死因不明の孤独死など）が含まれることから、検案死を含まない純然たる「自宅看取り率」を分析している横浜市より行政区別の「自宅看取り率」のデータをご提供頂き、横浜市も調査対象として、「自宅死亡率」での調査結果と、「自宅看取り率」の調査

[1]本データはのちに富士通総研　「在宅医療・介護連携の推進に際しての地域の看取り状況について」として公開された。http://www.fujitsu.com/downloads/JP/group/fri/report/elderly-health/chiiki-mitori.pdf

結果にずれがないかを常に比較し、「自然な自宅での看取りがどうなっているか？」という視点を持つことを重視した。

なお、ここでいう自宅での死亡とは、医師が死亡診断を行う際に「自宅」と判断する場所を指す。死亡診断書（死体検案書）マニュアル（下図）における自宅の定義が最適ではないものの、現時点では医師が策定した死亡診断書での、死亡場所に依存せざる得ない状況での定義であるということについてはご留意頂きたい。

図 4：死亡診断書（死体検案書）記入マニュアル（平成 29 年度、厚生労働省抜粋）[2]



（死亡したところの種別）

1　病院
医師又は歯科医師が、公衆又は特定多数人のため医業又は歯科医業を行う場所であって、20人以上の患者を入院させるための施設を有するものをいいます。

2　診療所
医師又は歯科医師が、公衆又は特定多数人のため医業又は歯科医業を行う場所であって、患者を入院させるための施設を有しないもの又は19人以下の患者を入院させるための施設を有するものをいいます。

3　介護老人保健施設
要介護者に対し、看護、医学的管理の下における介護及び機能訓練その他必要な医療並びに日常生活上の世話を行うことを目的とした施設で、介護保険法（平成9年法律第123号）による都道府県知事の許可を受けたものをいいます。

4　助産所
助産師が公衆又は特定多数人のためその業務（病院又は診療所において行うものを除く。）を行う場所をいいます。

5　老人ホーム
養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム及び有料老人ホームをいいます。

6　自宅
自宅の他、グループホーム、サービス付き高齢者向け住宅（賃貸住宅をいい、有料老人ホームは除きます。）を含みます。

7　その他
山や川、路上など上記1～6に該当しないものをいいます。

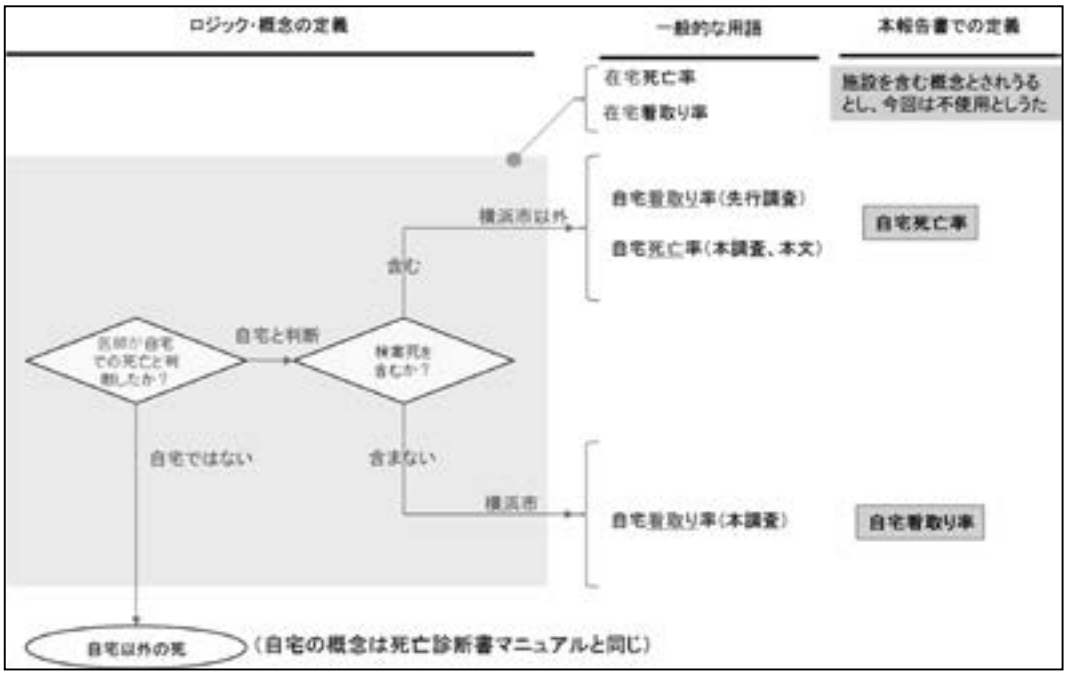
また、自宅でも予め死が予期され、それに向かって家族や医療介護関係者に囲まれて看取られる場合もあれば、結果として予期しない死や事故死（異状死）を迎えることが多い。同じ自宅での死亡であっても、これらは概念として全く異なるため本来は厳密に分けるべきだと考えている。

よって、本文中でも、データの都合上、検案死（異状死）が取り除けなかった横浜市以外の地域に対しては、「自宅死亡率」。取り除けた横浜市については、「自宅看取り率」という用語を使うこととしている。

なお、在宅死亡率、在宅看取り率という用語も検討されたが、在宅医療、在宅復帰という言葉の多くに、特別養護老人ホームなどの介護施設が含まれることから、今回は「自宅死亡率」「自宅看取り率」としている。

[2] http://www.mhlw.go.jp/toukei/manual/

図 5：本報告書での用語の定義



本調査での定義

自宅死亡率 ＝ （検案死を除いた自宅※での死亡）・地域での死亡者数

自宅看取り率（横浜で使用） （検案死を厳密に除いた自宅※での死亡÷地域での死亡者数

※自宅は死亡診断書に死亡場所が自宅となっているもの

（２） 調査項目と調査方法、調査票の配布数と回収数

また、上記の調査フレームの横軸は大きく２つとし、1 つめは調査対象者となる在宅医療支援診療所・病院、訪問看護事業所、居宅介護事業支援所が、自サービスの状況や自地域の状況について回答を行う設問群となる。また、調査フレームの横軸の２つめは、各回答施設・機関の患者・利用者についての設問を主軸としている。これら患者・利用者の在宅療養の開始から最終的な自宅看取り／病院での看取りに至る過程をつぶさに見ていくことで、在宅療養の継続や自宅看取りを継続する（阻害しない）要件を観察するものとしている。

調査項目の一覧は図 6 の通りである。

その上で、抽出された自治体に所在している在宅療養支援診療所（病院）、訪問看護ステーション、居宅支援事業所へは、「利用者個人票２種類」（自宅看取りとなった完遂票、在宅療養から病院へ入院し看取りとなった中断票）を配布した。調査票については、巻末資料に収録した。

調査集計では、在宅療養から自宅看取りに至った群を「完遂群」、在宅療養を中断し病院で看取りとなった群を「中断群」と読んでいる。

アンケート調査は 2016 年 11 月から 12 月にかけて、3,870 通を発送し、1,377 施設・事業所から回答を得た（施設票ベース）。施設票の回収率は、34.5%となっている。詳細な回収数は表 1、表 2 を参照のこと。

図 6：在宅看取り調査の構造

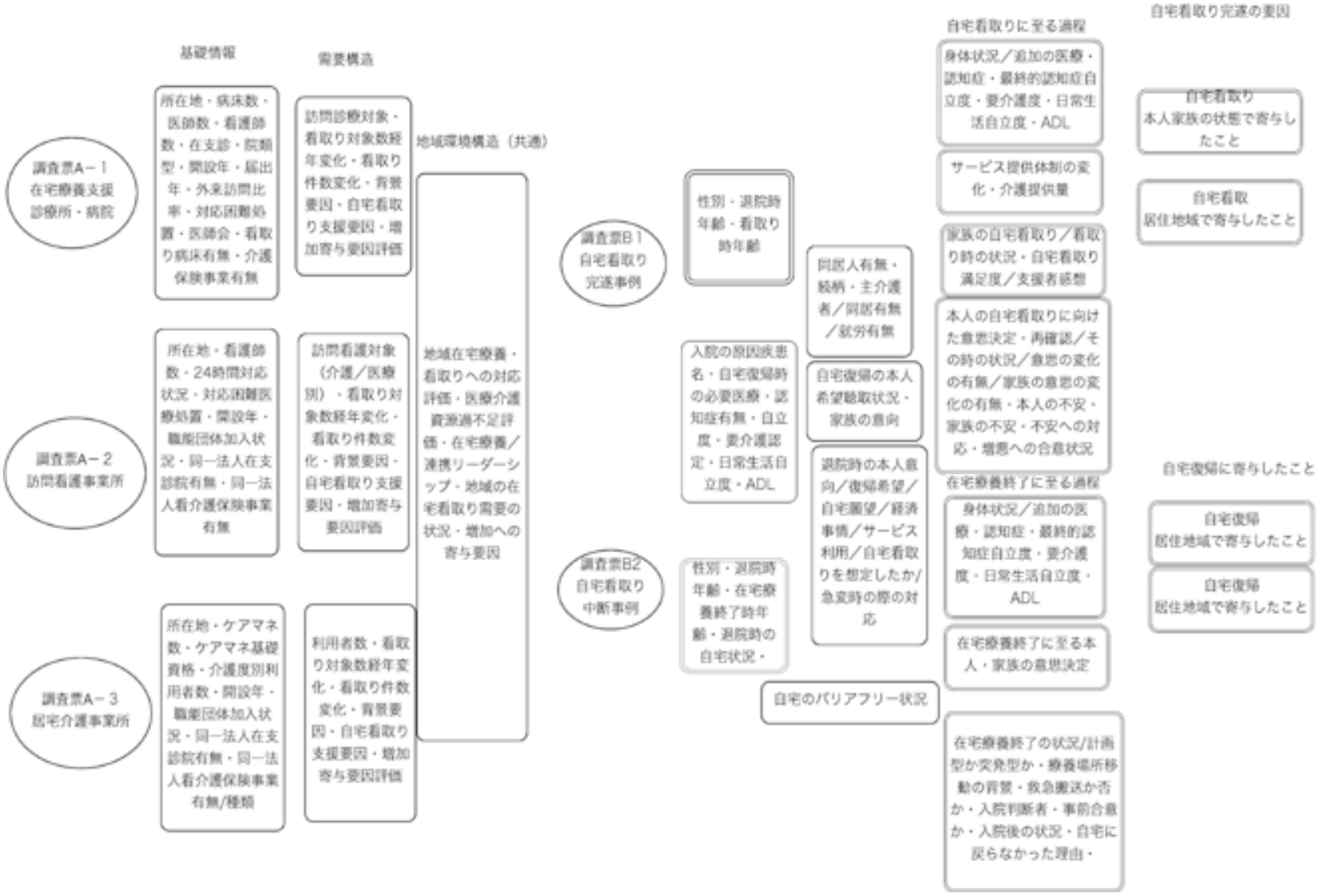


表 1　調査票の回収状況（全国）

全国（除横浜市）	在支援（N=378）			訪看（N=470）			居宅（N=1310）		
	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市
A票	102	26	37	84	23	42	258	66	117
B-1（完遂）票	59	10	23	77	18	36	213	51	94
B-2（中断）票	79	12	30	117	18	55	300	57	154

表 2　調査票の回収状況（横浜）

横浜市	在支援（N=140）			訪看（N=214）			居宅（N=519）		
	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜
A票	27	21	15	29	25	21	58	81	64
B-1（完遂）票	18	18	6	27	24	20	43	63	52
B-2（中断）票	16	12	7	27	21	20	43	67	48

（３） 実態調査の内容と構成

以下、今回のアンケート調査の結果を報告していく。その際、調査で明らかにすべき内容について整理し、調査報告の構成を示したのが図７である。

病院から自宅への退院をして在宅療養に移行した方々がどのようにして、自宅で看取られたか、また、自宅での療養を中断して、再入院後に病院での看取りとなったか、その実態と要因を明らかにするため、分析が行われた。

本調査では、自宅で生活を継続しながら、病院への入院をせずに看取りがおこなわれた場合、また、入院を経験しなかったが、なんらかの事由で、最期の段階で病院に入院したという事例は除いて調査したことに留意されたい。

今回は、病院と在宅を行き来して療養が行われるという類型に絞って調査が行われた。特筆すべきは、これに、自宅死亡率（横浜では自宅看取り率）の水準の高い地域と低い地域を比較した分析を行ったことである。

全国の自宅死亡率は高水準地域では17%台、低水準地域では7%と顕著な差異がみられる。また、異状死を除いた横浜市ではその差異はさほどではないにせよ、看取り率の高低の地域差が看取りの完遂と中断にどのように寄与しているかは、自宅での看取りの条件で重要であると考えたからに他ならない。また、最期の部分で、自宅看取りを推進している地域についての集計も行った。

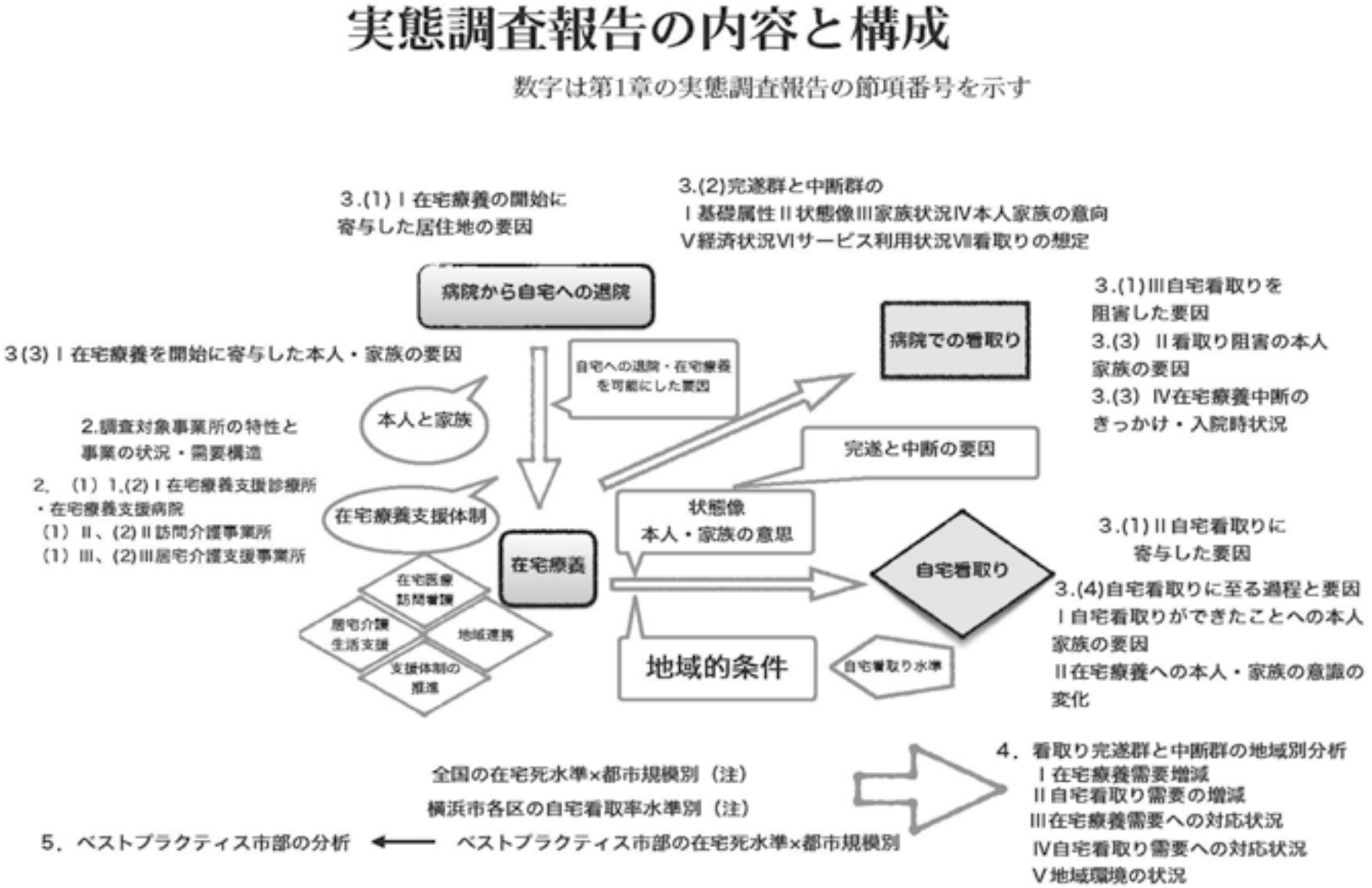
以下の報告では、まず、病院から自宅に復帰した要因について在宅療養支援診療所あるいは在宅療養支援病院、訪問看護事業所、居宅介護支援事業所の三種類の在宅療養にかかわっている機関、事業所が回答した結果がデータソースである。

在宅療養支援体制の状況について、各事業所の属性、事業の状況、需要構造の認識などの情報を収集した。次に、自宅看取りの完遂と中断に影響を与える要因について、本人家族の状況、本人の状態像、本人家族の意向、経済状況、サービス利用状況から出発して、看取りの促進要因、阻害要因、看取りの中断の要因などについて、事業所の担当者を通じて得られた回答をもとに集計分析が行われた。

在宅看取りの水準と人口規模で三分類した全国の自治体のデータと在宅での異状死（孤独死など）を除去したデータで地域別分類が可能な横浜市での趨勢を比較しながら、それぞれの回答の傾向の分析が行われたことは、これまでにない試みである。

今回の分析は文字通り試行錯誤が多かったが、本人及び家族の選択に基づいて自宅看取りの可能性を考える場合に本調査での知見は大きな示唆を与えることができると考える。

図 7：実態調査報告の内容と構成



2. 調査対象事業所の特性と事業の状況

（１） 調査対象機関･事業所の基礎統計の記述統計

今回の調査で回答のあった在宅療養診療所/病院の特性と事業の状況は以下の通りであった。

Ⅰ. 在宅療養支援診療所/病院

回答のあった在宅療養支援診療所/病院の特性は以下の通りであった。

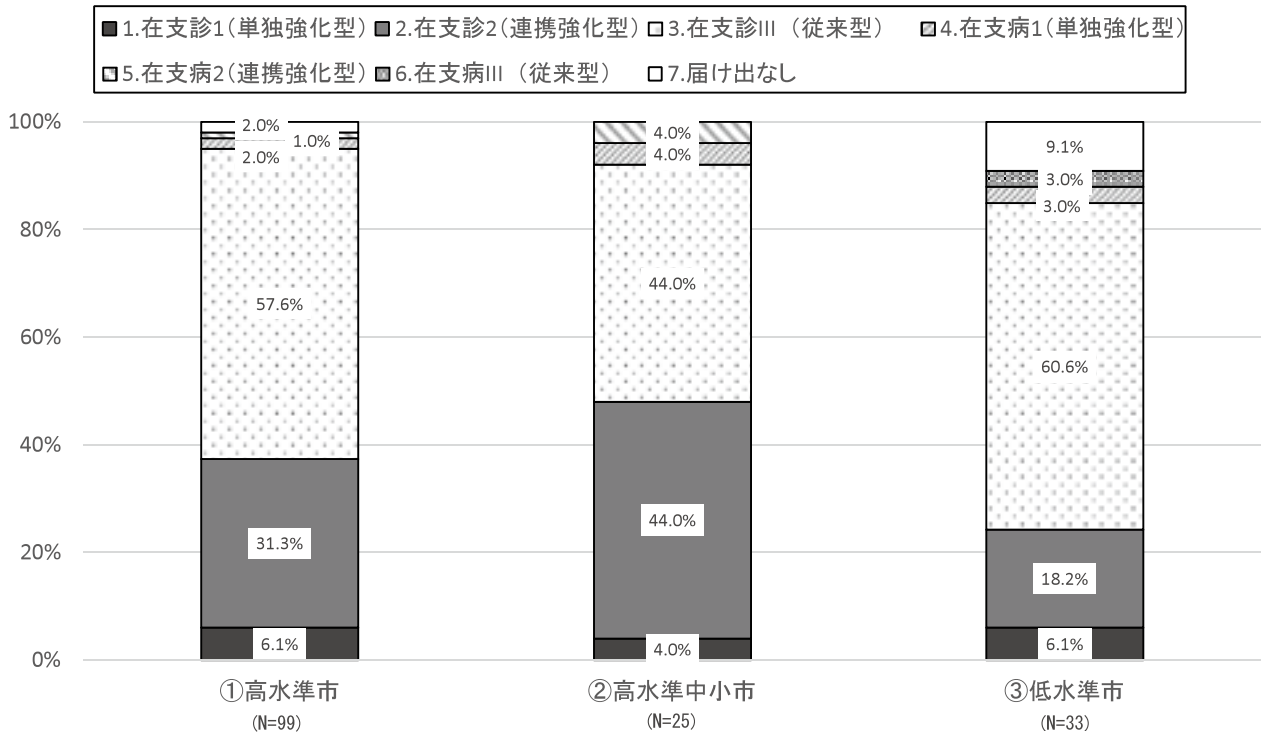
i. 病床数、医師数など

回答のあった在宅療養支援診療所/病院の基礎情報については巻末の資料を参照のこと。

ii. 在支診/病届出状況

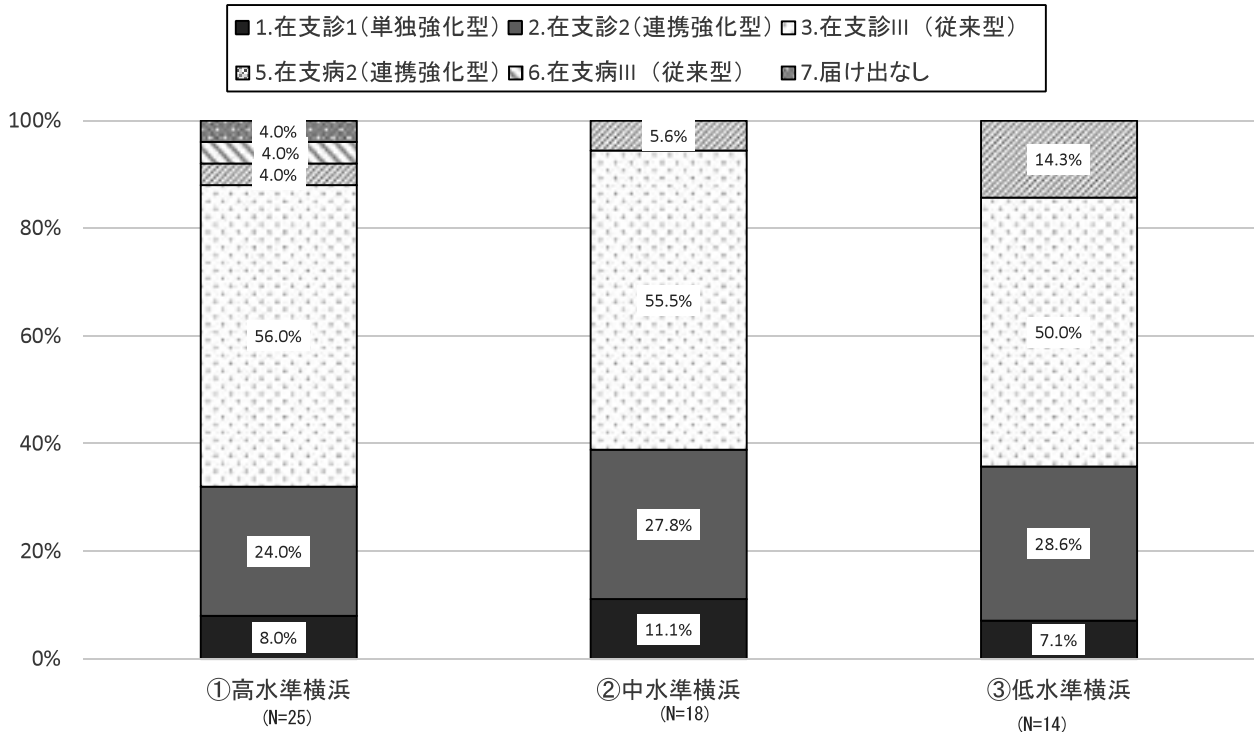
【全国】回答のあった医療機関の在支診/病届出状況については、どの都市群でも在支診の届出をしている機関が多く、在支診のいずれかを届け出ているのは①自宅死高水準市部で約 95%、③自宅死低水準市部で約 79%、②自宅死高水準中小市部で約 92%が該当した。

図 8 在支診/病届出状況（全国）



【横浜】回答のあった医療機関の在支診/病届出状況については、全国と同様にどの群でも在支診届出をしている機関が多く、在支診のいずれかを届け出ているのは①自宅看取高水準横浜で約 88%、②自宅看取中水準横浜で約 94%、③自宅看取低水準横浜で約 86%が該当した。

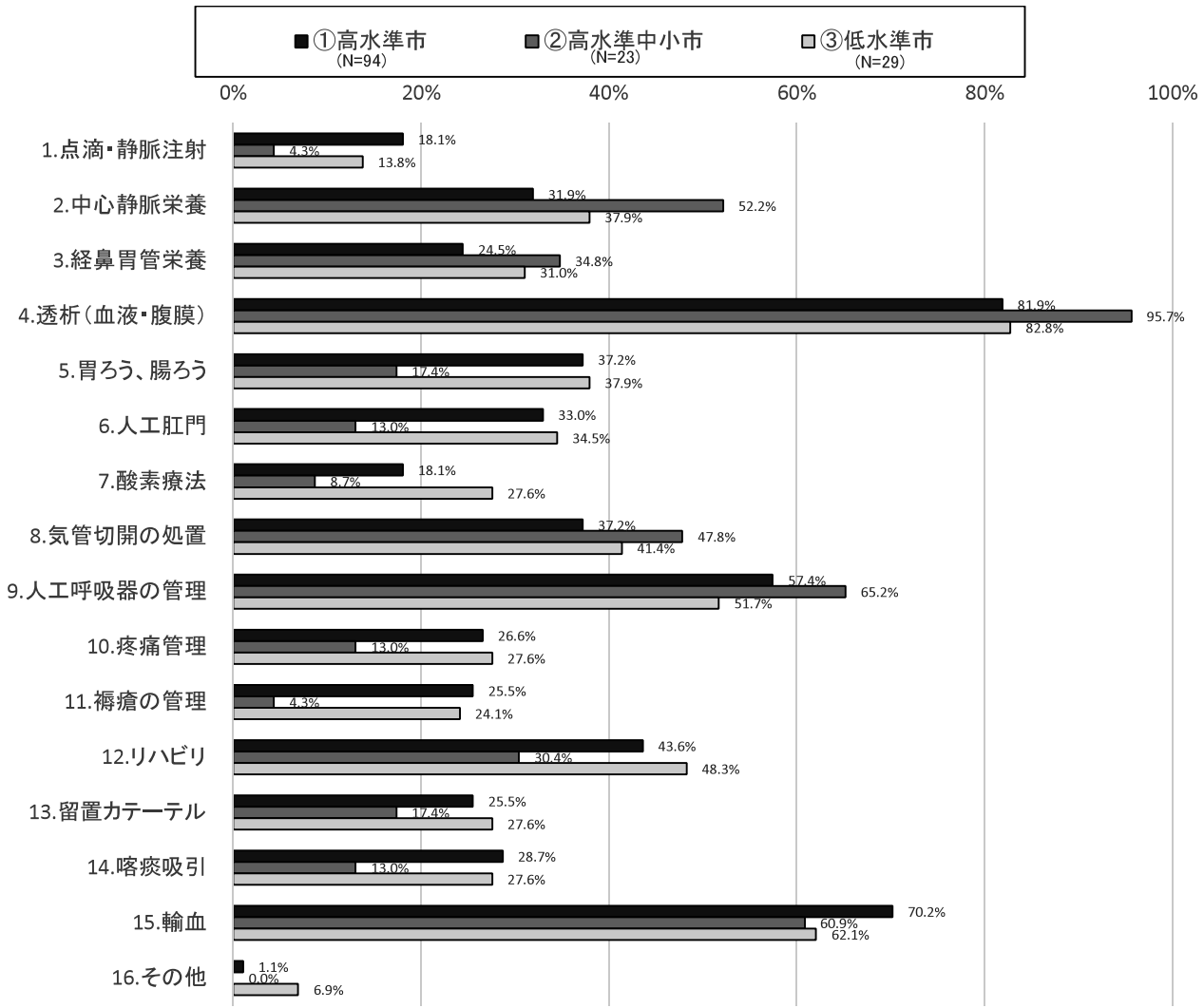
図 9　在支診/病届出状況（横浜）



iii. **現時点で対応が困難な処置**

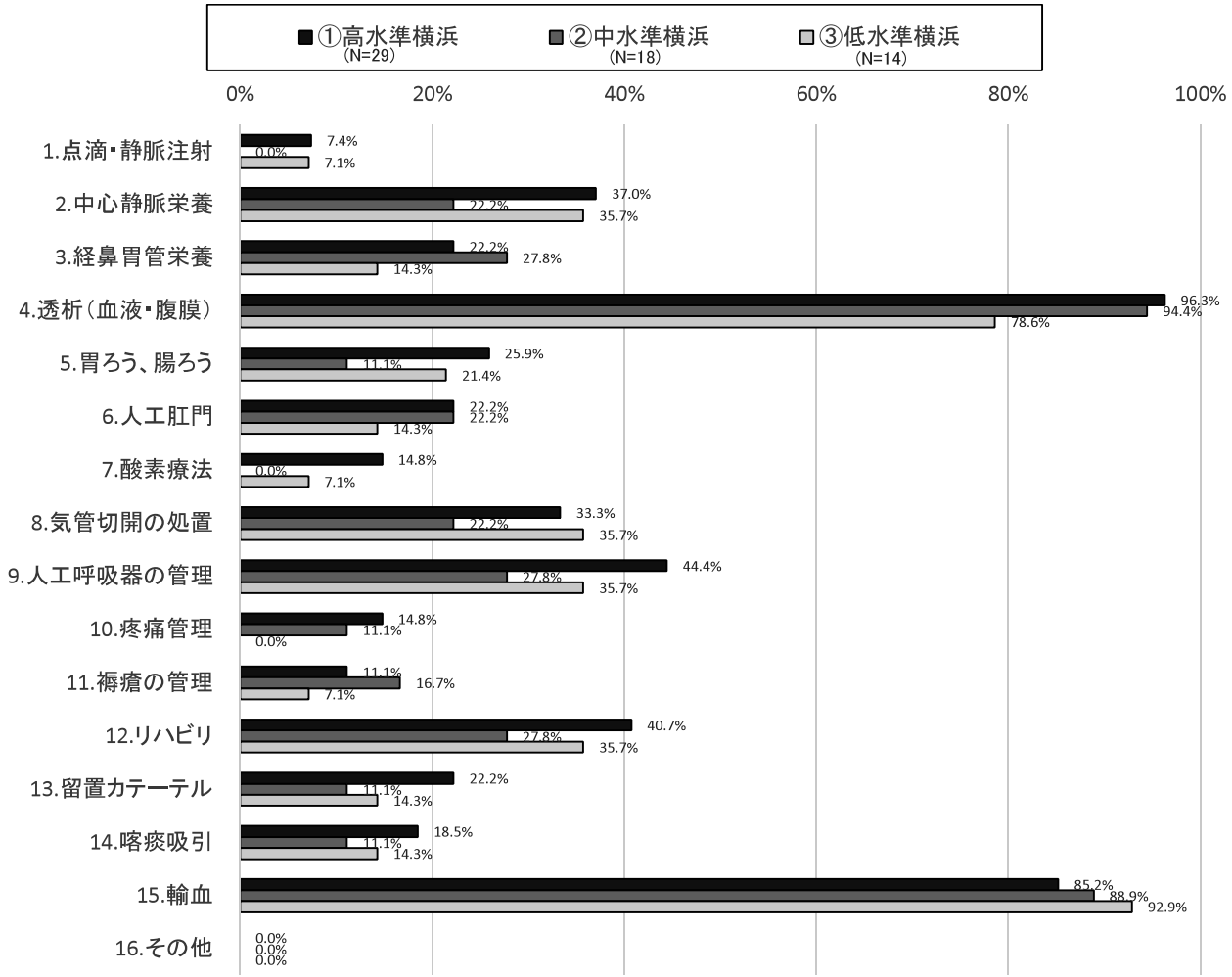
【全国】困難な医療処置では、透析（血液・腹膜）、人工呼吸器の管理、輸血の処置がどの都市群も高く見られた。その他の処置についても都市群ごとに大きな傾向の違いは見られない。

図 10　現時点で対応が困難な処置（複数回答）（全国）



【横浜】困難な医療処置では、全国とは異なり、透析（血液・腹膜）、輸血の処置の２つがどの群でも高く見られた。その他の処置については群ごとに大きな傾向の違いは見られない。

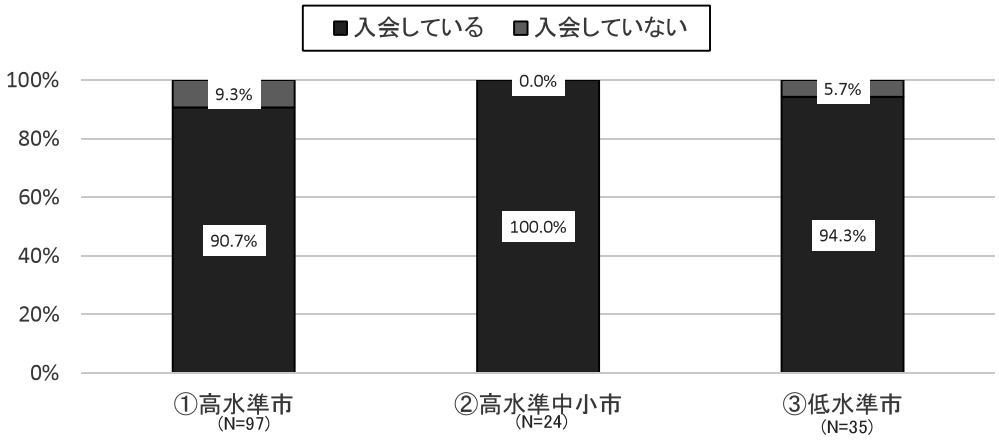
図 11　現時点で対応が困難な処置（複数回答）（横浜）



iv. <u>医師会への加盟状況</u>

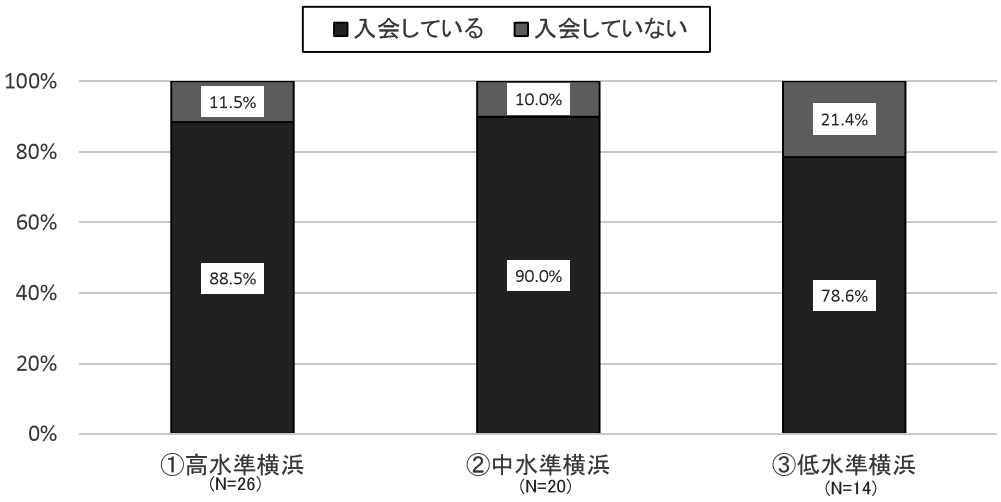
【全国】医師会への加盟状況では、どの都市群もほぼすべての機関が医師会へ加盟しており、群ごとの差は見られない。

図 12　医師会への加盟状況（全国）



【横浜】医師会への加盟状況では、どの群も加盟率は高いものの全国と比較するとやや低く、なかでも横浜下位群では入会している割合が 78.6%と他の群と比較して低い。

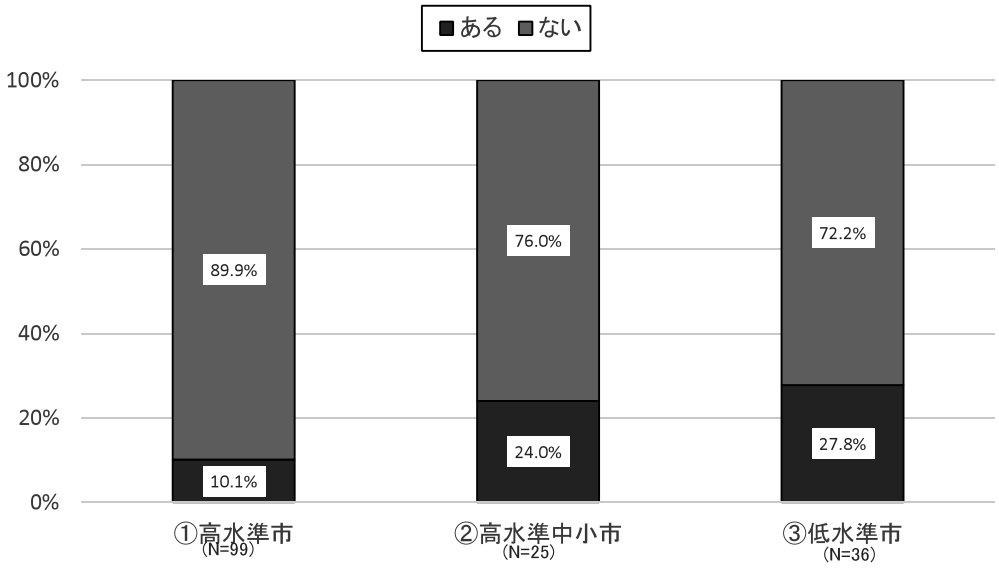
図 13　医師会への加盟状況（横浜）



v. <u>同一法人内に看取り可能な病床の有無</u>

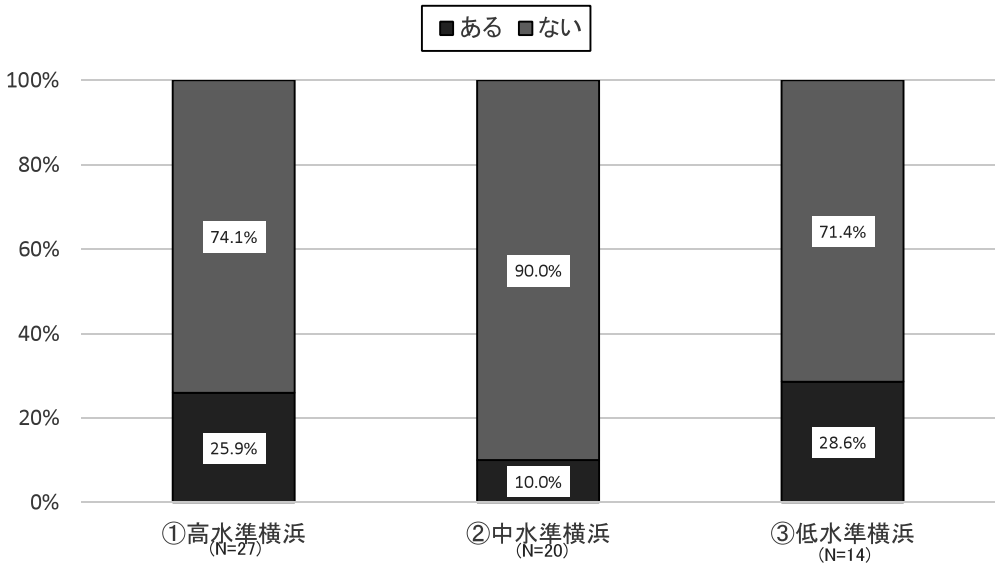
【全国】同一法人内に看取り可能な病床の有無については、あると回答したのは①自宅死高水準市部で 10.1%、②自宅死高水準中小市部で 24.0%、③自宅死低水準市部で 27.8%であり、群ごとに違いが見られる。

図 14　同一法人内に看取り可能な病床の有無（全国）



【横浜】同一法人内に看取り可能な病床の有無については、あると回答したのは①自宅看取高水準横浜で 25.9%、②自宅看取中水準横浜で 10.0%、②自宅死高水準中小市部で 28.6%であり、群ごとに違いが見られる。

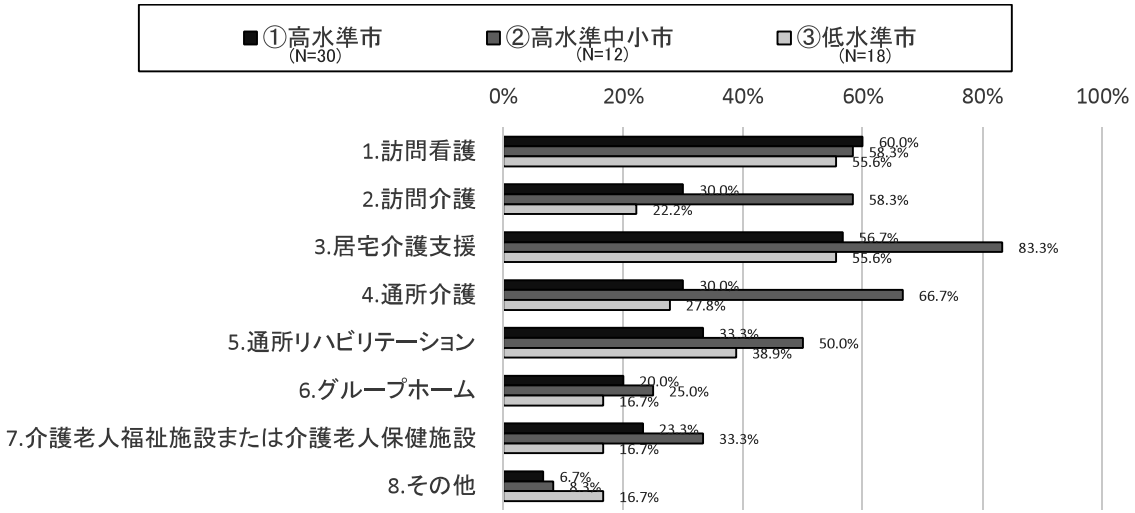
図 15　同一法人内に看取り可能な病床の有無（横浜）



vi. <u>同一法人内で行っている介護保険事業</u>

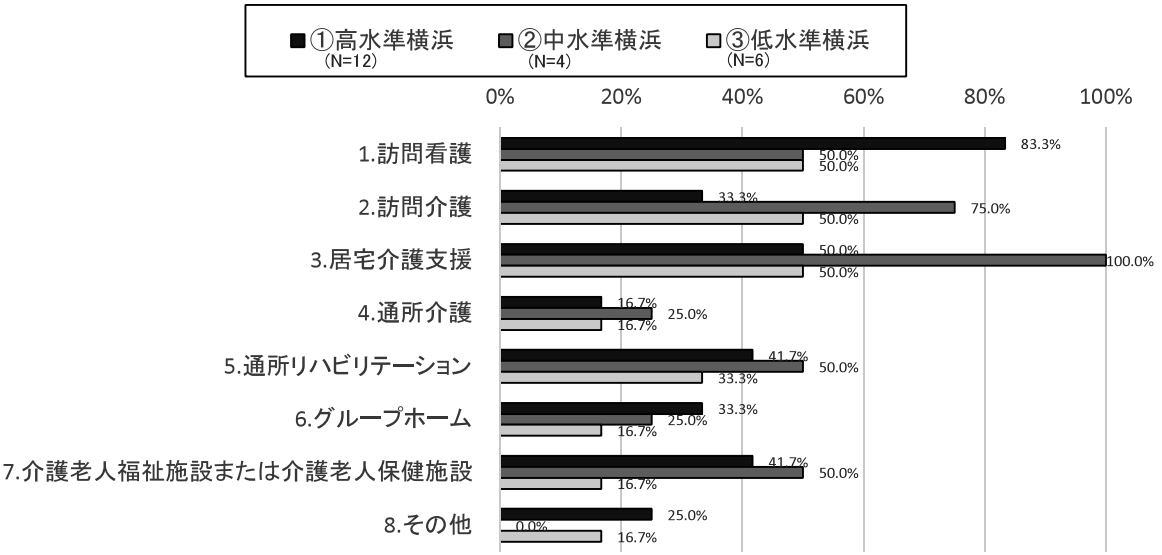
【全国】同一法人内で行っている介護保険事業では、どの介護保険事業も①自宅死高水準市部と③自宅死低水準市部では同じ傾向が見られるが、②自宅死高水準中小市部では、他の群よりもどの介護保険事業についても行っていると回答した数が多かった。

図 16　同一法人内で行っている介護保険事業（全国）



【横浜】同一法人内で行っている介護保険事業では、①自宅看取高水準横浜と②自宅看取中水準横浜では、行っている介護保険事業によって大きな差が見られた。

図 17　同一法人内で行っている介護保険事業（横浜）



II. 訪問看護事業所

回答のあった訪問看護事業所の特性は以下の通りであった。

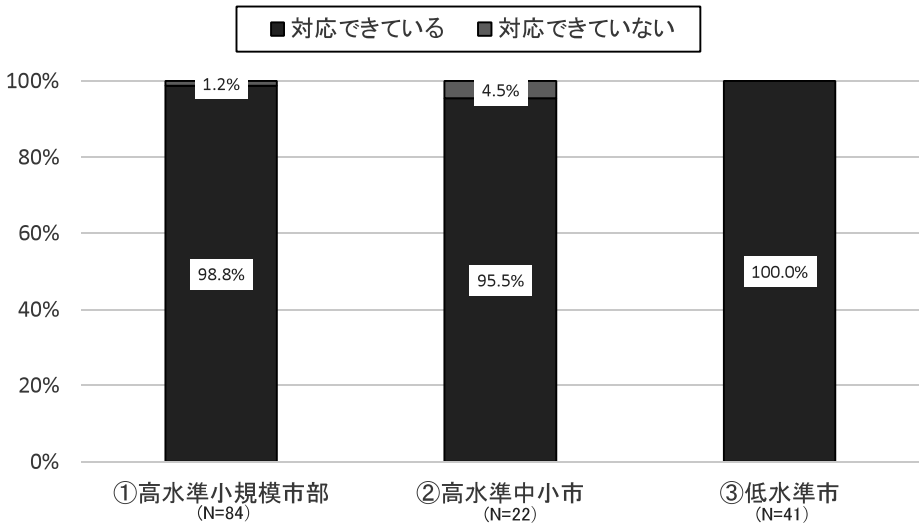
i. 看護師数、開設年など

回答のあった訪問看護事業所の基礎情報については巻末の資料を参照のこと。

ii. 24 時間電話対応の状況

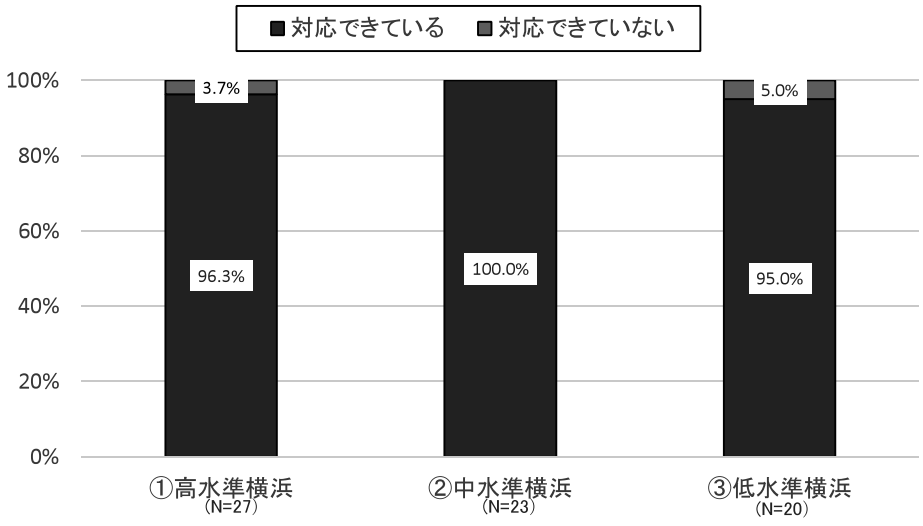
【全国】24 時間電話対応の状況では、都市群ごとの違いは見られず、どの群でもほぼ 100%の事業所が対応できると回答している。

図 18　24 時間電話相談対応の状況（全国）



【横浜】24 時間電話対応の状況では、都市群ごとの違いは見られなかった。どの群でもほぼ 100%の事業所が対応できると回答している。

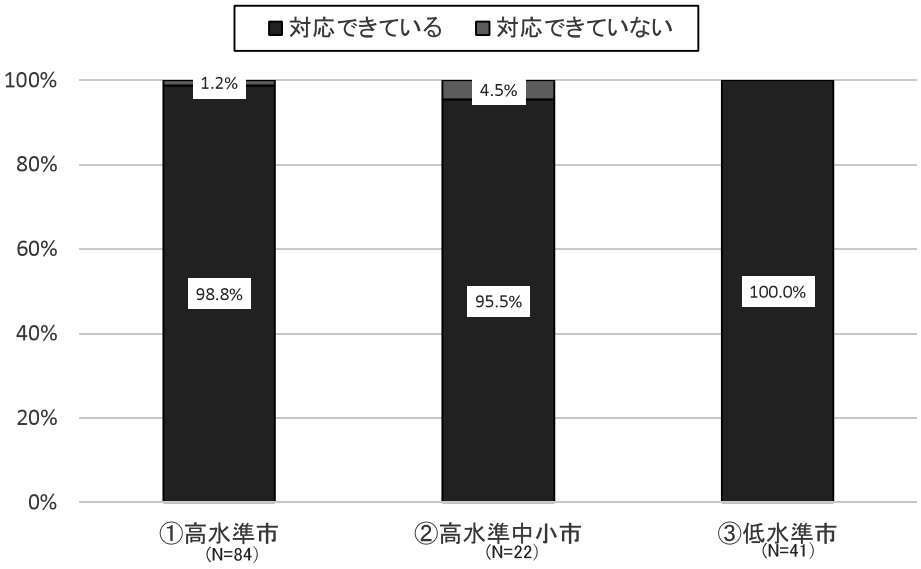
図 19　24 時間電話相談対応の状況（横浜）



iii. <u>緊急時の対応の状況</u>

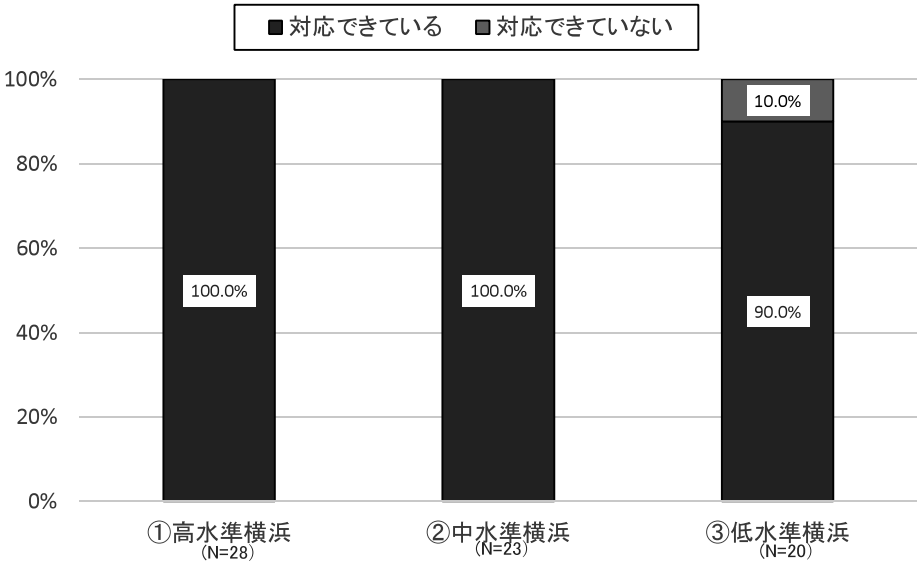
【全国】緊急時の対応の状況では、都市群ごとの違いは見られず、どの群でもほぼ 100%の事業所が対応できると回答している。

図 20　緊急時の対応の状況（全国）



【横浜】緊急時の対応の状況では、都市群ごとの違いは見られず、どの群でもほぼ 100%の事業所が対応できると回答している。

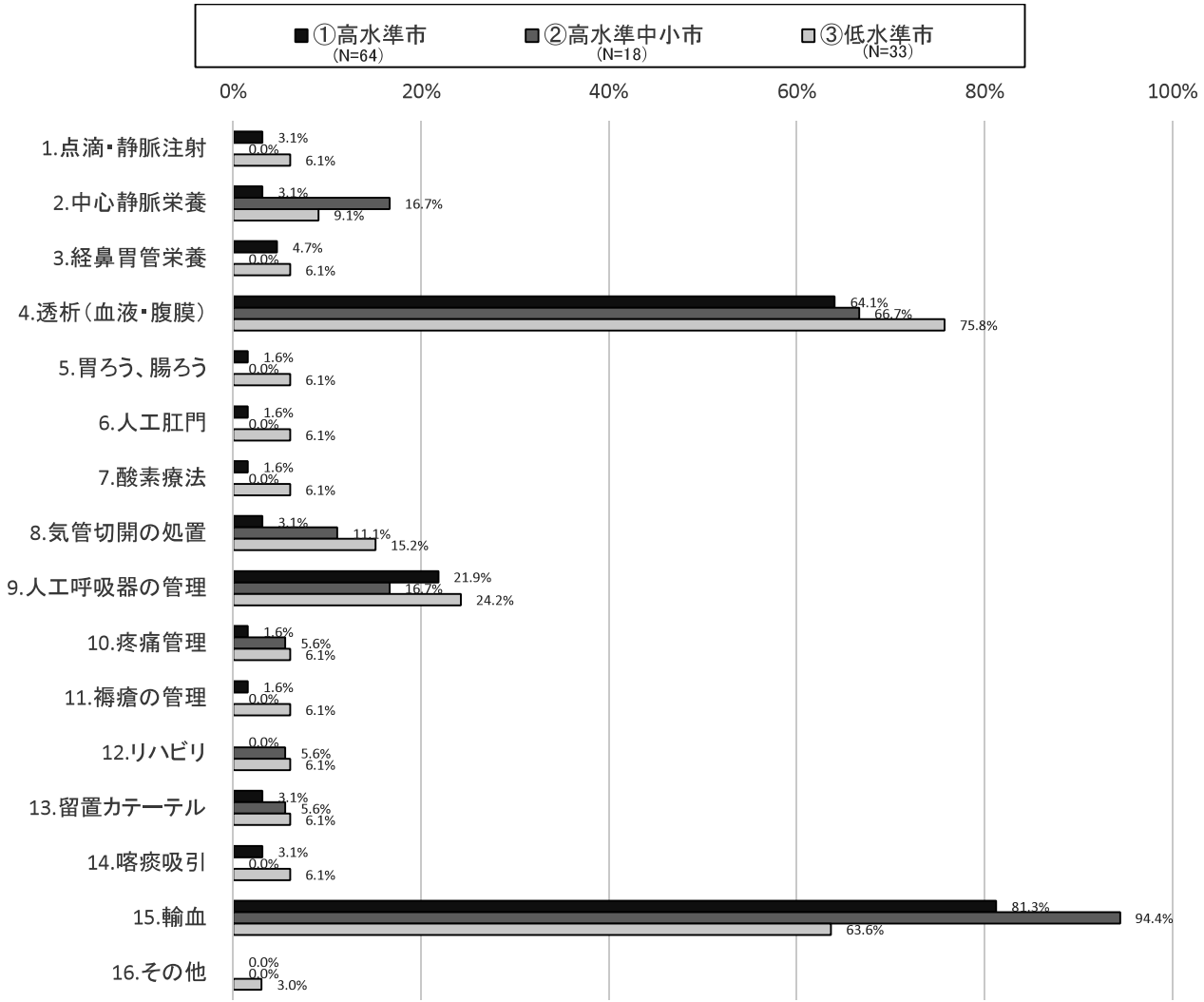
図 21　緊急時の対応の状況（横浜）



iv. <u>対応できない医療処置</u>

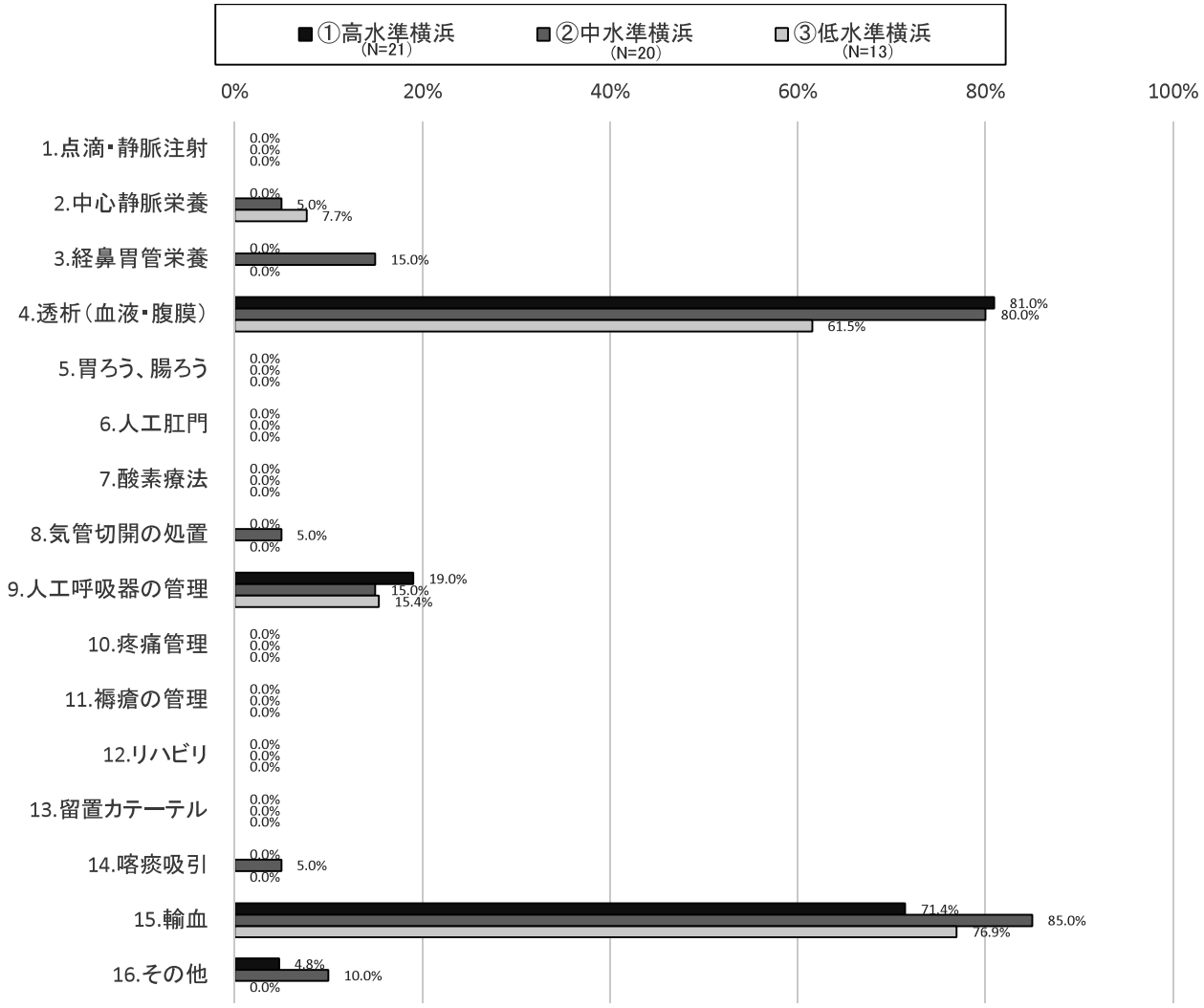
【全国】対応できない医療処置では、透析（血液・腹膜）、輸血、人工呼吸器の管理がどの群でも多く見られる。中心静脈栄養、輸血を除いて③自宅死低水準市部はどの医療処置でも対応できないと回答した割合が高く見られる。

図 22　対応できない医療処置（全国）



【横浜】対応できない医療処置では、透析（血液・腹膜）、輸血、人工呼吸器の管理がどの群でも多く見られる

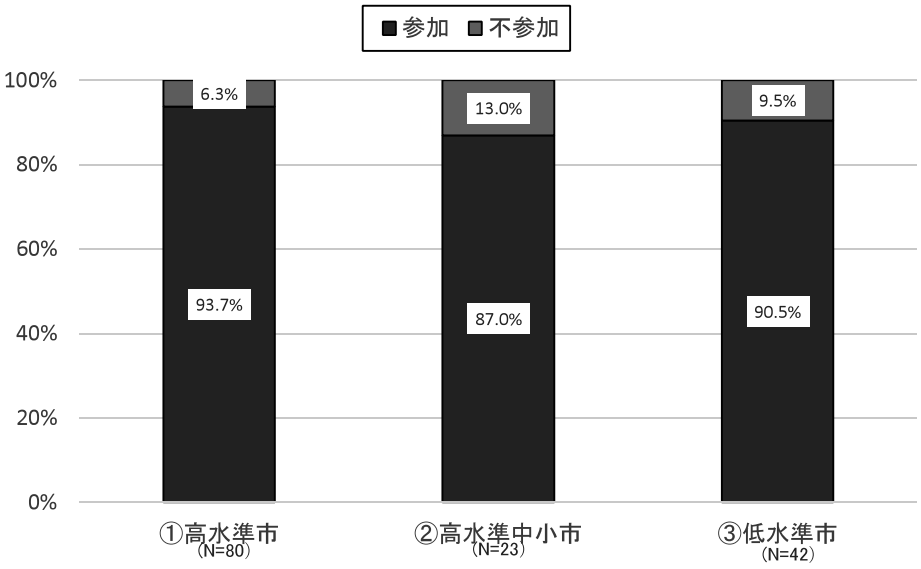
図 23　対応できない医療処置（横浜）



v. <u>自治体内への訪問看護職能団体への加入状況</u>

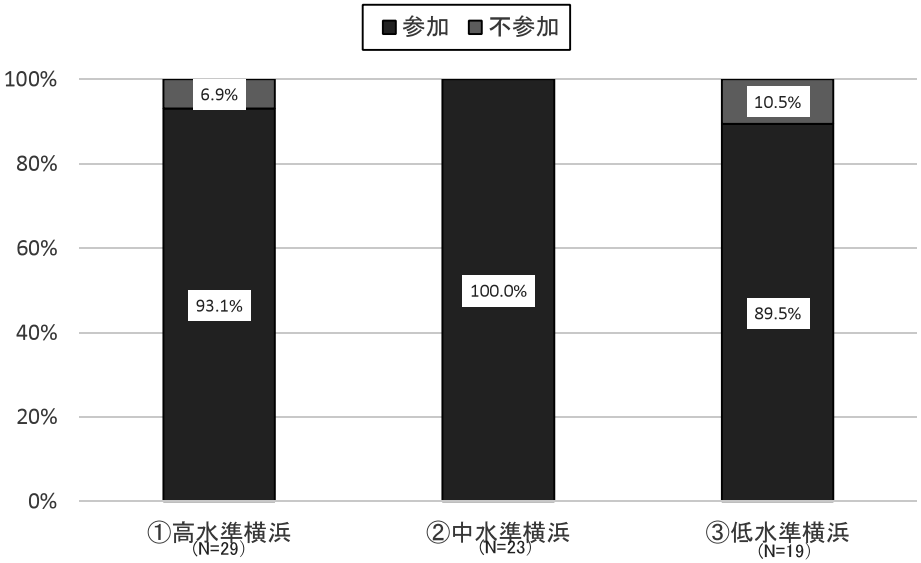
【全国】自治体内の訪問看護職能団体への加入では、どの群でも 90%前後が加入しており大きな差は見られない。

図 24　自治体内の訪問看護職能団体への加入状況（全国）



【横浜】自治体内の訪問看護職能団体への加入では、どの群でも 90%前後が加入しており大きな差は見られない。

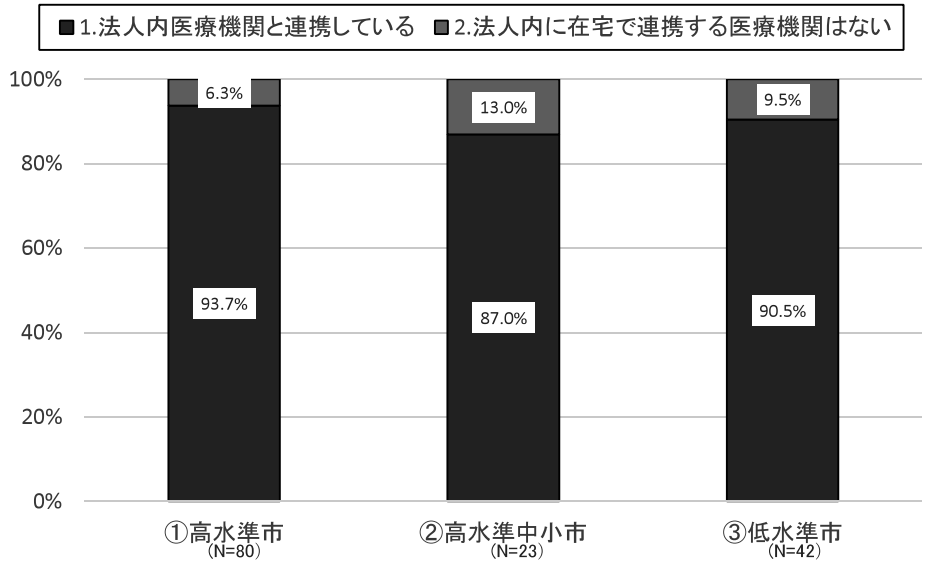
図 25　自治体内の訪問看護職能団体への加入状況（横浜）



vi. <u>同一法人内在支診/病があり連携しているか</u>

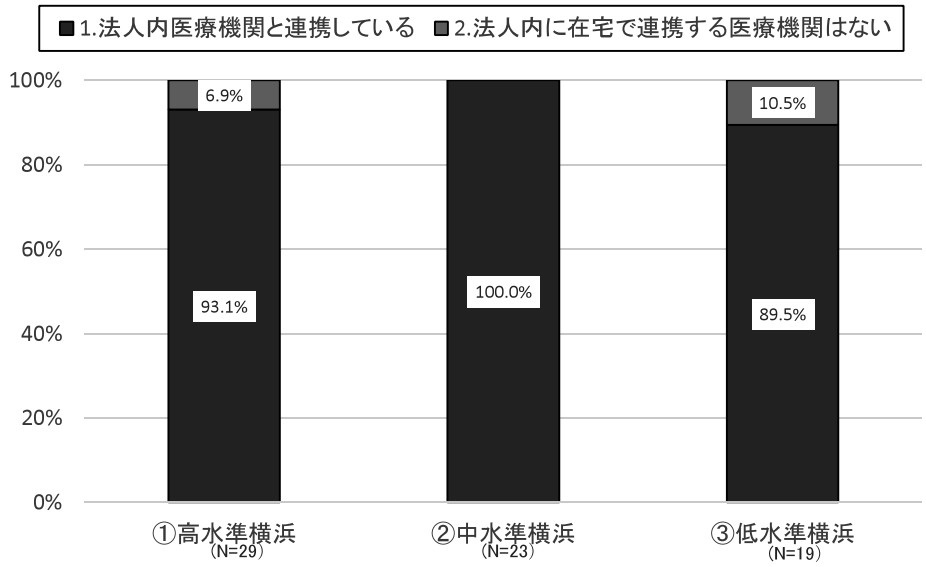
【全国】同一法人内に在支診/病があり連携しているかでは、どの都市群でも法人内医療機関と連携している割合が 90%前後であり、大きな違いは見られない。市部と比べると、②自宅死高水準中小市部の 87.0%は低い

図 26　同一法人内に在支診/病があり連携しているか（全国）



【横浜】同一法人内に在支診/病があり連携しているかでは、どの群でも法人内医療機関と連携している割合が 90%前後であり、大きな違いは見られない。

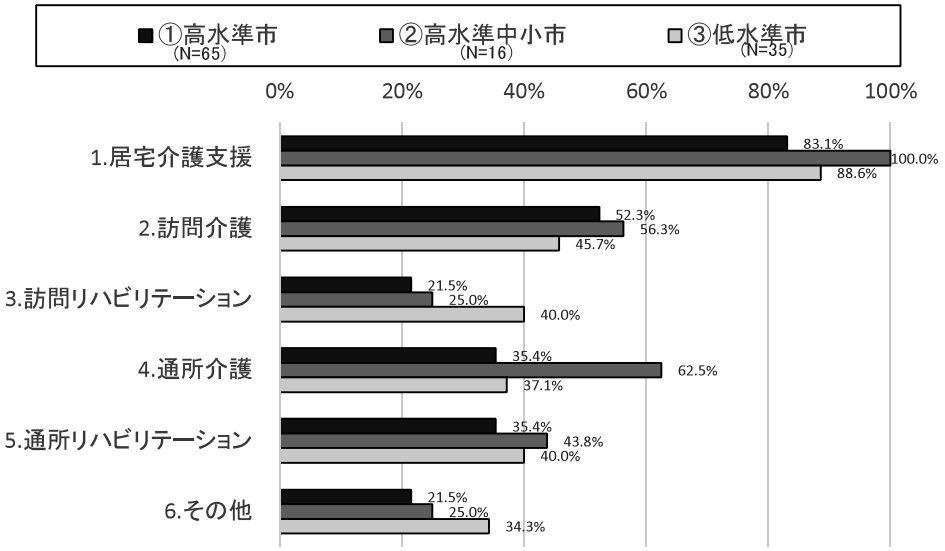
図 27　同一法人内に在支診/病があり連携しているか（横浜）



vii. <u>同一法人内で行っている他の介護保険事業</u>

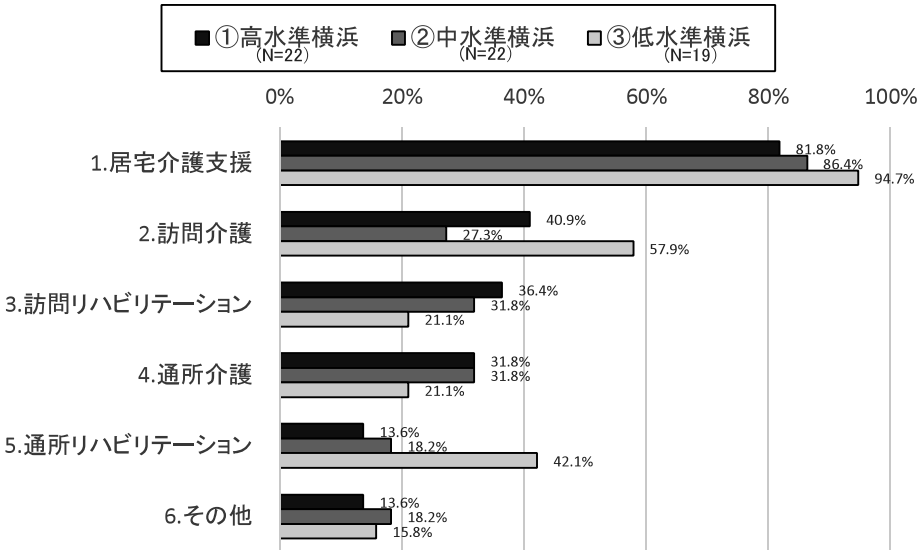
【全国】同一法人内で行っている他の介護保険事業では、どの群においても居宅介護支援を行っていると回答した割合が 80～100%と高い。都市群別では、訪問リハビリテーションを除いて、すべての介護保険事業で②自宅死高水準中小市部の割合が高い。

図 28　同一法人内で行っている他の介護保険事業（全国）



【横浜】同一法人内で行っている他の介護保険事業では、どの群においても居宅介護支援を行っていると回答した割合が 80～100%と高い。

図 29　同一法人内で行っている他の介護保険事業（横浜）



III. 居宅介護支援事業所

回答のあった居宅介護支援事業所の特性は以下の通りであった。

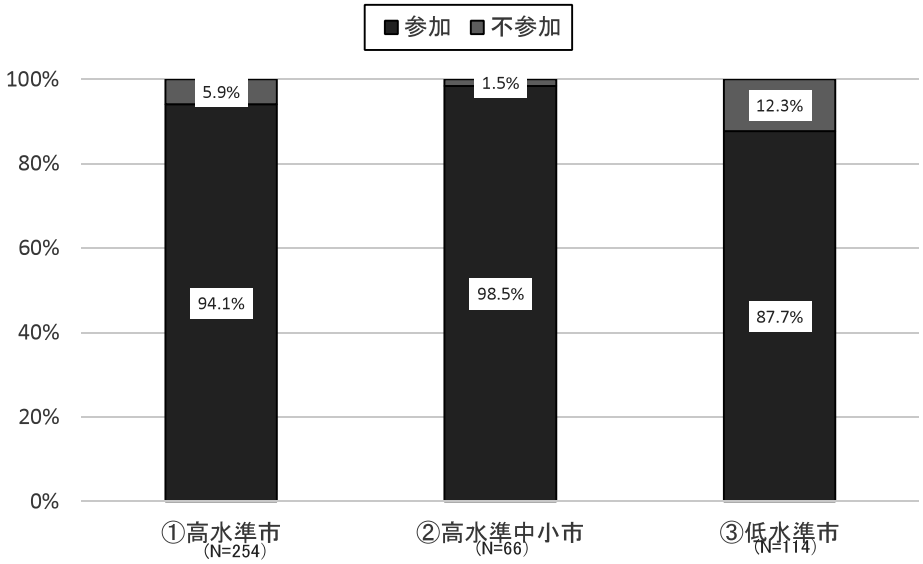
i. 所在地、ケアマネ数など

回答のあった居宅介護支援事業所の基礎情報については巻末の資料を参照のこと。

ii. 自治体内の居宅介護支援職能団体への加入状況

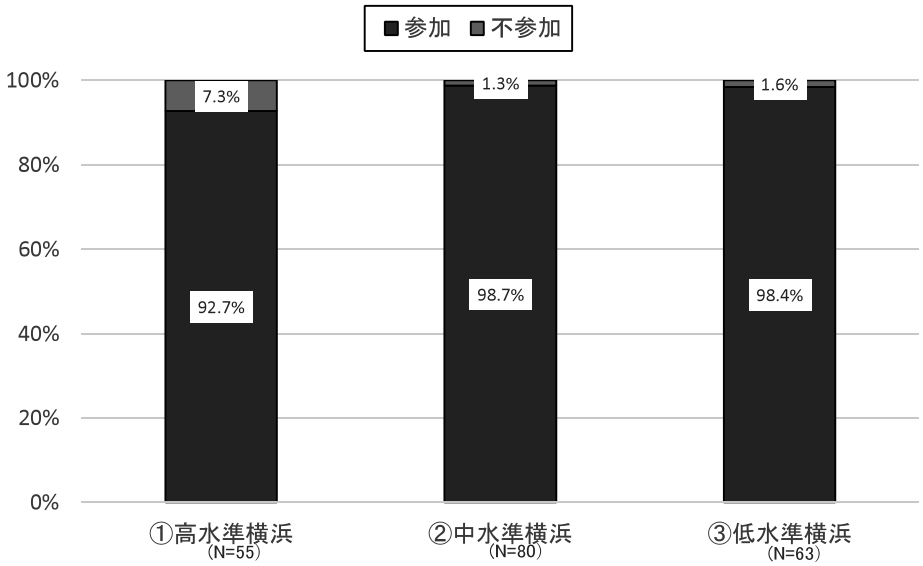
【全国】自治体内の居宅介護支援職能団体への加入状況では、どの群も90%前後が加入しており、都市群によって大きな差は見られない。

図 30　自治体内の居宅介護支援職能団体への加入状況（全国）



【横浜】自治体内の居宅介護支援職能団体への加入状況では、どの群も100%近くが加入しており、都市群によって大きな差は見られない。

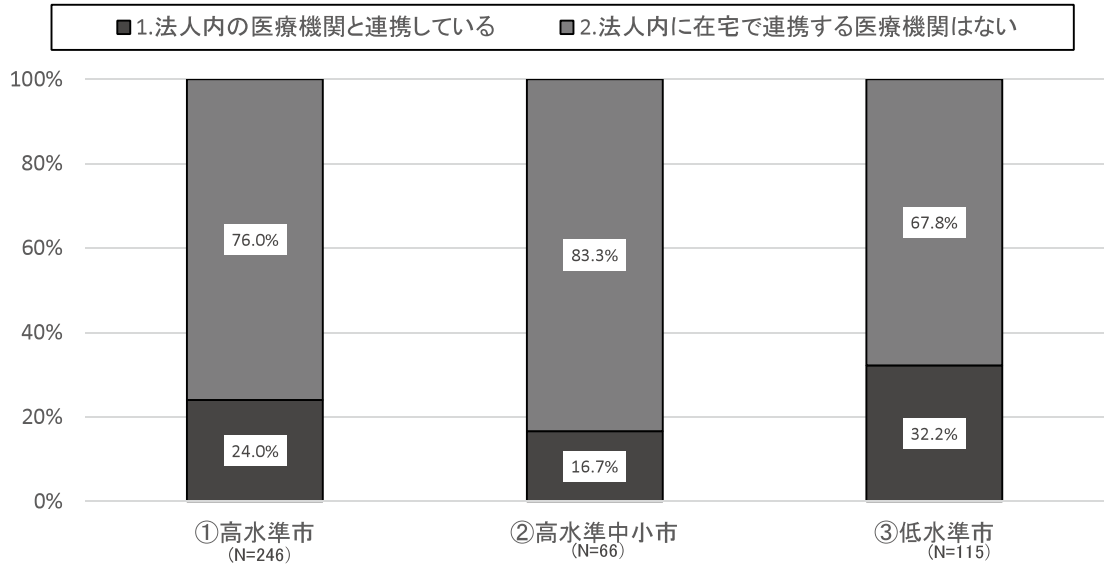
図 31　自治体内の居宅介護支援職能団体への加入状況（横浜）



iii. <u>同一法人内の在支診/病との連携について</u>

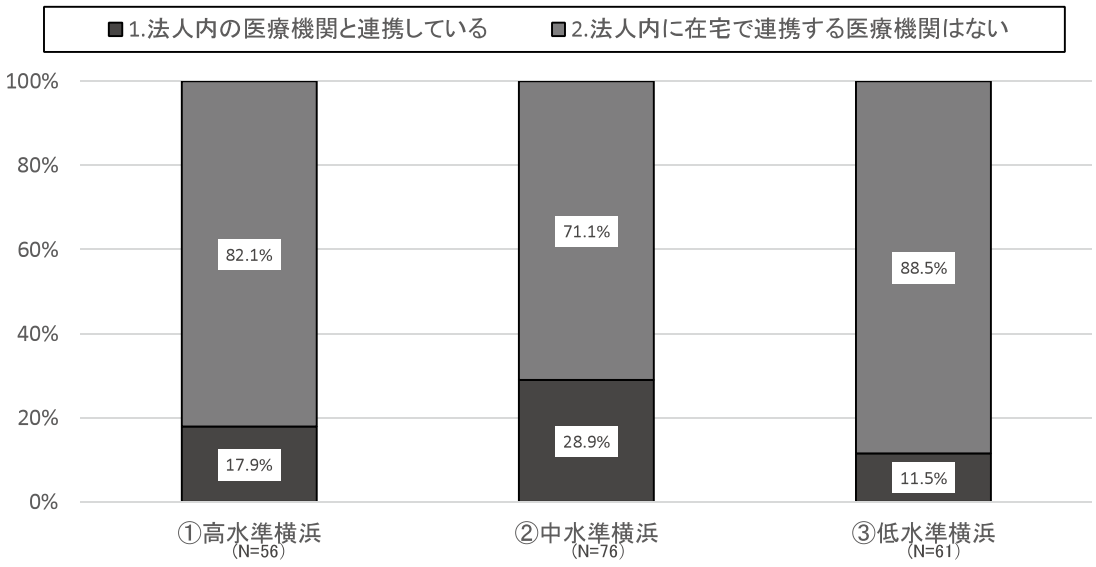
【全国】同一法人内の在支診/病との連携について、法人内の医療機関と連携していると回答したのは、①自宅死高水準市部が 24.0%、②自宅死高水準中小市部が 16.7%、③自宅死低水準市部が 32.2%であり、都市群ごとの差が見られた。

図 32　同一法人内に在支診/病があり連携しているか（全国）



【横浜】同一法人内の在支診/病との連携について、法人内医療機関と連携していると回答したのは、①自宅看取高水準横浜が 17.9%、②自宅看取中水準横浜が 28.9%、③自宅看取低水準横浜が 11.5%であり、都市群ごとの差が見られた。

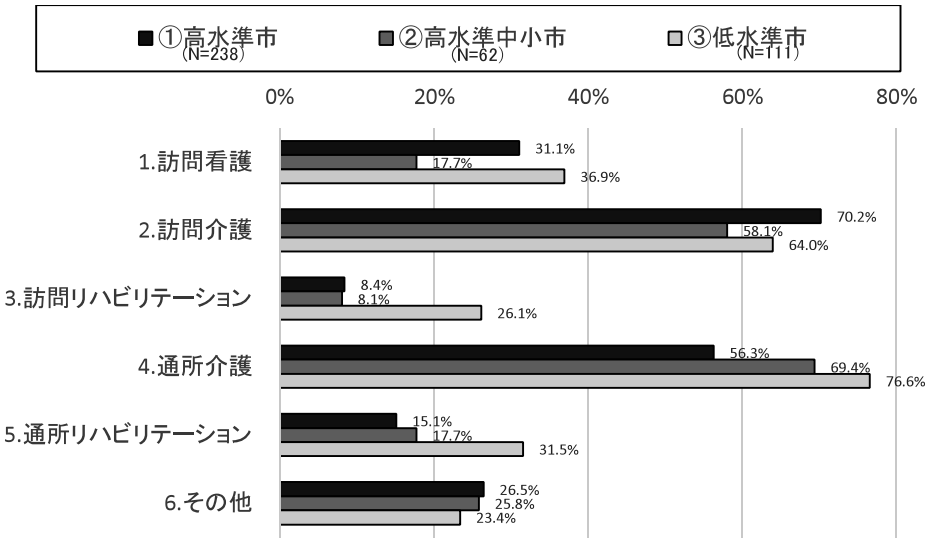
図 33　同一法人内に在支診/病があり連携しているか（横浜）



iv. <u>同一法人内で行っている他の介護保険事業</u>

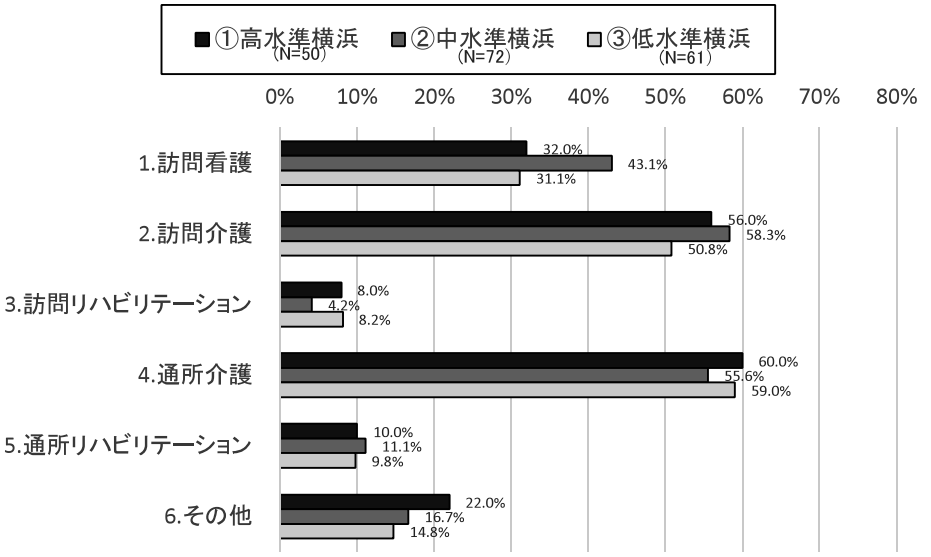
【全国】同一法人内で行っている他の介護保険事業では、どの群でも訪問介護、通所介護を行っている比率が高い。訪問リハビリテーション、通所リハビリテーションで、③自宅死低水準市部は他の群と大きな差が見られる。また、訪問看護では、大都市上位・下位群と小規模都市上位群の間で数字に開きが見られる。

図 34　同一法人内で行っている他の介護保険事業（全国）



【横浜】同一法人内で行っている他の介護保険事業では、どの群でも訪問介護、通所介護を行っている比率が高く、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーションの比率は低い。

図 35　同一法人内で行っている他の介護保険事業（横浜）



（２） 調査対象事業所の需要構造

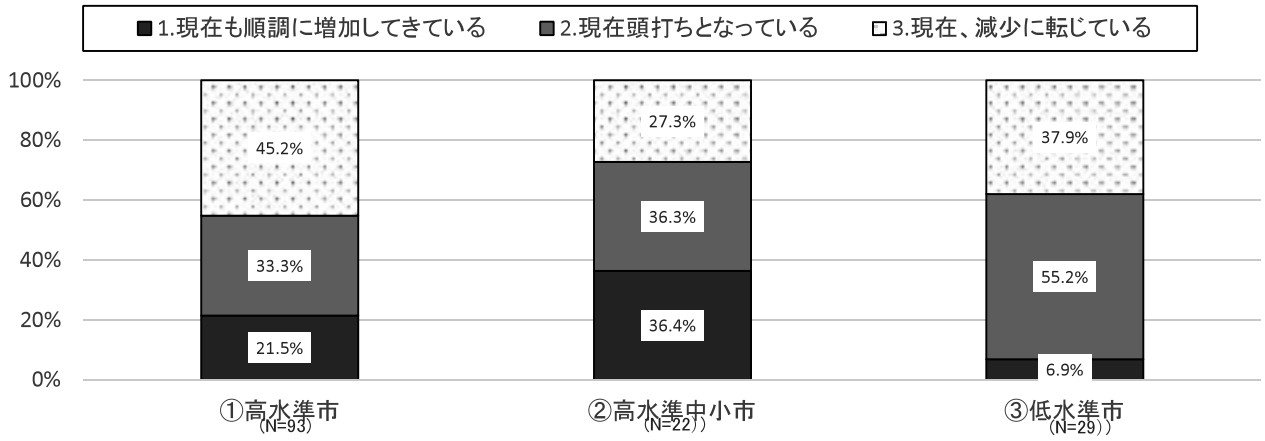
Ⅰ. 在宅療養支援診療所/病院

回答のあった機関を取り巻く在宅療養、自宅看取りの需要構造は以下のとおりであった。

i. 現在までの自宅看取り数の推移

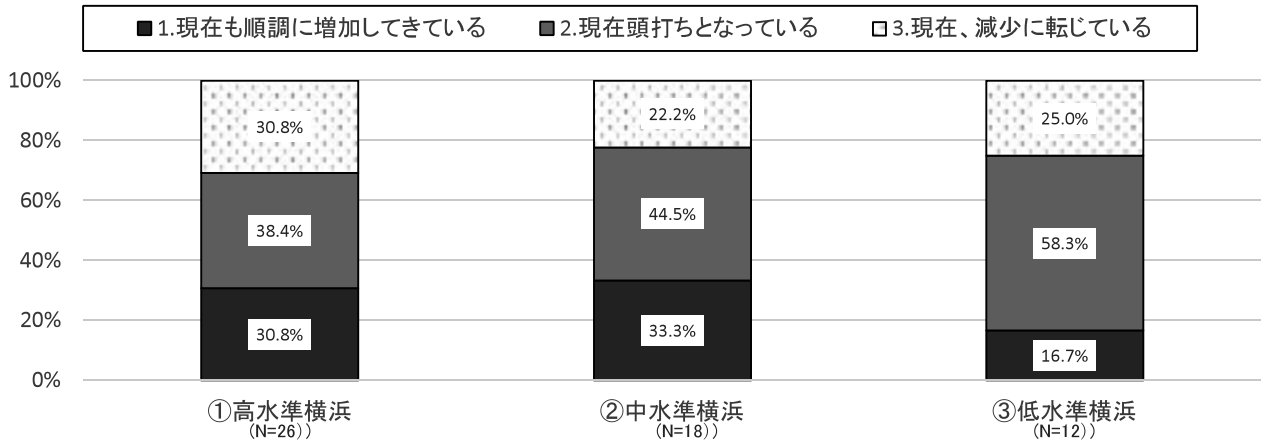
【全国】現在も順調に伸びていると回答したのは、①自宅死高水準市部で 21.5%、②自宅死高水準中小市部では 36.4%、③自宅死低水準市部では 6.9%であった。また、現在、減少に転じていると回答したのは、①自宅死高水準市部で 45.2%、②自宅死高水準中小市部では 27.3%、③自宅死低水準市部では 37.9%であった。市部ほど減少していると回答した割合が高く、上位群ほど増加していると回答した割合が多い。

図 36　現在までの自宅看取り数の推移（全国）



【横浜】現在も順調に伸びていると回答したのは、①自宅看取高水準横浜で 30.8%、②自宅看取中水準横浜では 33.3%、③自宅看取低水準横浜では 16.7%であった。また頭打ちになっていると回答したのは①自宅看取高水準横浜で 38.4%、②自宅看取中水準横浜では 44.5%、③自宅看取低水準横浜では 58.3%であった。

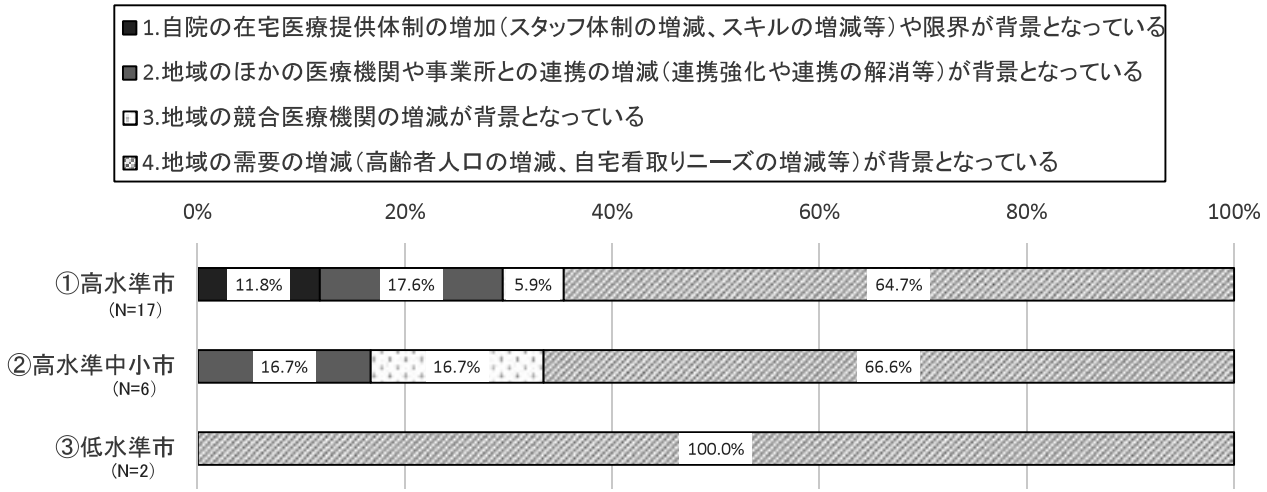
図 37　現在までの自宅看取り数の推移（横浜）



ii. <u>自宅看取り件数が増加した要因</u>

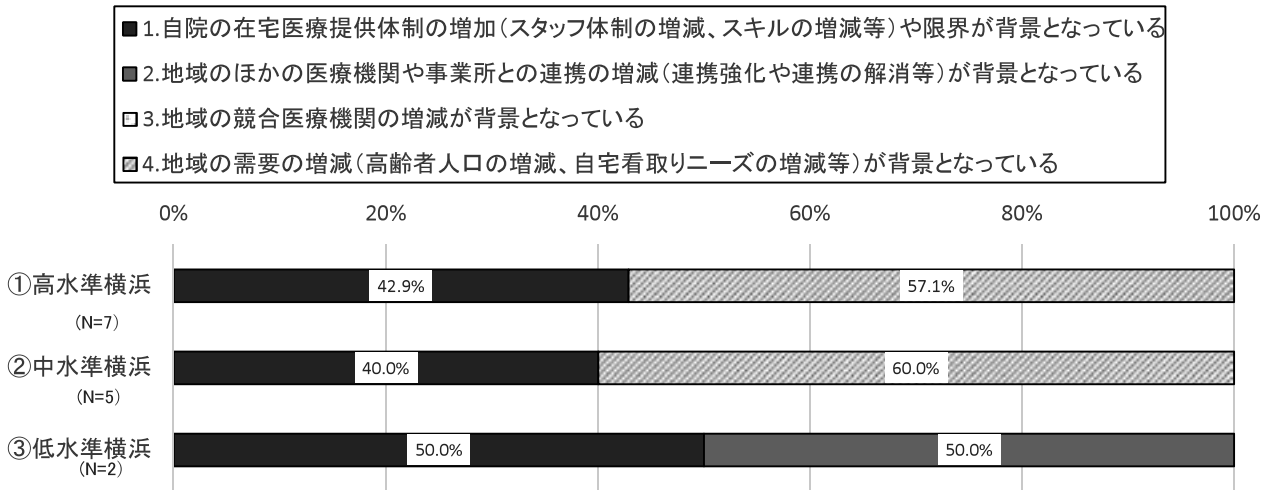
【全国】順調に伸びていると回答した機関が挙げたその要因では、どの都市群においても、地域の需要の増減を挙げた回答が最も多く、①自宅死高水準市部で 64.7%、②自宅死高水準中小市部で 66.6%、③自宅死低水準市部で 100.0%であった。

図 38　自宅看取り件数が増加した要因（全国）



【横浜】現在、増加に転じていると回答した機関が挙げたその要因では、都市群ごとに傾向の違いが見られる。①自宅看取高水準横浜、②自宅看取中水準横浜は同じ傾向だが、③自宅看取低水準横浜では地域のほかの医療機関や事業所の連携の増減を挙げたのが 50.0%おり、差がみられた。

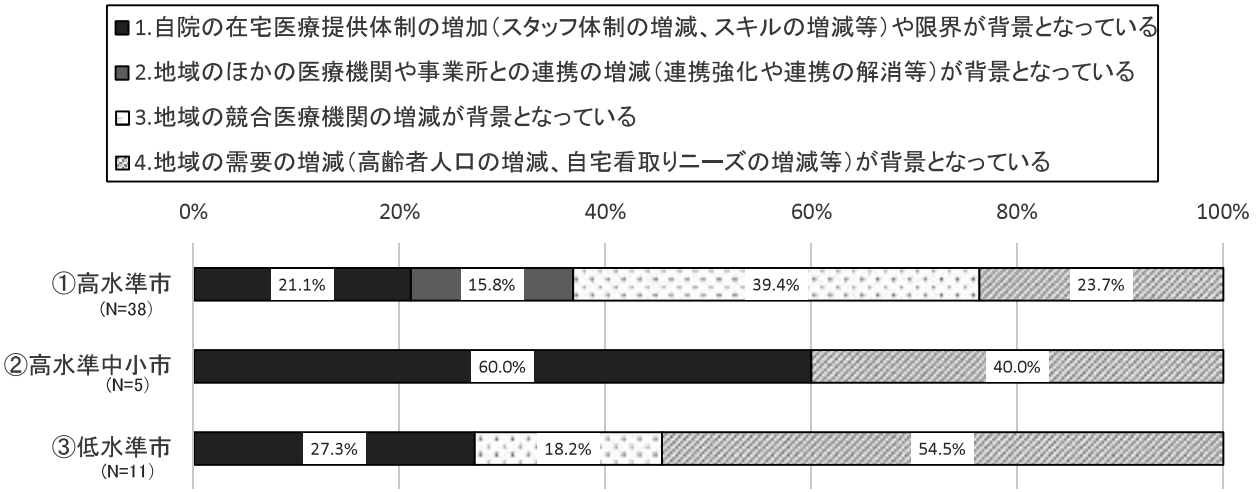
図 39　自宅看取り件数が増加した要因（横浜）



iii. 自宅看取り件数が減少した要因

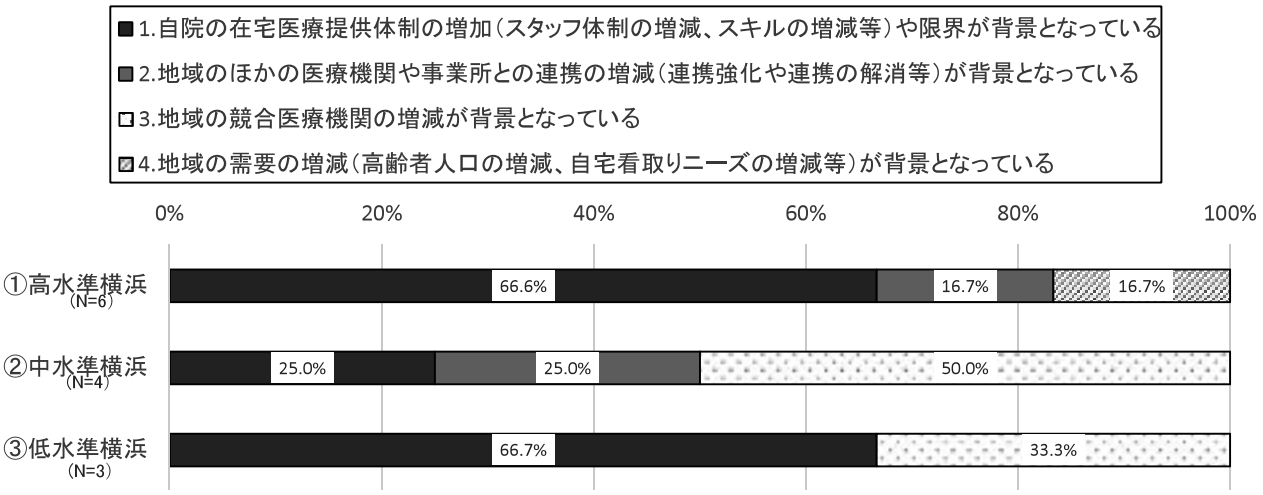
【全国】現在、減少に転じていると回答した機関が挙げたその要因では、都市群ごとに差が見られた。①自宅死高水準市部では、地域の競合医療機関の増減が 39.4%、②自宅死高水準中小市部では在宅医療提供体制の増加が 60.0%、③自宅死低水準市部では地域の需要の増減が 54.5%でそれぞれもっとも多かった。

図 40　自宅看取り件数が減少した要因（全国）



【横浜】現在、減少に転じていると回答した事業所が挙げたその要因では、自院の在宅医療提供体制の増加や限界を挙げたのが、①自宅看取高水準横浜で 66.6%、②自宅看取中水準横浜で 25.0%、③自宅看取低水準横浜で 66.7%であり、地域差が見られる。また地域の競合医療機関の増減を挙げたのが、①自宅看取高水準横浜で 0.0%、②自宅看取中水準横浜で 50.0%、③自宅看取低水準横浜で 33.3%である。

図 41　自宅看取り件数が減少した要因（横浜）



iv. <u>利用者数および自宅看取りとなった方の人数の推移</u>

都市群ごとに見た機関ごとの状況は以下の通りであった。

図 42　訪問診療算定平均患者数（全国）

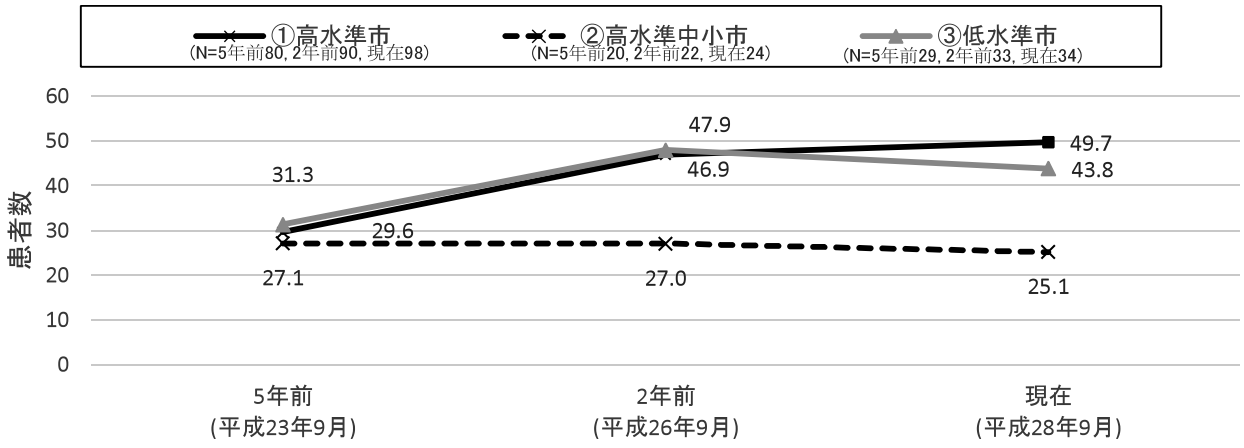


図 43　訪問診療算定患者のうち自宅で療養していた平均患者数（全国）

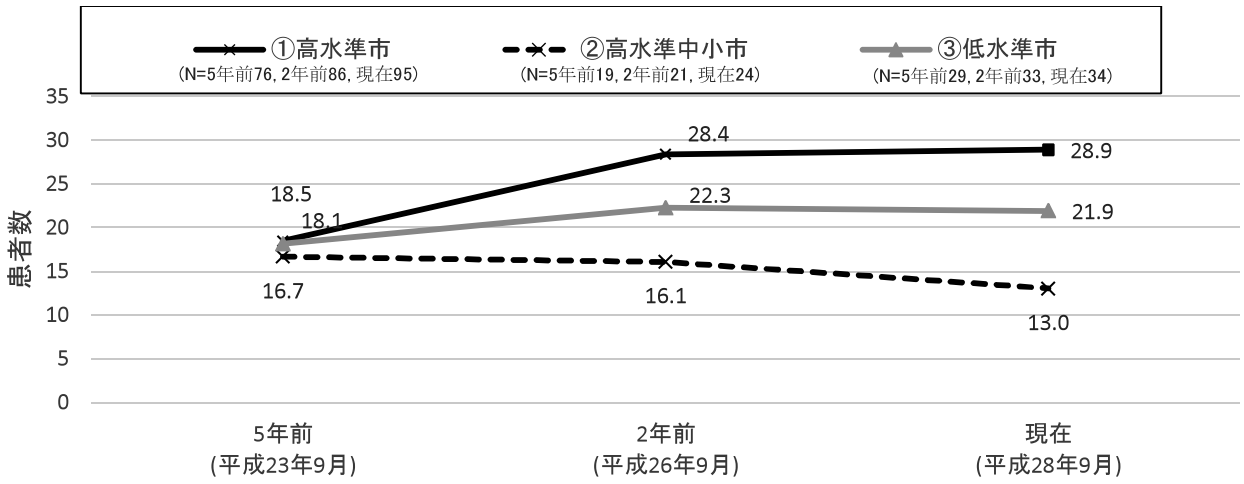


図 44　9 月中（月間）の自宅看取り平均患者数（全国）

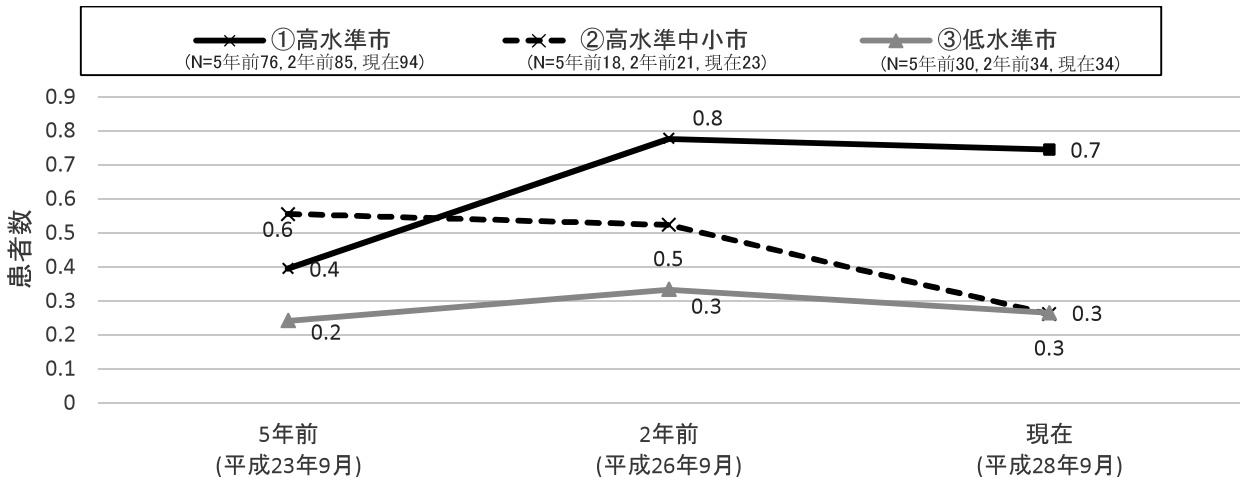


図 45　自宅で看ていたが自宅以外で看取りとなった平均患者数（全国）

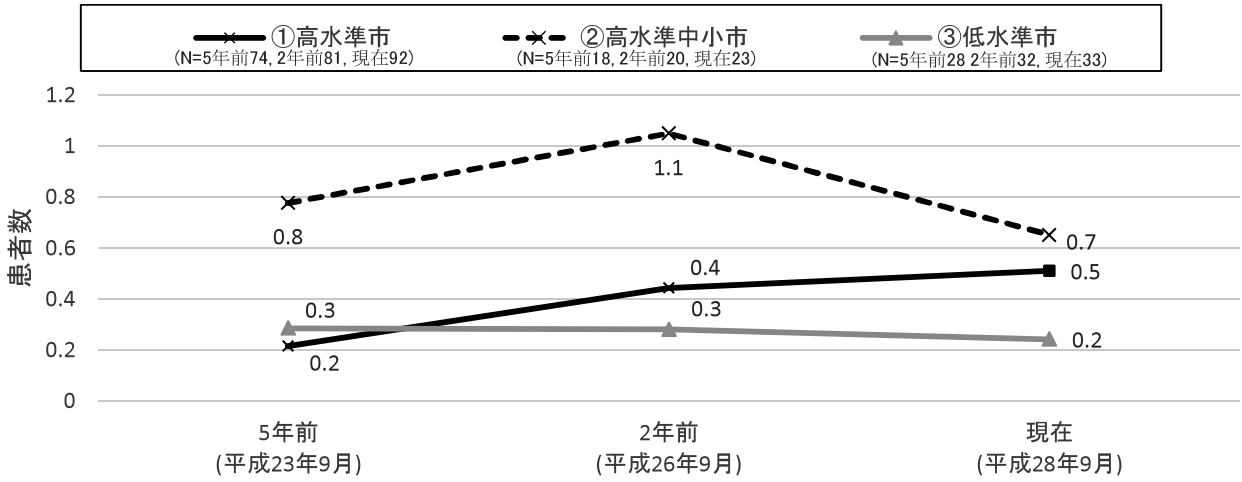


図 46　訪問診療算定平均患者数（横浜）

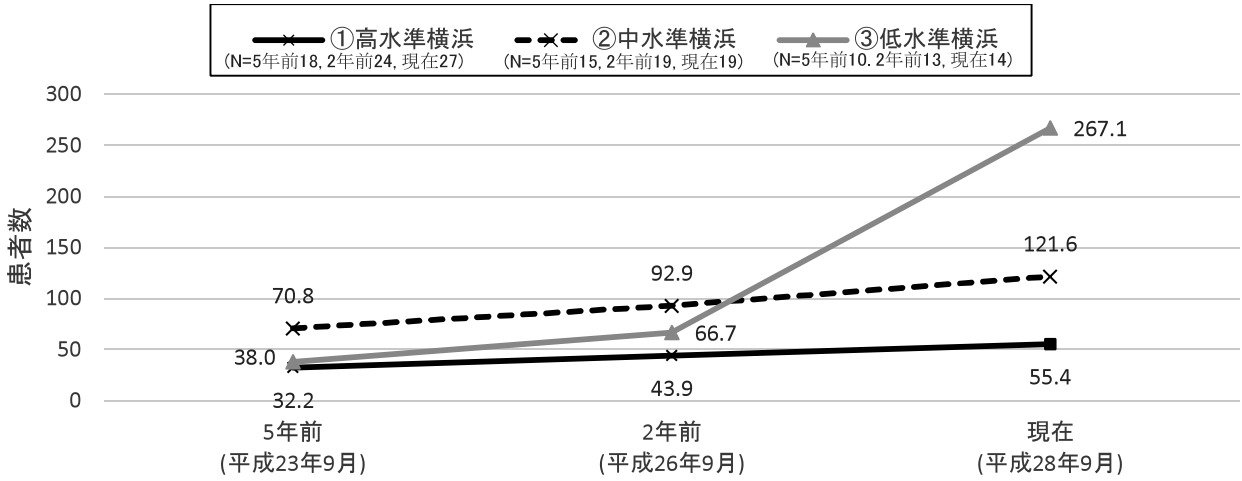


図 47　訪問診療算定患者のうち自宅で療養していた平均患者数（横浜）

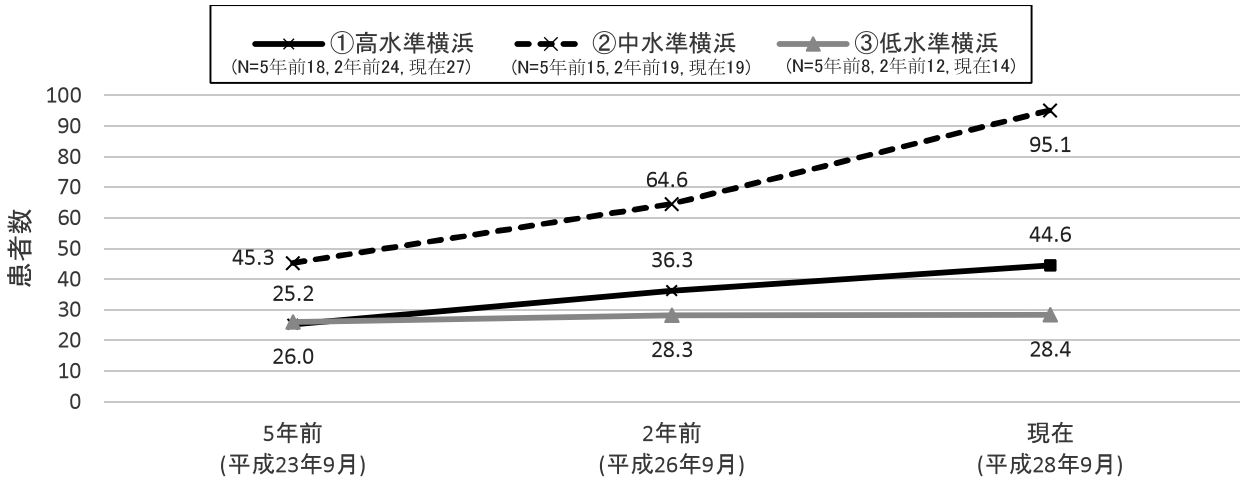


図 48　9 月中（月間）の自宅看取り平均患者数（横浜）

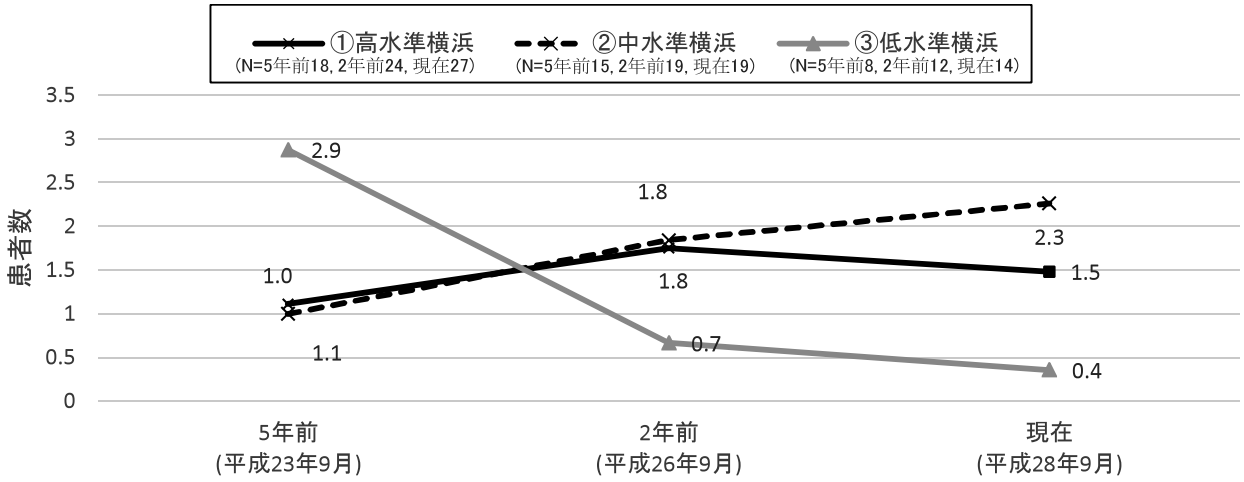
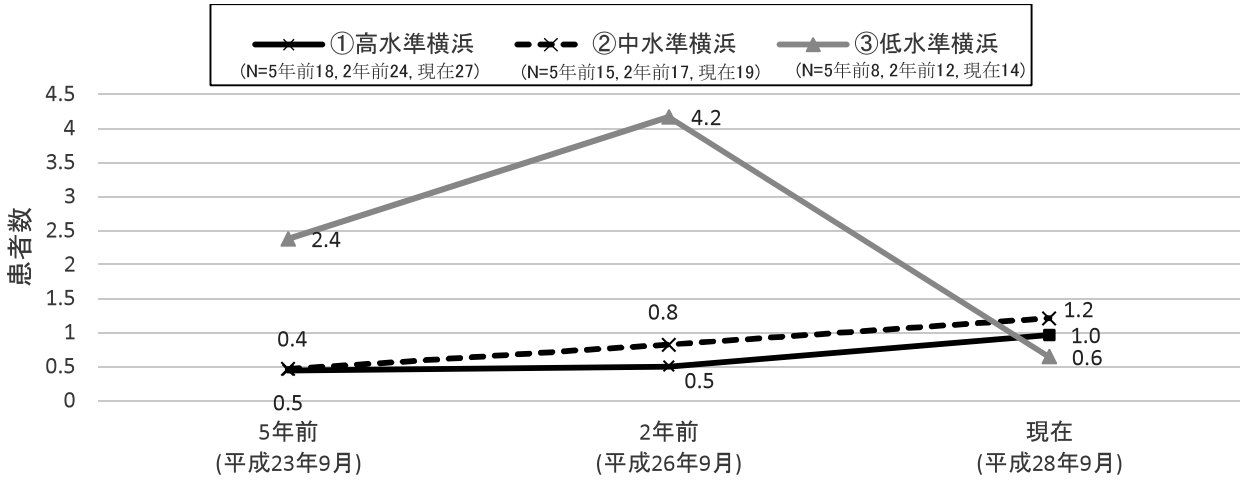


図 49　自宅で看ていたが自宅以外で看取りとなった平均患者数（横浜）



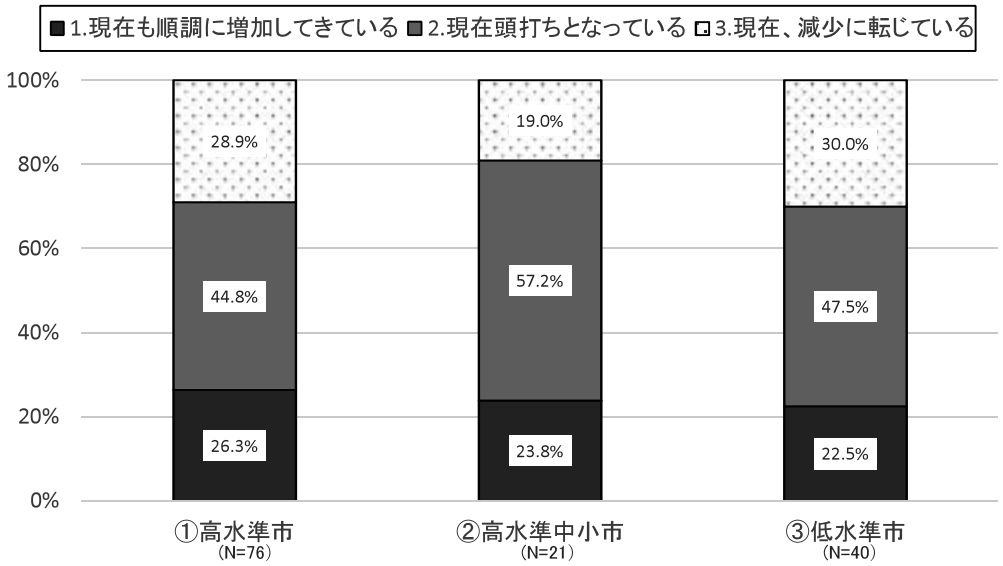
II. 訪問看護事業所

回答のあった訪問看護事業所を取り巻く在宅療養、自宅看取りの需要構造は以下のとおりであった。

i. 現在までの自宅看取り件数の推移

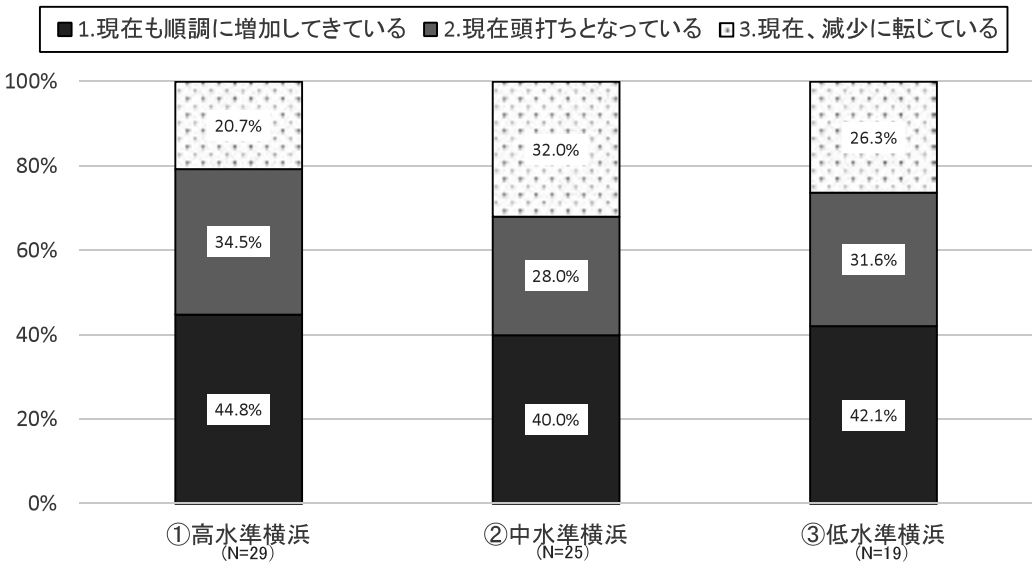
【全国】現在も順調に増加した割合はどの都市群でも25%前後であり地域差はあまり見られないが、現在減少に転じていると回答された割合は、①自宅死高水準市部で28.9%、②自宅死高水準中小市部は19.0%、③自宅死低水準市部では30.0%であり、小規模都市よりも大都市の方が減少している傾向が見られる。

図 50　現在までの自宅看取り件数の推移（全国）



【横浜】減少に転じていると回答した割合は、①自宅看取高水準横浜では20.7%、②自宅看取中水準横浜では32.0%、③自宅看取低水準横浜では26.3%であり、地域により差が見られた。

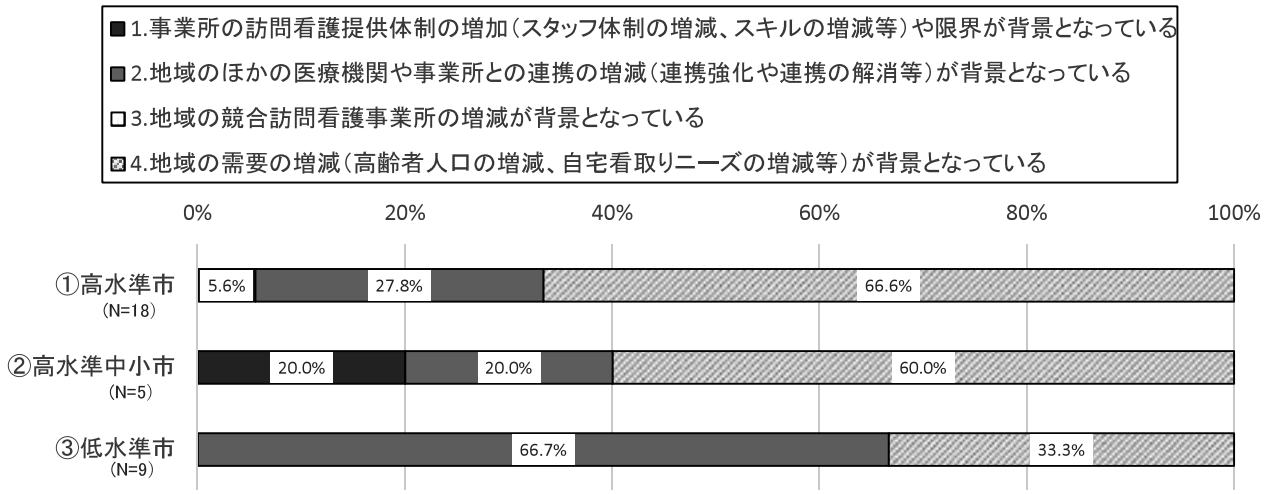
図 51　現在までの自宅看取り件数の推移（横浜）



ii. <u>自宅看取り件数が増加した要因</u>

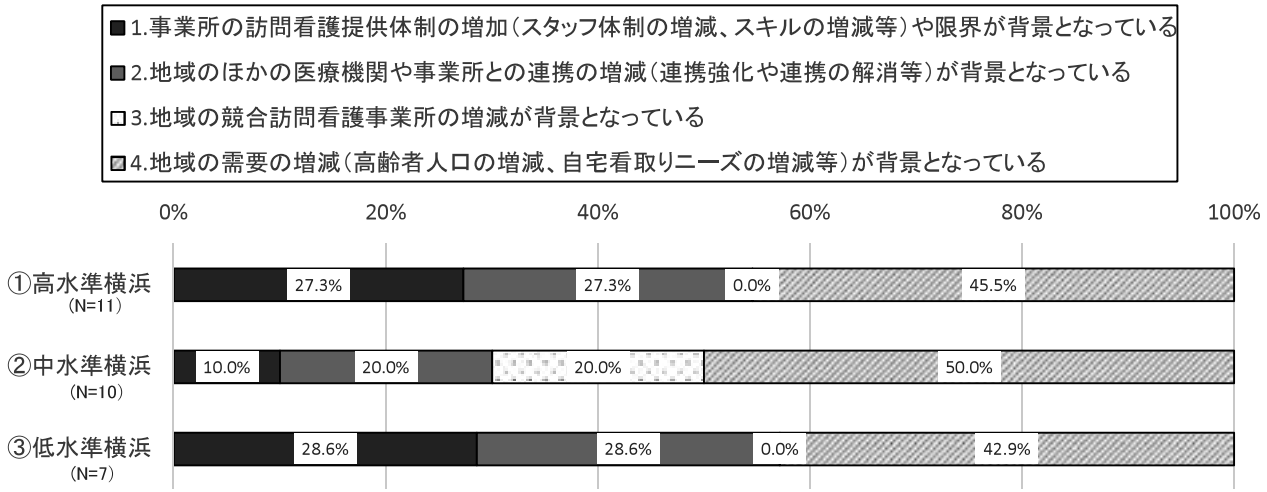
【全国】順調に伸びていると回答した事業所が挙げたその要因では、都市群ごとに傾向の違いが見られる。①自宅死高水準市部では地域の需要の増減を挙げたのが 66.6%、②自宅死高水準中小市部では地域の需要の増減を挙げたのが 60.0%、③自宅死低水準市部では地域のほかの医療機関や事業所との連携の増減を挙げたのが 66.7%でそれぞれ最も多かった。

図 52　自宅看取り件数が増加した要因（全国）



【横浜】現在、増加に転じていると回答した事業所が挙げたその要因では、②自宅看取中水準横浜で地域の訪問看護事業所の増減を回答としたのが 20.0%おり、他の都市群とは違いが見られる。

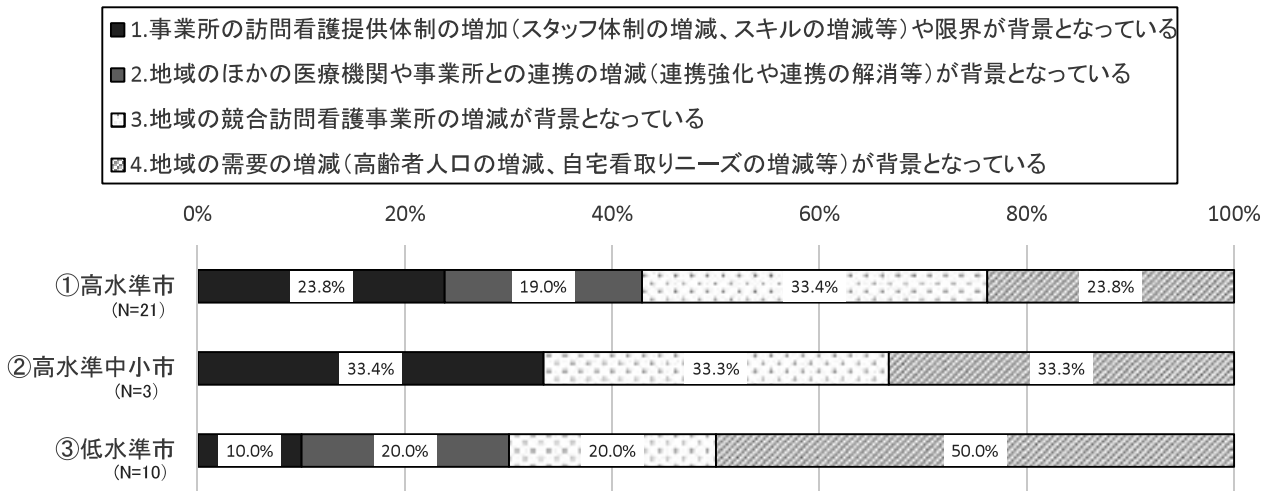
図 53　自宅看取り件数が増加した要因（横浜）



iii. <u>自宅看取り件数が減少した要因</u>

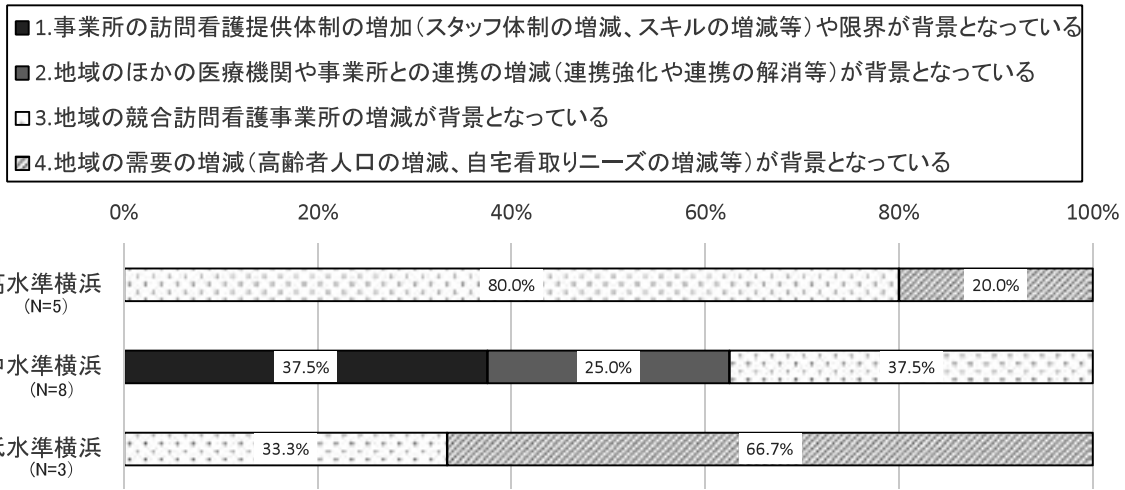
【全国】現在、減少に転じていると回答した事業所が挙げたその要因では、①自宅死高水準市部では 33.4%が競合事業所の増減、③自宅死低水準市部では 50.0%が地域の需要の増減を挙げた。

図 54　自宅看取り件数が減少した要因（全国）



【横浜】現在、減少に転じていると回答した事業所が挙げたその要因では、都市群ごとに傾向の違いが見られる。①自宅看取高水準横浜では、地域の競合訪問看護事業所の増減を挙げた回答が 80.0%、②自宅看取中水準横浜では事業所の訪問看護提供体制の増加や限界、地域の競合訪問看護事業所の増減を挙げたのが 37.5%、③自宅看取低水準横浜では地域の需要の増減を挙げたのが 66.7%で最も多かった。

図 55　自宅看取り件数が減少した要因（横浜）



iv. <u>利用者数および自宅看取りとなった方の人数の推移</u>

都市群ごとに見た事業所ごとの状況は以下の通りであった。

図 56　平均利用者数（介護保険）（全国）

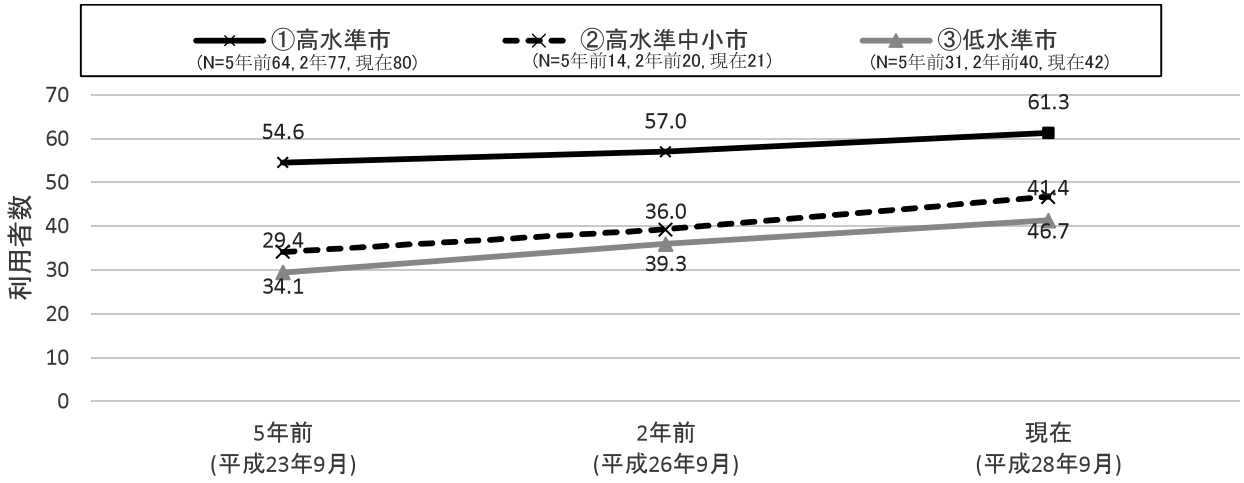


図 57　平均利用者数（医療保険）（全国）

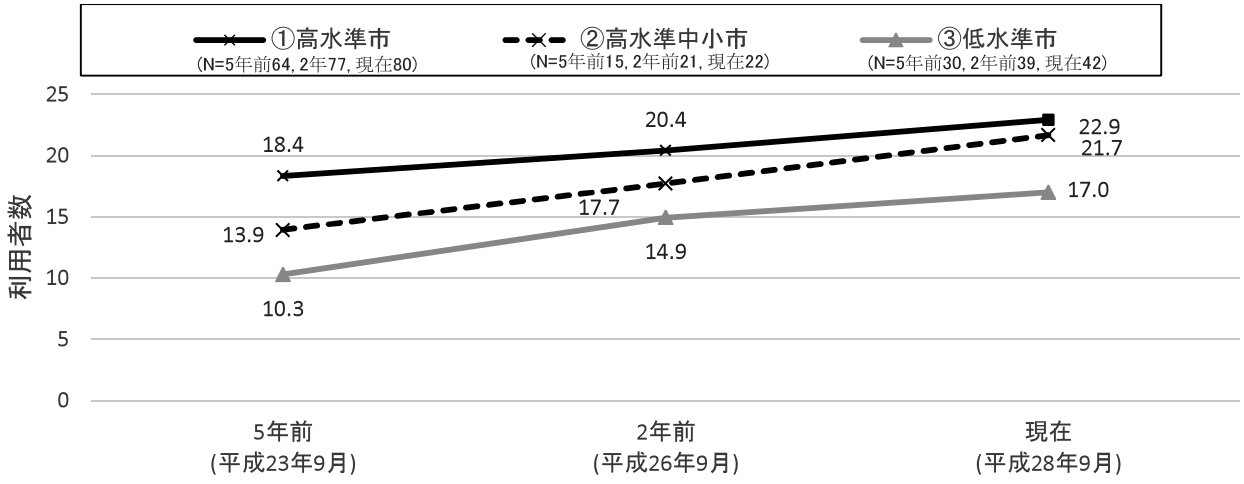


図 58　9 月中に自宅で看取りになった平均利用者数（全国）

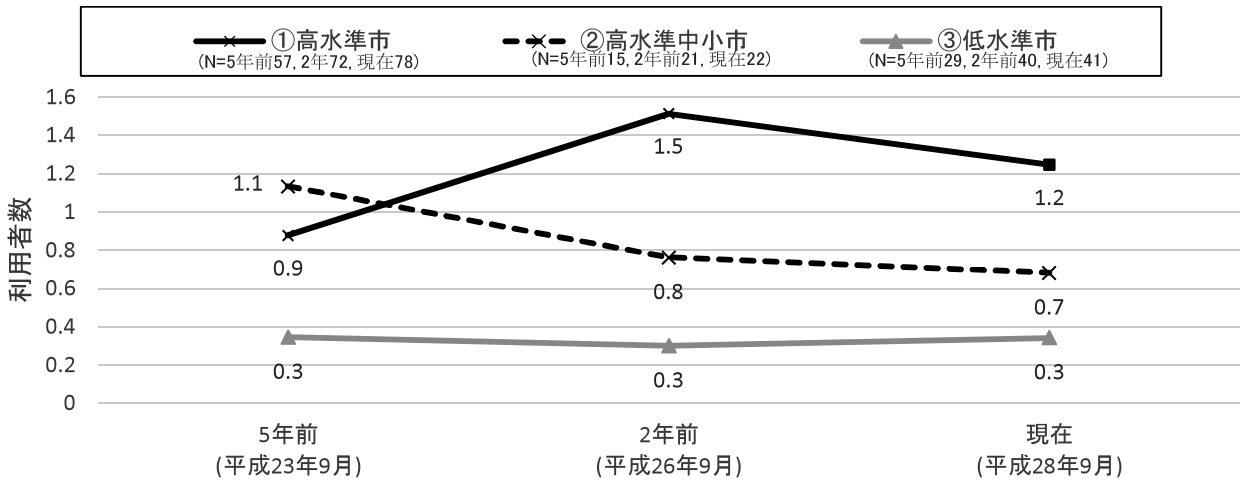


図 59　これまで訪問していたが 9 月中に自宅以外で看取りになった平均利用者数（全国）

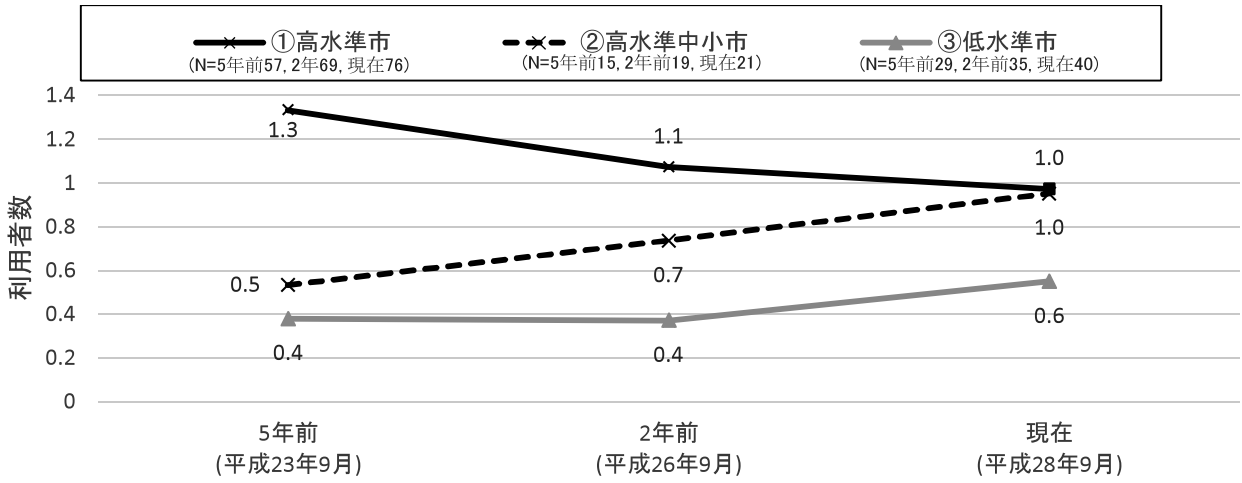


図 60　平均利用者数（介護保険）（横浜）

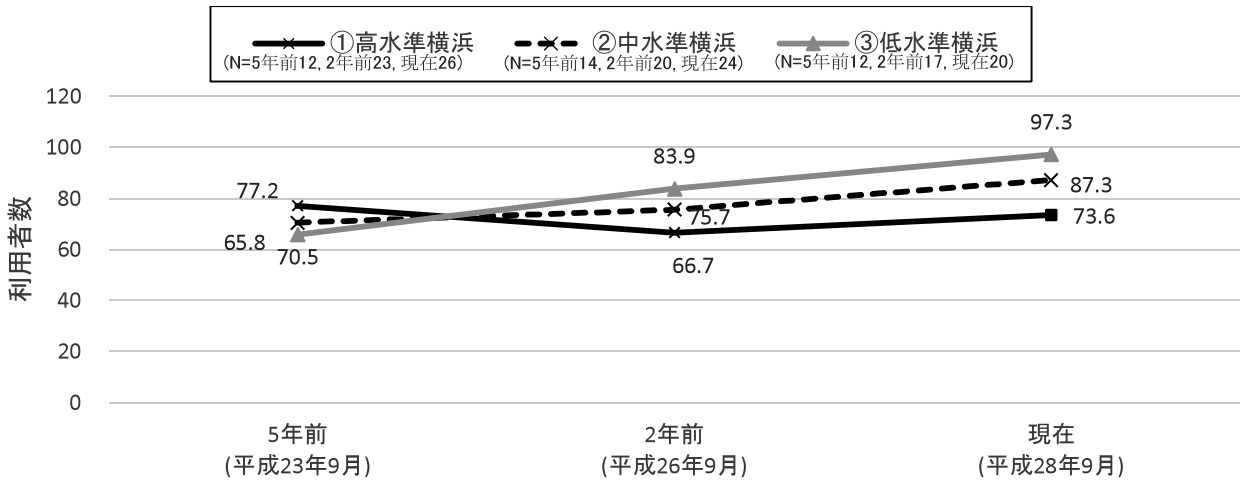


図 61　平均利用者数（医療保険）（横浜）

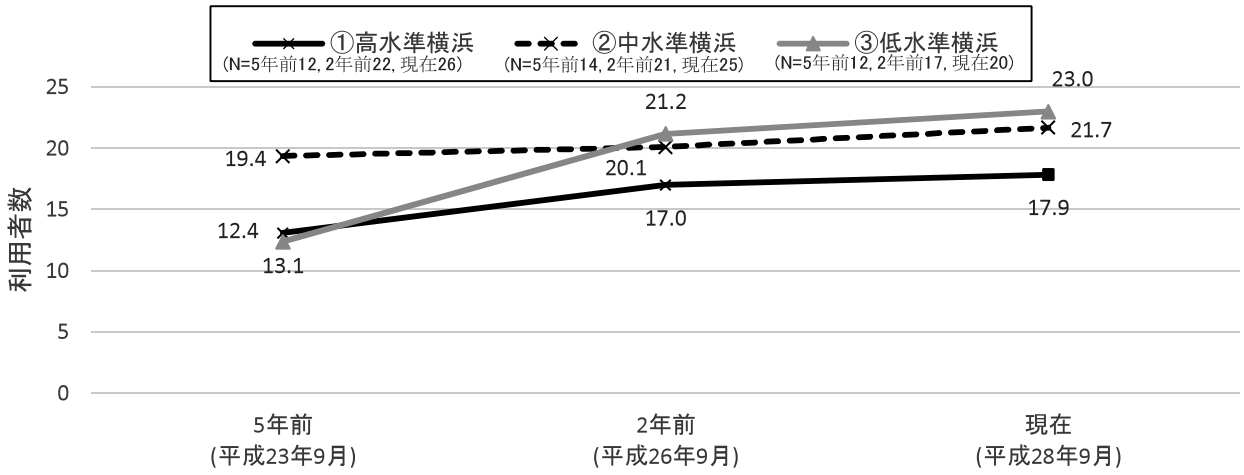


図 62　9 月中に自宅で看取りになった平均利用者数（横浜）

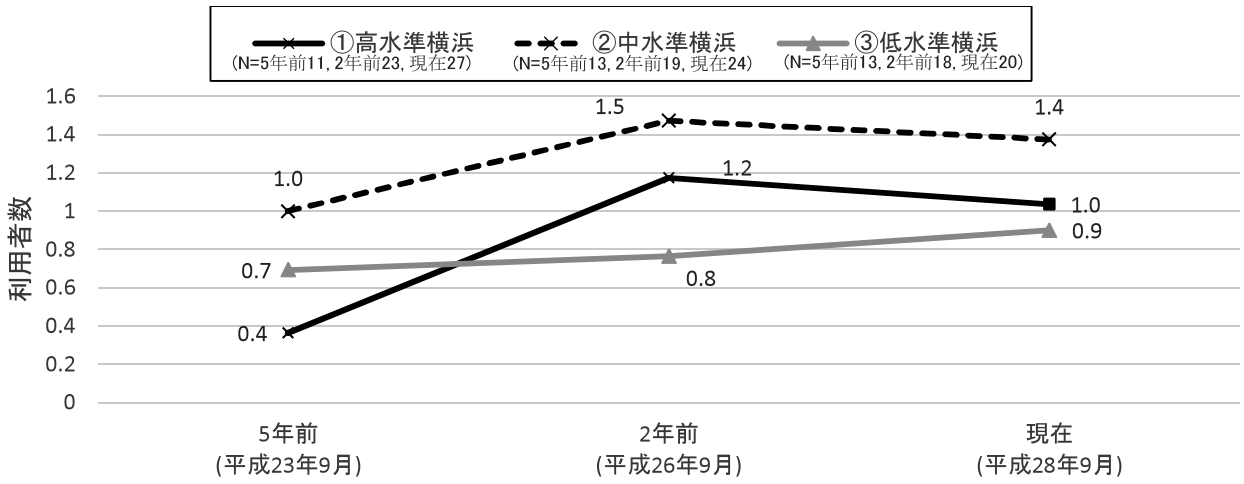
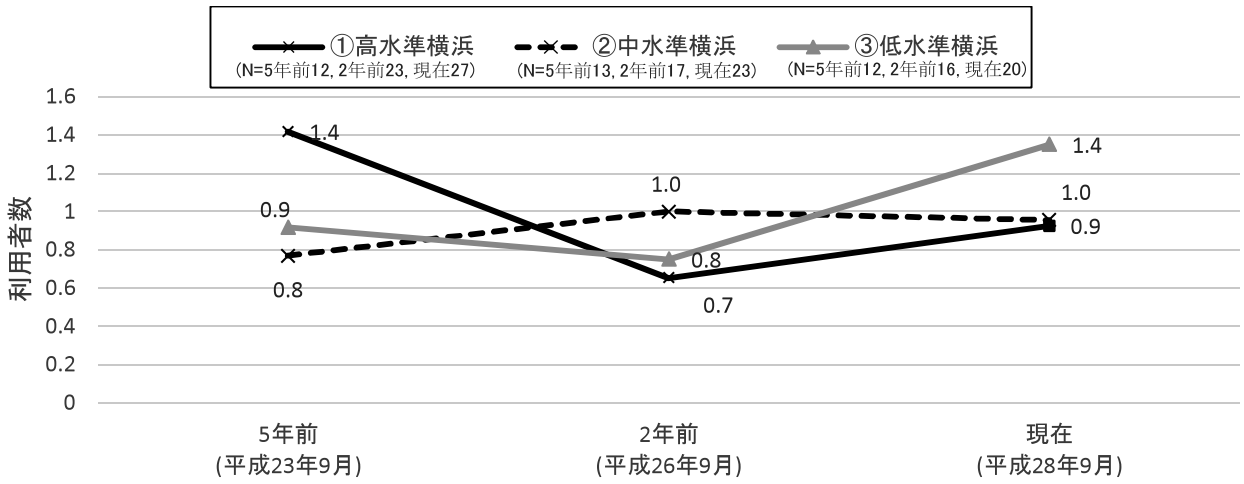


図 63　これまで訪問していたが 9 月中に自宅以外で看取りになった平均利用者数（横浜）



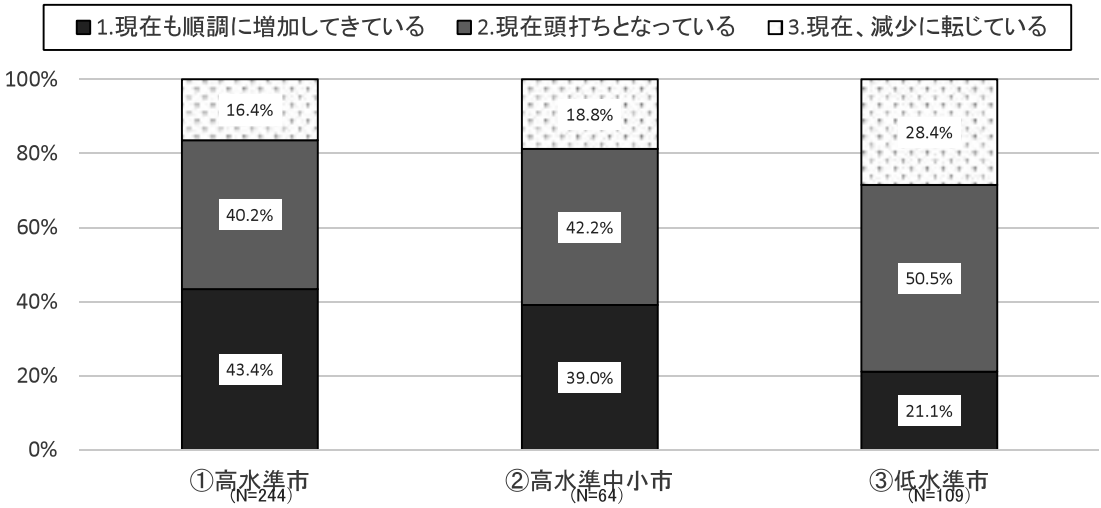
III. 居宅介護支援事業所

回答のあった居宅介護支援事業所を取り巻く在宅療養、自宅看取りの需要構造は以下の通りであった。

i. 事業を開始して 2 年目以降から現在までの自宅看取り件数の推移

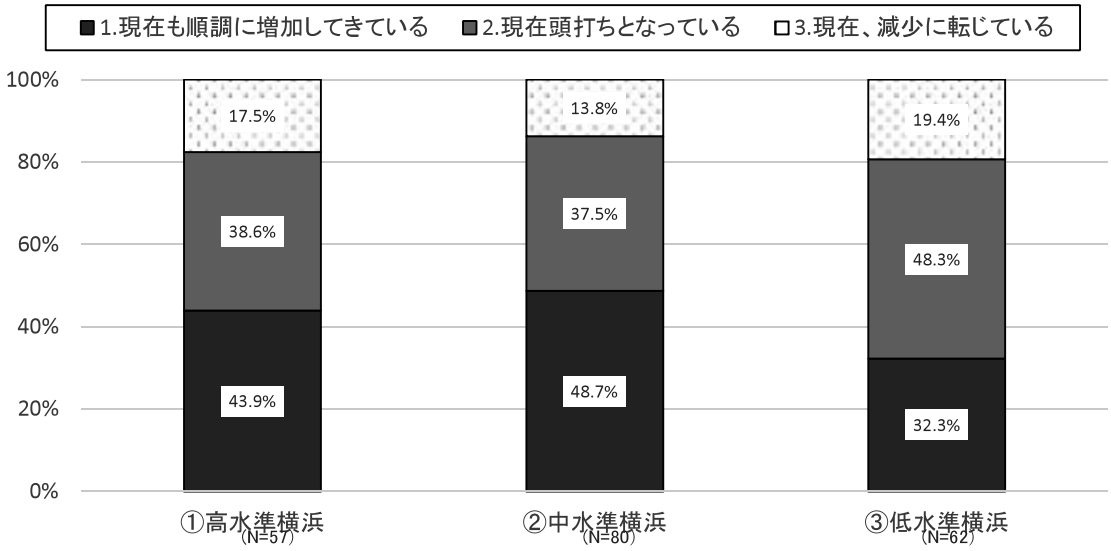
【全国】現在も順調に伸びていると回答したのは、①自宅死高水準市部で 43.4%、②自宅死高水準中小市部では 39.0%、③自宅死低水準市部では 21.1%であり、都市の規模にかかわらず上位群は看取り件数が増加する傾向にある。

図 64　現在までの自宅看取り件数の推移（全国）



【横浜】現在も順調に伸びていると回答したのは、①自宅看取高水準横浜で 43.9%、②自宅看取中水準横浜では 48.7%、③自宅看取低水準横浜では 32.3%であった。

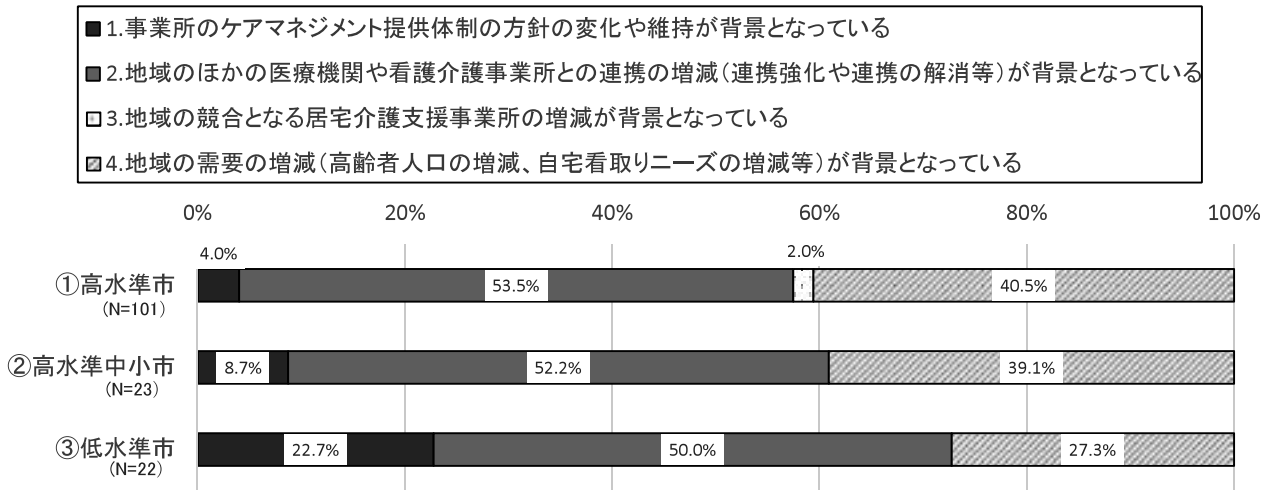
図 65　現在までの自宅看取り件数の推移（横浜）



ii. <u>自宅看取り件数が増加した要因</u>

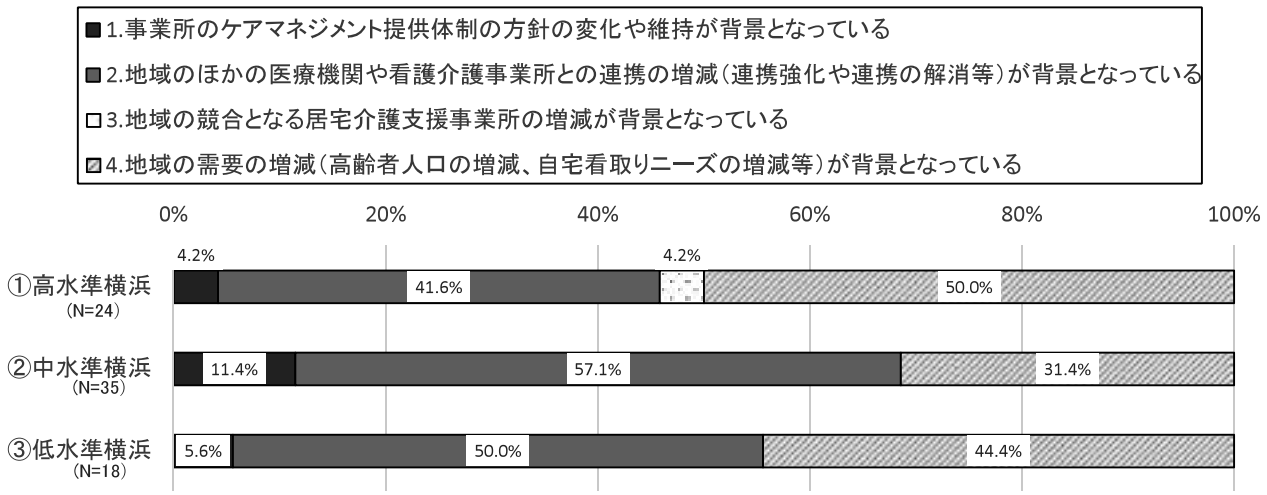
【全国】順調に伸びていると回答した事業所が挙げたその要因では、都市群ごとに傾向の違いが見られる。どの都市群も半数が地域のほかの医療機関や看護介護事業所との連携を挙げたが、それ以外の選択肢では都市群ごとに差が見られた。また、地域の競合となる事業所の増減を挙げた回答はほとんど見られなかった。

図 66　自宅看取り件数が増加した要因（全国）



【横浜】現在、増加に転じていると回答した事業所が挙げたその要因では、都市群ごとに傾向の違いが見られる。①自宅看取高水準横浜では地域の需要の増減を挙げたのが 50.0%、②自宅看取中水準横浜と③自宅看取低水準横浜では、地域のほかの医療機関や看護介護事業所との連携の増減が 57.1%、50.0%でそれぞれ最も多かった。

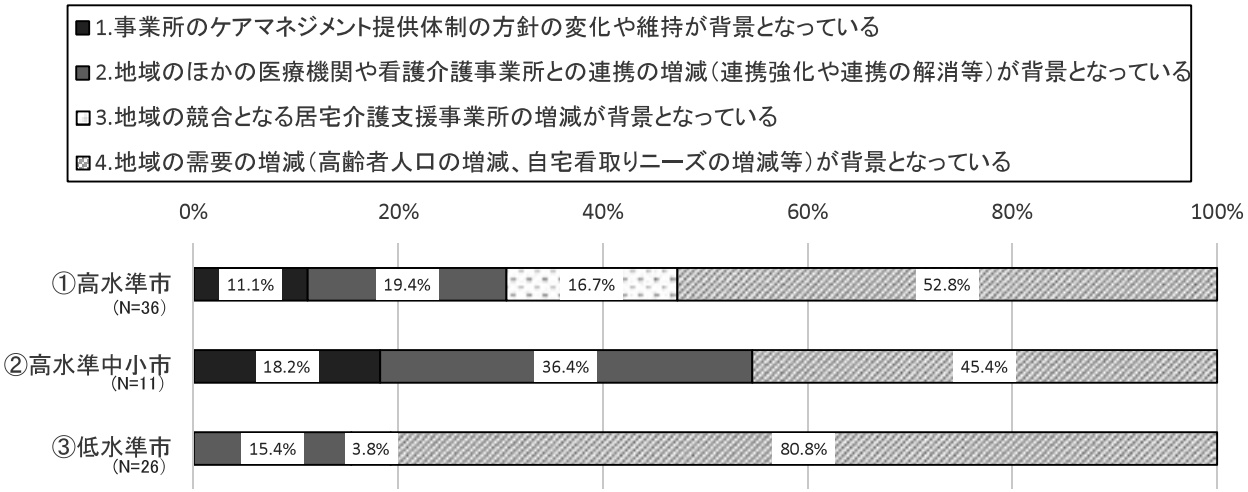
図 67　自宅看取り数が増加した要因（横浜）



iii. 自宅看取り件数が減少した要因

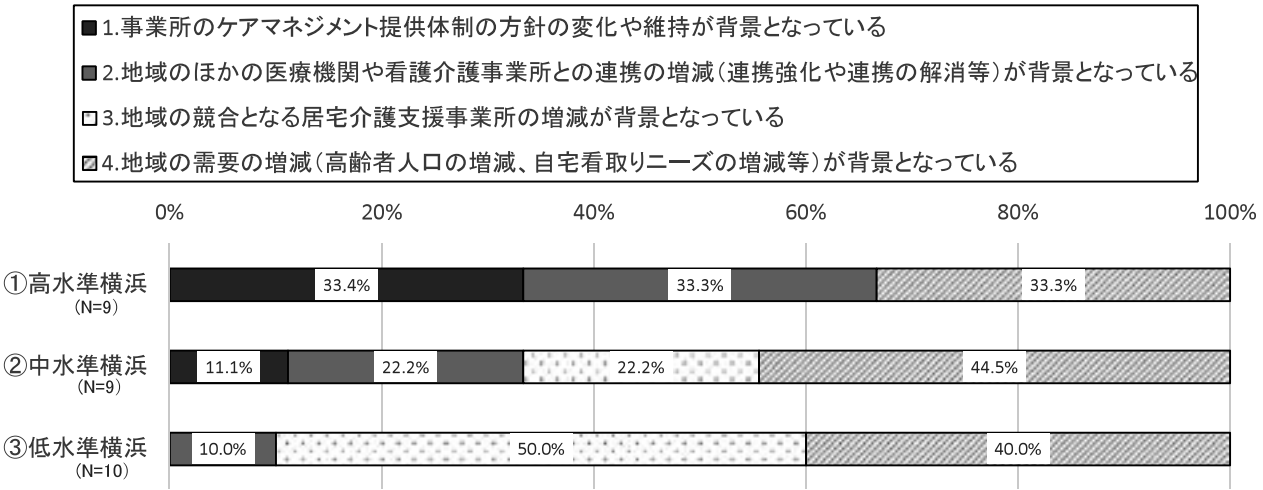
【全国】現在、減少に転じていると回答した事業所が挙げたその要因では、すべての都市群で地域の需要の増減を挙げた回答が最も多く、①自宅死高水準市部では 52.8%、②自宅死高水準中小市部では 45.4%、③自宅死低水準市部では 80.8%であった。

図 68　自宅看取り件数が減少した要因（全国）



【横浜】現在、減少に転じていると回答した事業所が挙げたその要因では、都市群ごとに傾向の違いが見られる。②自宅看取中水準横浜では、地域の需要の増減を挙げたのが 44.5%であった。③自宅看取低水準横浜では、地域の競合となる居宅介護支援事業所の増減を挙げた回答が 50.0%と最も多かった。

図 69 自宅看取り件数が減少した要因（横浜）



iv. <u>利用者数および自宅看取りとなった方の人数の推移</u>

都市群ごとに見た事業所ごとの状況は以下の通りであった。

図 70　9 月時点の利用者のうち訪問診療を受けながら在宅療養していた平均利用者数（全国）

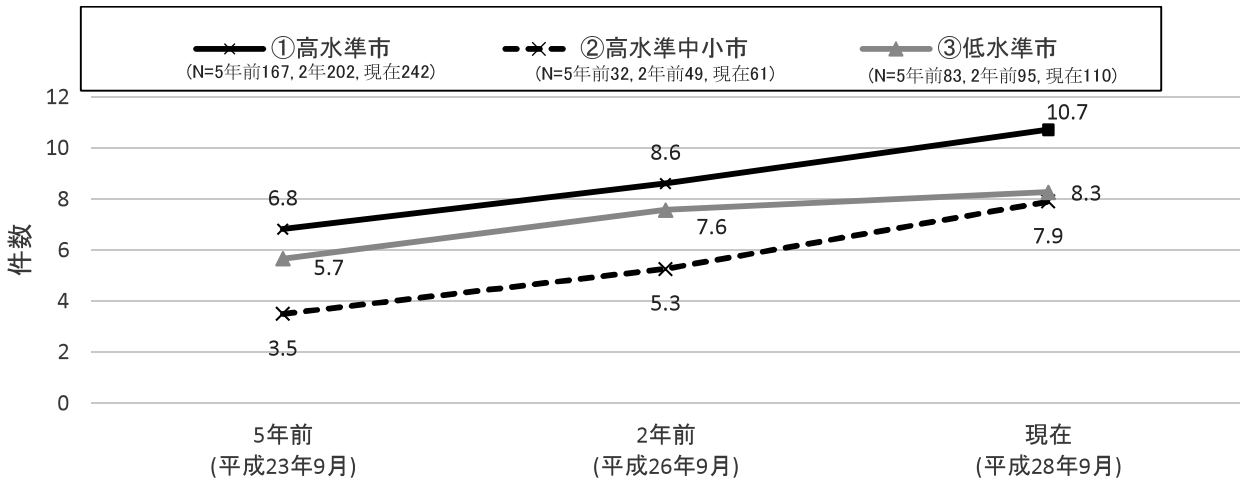


図 71　この 1 年間の利用者の自宅看取り平均件数（全国）

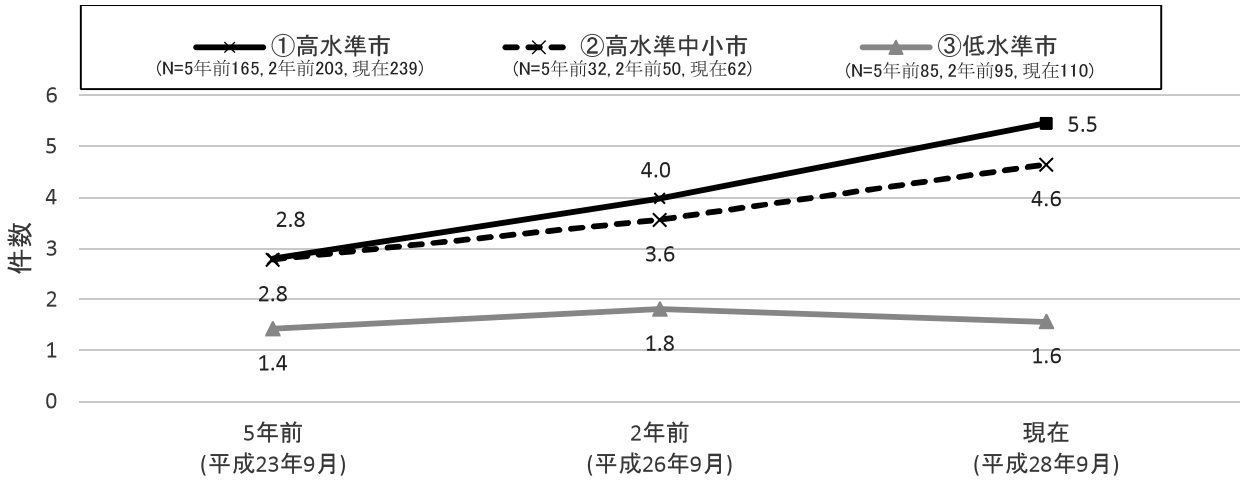


図 72　在宅療養していた人のうち途中から自宅以外へ移動した平均利用者数（全国）

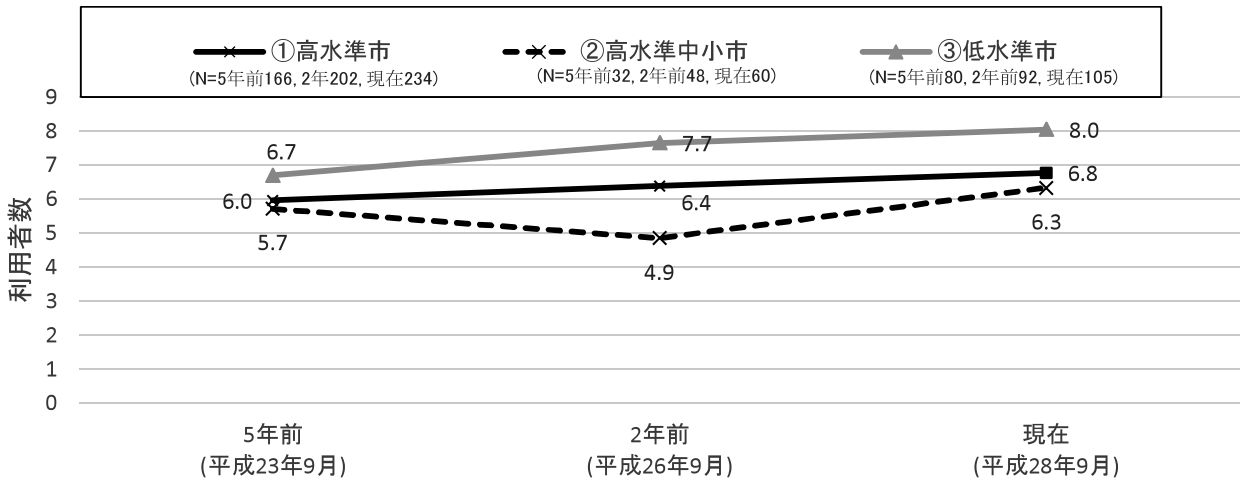


図 73　9 月時点の利用者のうち訪問診療を受けながら在宅療養していた平均利用者数（横浜）

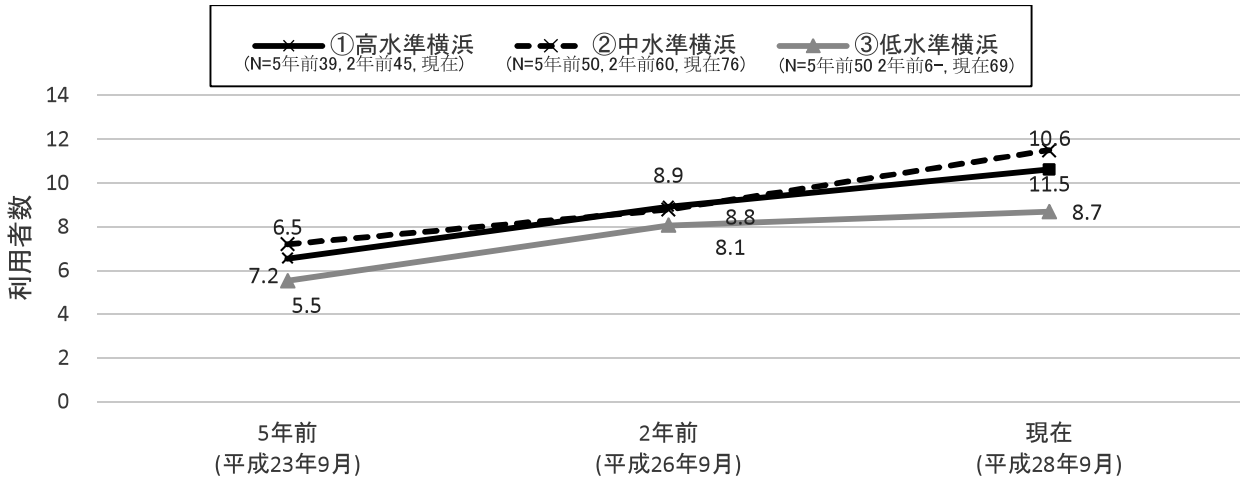


図 74　この 1 年間の利用者の自宅看取り平均件数（横浜）

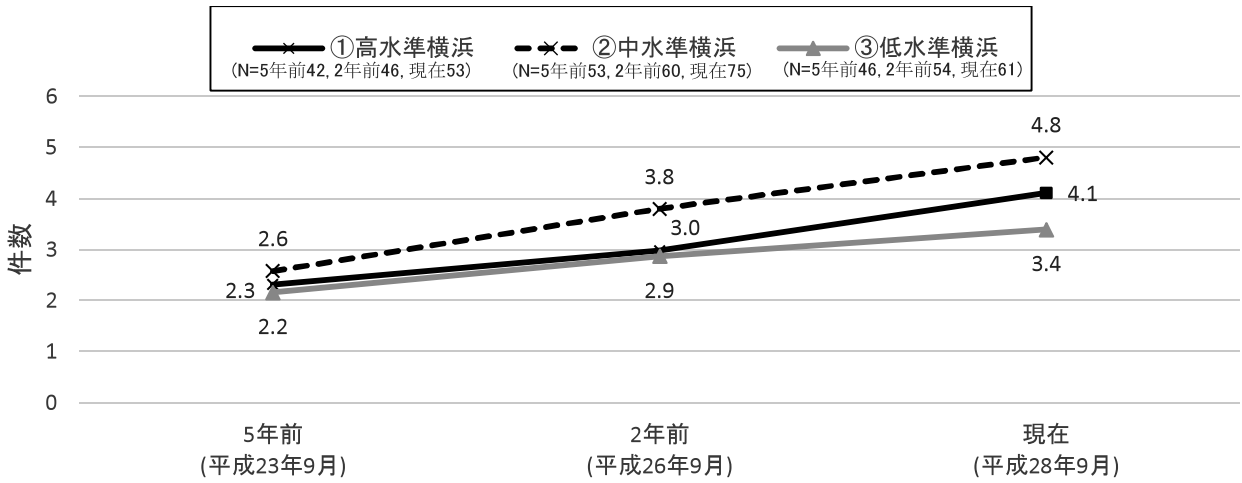
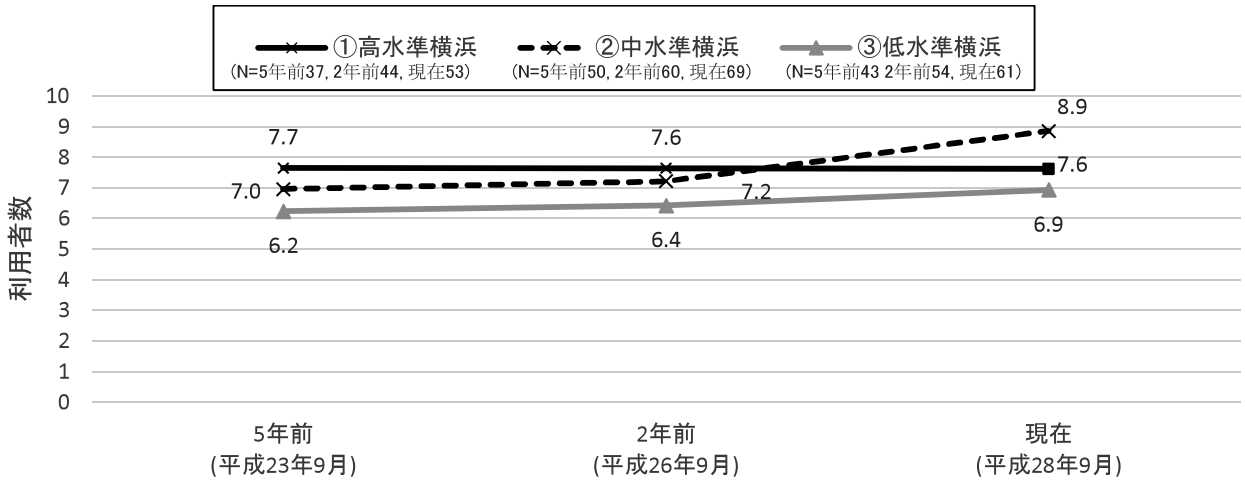


図 75　在宅療養していた人のうち途中から自宅以外へ移動した利用者の平均利用者数（横浜）



3. 在宅療養関連事業所からみた自宅看取りとその中断の状況

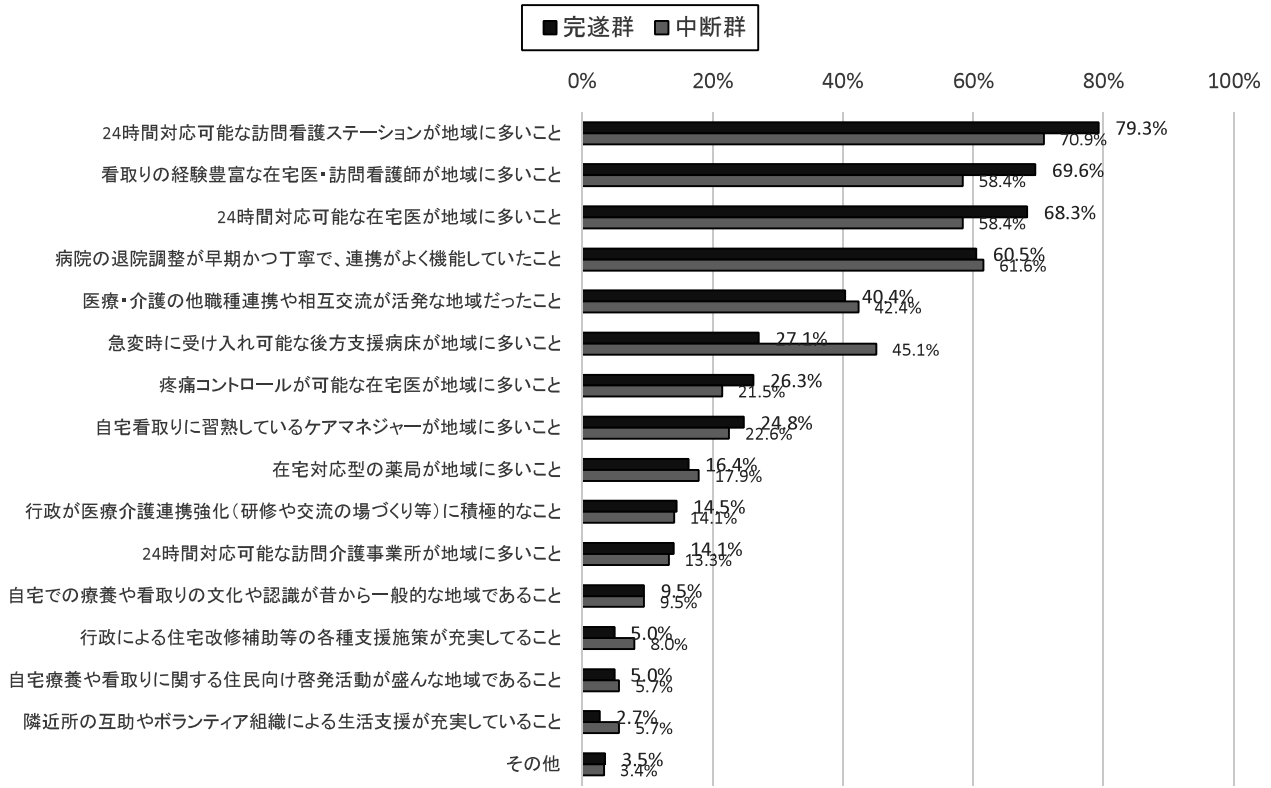
今回の調査では、在宅療養開始後に看取りに至った群を完遂群、自宅看取りに至らずに在宅療養を中断した群を中断群とし、自宅看取りの完遂と中断を左右する要因の分析を行った。また全国を対象にした調査と横浜市のみを対象とした調査の結果を対照させることで、要因に地域差がみられるのかどうかも併せて分析をした。

（１） 地域の在宅療養の環境要因

Ⅰ. 在宅療養の開始に寄与した居住地域の要因

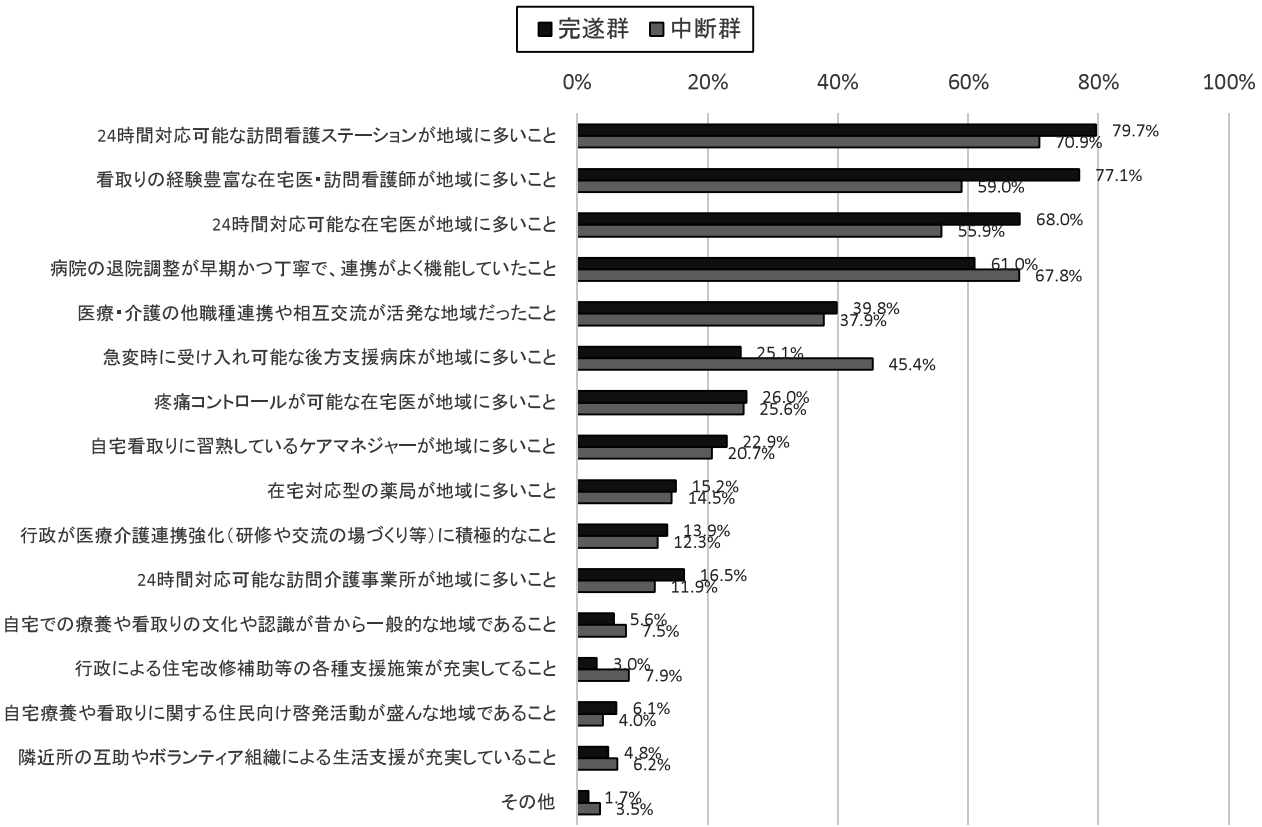
【全国】在宅療養の開始に寄与した地域の要因は、完遂群では 24 時間対応可能な訪問看護ステーション、看取り経験豊富な在宅医・訪問看護師、24 時間対応可能な在宅が地域に多いことが多く挙げられ、中断群との差が見られた。一方、中断群では、急変時に受け入れ可能な後方支援病床が多いことを上げる回答が多く、完遂群と 18.0 ポイントの差が見られた。

図 76　在宅療養の開始に寄与した居住地域の上位 5 つの要因（複数回答）（全国）
（N=完遂 483，中断 474）



【横浜】横浜市においても、全国と同様の傾向が見られることから、完遂と中断を分ける要因には大きな地域差があまり見られなかった。

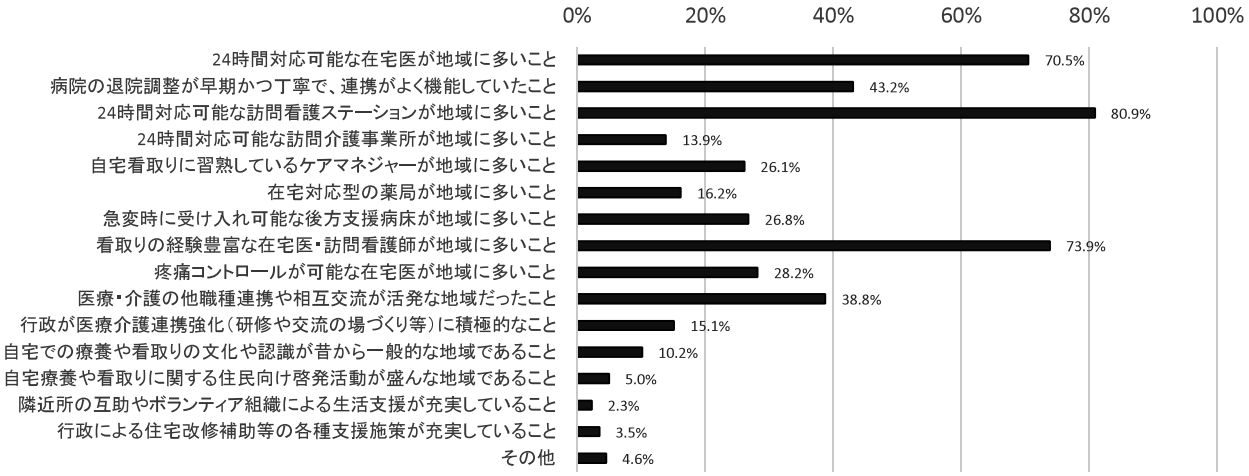
図 77　在宅療養の開始に寄与した居住地域の上位 5 つの要因（横浜）
（N=完遂 231，中断 227）



II. 自宅看取りに寄与した要因

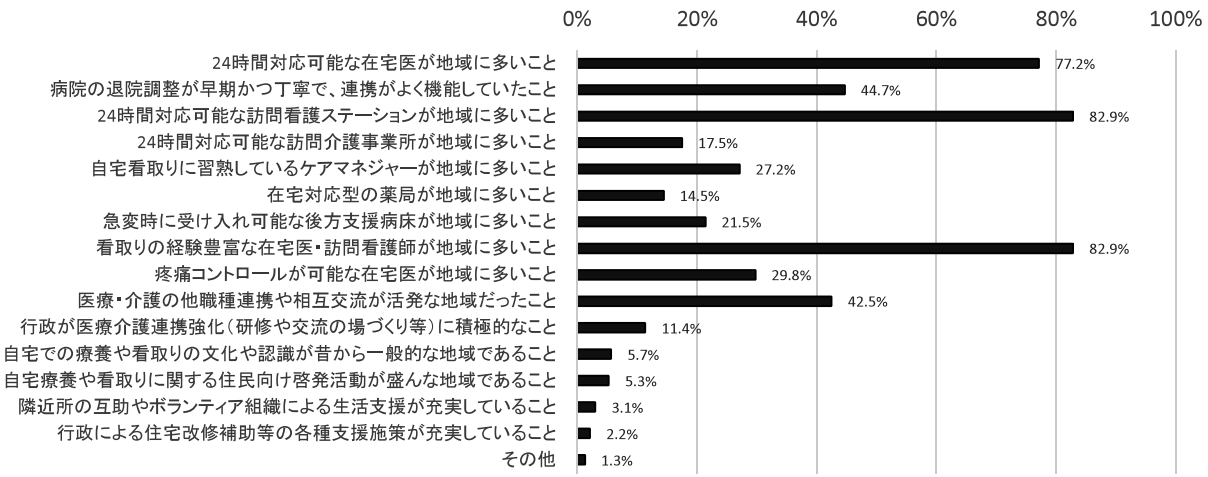
【全国】自宅看取りができたことに寄与した要因では、24 時間対応可能な在宅医が地域に多いことが 70.5%、24 時間対応可能な訪問看護ステーションが地域に多いことが 80.9%、看取り経験の豊富な在宅医・訪問看護師が地域に多いことが 73.9%と、医療資源が充実していることを要因として挙げる回答が多く見られた。一方、自宅での療養や看取りの文化や昔から一般的であることでは 10.2%、在宅療養や看取りに関する住民向けの啓発活動が盛んな地域であることが 5.0%、隣近所の互助やボランティア組織による生活支援が充実していることが 2.3%であり、地域の文化などコミュニティの要素が挙げられることは少なかった。

図 78　自宅看取りができたことに寄与した上位 5 つの要因（複数回答）（全国）（N=482）



【横浜】横浜市においても、全国と同様の傾向が見られることから、完遂と中断を分ける要因には大きな地域差があまりみられなかった。

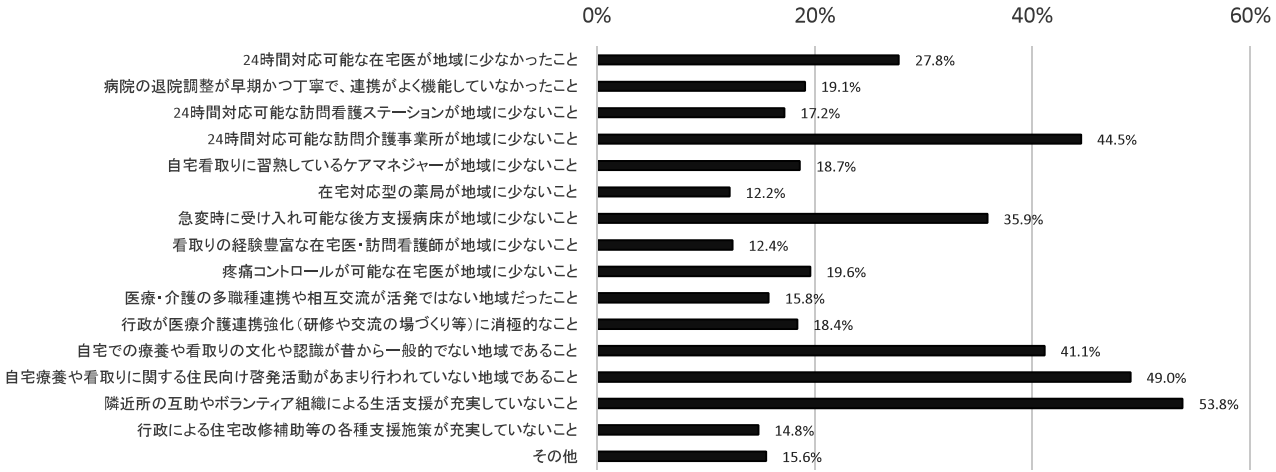
図 79　自宅看取りができたことに寄与した上位 5 つの要因（複数回答）（横浜）（N=228）



III. 自宅看取りの阻害要因となった要因

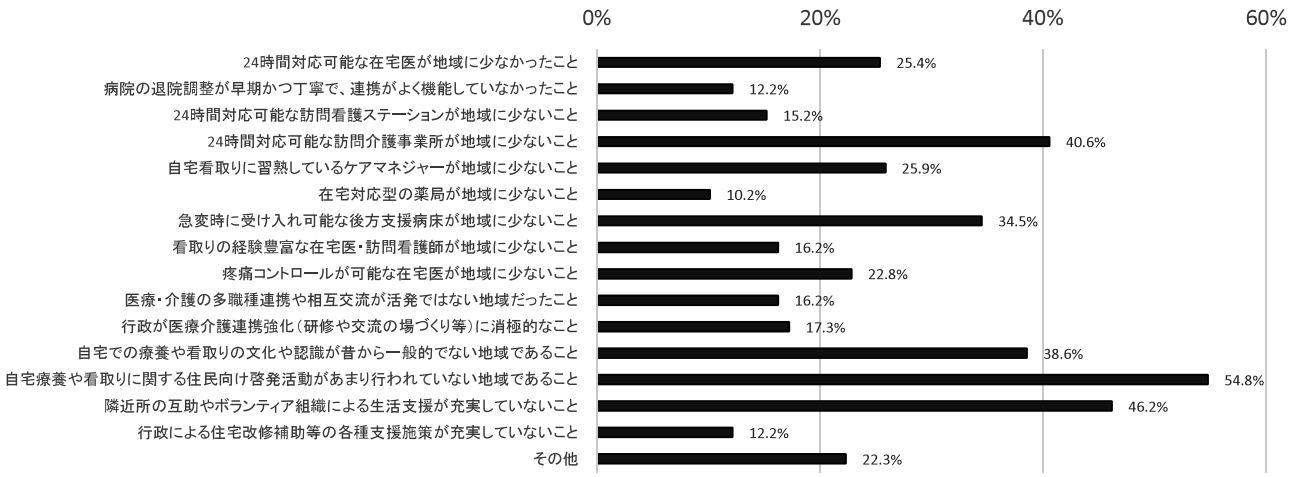
【全国】自宅看取りを阻害した要因として挙げられたのは、24 時間対応可能な在宅医が地域に多いことが 27.8%、24 時間対応可能な訪問看護ステーションが地域に多いことが 44.5%、看取り経験豊富な在宅医・訪問看護師が地域に多いことが 12.4%と、地域の医療資源の不足を阻害要因として挙げる回答が多かった。また、自宅での療養や看取りの文化や認識が昔から一般的でない地域であることが 41.1%、在宅療養や看取りに関する住民向け啓発活動があまり行われていない地域であることが 49.0%、隣近所の互助やボランティア組織による生活支援が充実していないことが 53.8%と、文化やコミュニティを阻害要因とする回答が多く見られた。

図 80　自宅看取りの阻害要因となった上位 5 つの要因（複数回答）（全国）（N=418）



【横浜】横浜市においても、全国と同様の傾向が見られることから、完遂と中断を分ける要因には大きな地域差があまりみられなかった。

図 81　自宅看取りの阻害要因となった上位 5 つの要因（複数回答）（横浜）（N=197）



（２） 自宅看取りとその中断の状況

自宅看取りへ至った完遂群と至らなかった中断群とで患者の状態や周囲の環境にどのような違いがあったのかを分析した。

Ⅰ. 基礎属性

i. 性別

【全国】完遂群と中断群とに分けた各都市群における性別の比率は以下の図の通り。完遂群では男女比は概ね半々であるが、中断群では、②自宅死高水準中小市部で 29.8 ポイント、③自宅死低水準市部で 14.4 ポイント、女性よりも男性の方が多い。

図 82 【完遂】基本属性：性別（全国）

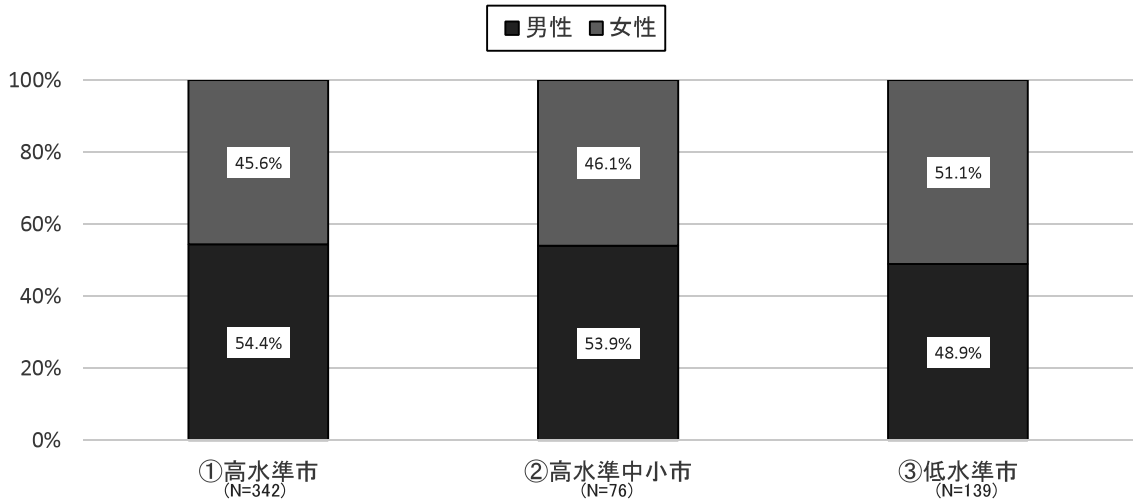
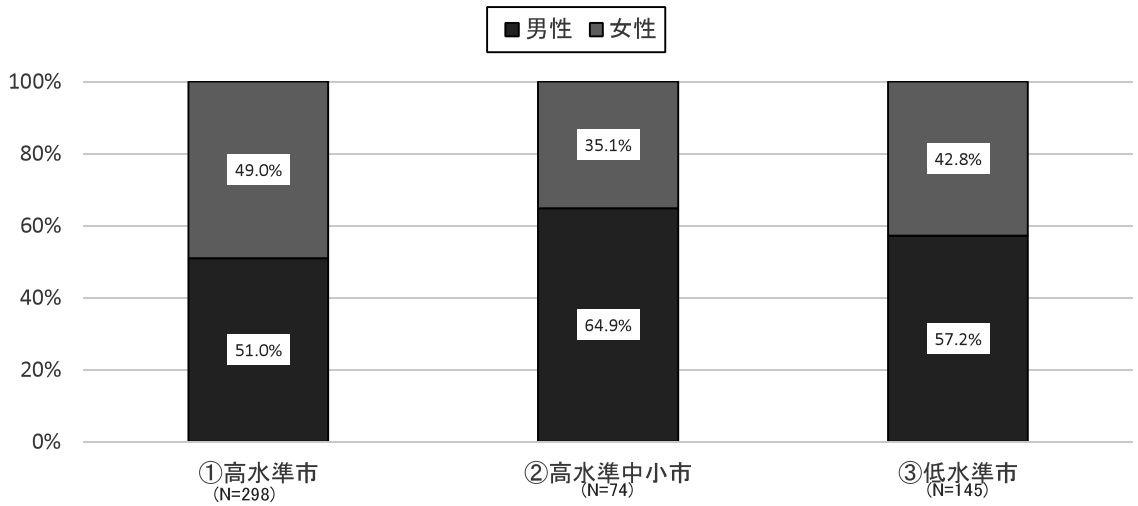


図 83 【中断】基本属性：性別（全国）



【横浜】完遂群と中断群とに分けた各都市群における性別の比率は以下の図の通り。完遂群、中断群の両群で都市ごとに男女の比率にばらつきがある。完遂群では、①自宅看取高水準横浜で 16.0 ポイント男性が少なく、②自宅看取中水準横浜で 4.8 ポイント男性が少なく、③自宅看取低水準横浜では 6.6 ポイント男性が多い。中断群では、①自宅死高水準市部で 20.0 ポイント男性が多く、②自宅看取中水準横浜で 3.0 ポイント男性が少なく、③自宅看取低水準横浜 38.8 ポイント男性が多い。

図 84　【完遂】基本属性：性別（横浜）

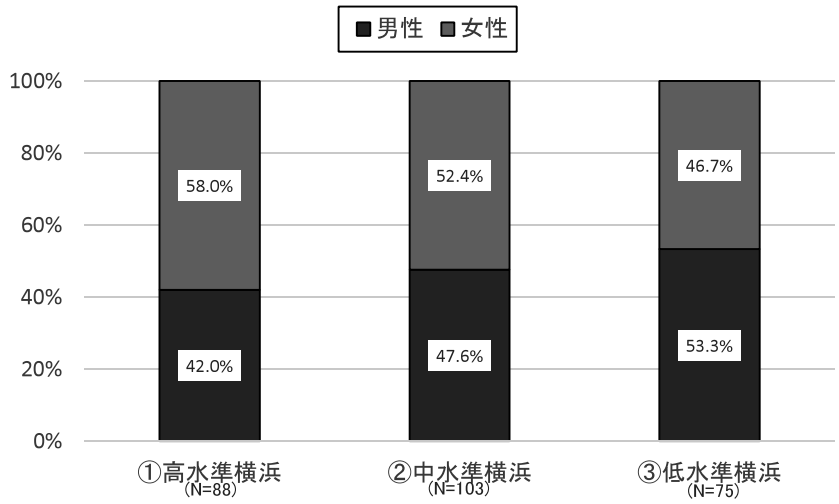
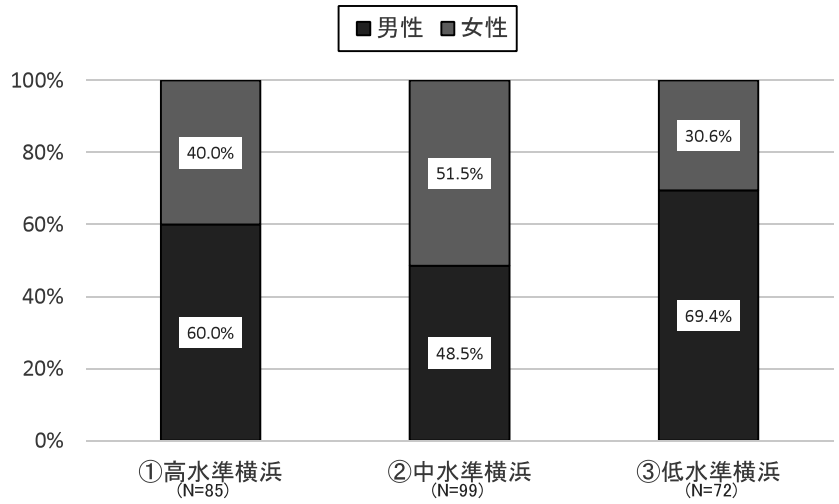


図 85　【中断】基本属性：性別（横浜）



ii. <u>退院時、看取り時、在宅療養中断時の年齢</u>

完遂群と中断群とに分けた各都市群における退院時、看取り時、在宅療養中断時の平均年齢は以下の図の通りである。全国、横浜ともに、完遂群の方が退院時の平均年齢が高い傾向があり、横浜の方がより顕著である。

図 86　【完遂】退院、看取り時の平均年齢（全国）

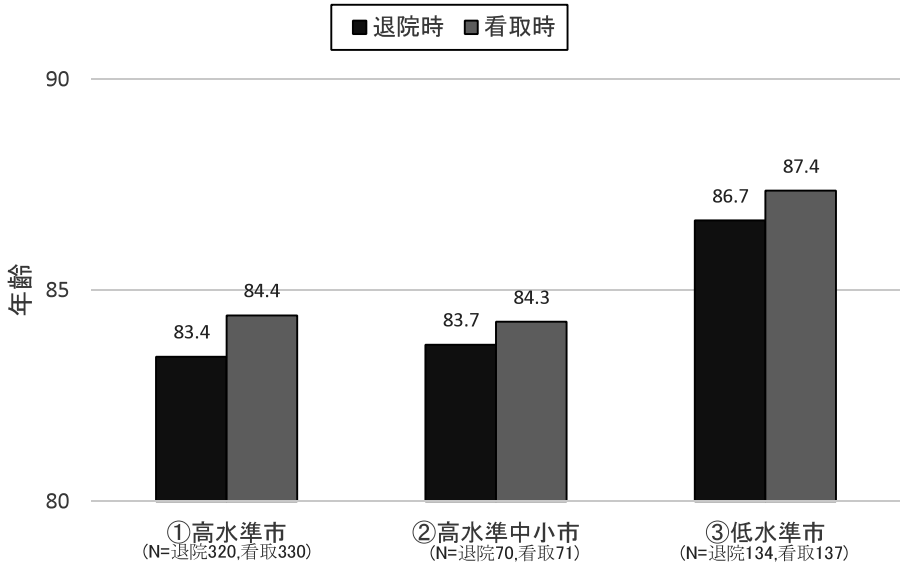


図 87　【中断群】退院時、在宅療養中断時の平均年齢（全国）

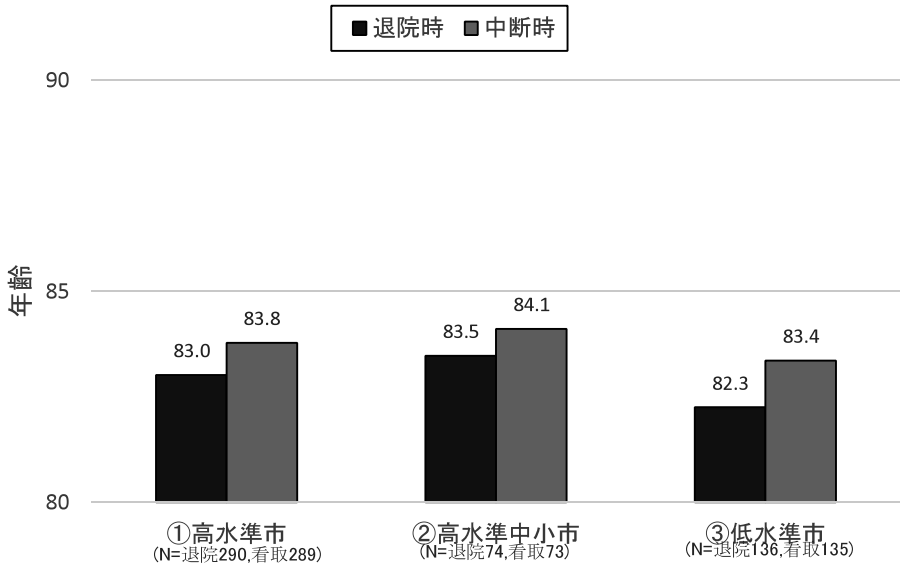


図 88　【完遂群】退院時、看取り時の平均年齢（横浜）

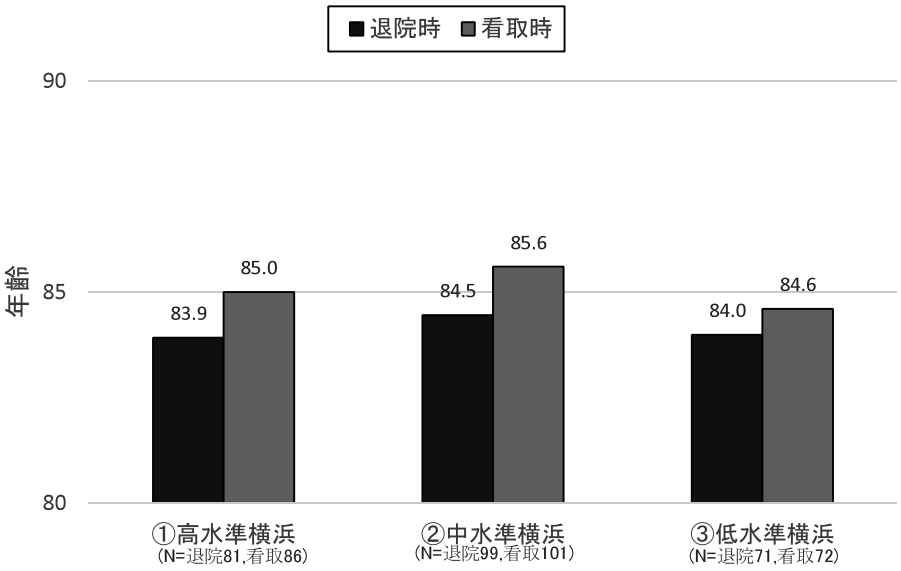
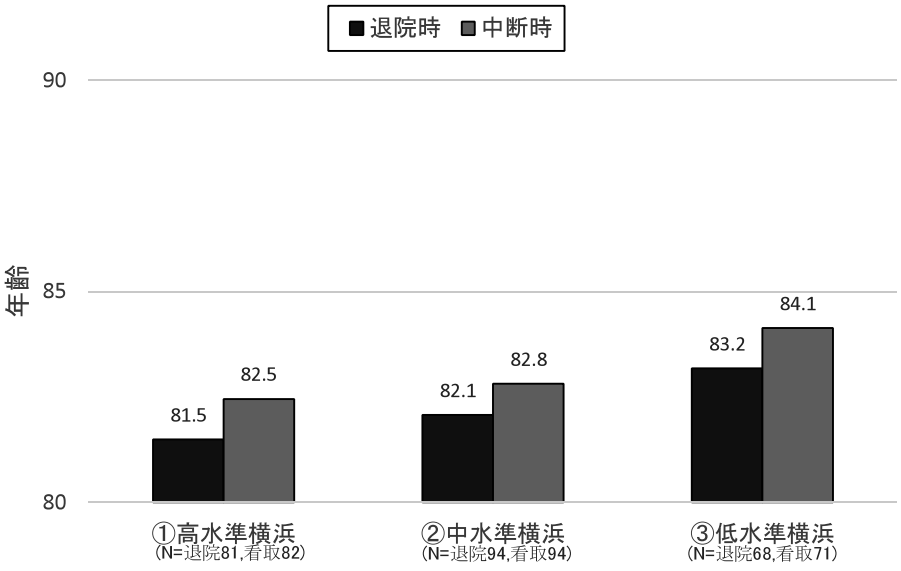


図 89　【中断群】退院時、在宅療養中断時の平均年齢（横浜）



II. 状態像の比較

i. 在宅療養のきっかけとなった主病名、在宅療養開始時に必要だった医療処置

【全国】在宅療養のきっかけとなった主病名は、完遂群で 35.8%、中断群で 34.5%と悪性新生物の割合が高く、呼吸器系疾患、循環器系疾患とは差が開いている。在宅療養開始時に必要だった医療処置では、疼痛管理を挙げた回答が完遂群で 36.8%、中断群で 37.0%と最も多かった。リハビリでは完遂群が 14.2%、中断群で 21.0%となり、中断群が完遂群を 6.8 ポイント上回った。

図 90　在宅療養のきっかけとなった上位 3 つの主病名（全国）
（N=完遂群 551，中断群=522）

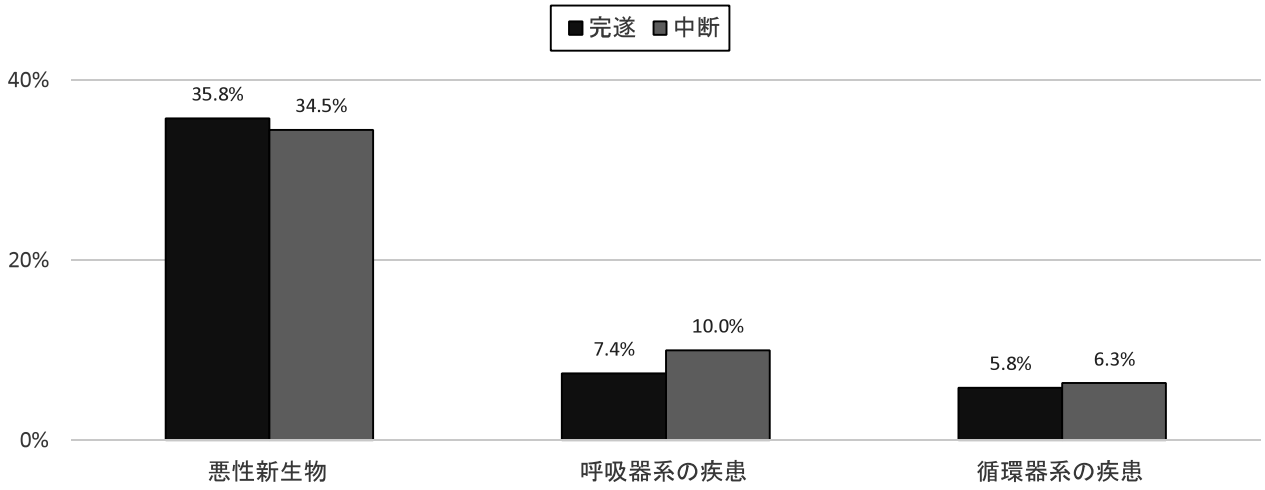
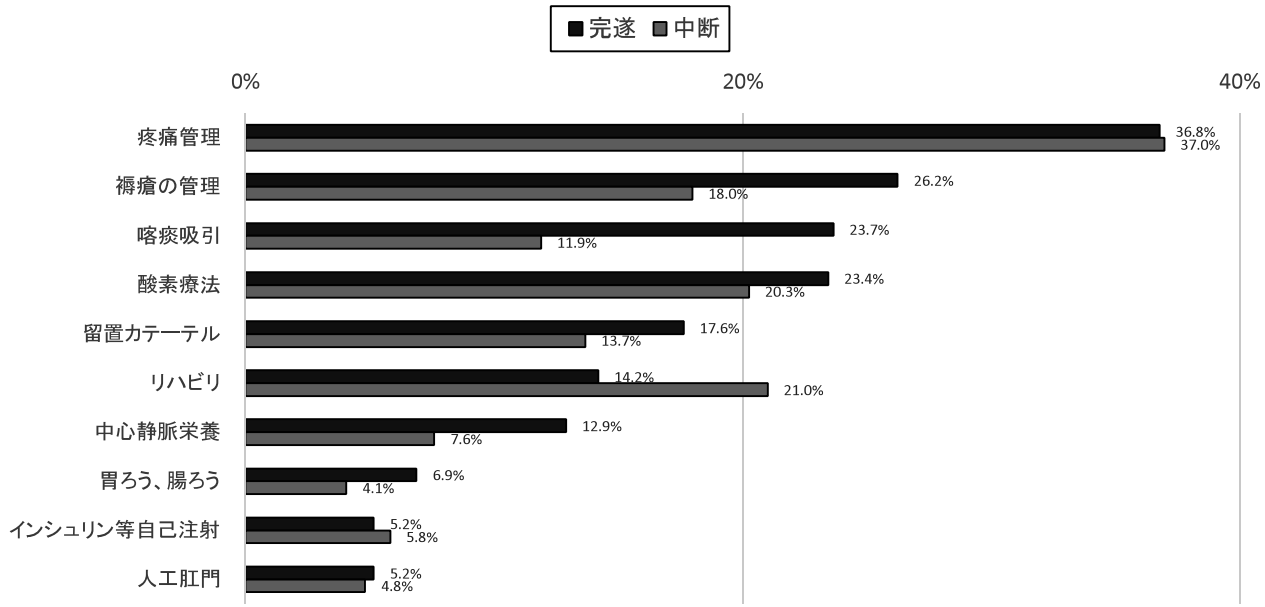


図 91　在宅療養開始時に必要だった上位 10 種類の医療処置（複数回答）（全国）
（N=完遂群 465，中断群=395）



【横浜】横浜市においても、全国と同様の傾向が見られることから、在宅療養開始時の本人の状態では完遂と中断を分ける要因に大きな地域差があまりないと言える。

図 92　在宅療養のきっかけとなった上位 3 つの主病名（横浜）
（N=完遂群 261，中断群=256）

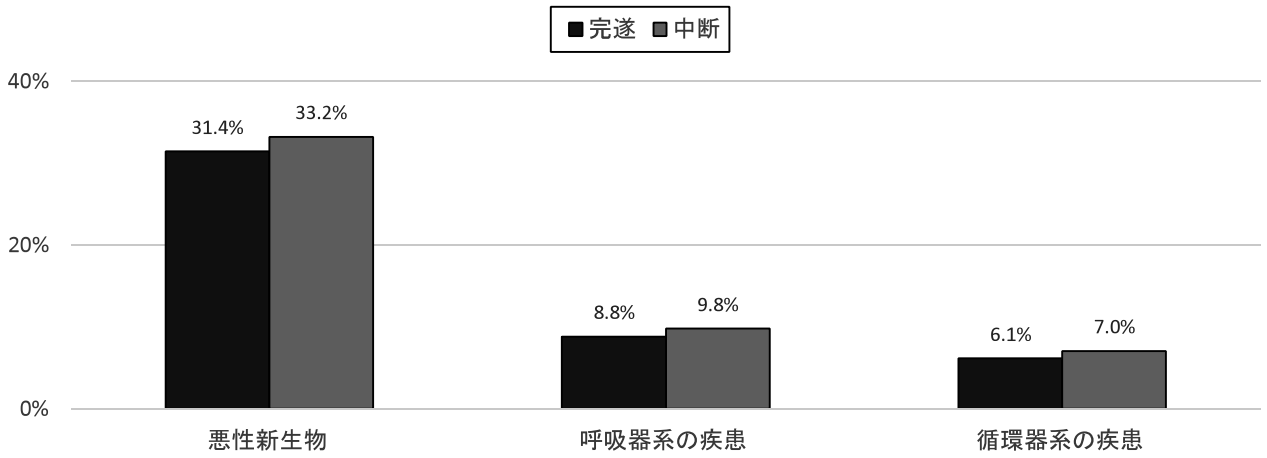
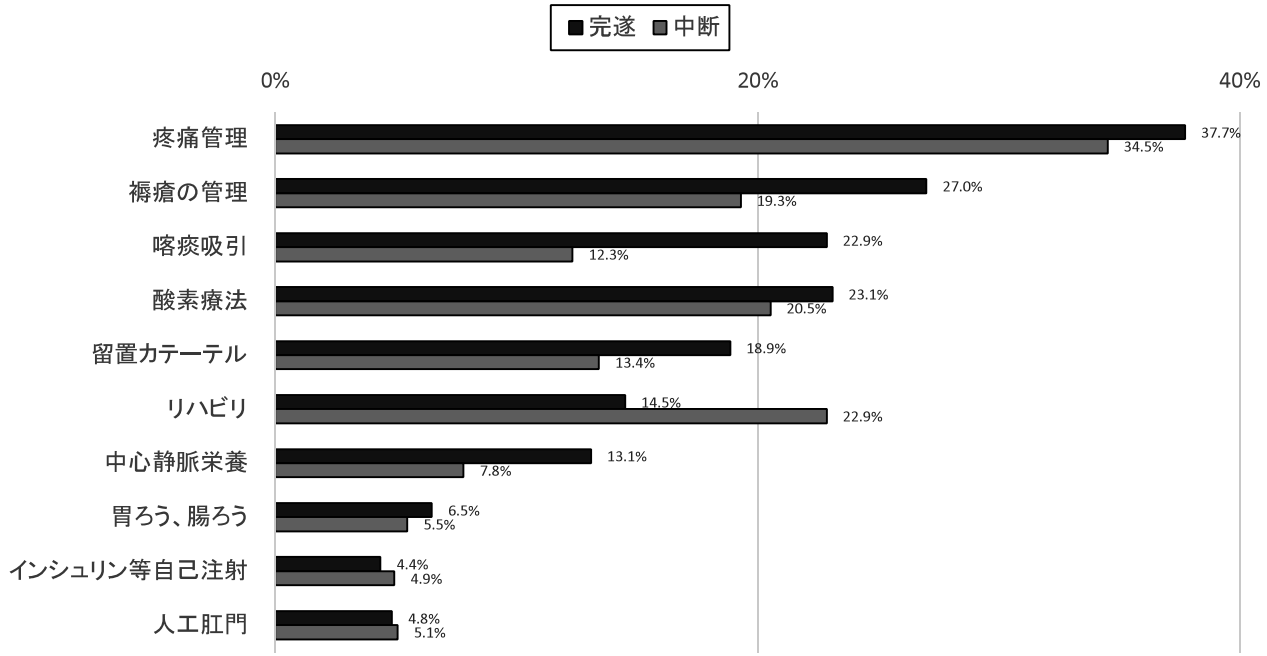


図 93　在宅療養開始時に必要だった上位 10 種類の医療処置（横浜）
（N=完遂群 224，中断群=193）



ii. <u>在宅療養開始時の介護度、ADL（全介助）</u>

【全国】在宅療養開始時の介護度について見てみると、要介護度 4･5 の割合が完遂群では 51.9%、中断群では 37.2%であり、完遂群と中断群では状態の重さに差があることが分かる。また在宅療養開始時の ADL においても同様の傾向が見られる。全介助の割合は、移動、食事、排泄、入浴、着替えのいずれにおいても、完遂群の方が多く、中断群に 18～25 ポイントの差をつけている。このことからも完遂群の方がより状態が悪い状態で在宅療養を開始していると言える。

図 94　在宅療養開始時の介護度 4･5 の割合（全国）
（N=完遂群 534, 中断群=514）

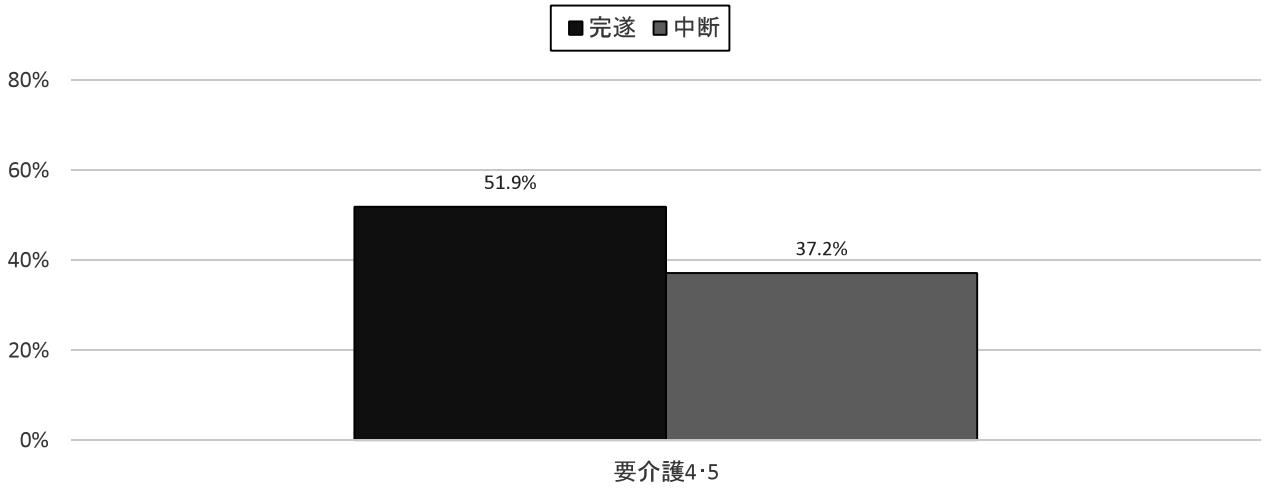
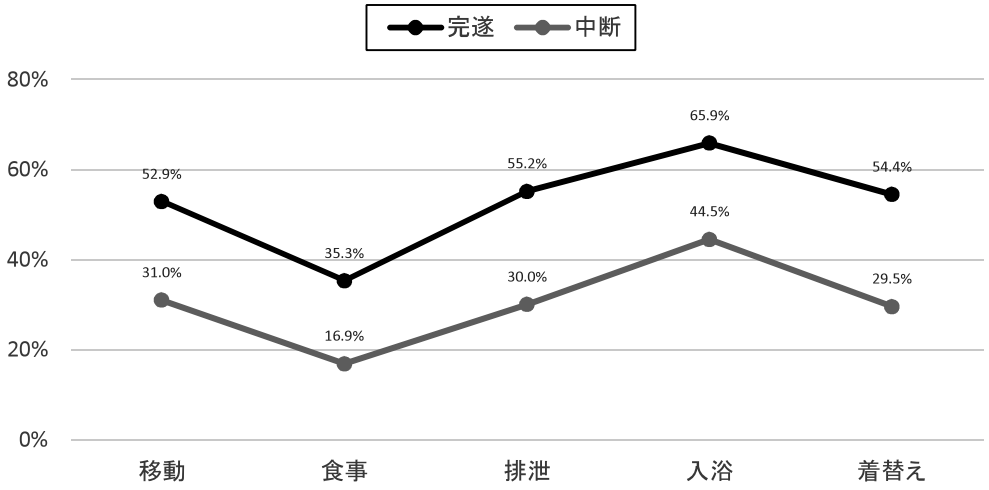


図 95　在宅療養開始時の ADL 全介助の割合（全国）
（N=完遂群：移動 554,食事 553,排泄 553,入浴 551,着替 555）
（N=中断群：移動 554,食事 526,排泄 527,入浴 526,着替 528）



【横浜】横浜市においても、全国と同様の傾向が見られることから、在宅療養開始時の本人の状態では完遂と中断を分ける要因に大きな地域差があまりないと言える。

図 96　在宅療養開始時の介護度（横浜）
（N=完遂群 255，中断群=254）

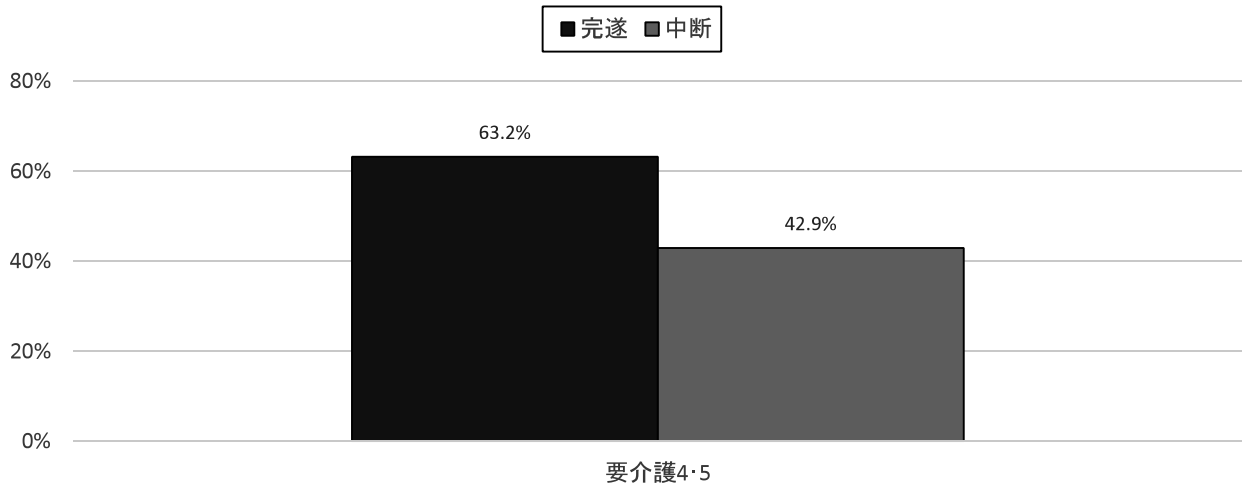
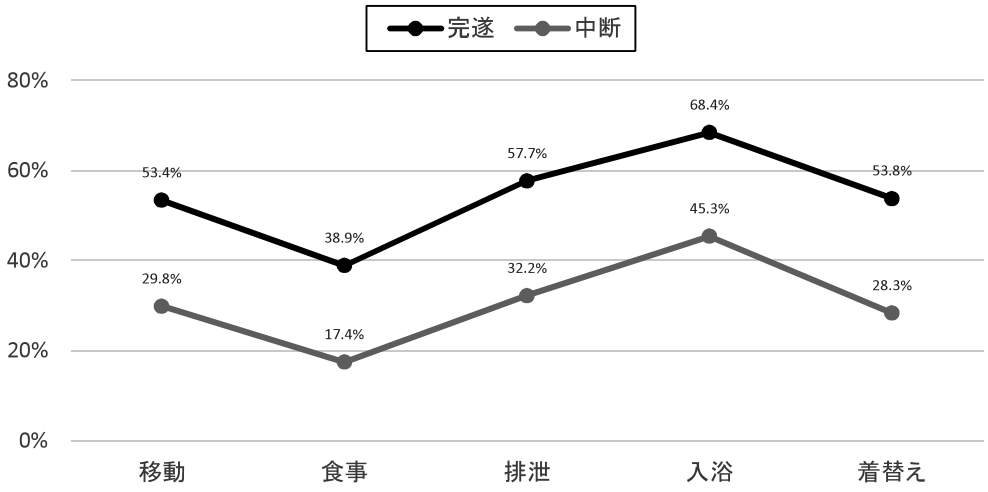


図 97　在宅療養開始時の ADL 全介助の割合（横浜）
（N=完遂群：移動 266,食事 265,排泄 267,入浴 266,着替 266）
（N=中断群：移動 258,食事 258,排泄 258,入浴 258,着替 258）

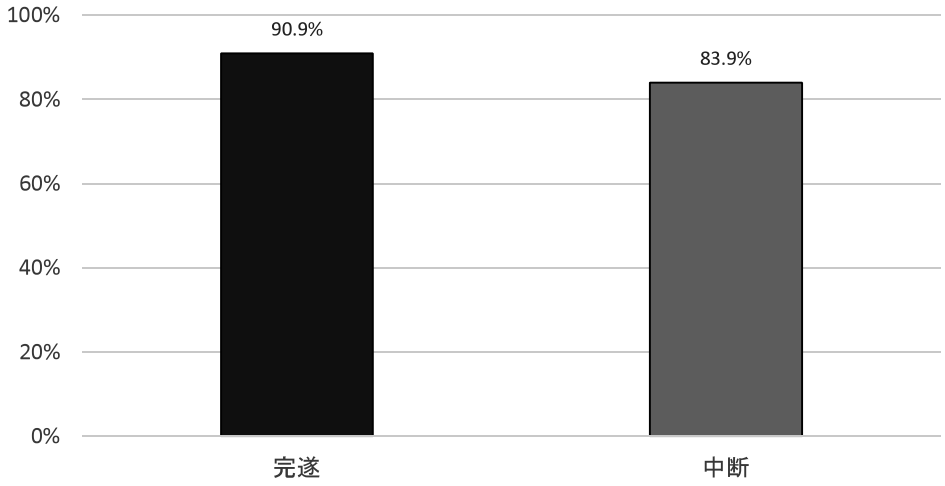


III. 家族状況

i. 同居人の有無

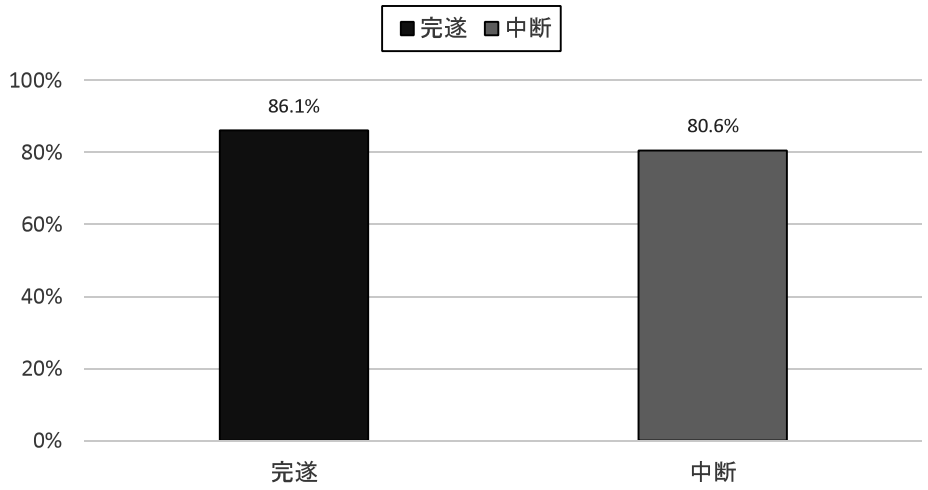
【全国】同居人の有無では、完遂群では 90.9%、中断群では 83.9%に同居人がおり、完遂群の方が同居人がいる場合が多い。

図 98　同居人の有無（全国）
（N=完遂群 559, 中断群=528）



【横浜】横浜市においても、全国と同様の傾向が見られることから、同居人の有無は大きな地域差が見られないと言える。

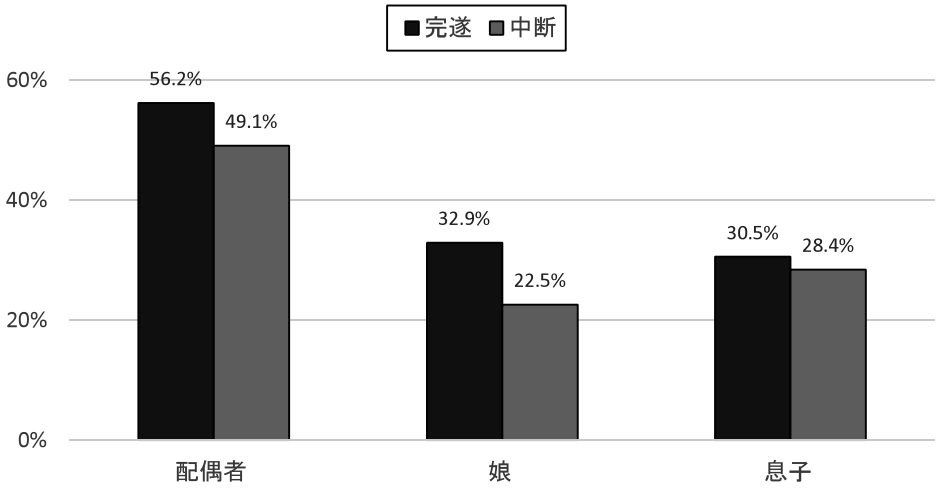
図 99　同居人の有無（横浜）
（N=完遂群 266, 中断群=258）



ii. <u>同居人の種類</u>

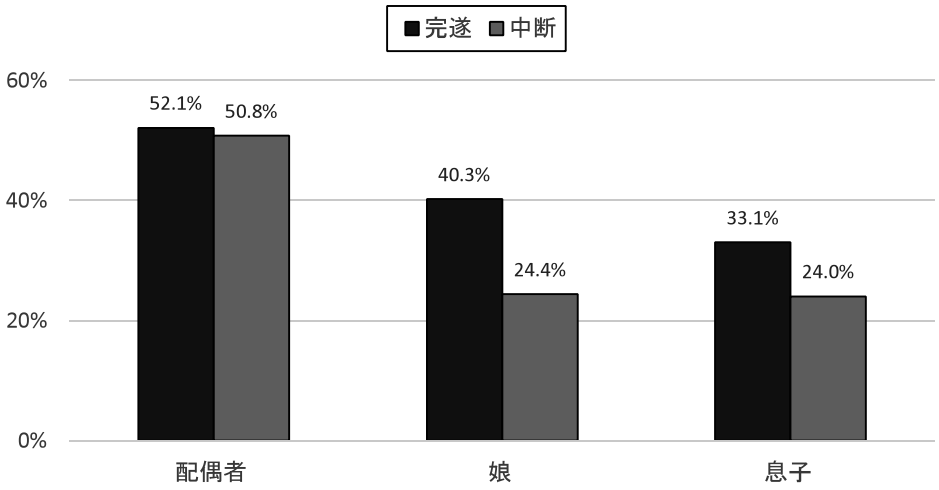
【全国】同居人の種類では、配偶者と同居している割合が最も高く、完遂群では 56.2%、中断群では 49.1%が配偶者と同居している。配偶者のほかには、娘、息子など子が続いている。また、いずれの同居人の種類も完遂群が中断群を上回っている。

図 100　在宅療養開始時の同居人の種類（複数回答）（全国）
（N=完遂群 511, 中断群=528）



【横浜】横浜市においても、全国と同様の傾向が見られることから、同居人の種類には大きな地域差が見られないと言える。

図 101　　在宅療養開始時の同居人の種類（複数回答）（横浜）
（N=完遂群 236, 中断群=258）

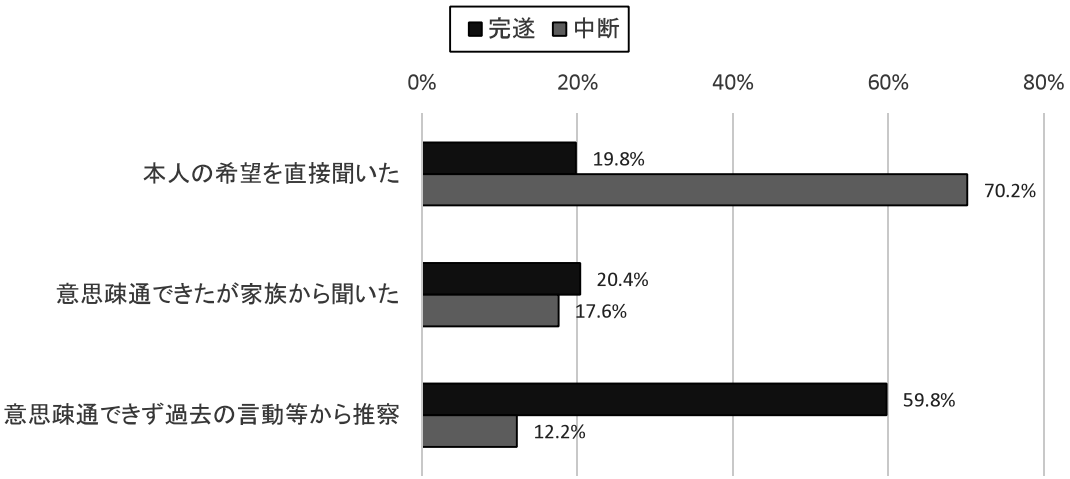


Ⅳ. 本人・家族の意向

i. 在宅療養開始時の本人と医療従事者の意思疎通の状況

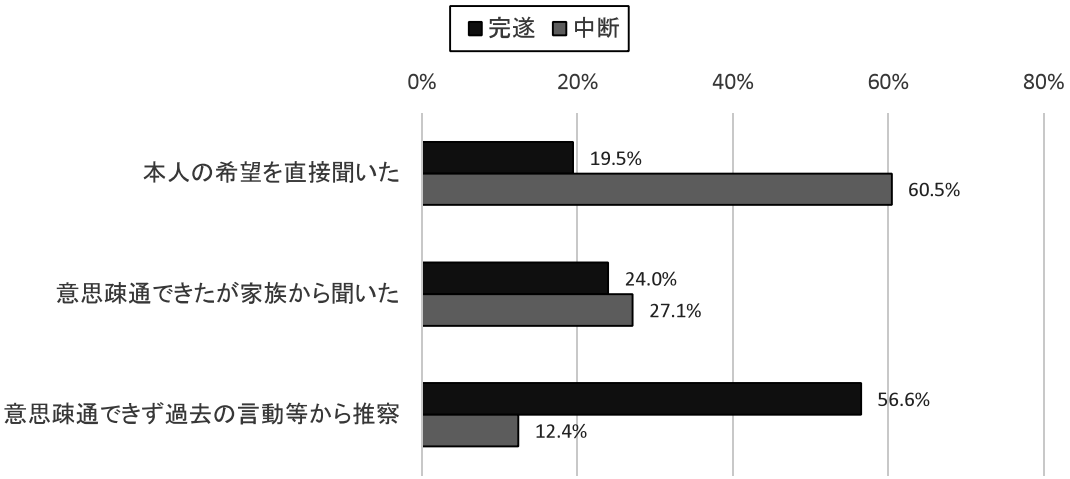
【全国】在宅療養を開始するときに本人と医療従事者の間に意思疎通があったのかどうかについては、完遂群の 19.8%が本人から直接希望を聞いているのに対し、中断群では 70.2%であり、両群の間に約 50 ポイントの差がついている。また意思疎通できない場合では、過去の言動等から推察した割合は完遂群で 59.8%、中断群では 12.2%であり、両群に約 48 ポイントの差がある。完遂群と中断群との間には、本人と医療従事者の意思疎通に大きな差が見られる。

図 102　在宅療養開始時の本人と医療従事者の意思疎通の状況（全国）
（N=完遂群 560, 中断群=523）



【横浜】横浜市においても、全国と同様の傾向が見られることから、本人の意向には大きな地域差が見られないと言える。

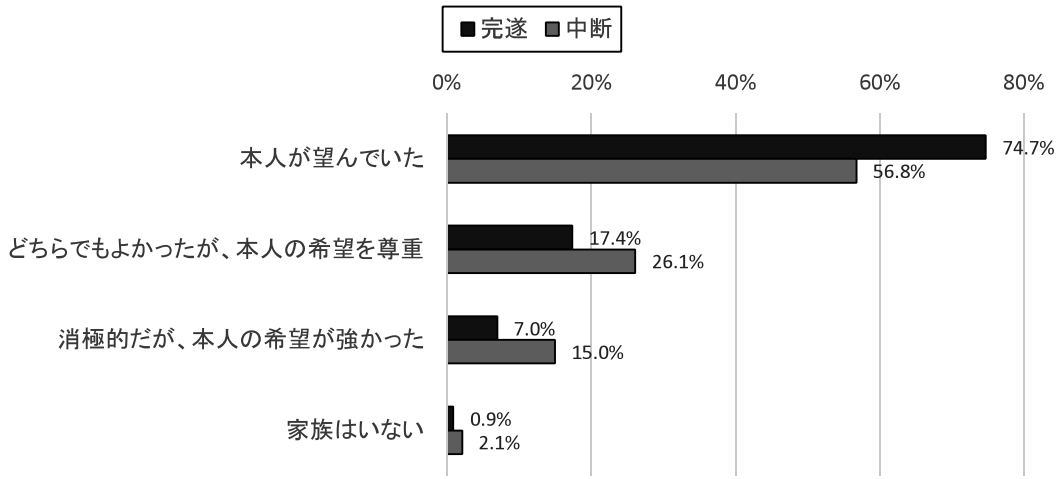
図 103　在宅療養開始時の本人と医療従事者の意思疎通の状況（横浜）
（N=完遂群 267, 中断群=258）



ii. <u>在宅療養開始時の本人・家族の意向</u>

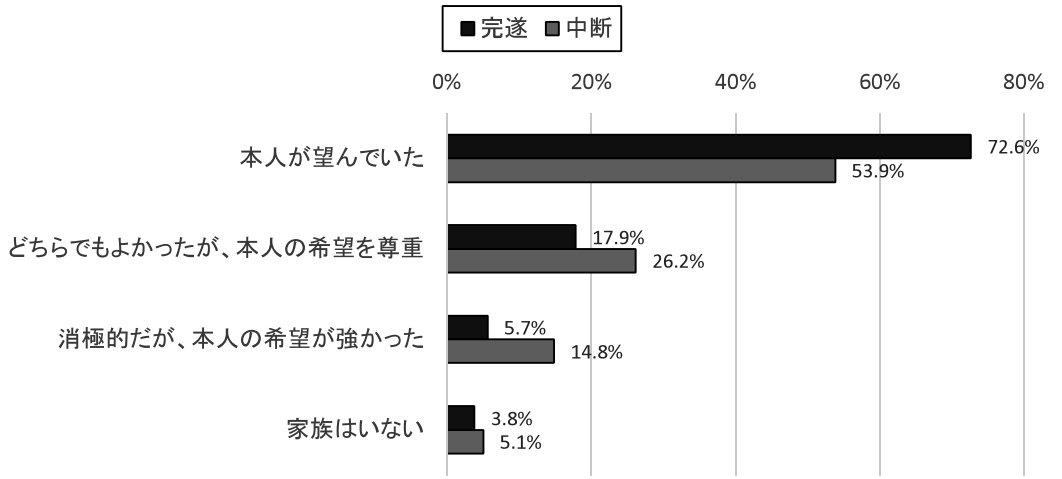
【全国】在宅療養を開始時の本人・家族の意向では、本人が望んでいたために在宅療養を始めた場合が完遂群では 74.7%、中断群では 56.8%であり、両群に約 18 ポイントの差があり、完遂群では本人が望んでいたために家族がその意向を汲み、在宅療養開始する傾向があると言える。一方、どちらでもよかったが本人の希望を尊重が完遂群では 17.4%、中断群では 26.1%、また、消極的だが本人の希望が強かったでは、完遂群が 7.0%、中断群で 15.0%であり、中断群の方が、家族は消極的なのに本人の希望を汲んで在宅療養を開始する傾向が強いと言える。

図 104　在宅療養開始時の家族の意向（全国）
（N=完遂群 558, 中断群=521）



【横浜】横浜市においても、全国と同様の傾向が見られることから、本人・家族の意向には大きな地域差が見られないと言える。

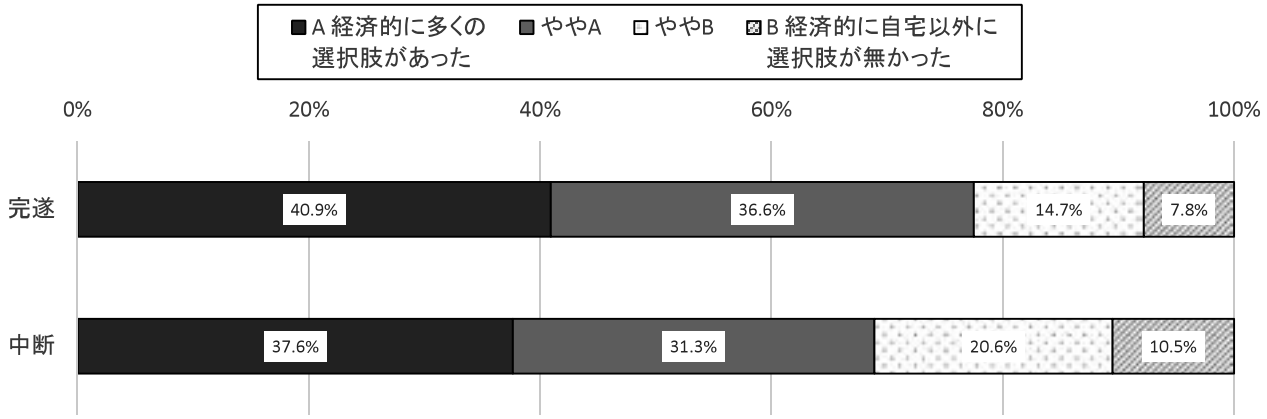
図 105　在宅療養開始時の家族の意向（横浜）
（N=完遂群 263, 中断群=256）



V. 経済状況

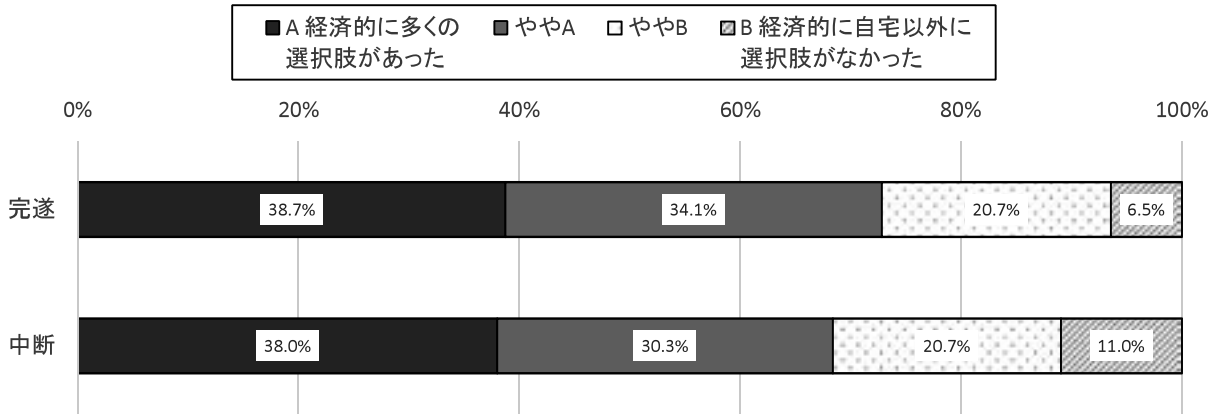
【全国】自宅復帰時の経済状況と自宅復帰の関係性については、完遂群では経済的に多くの選択肢がある中からあえて在宅療養を選択している割合が高く、それに対して中断群では経済的に自宅以外の選択肢がなかったという割合がやや高いことが分かる。

図 106　自宅復帰の希望と経済力の関係（全国）
（N=完遂群 464, 中断群=466）



【横浜】横浜市においても、全国と同様の傾向が見られることから、自宅復帰の希望と経済力の関係には大きな地域差が見られないと言える。

図 107　自宅復帰の希望と経済力の関係（横浜）
（N=完遂群 217 中断群=237）

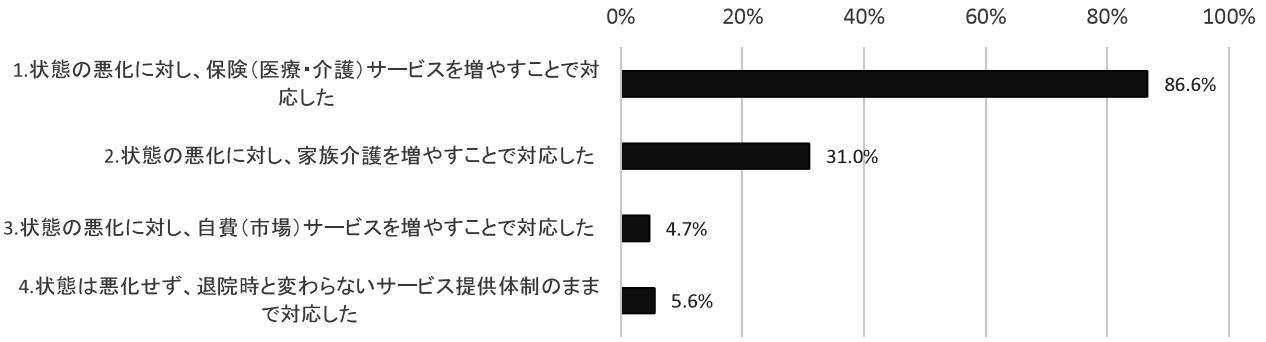


Ⅵ. サービス利用状況

i. 状態の推移に伴う介護サービスの提供量の変化

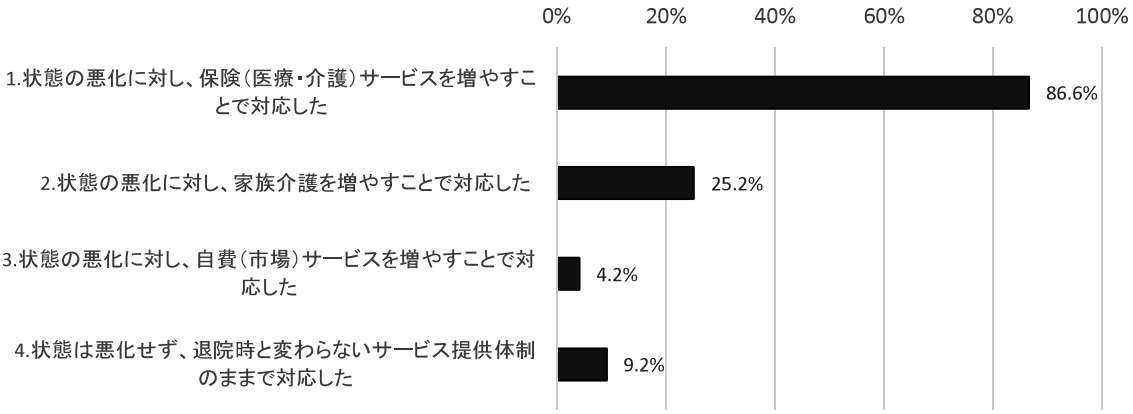
【全国】完遂群のみを対象にした、状態の推移に伴う介護サービスの提供量の変化についての質問では、保険サービスを増やすことで対応した場合が 86.6%、家族介護を増やした割合が 31.0%、自費サービスを増やして対応した割合が 4.7%であった。保険などの補助ないし家族介護のように金銭的な負担が低いサービスの提供量を増やして状況に対応したと言える。また、退院時と変わらないサービス提供体制のまま対応した割合は 5.6%であり、多くの場合で何かしらのサービスを増やす必要が生じてくると言える。

図 108　状態の推移に伴う介護サービスの提供量の変化への対応方法（全国）（複数回答）（N=554）



【横浜】横浜市においても、全国と同様の傾向が見られることから、状態の推移に伴う介護サービスの提供量の変化では、大きな地域差が見られないと言える。

図 109　状態の推移に伴う介護サービスの提供量の変化への対応方法（横浜）（複数回答）（N=262）

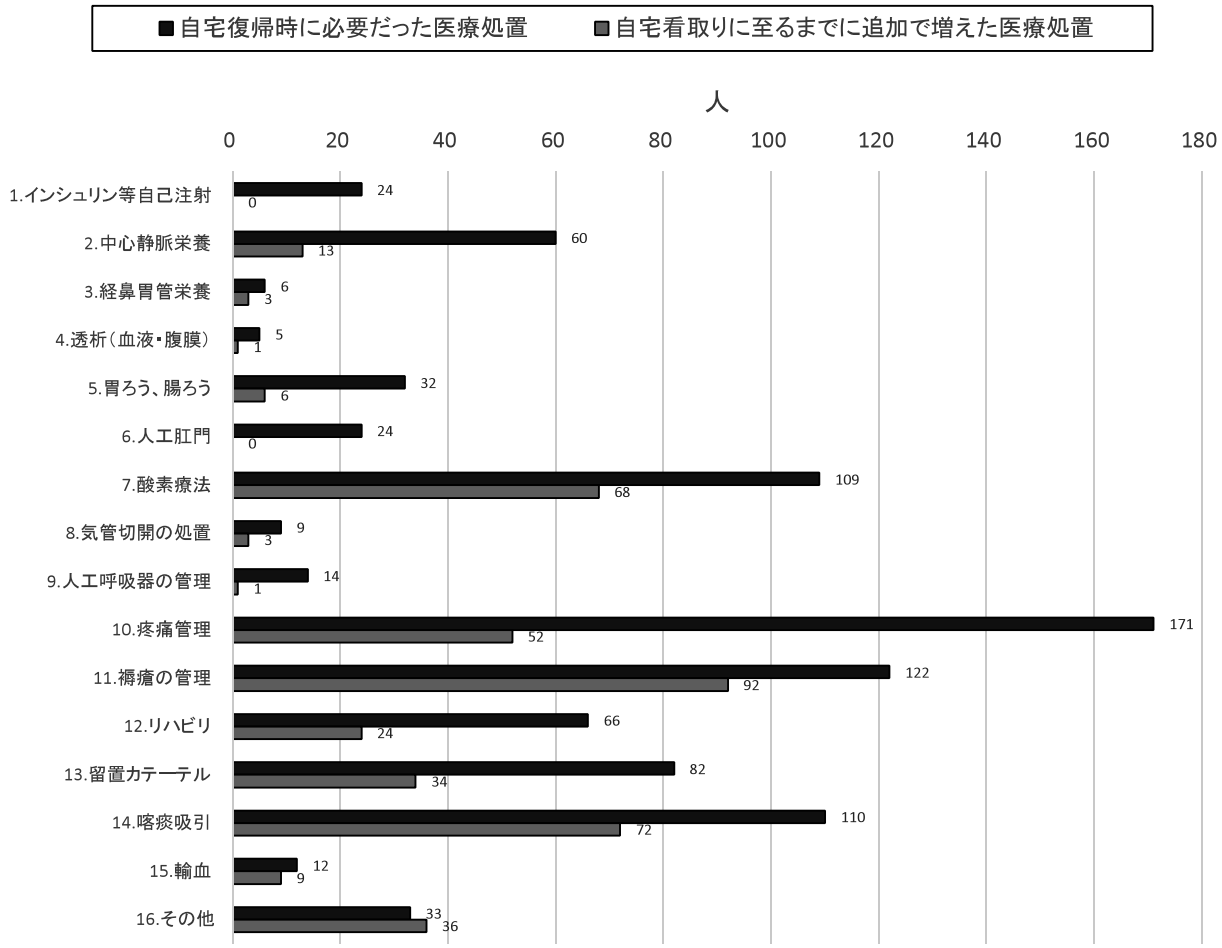


ii. 【完遂群】自宅復帰時に必要だった医療処置と、その後追加で増えた医療処置

【全国】特に全国の完遂群を対象にして以下の分析を行った。自宅復帰時に必要だった医療処置と追加で増えた医療処置について、まず自宅復帰時に必要だった医療処置では、疼痛管理、褥瘡の管理、喀痰吸引、酸素療法が多く見られる一方で、経鼻胃管栄養、透析、気管切開の処置などはわずかしか見られない。

自宅看取りに至るまでに追加で増えた医療処置では、褥瘡の管理、喀痰吸引、酸素療法が多く見られる一方で、インシュリン自己注射や人工肛門は見られなかった。

図 110 【完遂群】自宅復帰時に必要だった医療処置、追加で増えた医療処置（複数回答）（全国）（N=465）

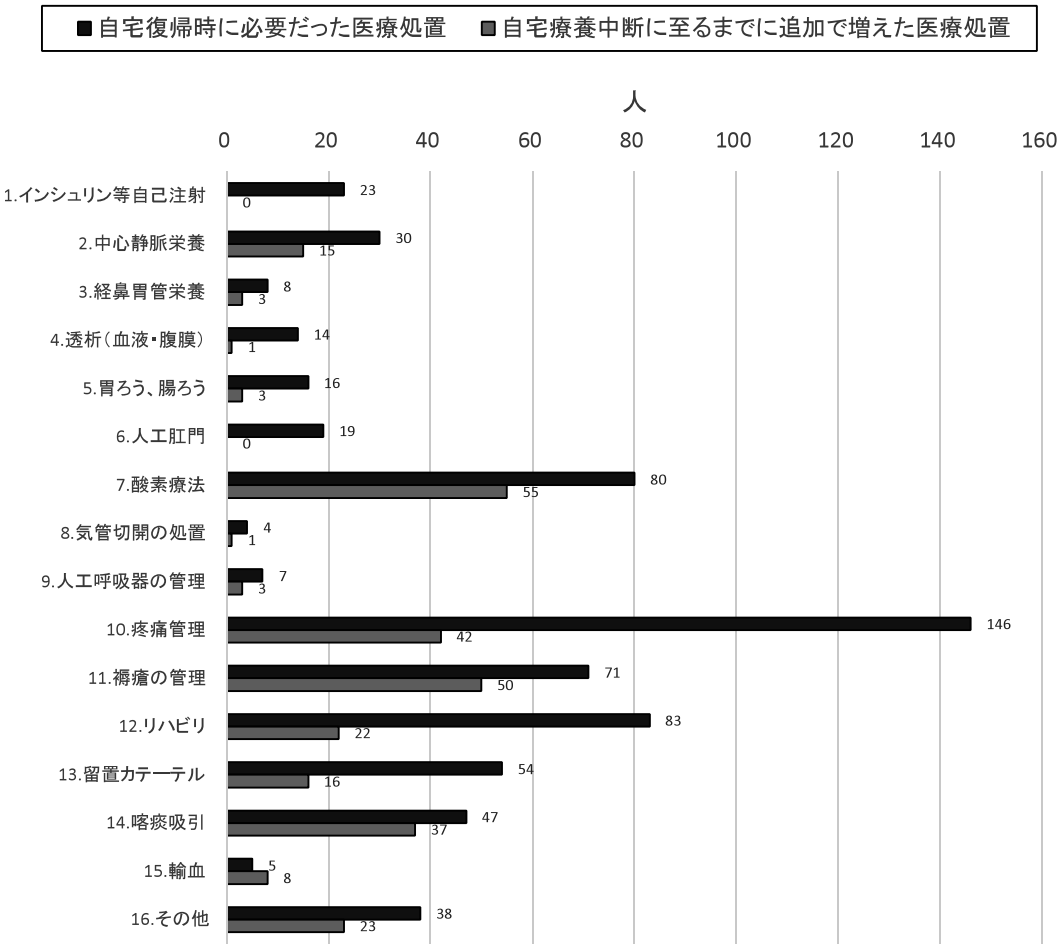


iii. **【中断群】自宅復帰時に必要だった医療処置と、その後追加で増えた医療処置**

【全国】特に全国の中断群を対象にして以下の分析を行った。中断群を対象にした医療処置では、自宅復帰時に必要だった医療処理は、疼痛管理、リハビリ、酸素療法が多く見られ、その一方で気管切開の処置、輸血はあまり見られなかった。完遂群と比較すると疼痛管理の比率が大きいことが目立つ。

在宅療養中断に至るまでに追加で増えた医療処置は、酸素療法、褥瘡の管理、疼痛の管理が多い一方で、インシュリン自己注射、人工肛門は見られなかった。

図 111　【中断群】自宅復帰時に必要だった医療処置、追加で増えた医療処置（複数回答）（全国）（N=395）



VII. 看取りをめぐる想定

i. 在宅療養開始時に、看取りや療養中の入院を想定していたかどうか

【全国】在宅療養開始時に自宅看取りを想定していたかどうかでは、完遂群で 37.9%、中断群では 10.2%が在宅療養開始時に看取りまで想定、一方想定していなかった比率は、完遂群でそれぞれ 14.5%、42.4%であり、完遂群は在宅療養開始時から自宅看取りまで視野に入れていたのに対して、中断群ではそうした想定をしてない傾向が見られる。

また、在宅療養開始時に入院することをあらかじめ決めていたかどうかでは、入院しないと決めていたのは完遂群の 33.1%、中断群の 7.9%、反対に必要に応じて入院するとしていたのは、完遂群で 19.3%、中断群で 61.8%であった。完遂群では入院しないと決める傾向が強く、対照的に中断群では必要に応じて入院する選択肢を残す傾向が強いと言える。

図 112　在宅療養開始時に看取りまで想定していたか（全国）
（N=完遂群 470 中断群=472）

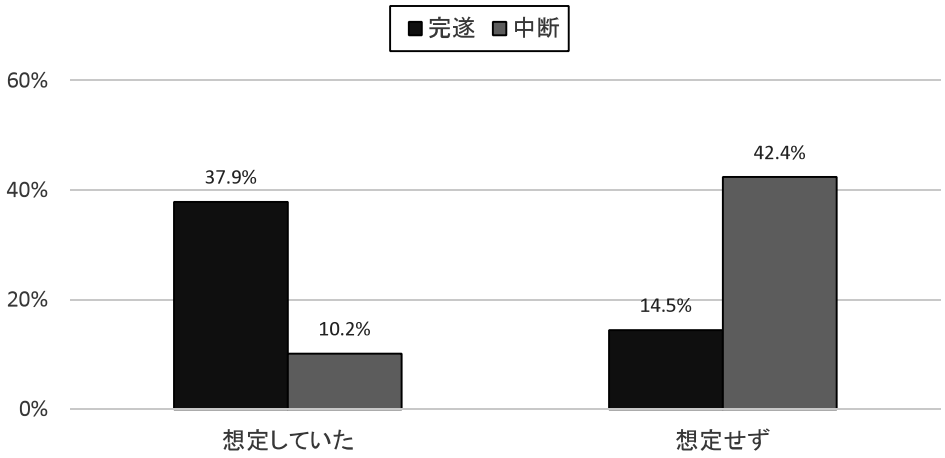
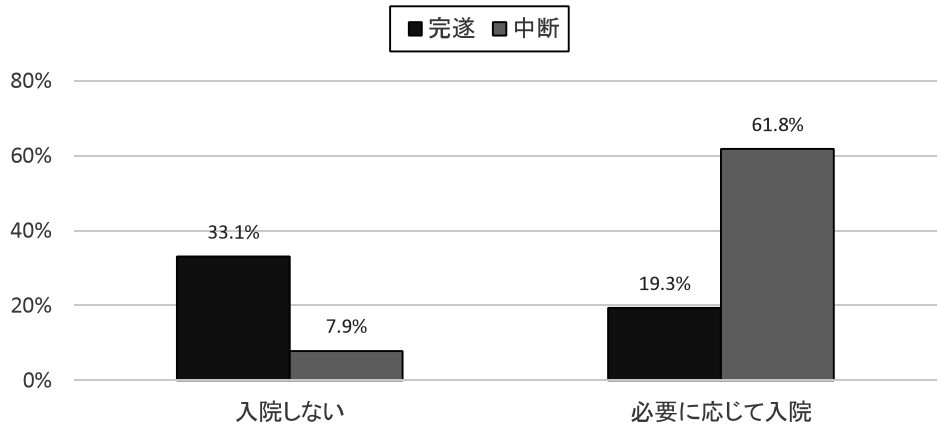


図 113　在宅療養開始時に在宅療養中に入院するか決めていたか（全国）
（N=完遂群 502 中断群=484）



【横浜】横浜市においても、全国と同様の傾向が見られることから、大きな地域差が見られないと言える。

図 114　在宅療養開始時に看取りまで想定していたか（横浜）
（N=完遂群 220 中断群=237）

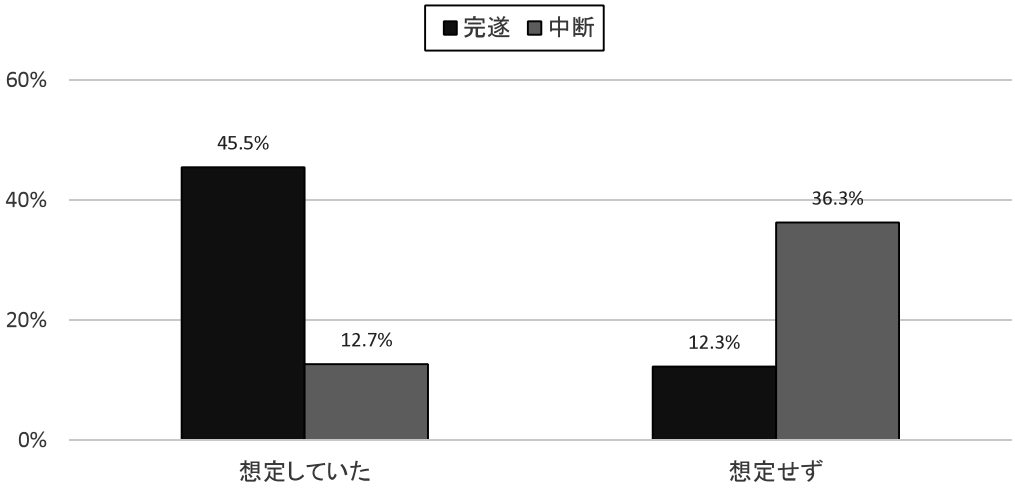
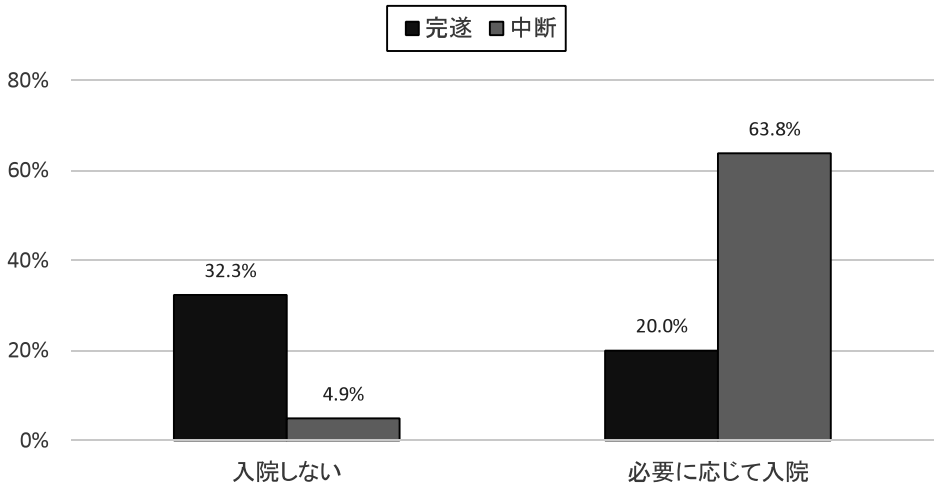


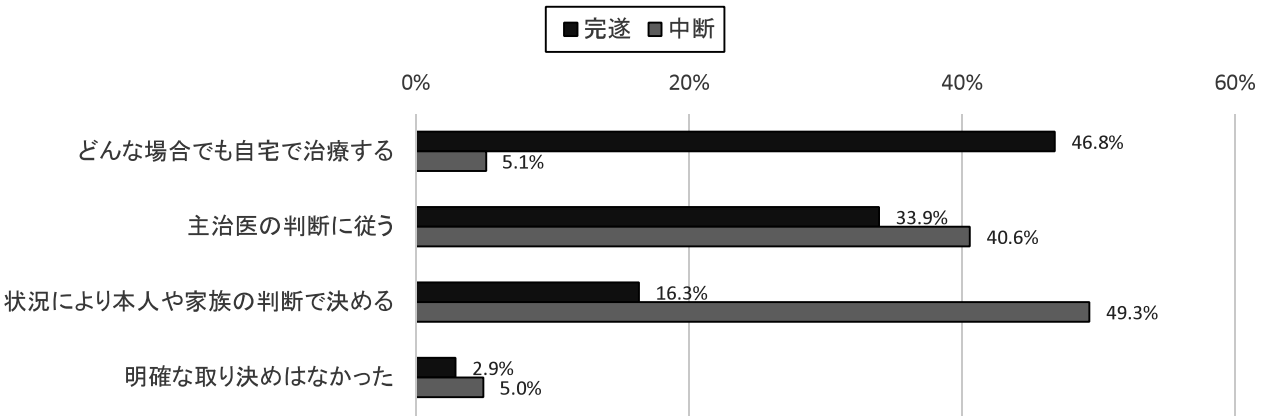
図 115　在宅療養開始時に在宅療養中に入院するか決めていたか（横浜）
（N=完遂 235 中断群=246）



ii. <u>緊急搬送が必要になった時の取り決め</u>

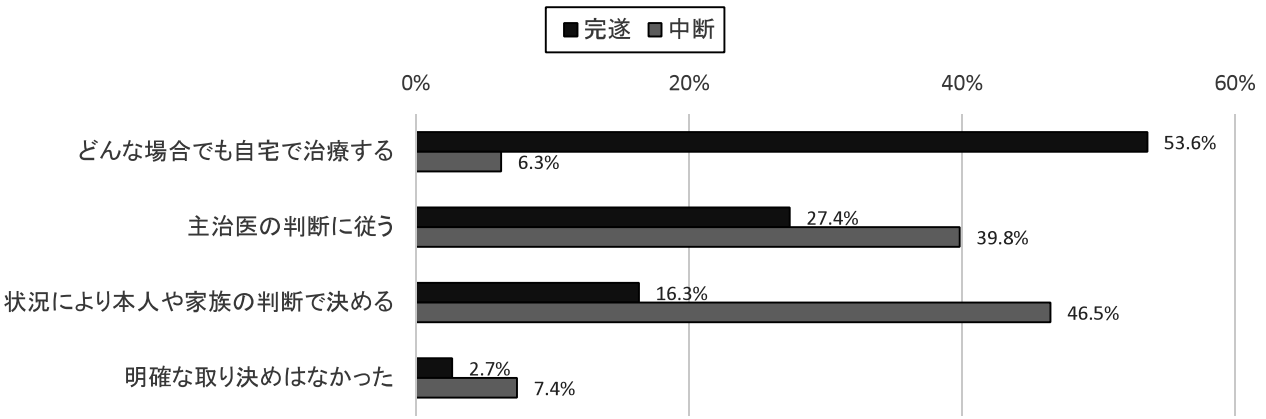
【全国】緊急搬送が必要になった時の取り決めでは、どんな場合でも自宅で治療するのが完遂群では 46.8%、中断群では 5.1%、状況により本人や家族の判断で決めるのが完遂群で 16.3%、中断群で 49.3%。完遂群は在宅療養を続けることに強いこだわりがあり、反対に中断群では状況に応じて在宅療養を終えるつもりであったと言える。

図 116　緊急搬送が必要になった時の取り決め（全国）
（N=完遂群 551 中断群=525）



【横浜】横浜市においても、全国と同様の傾向が見られることから、看取りの緊急搬送が必要になった時の取り決めについては、大きな地域差が見られないと言える。

図 117　緊急搬送が必要になった時の取り決め（横浜）
（N=完遂群 263 中断群=256）



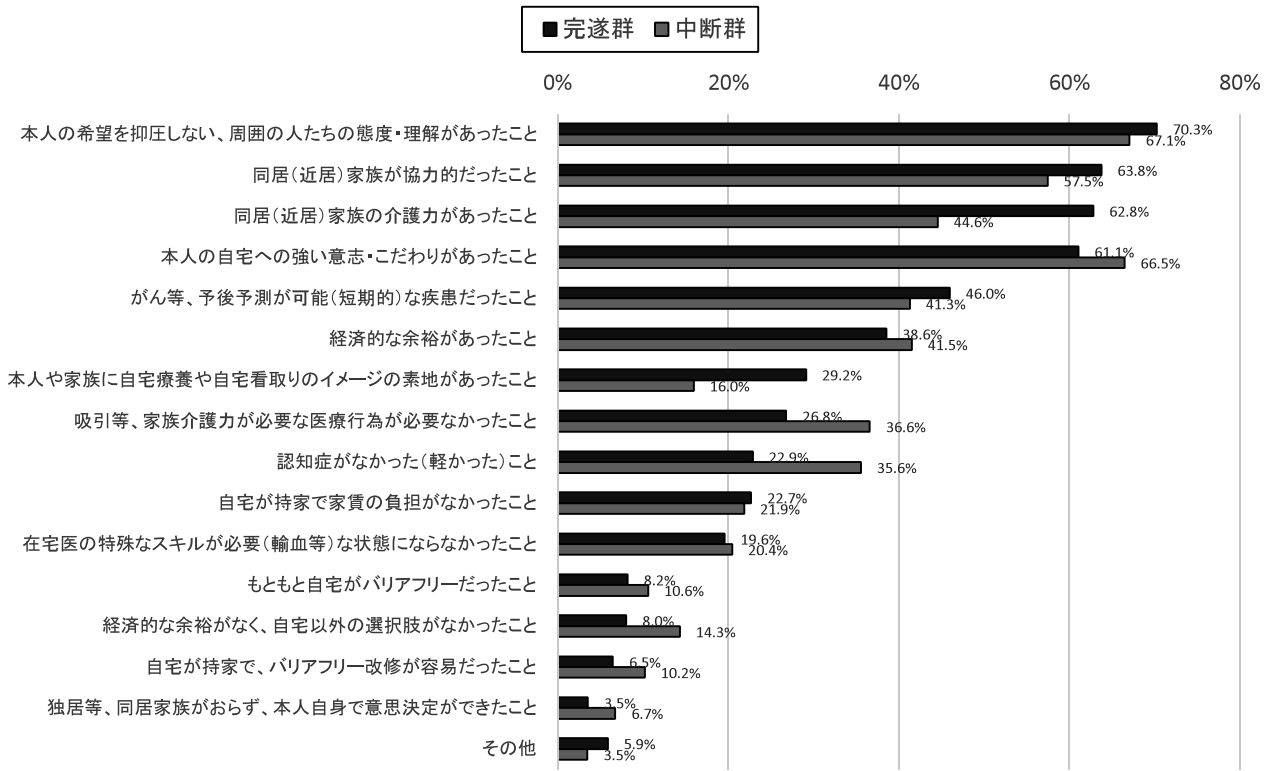
（３） 自宅復帰と療養の中断に至る過程

中断群を対象に、在宅療養を開始できた要因、在宅療養を中断した要因を分析した。

Ⅰ. 在宅療養を開始に寄与した本人・家族の要因

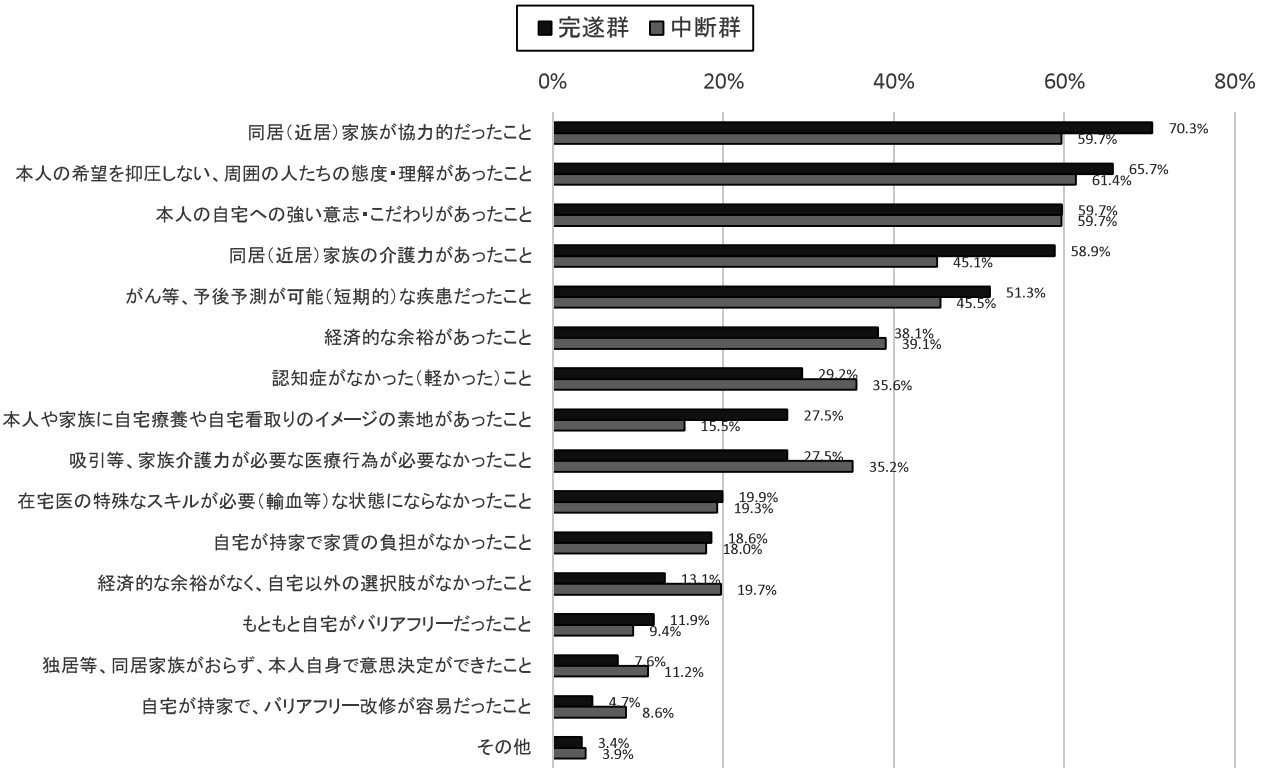
【全国】在宅療養を開始できた本人・家族の要因では、完遂群で、本人の希望を抑圧しない周囲の人たちの態度・理解があったことが 70.3%、同居（近居）の家族が協力的だったことが 63.8%、同居（近居）家族の介護力があったことが 62.8%と高い。中断群と差が見られるのは、同居（近居）の介護力があったことで、18.2 ポイントの差で上回っている。また、吸引等、家族介護力が必要な医療行為が必要なかったことが完遂群 26.8%、中断群 36.6%、認知症がなかった（軽かった）ことが完遂群で 22.9%、中断群で 35.6%と差が開いた。中断群では、状態が軽く必要な医療処置が少ないことが在宅療養開始のきっかけになっていると言える。

図 118　在宅療養開始できたことに寄与した本人・家族の要因（複数回答）（全国）
（N=完遂群 511 中断群=489）



【横浜】横浜市においても、全国と同様の傾向が見られることから、在宅療養開始に寄与した本人･家族の要因では、大きな地域差が見られないと言える。

図 119　在宅療養開始できたことに寄与した本人・家族の要因（複数回答）（横浜）
（N=完遂群 236 中断群=233）

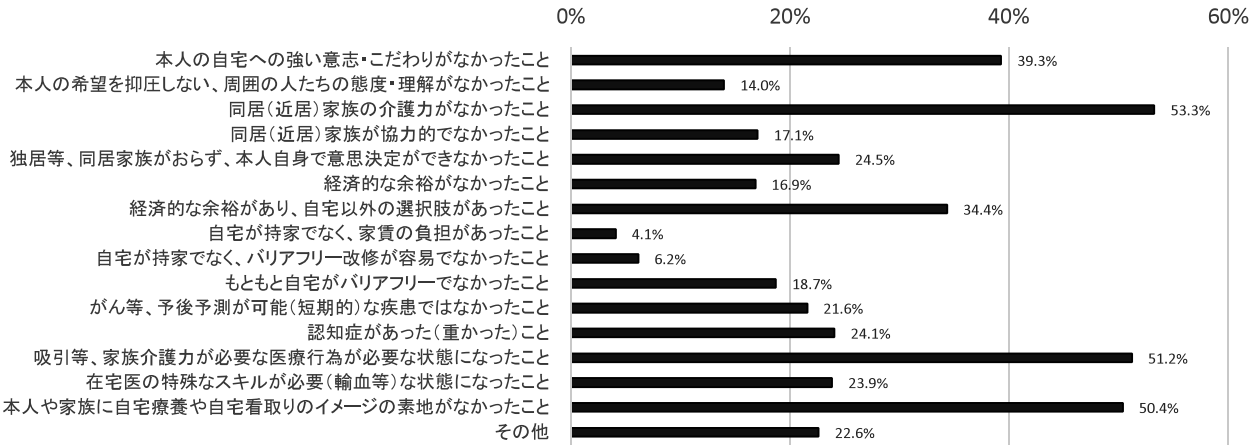


II. 自宅看取りの阻害要因となった本人・家族の要因

【全国】自宅看取りできたことに寄与した本人・家族の要因と、自宅看取りを阻害した要因を比較すると、本人の希望を抑圧しない周囲の人達の態度・理解がなかったこと、同居(近居)家族の介護力がなかったこと、同居（近居）家族が協力的でなかったことで差が見られた。

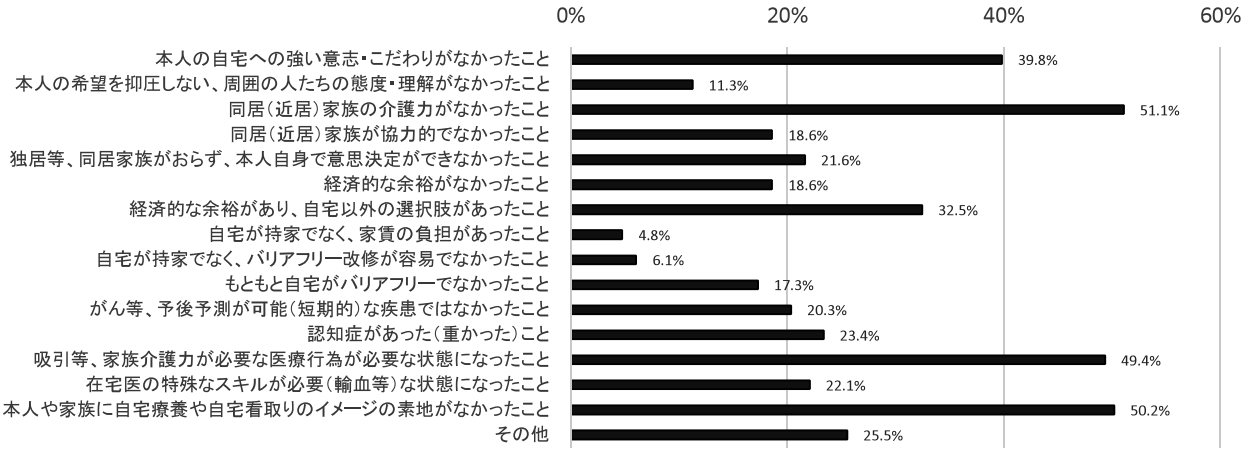
また、吸引等家族介護が必要な医療行為が必要なかったこと、本人や家族に在宅療養や自宅看取りのイメージの素地がなかったことでは、寄与要因・阻害要因で差が見られ、自宅看取りできた場合とそうでない場合では、療養を具体的にイメージできていたかどうかに差があると言える。

図 120　自宅看取りの阻害要因となった本人･家族の上位 5 つの要因（複数回答）（全国）（N=486）



【横浜】横浜市においても、全国と同様の傾向が見られることから、自宅看取りの阻害要因となった本人･家族の要因では、大きな地域差が見られないと言える。

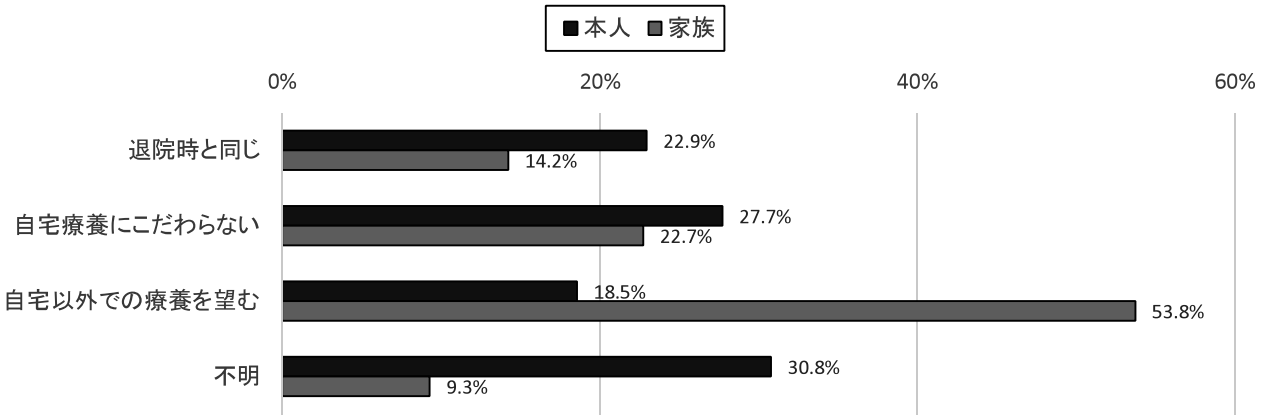
図 121　自宅看取りの阻害要因となった本人･家族の上位 5 つの要因（複数回答）（横浜）（N=231）



III. 在宅療養に対する本人・家族の意識の変化

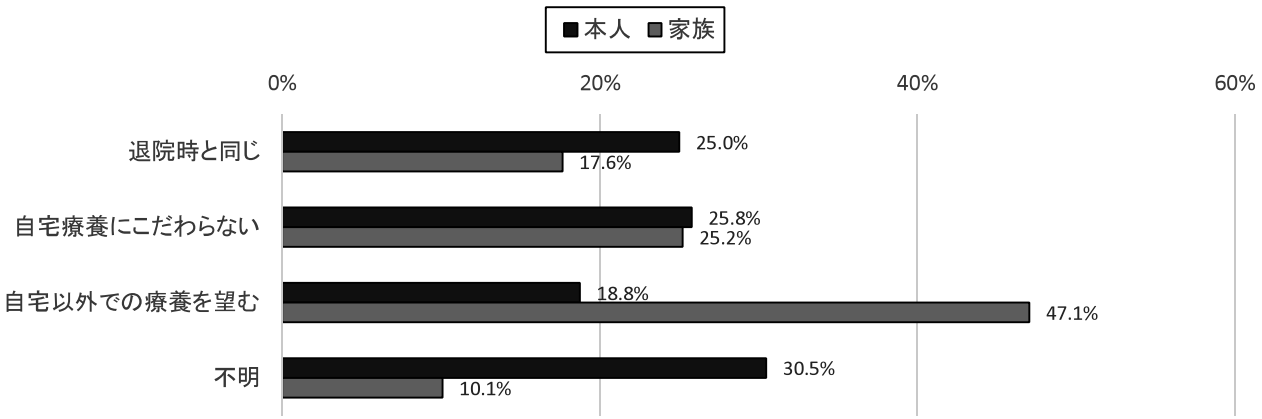
【全国】中断群での在宅療養に対する本人・家族の意識の変化では、本人と家族では自宅以外での療養を望むかどうかで差が見られ、本人の 18.5%、家族の 53.8%が自宅以外の療養を望むようになり、本人よりも家族の方が自宅以外の療養を望むようになったと言える。

図 122 【中断群】在宅療養に対する本人・家族の意識の変化（全国）
（N=本人 523 家族=506）



【横浜】横浜市においても、全国と同様の傾向が見られることから、中断群における、在宅療養中の本人・家族の意識の変化に大きな地域差が見られないと言える。

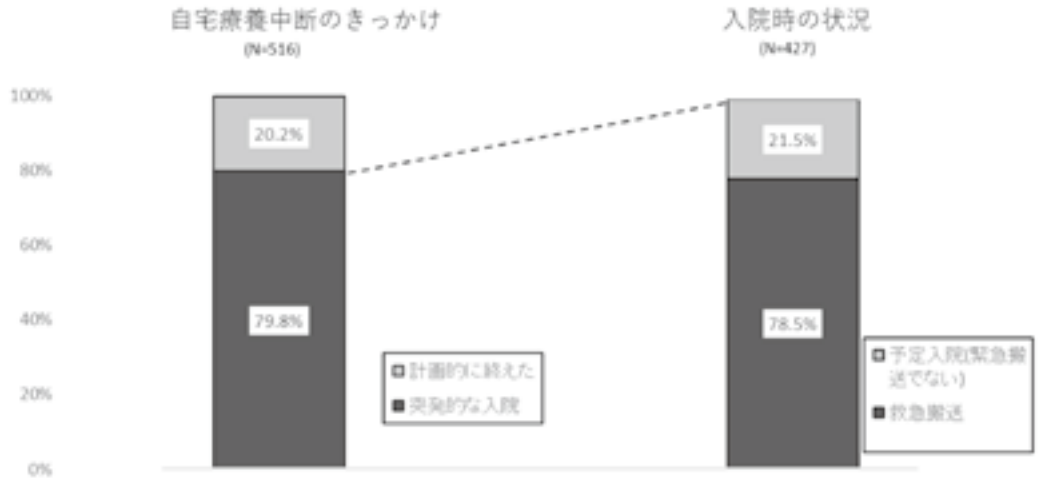
図 123 【中断群】在宅療養に対する本人・家族の意識の変化（横浜）
（N=本人 256 家族=238）



Ⅳ. 在宅療養中断のきっかけ、入院時の状況

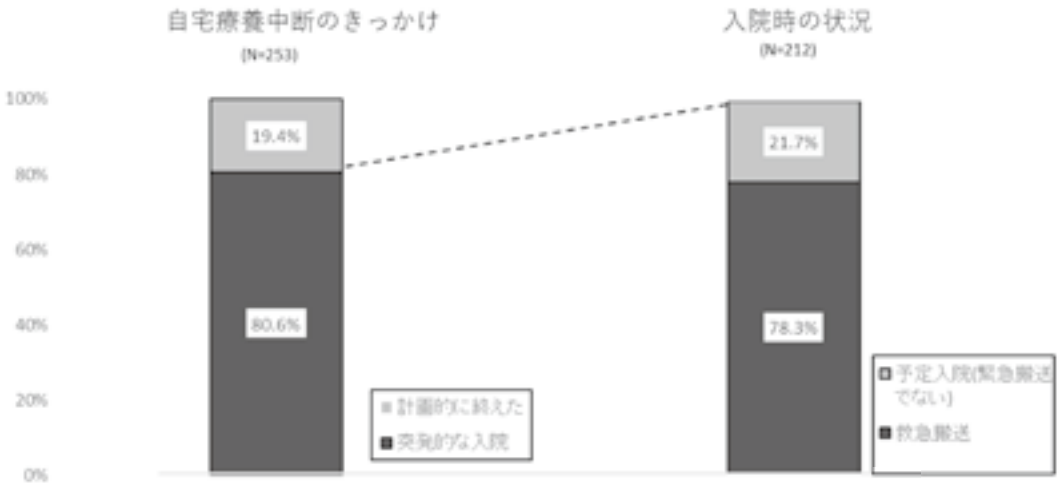
【全国】在宅療養中断のきっかけでは、79.8%が突発的な入院で在宅療養を終えている。突発的な搬送時の状況では78.5%が救急搬送によるものであった。

図 124　【中断】在宅療養中断のきっかけ、入院時の状況（全国）



【横浜】横浜市においても、全国と同様の傾向が見られることから、中断群における在宅療養中断のきっかけ、突発的な搬送時の状況では大きな地域差が見られないと言える。

図 125　在宅療養中断のきっかけ、入院時の状況（横浜）



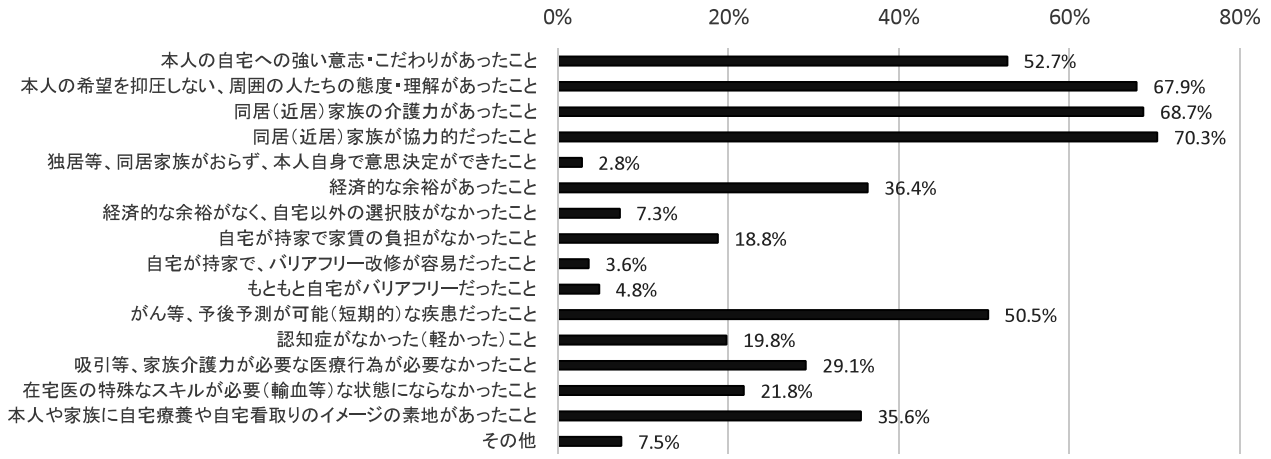
（４） 自宅看取りに至る過程と要因

自宅看取りを完遂した要因を分析した。

Ⅰ. 自宅看取りができたことに寄与した本人・家族の要因

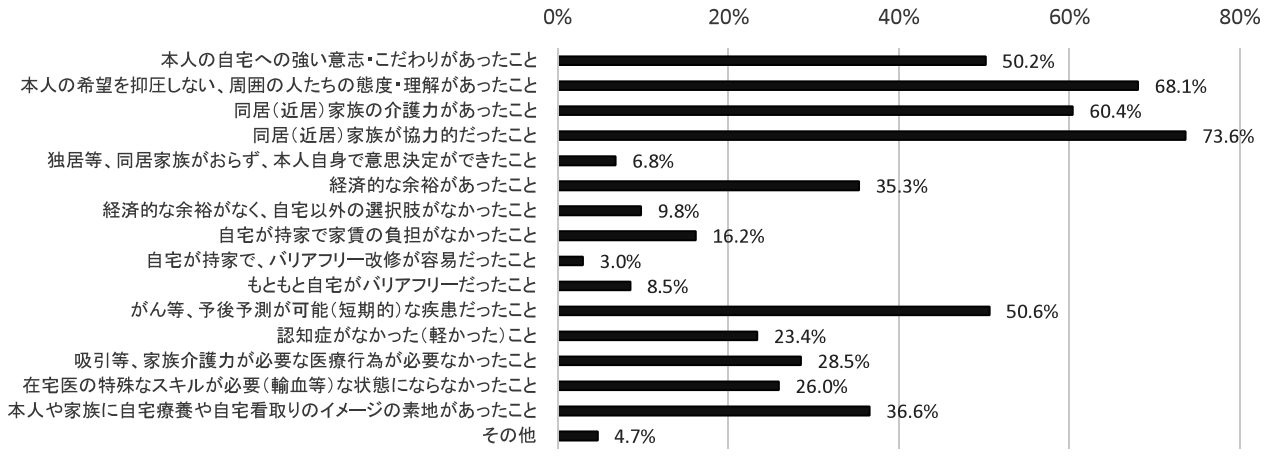
【全国】自宅看取りができたことに寄与した要因では、本人の希望を抑圧しない周囲の人たちの態度・理解があったことが 67.9%、同居（近居）家族の介護力があったことが 68.7%、同居（近居）家族が協力的だったことが 70.3%であり、本人以外の家族や周囲の人たちの理解や介護力が自宅看取りの寄与要因であると言える。

図 126　自宅看取りできたことに寄与した本人・家族の上位 5 つの要因（複数回答）（全国）（N=495）



【横浜】横浜市においても、全国と同様の傾向が見られることから、自宅看取りができたことに寄与した要因には大きな地域差が見られないと言える。

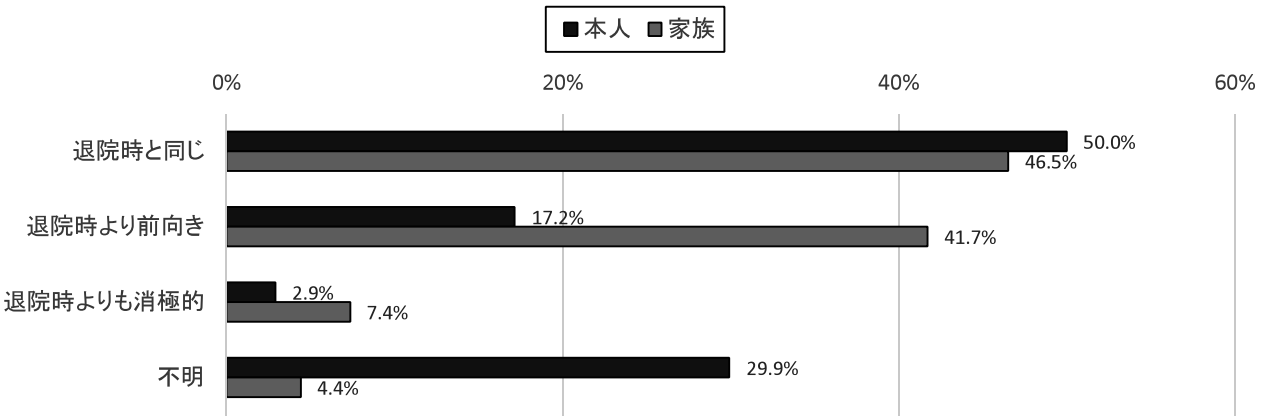
図 127　自宅看取りできたことに寄与した本人・家族の上位 5 つの要因（複数回答）（横浜）（N=235）



II. 在宅療養に対する本人・家族の意識の変化

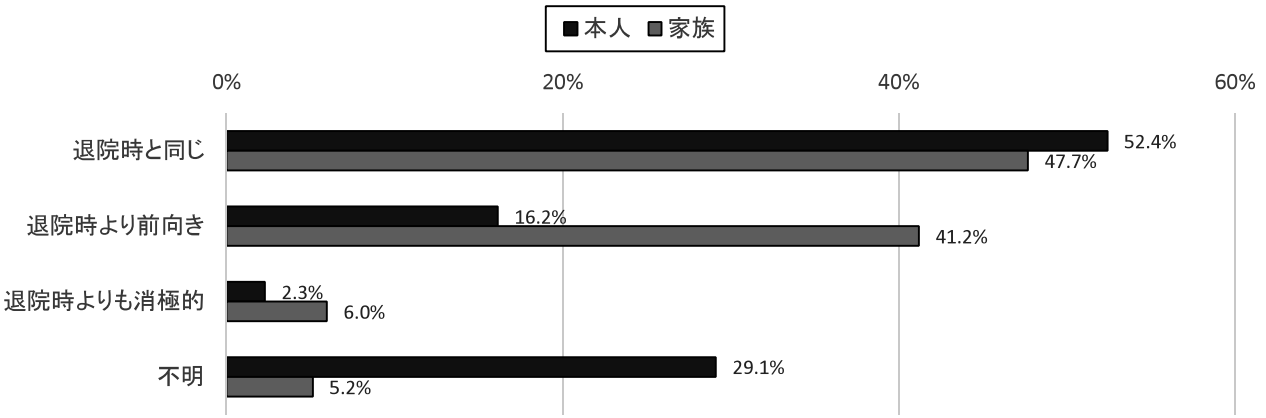
【全国】完遂群について、在宅療養に対する本人家族の意識の変化をみてみると、退院時より前向きになったのは、本人の 17.2%、家族 41.7%であり、家族はより前向きになったと言える。

図 128　【完遂群】在宅療養に対する本人・家族の意識の変化（全国）
（N=本人 548 家族=544）



【横浜】横浜市においても、全国と同様の傾向が見られることから、完遂群における在宅療養中の本人・家族の意識の変化に大きな地域差が見られないと言える。

図 129　【完遂群】在宅療養中の在宅療養に対する本人・家族の意識の変化（横浜）
（N=本人 262 家族=266）



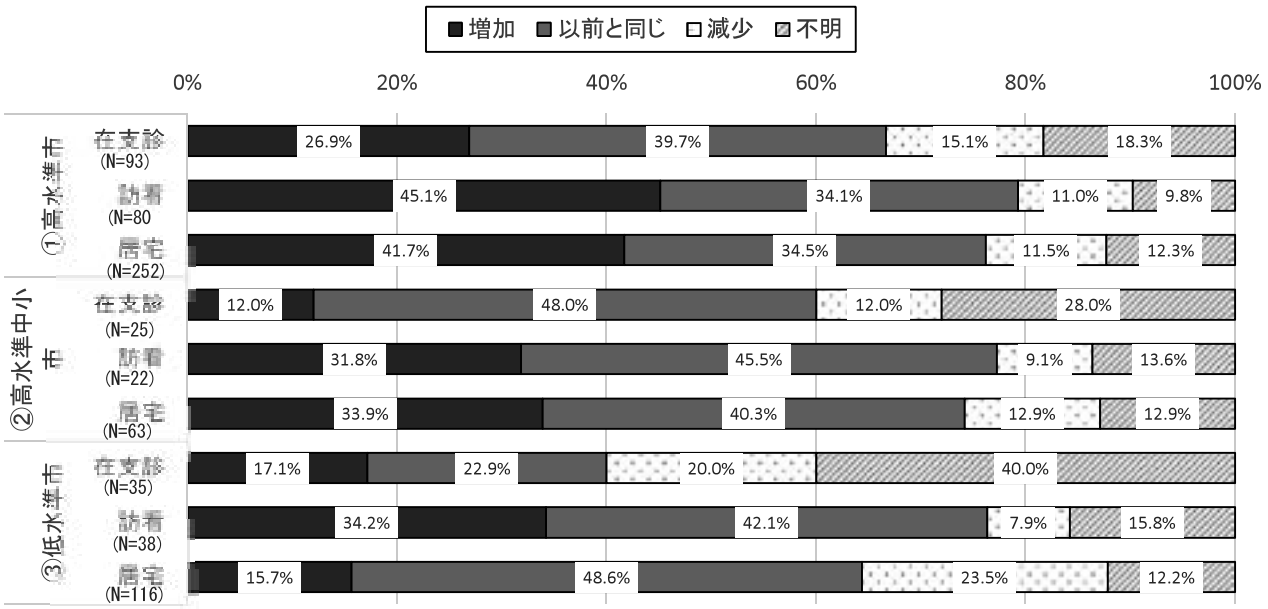
4. 看取り完遂事例と在宅療養中断事例の地域別分析

（１） 地域看取り完遂群と在宅療養中断群の地域別分析

Ⅰ. 在宅療養の需要の増減

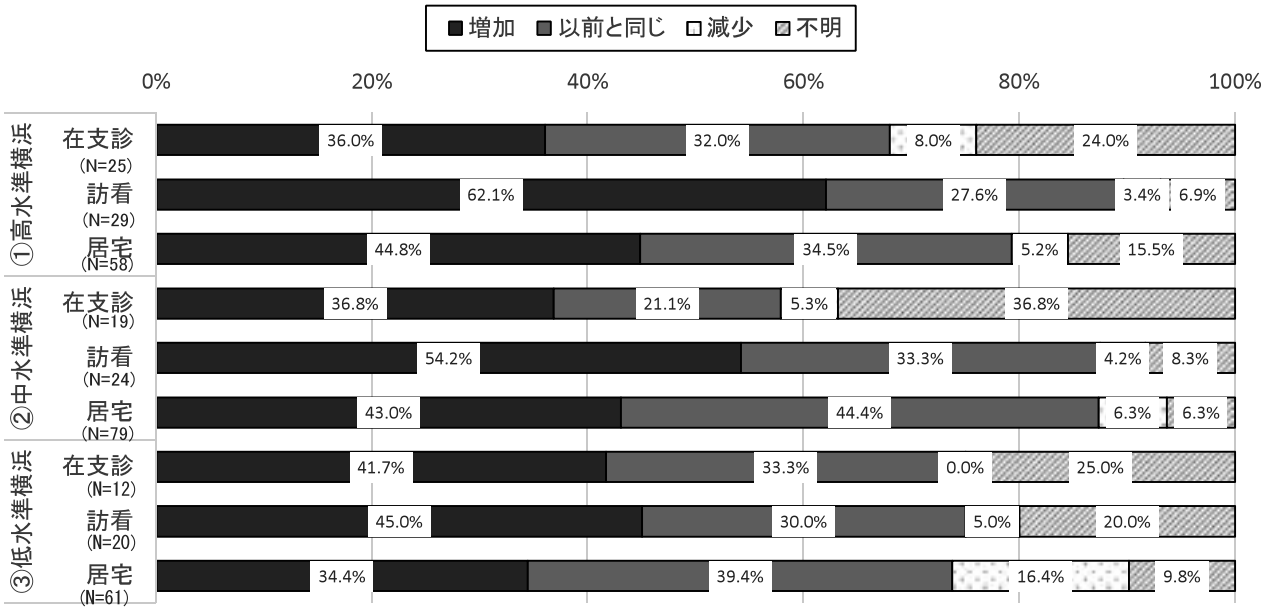
【全国】在宅療養の需要の増減については、①自宅死高水準市部、③自宅死低水準市部で増加傾向が比較的強く見られる。また職種別ではどの群でも訪看の需要が増加したという数字が他の職種と比べて高く出る傾向がある。

図 130　在宅療養の需要の増減（全国）



【横浜】全国と横浜で比較すると、全般的に横浜は全体的に増加傾向が強く見られる。

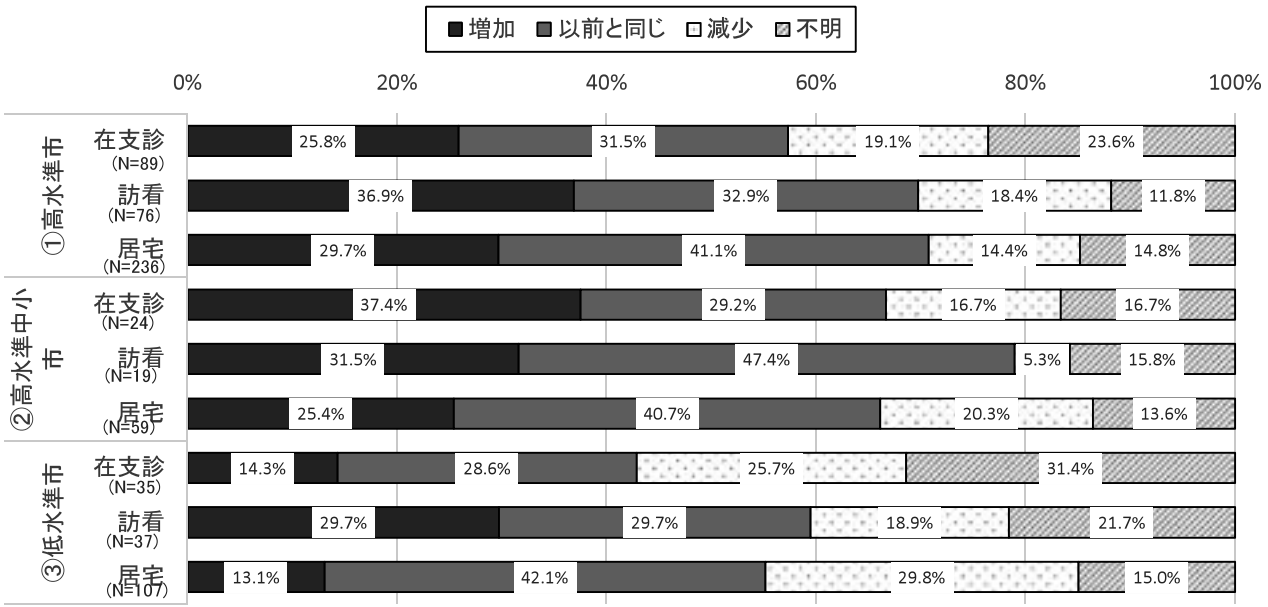
図 131　在宅療養の需要の増減（横浜）



II. 自宅看取りの需要の増減

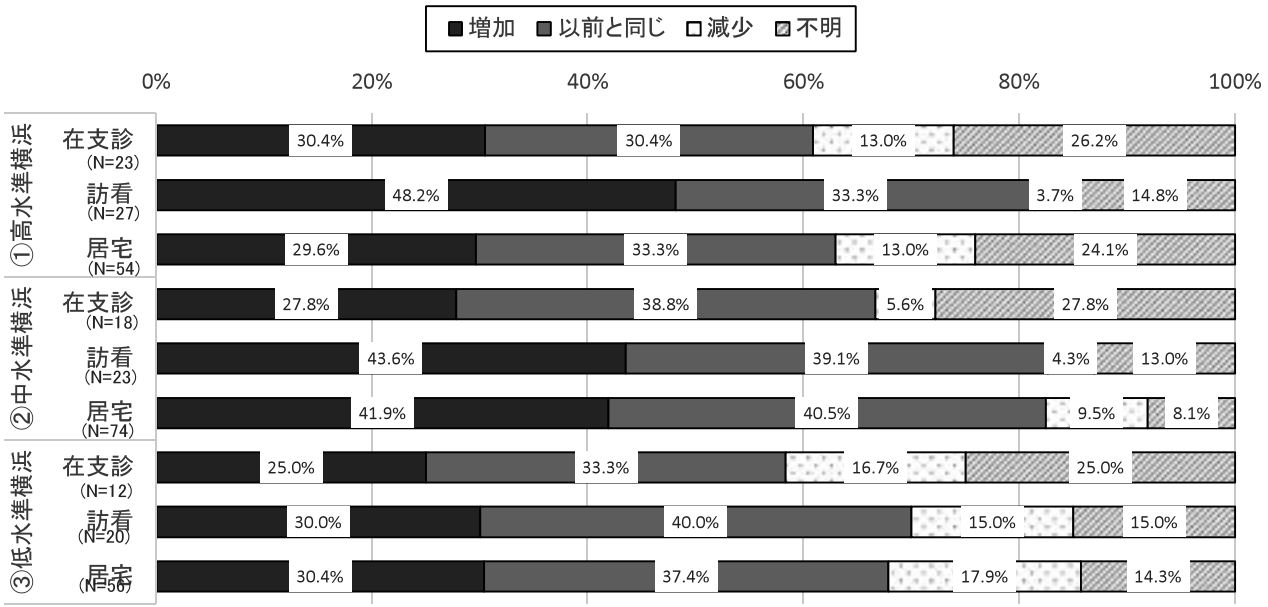
【全国】自宅看取りの需要の増減では、在宅療養の需要の増減と同様に①自宅死高水準市部、③自宅死低水準市部で増加傾向が強く見られる。

図 132　自宅看取りの需要の増減（全国）



【横浜】全国と横浜で比較すると、横浜は全体的に増加傾向が強く見られる。

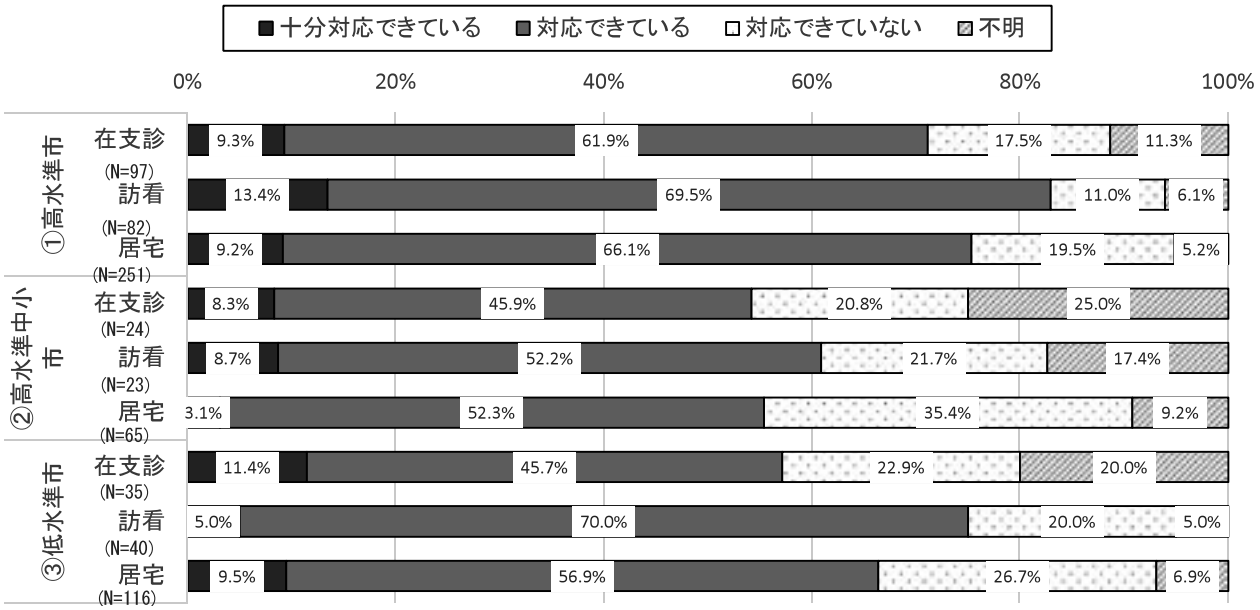
図 133　自宅看取りの需要の増減（横浜）



III. 在宅療養需要への対応状況

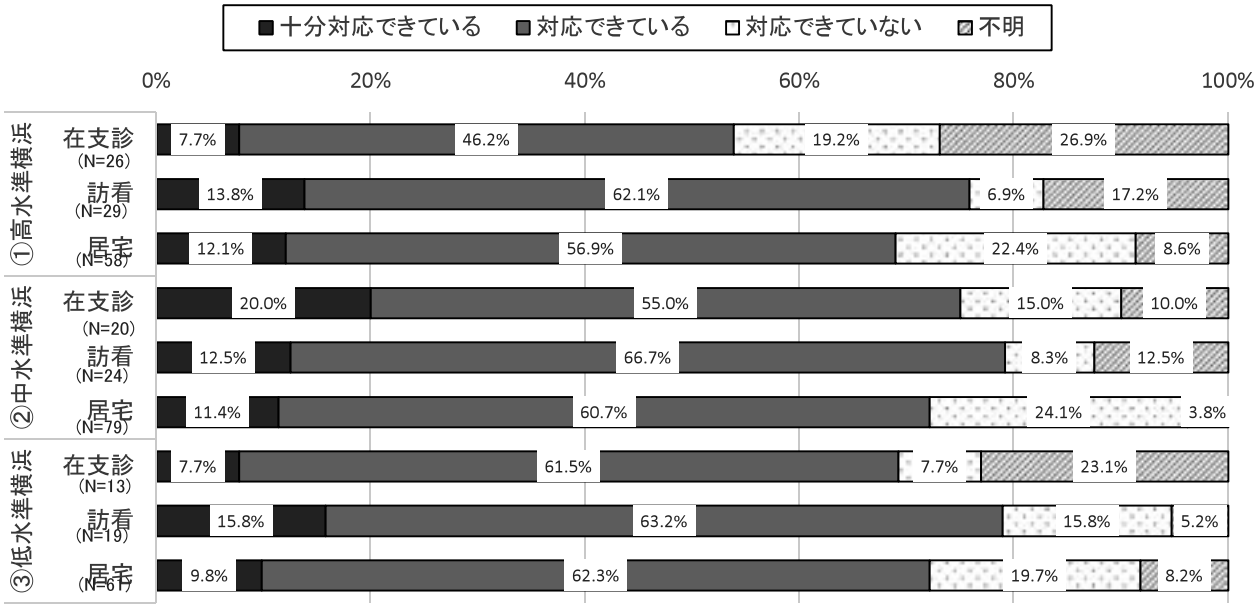
【全国】在宅療養需要への対応状況を見ると、十分対応できている、対応できているを合計した割合には、都市群ごとに大きな違いは見られない。職種別に見ると、訪看で十分対応できている、対応できていると回答した割合が他の職種よりも高い。

図 134　在宅療養需要への対応状況（全国）



【横浜】横浜においても全国と同様な傾向が見られる。

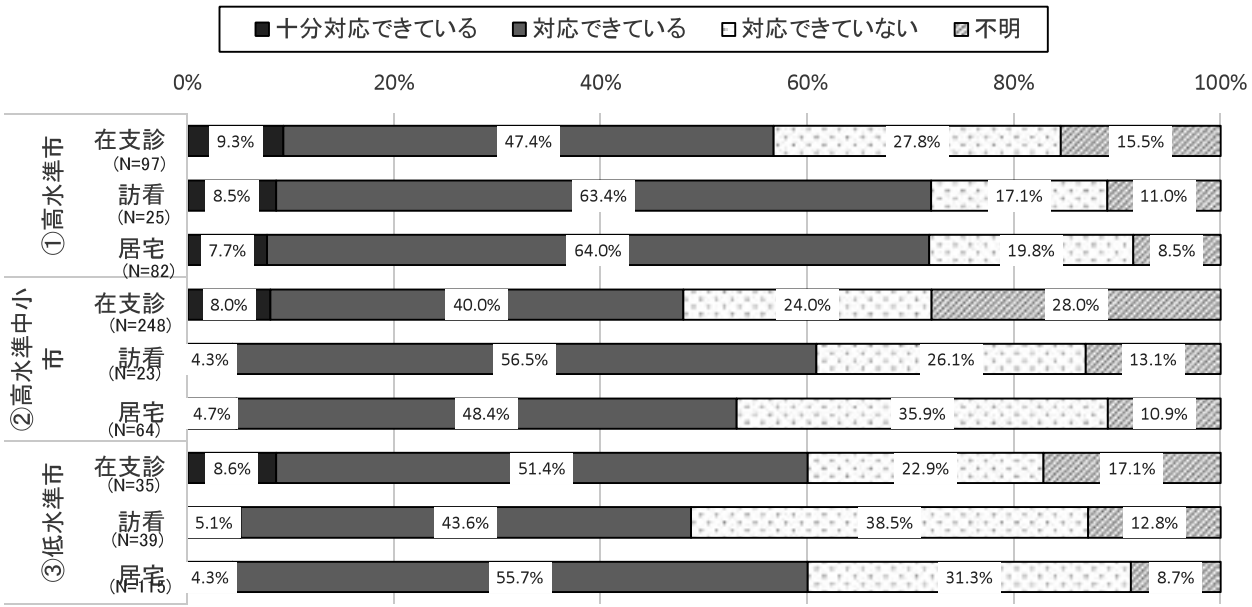
図 135　在宅療養需要への対応状況（横浜）



Ⅳ. 自宅看取り需要への対応状況

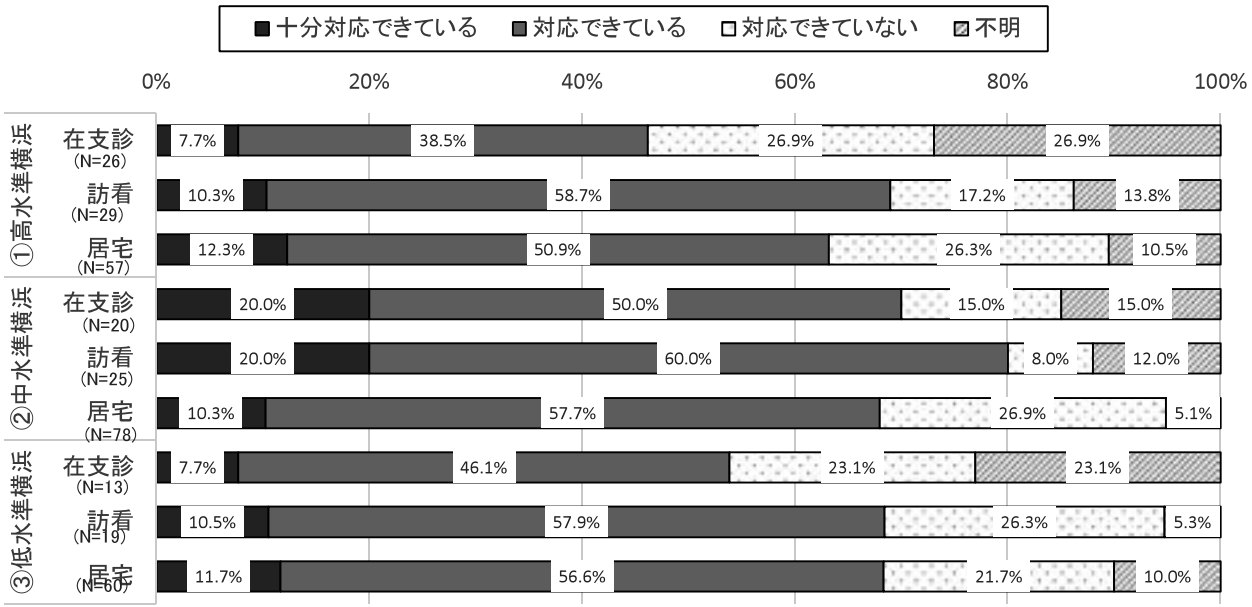
【全国】自宅看取りへの重要の対応状況を見ると、十分対応できている、対応できているを合計した割合は、①自宅死高水準市部でやや多いものの、都市群ごとに大きな違いは見られない。

図 136　自宅看取り需要への対応状況（全国）



【横浜】横浜においても全国と同様な傾向が見られる。

図 137　自宅看取り需要への対応状況（横浜）



V. 地域環境の状況

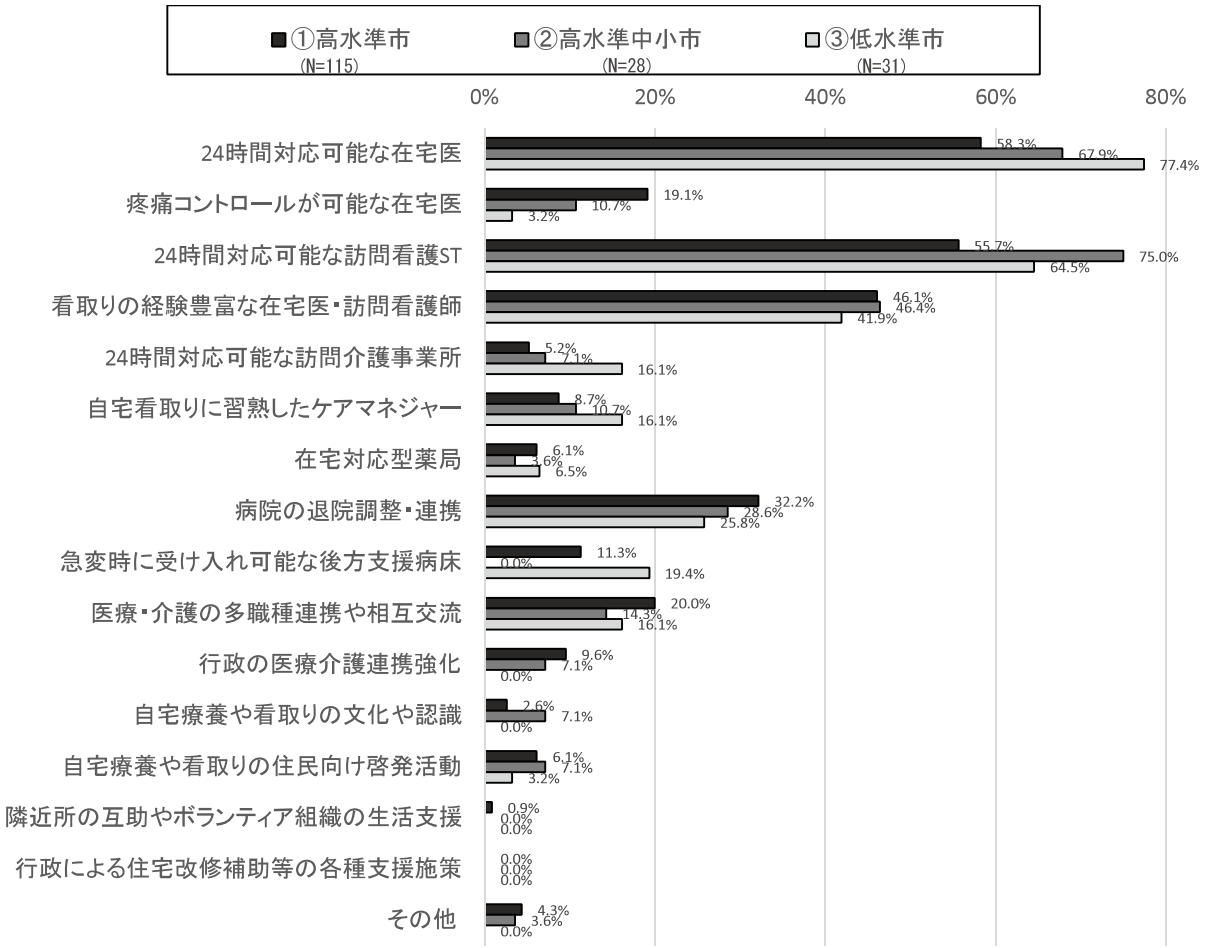
i. 自宅看取りの増加要因

【全国】自宅看取りの増加要因では、24 時間対応可能な在宅医では①自宅死高水準市部で 58.3%、②自宅死高水準中小市部で 67.9%、③自宅死低水準市部で 77.4%。24 時間対応可能な訪看 ST では①自宅死高水準市部で 55.7%、②自宅死高水準中小市部で 75.0%、③自宅死低水準市部で 64.5%である。看取りの経験豊富な在宅医・訪問看護師では、①自宅死高水準市部で 46.1%、②自宅死高水準中小市部で 46.4%、③自宅死低水準市部で 41.9%である。

これらはどの都市群においても回答された割合が高かったが、都市群によって最も多かった回答は異なった。①自宅死高水準市部、③自宅死低水準市部では 24 時間対応可能な在宅医、②自宅死高水準中小市部では 24 時間対応可能な訪看 ST であった。

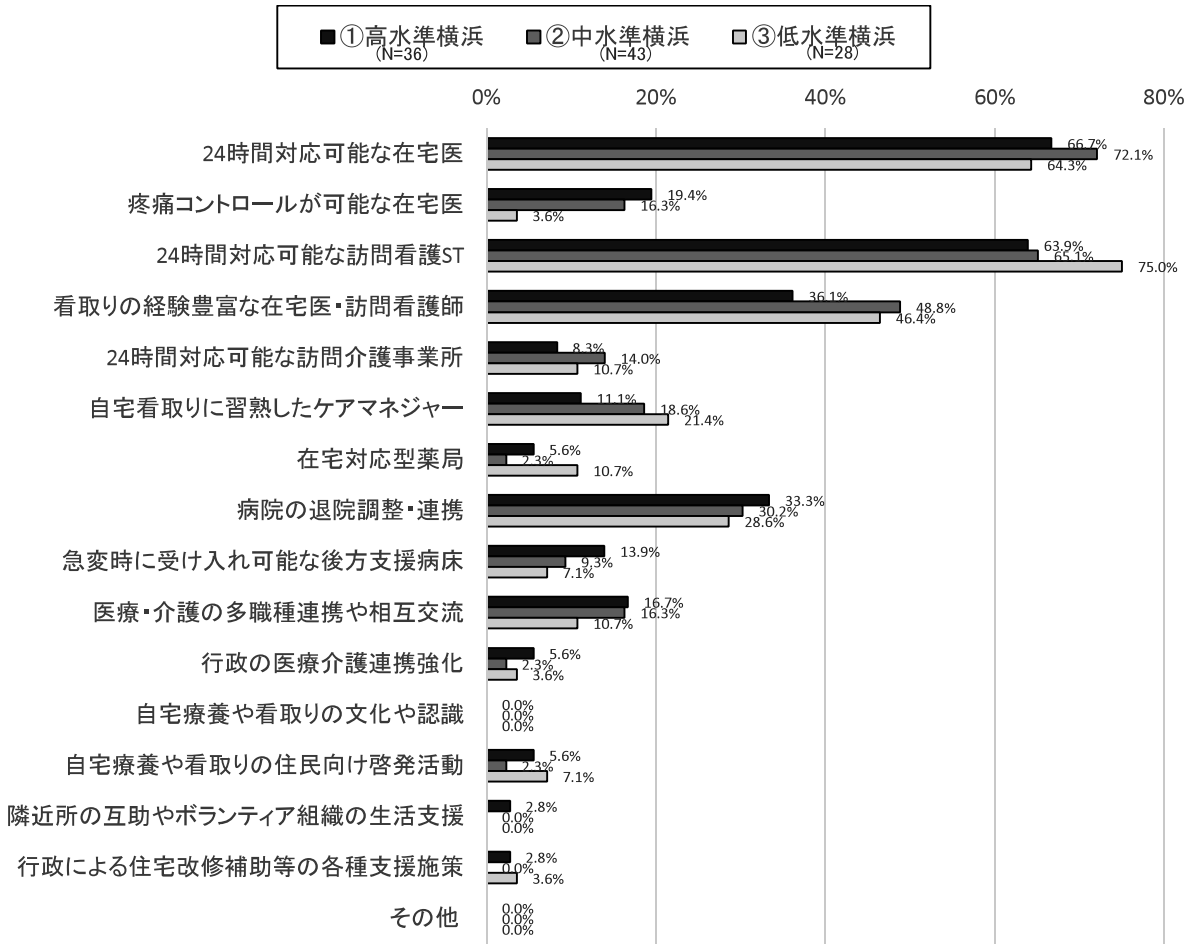
また隣近所の互助やボランティア組織の生活支援、行政による住宅改修などの各種支援施策を挙げた回答は少なかった。

図 138　自宅看取りの増加に寄与した上位 3 つの要因（全国）



【横浜】横浜は全国と同様の傾向が見られた。

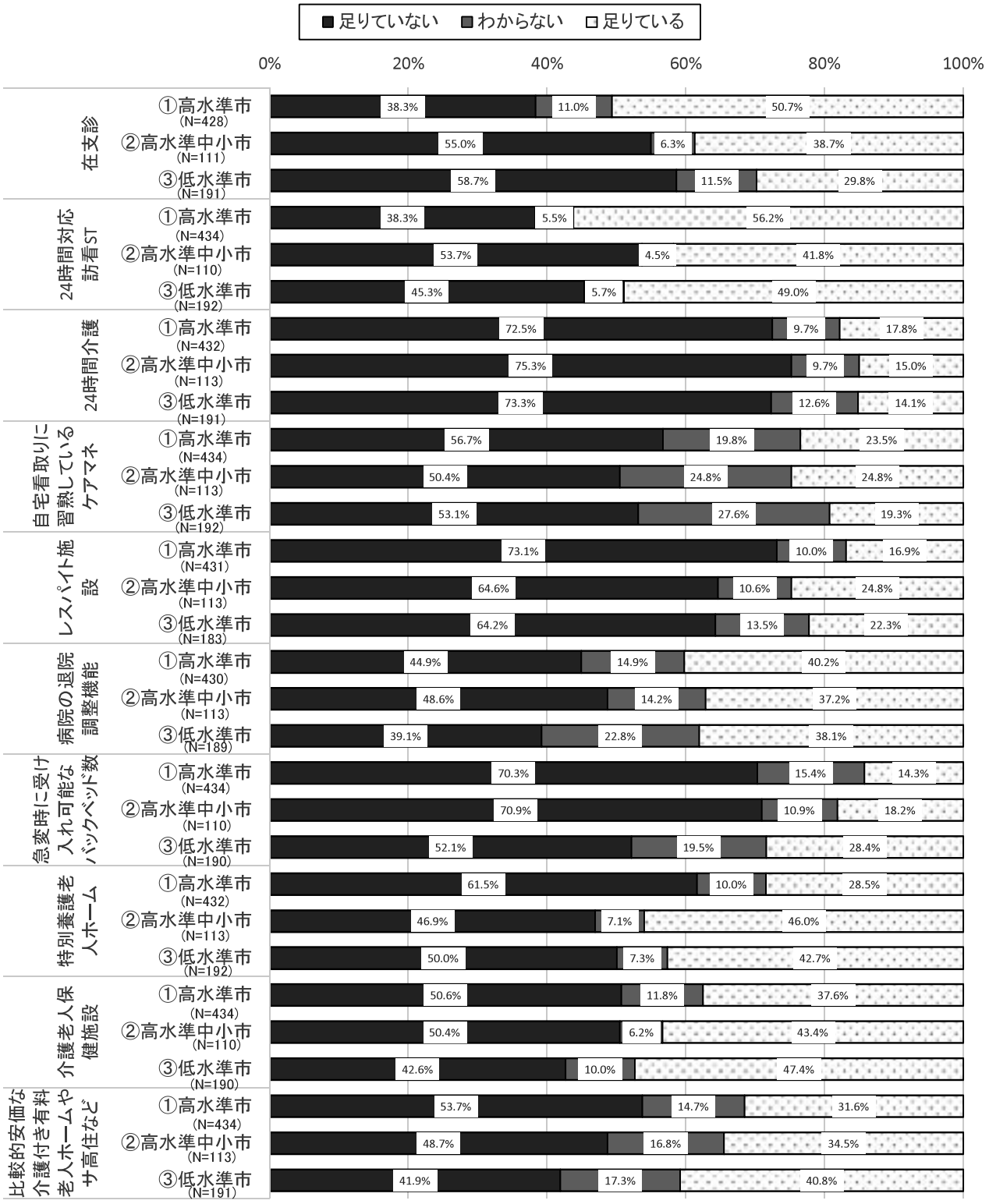
図 139　自宅看取りの増加に寄与した上位 3 つの要因（横浜）



ii. <u>市区町村の在宅医療・介護資源の過不足状況</u>

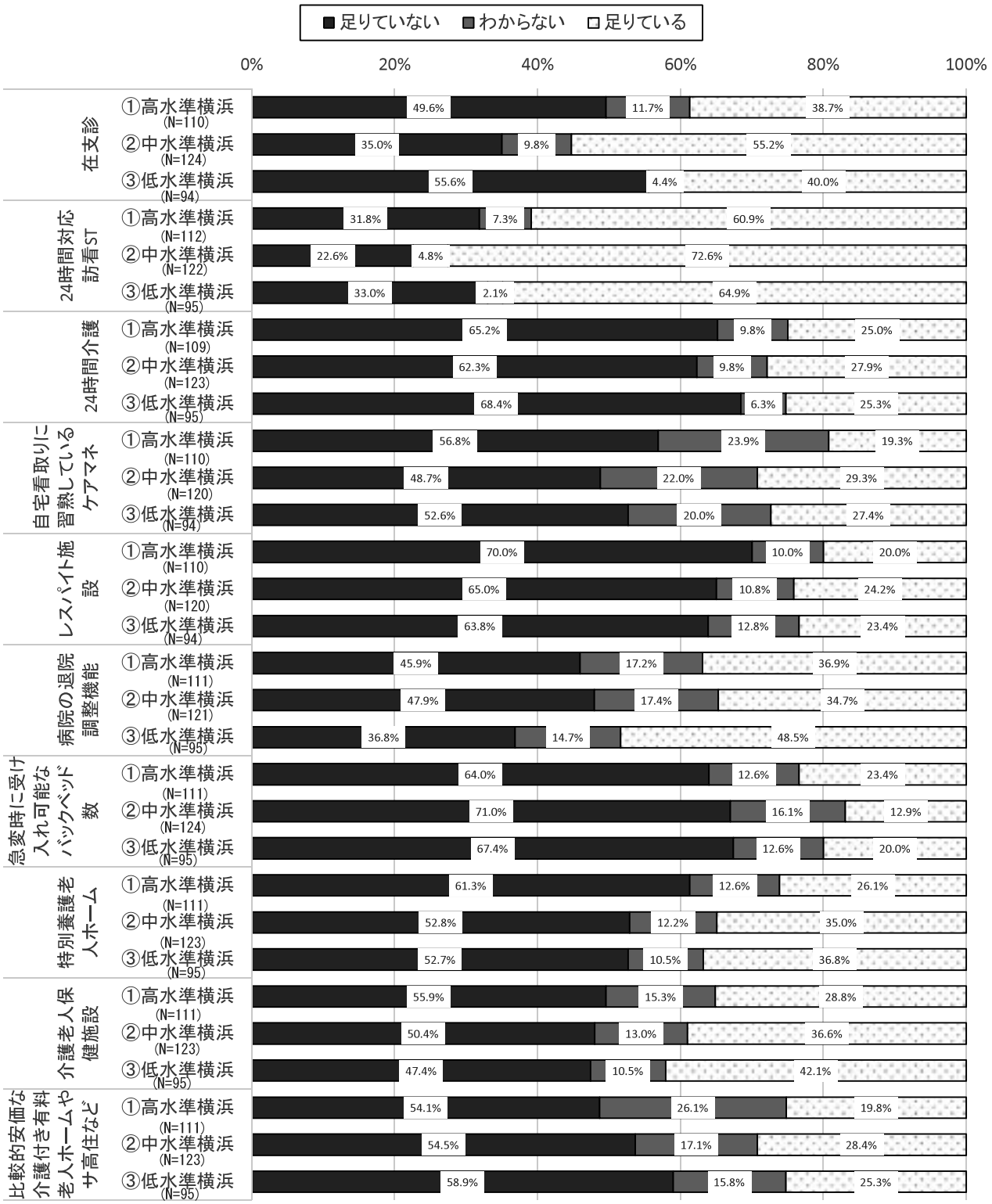
【全国】市区町村の在宅医療・介護資源の過不足状況では、24 時間介護、レスパイト施設不足を挙げる割合が、どの都市群、職種においても高い。

図 140　各機関・事業所から見た市区町村の在宅医療・介護資源の過不足状況（全国）



【横浜】横浜では、全国と同様に 24 時間介護、レスパイト施設が挙げる回答が多かったほか、急変時に受け入れ可能なバックベッド数を挙げる回答が多い。

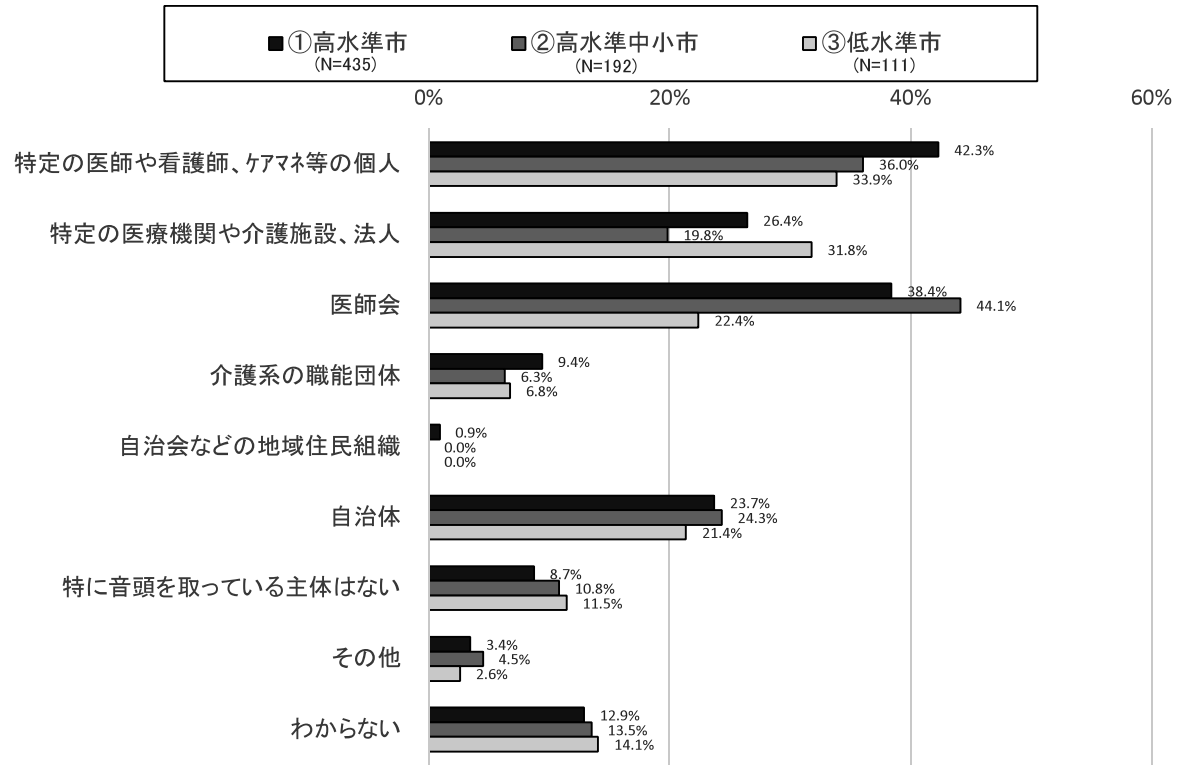
図 141　各機関・事業所から見た市区町村の在宅医療・介護資源の過不足状況（横浜）



iii. <u>在宅医療や医療介護連携の推進役</u>

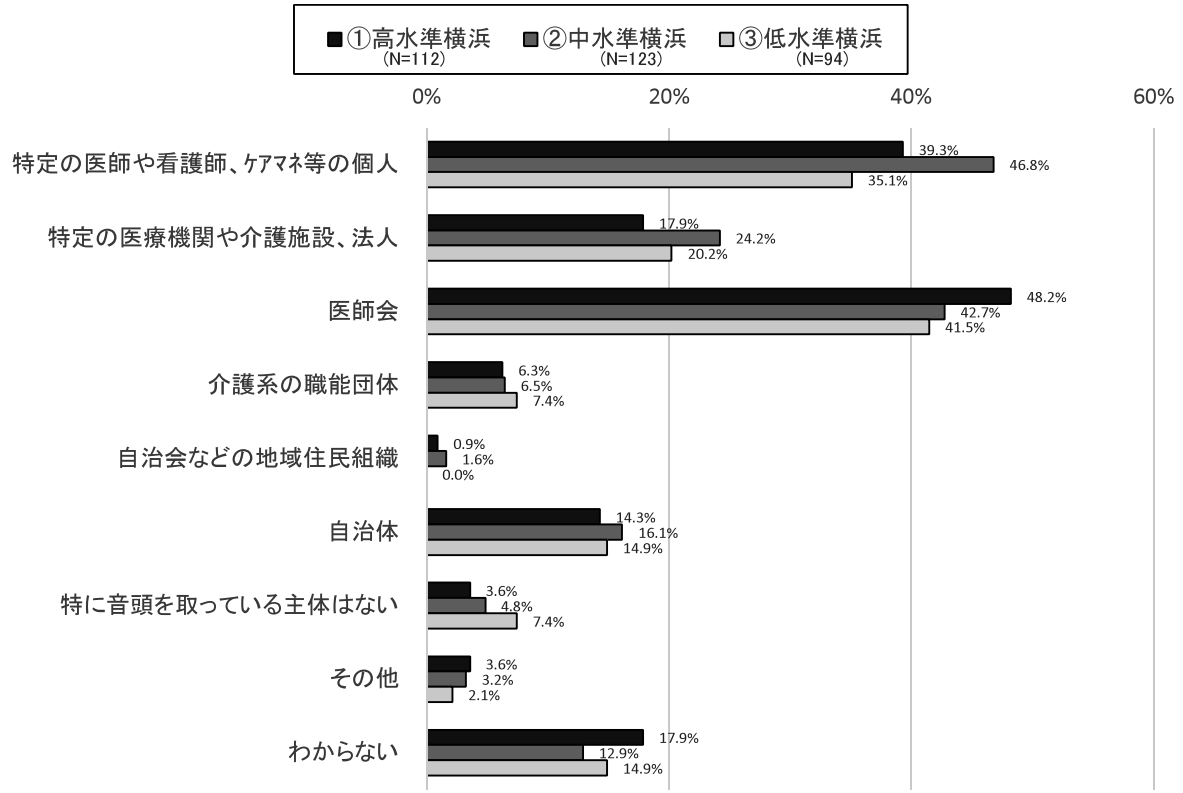
【全国】在宅療養や医療介護連携の推進役では、「特定の医師や看護師、ケアマネ等の個人」、「医師会」が積極的にリーダーシップを発揮したと回答した割合が高い。なかでも「医師会」と回答した割合は、①自宅死高水準市部で 38.4%、②自宅死高水準中小市部で 44.1%、③自宅死低水準市部で 22.4%、となり都市群ごとに差が見られた。

図 142　在宅医療の推進や医療介護連携のリーダーシップを積極的に発揮している主体（全国）



【横浜】横浜においても、全国と同様の傾向が見られる。

図 143　在宅医療の推進や医療介護連携のリーダーシップを積極的に発揮している主体（横浜）



5. ベストプラクティス群の分析

在宅医療・介護提供体制整備や地域包括ケアシステムの整備に関する地域の取り組みに見るべきものがあると判断されるいくつかの自治体を任意で抽出し分析を行った。

（1） 抽出方法と自治体の種類

各自治体の選定理由は表 3 にある通り。その上で人口が 20 万人以上かどうかで分類を行った

表 3　ベストプラクティス群の都市

都市群名		都道府県	市区町村名	選定理由	総人口	自宅死亡率(2011)	自宅死亡率(2014)	自宅死亡率変化量
大規模任意抽出群	1	千葉県	柏市	柏プロジェクトによる取り組み	416,954	13.44%	14.54%	1.10%
	2	東京都	板橋区	板橋区医師会在宅医療センターによる取り組み	567,907	15.32%	11.96%	-3.36%
中小規模任意抽出群	1	富山県	南砺市	南砺市医療協議会を中心とした地域包括ケアへの取り組み	50,820	12.99%	12.24%	-0.74%
	2	滋賀県	東近江市	住民活動との協働によるまちづくりの取り組み	113,448	14.29%	14.60%	0.32%
	3	栃木県	小山市	医療法人アスムスを中心とする在宅医療の先進的取り組み	166,808	15.04%	15.94%	0.90%
	4	広島県	尾道市	在宅医療尾道モデルの取り組み	137,031	14.57%	13.17%	-1.40%
	5	奈良県	桜井市	訪問看護の先進的取り組み	56,784	18.24%	18.07%	-0.18%

（２） 調査対象の事業所の特性と事業の状況

Ⅰ. 在宅療養支援診療所/病院

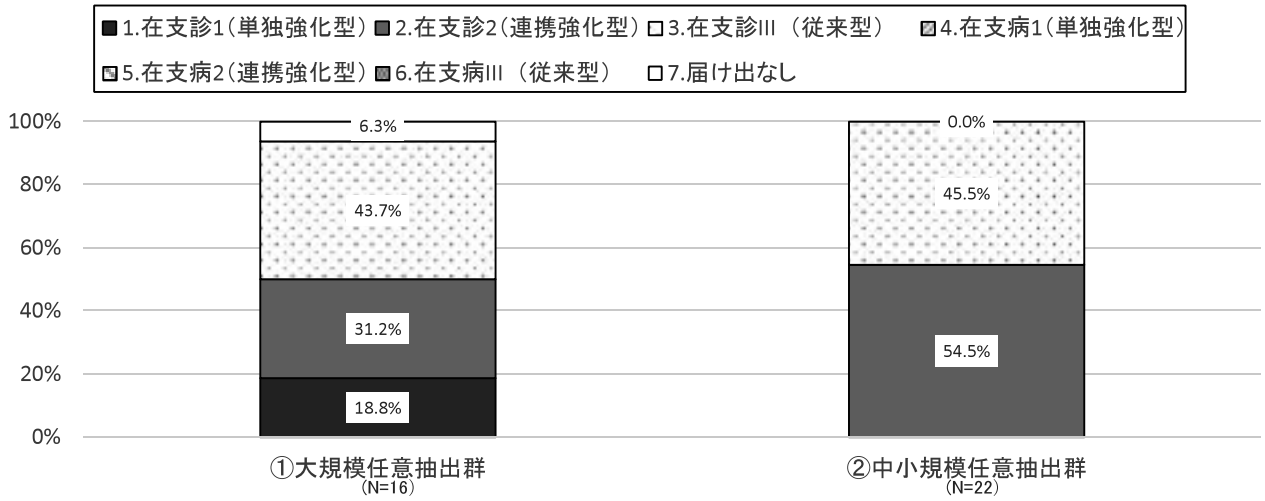
i. 病床数、医師数など

回答のあった在宅療養支援診療所/病院の基礎情報は巻末の資料を参照のこと。

ii. 在支診/病届出状況

在支診 1,2 を届け出ている診療所が多く、①大規模任意抽出群では 50%、②中小規模任意抽出群では 54.5%が該当している。

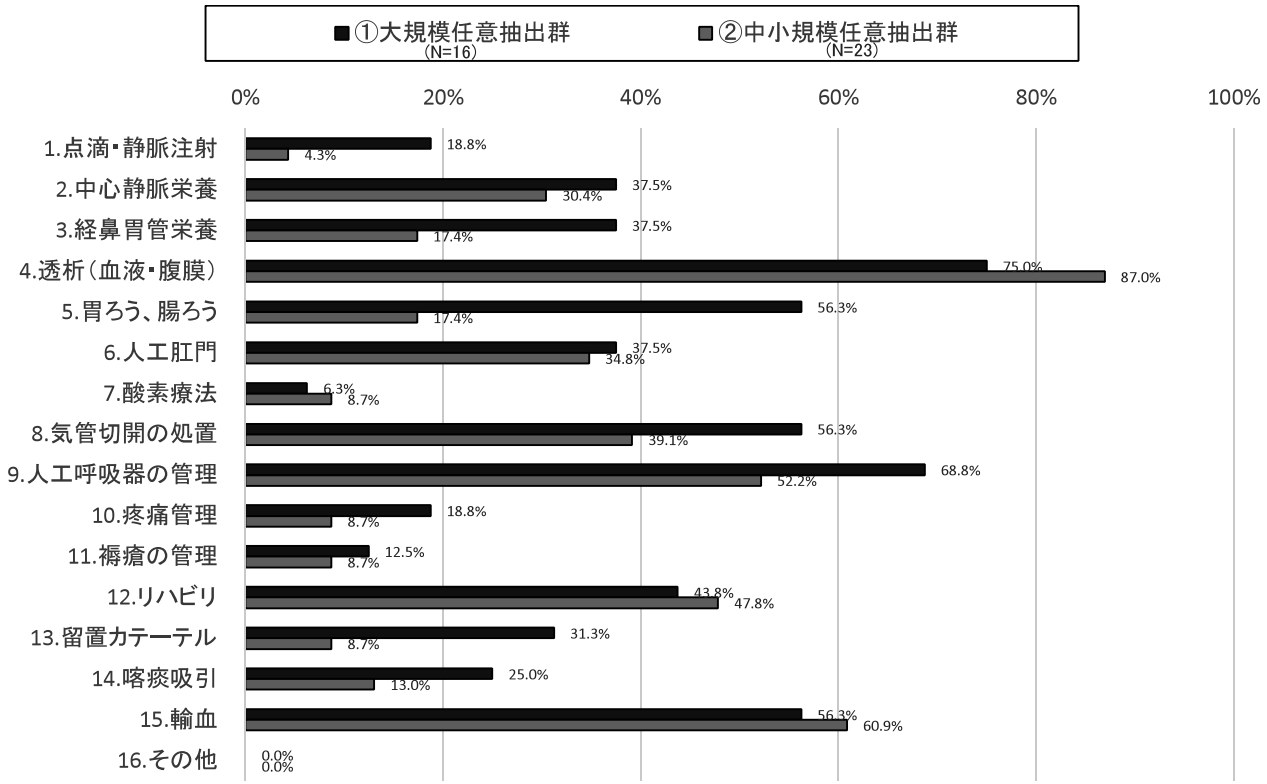
図 144　在支診/病届出状況



iii. 現時点で対応が困難な処置

現時点で対応困難な処置では、透析が両群で最も多く、2 位以下は両群で差が見られる。なかでも「胃ろう、腸ろう」、「気管切開の処置」、「留置カテーテル」では①大規模任意抽出群が②中小規模任意抽出群よりも大幅に多くなっている。

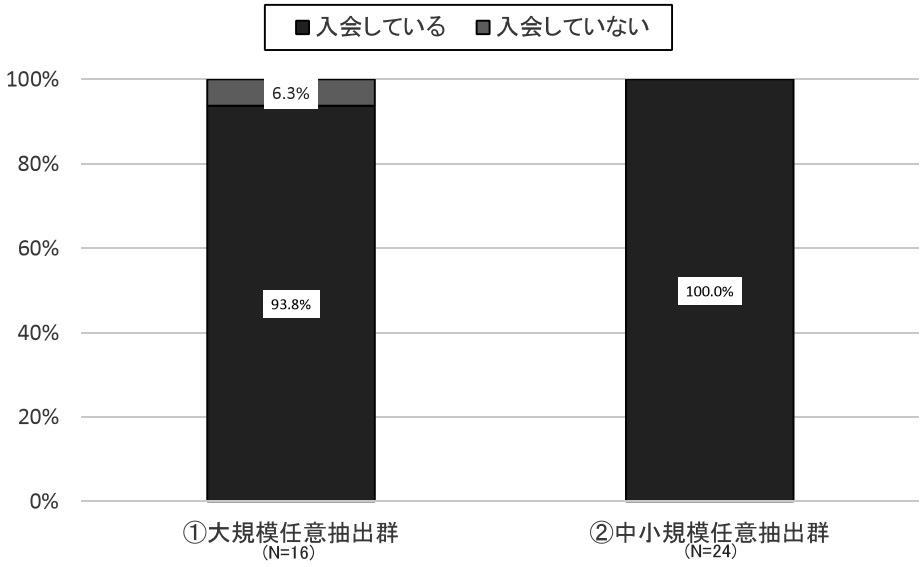
図 145　現時点で対応が困難な処置（複数回答）



iv. 医師会への加盟状況

両群でほぼすべての機関が医師会に加盟している。

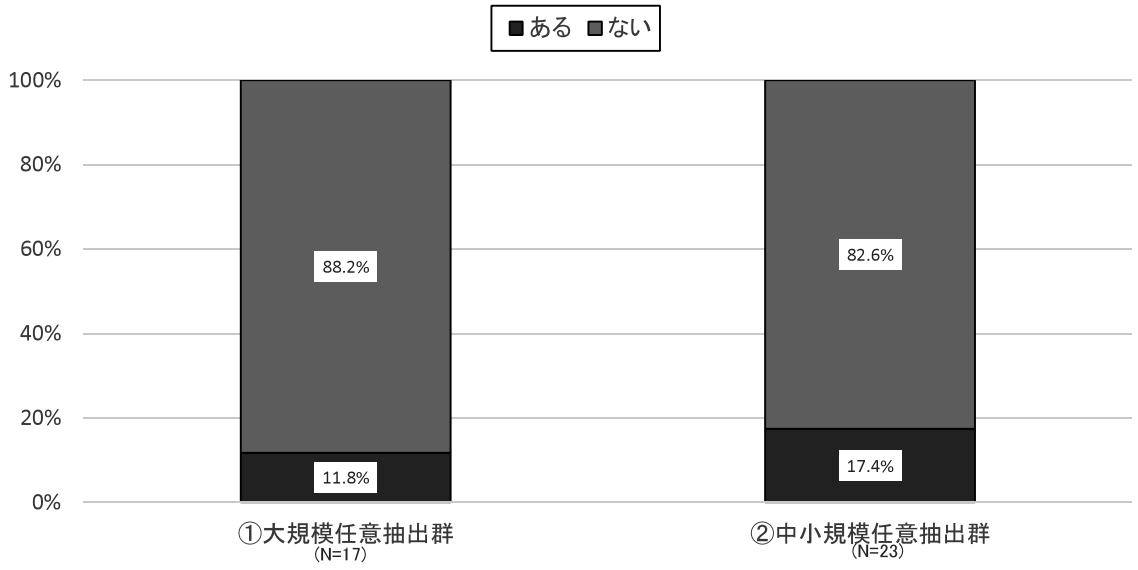
図 146　医師会への加盟状況



v. <u>同一法人内に看取り可能な病床があるか</u>

両群とも約 80～90%の機関で同一法人内に看取り可能な病床がない。

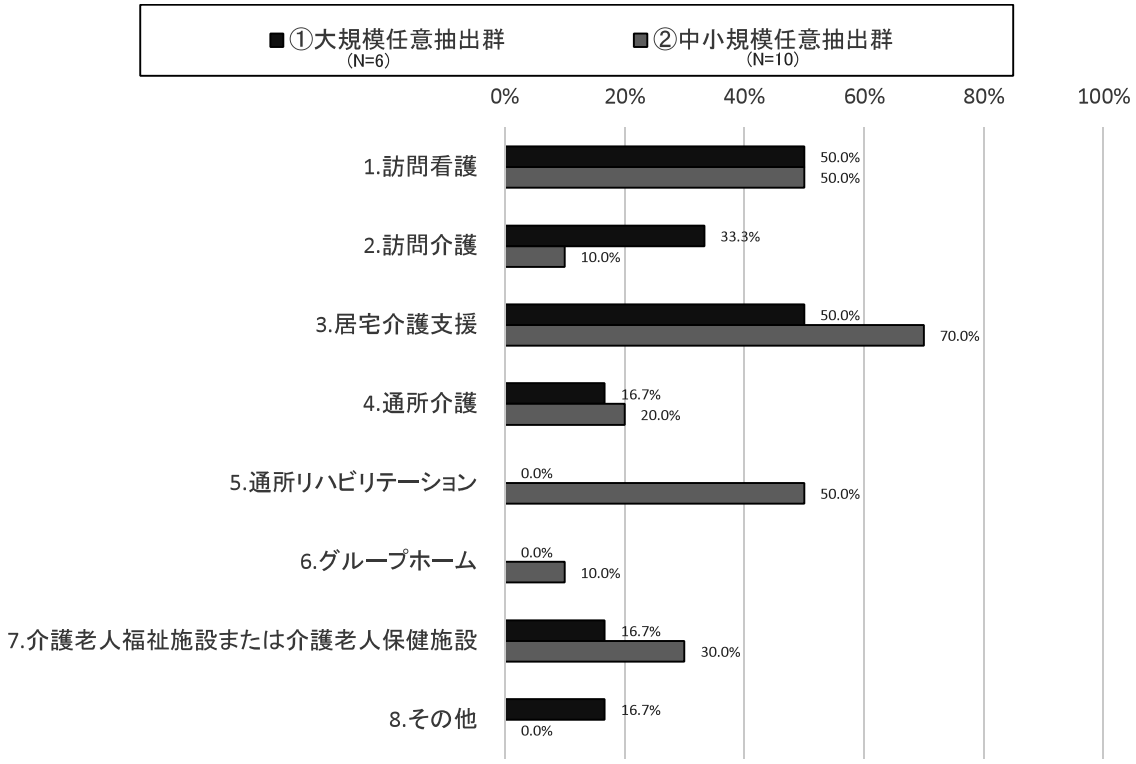
図 147　同一法人内に看取り可能な病床があるか



vi. <u>同一法人内で行っている介護保険事業</u>

両群で訪問看護、居宅介護支援を行っている傾向が強い。

図 148　同一法人内で行っている介護保険事業



II. 訪問看護事業所

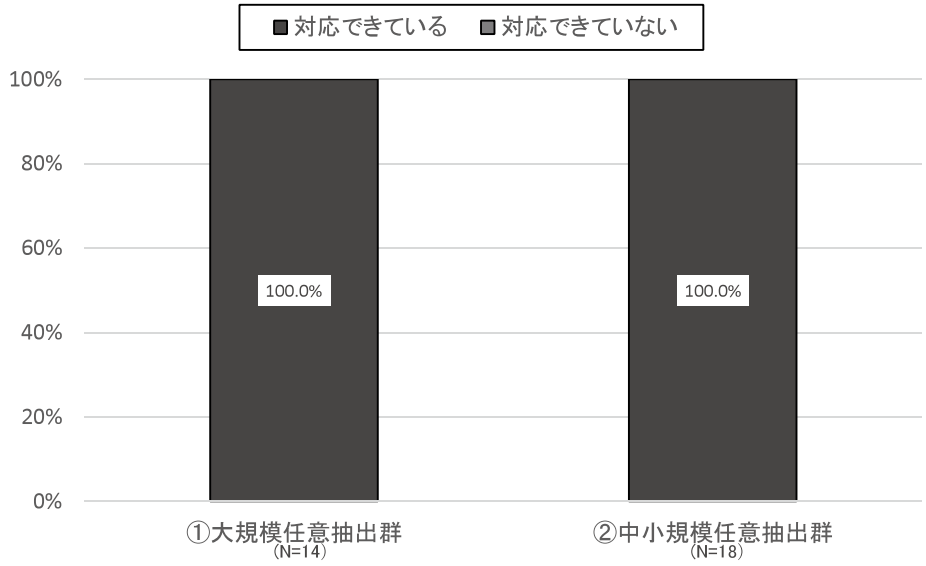
i. 看護師数、開設年など

回答のあった訪問看護事業所の基礎情報については巻末の資料を参照のこと

ii. 24 時間電話対応の状況

両群ですべての事業所が対応できていると回答している。

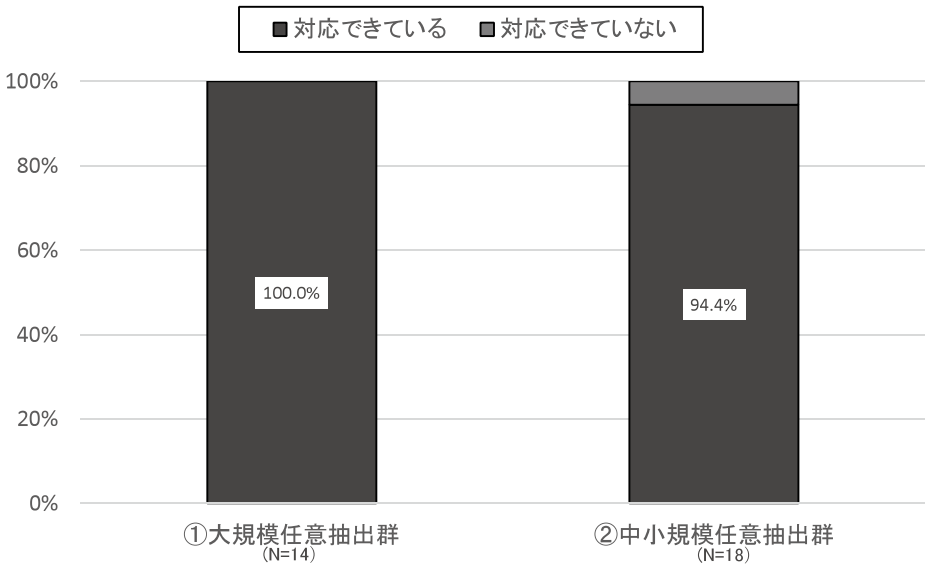
図 149　24 時間電話対応の状況



iii. 緊急時の対応の状況

両群でほぼすべての事業所が対応できていると回答している。

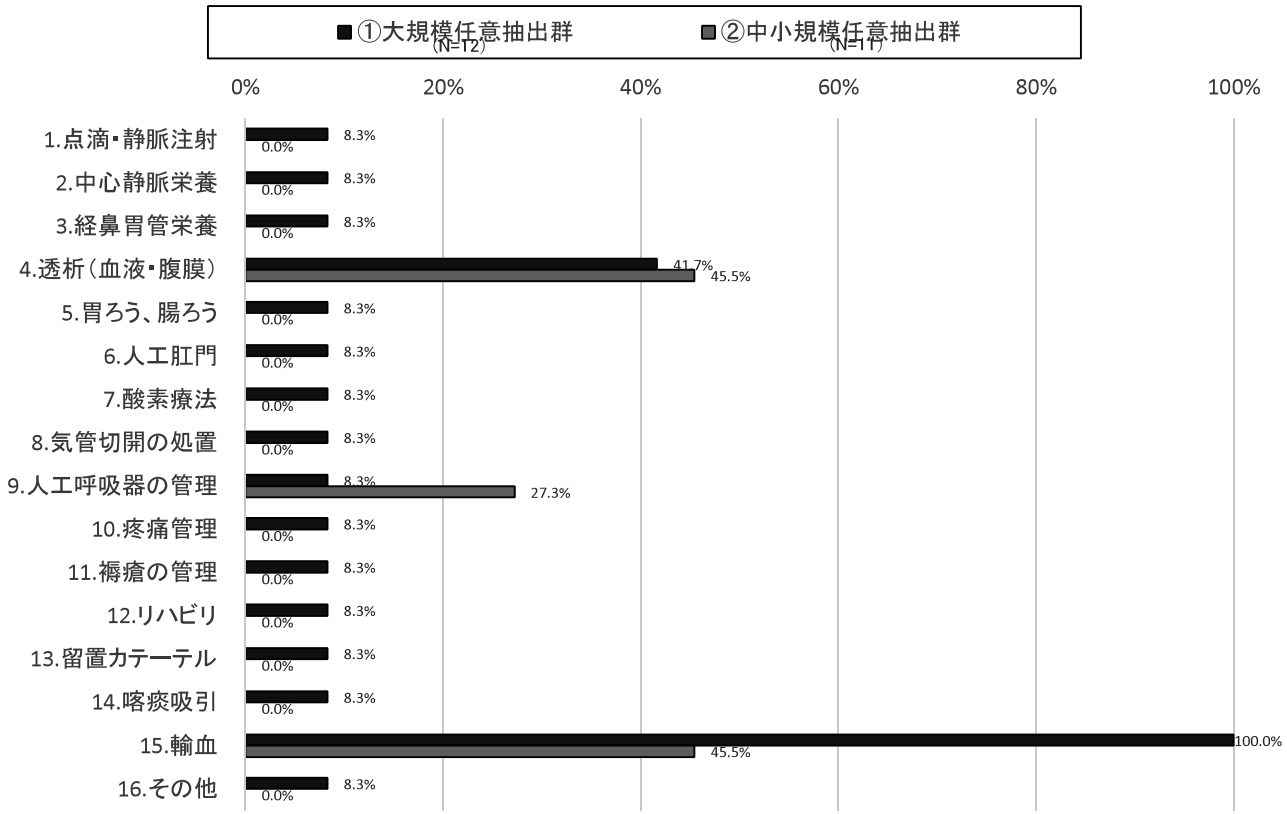
図 150　緊急時の対応の状況



iv. <u>対応できない医療処置</u>

両群で「透析」、「輸血」に対応できないと回答した事業所が多かったが、中でも輸血では①大規模任意抽出群が②中小規模任意抽出群に 54.5 ポイントの差を付けている。

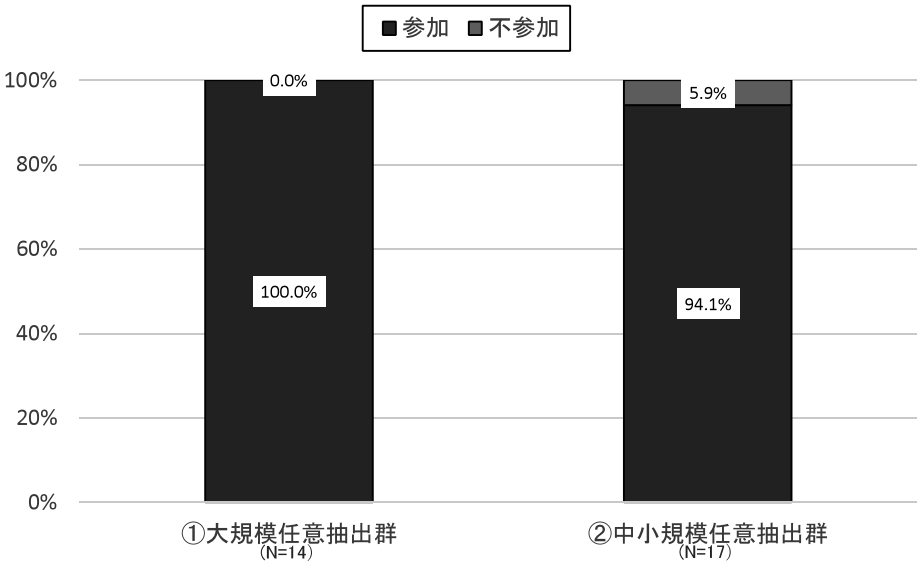
図 151　対応できない医療処置



v. 自治体内の訪問看護職能団体への加入状況

両群でほぼすべての事業所が加入していると回答。

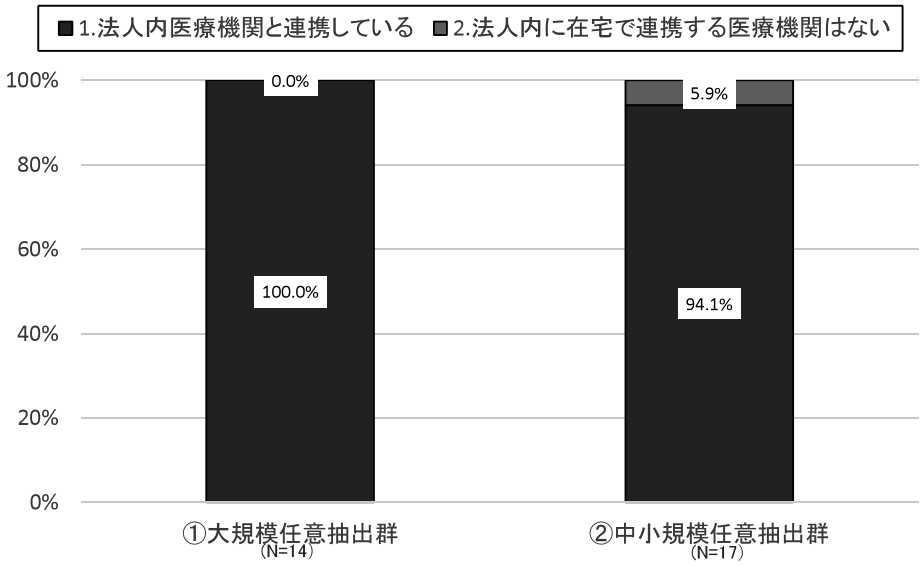
図 152　自治体の訪問看護職能団体への加入状況



vi. 同一法人内に在支診/病があり連携しているか

両群でほぼすべての事業所で同一法人内に在支診/病があり連携していると回答。

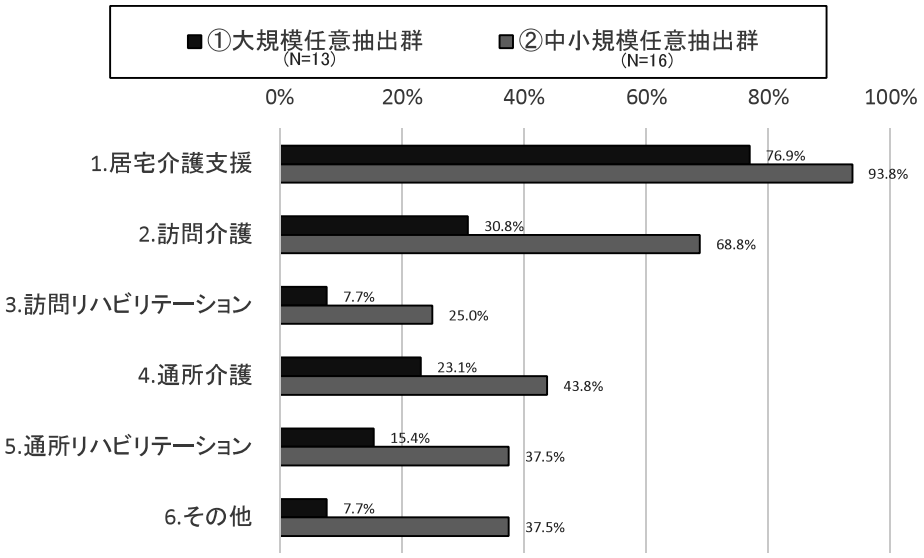
図 153　同一法人内に在支診/病があり連携しているか



vii. <u>同一法人内で行っている他の介護保険事業</u>

両群で居宅介護支援を回答した事業所が多く、どの事業についても②中小規模任意抽出群が①大規模任意抽出群を上回っている。

図 154　同一法人内で行っている他の介護保険事業



III. 居宅介護支援事業所

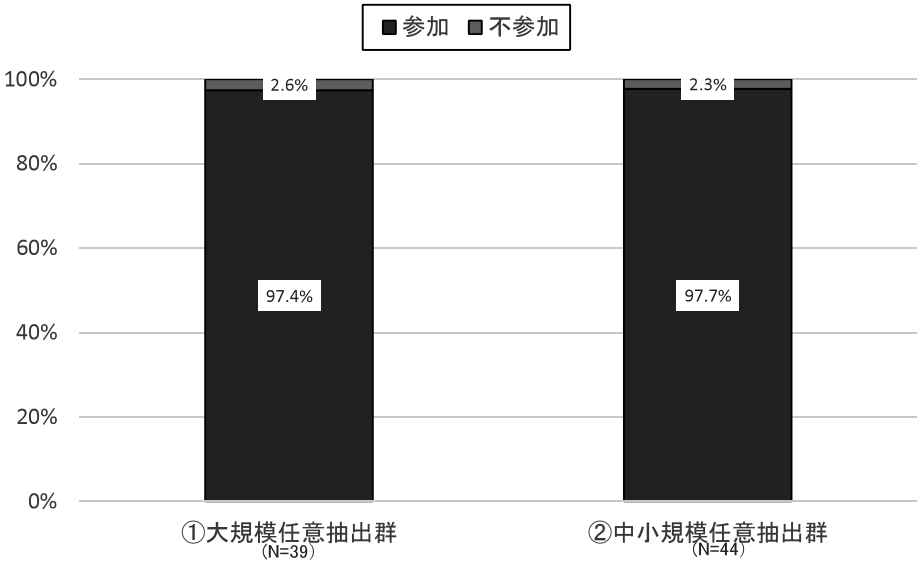
i. 所在地、ケアマネ数など

回答のあった居宅介護支援事業所の基礎情報については巻末の資料を参照のこと。

ii. 自治体内の居宅介護支援職能団体に加入しているかどうか

両群でほぼすべての事業所が加入していると回答。

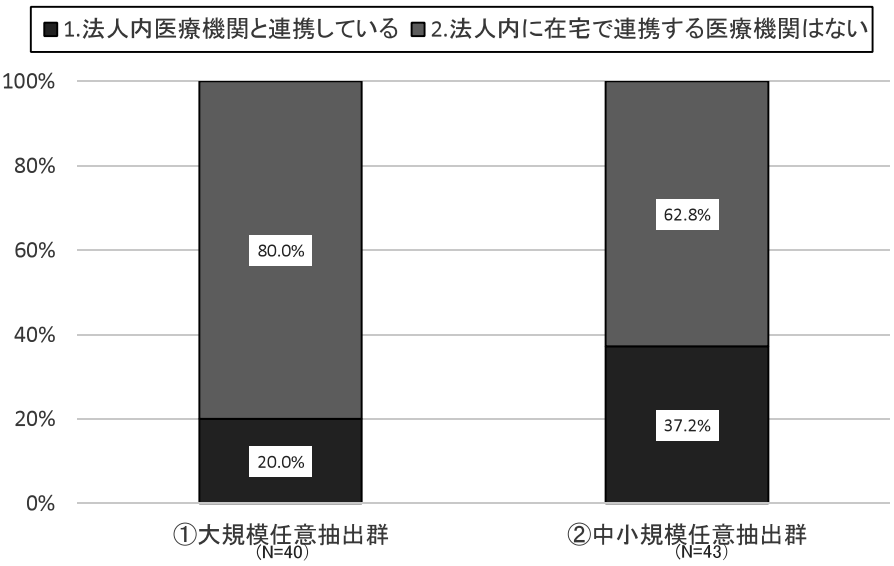
図 155　自治体の居宅介護支援職能団体へ加入し得ているか



iii. 同一法人内に支援診/病があり連携しているか

①大規模任意抽出群では 20.0%、②中小規模任意抽出群では 37.2%が法人内医療機関と連携していると回答。

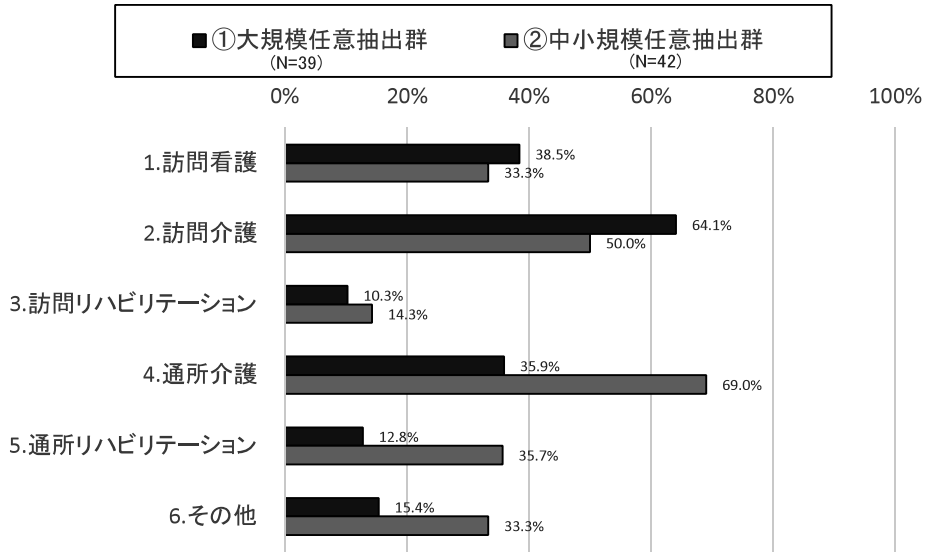
図 156　同一法人内に在支診/病があり連携しているか



iv. <u>同一法人内で行っている他の介護保険事業</u>

両群で訪問看護、訪問介護を回答した事業所が多く見られた。通所介護では①大規模任意抽出群と②中小規模任意抽出群に 33.1 ポイントの差がついた。

図 157　同一法人内で行っている他の介護保険事業



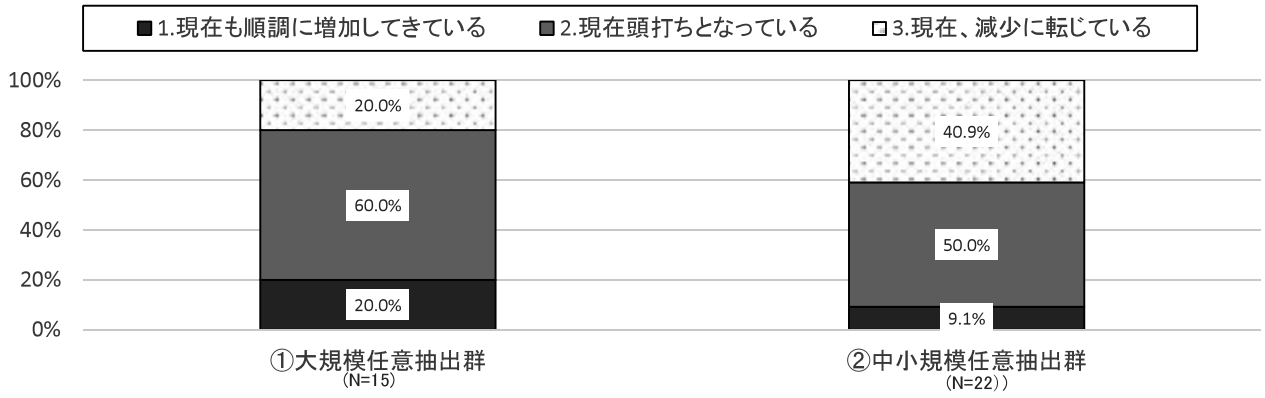
（３） 調査対象機関・事業所の需要構造

Ⅰ. 在宅療養支援診療所/病院

i. 現在までの自宅看取り数の推移

増加していると回答したのは①大規模任意抽出群で 20.0%、②中小規模任意抽出群では 9.1%で、両群とも減少に転じていると回答した割合と同じか下回った。

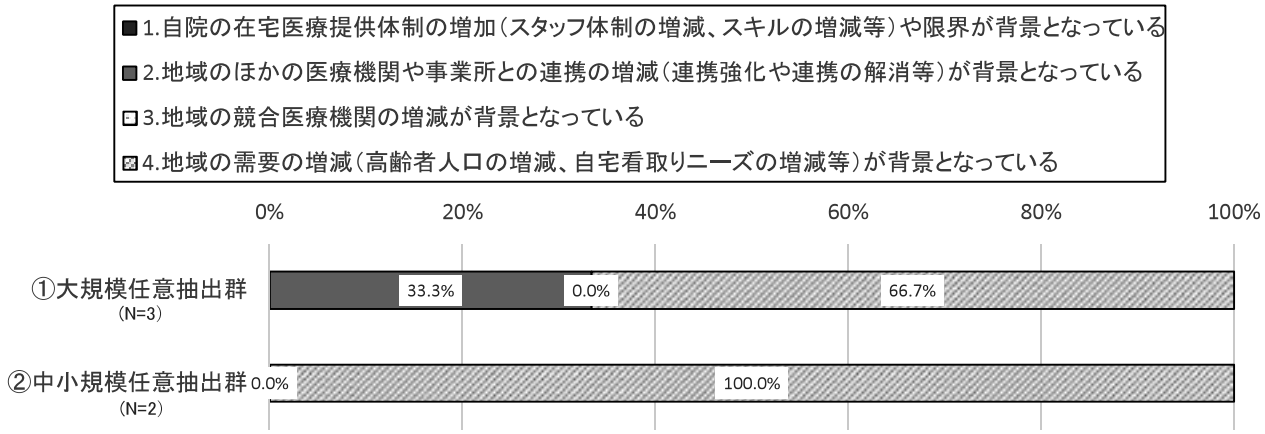
図 158　現在までの自宅看取り件数の推移



ii. 自宅看取り件数が増加した要因

看取り件数が増加した要因では、両群で地域の需要の増減を理由に挙げた回答が最も多かった。

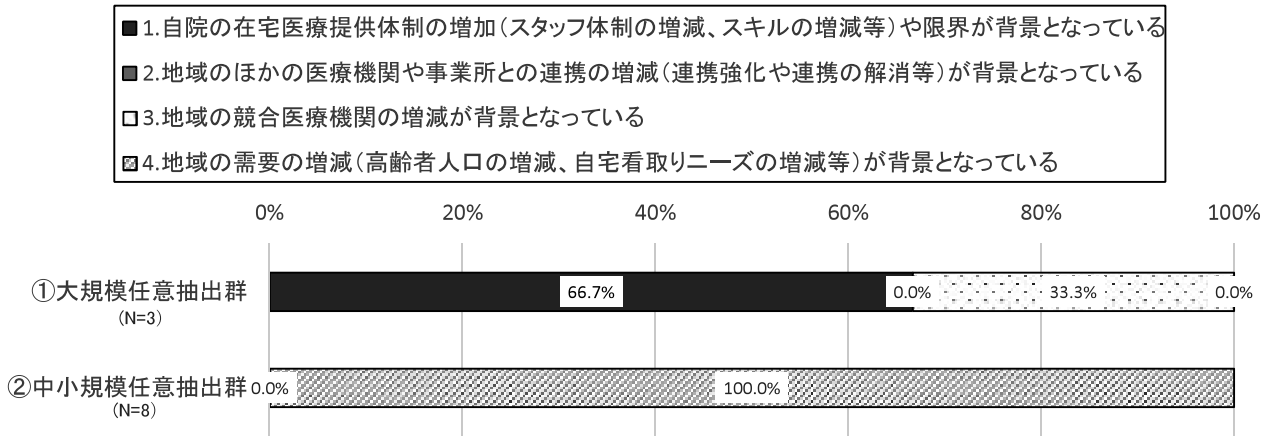
図 159　自宅看取り件数が増加した要因



iii. <u>自宅看取り件数が減少した背景</u>

①大規模任意抽出群では、自院の体制を挙げた回答が 66.7%、②中小規模任意抽出群では地域の需要の増減を挙げた回答が 100.0%で最も多かった。

図 160　自宅看取り件数が減少した背景



iv. 利用者数および自宅看取りとなった方の人数の推移

都市群ごとに見た期間ごとの状況は以下の通りであった。

図 161　訪問診療算定平均患者数

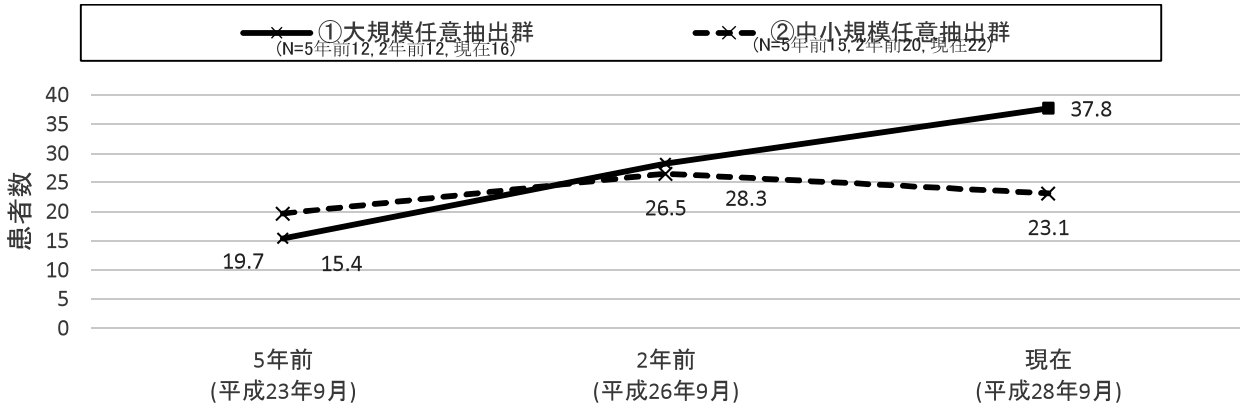


図 162　訪問診療算定患者のうち自宅で療養していた平均患者数

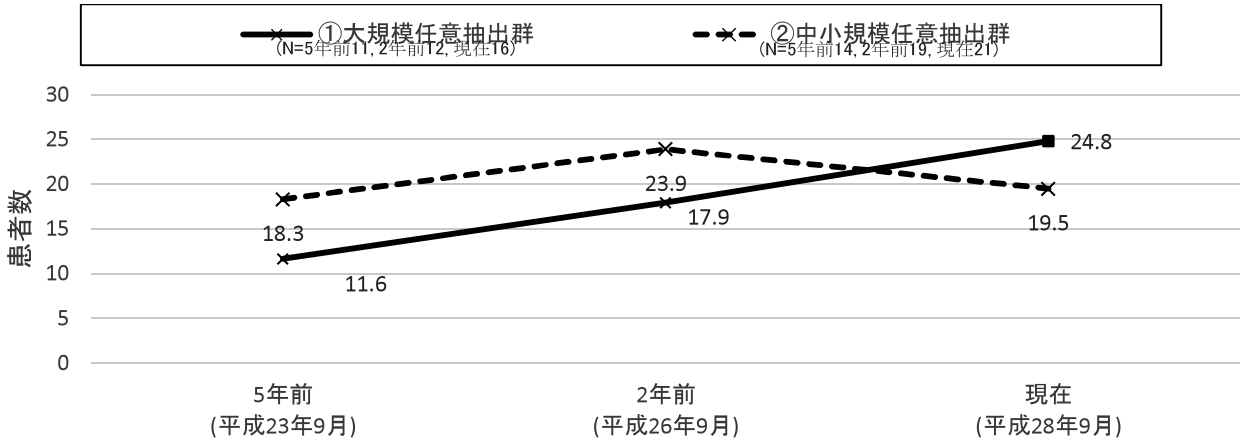


図 163　9 月中（月間）の自宅看取り平均患者数

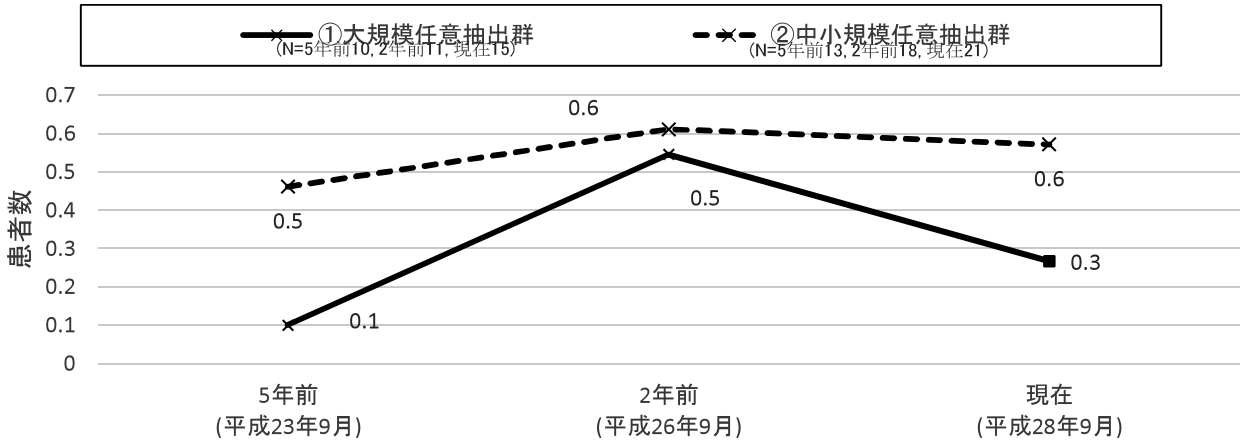
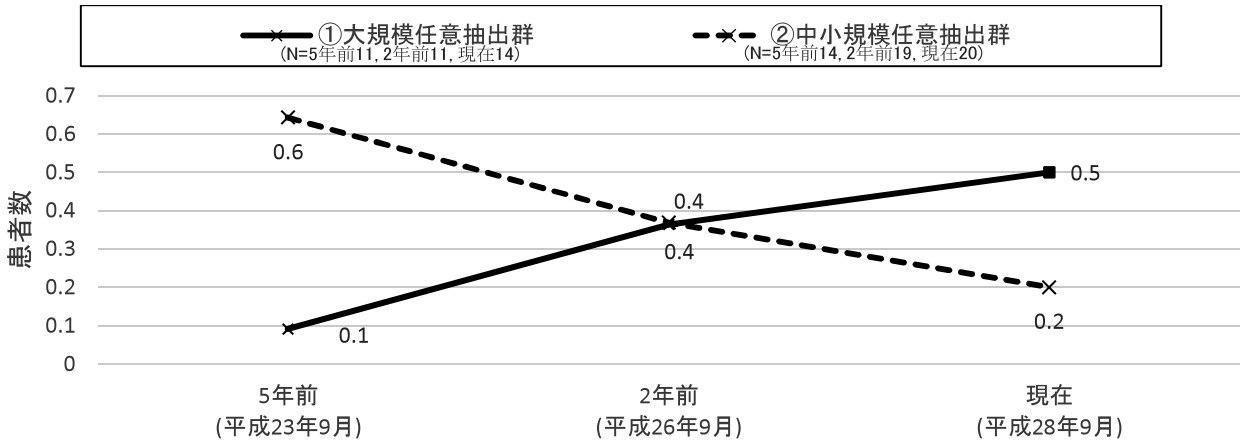


図 164　自宅で看ていたが自宅以外で看取りとなった平均患者数

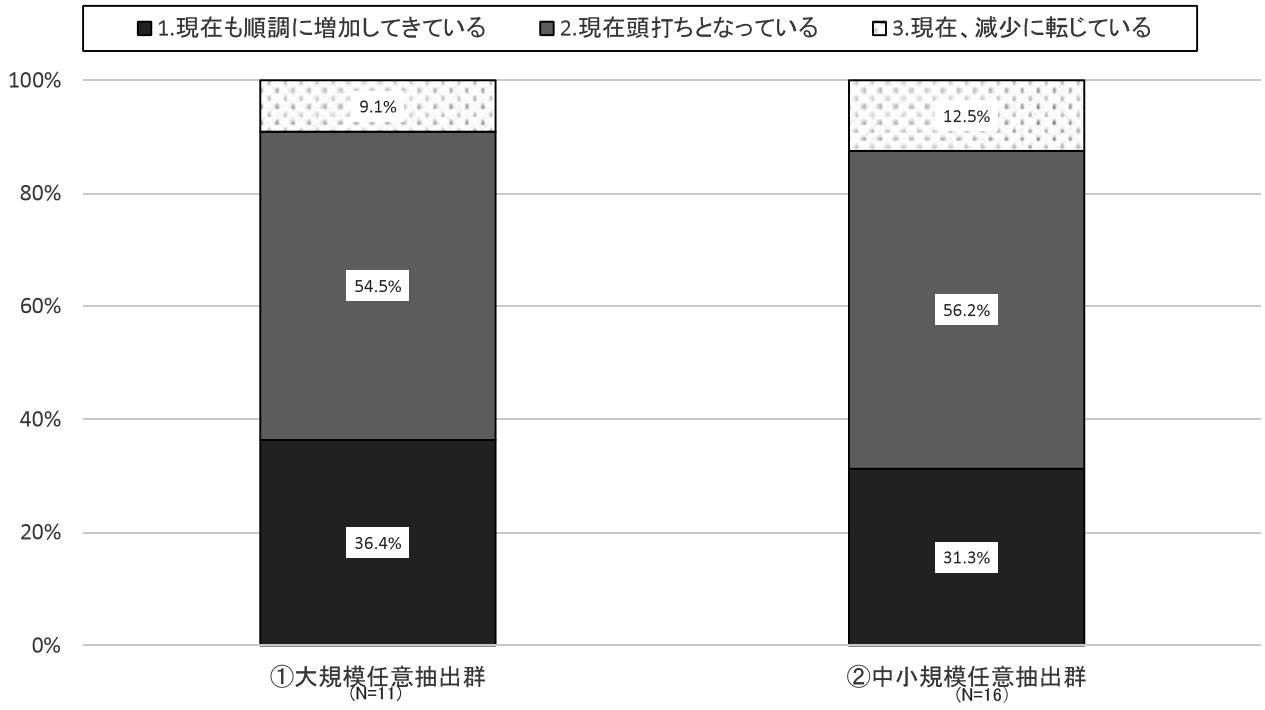


II. 訪問看護事業所

i. 現在までの自宅看取り件数の推移

両群で増加していると回答した割合は、減少していると回答した割合より多かったが、半数が頭打ちと回答している。

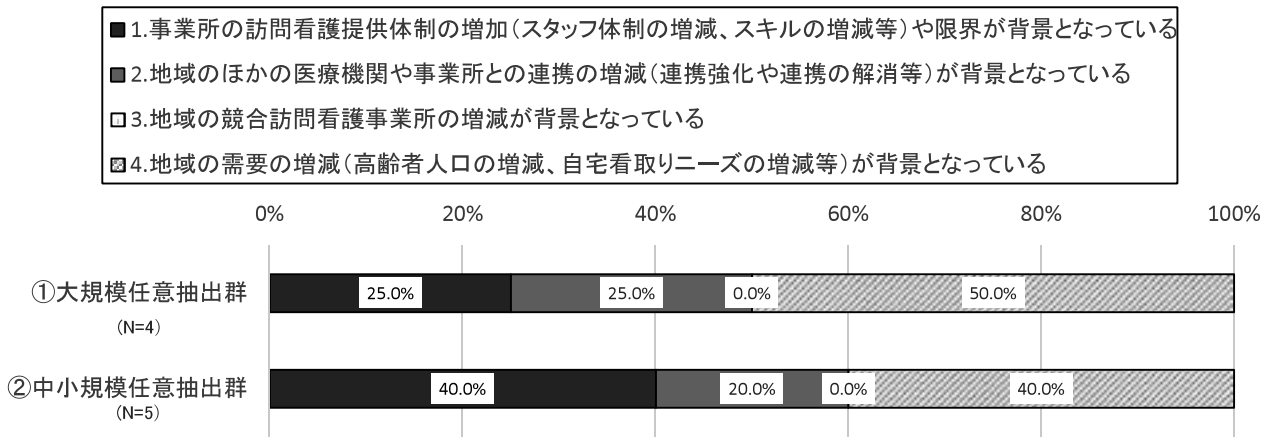
図 165　現在までの自宅看取り件数の推移



ii. 自宅看取り件数が増加した要因

両群で、地域の需要の増減を挙げた回答が最も多かった。

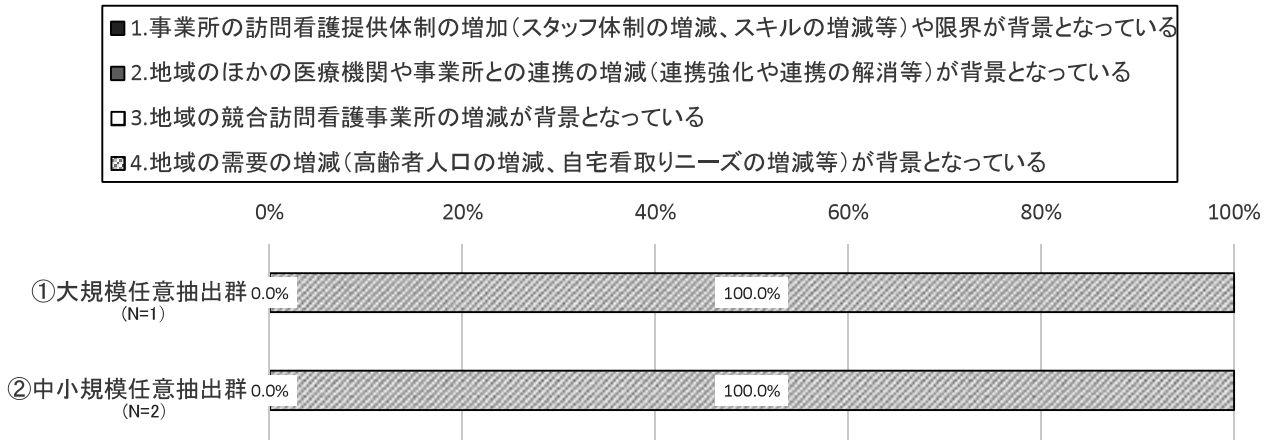
図 166　自宅看取り件数が増加した要因



iii. <u>自宅看取り件数が減少した背景</u>

両群で、地域の需要の増減を挙げた回答が最も多かった。

図 167　自宅看取り件数が減少した背景



iv. <u>利用者数および自宅看取りとなった方の人数の推移</u>

都市群ごとに見た事業所ごとの状況は以下の通りであった。

図 168　平均利用者数（介護保険）

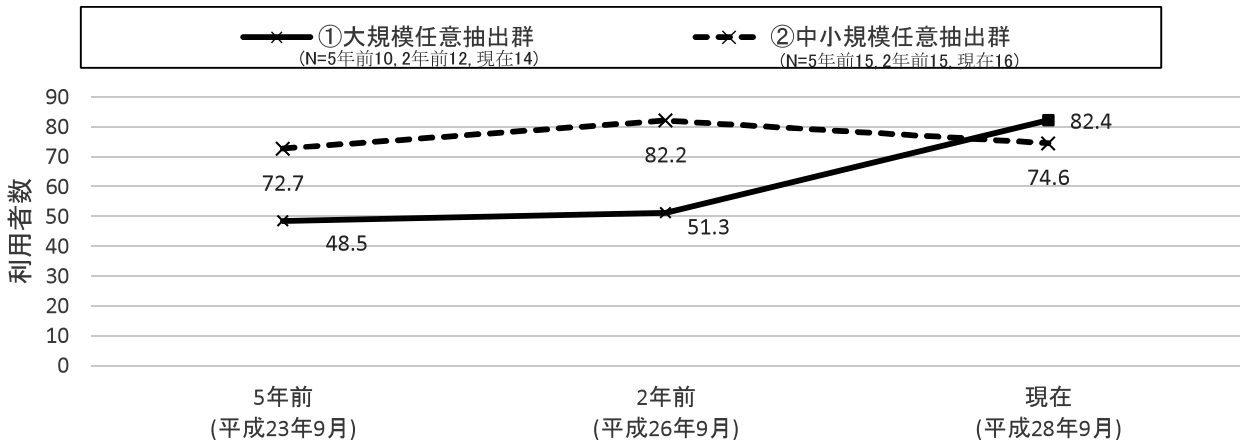


図 169　平均利用者数（医療保険）

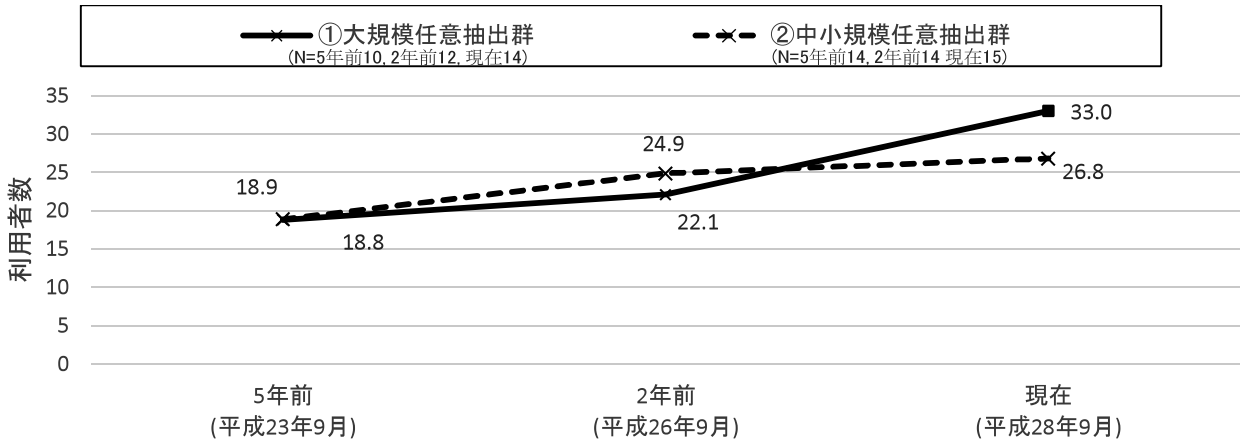


図 170　9 月中に自宅で看取りになった平均利用者数

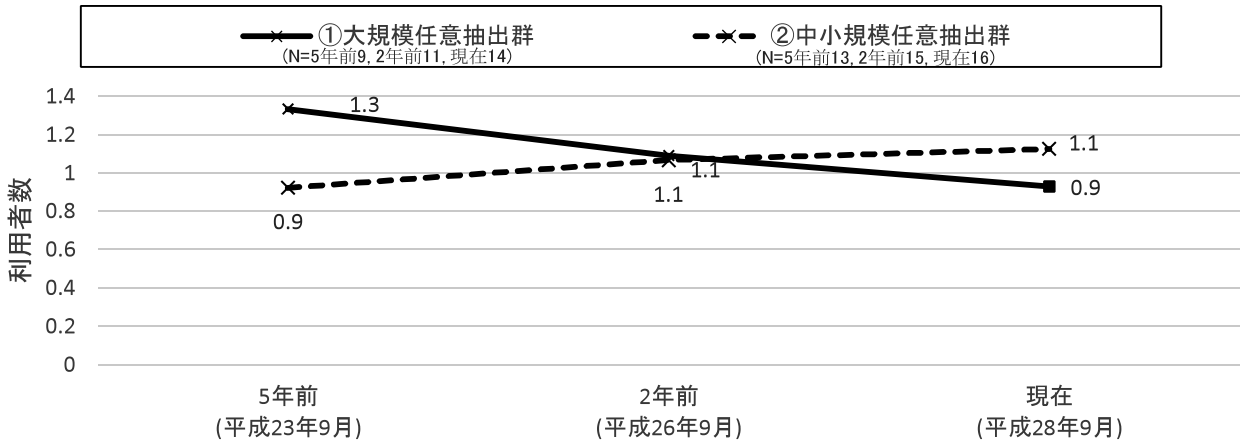
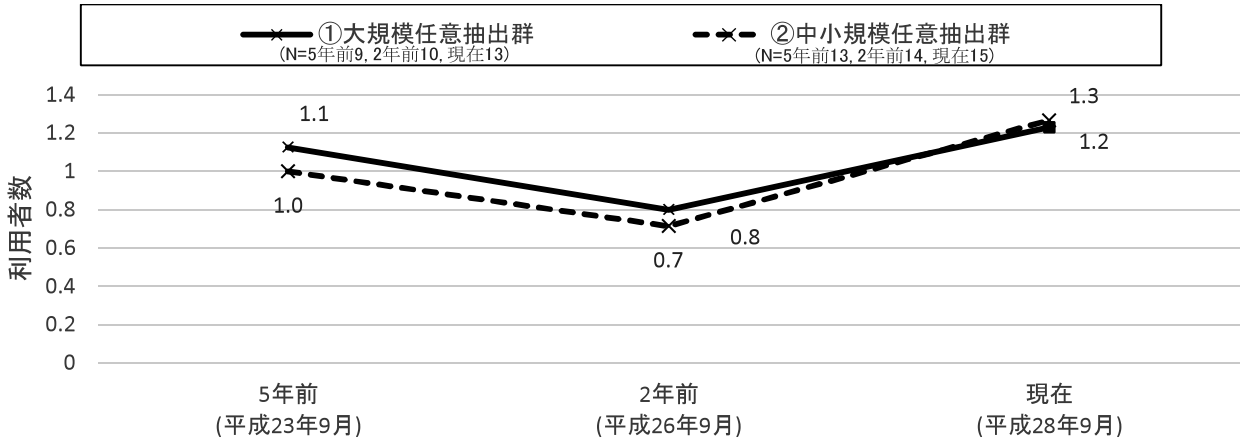


図 171　これまで訪問していたが 9 月中に自宅以外で看取りになった平均利用者数

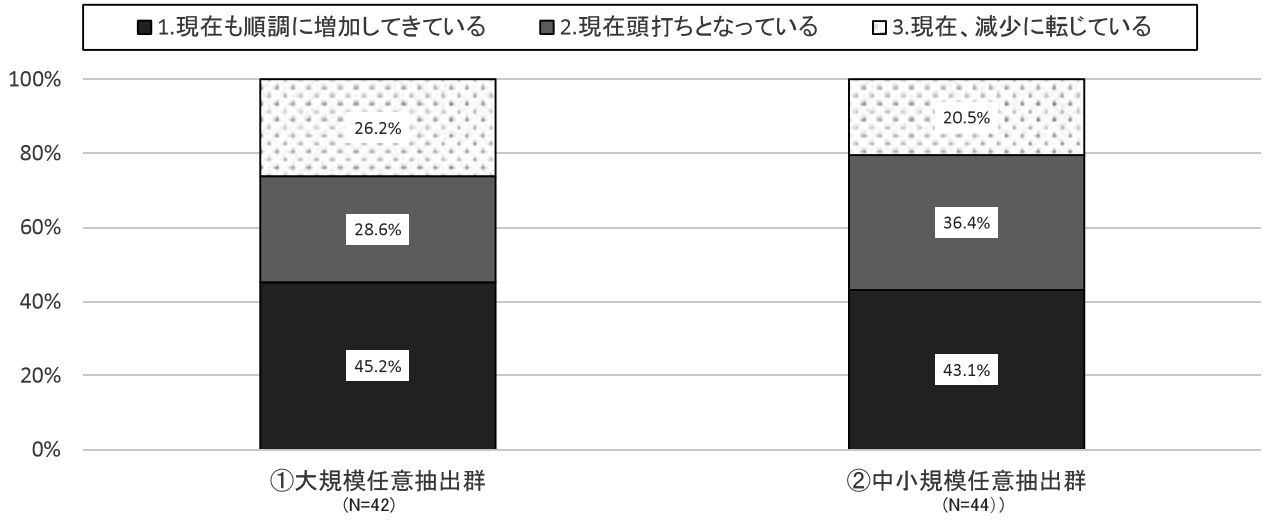


III. 居宅介護支援事業所

i. 現在までの自宅看取り件数の推移

両群で、増加していると回答した事業所が最も多かった。

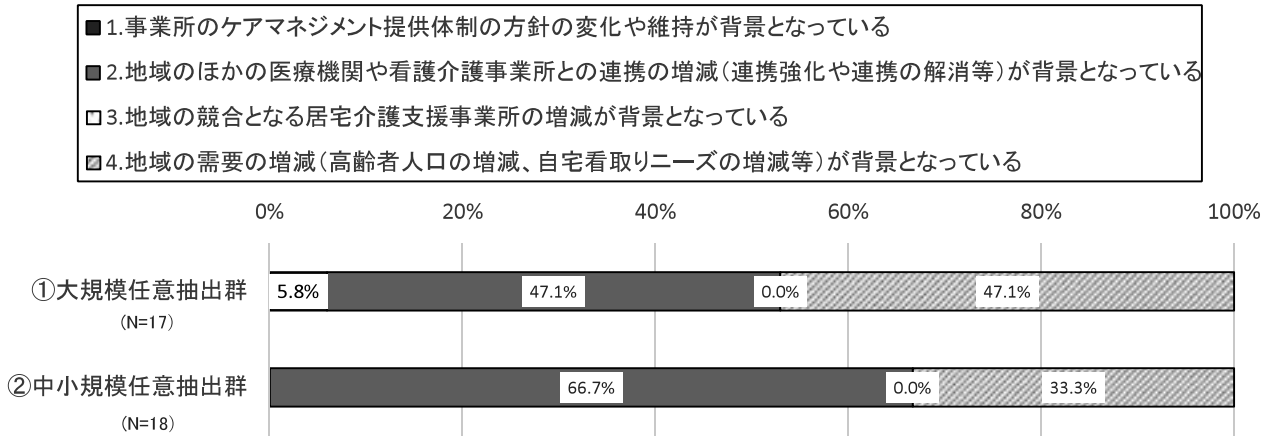
図 172　現在までの自宅看取り件数の推移



ii. 自宅看取り件数が増加した要因

両群で、ほかの医療機関や看護介護事業所との連携の増減を挙げた回答が最も多かった。

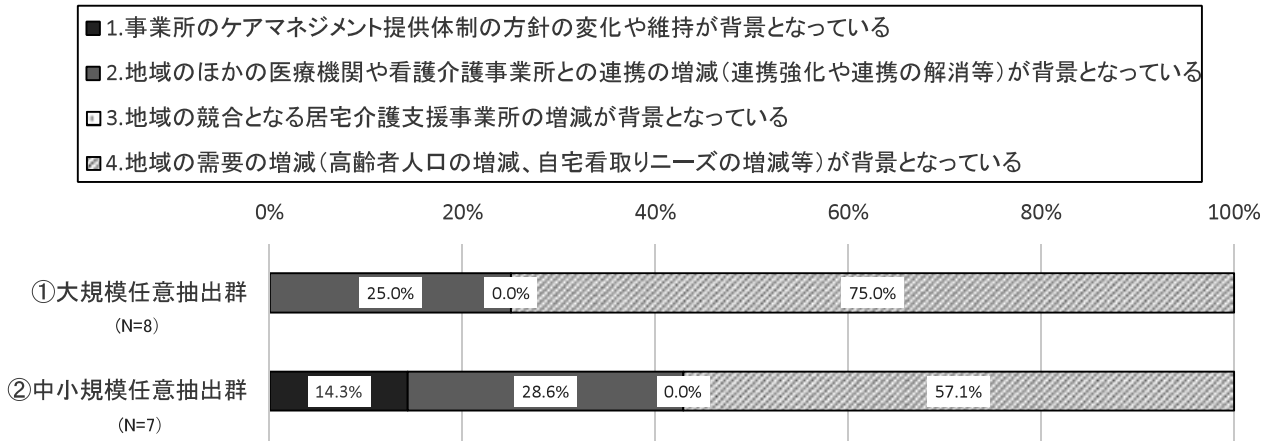
図 173　自宅看取り件数が増加した要因



iii. 自宅看取り件数が減少した要因

両群で、地域の需要の増減を挙げた回答が最も多かった。

図 174　自宅看取り件数が減少した要因



iv. <u>利用者数および自宅看取りとなった方の人数の推移</u>

都市群ごとに見た事業所ごとの状況は以下の通りであった。

図 175　9 月時点の利用者のうち訪問診療を受けながら在宅療養していた平均利用者数

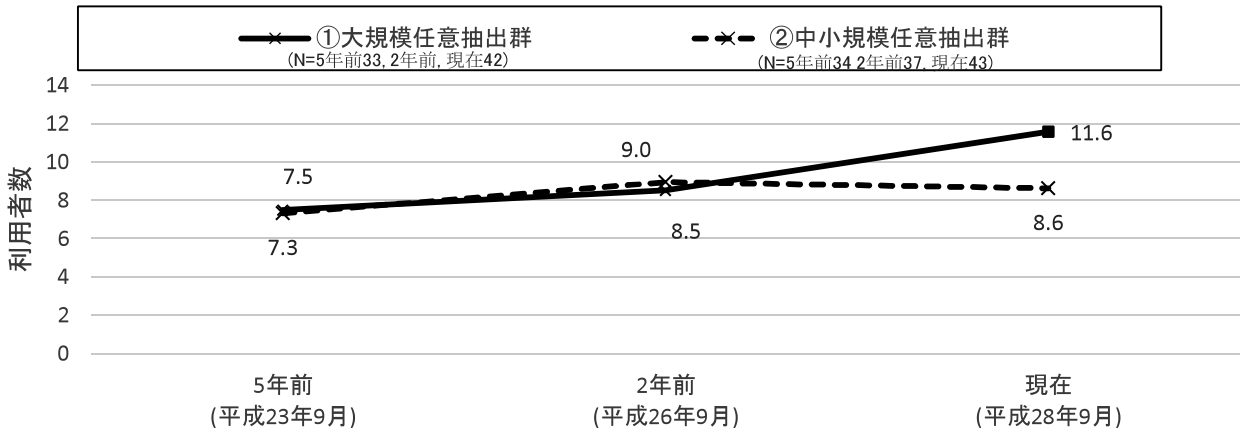


図 176　この 1 年間の利用者の自宅看取り平均件数

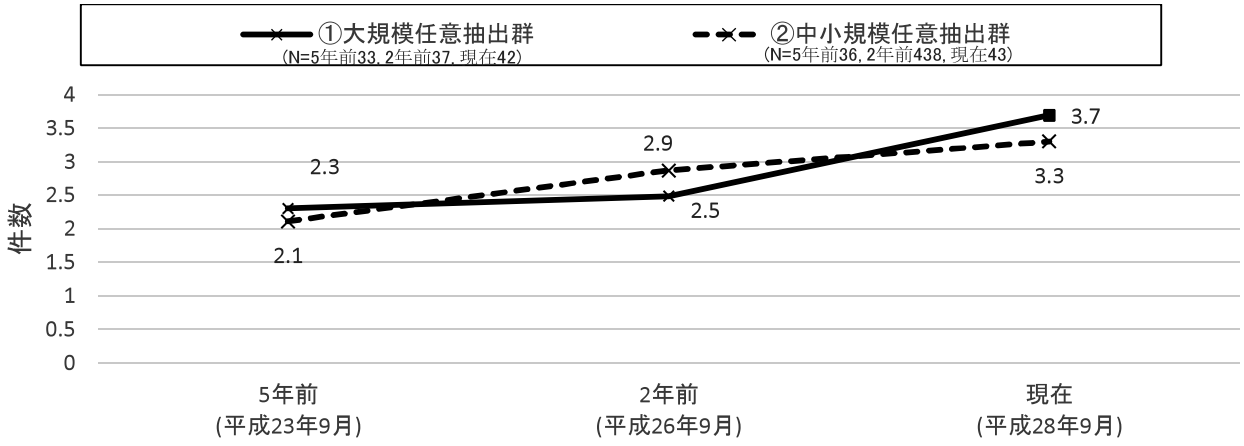
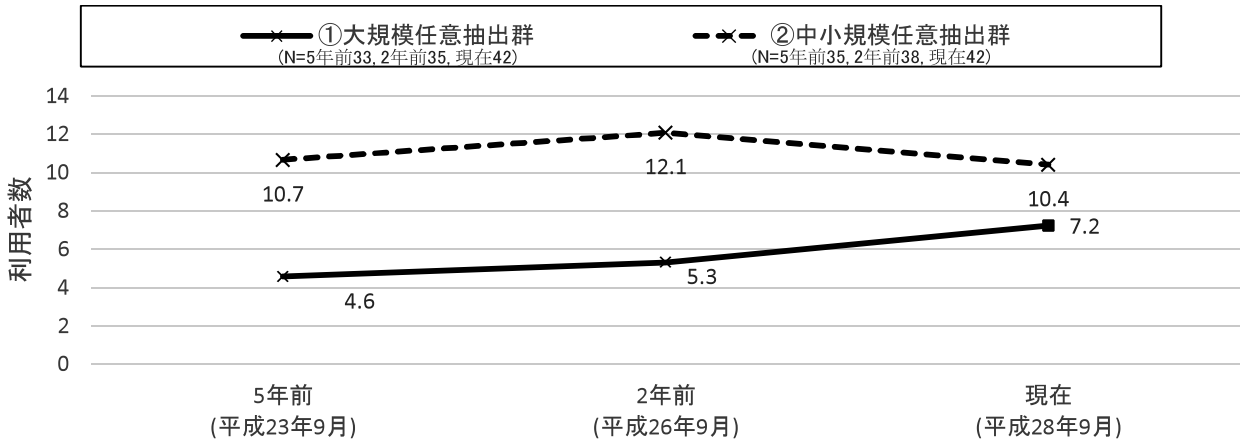


図 177　在宅療養していた人のうち途中から自宅以外へ移動した平均利用者数



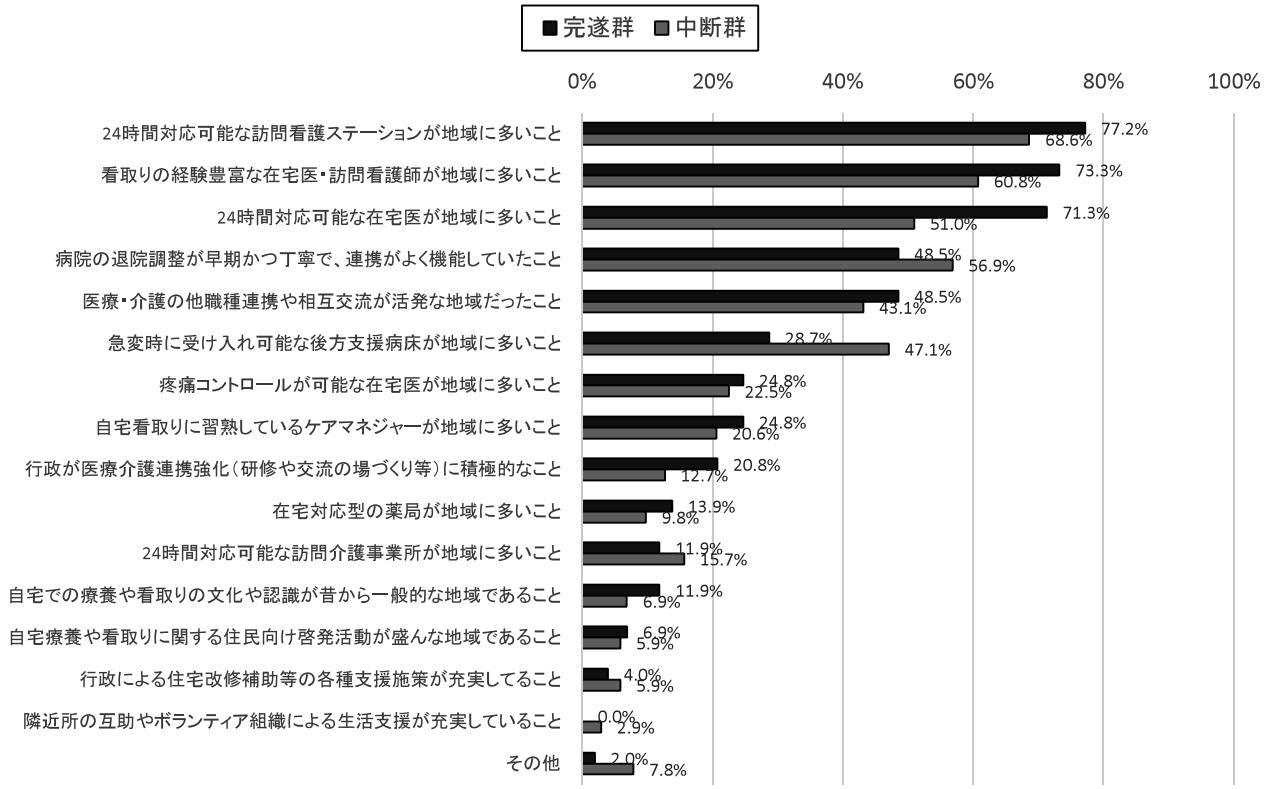
（４） 在宅療養関連事業所からみた自宅看取りとその中断の状況

Ⅰ. 地域の在宅療養の環境要因

i. 在宅療養の開始に寄与した居住地の要因

完遂群では、24 時間対応可能な訪問看護ステーションなど地域の医療資源を理由に挙げた回答が多く、中断群との差が見られた。また急変時に受け入れ可能な後方支援病床を挙げた回答では、中断群が完遂群を 18.4 ポイント上回った。

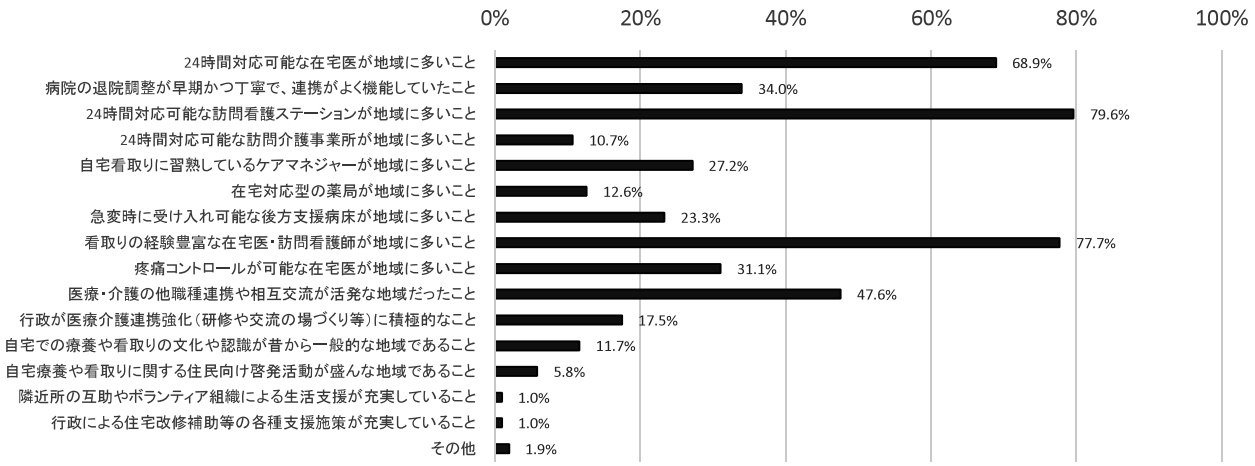
図 178　在宅療養の開始に寄与した居住地の上位 5 つの要因（複数回答）
（N=完遂群 101，中断群 102）



ii. 自宅看取りに寄与した要因

自宅看取りに寄与した要因では、24 時間対応可能な訪問看護ステーションが地域に多いことを挙げた回答が 79.6%で最も多かった。

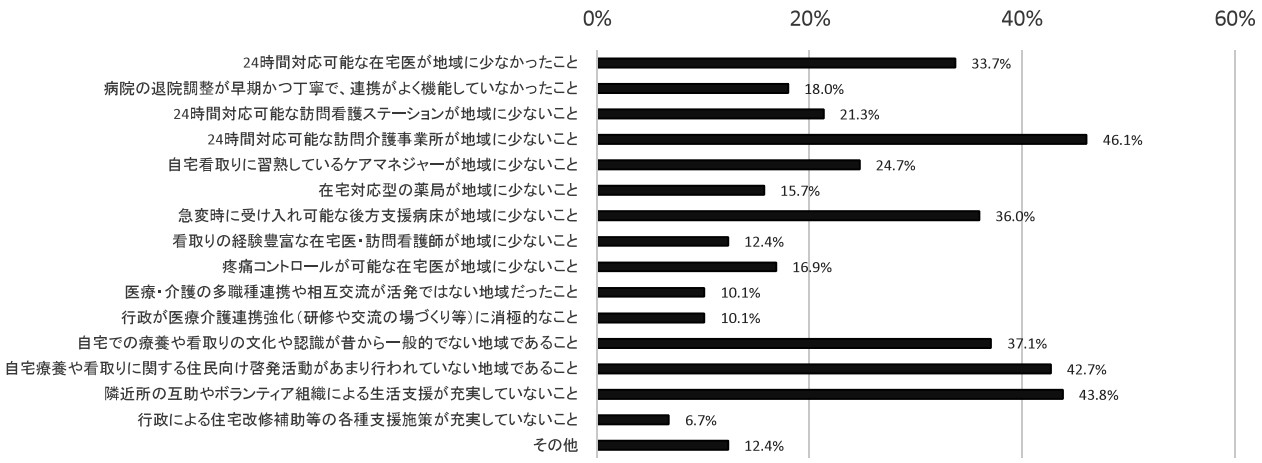
図 179　自宅看取りができたことに寄与した上位 5 つの要因（複数回答）
（N=103）



iii. 自宅看取りの阻害要因

阻害要因では、24 時間対応可能な訪問介護事業所が地域に少ないことや、隣近所の互助やボランティア組織による生活支援が充実していないこと、次いで住民向けの啓発活動が充分でなかったとする回答が多かった、

図 180　自宅看取りの阻害となった上位 5 つの要因（複数回答）
（N=89）



II. 自宅看取りと中断の状況

i. 基礎属性

① 性別

【完遂群】②中小規模任意抽出群では、女性の方が 17 ポイント多い。

【中断群】①大規模任意抽出群では、男性の方が 11.6 ポイント多い。

図 181 【完遂】基本属性：性別

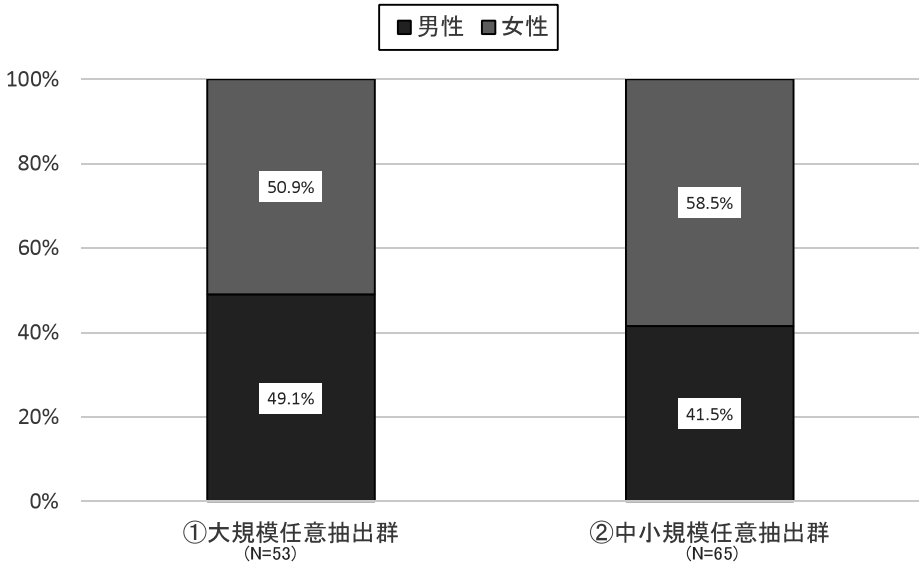
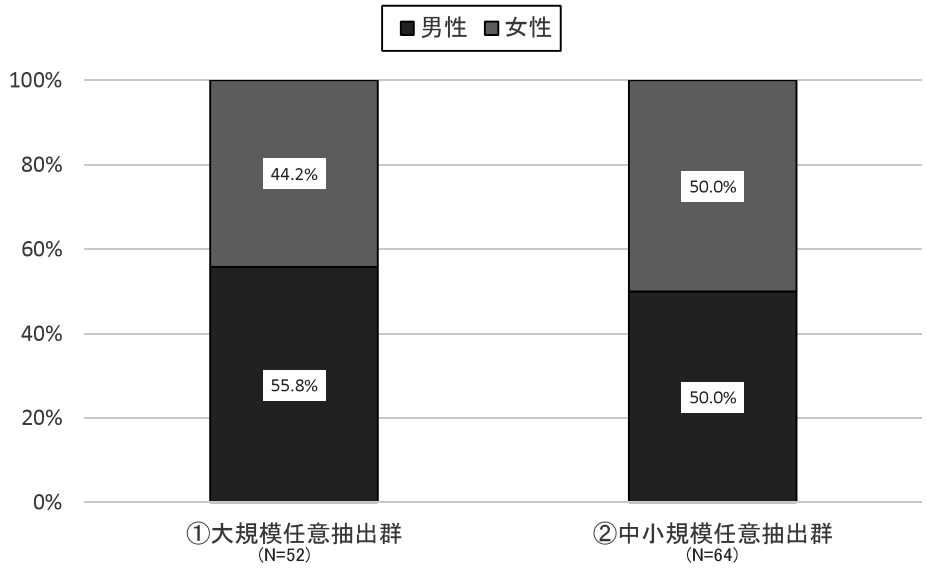


図 182 【中断】基本属性：性別



② 退院時、看取りまたは在宅療養中断時の年齢

完遂群の②中小規模任意抽出群は、中断群を含め、他の群よりも退院時の年齢が高い。

図 183　【完遂群】退院時、看取り時の平均年齢

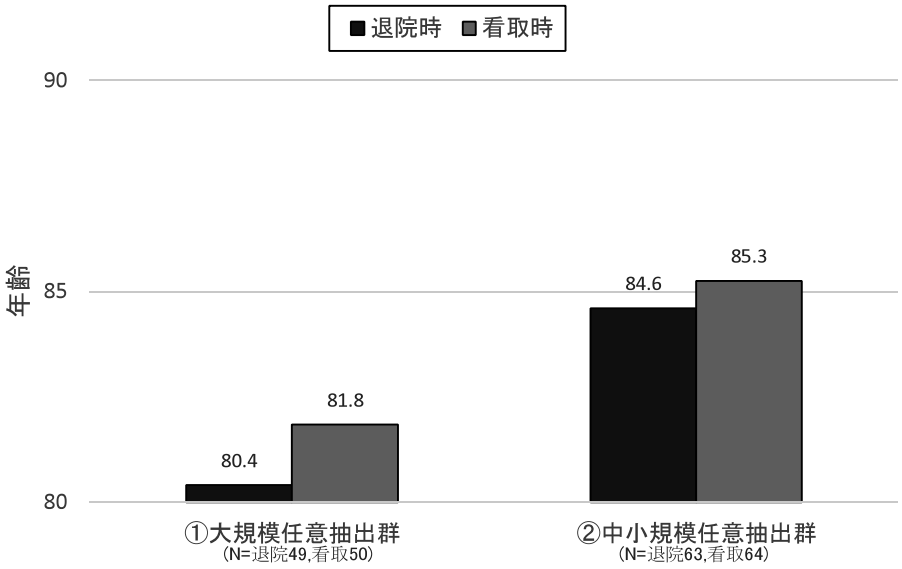
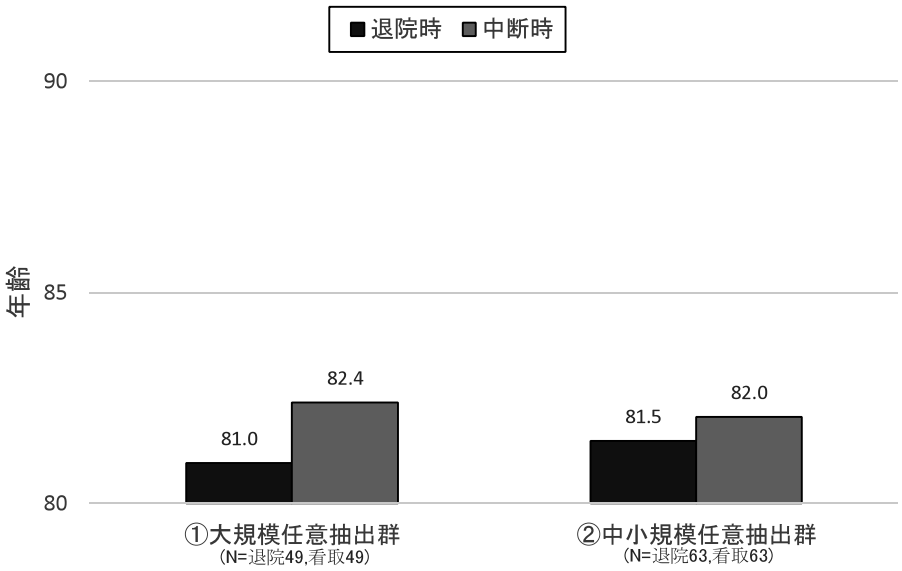


図 184　【中断群】退院時、在宅療養中断時の平均年齢



ii. 状態像の比較

① 在宅療養のきっかけとなった主病名、在宅療養開始時に必要だった医療処置

在宅療養のきっかけとなった主病名は両群で悪性新生物が最多であった。また、在宅療養開始時に必要だった医療処置では疼痛管理が両群で最多であった。

図 185　在宅療養のきっかけとなった上位 3 つの主病名
（N=完遂群 118 中断群=114）

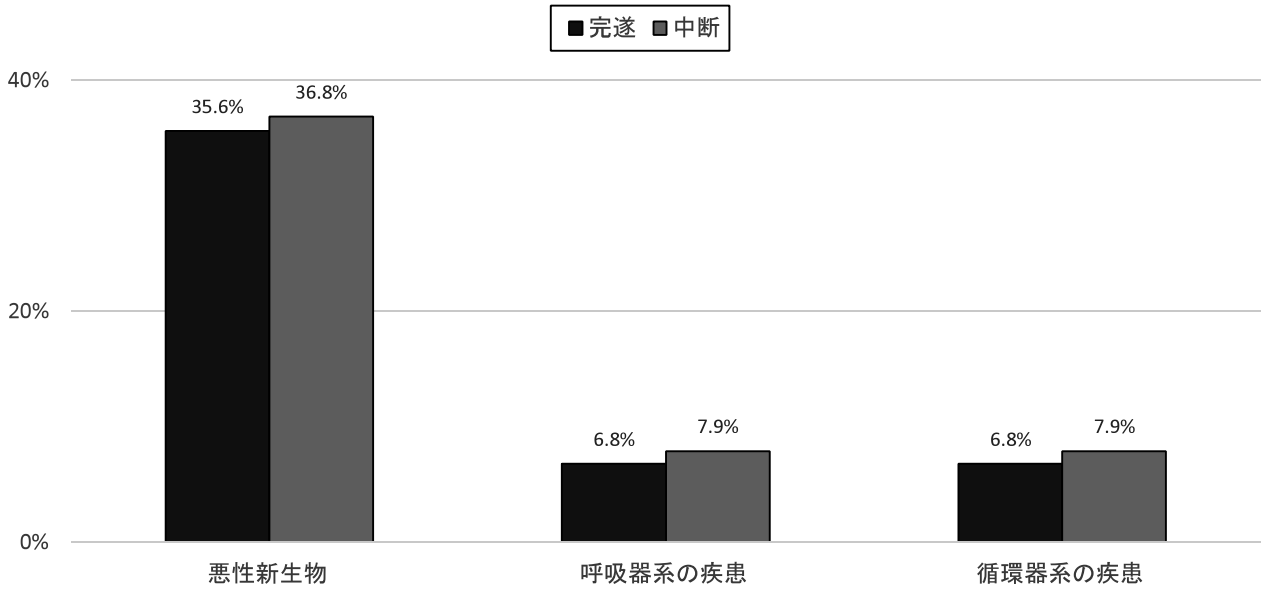
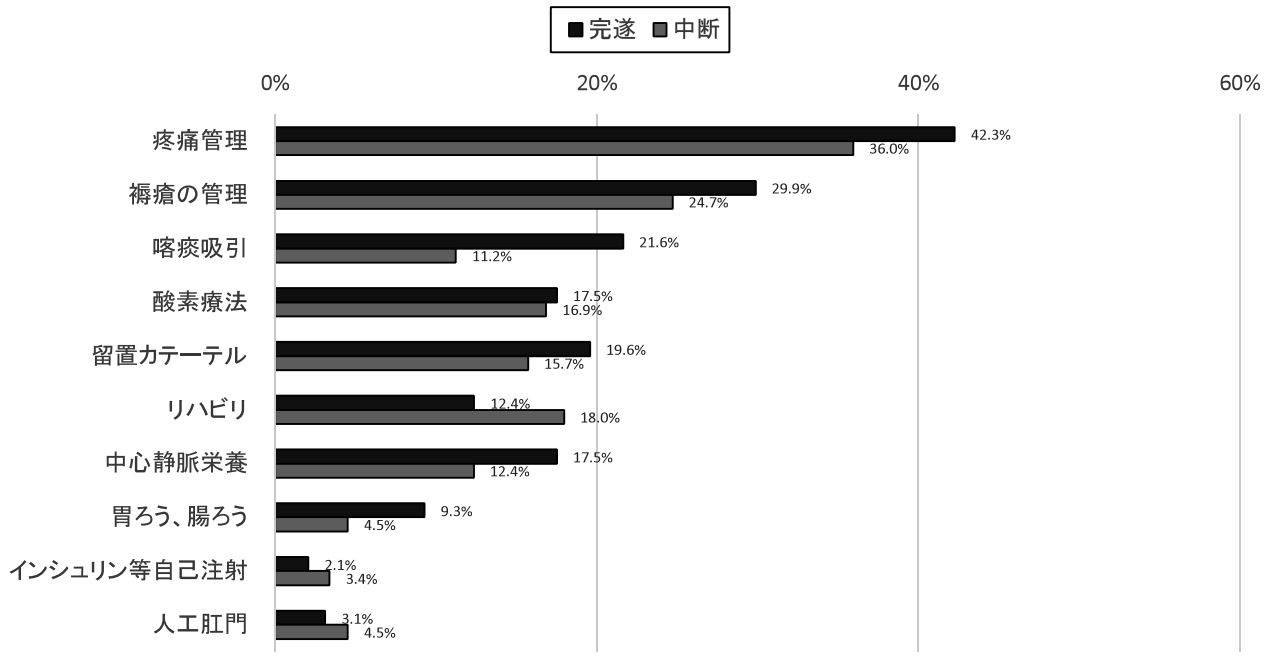


図 186　在宅療養開始時に必要だった上位 10 種類の医療処置（複数回答）
（N=完遂群 97, 中断群=89）



② 在宅療養開始時の介護度、ADL（全介助）

在宅療養開始時では、完遂群の方が中断群よりも状態が悪い。

図 187　在宅療養開始時の介護度 4･5 の割合
（N=完遂群 116, 中断群 114）

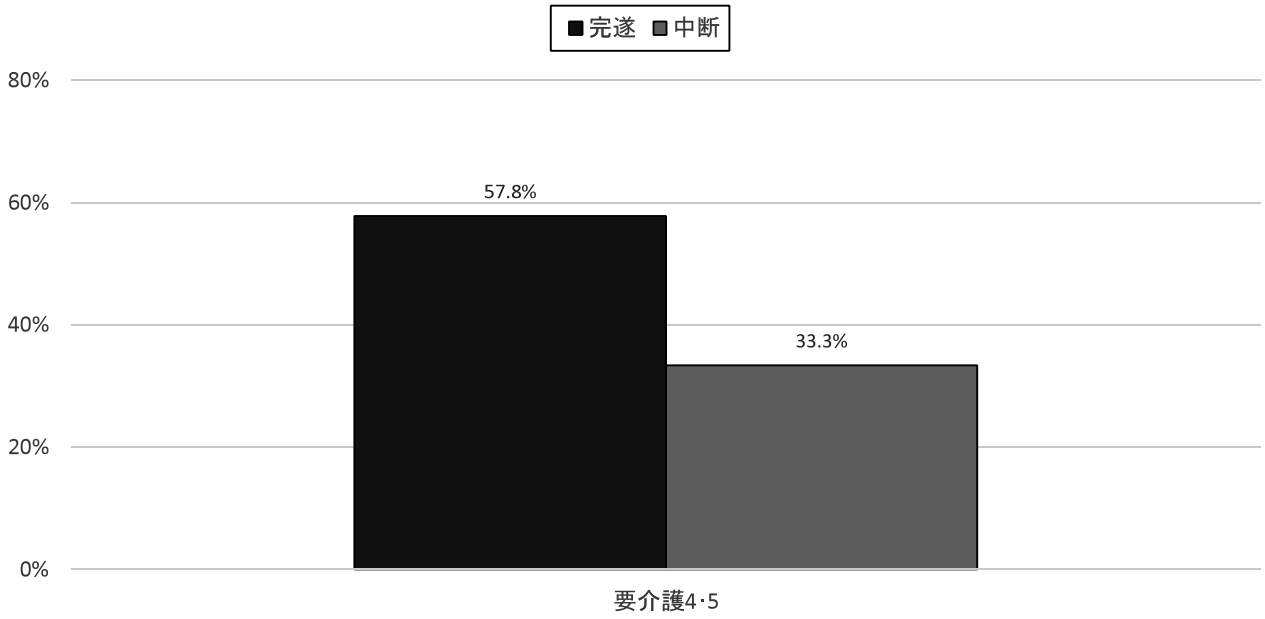
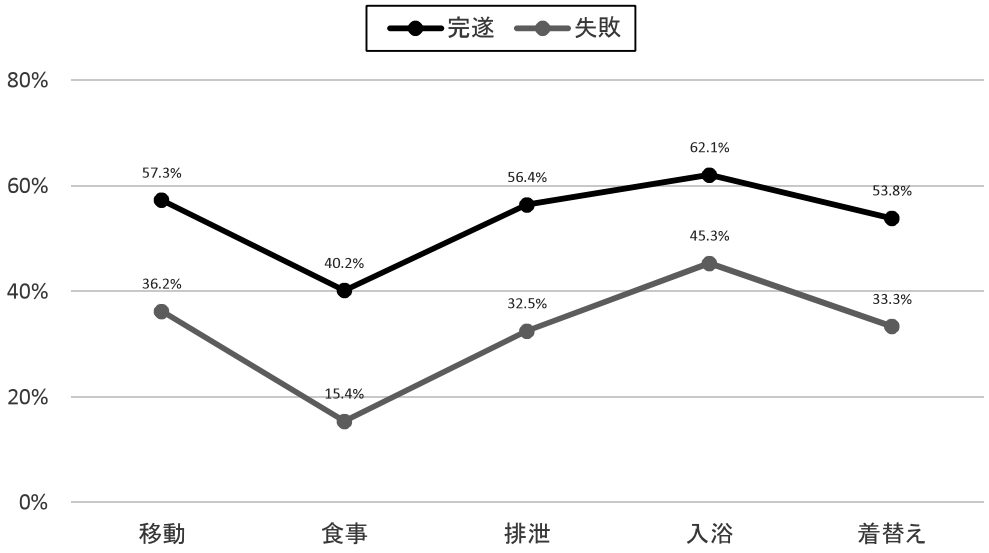


図 188　在宅療養開始時の ADL 全介助の割合
（N=完遂群：移動 117, 食事 117, 排泄 117, 入浴 116, 着替 117）
（N=中断群：移動 116, 食事 117, 排泄 117, 入浴 117, 着替 117）

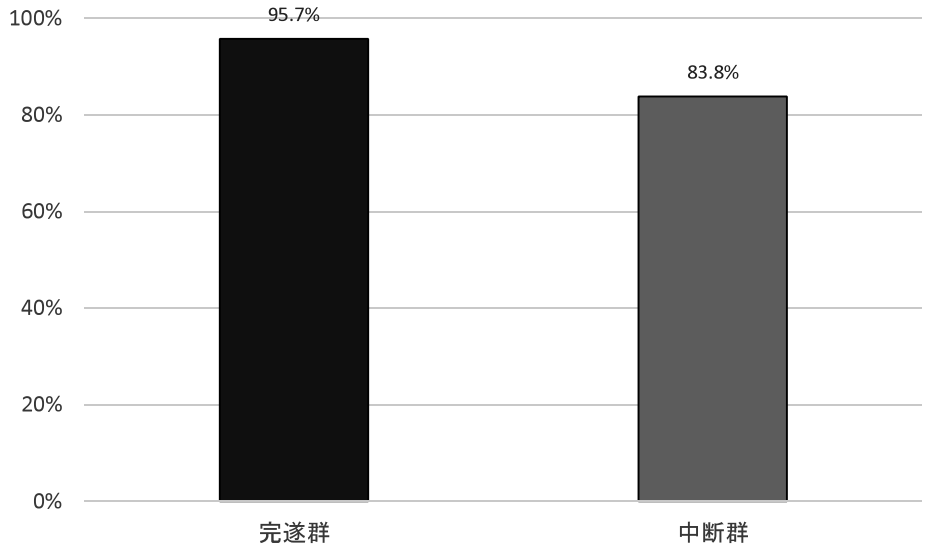


iii. 家族状況

① 同居人の有無

完遂群の 95.7%に同居人がいた。

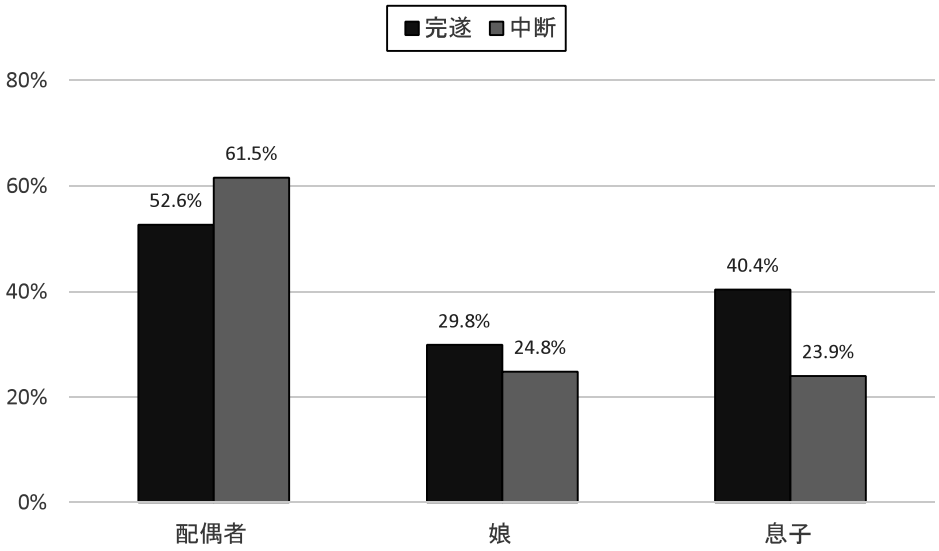
図 189　同居人の有無
（N=完遂群 117, 中断群 117）



② 同居人の種類

両群で配偶者と同居していると回答が最も多かったが、完遂群では 52.6%、中断群では 61.5%であり、中断群の方が配偶者と同居している割合が高かった。

図 190　在宅療養開始時の同居人の種類（複数回答）
（N=完遂群 114, 中断群 117）

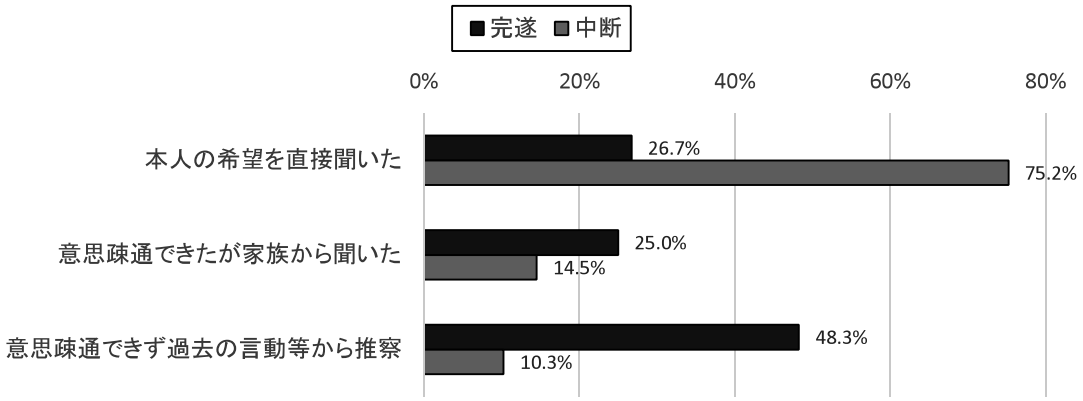


iv. 本人・家族の意向

① 在宅療養開始時の本人と医療従事者の意思疎通の状況

完遂群では、意思疎通できずに過去の言動から推察した割外が 48.3%で最も多く、中断群では本人の希望を直接聞いたが 75.2%で最も多かった。

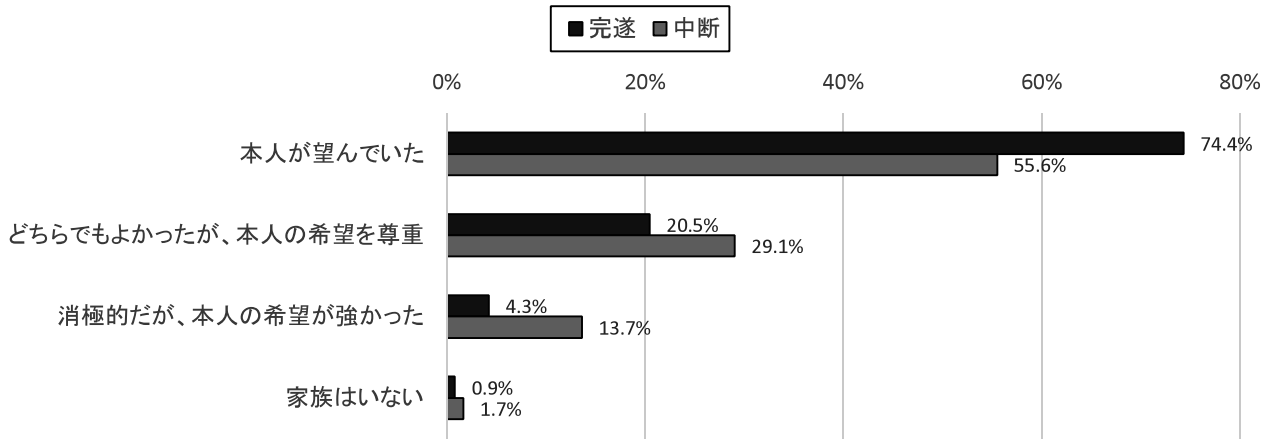
図 191　在宅療養開始時の本人医療従事者の意思疎通の状況
（N=完遂群 116, 中断群 117）



② 在宅療養開始人家族の意向

両群で本人が望んでいたと回答した割合が最も高かったが、完遂群では中断群に 18.8 ポイントの差を付けて上回った。

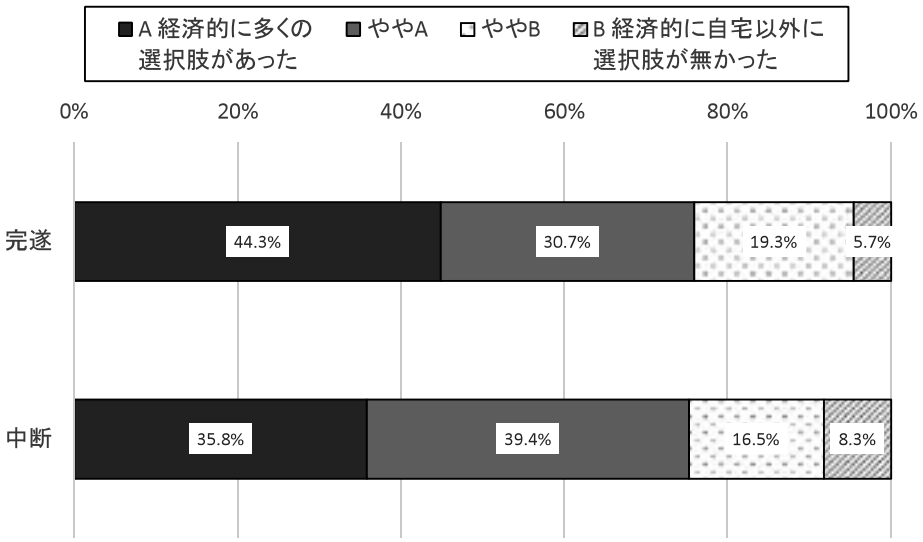
図 192　在宅療養開始時の家族の意向
（N=完遂群 117, 中断群 117）



v. 経済状況

両群で、経済的に多くの選択肢があるなかで在宅療養を選択したと回答した割合が過半数以上を占めた。

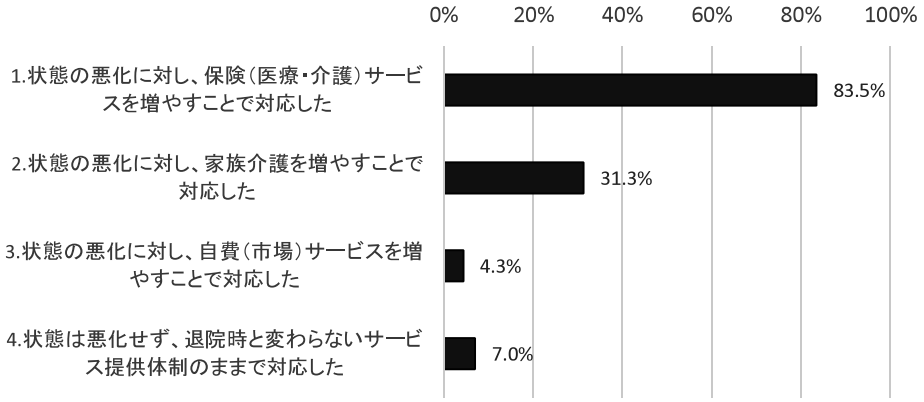
図 193　自宅復帰の希望と経済力の関係
（N=完遂群 88, 中断群 109）



vi. サービス利用状況（完遂群のみ）

状態の悪化に対して保険サービスを増やすことで対応したと回答した割合が 83.5%で最も多かった。

図 194　状態の推移に伴う介護サービスの提供量の変化への対応方法（複数回答）
（N=115）



vii. 看取りをめぐる想定

① 在宅療養開始時に、看取りや療養中の入院を想定していたかどうか。

看取りを想定していたかどうかでは、完遂群では、在宅療養開始時に看取りまで想定していたと回答した割合が 46.7%であったのに対し、中断群では 11.8%であり両群の間に差が開いた。また想定していなかったと回答した割合では、完遂群 14.4%、中断群は 42.7%であり、両群の間に差が開いた。

在宅療養開始時に在宅療養中に入院するかどうかを決めていたかでは、完遂群では、入院しないと回答した割合が 30.7%であったのに対し、中断群では 8.3%であり両群の間に差が開いた。また必要に応じて入院すると回答した割合では、完遂群 16.8%、中断群は 60.6%であり、両群の間に差が開いた。

図 195　在宅療養開始時に看取りまで想定していたか
（N=完遂群 90，中断群 110）

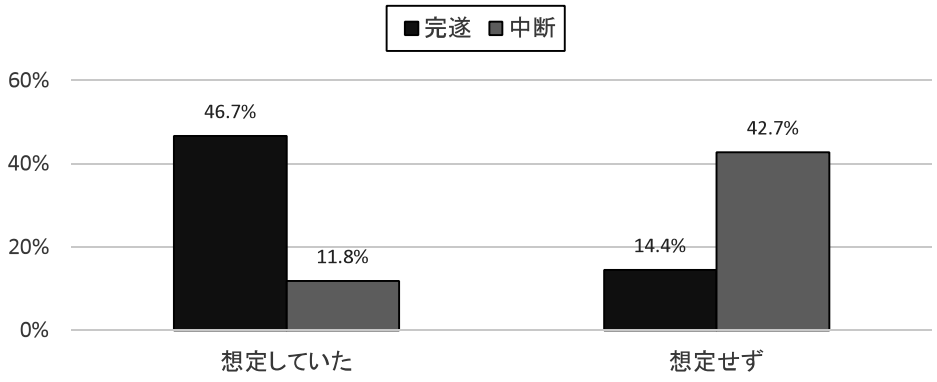
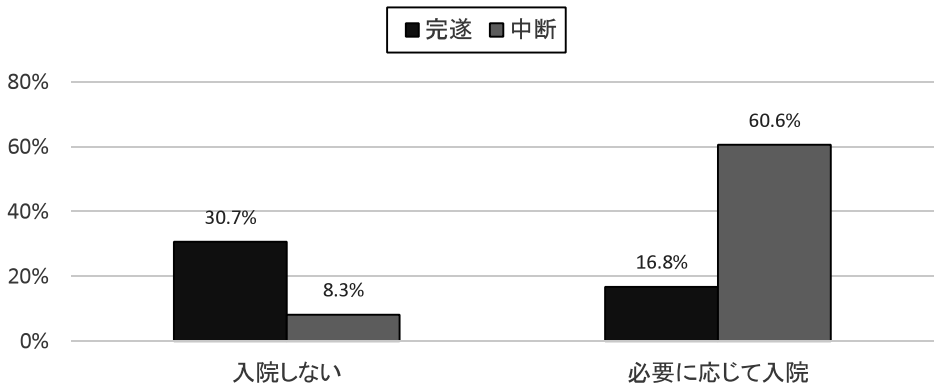


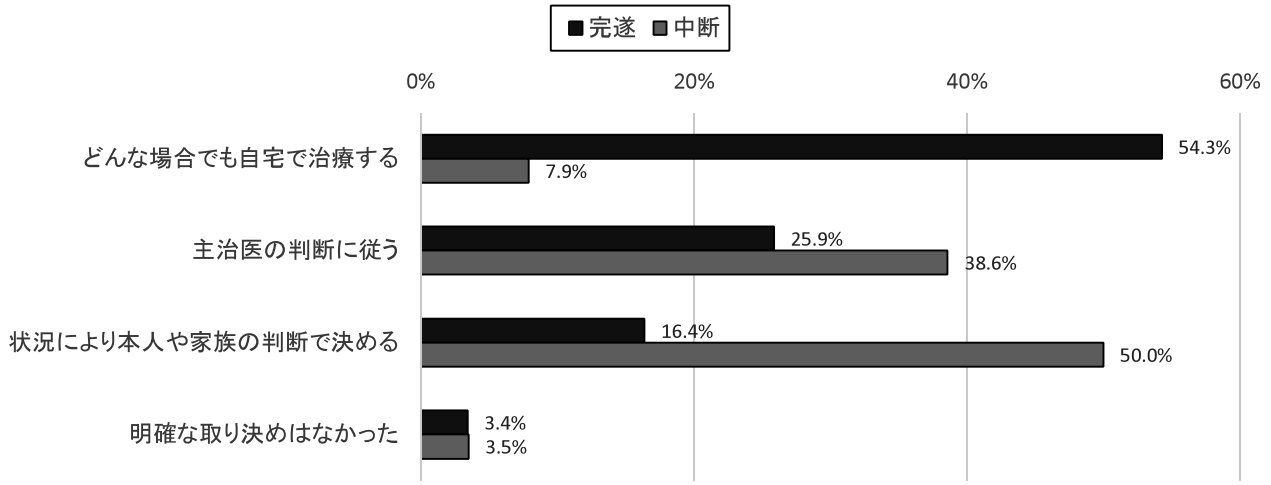
図 196　在宅療養開始時に在宅療養中に入院するか決めていたか
（N=完遂群 101，中断群 109）



viii. <u>緊急搬送が必要になった時の取り決め</u>

完遂群では、どんな場合でも自宅で治療すると回答した割が 54.3%と高く、中断群では状況により本人や家族の判断で決めると回答した割合が 50.0%と最も多かった。

図 197　緊急搬送が必要になった時の取り決め
（N=完遂群 116，中断群 114）

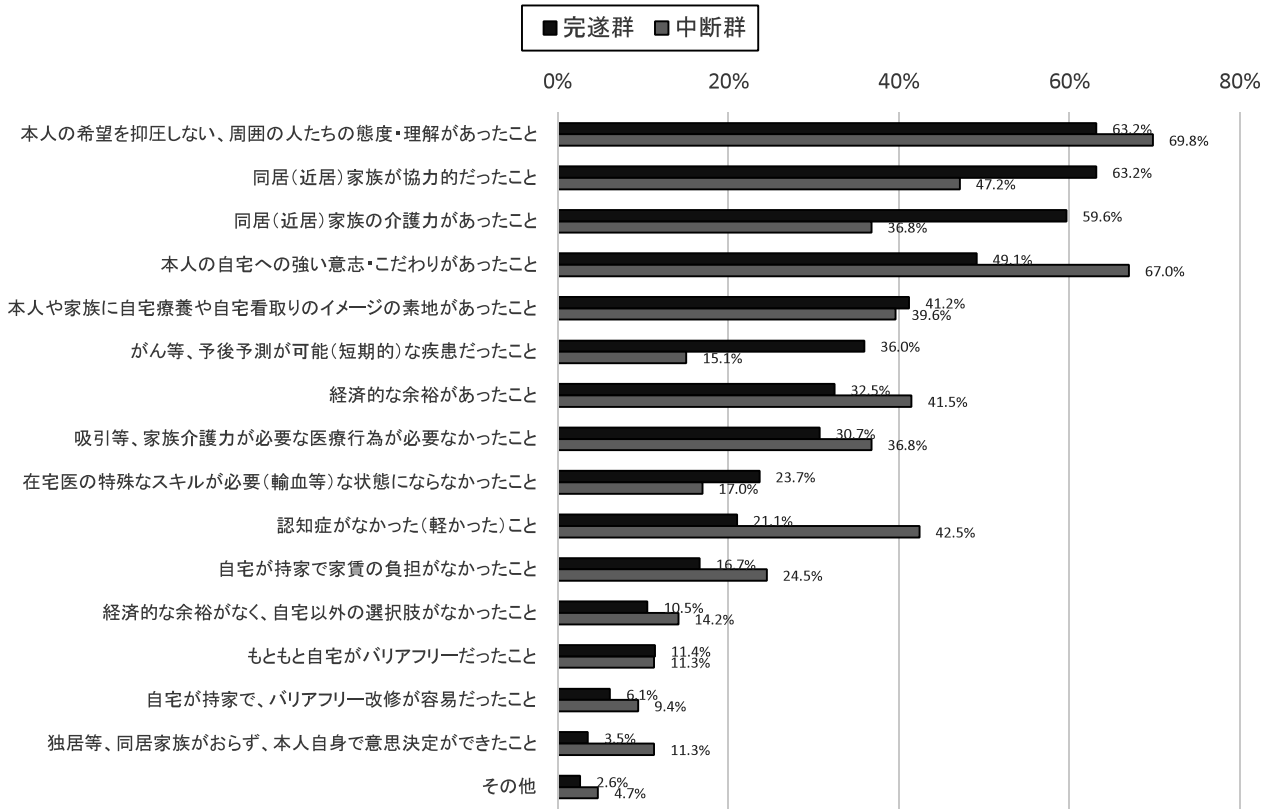


III. 自宅復帰と療養中断に至る過程

i. 在宅療養を開始に寄与した本人・家族の要因

同居の家族の介護力があったこと、本人の自宅への強い意志・こだわりがあったこと、認知症がなかった（軽かった）ことで、両群に差が見られた。

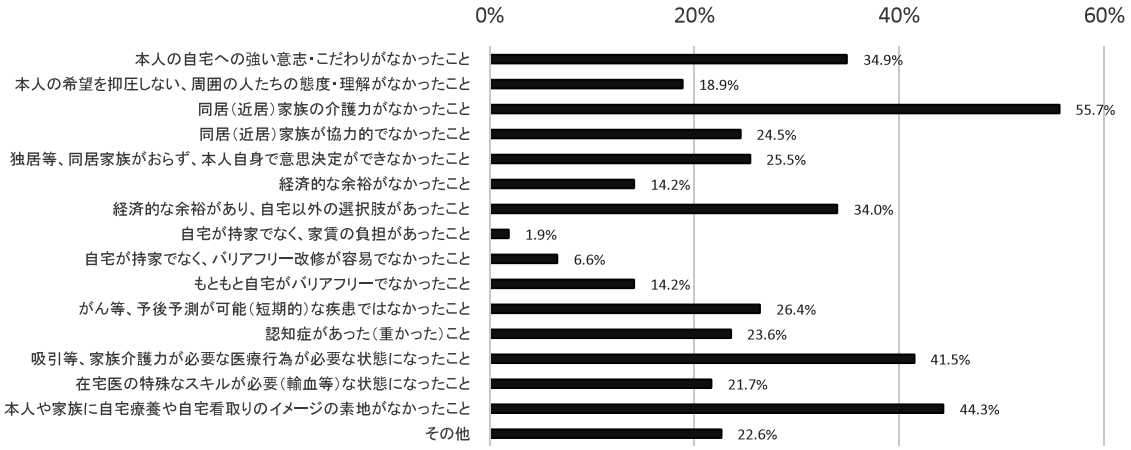
図 198　在宅療養開始できたことに寄与した本人・家族の要因（複数回答）
（N=完遂群 114, 中断群 106）



ii. 自宅看取りの阻害要因となった本人・家族の要因

同居（近居）家族の介護力がなかったこと、吸引等、家族介護力が必要な医療行為が必要な状態になったこと、本人や家族に在宅療養や自宅看取りのイメージの素地がなかったことを挙げた回答が多く見られた。

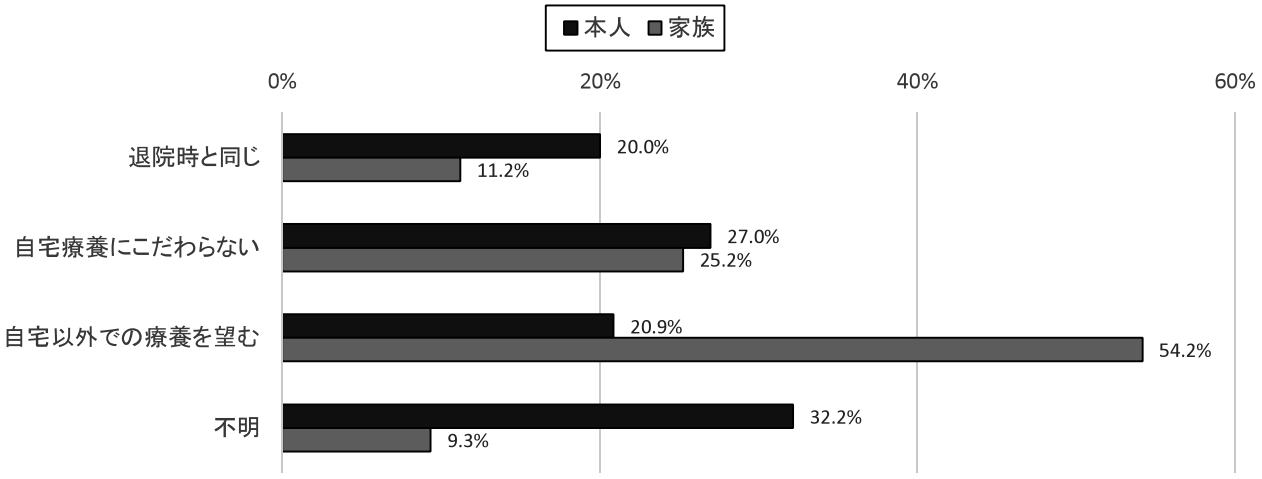
図 199　自宅看取りの阻害要因となった本人・家族の上位 5 つの要因（複数回答）
（N=106）



iii. 在宅療養に対する本人・家族の意識の変化

本人と家族の意識の変化を比較すると、本人が自宅以外での療養を望むと回答したのは 20.9%、家族では 54.2%であり、家族が自宅以外での療養を強く望んだことが分かる。

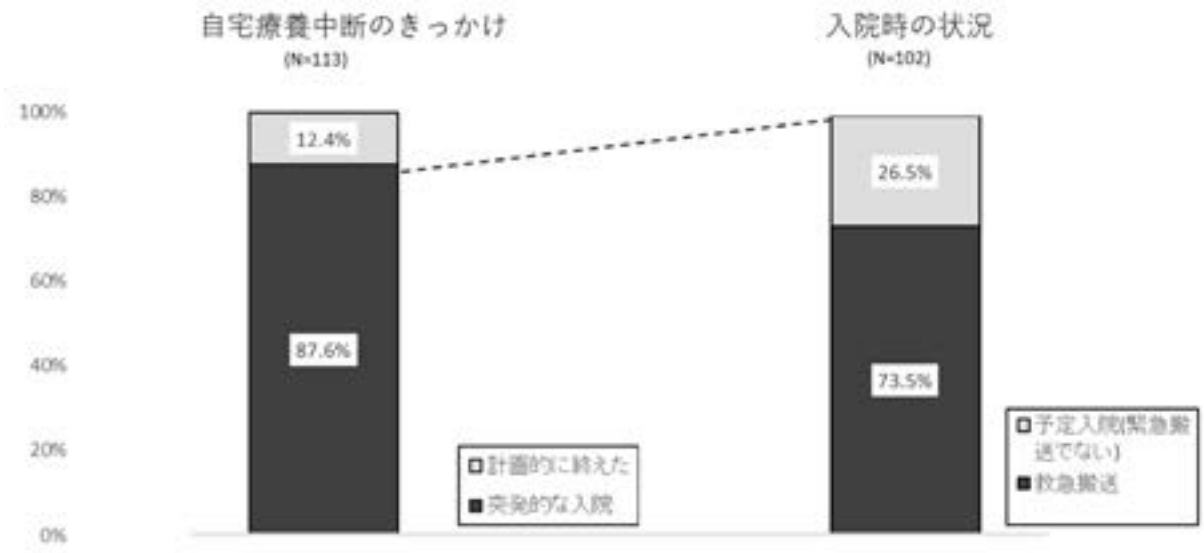
図 200　在宅療養に対する本人・家族の意識の変化
（N=本人 115, 家族=107）



iv. <u>在宅療養中断のきっかけ、入院時の状況</u>

在宅療養中断は、多くの場合で救急搬送による突発的な入院がきっかけになっている。

図 201 在宅療養中断のきっかけ、突発的な搬送時の状況

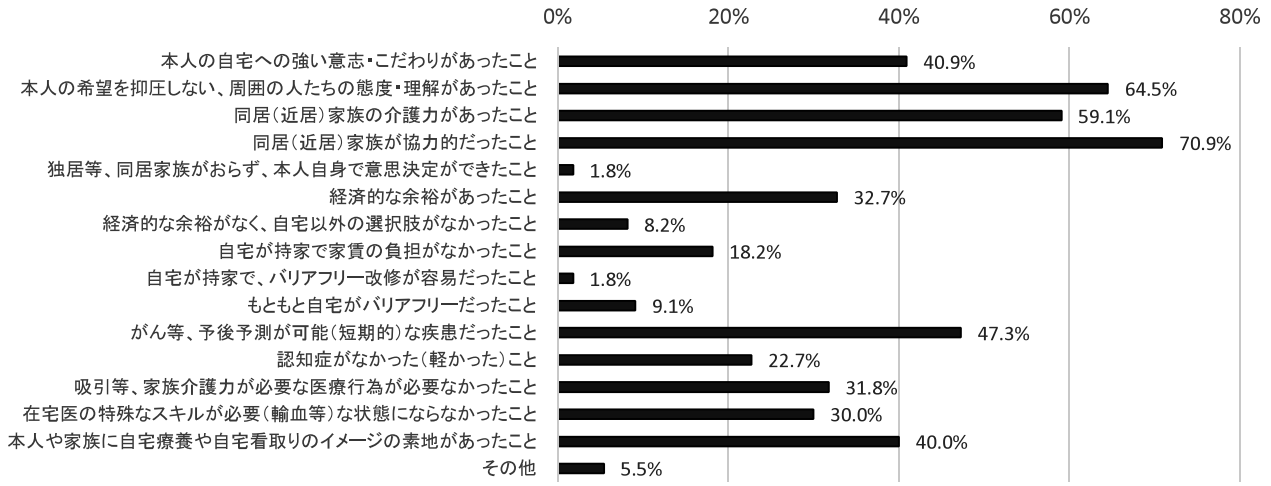


IV. 自宅看取りに至る過程と要因

i. 自宅看取りができたことに寄与した本人家族の要因

自宅看取りができたことに寄与した要因では、周囲や家族の介護力や理解に関係する回答が多く挙げられた。

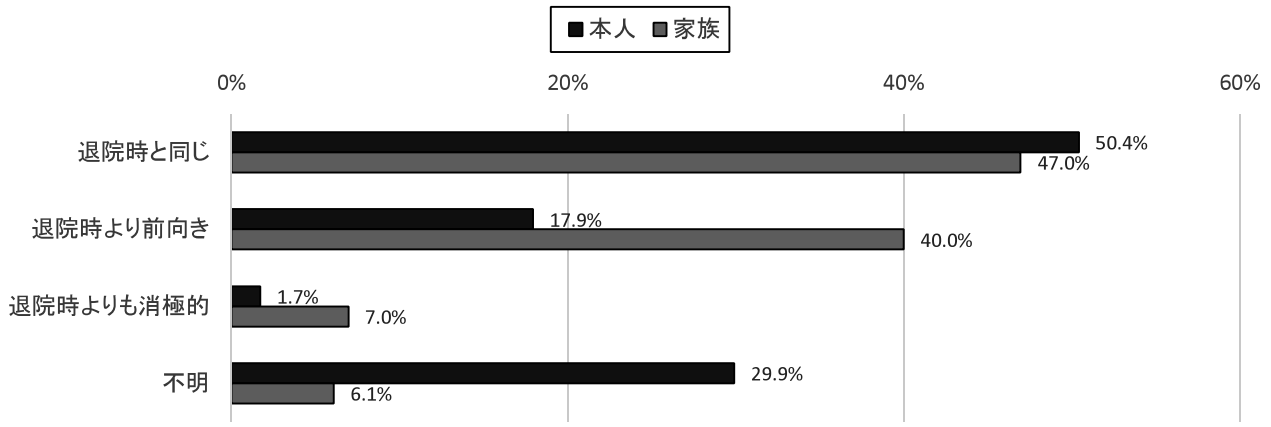
図 202　自宅看取りできたことに寄与した本人・家族の上位 5 つの要因（複数回答）
（N=110）



ii. 在宅療養に対する本人・家族の意識の変化

在宅療養に対する本人・家族の意識の変化では、退院時よりも前向きになったと回答した割合で本人と家族の間で差が見られた。

図 203　在宅療養中の在宅療養に対する本人・家族の意識の変化
（N=本人 117, 家族=115）



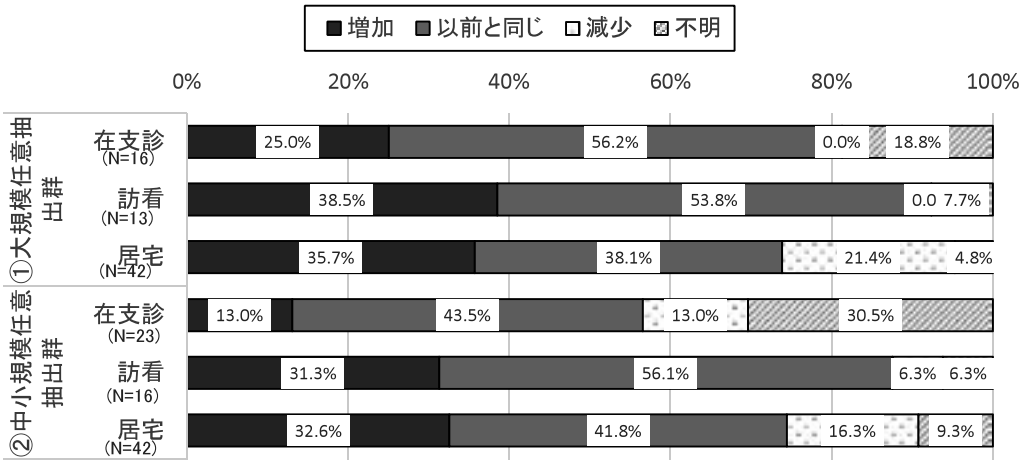
（５） 看取り完遂事例と在宅療養中断事例の地域別分析

Ⅰ. 地域看取り完遂群と在宅療養中断事例の地域別分析

i. 在宅療養の需要の増減

両群のどの職種においても以前と同じと回答した割合が最も多かった。

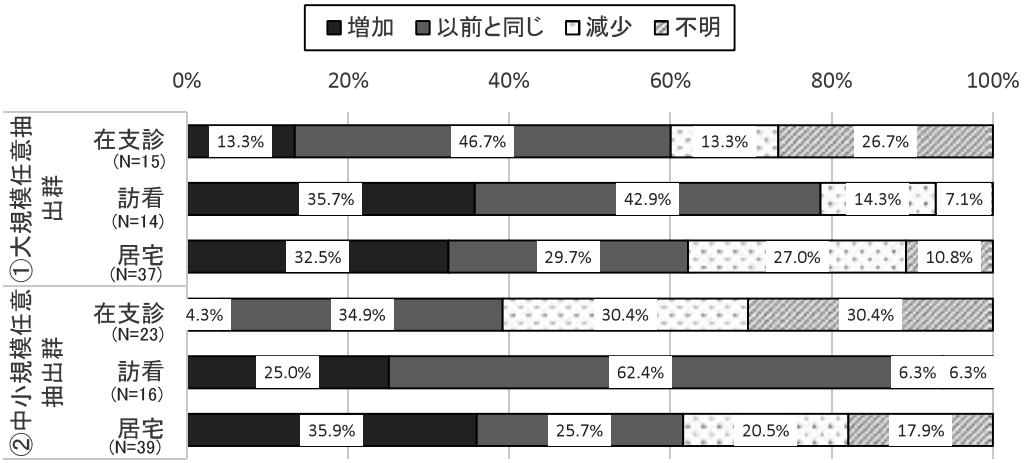
図 204　在宅療養需要の増減



ii. 自宅看取りの需要の増減

両群のどの職種においても、増加または以前と同じと回答した割合が最も多かった。

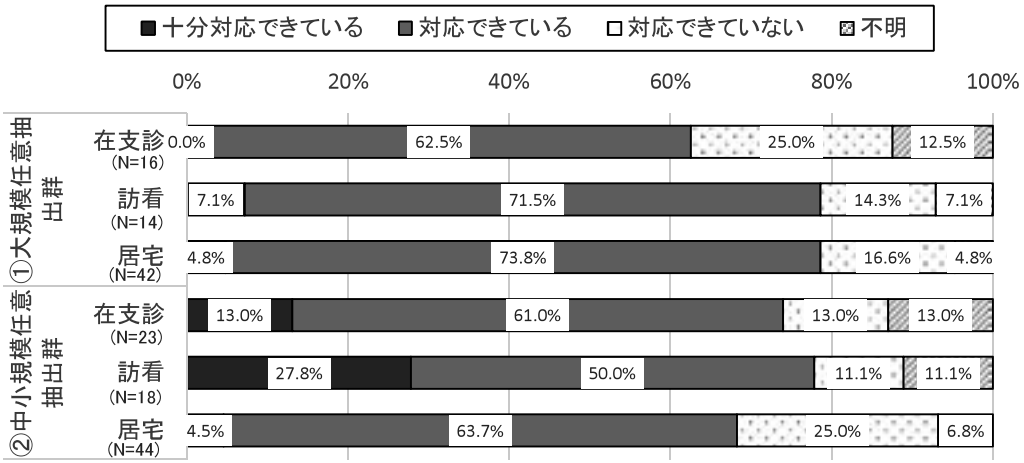
図 205　自宅看取り需要の増減



iii. 在宅療養の需要への対応状況

両群のどの職種においても対応できていると回答した割合が最も多かった。

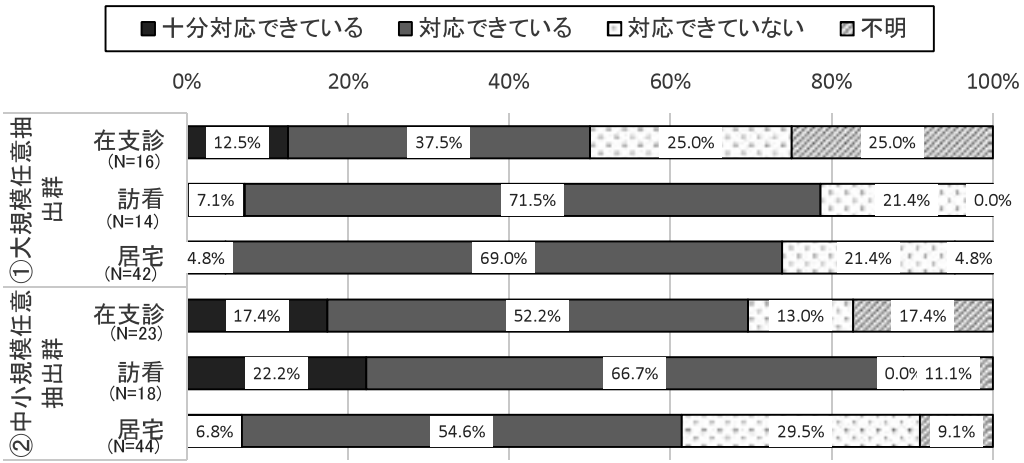
図 206　在宅療養の需要への対応状況



iv. 自宅看取りの需要への対応状況

両群のどの職種においても対応できていると回答した割合が最も多かった。

図 207　自宅看取りの需要への対応状況

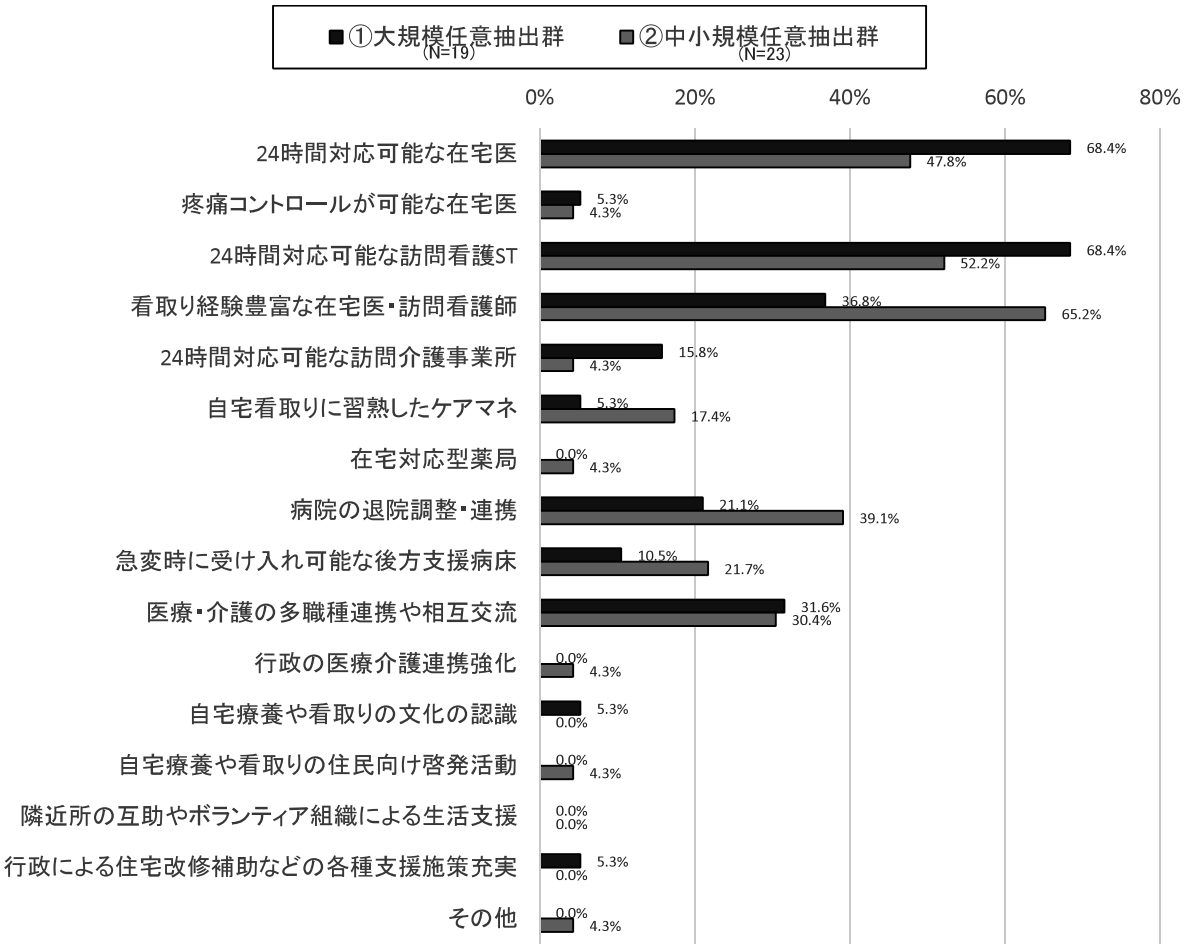


v. 地域環境の状況

① 自宅看取りの増加要因

24 時間対応可能な在宅医、看取り経験豊富な在宅医・訪問看護師を挙げた回答で、①大規模任意抽出群、②中小規模任意抽出群で特に大きな差が見られた。

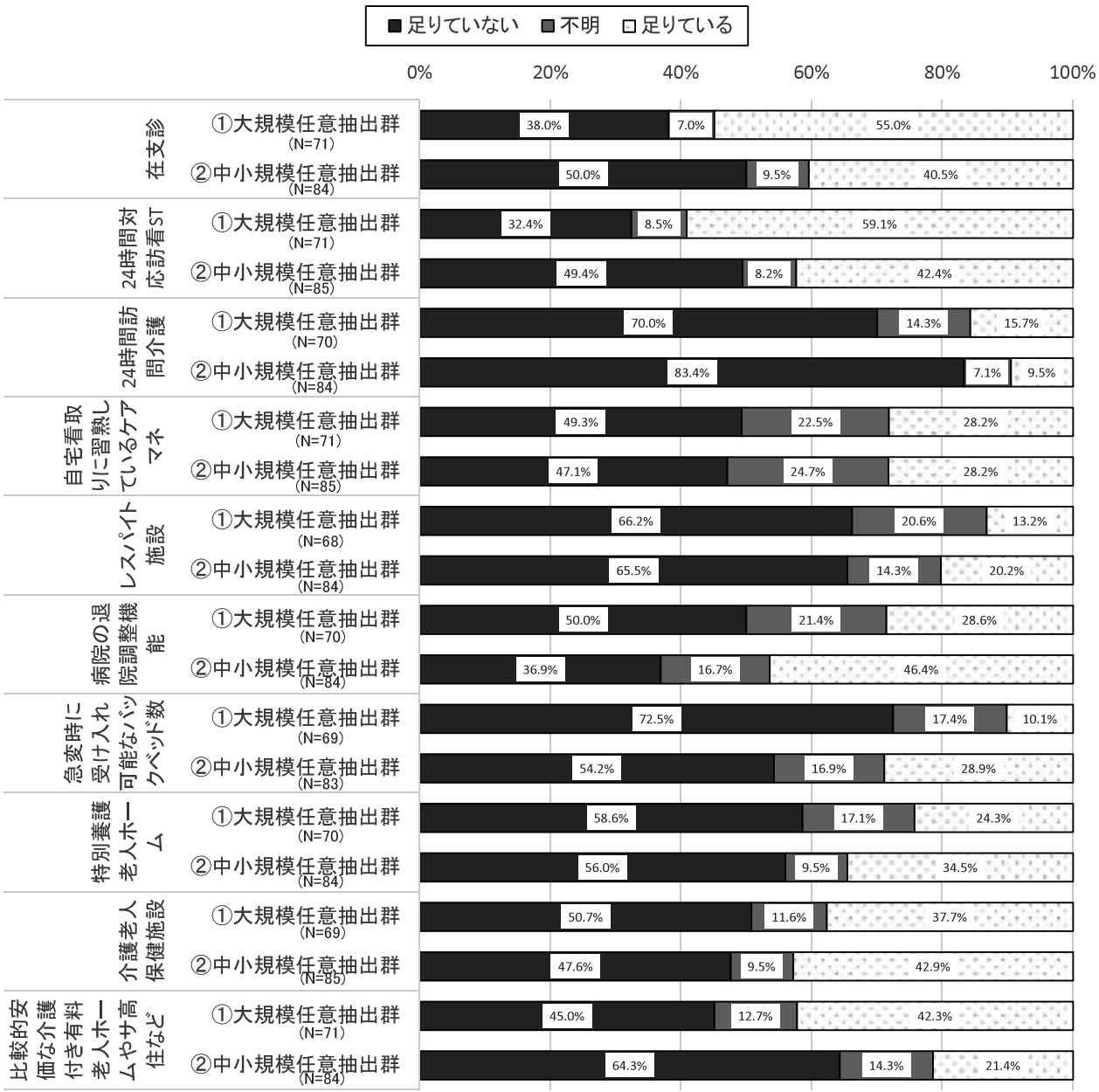
図 208　自宅看取りの増加に寄与した上位 3 つの要因



② 市区町村の在宅医療・介護資源の過不足状況

①大規模任意抽出群では、急変時に受け入れ可能なバックベッド、②中小規模任意抽出群では 24 時間訪問介護が足りていないと回答した割合が最も高い。

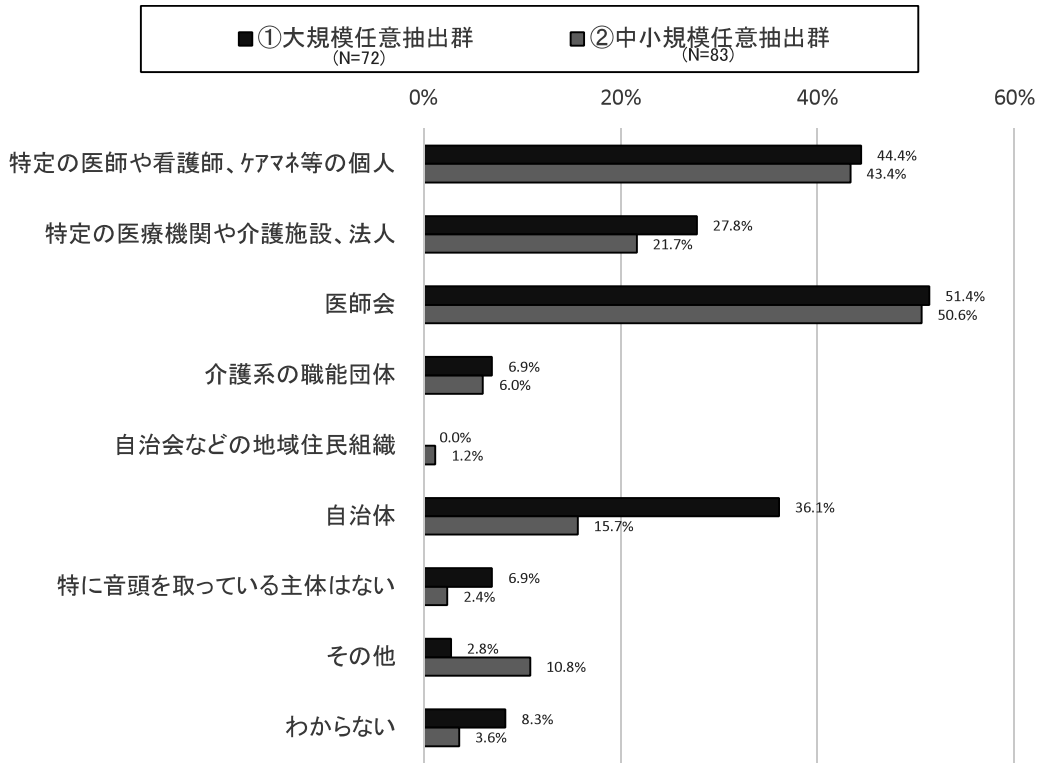
図 209　各機関・事業所から見た市区町村の在宅医療・介護資源の過不足状況



③ 在宅医療や医療介護連携の推進役

両群で医師会と回答した割合が最も高い。また自治体と回答した割合で両群に差が見られ、①大規模任意抽出群では 36.1%、②中小規模任意抽出群では 15.7%だった。

図 210　在宅医療の推進や医療介護連携のリーダーシップを積極的に発揮している主体



第2章　事例報告

1．医療法人社団プラタナス桜新町アーバンクリニック・ナースケアステーション（片山所長）

世田谷区に看護小規模多機能型居宅介護事業所をオープンへ

・東急不動産・ＮＴＴが共同で進める世田谷区中町プロジェクト（マンションとシニア住宅の大型複合開発）の一角で開業予定。

・医療法人社団プラタナスが運営することで介護・看護・医療も一体となって提供、より質の高いケアを一緒に考えるチーム作りを目指す。

【自宅復帰のポイント】

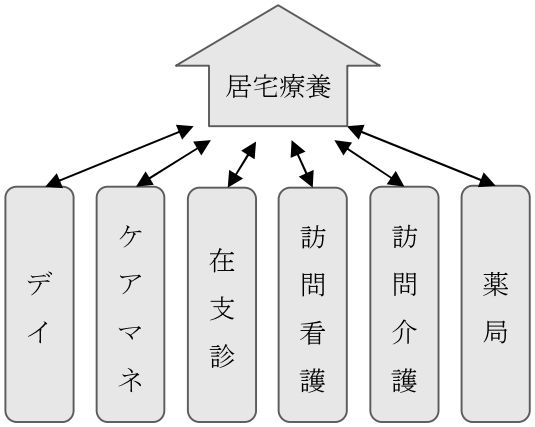
“介護保険”が持つハードル

- 介護保険は契約文化で、何をするにもさまざまな事業所と契約・押印が求められ、それを嫌がる人が多い。（火曜はＡデイ、水曜はＢ訪介、木曜はＣショート・・と全て個別契約）
- また、そもそも訪問サービス等で外部の人間を家に上げることに対する本人や家族の拒否感によって介護サービス導入が困難になるケースも多い。
- その点、同居家族がいる場合よりも、独居の方が、介護保険の利用にドライで、使うことに抵抗感がない人が多い。（家族が介護保険サービスの利用に抵抗する場合に比べれば、自宅復帰しやすい、という側面もある）

その観点からの、地域密着型サービスのニーズ

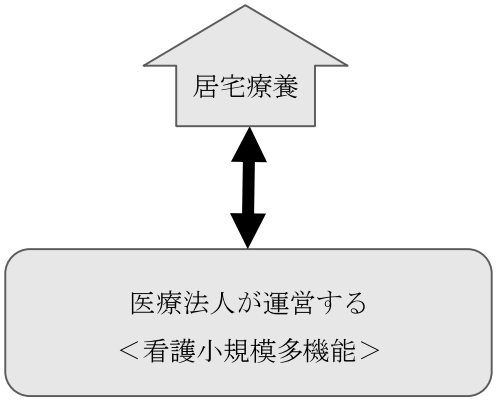
- 小規模多機能、ＧＨ、看多機等は一つの事業所と契約するだけで、包括的ケアが可能。上記の拒否感を感じている層のニーズに答えている。
- 肺炎は自宅療養で乗り切ることは可能だが、そのためには、介護保険の細かい個別のサービスを組み替え調整する必要がある。
- それが大変であればいったんデイ中止して入院させましょう、と判断する家族・ケアマネは多い。しかし、１週間で治り退院となれば、家族が再度の介護保険各種サービスの手配に疲れてしまい、「もう施設に行ってほしい」となり自宅復帰が難しくなるケースが多い。
- 最初から看多機に入っていれば、入院の必要もなく、サービスの再調整がし易く、結果的に自宅療養をもっと長く継続できたのではないか。
- まだ地域密着型サービスの供給量は少なく、サービスを受けている人は少数（桜新町でも、８～９名程度）。しかし、この人も地域密着の方が合ってるな、という患者はほかにも多くいる印象。

これまで



- 事前に建てた計画をもとにサービスを提供
- 状態悪化時には都度組み換え、再度計画を立てる

看多機でできること



- 状態変化に応じて臨機応変に対応可能
- 契約も 1 回で済み、手続きの負担も軽減

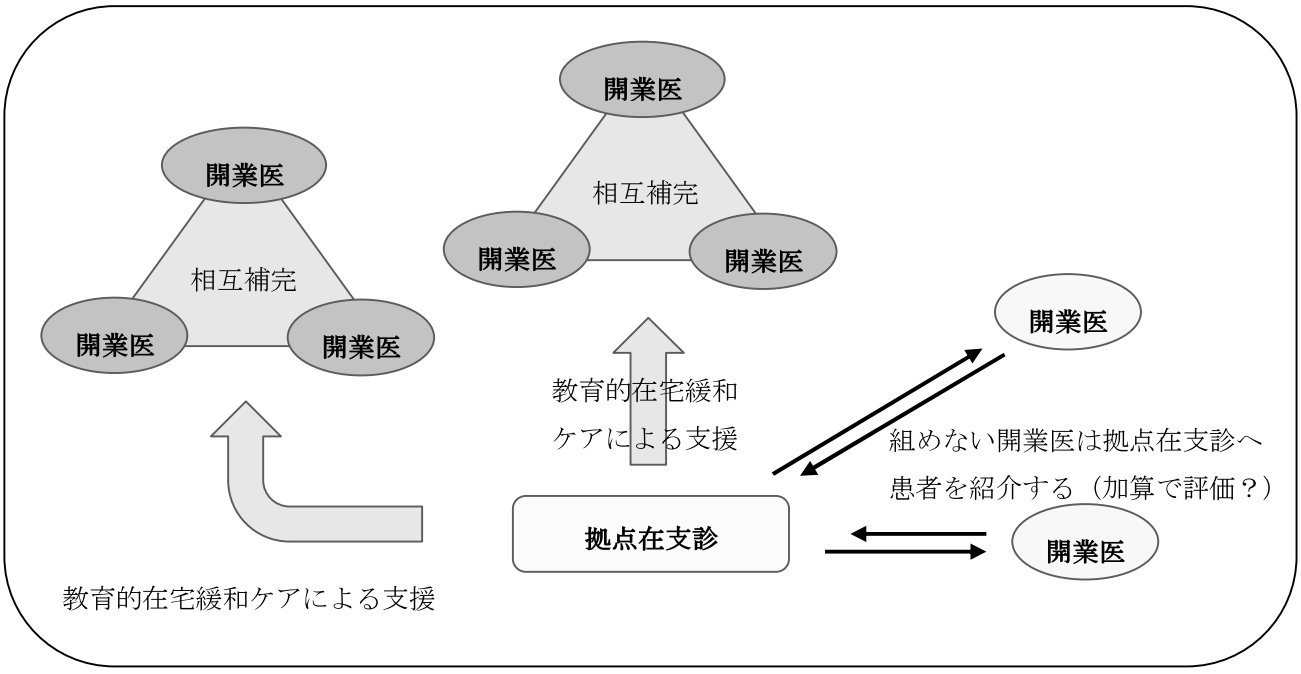
2. 医療法人聖徳会小笠原内科（小笠原文雄院長、田實武弥医師、木村久美子看護師）

現状

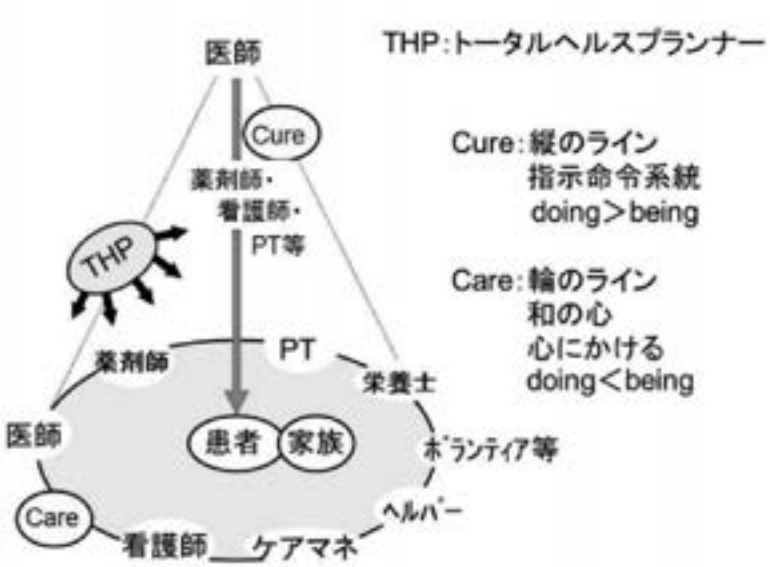
・患者：居宅 70 名強（戸建て中心）、施設 70 名強（GH 中心）、計 150 名程度
・うち、がん患者は 15～20 数名程度（全体の 1 割～15%）すべて居宅
・小笠原内科で介入する退院患者は 95%が自宅復帰

“教育的在宅緩和ケア“

- 外来型開業医が 3 人組となり相互補完（柏型の 2 人 1 組主治医副主治医制ではない）、それを拠点在支診である小笠原内科がバックアップ（教育的在宅緩和ケアによる支援）する体制が理想。
- この体制を組めない開業医は、直接拠点在支診に患者を送るべきである。
- 3 人組＋拠点（による教育的在宅緩和ケア）、もしくは拠点に患者を送る、この 2 択以外では、在宅療養は実現できない（これができないとき、施設を選ばざるを得なくなる）。
- 開業医（や病院や施設）が拠点在支診に患者を送り、そこで結果的に自宅看取りが出来た場合、退院退所加算に加え、在支診が取る看取り加算を、まるまる送った側ももらえるような制度設計にすべき。



多職種連携・協働・協調のキーパーソン
トータルヘルスプランナー（ＴＨＰ）



地域住民のリテラシーの上昇

- 10 年以上にわたり、小笠原医師がラジオ・講演・著作等で自宅療養の重要さをシャワーのように地域住民に語り続けてきた。この徹底した住民啓発が、「自宅に帰れる」「自宅で看れる」というマインド、リテラシーの地域レベルでの底上げに貢献している。
- それでも、8 割の人はヘルパーが頻繁に訪問にくることを嫌がる。ヘルパーが自宅に頻回訪問することを歓迎する人は 2 割しかいない印象。人は孤独が好きである。

3. 社会医療法人　祐愛会織田病院（織田理事長）

所在地	佐賀県鹿島市大字高津原 4306　（鹿島市：人口 31,583 人） ＊佐賀南部医療圏は病床過剰地域、かつ療養病床も多い。
病床数	一般 111 床（うち、地域包括ケア病床８床） 開放型病床（登録医 50 名）、ＤＰＣ対象病院、在宅療養支援病院（強化型）
看護体制	７対１（重症度・医療看護必要度　4 月 29.5%、5 月 29.5%）
病院職員数	296 名（常勤医師 38 名、看護師 118 名、薬剤師 6 名、放射線技師 7 名他）
平均在院日数	12.3 日（2015 年度）、病床稼働率　99.0%
入院患者	新規入院患者数　3,204 人（2015 年度）

１．85 歳以上人口の急増による地域医療の変化

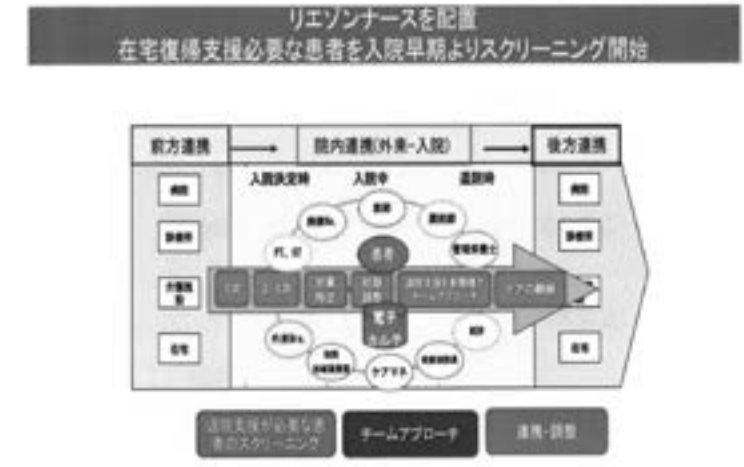
・地域に公的病院がなく、唯一の急性期病院として、111 床という限られた病床数で、地域の救急医療・高齢化に対応する必要があった。

・要介護や認知症の 85 歳以上の入院患者が急増。療養病床も満床で転院もできないため、生活の場に戻すため、退院支援にも力を入れてきた。

２．安心して地域に戻すための院内の仕組みづくり

（１）円滑な退院に向けて入院早期からの退院支援体制の構築

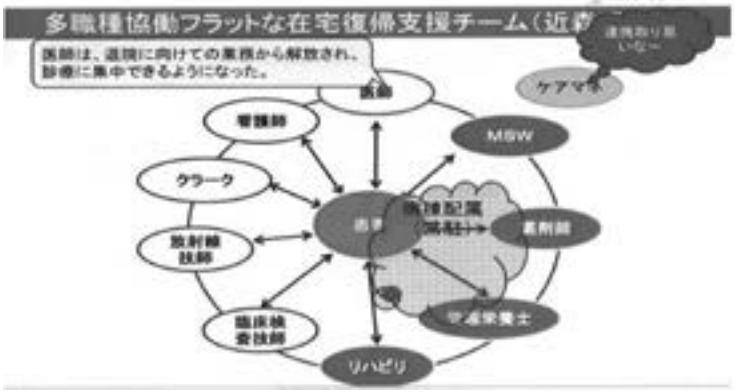
①リエゾンナースと多職種協働フラット型退院支援。



・当初はリエゾンナース中心でうまく回っていたが、85 歳以上の増加により、チームアプローチ・連携調整が困難になった。

・多職種（薬剤師、PT、管理栄養士、MSW）を病棟に専従配置したところ、医師の指示待ちをすることなく、各専門職が積極的に介入し、結果専門職の総力戦となった。モチベーションも上がった。

・入院翌日には、多職種で介入する。常にコミュニケーションが取れるので、退院時の在宅に向けての支援方針は、多職種が病棟で集まり立ったまま簡単に最終チェックをする程度ですむようになった。



②急性期の認知症患者の適切な受入れのためのＤＣＵ（認知症ケアユニット）開設

３．退院後のケアの継続を図るMBC(メディカル・ベースキャンプ)開設

・病院の半径２キロメートル圏内約 5000 世帯（高齢者世帯うち約２割）を対象に、亜急性期の在宅病棟（メディカルベースキャンプ）を開設。

・退院直後約２週間、訪問看護・リハビリ・介護を入院中と同様に手厚く入れ、在宅支援を行う。

・訪問看護師・介護福祉士・ＭＳＷ・ケアマネ・ＰＴ等、在宅にかかる医療・介護部門の一体化を図り、事務所内に壁を設けず同居する体制をつくった。そして、大型モニターによる動態管理を実施。業務の効率化と、患者からの緊急連絡にも迅速な対応が可能になった。

4. 医療法人生寿会　かわな病院（亀井克典院長）

所在地	愛知県名古屋市昭和区花町 50 番地（昭和区人口 H24 年 104,839 人 65 歳以上人口 22.1%）
病床数	一般 53 床（うち、地域包括ケア病床 21 床）在宅療養支援病院、人口透析 47 床
看護体制	10 対 1
かわな病院エリア	かわな病院､デイケア、透析センター、老健施設ヴィラかわな、訪問看護事業所、訪問介護事業所、居宅介護支援事業所、きくぞの内科･在宅クリニック、サ高住アンジュかわな

1．後方支援機能と、サ高住等の住まい確保も含めた地域展開

・医療法人生寿会は、名古屋市 3 ブロックを含め、愛知県内 7 ブロックで、一般病院、リハビリテーション病院、在宅医療・介護サービスに加え、老健、有料老人ホーム 1 か所、サ高住 3 か所等 29 施設を運営し、総合的な医療・介護サービスを展開し、地域での在宅療養環境を支援。

・名古屋市は高齢者単身・夫婦のみ世帯が増え、地縁・血縁が断たれた人が多く、地域包括ケアシステムのベースとなる地域共同体がない。自宅で看取る意識も低い。そこで、地域居住を支えるため、県で 6 番目の老健を整備、サ高住等の住まいの確保も含め、展開してきた。

・ただし、都市部で高齢者向け住まいの建設コストが高く、月額 20～30 万円は必要。自宅に帰れず、経済的に有料老人ホームやサ高住への入居が困難な層が課題。市内に低価格の未届け施設もあり、貧困ビジネスに近いものもあるが、本人・家族の選択で入居するケースもあるのが実態（MSW）。

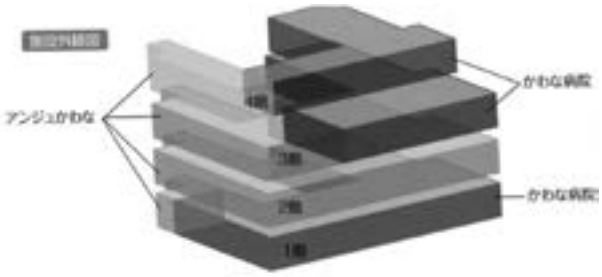
・独自にサ高住等の居室の 5%を、低所得者向けに減免措置を実施。行政からも評価されている。

【自宅復帰可能】・骨折は独居でも可能。　・自費サービス負担が可能な富裕層。
・ALS、気管切開、中心 IVH や胃瘻でも、家族のサポートがあれば帰れる。
【自宅復帰困難】・家族介護力がゼロの場合、在宅医療と介護保険サービスのみでは困難。
バックベッドの機能、老健等の後方支援資源を取りそろえ、「いつでも使える」という安心感を提供することで、結果的に在宅療養を継続できる場合も多い。

・看取りに向けた緩和ケアニーズに対応するため、かわな病院の緩和ケアサポートチームの機能を活かし、バックベッドとしての病棟、老健施設、サ高住と訪問診療・訪問看護を中心とした在宅療養支援機能の連携により、**「かわな病院緩和ケア・在宅療養支援センター」**を開設。
・緩和ケアサポートチーム
　医師・看護師・薬剤師・MSW・管理栄養士等で構成

２．かわな病院併設のサービス付き高齢者向け住宅

・かわな病院の２階・３階・4 階を増改築し、サ高住を 2016 年 3 月に開設。
・がん・非がんに関わらず、地域の在宅緩和ケアを支える終の住処を目指して整備。
・18.51 ㎡～24.10 ㎡の 34 室。家賃 8.5～10.5 万円、共益費 3.5 万円、サービス支援費 5.5 万円、消費税込で月額約 18～20 万円。医療・介護費、食費（月額約 5 万円）、水光熱費は別途。
・透析、脳血管障害、難病、がん末期など、医療必要度の高い方に対応。多職種緩和ケアチームが症状や苦痛の緩和を行う。



・入居者は要介護4以上が多く、3 分の1から4 分の 1 ががん末期。
・日中、ナース1名、ケアスタッフ2名が常駐し、夜勤は 3 名で回している。医療・介護は外付け。
・隣接する病棟よりも重症度の高い方が多いが、病院のように手厚くなくても「住まい」に外付けサービスで対応可能。

5. 板橋区医師会在宅医療センター（UR高島平団地内・井上在宅看護部長　他）

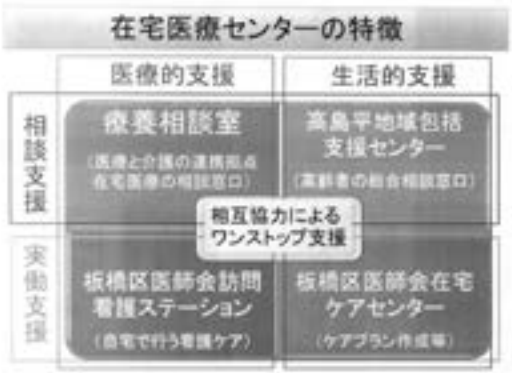
所在地	東京都板橋区高島平 2-32-2-107（板橋区：人口約 53.6 万人） 高島平地域：人口約 6.4 万人、うちＵＲ高島平団地：約 1.7 万人
事業内容	**下記の４つの在宅部門を集約し、医療・介護のワンストップサービスを提供** ・板橋区医師会訪問看護ステーション　　・板橋区医師会在宅ケアセンター ・板橋区高島平地域包括支援センター　　・療養相談室
ヒアリング先	在宅医療センター　井上在宅看護部長、医師会在宅ケアセンター　清水所長、 訪問看護ステーション　塩原訪問看護認定看護師、 ＮＰＯ法人ボランティア・市民活動学習推進センターいたばし　廣瀬理事長（民生委員）、 高島平介護センター　団地中央店　小澤所長

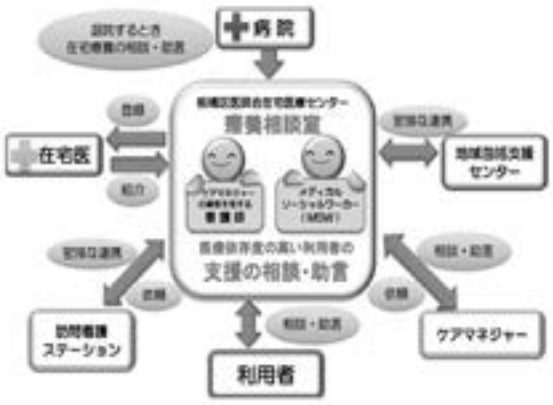
１．板橋区医師会在宅医療センター

・高島平地域は、ＵＲ高島平団地をかかえ、区内で最も高齢者人口が多い。昭和 47 年に入居開始した初期の入居者が 70 歳前後になり、高齢化率 43.1%、単身・高齢者のみ世帯が 62.7%と、**ケアの需要爆発が目前。**

・板橋区医師会は、23 区で唯一医師会立病院をもつ。急性期を脱した後の在宅療養環境が不十分という認識から、**在宅部門を統合した「在宅療養支援センター」に療養相談室（地域の相談室）を設置。**

・板橋区、板橋区医師会、ＵＲ都市機構の３者の連携協定により、ＵＲ高島平団地内に、平成 28 年４月に、「板橋区医師会在宅医療センター」が移転開所。





・療養相談室には、ケアマネ資格をもつ看護師２名と社会福祉士が常駐。ケアマネ、訪問看護、介護、福祉の視点で、退院調整支援や在宅療養支援ができることが強み。

・多職種連携・共働を推進する仕組み

【在宅療養ネットワーク懇話会】

区レベルで、医師会、薬剤師会、歯科医師会、訪看、ケアマネ、包括、MSW、施設長、行政等の職能団体が主で、ボランティアの会とも連携しながら拡大。年 3～4回。

【Cure&Care ミーティング】

身近な地域で専門職と民生委員、ボランティア等インフォーマルな人々も参加し、共通言語で語れるよう、共学・共働

２．高島平団地でのインフォーマルな支援・活動

＜主として民生委員・NPO法人ボランティア・市民活動学習推進センターいたばしの廣瀬理事長より＞

・同時期に入居し、子どもの成長とともに社会資源を創り出してきたという自負もあり、また、同質性の高いコミュニティが特徴。

・団地自治会が母体となった**「助け合いの会」**がある（平成 14 年～）。介護保険では対応できないきめ細かな日常生活支援サービスを、互助で提供する。ただ、高齢化で継続が難しい。

・新たに「ＮＰＯ法人みんなのたすけあいセンターいたばし」を設立し、「自分らしい生き方の支援」を目標に、新しい総合事業の枠組みの中で支援サポーターの派遣や相談、情報発信、拠点（居場所づくり）を行っていこうとしている。

・また、「ＮＰＯ法人ボランティア・市民活動学習推進センター」（平成 13 年発足。学習による市民活動推進を目指す組織）は、平成 23 年から、「いたばし総合ボランティアセンター」の運営を板橋区より受託している。廣瀬理事長らは、「いたばしまちの学校」を提案し、高島平で住み続けるための勉強会を、医師会や包括、介護事業所連絡会の協力を得ながら、様々な活動団体を巻き込んで、精力的に実施。医師会の佐藤医師とともに「村芝居」やセミナーを企画。

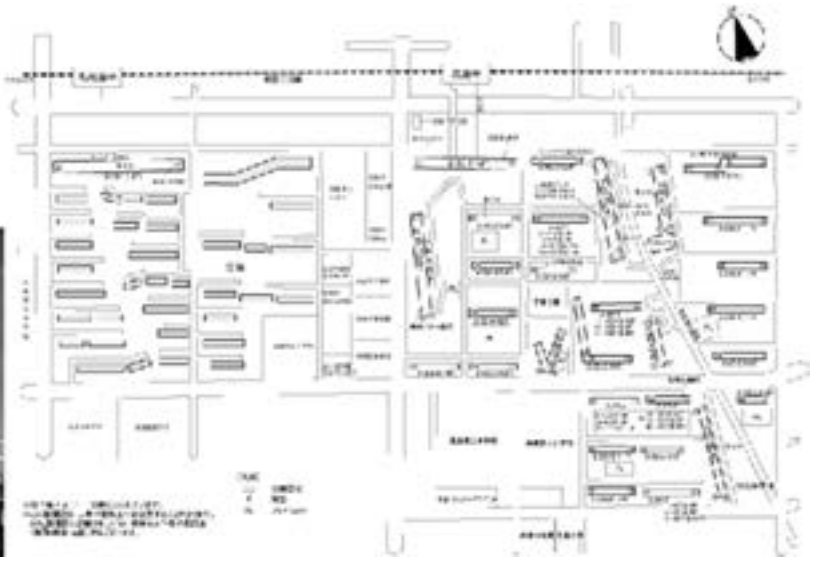
・団地内には、コミュニティ・カフェも 4、5 か所あり、多様な活動団体がある。「まちの学校」が、インフォーマルをコーディネイトするという想定。

・井上看護部長いわく、**「地域活動の中に、医療・看護が入るイメージ」。**

・住民からは、「自宅に帰りたいという本音を、先生に言ってもいいのでしょうか」という相談が多い。それをエンパワメントするチームとコミュニティが必要。

・エレベータ無し5階建ての住民は、脳梗塞になった場合、自宅復帰が困難。戻っても降りられず、「籠城」するしかない。

・分譲の場合、民生委員などが不動産屋と仲介し、低層物件への住替え支援をしたケースもある。



高島平団地の写真・配置図（URホームページより）

６．株式会社ケアーズ白十字訪問看護ステーション（根田ケアマネジャー）

所在地	東京都新宿区市谷砂土原町 2 丁目 7 番地　（新宿区：人口 32 万 0663 人）
高齢化率	19.4%（H25.2.1 現在）
新宿区内	一般病院 16、精神科病院 1、診療所 300 以上、在宅療養支援診療所 46（2011 年）
事業概要	訪問看護事業所、訪問介護事業所、看護小規模多機能型居宅介護

１．多職種連携の重要性

・「一人暮らしの自宅での看取りは無理」と看取りに慣れていない医師が言うのは当然のこと。それを多職種連携で支えていく仕組みが必要。地域で法人をまたいでチームで支える。新宿区の日常圏域では、白十字がリーダーシップ、音頭を取り多職種連携を推進してきた。基本は、お互いさまという感覚である。

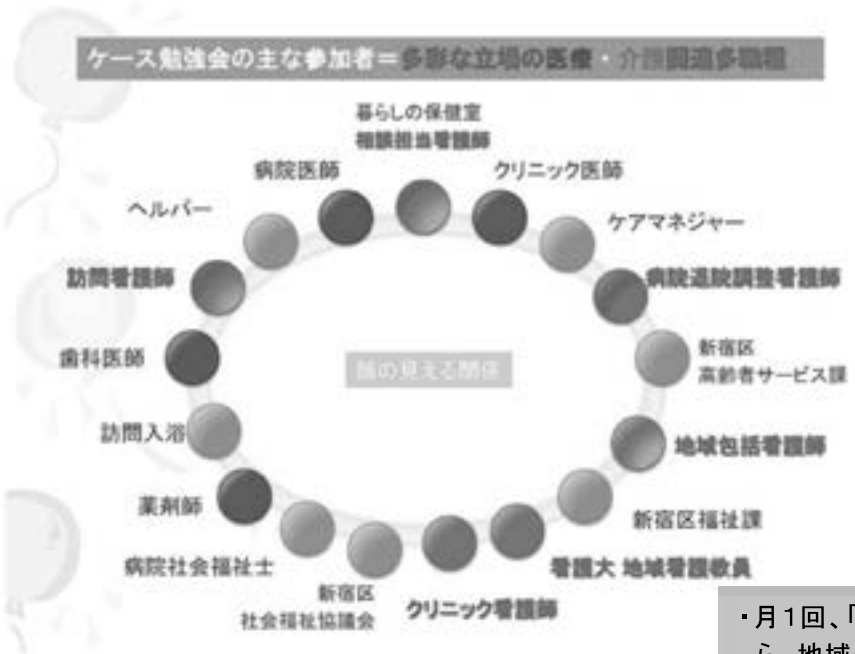
・これからは、**在宅医療専門の医師だけではなく、昔からのかかりつけ医が多職種連携のメンバーになる時代**である。

・病院は、「住まい」をイメージできていない。「住まい」をイメージし、社会資源も理解しないと病院側は変われない。そのために、**大病院の医師を地域の在宅医に往診同行させる研修等の取り組みを地域で進めている。**

・ケアマネの仕事はサービス調整だけではなく、その人がどう生きたいかを見極めること。それをチームで共有し、家族が施設への移行をちらつかせても、本人の意思を代弁できるケアマネが強い。

・ターミナル期は、ケアマネジャーは一歩下がり、調整役となる。医療者とは別の視点から、本人や家族の代弁者となる必要がある。

・地域住民や民生委員と連携をとれば、彼らは味方になる。**地域の商店、コンビニの店員も、見守り役として機能させて、高齢者の日常生活の動線の中で見守り機能を強化していく。**



・月１回、「暮らしの保健室」に寄せられた相談から、地域の医療・介護関係者との情報共有が必要な事例を取り上げ意見交換。
・地域の医療と介護にまたがるケアの問題について必要に応じ、関係者による会議を「暮らしの保健室で開催。

２．暮らしの保健室の取り組み（新宿区　戸山ハイツ）

・地域住民の暮らしや健康、医療、介護などの相談を受ける場所として開設。

・がん患者とその家族からの相談にも対応し、病院と地域の医師とのコーディネートをしている。

・在宅医療・訪問看護を利用して家族を看取った経験のある方々がボランティアをしている。

・地域の医療・介護状態を熟知した相談員（医療・介護従事者）が当番で担当。
・在宅医療も理解した看護師が相談を受け、病院と地域の医者の橋渡しを行っている。
・地域包括支援センターとも連携している。

終章　まとめ

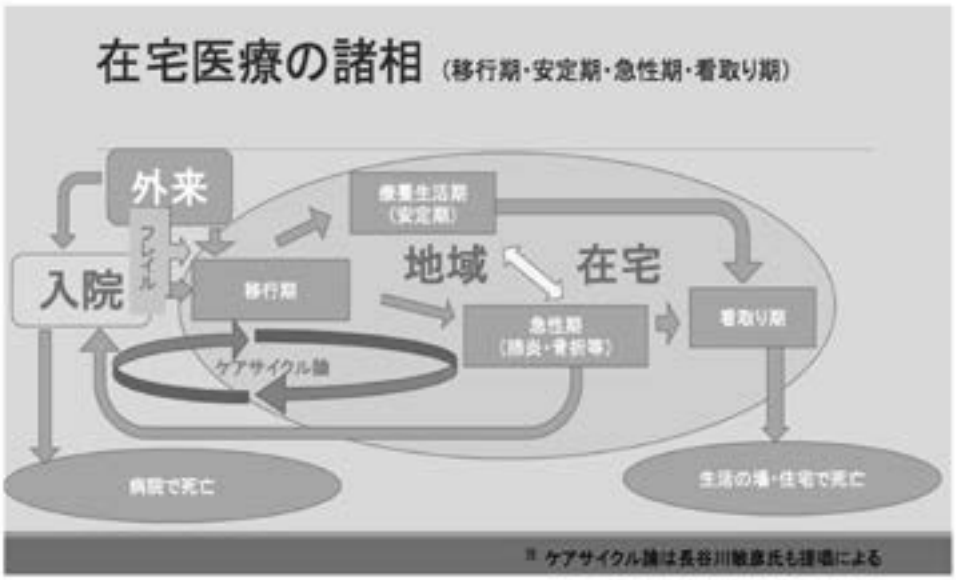
１．考察にかえて

本調査で明らかにしようとしたのは、第一に、在宅死亡率（横浜は自宅看取り率）の水準と、在宅療養にかかる医療機関および訪問看護事業所、居宅介護支援事業所などの機関の役割と考え方がどのように関連しているか。第二に、病院から退院して、在宅療養に移行し、そのまま自宅看取りに至った事例と、病院に再入院等の理由で在宅療養が中断した事例の要因の比較。第三に、死亡診断書の記入要領により、在宅での異状死を排除できない市町村の在宅死亡率と死亡診断書の原票データから、異状死を除外した自宅看取り率のデータを比較検討し、その傾向に殆ど差が無いことが確認された。また、時間の関係で十分な検討はできなかったが、グッドプラクティスとして知られている地域の調査結果と在宅看取り率で抽出した地域とを比較検討すると、興味深い結果が幾つかみられた。

これらの検討を行うにあたり考慮すべき要因の関連図を調査委員会のメンバーである太田秀樹、宇都宮宏子委員が整理をした。これが「在宅医療の諸相」と題する別掲の図である。

これによると、何らかの疾病によって外来医療をしている状態から、入院を要する状態になった高齢者が在宅復帰を果たして、医療及び訪問看護、居宅介護を利用し在宅療養を地域で継続していくなかで、急性期に疾病で病院に再入院するか、疾病対応後に在宅医療かの選択が迫られる。

地域の条件が整っていると在宅継続が可能になり、やがて看取り期に移行する。さらにそのような条件が整わないと入院に移行し、病院死となる。これは長谷川敏彦氏のケアサイクル論によれば、地域或いは在宅と病院との間のケアをどのように繋げていくかというケアサイクルマネジメントが必要とされる。



しかし、多くの場合このような、マネジメント機能は未熟であるため、家族の介護力に依存せざるを得ない。また、「本人の選択と本人・家族の心構え」（地域包括ケアの鉢植えの図）※に依存するところが大きいのが現状である。

しかしながら、本調査で一部明らかにできたのは、在宅療養におけるメディカルマネジメントの質、24 時間対応訪問看護が整うなどの在宅療養のシステム整備の水準が大きな決定要因になること。さらに、本人と家族の自宅での看取りへの準備と覚悟などが大きな要因である。また、医療と介護の連携のレベルも大きな要素であることが明らかにされた。

システム的要因として、示唆的な実践事例は佐賀県鹿島市の織田病院のメディカルベースキャンプの試みである。織田病院の周辺には療養病床が存在しないこともあいまって、多くの 85 歳以上の高齢患者を地域で見るという決断をし、地域の医師会と協力体制を取りながら実現している。そして、多職種連携と地図情報システムを活用した ICT によって、在宅患者のモニタリングの体制を整備している。

このような急性期病院による在宅療養支援体制が、地域の在宅医による急変対応のバックヤードとして、これからの急性期病院のあり方に大きな示唆を与える。地域とのコンセンサスと医療システムの対応があいまって自宅看取りの体制が現実化すると言うことを教えてくれる事例でもある。

そのことはアンケート調査においても、医師会のリーダーシップと力量のある在宅医、訪問看護体制の整備が自宅看取りを可能にするのだ、という回答の結果と符合する。地域の連携体制のあり方が重要であることは、千葉県柏市、東京都板橋区などの実践によって明らかであるが、これについても、本調査で同様の結果が得られた。

また、地域看取りが困難な状況への回答が、地域の意識を要因としてあげていたのも示唆的である。システムと環境整備があいまって、自宅看取りの可能性が拡大するということを意味しているのである。

さらに、在宅看取り率の高い地域では、多職種協働の必要性についての認識が高かったこともわれわれの経験値と対応する知見であった。

看取り対応型の在宅医療が備えていなければならない要件についても、ヒアリング調査事例とアンケート調査の結果が同じであることも興味深い。

なお、自宅での療養が可能となる条件として、家族の存在が現状では大きな決定要因であることが明らかであり、特に配偶者と娘の存在が重要であることは改めて調査で明らかとなった。

しかしながら、高齢人口予測によれば、今後 85 歳以上での死亡割合が圧倒的で、このことは配偶者と離別した単身者も含め、単身高齢者の急激な増大のなかで、自宅看取りへの可能性を高めるために必要とされることの考察が急がれなければならない。

家族にかわる見守りも含めた生活支援のあり方、そして、「とも暮らし」の普及を含めた、在宅療養の限界値を拡げるための「住まい方」と「居住支援」のあり方をさらに具体的に明らかにすることが求められているといえよう。

※「はじめに」参照

資料編

・自治体抽出と分類ロジック 147

・アンケート調査票等 152

・調査対象事業所基礎統計 172

・アンケート単純集計 180

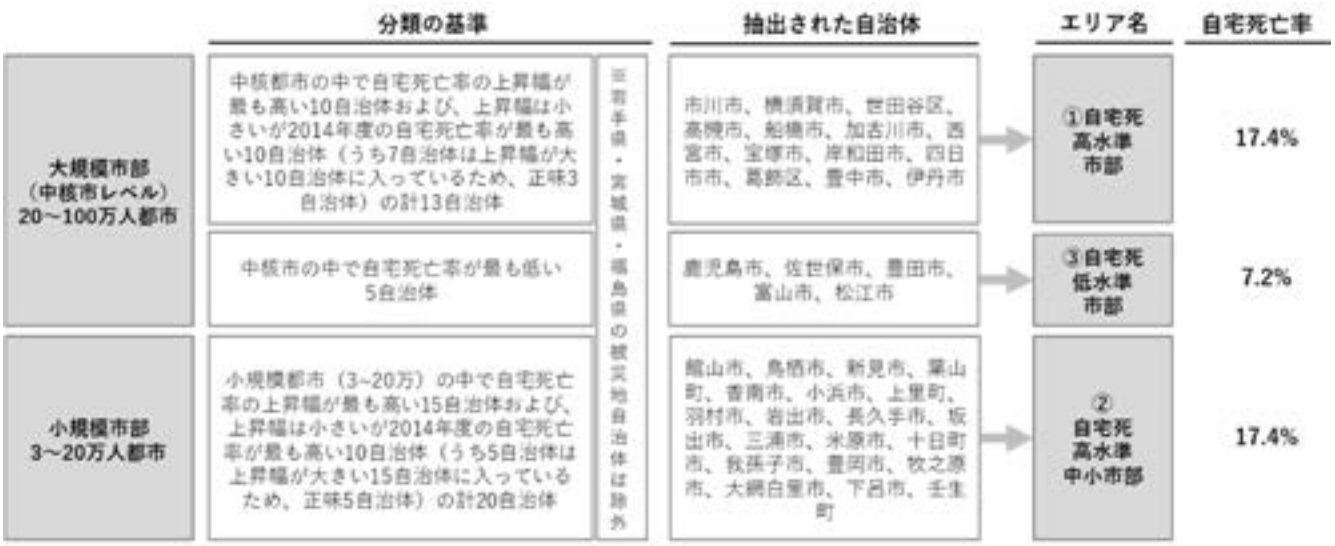
自治体抽出と分類ロジックについて

Ⅰ. 自治体の抽出、分類ロジック

自治体の抽出では、人口規模によって 2 分類した上で自宅死亡率によって対象を決定した。まず全国の自治体を人口 3～20 万人規模のいわゆる中小規模自治体を「中小市部」、人口 20～100 万人規模のいわゆる中核都市自治体を「市部」と分類し、その上で自宅死亡率の高低を基準として細分化した。

大規模市部で自宅死亡率が高い自治体を「①自宅死高水準市部」、低い自治体を「③自宅死低水準市部」とし、中小規模市部で自宅看取りが高い自治体を「②自宅死高水準中小市部」と定義し、その上で自治体を抽出した。（図 1）

図 1　自治体の抽出、分類ロジック（再掲）



II. ①自宅死高水準市部、③自宅死低水準市部の抽出方法

人口 20～100 万人規模のいわゆる中核都市自治体において、2011 年と 2014 年の人口動態調査死亡票の各自治体の自宅死亡率（自宅死亡者数÷全死亡者数）データから、2011 年から 2014 年の 3 年間で、自宅死亡率が最も大きく上昇した上位 10 自治体、および 2014 年の自宅死亡率が最も高い上位 10 自治体を抽出した。後者の 10 自治体のうち 7 自治体は、死亡率の上昇幅の上位 10 自治体と重複しているので、実際には、死亡率上昇の上位 10 自治体と、2014 年の死亡率の高い上位 3 自治体を合わせた計 13 自治体を、中核都市における自宅死亡率高位群として、「①自宅死高水準市部」と定義した。

逆に、中核市レベルの都市において、2014 年における自宅死亡率が最も低い下位 5 自治体を、自宅死亡率低位群として「③自宅死低水準市部」定義した。（表 1）

表 1　①自宅死高水準市部、③自宅死低水準市部の抽出方法

		都道府県	市区町村	総人口	高齢者人口	人口密度（人/㎢）	自宅死亡率（2011）	自宅死亡率（2014）	自宅死亡率変化量	
①高水準大規模市部	1	千葉県	市川市	473,919	86,320	8243.5	16.82%	20.66%	3.84%	変化率の高い自治体（上位 10 位）
	2	神奈川県	横須賀市	418,325	105,576	4154.2	17.70%	21.51%	3.82%	
	3	東京都	世田谷区	877,138	159,857	15102.2	14.66%	17.98%	3.32%	
	4	大阪府	高槻市	357,359	82,863	3393.4	10.34%	13.56%	3.23%	
	5	千葉県	船橋市	609,040	118,833	7111.6	15.45%	17.77%	2.32%	
	6	兵庫県	加古川市	266,937	55,078	1927.2	15.42%	17.50%	2.08%	
	7	兵庫県	西宮市	482,640	92,399	4857	13.55%	15.63%	2.08%	
	8	兵庫県	宝塚市	225,700	50,453	2213.6	11.81%	13.74%	1.93%	
	9	大阪府	岸和田市	199,234	43,834	2754.9	13.60%	15.48%	1.87%	
	10	三重県	四日市市	307,766	65,609	1497.1	15.17%	17.02%	1.85%	
	11	東京都	葛飾区	442,586	97,391	12721.6	20.57%	20.24%	-0.34%	変化率は低いが自宅死亡率の高い自治体（上位 3 位）
	12	大阪府	豊中市	389,341	85,676	10702.1	17.13%	17.88%	0.76%	
	13	兵庫県	伊丹市	196,127	39,275	7854.5	18.52%	17.74%	-0.78%	
③低水準大規模市部	1	鹿児島県	鹿児島市	605,846	127,446	1107.5	9.83%	6.80%	-3.03%	自宅死亡率の低い自治体（上位 5 位）
	2	長崎県	佐世保市	261,101	66,705	612.2	7.94%	6.94%	-1.01%	
	3	愛知県	豊田市	421,487	69,550	458.9	10.12%	7.01%	-3.11%	
	4	富山県	富山市	421,953	102,601	339.8	8.29%	7.61%	-0.68%	
	5	島根県	松江市	194,258	47,363	366.3	8.91%	7.70%	-1.21%	

III. ②自宅死高水準中小市部の抽出方法

人口 3～20 万人規模のいわゆる中小規模自治体（人口 3 万人以下の自治体は、医療機関の開業等によって看取り率が大きく影響を受けるため調査から除外した）について、2011 年と 2014 年の人口動態調査死亡票の各自治体の自宅死亡率（自宅死亡者数÷全死亡者数）データから、2011 年から 2014 年の 3 年間で、自宅死亡率が 5%（※1）以上上昇した上位 16 自治体、および 2014 年の自宅死亡率が最も高い（うち、上昇幅の 5%[1]以上の米原市を除く）上位 5 自治体を抽出し、合計 21 自治体を抽出した。

このうち、死亡率の上昇幅の大きい 16 自治体のうち、岡山県新見市に関しては、上昇後の 2014 年の自宅死亡率が、全国の自治体の平均値（10.84%）よりも低いことから、高水準群から除外した。さらに、宮城県気仙沼市に関しては、東日本大震災の影響を考慮し、分析から除外した。この 2 自治体を除く、合計 19 自治体を、中小規模市における自宅死亡率高水準群として、「③高水準小規模市部」と定義した。

表 2　②自宅死高水準中小市部の抽出方法

	都道府県	市区町村	総人口	高齢者人口	人口密度	自宅死亡率(2011)	自宅死亡率(2014)	自宅死亡変化量	
1	千葉県	館山市	49,290	15,475	447.2	1.10%	12.50%	11.40%	5%以上自宅死亡率が上昇した自治体（計 14 自治体） ※2014 年の自宅死亡率が全国平均である 10.84%以下である新見市は上昇率は高いものの除外 ※宮城県気仙沼市は東日本大震災の影響を考慮し対象から除外
2	佐賀県	鳥栖市	69,074	13,610	963	9.96%	19.24%	9.27%	
3	岡山県	新見市	33,870	11,837	42.7	0.00%	8.73%	8.73%	
4	神奈川県	葉山町	32,766	8,949	1920.6	11.75%	20.43%	8.68%	
5	高知県	香南市	33,830	9,165	267.4	6.94%	14.46%	7.52%	
6	福井県	小浜市	31,340	8,695	134.6	6.16%	13.57%	7.41%	
7	埼玉県	上里町	30,998	5,811	1061.2	5.66%	12.54%	6.88%	
8	東京都	羽村市	57,032	11,133	5755	9.43%	15.96%	6.53%	
9	和歌山県	岩出市	52,882	8,625	1373.6	10.88%	17.13%	6.25%	
10	宮城県	気仙沼市	73,489	22,600	220.4	8.05%	14.13%	6.08%	
11	愛知県	長久手市	52,022	6,795	2415.1	9.20%	14.89%	5.70%	
12	香川県	坂出市	55,621	16,158	601.6	9.02%	14.51%	5.50%	
13	神奈川県	三浦市	48,352	14,238	1497.9	9.67%	15.09%	5.42%	
14	滋賀県	米原市	40,060	10,138	159.9	20.00%	25.23%	5.23%	
15	新潟県	十日町市	58,911	18,937	99.9	6.84%	12.01%	5.17%	
16	千葉県	我孫子市	134,017	31,271	3103	9.05%	14.10%	5.06%	
17	兵庫県	豊岡市	85,592	24,144	122.7	23.11%	26.00%	2.89%	変化率は低いが自宅死亡率の高い自治体（上位 5 位）
18	静岡県	牧之原市	49,019	12,116	438.9	21.05%	23.92%	2.87%	
19	千葉県	大網白里市	50,113	11,454	863.1	19.33%	19.92%	0.59%	
20	岐阜県	下呂市	36,314	12,028	42.7	22.06%	19.92%	-2.14%	
21	栃木県	壬生町	39,605	8,669	648.4	17.18%	19.35%	2.17%	

[1] 4%以上の場合非常に数が多くなり、また 6%以上では n 数が少なくなるため、5%以上と設定した

IV. 横浜市各区の分類方法

横浜市は単独で人口約 370 万人の人口を抱えている。表 3 からも明らかなように区によって自宅看取り率の数字にばらつきがある。そこで市内の各区の 2014 年の自宅看取り率、2011 年から 2014 年までの経年での自宅看取り率差分という 2 つの変数を用いて、18 区を 6 区ずつ①自宅看取高水準横浜、②自宅看取中水準横浜、③自宅看取低水準横浜の 3 つに区分した上で分析を行った。

区分に際しては、2014 年の自宅看取り率、2011 年から 2014 年にかけての自宅死亡率の差分のそれぞれが 18 区中で上位 9 位以内である区の場合に 1 点を加点した。その上で合計得点が 2 点の区を「①自宅看取高水準横浜」、1 点の区を「②自宅看取中水準横浜」、0 点の区を「③自宅看取低水準横浜」と評価・分類した。

図 2　横浜市の区の分類ロジック（再掲）

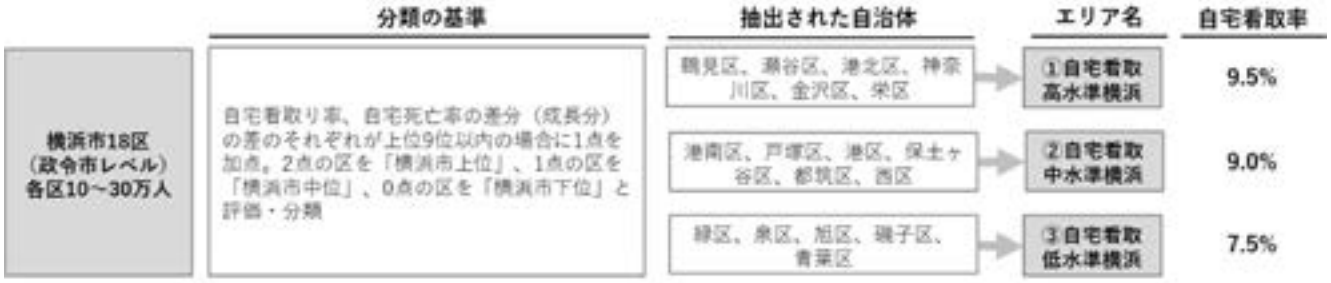


表 3　横浜市の区ごとの地域区分

区分名	行政区	総人口	高齢者人口	自宅看取り率(2011)	自宅看取り率(2014)	自宅看取り率の差分	自宅看取り率の点数	自宅看取り率の差分の点数	合計点数
①高水準横浜	鶴見区	282,084	56,281	4.9%	9.5%	4.6%	1	1	2
	瀬谷区	125,326	32,660	6.7%	10.1%	3.5%	1	1	2
	港北区	341,733	63,613	6.8%	9.9%	3.1%	1	1	2
	神奈川区	235,901	49,533	6.5%	9.4%	3.0%	1	1	2
	金沢区	203,237	53,087	6.1%	9.1%	3.0%	1	1	2
	栄区	122,286	35,135	6.4%	9.2%	2.8%	1	1	2
②中水準横浜	港南区	216,715	57,027	5.5%	9.0%	3.4%		1	1
	戸塚区	274,408	64,773	4.1%	7.5%	3.4%		1	1
	南区	194,363	49,390	5.8%	8.8%	2.9%		1	1
	保土ヶ谷区	204,774	51,283	6.9%	9.7%	2.8%	1		1
	都筑区	210,751	33,444	7.2%	9.8%	2.6%	1		1
	西区	97,711	19,237	10.2%	9.2%	-1.0%	1		1
③低水準横浜	緑区	179,513	40,412	5.3%	6.9%	1.6%			0
	泉区	154,400	40,635	5.9%	7.5%	1.6%			0
	中区	147,600	32,691	6.2%	7.7%	1.5%			0
	旭区	247,907	68,829	5.2%	6.6%	1.4%			0
	磯子区	163,861	42,945	7.3%	8.5%	1.2%			0
	青葉区	308,880	59,999	7.3%	7.7%	0.3%			0

調査票送付数、回収数

2016 年 11 月から 12 月にかけて、3,870 通を発送し、1,377 施設・機関から回答を得た（施設票ベース）。施設票の回収率は、34.5%となっている。詳細な回収数は表 4、表 5 を参照のこと。

表 4　調査票の回収状況（全国）

	在支援（N=378）			訪看（N=470）			居宅（N=1310）		
全国（除横浜市）	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市
A 票	102	26	37	84	23	42	258	66	117
B-1（完遂）票	59	10	23	77	18	36	213	51	94
B-2（中断）票	79	12	30	117	18	55	300	57	154

表 5　調査票の回収状況（横浜）

	在支援（N=140）			訪看（N=214）			居宅（N=519）		
横浜市	①高水準横浜	②中水準横浜	②低水準横浜	①高水準横浜	②中水準横浜	②低水準横浜	①高水準横浜	②中水準横浜	②低水準横浜
A 票	27	21	15	29	25	21	58	81	64
B-1（完遂）票	18	18	6	27	24	20	43	63	52
B-2（中断）票	16	12	7	27	21	20	43	67	48

平成 28 年度　厚生労働省　老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業
医療･介護ニーズがある高齢者等の地域居住のあり方に関する調査研究事業

「退院後の地域居住を可能にする住まいとサービスのあり方に関するアンケート調査」ご協力のお願い

一般財団法人高齢者住宅財団
理事長　　髙橋紘士

平素より、当財団業務につきましては格別のご高配を賜り誠にありがとうございます。

平成５年に厚生省と建設省（当時）共管の財団として設立した高齢者住宅財団は、「高齢者の住まいとケア」に関する施策立案に資するための調査研究・情報提供事業を行ってきました。

本年度は、在宅医療･介護と住まいの関係に着目し、「退院後の高齢患者の住まいとサービスのあり方」に焦点を当てた標記調査研究事業を実施いたします。

本調査は、高齢者住宅財団が厚生労働省からの補助を受け実施するもので、高齢患者が退院後も地域での継続居住が可能となる要件等について実態把握を行い、今後の医療・介護ニーズを抱えた高齢者の居住のあり方を検討する際の基礎資料といたします。

調査地域は、自宅死亡率が増加している度合いで都市規模別に抽出し、その地域の在宅療養支援診療所・在宅療養支援病院、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所を中心に本調査を実施いたします。

頂いた回答はすべて統計的に処理いたしますので、ご回答内容が特定されることはありません。また、本調査の目的以外に使用することもございません。さらに、本調査結果は、皆様にもご報告をさせて頂き、今後の御取組みにお役立て頂きたいと考えております。

ご多忙のところ大変恐縮でございますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご回答くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

平成 28 年 11 月吉日

ご回答期限　**平成２８年１２月２日（金）**
※同封の返信用封筒にてご投函ください。

同封書類
・調査実施要領（本紙裏面）
・厚生労働省　事務連絡
・アンケート調査票（A-1 票・１部、Ｂ－１票・１部、Ｂ－２票・１部）
・返信用封筒

ご回答頂く方
Ａ－１票　→院長・事務長にお渡しください。
Ｂ－１票、Ｂ－２票　→退院支援・調整から自宅療養終了まで最も中心に関わられたスタッフ（医師、看護師、相談員等）にお渡しください。

調査実施主体・調査に関する問い合わせ

東京都中央区八丁堀 2－20－9　八丁堀ＦＲＯＮＴ4 階
一般財団法人高齢者住宅財団　（http://www.koujuuzai.or.jp/）
担当：調査研究部　落合、小川
Tel :03-6672-7227(直通)　03-3206-6437(代表)／Fax:03-3206-5256
E-mail: chosa2016-1@koujuuzai.or.jp

調査票発送・回収に関する問い合わせ先

東京都世田谷区用賀 2-15-5　朝日生命用賀ビル 2F
株式会社メディヴァ
担当：コンサルティング事業部　橋爪、増崎
Tel :03-6805-7876（平日　10：00～17：00）

調査実施要領は裏面にあります

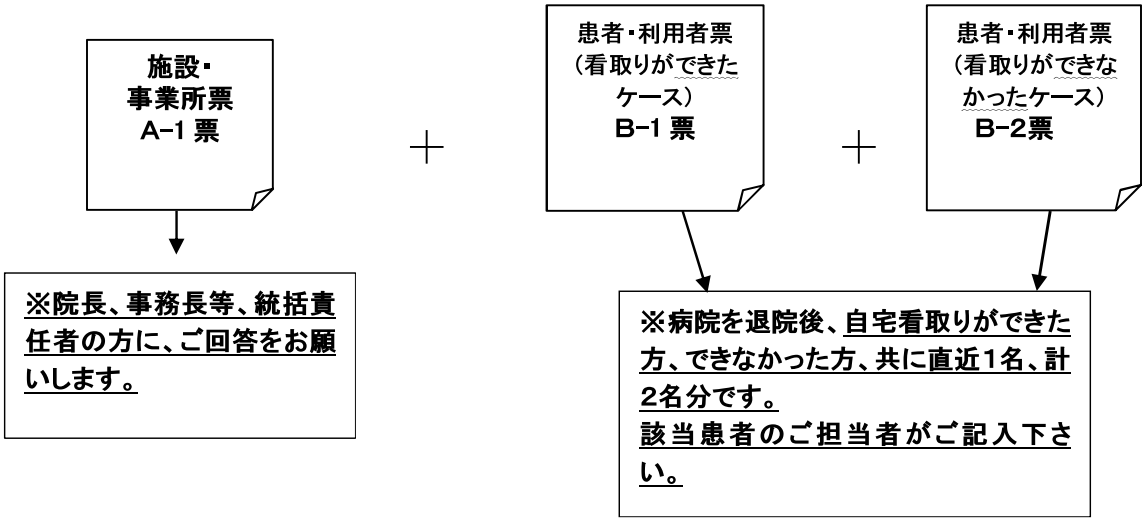
調査実施要領

１．調査票の種類と部数

調査票は、**「施設・事業所票（A－１票)」、「患者・利用者票：看取りができたケース（B－１票)」、「患者・利用者票：看取りができなかったケース（B－２票)」**の３種類あります。送付部数は、A－１票が１部、B－１票が１部、B－２票が１部です。

２．調査票の記入をお願いする方（記入者）

「施設・事業所票（A－１票)」は**病院・診療所の統括責任者、「患者・利用者票：自宅看取りができたケース（B－１票)」**と**「患者・利用者票：自宅看取りができなかったケース（B－２票)」は、自宅療養終了まで最も中心に関わられた方**にご記入をお願いします。



３．調査票の返送期限

ご記入が済んだ「施設・事業所票（A－１票)」、「患者・利用者票：自宅看取りができたケース（B－１票)」、「患者・利用者票：自宅看取りできなかったケース（B－２票)」は、お手数ですが、**施設、事業所**で**一式まとめて**、同封した返信用封筒で**「平成２８年１２月２日（金)」**までにご返送ください。

４．プライバシー・ポリシー

ご記入いただいた内容は、本調査の目的以外に使用することはございません。すべて統計的に処理をし、個別情報として取り扱うことはございませんので、正確にご記入ください。また、収集した個人情報も、当財団の個人情報保護方針に基づき、適切に取り扱います。

（http://www.koujuuzai.or.jp/html/top_privacypolicy.html）

５．その他

本調査にご回答いただけました場合には、**調査結果の概要報告書を後日お送りいたします。つきましては、「施設・事業所票（A－１票)」の連絡先欄にご記入くださいますようお願い申し上げます。**

（ご参考）

平成 28 年度 厚生労働省 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業

「医療・介護ニーズがある高齢者等の地域居住のあり方に関する調査研究事業」について

１．事業実施目的

医療・介護ニーズがある高齢者の地域居住の成立要件を
居宅介護支援を行う在宅医療・看護の観点から整理

退院後の住まいの確保が困難な高齢者の問題が顕在化する中、「施設・病院から在宅へ」の流れが本格化し、この流れを受け止めることができるような住環境整備は急務である。また、療養病床・慢性期医療の在り方が検討されていることから、在宅医療・介護と住まいの関係に着目し、医療・介護ニーズがあり、また単身等で家族介護力のない高齢者等が、どのような条件が整えば地域居住が可能になるかを明らかにすることは、ＱＯＬ（クオリティー・オブ・ライフ）の観点からも重要である。

そこで、本調査では、主として在宅医療・看護の観点から住まいの調査を行い、医療・介護ニーズのある高齢者の自宅を含めた多様な住まいに関する現状と課題、モデル的な好事例を把握する。そして、在宅医療を可能にする住まいとサービスのあり方（ハード及び医療・看護・介護・リハビリテーション等の入り方等）について提言を行う。

２．検討体制

調査の方向性を検討するための有識者等による委員会を設置する。

(1) 委員会委員（五十音順）

宇都宮宏子　在宅ケア移行支援研究所　代表・聖路加看護大学　臨床教授
太田　秀樹　医療法人アスムス　理事長
佐藤　好美　産経新聞社編集局　論説委員・文化部編集委員
園田眞理子　明治大学理工学部建築学科　教授
髙橋　紘士　一般財団法人高齢者住宅財団　理事長（委員長）
新田　國夫　医療法人社団つくし会　理事長
武藤　正樹　国際医療福祉大学大学院　教授
山本　繁樹　社会福祉法人立川市社会福祉協議会　地域生活支援課　課長

(2)オブザーバー

厚生労働省老健局高齢者支援課、厚生労働省保険局医療介護連携政策課

(3)事務局

一般財団法人高齢者住宅財団　調査研究部

平成28年度　厚生労働省　老人保健事業推進費等補助金　老人保健健康増進等事業
医療・介護ニーズがある高齢者等の地域居住のあり方に関する調査研究事業
「退院後の地域居住を可能にする住まいとサービスのあり方に関するアンケート調査」

一般財団法人高齢者住宅財団

調査票Ａ-1票

（在宅療養支援診療所/病院の情報）

在宅療養支援診療所/病院の届け出を行っている医療機関の情報についての調査票です。
院長、もしくは事務長（に相当する役職）の方がご記入ください。

※当調査票における「自宅」とは、本人・家族の持ち家又は賃貸住宅を指します。グループホーム、サービス付き高齢者向け住宅、経費老人ホーム（ケアハウス）、有料老人ホームは除きます。

※調査基準日：特に指定がない場合は、平成28年9月1日時点でご回答ください。

本調査結果の概要報告書をお送りさせて頂きますので、ご連絡先を下記の通りご記入ください。

貴院名称			
ご住所	〒		
ご担当者名			
電話暗号		メール アドレス	

アンケート調査票の回答期限（投函期限）

ご記入頂いた調査票は、同封の返信用封筒に入れて頂いた上、

12月2日（金）までに、ご投函下さい

▶貴施設について教えてください

問１　基本情報

①都道府県		②市区町村			
③病床数	総病床数（　　床）　内訳　一般（　　床）療養（　　床）その他（　　床）				
④医師数	常勤	人	非常勤	人	常勤換算　人
⑤看護師・准看護師数	常勤	人	非常勤	人	常勤換算　人

⑥在支診/病の届け出状況（いずれかに○）

1．在支診１（単独強化型）　4．在支病１（単独強化型）　7．届け出なし
2．在支診２（連携強化型）　5．在支病２（連携強化型）
3．在支診Ⅲ（従来型）　6．在支病Ⅲ（従来型）

⑦現住所での施設開設年	西暦　　年	⑧最初に在支診/病の届け出を出した年	西暦　　年

⑨外来診療と訪問診療の診療時間のおおよその比率　外来[　　]：訪問[　　]（例→外来[６]：在宅[４]）

⑩在宅患者の医療処置で、現時点で対応が困難な処置について、当てはまるもの**全てに○**を付けてください

1．点滴・静脈注射	5．胃ろう、腸ろう	9．人工呼吸器の管理	１３．留置カテーテル
2．中心静脈栄養	6．人工肛門	１０．疼痛管理	１４．喀痰吸引
3．経鼻胃管栄養	7．酸素療法	１１．褥瘡の管理	１５．輸血
4．透析（血液・腹膜）	8．気管切開の処置	１２．リハビリ	１６．その他（　　）

⑪医師会への加盟状況　1．入会している　2．入会していない

⑫自院内もしくは同一法人内に、（看取り等が可能な）病床がある　1．ある　2．ない

⑬同一法人内で、介護保険事業を行っている場合は、該当する事業に○をつけて下さい。

1．訪問看護	3．居宅介護支援	5．通所ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ	7．介護老人福祉施設または介護老人保健施設
2．訪問介護	4．通所介護	6．グループホーム	8．その他（　　）

問２　貴施設の９月における訪問診療対象患者数、およびそのうち自宅（※）療養患者数、自宅看取り件数の状況

※当調査では、自宅とは本人・家族の持ち家又は賃貸に限定します。グループホーム、サービス付き高齢者向け住宅、軽費老人ホーム（ケアハウス）、有料老人ホーム等は除きます。

① 平成28年9月（今年の状況）	ア）訪問診療料算定患者数	人
	イ）うち、自宅で療養していた患者数	人
	ウ）９月中（月間）の自宅看取り患者数	人
	エ）自宅で診ていたが、最期は自宅以外の場所（施設や病床）で看取りとなった患者数	人
② 平成26年9月（2年前の状況）	ア）訪問診療料算定患者数	人
	イ）うち、自宅で療養していた患者数	人
	ウ）９月中（月間）の自宅看取り患者数	人
	エ）自宅で診ていたが、最期は自宅以外の場所（施設や病床）で看取りとなった患者数	人
③ 平成23年9月（5年前の状況）	ア）訪問診療料算定患者数	人
	イ）うち、自宅で療養していた患者数	人
	ウ）９月中（月間）の自宅看取り患者数	人
	エ）自宅で診ていたが、最期は自宅以外の場所（施設や病床）で看取りとなった患者数	人

問３　貴施設による自宅看取り件数の経年推移（トレンド）についてお伺いします。

①在支診/病の届け出を行って２年目（軌道に乗って）以降、現在に至るまで、月間の自宅看取り件数は、

1．現在も順調に増加してきている　2．現在頭打ちとなっている　3．現在、減少に転じている

②-１そのトレンドの背景となる要因について、該当するものを全て選んで○をつけて下さい。

1．自院の在宅医療提供体制の増減（スタッフ体制の増減、スキルの増減等）や限界が背景となっている
2．地域の他の医療機関や事業所との連携の増減（連携強化や連携の解消等）が背景となっている
3．地域の競合医療機関の増減が背景となっている
4．地域の需要の増減（高齢者人口の増減、自宅看取りニーズの増減等）が背景となっている

②-２設問①のトレンドで、「１．増加」または「３．減少」を選んだ方は、最もそれに影響を与えている背景要因を、②-１の選択肢１～４の中からひとつ選んで記載してください　　番

問３（つづき）

③ 下記に、医療機関として高齢者の自宅看取りを**支える力の向上**に資する可能性のある要素を列挙しました。
設問②の選択肢で、**１または２（もしくは両方）を選んだ方は、その具体的理由に合致する項目**について、
１または２を選ばなかった方は、もし仮にこれから自宅看取り件数を増やしていこうとする場合に**重要になるだろうと思う項目**について、**最も当てはまるもの上位３つに**○をつけて下さい。

1．スタッフの増員（事業所のチーム体制の複数化）の容易さ
2．自宅看取りのスキルを学ぶ研修会や、ケースカンファレンスなどへ参加できる機会の多さ
3．実際の看取りケースを（同行等で）間近で体験し学ぶ機会の多さ
4．医療と介護の両職種が、気軽にコミュニケーションが取れる環境の存在・整備
5．多職種間の情報連携が（例えばＩＣＴ等で）仕組み化・効率化
6．病院と在宅側（医療・介護）との退院調整や急変時対応における連携の仕組み化
7．患者(利用者)本人や家族への、自宅での看取りに関する啓発や教育の実施

④ 設問①で選択されたトレンドの理由について、選択肢では出ていない要素があれば具体的に教えてください

（自由記述式）

▶ここからは、貴施設が所在する市区町村の地域としての状況について教えてください

問５　地域の医療機関・介護サービス等は、地域の在宅療養・在宅看取りの需要に応えられていますか？

※ここでは狭義の自宅だけではく、病院以外の生活の場（介護施設、サ高住等）を含んだ意味でお答えください

① 在宅療養の需要	1．十分対応できている　2．対応できている　3．対応できていない　4．不明
② 在宅看取りの需要	1．十分対応できている　2．対応できている　3．対応できていない　4．不明

問６　在宅療養の推進という観点から観た際、下記の地域の医療・介護資源について、貴施設からみたこの市町村における過不足感を教えてください。（右の5項目から当てはまる番号に○を付けて下さい）	非常に余裕がある	適切な量がある	不足している	不足を隣接自治体の資源で補完	わからない
①在宅療養支援診療所の数	1	2	3	4	5
②24時間対応の訪問看護ステーションの数	1	2	3	4	5
③24時間対応の訪問介護事業所の数	1	2	3	4	5
④自宅看取りに習熟しているケアマネジャーの数	1	2	3	4	5
⑤レスパイト施設の数	1	2	3	4	5
⑥病院の退院調整機能（例：退院調整スタッフの人数）	1	2	3	4	5
⑦急変時受入可能なバックベッドの数	1	2	3	4	5
⑧特別養護老人ホーム	1	2	3	4	5
⑨介護老人保健施設（老健）	1	2	3	4	5
⑩比較的低価格な介護付有料老人ホームやサ高住など	1	2	3	4	5

問７　この市区町村における在宅療養の推進や医療介護連携のリーダーシップについて

①積極的にリーダーシップを発揮しているのは誰ですか？当てはまるものに○を付けて下さい（複数回答可）

1．自治体　　4．特定の医師や看護師、ｹｱﾏﾈ等の個人　　7．特に音頭を取っている主体はない
2．医師会　　5．特定の医療機関や介護施設、法人　　8．その他（　　）
3．介護系の職能団体　　6．自治会などの地域住民組織　　9．わからない

② 設問①で選択した主体が推進した各種取り組みの中で、最も成功しているものは何ですか？（自由記述式）

➡裏面に続く

問８　市区町村で、自宅看取りに対する希望や件数は増えていますか？　実感に近いもの1つに○を付けてください

①自宅療養を希望する人数	1．増加	2．以前と同じ	3．減少	4．不明
②実際に自宅療養となる人数	1．増加	2．以前と同じ	3．減少	4．不明
③自宅看取りを希望する人数	1．増加	2．以前と同じ	3．減少	4．不明
④実際に自宅看取りとなる人数	1．増加	2．以前と同じ	3．減少	4．不明

④で２～４を選んだ場合は、**問１０**へ進んでください

問９　実際の自宅看取り件数が増加していると感じている方に伺います。
下記に挙げた、市区町村の環境的要因のうち、自宅看取りの増加に寄与したと思われるものはどれですか？

左列は当てはまるもの全て、 右列にはその中で特に重要なもの（3つ迄）に○を付けてください	寄与したもの（すべて）	特に重要なもの（上位３つ）
1．24時間対応可能な在宅医が地域に多いこと		
2．病院の退院調整が早期かつ丁寧で、連携がよく機能していたこと		
3．24時間対応可能な訪問看護ステーションが地域に多いこと		
4．24時間対応可能な訪問介護事業所が地域に多いこと		
5．自宅看取りに習熟しているケアマネジャーが地域に多いこと		
6．在宅対応型の薬局が地域に多いこと		
7．急変時に受け入れ可能な後方支援病床が地域に多いこと		
8．看取りの経験豊富な在宅医・訪問看護師が地域に多いこと		
9．疼痛コントロールが可能な在宅医が地域に多いこと		
10．医療・介護の多職種連携や相互交流が活発な地域だったこと		
11．行政が医療介護連携強化（研修や交流の場づくり等）に積極的なこと		
12．自宅での療養や看取りの文化や認識が昔から一般的な地域であること		
13．自宅療養や看取りに関する住民向け啓発活動が盛んな地域であること		
14．隣近所の互助やボランティア組織による生活支援が充実していること		
15．行政による住宅改修補助等の各種支援施策が充実してること		
16．その他（　　）		

問１０　今後、在宅療養や自宅看取りの希望に対応していくためには、市区町村で具体的に誰が何をやっていくべきとお考えですか？（自由回答）

文例：「自治体が、医師が○○できる仕組みを整備する」「医師会が住民を○○すること」

当調査票の質問は以上です。ご協力誠にありがとうございました。

平成28年度　厚生労働省　老人保健事業推進費等補助金　老人保健健康増進等事業
医療・介護ニーズがある高齢者等の地域居住のあり方に関する調査研究事業

「退院後の地域居住を可能にする住まいとサービスのあり方に関するアンケート調査」

一般財団法人高齢者住宅財団

調査票B-1票（患者・利用者票）
（自宅看取りと“なった”ケース）

患者様・利用者様についての調査票です。
退院支援・調整から自宅療養の終了まで、最も中心にかかわられたスタッフ
（医師、看護師、ケアマネジャー等）の方がご記入ください。

【対象患者・利用者】

以下の条件を“すべて満たす方”が調査対象となります。
必ずよくお読み頂いたうえで、記入を開始してください。

① **貴院・事業所がサービス**（訪問医療や訪問看護、ケアマネジメント）**を提供した患者・利用者で、すでに死亡した（お看取りとなった）者であること**

② **お看取りの際の年齢が75歳以上であること**

③ **病院からの退院時に、本人(※1)が「入院前に住んでいた自宅(※2)に戻ること」を希望し、実際に自宅に戻って、自宅療養をした（自宅で医療・介護サービスを受けた）者であること**

※1： 退院時に本人の意思疎通が困難だった場合、家族等が入院前の本人の希望をくみ取り、自宅復帰をその家族が希望した、という場合でもこの条件を満たすこととします

※2： ここでの自宅とは、本人・家族の持ち家または賃貸住宅を差し、グループホームやサービス付き高齢者向け住宅、軽費老人ホーム（ケアハウス）、有料老人ホームは除きます。よって、入院前にそれら施設に住んでいた方は今回の対象者からは外れます

④ **最終的に自宅看取りとなった者(※3)であること**

※3： ここでは、自宅で死亡したもの、死亡診断書の死亡場所種別が自宅であったものを指します。死亡の瞬間に本人以外の者（家族や医療・介護従事者等）が傍にいたかどうかは問いません

● **調査票到着時に上記①～④の条件を“すべて満たす直近の１名”**

※同送のＡ票との紐づけのため、Ｂ票にも下記の事業所情報をご記入ください

貴院・貴事業所名称		電話番号	

アンケート調査票の回答期限（投函期限）

ご記入頂いた調査票は、同封の返信用封筒に入れて頂いた上、

12月2日（金）までに、ご投函下さい

問１．基本情報

①性別		１．男性　２．女性
②年齢	②-1 退院（※）時の年齢　※自宅療養の起点となった退院を指し、その後の自宅療養中に派生した急性増悪に対応するための短期的な入院に伴う退院ではありませんのでご注意ください。	＿＿＿歳
	②-2 お看取りの際の年齢	＿＿＿歳

③退院後に戻った本人の自宅の状況（当てはまるものひとつに〇を付けてください）

１．本人持家・戸建住宅　　４．本人賃貸・ｱﾊﾟｰﾄ等集合賃貸住宅
２．本人持家・ﾏﾝｼｮﾝ等集合住宅　　５．不明
３．本人賃貸・戸建住宅

④自宅のバリアフリー状況について（どちらかに〇を付けてください）

１．玄関までの通路や屋内生活導線中に段差がない　　２．玄関までの通路や屋内生活導線中に段差がある

▶ここからは、この方が退院し自宅に戻られる時点のことについてお伺いしていきます（B-1票B-2票共通項目）

問２．退院時～自宅復帰時の情報

問２-１　病状・病態について

①在宅サービス提供のきっかけとなった入院の、原因となっていた主傷病名

※入院の原因となっていた疾患を、1~28のうち、ひとつに〇を付けてください。

１．感染症および寄生虫症
２．新生物　→うち**１６．悪性新生物**
３．血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害
４．内分泌、栄養および代謝疾患
５．精神および行動の障害　→うち**１７．認知症**
６．神経系の疾患　→うち**１８．パーキンソン病・パーキンソン病関連疾患**
７．眼および付属器の疾患、耳および乳様突起の疾患
８．循環器系の疾患　→うち**１９．脳卒中　２０．急性心筋梗塞または狭心症　２１．急性心不全**
９．呼吸器系の疾患　→うち**２２．肺炎（誤嚥性肺炎を含む）　２３．COPD**
１０．消化器系の疾患　→うち**２４．胆のう炎・胆管炎　２５．イレウス**
１１．皮膚および皮下組織の疾患
１２．筋骨格系および結合組織の疾患
１３．腎尿路性器系の疾患　→うち**２６．尿路感染症・急性腎盂腎炎**
１４．損傷、中毒およびその他の外因の影響　→うち**２７．下肢・骨盤の骨折　２８．27以外の骨折**
１５．その他（　　）

②退院後、自宅復帰時に必要な医療等について当てはまるもの**全てに〇**を付けてください

１．インシュリン等自己注射	５．胃ろう、腸ろう	９．人工呼吸器の管理	１３．留置カテーテル
２．中心静脈栄養	６．人工肛門	１０．疼痛管理	１４．喀痰吸引
３．経鼻胃管栄養	７．酸素療法	１１．褥瘡の管理	１５．輸血
４．透析（血液・腹膜）	８．気管切開の処置	１２．リハビリ	１６．その他（　　）

③-１認知症の状況	１．認知症なし　２．認知症あり

③-２認知症生活自立度の状況　（③-１で２を選択した場合のみ）

１．自立　２．Ⅰ　３．Ⅱａ　４．Ⅱｂ　５．Ⅲａ　６．Ⅲｂ　７．Ⅳ　８．Ｍ　９．不明

④退院後、自宅での療養を開始した際に認定を受けた（受けていた）要介護度　※療養開始時に申請中だった場合は、その後の認定要介護度をご記入ください	１．要支援１	３．要介護１	６．要介護４
	２．要支援２	４．要介護２	７．要介護５
		５．要介護３	８．非該当

⑤同時点での障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）について	１．自立	３．Ｊ２	５．Ａ２	７．Ｂ２	９．Ｃ２
	２．Ｊ１	４．Ａ１	６．Ｂ１	８．Ｃ１	１０．不明

⑥同時点におけるＡＤＬの状況について、Ａ～Ｅそれぞれに当てはまるものひとつに〇を付けてください。

Ａ　移動	１．自立	２．見守り	３．一部介助	４．全介助	５．不明
Ｂ　食事	１．自立	２．見守り	３．一部介助	４．全介助	５．不明
Ｃ　排泄	１．自立	２．見守り	３．一部介助	４．全介助	５．不明
Ｄ　入浴	１．自立	２．見守り	３．一部介助	４．全介助	５．不明
Ｅ　着替え	１．自立	２．見守り	３．一部介助	４．全介助	５．不明

問２．退院時～自宅復帰時の情報（つづき）

問２-２　世帯・同居状況について

①同居人の有無	1．あり　2．なし
②同居人のカテゴリ（複数回答可） ※「配偶者」には事実婚を含む	1．配偶者　3．息子　5．孫　7．友人 2．娘　4．子供の配偶者　6．親戚　8．その他（　　）
③主たる介護者 ※当てはまるものひとつに〇を付けてください	1．配偶者　4．子供の配偶者　7．友人 2．娘　5．孫　8．介護不要（本人自立のため） 3．息子　6．親戚　9．その他（　　）
④主たる介護者との同居の有無	1．同居　3．遠距離別居（往復に30分以上） 2．近距離別居（30分以内で行き来が可能）
⑤主たる介護者の就労の有無	1．就労あり（ﾌﾙﾀｲﾑ）　2．就労あり（ﾊﾟｰﾄ）　3．就労なし　4．不明

問２-３　本人の自宅復帰に関する意思決定について

①本人が自宅復帰を希望したことについての聴取の状況（当てはまるものひとつに〇を付けてください）

1．本人は意思疎通可能な状態で、本人の希望を直接（自身、もしくは他の医療・介護スタッフが）聞いた
2．本人は意思疎通可能な状態であったが、本人の意向は家族から間接的に聞いた
3．本人は意思疎通困難な状態だったので、聴取はできていない（家族や病院スタッフ等が証言する本人の過去の言動等から、本人の自宅復帰の希望が明らかであると推察した）

②家族（同居・別居を問わず）の、本人の退院後の行先に関する意向（最も近いものひとつに〇を付けてください）

1．家族としても、本人が自宅に戻ることを望んでいた
2．家族としてはどちらでもよかったが、本人が自宅を希望するのであれば応援したいと思っていた
3．家族としては本人の自宅復帰に消極的だが、本人の希望が強いので、認めざるを得ない状況だった
4．そもそも家族はいなかった

※家族内に複数の意向があった場合は主介護者の意向がどうだったかで上記番号を選択してください。

③退院時の本人の希望の性質に関し、ＡとＢどちらに近いか、当てはまるスケールの数字1つに〇をつけてください

※質問①で選択肢3.（意思疎通困難）を選ばれた方は、こちら③-1～5の質問は無回答で構いません	A	ややA	ややB	B	
③-１本人の自宅復帰の希望形成の背景（※）					※記入者による推定で構いません
A．本人の非常に強いこだわり	1	2	3	4	**B**．家族等周囲の方のこだわり（本人にはそこまで強いこだわりがなかった）
③-２本人の自宅復帰希望の背景となる感情（※）					※記入者による推定で構いません
A．住み慣れた自宅に戻りたい	1	2	3	4	**B**．病院や入院生活への拒絶感
③-３本人の自宅復帰の希望と経済力の関係（※）					※記入者による推定で構いません
A．経済的に多くの選択肢があった	1	2	3	4	**B**．経済的に自宅以外に選択肢がなかった
③-４サービス提供者が自宅へ頻繁に訪問しに来ることに対する本人の意識（※）					※記入者による推定で構いません
A．自宅への訪問には全く抵抗がなかった	1	2	3	4	**B**．抵抗感があった
③-５本人の希望における自宅復帰の自宅看取りの関係（※）					※記入者による推定で構いません
A．自宅看取りまで明確に想定していた	1	2	3	4	**B**．看取り場所までは明確に想定していなかった
③-６急変時・増悪時の対応イメージ（※）					※記入者による推定で構いません
A．入院は絶対にしない	1	2	3	4	**B**．必要に応じて一時的な入院はあり得る

問２-４　自宅のバリアフリーに関する状況について

①退院時、自宅のバリアフリー環境について

1．バリアフリー環境に関しては問題ない状態だったので、そのまま退院となった
2．バリアフリー環境が不十分だったので、住宅改修を行って環境を改善し、退院となった
3．バリアフリー環境が不十分だったが、そのまま退院となった

②前問①で２．３．を選択した場合に伺います。不十分だった住宅の要素は何ですか？（複数選択可）

1．生活導線の中でどうしても階段や段差が介在する　4．トイレがバリアフリーになっていない
2．廊下等に手すりがない　5．ベッド等の寝る場所がバリアフリーになっていない
3．お風呂がバリアフリーになっていない　6．その他（　　）

▶ここからは、この方が自宅看取りへ至る過程の時期についてお伺いしていきます（B-1票のみの項目）

問３．自宅看取りに至るまでの本人の状態・周辺状況の変化に関する情報

問３-１　身体状態の変化について

① 問２-１の②で選択した、自宅復帰時に必要だった医療等について、自宅復帰後、自宅看取りに至るまでの間に、**追加で**増えた医療等があれば、すべて○を付けてください。

１．インシュリン等自己注射	５．胃ろう、腸ろう	９．人工呼吸器の管理	１３．留置カテーテル
２．中心静脈栄養	６．人工肛門	１０．疼痛管理	１４．喀痰吸引
３．経鼻胃管栄養	７．酸素療法	１１．褥瘡の管理	１５．輸血
４．透析（血液・腹膜）	８．気管切開の処置	１２．リハビリ	１６．その他（　　）

②-１認知症の状況	１．依然、認知症なし　２．療養中に認知症発症　３．療養中に悪化

②-２最終的な認知症生活自立度の状況　（②-１で選択肢２及び３を選択した方のみ回答）

１．自立　２．Ⅰ　３．Ⅱａ　４．Ⅱｂ　５．Ⅲａ　６．Ⅲｂ　７．Ⅳ　８．Ｍ　９．不明

③最終的に認定を受けていた要介護度	１．要支援１	３．要介護１	５．要介護３	７．要介護５	
	２．要支援２	４．要介護２	６．要介護４	８．非該当	
④最終的な障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）について	１．自立	３．Ｊ２	５．Ａ２	７．Ｂ２	９．Ｃ２
	２．Ｊ１	４．Ａ１	６．Ｂ１	８．Ｃ１	１０．不明

⑤最終的なＡＤＬの状況について、Ａ～Ｅそれぞれに当てはまるものひとつに○を付けてください。

Ａ　移動	１．自立	２．見守り	３．一部介助	４．全介助	５．不明
Ｂ　食事	１．自立	２．見守り	３．一部介助	４．全介助	５．不明
Ｃ　排泄	１．自立	２．見守り	３．一部介助	４．全介助	５．不明
Ｄ　入浴	１．自立	２．見守り	３．一部介助	４．全介助	５．不明
Ｅ　着替え	１．自立	２．見守り	３．一部介助	４．全介助	５．不明

問３-２　サービス提供体制の変化について

①状態（医療依存度やADL）の推移に伴う家族介護・介護サービスの提供量の変化について（複数選択可）

１．状態の悪化に対し、保険（医療・介護）サービスを増やすことで対応した
２．状態の悪化に対し、家族介護を増やすことで対応した
３．状態の悪化に対し、自費（市場）サービスを増やすことで対応した
４．状態は悪化せず、退院時と変わらないサービス提供体制のままで対応した

問３-３　本人の自宅看取りへ向けた意思決定について

①看取りが実際に近づいたタイミングで改めて、自宅看取りへ向けた意思を再確認をしましたか？

１．行った　２．行っていない

②再確認時の聴取の状況（当てはまるものひとつに○を付けてください）

１．本人は意思疎通可能な状態で、本人の意思を直接（自身、もしくは他の医療・介護スタッフが）聞いた
２．本人は意思疎通可能な状態であったが、本人の意向は家族から間接的に聞いた
３．本人は意思疎通困難な状態だったので、聴取はできていない（家族や支援スタッフ等が証言する本人の過去の言動等から、本人の自宅看取りの意思が明らかであると推察した）

③本人の自宅看取りへ向けた意思の変化に関し、最も近いものはどれですか？

１．退院時と変わっていない。
２．退院時よりも、さらに自宅看取りに前向きになっていた
３．退院時よりも、自宅看取りに対して、消極的になっていた。
４．不明

④家族の自宅看取りへ向けた意思の変化に関し、最も近いものはどれですか？（※同居家族なしの場合は回答しないでください）

１．退院時と変わっていない。
２．退院時よりも、さらに自宅看取りに前向きになっていた
３．退院時よりも、自宅看取りに対して、消極的になっていた。
４．不明

問３-３　本人の自宅看取りへ向けた意思決定について（つづき）

⑤自宅での看取りに関し、本人や家族は不安を感じていたと思いますか？

⑤-１　本人の不安について（推定でも構いません）

1．不安を感じていた　　3．そもそも最初から不安は一切感じていなかった
2．もともと感じていたが、当初の不安は取り除かれていた　　4．わからない

⑤-２　（いれば）同居家族の不安について

1．不安を感じていた　　3．そもそも最初から不安は一切感じていなかった
2．もともと感じていたが、当初の不安は取り除かれていた　　4．わからない

⑥ 設問⑤-1,2において、選択肢１もしくは２を選んだ方に伺います。
それら本人や家族の不安を取り除いていった（軽減させていった）のは誰だったと思いますか？（複数選択可）

1．在宅医　　4．ヘルパー　　7．親戚
2．訪問看護師　　5．民生委員　　8．その他の人（　　）
3．ケアマネジャー　　6．近所の友人等　　9．誰も不安を取り除くことはできていなかった

⑦あらかじめ急性疾患で増悪した際に入院や救急搬送をするか、について、本人・家族と合意していましたか？
下記の中から最も近いものを選んでください（本人が意思疎通不可の場合は、家族のみとの合意内容で可）

1．どんな場合でも入院（救急搬送含む）はせず、自宅で治療する（場合によっては看取る）ことにしていた
2．主治医の判断に従い、状況次第で入院（救急搬送含む）を選択することにしていた
3．状況に応じ、本人や家族の判断で入院（救急搬送含む）を選択することにしていた
4．特に明確な取り決め・合意を形成してはいなかった

問４．実際の自宅看取りに関する情報

問４-１　看取り時（看取りの当日、もしくは最後の数日間）の状況について（もっとも近いものを選んでください）

1．事前の合意通り、搬送するか否かで混乱することもなく、自宅での看取りとなった
2．事前の合意と異なり、搬送するか否かで混乱はあったが、何とか自宅での看取りとなった
3．事前に確固たる合意が形成できていなかったが、何とか自宅での看取りとなった
4．その他（　　）

問４-２　この自宅看取りの満足度について

①同居（もしくは近居）家族がいた場合、今回の自宅看取りをめぐっての家族の満足度について

1．非常に満足　　2．やや満足　　3．どちらでもない　　4．やや不満　　5．とても不満　　6．不明

②-１ 支援にかかわった記入者本人の、この自宅看取りを振り返った印象に関し、最も近いもの教えてください

1．非常によい自宅看取りだったように思う
2．多くの反省点と課題の残る自宅看取りだったように思う
3．評価はどちらともいえない自宅看取りだったように思う

➡裏面に続く

▶最後に、この方の自宅看取りの成否を規定した要因ついてお伺いします

問５．本人の希望に沿った自宅復帰および自宅看取りが成功した要因に関する情報

右側のA,Bそれぞれについて、寄与度が高いと思う要素上位5つに、〇を付けてください。
さらにA,Bそれぞれについて、その5つの中で**最も寄与度の高いと思う項目に関して、枠内のカッコ（　）内に（1）と記入し**、わかるようにしてください。

問５-１-１　本人・家族の状態で、寄与したこと	**A**：退院後**自宅復帰できたこと**に寄与した要因	**B**：最終的な**自宅看取りの成功**に寄与した要因
1．本人の自宅への強い意志・こだわりがあったこと	（　）	（　）
2．本人の希望を抑圧しない、周囲の人たちの態度・理解があったこと	（　）	（　）
3．同居（近居）家族の家族介護力があったこと	（　）	（　）
4．同居（近居）家族が協力的だったこと	（　）	（　）
5．独居等、同居家族がおらず、本人自身で意思決定ができたこと	（　）	（　）
6．経済的な余裕があったこと	（　）	（　）
7．経済的な余裕がなく、自宅以外の選択肢がなかったこと	（　）	（　）
8．自宅が持ち家で家賃の負担がなかったこと	（　）	（　）
9．自宅が持ち家で、バリアフリー改修が容易だったこと	（　）	（　）
10．もともと自宅がバリアフリーだったこと	（　）	（　）
11．がん等、予後予測が可能（短期的）な疾患だったこと	（　）	（　）
12．認知症がなかった（軽かった）こと	（　）	（　）
13．吸引等、家族介護力が必要な医療行為が必要なかったこと	（　）	（　）
14．在宅医の特殊なスキルが必要（輸血等）な状態にならなかったこと	（　）	（　）
15．本人や家族に自宅療養や自宅看取りのイメージの素地があったこと	（　）	（　）
16．その他（　　）	（　）	（　）
	上記2列に、〇が合計10個、（1）はふたつ、あれば大丈夫です	

問５-１-２　居住地域の状態で、寄与したこと	**A**：退院後**自宅復帰できたこと**に寄与した要因	**B**：最終的な**自宅看取りの成功**に寄与した要因
1．24時間対応可能な在宅医が地域に多いこと	（　）	（　）
2．病院の退院調整が早期かつ丁寧で、連携がよく機能していたこと	（　）	（　）
3．24時間対応可能な訪問看護ステーションが地域に多いこと	（　）	（　）
4．24時間対応可能な訪問介護事業所が地域に多いこと	（　）	（　）
5．自宅看取りに習熟しているケアマネジャーが地域に多いこと	（　）	（　）
6．在宅対応型の薬局が地域に多いこと	（　）	（　）
7．急変時に受け入れ可能な後方支援病床が地域に多いこと	（　）	（　）
8．看取りの経験豊富な在宅医・訪問看護師が地域に多いこと	（　）	（　）
9．疼痛コントロールが可能な在宅医が地域に多いこと	（　）	（　）
10．医療・介護の多職種連携や相互交流が活発な地域だったこと	（　）	（　）
11．行政が医療介護連携強化（研修や交流の場づくり等）に積極的なこと	（　）	（　）
12．自宅での療養や看取りの文化や認識が昔から一般的な地域であること	（　）	（　）
13．自宅療養や看取りに関する住民向け啓発活動が盛んな地域であること	（　）	（　）
14．隣近所の互助やボランティア組織による生活支援が充実していること	（　）	（　）
15．行政による住宅改修補助等の各種支援施策が充実してること	（　）	（　）
16．その他（　　）	（　）	（　）
	上記2列に、〇が合計10個、（1）はふたつ、あれば大丈夫です	

当調査票の質問は以上です。ご協力誠にありがとうございました。

平成28年度　厚生労働省　老人保健事業推進費等補助金　老人保健健康増進等事業
医療・介護ニーズがある高齢者等の地域居住のあり方に関する調査研究事業

「退院後の地域居住を可能にする住まいとサービスのあり方に関するアンケート調査」

一般財団法人高齢者住宅財団

調査票B-2票（患者・利用者票）
（自宅看取りと“ならなかった”ケース）

患者様・利用者様についての調査票です。
退院支援・調整から自宅療養の終了まで、最も中心にかかわられたスタッフ
（医師、看護師、ケアマネジャー等）の方がご記入ください。

【対象患者・利用者】
以下の条件を“すべて満たす方”が調査対象となります。
必ずよくお読み頂いたうえで、記入を開始してください。

① **貴院・事業所がサービス**（訪問医療や訪問看護、ケアマネジメント）**を提供した患者・利用者で、すでに死亡した（お看取りとなった）者であること**

② **お看取りの際の年齢が75歳以上であること**

③ **病院からの退院時に、本人(※1)が「入院前に住んでいた自宅(※2)に戻ること」を希望し、実際に自宅に戻って、自宅療養をした（自宅で医療・介護サービスを受けた）者であること**

※1： 退院時に本人の意思疎通が困難だった場合、家族等が入院前の本人の希望をくみ取り、自宅復帰をその家族が希望した、という場合でもこの条件を満たすこととします

※2： ここでの自宅とは、本人・家族の持ち家またが賃貸住宅を差し、グループホームやサービス付き高齢者向け住宅、軽費老人ホーム（ケアハウス）、有料老人ホームは除きます。よって、入院前にそれら施設に住んでいた方は今回の対象者からは外れます

④ **退院後自宅療養を開始するも、途中で何らかの理由から、施設に入所したり、病院に入院するなどして、最終的に元の自宅には戻らず、自宅以外の場所で死亡した者（自宅看取り“できなかった”者）であること**

● **調査票到着時に上記①～④の条件を“すべて満たす直近の１名”**

※同送のＡ票との紐づけのため、Ｂ票にも下記の事業所情報をご記入ください

貴院・貴事業所名称		電話番号	

アンケート調査票の回答期限（投函期限）

ご記入頂いた調査票は、同封の返信用封筒に入れて頂いた上、

12月2日（金）までに、ご投函下さい

問１．基本情報

①性別		１．男性　２．女性
②年齢	②-1 退院（※）時の年齢　※自宅療養の起点となった退院を指し、その後の自宅療養中に派生した急性増悪に対応するための短期的な入院に伴う退院ではありませんのでご注意ください。	＿＿＿歳
	②-2 自宅療養が終了（自宅以外の施設や病院へ療養場所を移動）した時点での年齢	＿＿＿歳

③退院後に戻った本人の自宅の状況（当てはまるものひとつに○を付けてください）

１．本人持家・戸建住宅　　４．本人賃貸・ｱﾊﾟｰﾄ等集合賃貸住宅
２．本人持家・ﾏﾝｼｮﾝ等集合住宅　　５．不明
３．本人賃貸・戸建住宅

④自宅のバリアフリー状況について（どちらかに○を付けてください）

１．玄関までの通路や屋内生活導線中に段差がない　　２．玄関までの通路や屋内生活導線中に段差がある

▶ここからは、この方が退院し自宅に戻られる時点のことについてお伺いしていきます（B-1票B-2票共通項目）

問２．退院時～自宅復帰時の情報

問２-１　病状・病態について

①在宅サービス提供のきっかけとなった入院の、原因となっていた主傷病名

※入院の原因となっていた疾患を、1~28のうち、ひとつに○を付けてください。

１．感染症および寄生虫症
２．新生物　→うち**１６．悪性新生物**
３．血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害
４．内分泌、栄養および代謝疾患
５．精神および行動の障害　→うち**１７．認知症**
６．神経系の疾患　→うち**１８．パーキンソン病・パーキンソン病関連疾患**
７．眼および付属器の疾患、耳および乳様突起の疾患
８．循環器系の疾患　→うち**１９．脳卒中　２０．急性心筋梗塞または狭心症　２１．急性心不全**
９．呼吸器系の疾患　→うち**２２．肺炎（誤嚥性肺炎を含む）　２３．COPD**
１０．消化器系の疾患　→うち**２４．胆のう炎・胆管炎　２５．イレウス**
１１．皮膚および皮下組織の疾患
１２．筋骨格系および結合組織の疾患
１３．腎尿路性器系の疾患　→うち**２６．尿路感染症・急性腎盂腎炎**
１４．損傷、中毒およびその他の外因の影響　→うち**２７．下肢・骨盤の骨折　２８．27以外の骨折**
１５．その他（　　）

②退院後、自宅復帰時に必要な医療等について当てはまるもの**全てに○**を付けてください

１．インシュリン等自己注射	５．胃ろう、腸ろう	９．人工呼吸器の管理	１３．留置カテーテル
２．中心静脈栄養	６．人工肛門	１０．疼痛管理	１４．喀痰吸引
３．経鼻胃管栄養	７．酸素療法	１１．褥瘡の管理	１５．輸血
４．透析（血液・腹膜）	８．気管切開の処置	１２．リハビリ	１６．その他（　　）

③-１認知症の状況　　１．認知症なし　２．認知症あり

③-２認知症生活自立度の状況　（③-１で２を選択した場合のみ）

１．自立　２．Ⅰ　３．Ⅱａ　４．Ⅱｂ　５．Ⅲａ　６．Ⅲｂ　７．Ⅳ　８．Ｍ　９．不明

④退院後、自宅での療養を開始した際に認定を受けた（受けていた）要介護度　※療養開始時に申請中だった場合は、その後の認定要介護度をご記入ください

１．要支援１	３．要介護１	６．要介護４
２．要支援２	４．要介護２	７．要介護５
	５．要介護３	８．非該当

⑤同時点での障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）について

１．自立	３．Ｊ２	５．Ａ２	７．Ｂ２	９．Ｃ２
２．Ｊ１	４．Ａ１	６．Ｂ１	８．Ｃ１	１０．不明

⑥同時点におけるＡＤＬの状況について、Ａ～Ｅそれぞれに当てはまるものひとつに○を付けてください。

Ａ　移動	１．自立	２．見守り	３．一部介助	４．全介助	５．不明
Ｂ　食事	１．自立	２．見守り	３．一部介助	４．全介助	５．不明
Ｃ　排泄	１．自立	２．見守り	３．一部介助	４．全介助	５．不明
Ｄ　入浴	１．自立	２．見守り	３．一部介助	４．全介助	５．不明
Ｅ　着替え	１．自立	２．見守り	３．一部介助	４．全介助	５．不明

問２．退院時～自宅復帰時の情報（つづき）

問２-２　世帯・同居状況について

①同居人の有無	1．あり　2．なし
②同居人のカテゴリ（複数回答可） ※「配偶者」には事実婚を含む	1．配偶者　3．息子　5．孫　7．友人 2．娘　4．子供の配偶者　6．親戚　8．その他（　　）
③主たる介護者 ※当てはまるものひとつに〇を付けてください	1．配偶者　4．子供の配偶者　7．友人 2．娘　5．孫　8．介護不要（本人自立のため） 3．息子　6．親戚　9．その他（　　）
④主たる介護者との同居の有無	1．同居　3．遠距離別居（往復に30分以上） 2．近距離別居（30分以内で行き来が可能）
⑤主たる介護者の就労の有無	1．就労あり（ﾌﾙﾀｲﾑ）　2．就労あり（ﾊﾟｰﾄ）　3．就労なし　4．不明

問２-３　本人の自宅復帰に関する意思決定について

①本人が自宅復帰を希望したことについての聴取の状況（当てはまるものひとつに〇を付けてください）

1．本人は意思疎通可能な状態で、本人の希望を直接（自身、もしくは他の医療・介護スタッフが）聞いた
2．本人は意思疎通可能な状態であったが、本人の意思は家族から間接的に聞いた
3．本人は意思疎通困難な状態だったので、聴取はできていない（家族や病院スタッフ等が証言する本人の過去の言動等から、本人の自宅復帰の希望が明らかであると推察した）

②家族（同居・別居を問わず）の、本人の退院後の行先に関する意向（最も近いものひとつに〇を付けてください）

1．家族としても、本人が自宅に戻ることを望んでいた
2．家族としてはどちらでもよかったが、本人が自宅を希望するのであれば応援したいと思っていた
3．家族としては本人の自宅復帰に消極的だが、本人の希望が強いので、認めざるを得ない状況だった
4．そもそも家族はいなかった

※家族内に複数の意向があった場合は主介護者の意向がどうだったかで上記番号を選択してください。

③退院時の本人の希望の性質に関し、ＡとＢどちらに近いか、当てはまるスケールの数字1つに〇をつけてください

※質問①で選択肢3.（意思疎通困難）を選ばれた方は、こちら③-1～5の質問は無回答で構いません	A	ややA	ややB	B	
③-１本人の自宅復帰の希望形成の背景（※）					※記入者による推定で構いません
A．本人の非常に強いこだわり	1	2	3	4	**B**．家族等周囲の方のこだわり（本人にはそこまで強いこだわりがなかった）
③-２本人の自宅復帰希望の背景となる感情（※）					※記入者による推定で構いません
A．住み慣れた自宅に戻りたい	1	2	3	4	**B**．病院や入院生活への拒絶感
③-３本人の自宅復帰の希望と経済力の関係（※）					※記入者による推定で構いません
A．経済的に多くの選択肢があった	1	2	3	4	**B**．経済的に自宅以外に選択肢がなかった
③-４サービス提供者が自宅へ頻繁に訪問しに来ることに対する本人の意識（※）					※記入者による推定で構いません
A．自宅への訪問には全く抵抗がなかった	1	2	3	4	**B**．抵抗感があった
③-５本人の希望における自宅復帰の自宅看取りの関係（※）					※記入者による推定で構いません
A．自宅看取りまで明確に想定していた	1	2	3	4	**B**．看取り場所までは明確に想定していなかった
③-６急変時・増悪時の対応イメージ（※）					※記入者による推定で構いません
A．入院は絶対にしない	1	2	3	4	**B**．必要に応じて一時的な入院はあり得る

問２-４　自宅のバリアフリーに関する状況について

①退院時、自宅のバリアフリー環境について

1．バリアフリー環境に関しては問題ない状態だったので、そのまま退院となった
2．バリアフリー環境が不十分だったので、住宅改修を行って環境を改善し、退院となった
3．バリアフリー環境が不十分だったが、そのまま退院となった

②前問①で２．３．を選択した場合に伺います。不十分だった住宅の要素は何ですか？（複数選択可）

1．生活導線の中でどうしても階段や段差が介在する　4．トイレがバリアフリーになっていない
2．廊下等に手すりがない　5．ベッド等の寝る場所がバリアフリーになっていない
3．お風呂がバリアフリーになっていない　6．その他（　　）

▶ここからは、この方が自宅療養の終了に至る過程の時期についてお伺いしていきます（B-2票のみの項目）

問３．自宅療養の終了（※ここでは身体状況の重度化によって在宅限界を迎え他の療養場所へ移動することや、急性増悪で入院しそのまま二度と自宅に戻ることがなかった場合どちらも含む）に至るまでの本人の状態・周辺状況の変化に関する情報

問３-１　身体状態の変化について

① 問２-１の②で選択した、自宅復帰時に必要だった医療等について、復帰から自宅療養の終了に至るまでの間に、**追加で**増えた医療等があれば、すべて○を付けてください。

１．インシュリン等自己注射	５．胃ろう、腸ろう	９．人工呼吸器の管理	１３．留置カテーテル
２．中心静脈栄養	６．人工肛門	１０．疼痛管理	１４．喀痰吸引
３．経鼻胃管栄養	７．酸素療法	１１．褥瘡の管理	１５．輸血
４．透析（血液・腹膜）	８．気管切開の処置	１２．リハビリ	１６．その他（　　）

①-２その中で特に、自宅療養の終了に**最も大きな、直接的影響を与えた医療行為**があれば、数字を教えてください

上記１～１５で該当する医療行為の番号（複数該当する場合は複数記入可）➡＿＿＿＿＿＿番

②-１認知症の状況　１．依然、認知症なし　２．療養中に認知症発症

②-２自宅療養の終了時の最終的な認知症生活自立度の状況　（②-１で２を選択した場合のみ）

１．自立　２．Ⅰ　３．Ⅱａ　４．Ⅱｂ　５．Ⅲａ　６．Ⅲｂ　７．Ⅳ　８．Ｍ　９．不明

②-3 上記、認知症生活自立度の悪化と、自宅療養の終了の関係性について　（②-１で２を選択した場合のみ）

１．自宅療養の終了の直接的な原因だった　３．自宅療養の終了とは関係がない（影響を与えていない）
２．自宅療養の終了に影響を与えた　４．不明

③自宅療養の終了時に最終的に認定を受けていた要介護度	１．要支援１	３．要介護１	５．要介護３	７．要介護５		
	２．要支援２	４．要介護２	６．要介護４	８．非該当		
④自宅療養の終了時の最終的な障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）について	１．自立	３．Ｊ２	５．Ａ２	７．Ｂ２	９．Ｃ２	
	２．Ｊ１	４．Ａ１	６．Ｂ１	８．Ｃ１	１０．不明	

⑤-1 自宅療養の終了時の最終的なADLの状況について、A～Eそれぞれ当てはまるものひとつに○を付けてください

A　移動	１．自立	２．見守り	３．一部介助	４．全介助	５．不明
B　食事	１．自立	２．見守り	３．一部介助	４．全介助	５．不明
C　排泄	１．自立	２．見守り	３．一部介助	４．全介助	５．不明
D　入浴	１．自立	２．見守り	３．一部介助	４．全介助	５．不明
E　着替え	１．自立	２．見守り	３．一部介助	４．全介助	５．不明

⑤-2 なお、その中で特に自宅療養の終了に直接的影響を与えた悪化項目があれば、ｱﾙﾌｧﾍﾞｯﾄを教えてください

上記Ａ～Ｅで該当するADL悪化項目のｱﾙﾌｧﾍﾞｯﾄ（複数該当する場合は複数記入可）➡＿＿＿＿＿＿

⑥以下の本人の身体状況の推移の項目中で、在宅療養の終了に最も影響を与えたと思うものを選んでください

１．医療依存度（喀痰吸引等含む）の上昇　２．認知症の悪化　３．ADLの低下と身体介護必要量の増加

問３-２　自宅療養の終了に至るまでの、本人・家族の意思決定について

①自宅療養の終了に至る、本人の意思の変化に関しての聴取の状況（当てはまるものひとつに○を付けてください）

１．本人の意思の変化を直接（自身、もしくは他の医療・介護スタッフが）聞いた
２．本人の意思の変化を聞いた家族から、間接的に聞いた
３．本人との意思疎通は困難になってしまったため、聴取はできていない

②自宅療養の終了に至る、本人の意思の変化に関し、最も近いものはどれですか？

１．退院時と変わらず、本人は自宅での療養を望んでいた
２．退院時と異なり、自宅療養にこだわらなくなった
３．退院時と異なり、自宅以外の場所での療養を望むようになった
４．不明

③自宅療養の終了に至る家族の意思の変化に関し、最も近いものはどれですか？

（※同居家族なしの場合は回答しないでください）

１．退院時と変わらず、本人の自宅での療養を望んでいた
２．退院時と異なり、本人の自宅療養にこだわらなくなった
３．退院時と異なり、自宅以外の場所での療養を望むようになった
４．不明

問３-２　自宅療養の終了に至るまでの、本人・家族の意思決定について（つづき）

④あらかじめ急性疾患で増悪した際に入院や救急搬送をするか、について、本人・家族と合意していましたか？
下記の中から最も近いものを選んでください（本人が意思疎通不可の場合は、家族のみとの合意内容で可）

1．どんな場合でも入院（救急搬送含む）はせず、自宅で治療する（場合によっては看取る）ことにしていた
2．主治医の判断に従い、状況次第で入院（救急搬送含む）を選択することにしていた
3．状況に応じ、本人や家族の判断で入院（救急搬送含む）を選択することにしていた
4．特に明確な取り決め・合意を形成してはいなかった

問４．実際の自宅療養終了時（自宅以外の療養場所へ移動する）の状況および移動先に関する情報

問４-１　自宅療養の終了の状況について

① 自宅療養の終了のタイプについて、どちらかを選んで○を付けてください。

1．【計画型】介護施設や高齢者向け住宅、療養型病院等への計画的な入所・入院によって療養場所を移した
2．【突発型】肺炎等の急性疾患の増悪により突発的に入院となり、そのまま二度と自宅には戻らなかった

▶【計画型】を選んだ方のみお答え頂きます。　➡【突発型】を選んだ場合は、問４-３に進んでください。

問４-２　自宅療養の終了の原因について

①療養場所の移動に至った背景を教えてください（複数回答可）

1．医療依存度の上昇に対応可能な在宅医がいなかったため
2．訪問看護や訪問介護等の24時間対応可能な保険サービスが、地域に十分になかったため
3．訪問看護や訪問介護等のニーズが、介護保険の限度額を超え、保険だけでは賄えなくなったため
4．家族による介護継続が困難になったため（家族の疲弊や介護拒否、転居等）
5．家族介護力は減っていないが、それでも足りなくなってしまったため
6．ＡＤＬ低下に伴い必要となった追加の自宅バリアフリー化（改修等）に対応できなかったため
7．特養等の、経済的負担の少ない介護施設へ入居できることになったため
8．子供の援助等で、介護付き有料老人ホームやサ高住に入居できることになったため
9．その他（　　）
１０．不明

②移動先の療養場所を教えてください

1．特別養護老人ホーム　4．サービス付き高齢者向け住宅　7．一般病棟　１０．その他
2．介護老人保健施設　5．グループホーム　8．緩和ケア病棟　（　　）
3．有料老人ホーム　6．ケアハウス　9．療養病棟　１１．不明

▶【突発型】を選んだ方のみお答え頂きます。　➡【計画型】を選んだ方は、問５に進んでください。

問４-３　突発的入院の原因について

①この入院の経路を教えてください　1．予定入院（救急搬送ではない）　2．救急搬送による入院

②この入院は、誰の判断によって決まりましたか？

1．主治医の判断による　3．家族の判断による　5．訪問看護師の判断による　7．不明
2．本人の判断による　4．ケアマネジャーの判断による　6．その他（　　）

③この入院の判断は事前に医療介護ｽﾀｯﾌと本人家族間で合意されていた急変時対応と、合致するものでしたか？

1．合致する、適切なものだった　3．そもそも合意は形成されていなかった
2．急変時の混乱の中での判断で、合致しないものだった　4．不明

④この入院後の状況を教えてください

1．入院後、短期間でそのままお看取り（病院看取り）となった　3．不明
2．治療ののち病状は安定したが、退院先は自宅以外の場所となった。

⑤前質問④で「２．退院先は自宅以外」を選んだ方に伺います。
自宅に戻らなかった（戻れなかった）となった理由は何ですか？（複数選択可）

1．医療依存度やADLの重度化によるやむを得ない理由のため　4．その他（　　）
2．本人が自宅復帰に消極的となったため　5．不明
3．家族が自宅復帰に消極的となったため

▶最後に、この方の自宅看取りの成否を規定した要因ついてお伺いします

問５-１．自宅復帰の成功に影響を与えた要因に関する情報

寄与度が高いと思う要素上位5つに、〇を付けてください。
さらにその5つの中で**最も寄与度の高いと思う項目に関して、枠内のカッコ（　）内に（1）と記入**し、
わかるようにしてください。

問５-１-１　本人・家族の状態で、自宅復帰に貢献したこと

1．本人の自宅への強い意志・こだわりがあったこと	（　）
2．本人の希望を抑圧しない、周囲の人たちの態度・理解があったこと	（　）
3．同居（近居）家族の家族介護力があったこと	（　）
4．同居（近居）家族が協力的だったこと	（　）
5．独居等、同居家族がおらず、本人自身で意思決定ができたこと	（　）
6．経済的な余裕があったこと	（　）
7．経済的な余裕がなく、自宅以外の選択肢がなかったこと	（　）
8．自宅が持ち家で家賃がなかったこと	（　）
9．自宅が持ち家で、バリアフリー改修が容易だったこと	（　）
10．もともと自宅がバリアフリーだったこと	（　）
11．がん等、予後予測が可能（短期的）な疾患だったこと	（　）
12．認知症がなかった（軽かった）こと	（　）
13．吸引等、家族介護力が必要な医療行為が必要なかったこと	（　）
14．在宅医の特殊なスキルが必要（輸血等）な状態にならなかったこと	（　）
15．本人や家族に自宅療養や自宅看取りのイメージの素地があったこと	（　）
16．その他（　　）	（　）

上記に、〇が合計５つ、（1）はひとつ、あれば大丈夫です

問５-１-２　居住地域の状態で、自宅復帰に貢献したこと

1．24時間対応可能な在宅医が地域に多いこと	（　）
2．病院の退院調整が早期かつ丁寧で、連携がよく機能していたこと	（　）
3．24時間対応可能な訪問看護ステーションが地域に多いこと	（　）
4．24時間対応可能な訪問介護事業所が地域に多いこと	（　）
5．自宅看取りに習熟しているケアマネジャーが地域に多いこと	（　）
6．在宅対応型の薬局が地域に多いこと	（　）
7．急変時に受け入れ可能な後方支援病床が地域に多いこと	（　）
8．看取りの経験豊富な在宅医・訪問看護師が地域に多いこと	（　）
9．疼痛コントロールが可能な在宅医が地域に多いこと	（　）
10．医療・介護の多職種連携や相互交流が活発な地域だったこと	（　）
11．行政が医療介護連携強化（研修や交流の場づくり等）に積極的なこと	（　）
12．自宅での療養や看取りの文化や認識が昔から一般的な地域であること	（　）
13．自宅療養や看取りに関する住民向け啓発活動が盛んな地域であること	（　）
14．隣近所の互助やボランティア組織による生活支援が充実していること	（　）
15．行政による住宅改修補助等の各種支援施策が充実してること	（　）
16．その他（　　）	（　）

上記に、〇が合計５つ、（1）はひとつ、あれば大丈夫です

問５-２．自宅看取りの終了（他の場所への移動）に影響を与えた要因（＝自宅看取りの阻害要因）に関する情報

影響力が大きかったと思う要素上位5つに、〇を付けてください。
さらにその5つの中で**最も影響力が大きかったと思う項目に関して、枠内のカッコ（）内に（１）と記入**し、
わかるようにしてください。

問５-２-１　本人・家族の状態に関し、自宅看取りの阻害要因となったこと

（※項目はすべて、左の表の逆説になっています）

1．本人の自宅への強い意志・こだわりが**なかったこと**	（ ）
2．本人の希望を抑圧しない、周囲の人たちの態度・理解が**なかったこと**	（ ）
3．同居（近居）家族の家族介護力が**なかったこと**	（ ）
4．同居（近居）家族が協力的で**なかったこと**	（ ）
5．同居家族がいて、本人自身で意思決定が**できなかったこと**	（ ）
6．経済的な余裕が**なかったこと**	（ ）
7．経済的な余裕が**あり、自宅以外の選択肢があったこと**	（ ）
8．自宅が持ち家で**なく、家賃の負担があったこと**	（ ）
9．自宅が持ち家で**なく**、バリアフリー改修が容易で**なかったこと**	（ ）
10．もともと自宅がバリアフリーで**なかったこと**	（ ）
11．がん等、予後予測が可能（短期的）な疾患では**なかったこと**	（ ）
12．認知症が**あった（重かった）こと**	（ ）
13．吸引等、家族介護力が必要な医療行為が必要な状態に**なったこと**	（ ）
14．在宅医の特殊なスキルが必要（輸血等）な状態に**なったこと**	（ ）
15．本人や家族に自宅療養や自宅看取りのイメージの素地が**なかったこと**	（ ）
16．その他（　　）	（ ）

上記に、〇が合計５つ、（1）はひとつ、あれば大丈夫です

問５-２-２　居住地域の状態に関し、自宅看取りの阻害要因となったこと

（※項目はすべて、左の表の逆説になっています）

1．24時間対応可能な在宅医が地域に**少なかったこと**	（ ）
2．病院の退院調整が不十分で、連携がうまく機能して**いなかったこと**	（ ）
3．24時間対応可能な訪問看護ステーションが地域に**少ないこと**	（ ）
4．24時間対応可能な訪問介護事業所が地域に**少ないこと**	（ ）
5．自宅看取りに習熟しているケアマネジャーが地域に**少ないこと**	（ ）
6．在宅対応型の薬局が地域に**少ないこと**	（ ）
7．急変時に受け入れ可能な後方支援病床が地域に**少ないこと**	（ ）
8．看取りの経験豊富な在宅医・訪問看護師が地域に**少ないこと**	（ ）
9．疼痛コントロールが可能な在宅医が地域に**少ないこと**	（ ）
10．医療・介護の多職種連携や相互交流が**活発ではない**地域だったこと	（ ）
11．行政が医療介護連携強化（研修や交流の場づくり等）に**消極的なこと**	（ ）
12．自宅での療養や看取りの文化や認識が昔から**一般的でない**地域であること	（ ）
13．自宅療養や看取りに関する住民向け啓発活動が**あまり行われていない**地域であること	（ ）
14．隣近所の互助やボランティア組織による生活支援が**充実していないこと**	（ ）
15．行政による住宅改修補助等の各種支援施策が**充実していないこと**	（ ）
16．その他（　　）	（ ）

上記に、〇が合計５つ、（1）はひとつ、あれば大丈夫です

当調査票の質問は以上です。ご協力誠にありがとうございました。

1. 在宅療養支援診療所/病院の基礎統計

表 1　回答した機関の所在地（全国）

都道府県	市区町村	都市群名 ①高水準 大規模市部	 ②高水準 小規模市部	 ③低水準 大規模市部
栃木	壬生町		1	
千葉	我孫子市		3	
	館山市		1	
	市川市	6		
	船橋市	9		
東京	羽村市		1	
	葛飾区	8		
	世田谷区	18		
神奈川	横須賀市	5		
	三浦市		2	
新潟	十日町市		1	
富山	富山市			6
愛知	長久手市		1	
	豊田市			4
三重	四日市市	5		
大阪	岸和田市	3		
	高槻市	7		
	豊中市	15		
兵庫	伊丹市	3		
	加古川市	4		
	西宮市	12		
	宝塚市	7		
	富岡市		5	
和歌山	岩出市		3	
島根	松江市			11
高知	香南市		2	
香川	坂出市		1	
佐賀	鳥栖市		4	
長崎	佐世保市			4
鹿児島	鹿児島市			12
	総計	102	25	37

表 2　回答した機関の所在地（横浜）

都道府県	市区町村	都市群名 ①高水準横浜	 ②中水準横浜	 ③低水準横浜
神奈川	横浜市栄区	4		
	横浜市港北区	4		
	横浜市瀬谷区	3		
	横浜市鶴見区	9		
	横浜市戸塚		4	
	横浜市青葉区		3	
	横浜市都筑区		2	
	横浜市南区		3	
	横浜市保土ヶ谷区		5	
	横浜市中区			3
	横浜市旭区			3
	横浜市緑区			4
総計		20	17	10

表 3　総病床数（全国・横浜）

項目	都市群	度数	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
総病床数	①高水準大規模市部	86	1.79	0	8.95	0	75
	②高水準小規模市部	21	25.33	0	55.86	0	179
	③低水準大規模市部	30	17.57	0	41.10	0	171
	①高水準横浜	23	6.74	0	20.95	0	98
	②中水準横浜	13	25.85	0	63.62	0	188
	③低水準横浜	11	37.09	0	78.06	0	199

表 4　常勤換算医師数（全国・横浜）

項目	都市群	度数	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
常勤換算医師数	①高水準大規模市部	47	1.74	1	2.60	0	13.9
	②高水準小規模市部	20	3.87	1.35	6.96	0	27.1
	③低水準大規模市部	21	2.45	1.2	2.84	0	9.85
	①高水準横浜	15	2.66	2	2.61	0	9.53
	②中水準横浜	15	4.39	1.5	7.84	0	30.4
	③低水準横浜	10	2.62	1.35	3.10	0	10.32

表 5　常勤換算看護師･准看護師数（全国・横浜）

項目	都市群	度数	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
常勤換算看護師・准看護師数	①高水準大規模市部	51	3.08	1.5	4.93	0	30.8
	②高水準小規模市部	17	22.66	5	47.47	0	186.4
	③低水準大規模市部	25	9.27	2.7	17.93	0	73.07
	①高水準横浜	17	5.05	2	11.23	0	48.2
	②中水準横浜	16	10.43	2	33.27	0	134.7
	③低水準横浜	10	10.21	1.1	24.19	0.8	78.5

表 6　現住所での開設年（全国・横浜）

項目	都市群	度数	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
現住所での開設年	①高水準大規模市部	90	1995.69	1999	18.28	1885	2015
	②高水準小規模市部	22	1990.32	1992	14.95	1952	2016
	③低水準大規模市部	35	1991.09	1992	14.77	1956	2013
	①高水準横浜	26	1999.23	2007	17.85	1937	2014
	②中水準横浜	19	2003.16	2007	11.47	1971	2014
	③低水準横浜	13	2000.62	2006	18.13	1955	2015

表 7　最初に在支診/病の届け出をした年（全国・横浜）

項目	都市群	度数	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
最初に在支診/病の届け出を出した年	①高水準大規模市部	81	2007.67	2007	4.28	1996	2015
	②高水準小規模市部	20	2008.65	2009	3.59	2001	2014
	③低水準大規模市部	25	2006.12	2006	6.83	1980	2014
	①高水準横浜	24	2010.71	2012	3.42	2002	2015
	②中水準横浜	18	2009.00	2009	3.27	2004	2014
	③低水準横浜	11	2007.64	2010	6.82	1990	2015

表 8　訪問診療と外来診療の比率（全国・横浜）

項目	都市群	度数	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
訪問診療の比率	①高水準大規模市部	88	25.7%	20.0%	26.4%	0.0%	90.0%
	②高水準小規模市部	22	20.0%	10.0%	23.8%	1.0%	90.0%
	③低水準大規模市部	33	17.2%	10.0%	16.5%	0.0%	90.0%
	①高水準横浜	23	35.3%	30.0%	31.2%	1.0%	100.0%
	②中水準横浜	21	41.5%	30.0%	36.0%	1.0%	100.0%
	③低水準横浜	11	34.8%	21.4%	30.7%	9.1%	90.0%

2. 訪問看護事業所の基礎統計

表 9　回答した訪問看護事業所の所在地（全国）

都道府県	市区町村	都市群名 ①高水準 大規模市部	 ②高水準 小規模市部	 ③低水準 大規模市部
千葉	我孫子市		1	
	館山市		2	
	市川市	6		
	船橋市	4		
	大網白里市		1	
東京	羽村市		3	
	葛飾区	9		
	世田谷区	14		
神奈川	横須賀市	7		
	三浦市		1	
新潟	十日町市		3	
富山	富山市			9
静岡	牧之原市		1	
愛知	長久手市		1	
	豊田市			3
三重	四日市市	7		
大阪	岸和田市	5		
	高槻市	5		
	豊中市	5		
兵庫	伊丹市	4		
	加古川市	6		
	西宮市	9		
	宝塚市	3		
和歌山	岩出市		1	
島根	松江市			7
香川	坂出市		3	
長崎	佐世保市			6
佐賀	鳥栖市		4	
鹿児島	鹿児島市			17
総計		84	21	42

表 10　回答した訪問看護事業所の所在地（横浜）

都道府県	市区町村	都市群名 ①高水準横浜	 ②中水準横浜	 ③低水準横浜
神奈川	横浜市栄区	5		
	横浜市港北区	5		
	横浜市瀬谷区	3		
	横浜市鶴見区	7		
	横浜市神奈川区	5		
	横浜市戸塚区		2	
	横浜市青葉区		2	
	横浜市中区			3
	横浜市旭区			4
	横浜市磯子区			3
	総計	25	4	10

表 11　常勤換算看護師･准看護師数（全国・横浜）

項目	都市群	度数	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
常勤換算看護師数	①高水準大規模市部	75	5.34	4.6	2.83	2.2	17.6
	②高水準小規模市部	22	4.64	3.9	2.27	1	9
	③低水準大規模市部	33	4.84	4	3.17	0.5	16.1
	①高水準横浜	26	5.12	4.35	2.62	2.5	13.38
	②中水準横浜	24	6.64	5.125	4.48	2.5	18
	③低水準横浜	17	5.09	4.6	2.10	2.5	10

表 12　現住所での開設年（全国・横浜）

項目	都市群	度数	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
開設年	①高水準大規模市部	75	2003.35	2004	9.61	1951	2016
	②高水準小規模市部	20	2009.00	2011.5	6.11	1994	2015
	③低水準大規模市部	38	2004.45	2004	7.59	1992	2016
	①高水準横浜	28	2009.36	2012.5	6.52	1995	2014
	②中水準横浜	24	2006.13	2008.5	7.33	1995	2016
	③低水準横浜	17	2005.53	2006	6.23	1995	2014

3. 居宅介護支援事業所の基礎統計

表 13　回答をした居宅介護支援事業所の所在地（全国）

都道府県	市区町村	都市群名 ①高水準 大規模市部	②高水準 小規模市部	③低水準 大規模市部
栃木	壬生町		1	
埼玉	上里町		1	
千葉	我孫子市		7	
	館山市		2	
	市川市	18		
	船橋市	27		
	大網白里市		2	
東京	羽村市		1	
	葛飾区	24		
	世田谷区	34		
神奈川	横須賀市	30		
	三浦市		4	
富山	富山市			28
福井	小浜市		6	
新潟	十日町市		7	
岐阜	下呂市		5	
静岡	牧之原市		8	
愛知	長久手市		2	
	豊田市			10
三重	四日市市	19		
滋賀	米原市		2	
大阪	岸和田市	13		
	高槻市	14		
	豊中市	26		
兵庫	伊丹市	13		
	加古川市	11		
	西宮市	14		
	宝塚市	15		
	豊岡市		6	
和歌山	岩出市		2	
島根	松江市			18
香川	坂出市		5	
佐賀	鳥栖市		5	
長崎	佐世保市			20
鹿児島	鹿児島市			41
	総計	258	66	117

表 14　回答をした居宅介護支援事業所の所在地（横浜）

都道府県名	市区町村名	都市群名 ①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜
神奈川	横浜市栄区	6		
	横浜市港北区	11		
	横浜市瀬谷区	7		
	横浜市金沢区	13		
	横浜市鶴見区	12		
	横浜市神奈川区	9		
	横浜市戸塚区		15	
	横浜市港南区		17	
	横浜市青葉区		16	
	横浜市都筑区		10	
	横浜市南区		12	
	横浜市保土ヶ谷区		11	
	横浜市中区			13
	横浜市旭区			14
	横浜市緑区			8
	横浜市磯子区			13
	横浜市西区			6
	横浜市泉区			10
	合計	58	81	64

表 15　常勤換算ケアマネ数（全国・横浜）

項目	都市群	度数	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
常勤換算ケアマネ	①高水準大規模市部	205	4.05	3	5.67	0	65
	②高水準小規模市部	51	4.64	3	10.21	0	75
	③低水準大規模市部	77	3.04	3	1.97	0	11
	①高水準横浜	47	9.78	3	44.50	0	308
	②中水準横浜	71	4.54	3.1	7.79	0	66
	③低水準横浜	61	3.76	3.1	4.17	0	33

表 16　利用者数（全国・横浜）

項目	都市群	度数	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
利用者数	①高水準大規模市部	176	114.58	100.5	67.05	8	350
	②高水準小規模市部	48	103.42	104	56.45	22	300
	③低水準大規模市部	84	99.75	84.5	59.16	10.7	325
	①高水準横浜	37	131.19	109	102.29	24	473
	②中水準横浜	42	143.19	128.5	84.64	32	364
	③低水準横浜	44	125.63	114.5	91.27	21	598

表 17　現住所での開設年（全国・横浜）

項目	都市群	度数	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
現住所での事業所開設年	①高水準大規模市部	224	2005.18	2004	5.86	1990	2016
	②高水準小規模市部	53	2005.23	2005	5.91	1990	2016
	③低水準大規模市部	103	2003.57	2003	7.59	1947	2015
	①高水準横浜	51	2004.94	2005	5.70	1991	2016
	②中水準横浜	67	2005.09	2005	5.22	1994	2013
	③低水準横浜	56	2004.36	2004	5.48	1992	2016

【A票】在宅療養支援診療所　問1-3

問1 基礎情報

①都道府県、②市区町村

全国

		都市名		
都道府県名	市区町村名	①高水準市	②高水準中小	③低水準市
栃木	壬生町		1	
千葉	我孫子市		3	
	館山市		1	
	市川市	6		
	船橋市	9		
東京	羽村市		1	
	葛飾区	8		
	世田谷区	18		
神奈川	横須賀市	5		
	三浦市		2	
新潟	十日町市		1	
富山	富山市			6
愛知	長久手市		1	
	豊田市			4
三重	四日市市	5		
大阪	岸和田市	3		
	高槻市	7		
	豊中市	15		
兵庫	伊丹市	3		
	加古川市	4		
	西宮市	12		
	宝塚市	7		
	富岡市		5	
和歌山	岩出市		3	
島根	松江市			11
高知	香南市		2	
香川	坂出市		1	
佐賀	鳥栖市		4	
長崎	佐世保市			4
鹿児島	鹿児島市			12
	小計	102	25	37

横浜市

都道府県名	市区町村名	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜
神奈川	横浜市栄区	4		
	横浜市港北区	4		
	横浜市瀬谷区	3		
	横浜市鶴見区	9		
	横浜市戸塚		4	
	横浜市青葉区		3	
	横浜市都筑区		2	
	横浜市南区		3	
	横浜市保土ヶ谷区		5	
	横浜市中区			3
	横浜市旭区			3
	横浜市緑区			4
	小計	20	17	10

ベストプラクティス

		都市名	
都道府県名	市区町村名	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出
栃木	小山市		3
千葉	柏市	2	
東京	板橋区	15	
滋賀	東近江市		6
広島	尾道市		14
	小計	20	17

③病床数

総病床数

	全国			横浜			任意抽出	
	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出
度数	86	21	30	23	13	11	12	19
平均値	1.79	25.33	17.57	6.74	25.85	37.09	1.08	3.68
中央値	0	0	0	0	0	0	0	0
標準偏差	8.95	55.86	41.10	20.95	63.62	78.06	3.75	7.37
最小値	0	0	0	0	0	0	0	0
最大値	75	179	171	98	188	199	13	19

内訳：一般病床数

	全国			横浜			任意抽出	
	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出
度数	16	7	13	4	6	3	2	6
平均値	9.38	46.86	23.31	19.50	43.00	89.33	6.50	10.50
中央値	0	19	18	14.5	0	79	6.5	12.5
標準偏差	19.21	53.16	27.05	21.14	67.69	76.03	9.19	9.09
最小値	0	0	0	0	0	19	0	0
最大値	75	136	92	49	148	170	13	19

内訳：療養病床

	全国			横浜			任意抽出	
	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出
度数	13	4	7	3	6	2	1	3
平均値	0.31	47.25	32.43	20.33	0.00	70.00	0.00	2.33
中央値	0	40	17	12	0	70	0	0
標準偏差	1.11	53.11	40.32	25.54	0.00	70.71	0.00	4.04
最小値	0	0	0	0	0	20	0	0
最大値	4	109	111	49	0	120	0	7

内訳：その他病床

	全国			横浜			任意抽出	
	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出
度数	12	3	5	3	6	0	1	4
平均値	0.00	0.00	0.00	4.67	13.00	0.00	0.00	0.00
中央値	0	0	0	0	0	0	0	0
標準偏差	0.00	0.00	0.00	8.08	31.84	0.00	0.00	0.00
最小値	0	0	0	0	0	0	0	0
最大値	0	0	0	14	78	0	0	0

④医師数

常勤医師

	全国			横浜			任意抽出	
	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出
度数	100	25	36	26	21	13	17	23
平均値	1.48	2.68	1.58	1.62	3.67	1.62	1.35	1.57
中央値	1	1	1	1	1	1	1	1
標準偏差	1.25	4.97	1.56	1.39	6.51	1.94	0.61	0.95
最小値	1	1	1	1	1	1	1	1
最大値	10	22	9	6	24	8	3	5

非常勤

	全国			横浜			任意抽出	
	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出
度数	66	20	20	18	17	11	9	12
平均値	3.01	3.95	4.41	4.76	10.76	3.45	1.44	3.58
中央値	1	1	2	3	1	3	1	1
標準偏差	5.46	7.43	7.06	6.12	27.34	3.47	1.59	6.84
最小値	0	0	0	0	0	0	0	0
最大値	29	33	29	26	105	11	4	24

常勤換算

	全国			横浜			任意抽出	
	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出
度数	47	20	21	15	15	10	7	11
平均値	1.74	3.87	2.45	2.66	4.39	2.62	1.46	1.41
中央値	1	1.35	1.2	2	1.5	1.35	0.35	1.1
標準偏差	2.60	6.96	2.84	2.61	7.84	3.10	2.26	1.40
最小値	0	0	0	0	0	0	0	0
最大値	13.9	27.1	9.85	9.53	30.4	10.32	6	4.4

⑤看護師・准看護師数

常勤

	全国			横浜			任意抽出	
	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出
度数	86	24	34	24	19	12	13	21
平均値	2.58	15.75	8.18	4.29	12.26	7.33	1.46	5.19
中央値	2	3.5	3	1	1	1	1	3
標準偏差	3.55	38.31	13.93	9.62	35.60	19.22	1.56	6.19
最小値	0	1	0	0	0	0	0	1
最大値	22	178	69	38	142	68	6	29

非常勤

	全国			横浜			任意抽出	
	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出
度数	75	22	29	21	17	11	11	13
平均値	2.64	3.27	3.48	4.41	3.29	4.18	1.27	2.54
中央値	2	1	3	2	2	2	1	2
標準偏差	2.80	5.01	4.59	6.92	7.56	5.17	1.49	2.11
最小値	0	0	0	0	0	0	0	0
最大値	20	18	23	27	32	17	4	7

常勤換算

	全国			横浜			任意抽出	
	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出
度数	51	17	25	17	16	10	6	10
平均値	3.08	22.66	9.27	5.05	10.43	10.21	1.28	2.64
中央値	1.5	5	2.7	2	2	1.1	1.05	3
標準偏差	4.93	47.47	17.93	11.23	33.27	24.19	1.49	1.90
最小値	0	0	0	0	0	0.8	0	0
最大値	30.8	186.4	73.07	48.2	134.7	78.5	3.6	5.3

⑥在支診/病の届出状況

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.在支診1（単独強化型）	N	6	1	2	9	2	2	1	5	3	0	3
	%	6.1%	4.0%	6.1%	5.7%	8.0%	11.1%	7.1%	8.8%	18.8%	0.0%	7.9%
2.在支診2（連携強化型）	N	31	11	6	48	6	5	4	15	5	12	17
	%	31.3%	44.0%	18.2%	30.6%	24.0%	27.8%	28.6%	26.3%	31.3%	54.5%	44.7%
3.在支診III（従来型）	N	57	11	20	88	14	10	7	31	7	10	17
	%	57.6%	44.0%	60.6%	56.1%	56.0%	55.6%	50.0%	54.4%	43.7%	45.5%	44.7%
4.在支病1（単独強化型）	N	2	1	1	4	0	0	0	0	0	0	0
	%	2.0%	4.0%	3.0%	2.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
5.在支病2（連携強化型）	N	1	1	0	2	1	1	2	4	0	0	0
	%	1.0%	4.0%	0.0%	1.3%	4.0%	5.6%	14.3%	7.0%	0.0%	0.0%	0.0%
6.在支病III（従来型）	N	0	0	1	1	1	0	0	1	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	3.0%	0.6%	4.0%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%
7.届け出なし	N	2	0	3	5	1	0	0	1	1	0	1
	%	2.0%	0.0%	9.1%	3.2%	4.0%	0.0%	0.0%	1.8%	6.3%	0.0%	2.6%
全体	N	99	25	33	157	25	18	14	57	16	22	38
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	43.3%	33.3%	23.3%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑦現住所での施設開設年

	全国			横浜			任意抽出	
	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出
度数	90	22	35	26	19	13	16	22
平均値	1995.69	1990.32	1991.09	1999.23	2003.16	2000.62	1992.75	1985.64
中央値	1999	1992	1992	2007	2007	2006	1998.5	1988.5
標準偏差	18.28	14.95	14.77	17.85	11.47	18.13	19.84	22.20
最小値	1885	1952	1956	1937	1971	1955	1958	1927
最大値	2015	2016	2013	2014	2014	2015	2015	2015

⑧最初に在支診/病の届け出をした都市

	全国			横浜			任意抽出	
	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出
度数	81	20	25	24	18	11	15	18
平均値	2007.67	2008.65	2006.12	2010.71	2009.00	2007.64	2008.20	2007.33
中央値	2007	2009	2006	2012	2009	2010	2009	2006
標準偏差	4.28	3.59	6.83	3.42	3.27	6.82	4.09	4.95
最小値	1996	2001	1980	2002	2004	1990	1998	1997
最大値	2015	2014	2014	2015	2014	2015	2014	2014

⑨外来診療と訪問診療の診療時間の比率（訪問診療の比率）

	全国			横浜			任意抽出	
	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出
度数	88	22	33	23	21	11	16	20
平均値	0.26	0.20	0.17	0.35	0.41	0.35	0.17	0.20
中央値	0.2	0.1	0.1	0.3	0.3	0.21	0.1	0.2
標準偏差	0.26	0.24	0.17	0.31	0.36	0.31	0.23	0.13
最小値	0	0.01	0	0.01	0.01	0.09	0.00	0
最大値	0.9	0.9	0.9	1	1	0.9	0.9	0.5

⑩在宅患者の医療処置で、現時点で対応が困難な処置

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.点滴・静脈注射	N	17	1	4	22	2	0	1	3	3	1	4
	%	18.1%	4.3%	13.8%	15.1%	7.4%	0.0%	7.1%	5.1%	18.8%	4.3%	10.3%
2.中心静脈栄養	N	30	12	11	53	10	4	5	19	6	7	13
	%	31.9%	52.2%	37.9%	36.3%	37.0%	22.2%	35.7%	32.2%	37.5%	30.4%	33.3%
3.経鼻胃管栄養	N	23	8	9	40	6	5	2	13	6	4	10
	%	24.5%	34.8%	31.0%	27.4%	22.2%	27.8%	14.3%	22.0%	37.5%	17.4%	25.6%
4.透析（血液・腹膜）	N	77	22	24	123	26	17	11	54	12	20	32
	%	81.9%	95.7%	82.8%	84.2%	96.3%	94.4%	78.6%	91.5%	75.0%	87.0%	82.1%
5.胃ろう、腸ろう	N	35	4	11	50	7	2	3	12	9	4	13
	%	37.2%	17.4%	37.9%	34.2%	25.9%	11.1%	21.4%	20.3%	56.3%	17.4%	33.3%
6.人工肛門	N	31	3	10	44	6	4	2	12	6	8	14
	%	33.0%	13.0%	34.5%	30.1%	22.2%	22.2%	14.3%	20.3%	37.5%	34.8%	35.9%
7.酸素療法	N	17	2	8	27	4	0	1	5	1	2	3
	%	18.1%	8.7%	27.6%	18.5%	14.8%	0.0%	7.1%	8.5%	6.3%	8.7%	7.7%
8.気管切開の処置	N	35	11	12	58	9	4	5	18	9	9	18
	%	37.2%	47.8%	41.4%	39.7%	33.3%	22.2%	35.7%	30.5%	56.3%	39.1%	46.2%
9.人工呼吸器の管理	N	54	15	15	84	12	5	5	22	11	12	23
	%	57.4%	65.2%	51.7%	57.5%	44.4%	27.8%	35.7%	37.3%	68.8%	52.2%	59.0%
10.疼痛管理	N	25	3	8	36	4	2	0	6	3	2	5
	%	26.6%	13.0%	27.6%	24.7%	14.8%	11.1%	0.0%	10.2%	18.8%	8.7%	12.8%
11.褥瘡の管理	N	24	1	7	32	3	3	1	7	2	2	4
	%	25.5%	4.3%	24.1%	21.9%	11.1%	16.7%	7.1%	11.9%	12.5%	8.7%	10.3%
12.リハビリ	N	41	7	14	62	11	5	5	21	7	11	18
	%	43.6%	30.4%	48.3%	42.5%	40.7%	27.8%	35.7%	35.6%	43.8%	47.8%	46.2%
13.留置カテーテル	N	24	4	8	36	0	0	0	0	1	0	1
	%	25.5%	17.4%	27.6%	24.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.3%	0.0%	2.6%
14.喀痰吸引	N	27	3	8	38	5	2	2	9	4	3	7
	%	28.7%	13.0%	27.6%	26.0%	18.5%	11.1%	14.3%	15.3%	25.0%	13.0%	17.9%
15.輸血	N	66	14	18	98	23	16	13	52	9	14	23
	%	70.2%	60.9%	62.1%	67.1%	85.2%	88.9%	92.9%	88.1%	56.3%	60.9%	59.0%
16.その他	N	1	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0
	%	1.1%	0.0%	6.9%	2.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計回答者数	N	94	23	29	146	27	18	14	59	16	23	39

⑪医師会への加盟状況

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
入会している	N	88	24	33	145	23	18	11	52	15	24	39
	%	90.7%	100.0%	94.3%	92.9%	88.5%	90.0%	78.6%	86.7%	93.8%	100.0%	97.5%
入会していない	N	9	0	2	11	3	2	3	8	1	0	1
	%	9.3%	0.0%	5.7%	7.1%	11.5%	10.0%	21.4%	13.3%	6.3%	0.0%	2.5%
全体	N	97	24	35	156	26	20	14	60	16	24	40
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	43.3%	33.3%	23.3%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑫自院内もしくは同一法人内の（看取り等が可能な）病床の有無

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
ある	N	10	6	10	26	7	2	4	13	2	4	6
	%	10.1%	24.0%	27.8%	16.3%	25.9%	10.0%	28.6%	21.3%	11.8%	17.4%	15.0%
ない	N	89	19	26	134	20	18	10	48	15	19	34
	%	89.9%	76.0%	72.2%	83.8%	74.1%	90.0%	71.4%	78.7%	88.2%	82.6%	85.0%
全体	N	99	25	36	160	27	20	14	61	17	23	40
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑬同一法人内で、行っている介護保険事業

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.訪問看護	N	18	7	10	35	10	2	3	15	3	5	8
	%	60.0%	58.3%	55.6%	58.3%	83.3%	50.0%	50.0%	68.2%	50.0%	50.0%	50.0%
2.訪問介護	N	9	7	4	20	4	3	3	10	2	1	3
	%	30.0%	58.3%	22.2%	33.3%	33.3%	75.0%	50.0%	45.5%	33.3%	10.0%	18.8%
3.居宅介護支援	N	17	10	10	37	6	4	3	13	3	7	10
	%	56.7%	83.3%	55.6%	61.7%	50.0%	100.0%	50.0%	59.1%	50.0%	70.0%	62.5%
4.通所介護	N	9	8	5	22	2	1	1	4	1	2	3
	%	30.0%	66.7%	27.8%	36.7%	16.7%	25.0%	16.7%	18.2%	16.7%	20.0%	18.8%
5.通所リハビリテーション	N	10	6	7	23	5	2	2	9	0	5	5
	%	33.3%	50.0%	38.9%	38.3%	41.7%	50.0%	33.3%	40.9%	0.0%	50.0%	31.3%
6.グループホーム	N	6	3	3	12	4	1	1	6	0	1	1
	%	20.0%	25.0%	16.7%	20.0%	33.3%	25.0%	16.7%	27.3%	0.0%	10.0%	6.3%
7.介護老人福祉施設または介護老人保健施設	N	7	4	3	14	5	2	1	8	1	3	4
	%	23.3%	33.3%	16.7%	23.3%	41.7%	50.0%	16.7%	36.4%	16.7%	30.0%	25.0%
8.その他	N	2	1	3	6	3	0	1	4	1	0	1
	%	6.7%	8.3%	16.7%	10.0%	25.0%	0.0%	16.7%	18.2%	16.7%	0.0%	6.3%
回答者数合計	N	30	12	18	60	12	4	6	22	6	10	16

問２：９月に置ける訪問診療対象患者数、およびそのうち自宅療養患者数の状況

		現在（平成 28 年 9 月）				2 年前（平成 26 年 9 月）				5 年前（平成 23 年 9 月）			
都市分類		訪問診療算定患者数	うち自宅療養患者数	9 月中の自宅看取り患者数	自宅で看ていたが自宅以外で亡くなった人数	訪問診療算定患者数	うち自宅療養患者数	9 月中の自宅看取り患者数	自宅で看ていたが自宅以外で亡くなった人数	訪問診療算定患者数	うち自宅療養患者数	9 月中の自宅看取り患者数	自宅で看ていたが自宅以外で亡くなった人数
①高水準市部	度数	98	95	94	92	90	86	85	81	80	76	76	74
	平均値	49.68	28.89	0.74	0.51	46.92	28.38	0.78	0.44	29.60	18.46	0.39	0.22
	中央値	22.00	11.00	0.00	0.00	20.00	12.00	0.00	0.00	10.00	8.00	0.00	0.00
	標準偏差	79.01	42.59	1.79	0.91	64.81	40.34	1.37	0.87	39.89	24.75	1.19	0.60
	最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最大値	453	242	13	4	298	190	7	4	191	119	7	3
②高水準中小市部	度数	24	24	23	23	22	21	21	20	20	19	18	18
	平均値	25.13	13.04	0.26	0.65	27.00	16.10	0.52	1.05	27.10	16.68	0.56	0.78
	中央値	16.00	6.00	0.00	0.00	16.50	7.00	0.00	0.00	18.50	8.00	0.00	0.00
	標準偏差	26.89	21.87	0.54	2.31	31.46	26.95	0.93	2.78	29.22	24.51	0.92	2.37
	最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最大値	94	83	2	11	117	92	3	12	111	90	3	10
③低水準市部	度数	34	34	34	33	33	33	33	32	29	29	29	28
	平均値	43.82	21.91	0.26	0.24	47.94	22.27	0.33	0.28	31.34	18.14	0.24	0.29
	中央値	20.00	8.00	0.00	0.00	18.00	7.00	0.00	0.00	16.00	8.00	0.00	0.00
	標準偏差	111.90	65.71	0.62	1.09	103.52	59.56	0.85	0.92	53.90	40.49	0.64	1.01
	最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最大値	666	387	2	6	547	345	4	5	293	220	3	5
①高水準横浜	度数	27	27	27	27	24	24	24	24	18	18	18	18
	平均値	55.44	44.56	1.48	0.96	43.92	36.25	1.75	0.50	32.22	25.22	1.11	0.44
	中央値	39.00	35.00	0.00	0.00	27.00	22.00	0.00	0.00	18.00	7.50	0.00	0.00
	標準偏差	62.39	55.93	3.06	2.90	50.67	47.28	4.71	0.98	43.81	40.75	4.00	1.04
	最小値	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	最大値	259	259	14	15	207	207	23	4	163	163	17	4
②中水準横浜	度数	19	19	19	19	19	19	19	17	15	15	15	15
	平均値	121.58	95.11	2.26	1.21	92.89	64.58	1.84	0.82	70.80	45.27	1.00	0.47
	中央値	74.00	35.00	1.00	0.00	54.00	25.00	0.00	0.00	28.00	22.00	0.00	0.00
	標準偏差	148.08	139.94	3.33	1.81	105.37	86.51	2.77	1.51	81.59	54.72	2.62	1.25
	最小値	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最大値	568	543	13	6	361	340	10	5	235	190	10	4
③低水準横浜	度数	14	14	14	14	13	12	12	12	10	8	8	8
	平均値	267.07	28.36	0.36	0.64	66.69	28.25	0.67	4.17	38.00	26.00	2.88	2.38
	中央値	44.00	11.00	0.00	0.00	40.00	8.00	0.00	0.00	6.50	3.00	0.00	0.00
	標準偏差	787.41	35.01	0.74	0.93	97.95	43.28	1.15	11.97	91.63	54.05	6.96	5.95
	最小値	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最大値	2989	120	2	3	307	150	3	42	297	157	20	17
①大規模任意抽出	度数	16	16	15	14	12	12	11	11	12	11	10	11
	平均値	37.75	24.81	0.27	0.50	28.25	17.92	0.55	0.36	15.42	11.64	0.10	0.09
	中央値	11.00	8.50	0.00	0.00	11.00	8.50	0.00	0.00	5.00	5.00	0.00	0.00
	標準偏差	64.96	37.13	0.46	1.09	52.12	26.84	0.93	0.67	28.30	16.55	0.32	0.30
	最小値	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最大値	237	131	1	4	190	96	3	2	100	51	1	1
②中小規模任意抽出	度数	22	21	21	20	20	19	18	19	15	14	13	14
	平均値	23.14	19.48	0.57	0.20	26.50	23.89	0.61	0.37	19.67	18.29	0.46	0.64
	中央値	16.50	11.00	0.00	0.00	19.50	16.00	0.00	0.00	10.00	8.00	0.00	0.00
	標準偏差	21.77	21.13	1.40	0.52	25.79	25.25	0.78	0.83	23.19	21.10	0.66	1.91
	最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最大値	74	72	5	2	82	82	2	3	63	61	2	7

問３　自宅看取り件数の経年推移（トレンド）について

①在支診/病の届け出を行って２年目（軌道に乗って）以降、現在に至るまで、月間の看取り件数の増減

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.現在も順調に増加してきている	N	20	8	2	30	8	6	2	16	3	2	5
	%	21.5%	36.4%	6.9%	20.8%	30.8%	33.3%	16.7%	28.6%	20.0%	9.1%	13.5%
2.現在頭打ちとなっている	N	31	8	16	55	10	8	7	25	9	11	20
	%	33.3%	36.4%	55.2%	38.2%	38.5%	44.5%	58.3%	44.6%	60.0%	50.0%	54.1%
3.現在、減少に転じている	N	42	6	11	59	8	4	3	15	3	9	12
	%	45.2%	27.3%	37.9%	41.0%	30.8%	22.2%	25.0%	26.8%	20.0%	40.9%	32.4%
全体	N	93	22	29	144	26	18	12	56	15	22	37
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

②-1 そのトレンドの背景となる要因

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.自院の在宅医療提供体制の増加（スタッフ体制の増減、スキルの増減等）や限界が背景となっている	N	27	8	12	47	17	8	7	32	5	5	10
	%	30.0%	42.1%	41.4%	34.1%	68.0%	47.1%	58.3%	59.3%	38.5%	25.0%	30.3%
2.地域のほかの医療機関や事業所との連携の増減（連携強化や連携の解消等）が背景となっている	N	34	5	7	46	3	9	4	16	4	4	8
	%	37.8%	26.3%	24.1%	33.3%	12.0%	52.9%	33.3%	29.6%	30.8%	20.0%	24.2%
3.地域の競合医療機関の増減が背景となっている	N	31	5	8	44	2	4	4	10	5	3	8
	%	34.4%	26.3%	27.6%	31.9%	8.0%	23.5%	33.3%	18.5%	38.5%	15.0%	24.2%
4.地域の需要の増減（高齢者人口の増減、自宅看取りニーズの増減等）が背景となっている	N	39	9	17	65	8	7	6	21	5	13	18
	%	43.3%	47.4%	58.6%	47.1%	32.0%	41.2%	50.0%	38.9%	38.5%	65.0%	54.5%
回答者数合計	N	90	19	29	138	25	17	12	54	13	20	33

②-2　設問①のトレンドで「1.増加」を選択した場合、その背景

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.自院の在宅医療提供体制の増加（スタッフ体制の増減、スキルの増減等）や限界が背景となっている	N	h	0	0	2	3	2	1	6	0	0	0
	%	11.8%	0.0%	0.0%	8.0%	42.9%	40.0%	50.0%	42.9%	0.0%	0.0%	0.0%
2.地域のほかの医療機関や事業所との連携の増減（連携強化や連携の解消等）が背景となっている	N	3	1	0	4	0	0	1	1	1	0	1
	%	17.6%	16.7%	0.0%	16.0%	0.0%	0.0%	50.0%	7.1%	33.3%	0.0%	20.0%
3.地域の競合医療機関の増減が背景となっている	N	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0
	%	5.9%	16.7%	0.0%	8.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
4.地域の需要の増減（高齢者人口の増減、自宅看取りニーズの増減等）が背景となっている	N	11	4	2	17	4	3	0	7	2	2	4
	%	64.7%	66.6%	100.0%	68.0%	57.1%	60.0%	0.0%	50.0%	66.7%	100.0%	80.0%
全体	N	17	6	2	25	7	5	2	14	3	2	5
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

②-2　設問①のトレンドで「3.減少」を選択した場合、その背景

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.自院の在宅医療提供体制の増加（スタッフ体制の増減、スキルの増減等）や限界が背景となっている	N	8	3	3	14	4	1	2	7	2		2
	%	21.1%	60.0%	27.3%	25.9%	66.7%	25.0%	66.7%	53.8%	66.7%	0.0%	18.2%
2.地域のほかの医療機関や事業所との連携の増減（連携強化や連携の解消等）が背景となっている	N	6	0	0	6	1	1	0	2			
	%	15.8%	0.0%	0.0%	11.1%	16.7%	25.0%	0.0%	15.4%	0.0%	0.0%	0.0%
3.地域の競合医療機関の増減が背景となっている	N	15	0	2	17	0	2	1	3	1		1
	%	39.4%	0.0%	18.2%	31.5%	0.0%	50.0%	33.3%	23.1%	33.3%	0.0%	9.1%
4.地域の需要の増減（高齢者人口の増減、自宅看取りニーズの増減等）が背景となっている	N	9	2	6	17	1	0	0	1		8	8
	%	23.7%	40.0%	54.5%	31.5%	16.7%	0.0%	0.0%	7.7%	0.0%	100.0%	72.7%
全体	N	38	5	11	54	6	4	3	13	3	8	11
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

③　②で１または２を選択した場合、その具体的な理由

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.スタッフの増員（事務所のチーム体制の複数化）の容易さ	N	17	4	7	28	10	5	5	20	2	4	6
	%	34.7%	44.4%	43.8%	37.8%	55.6%	45.5%	55.6%	52.6%	25.0%	57.1%	40.0%
2.自宅看取りのスキルを学ぶ研修会や、ケースカンファレンスなどへ参加できる機会の多さ	N	10	2	4	16	8	1	0	9	1	3	4
	%	20.4%	22.2%	25.0%	21.6%	44.4%	9.1%	0.0%	23.7%	12.5%	42.9%	26.7%
3.実際の看取りケースを（同行等で）間近で体験し学ぶ機会の多さ	N	3	0	0	3	4	0	1	5	0		
	%	6.1%	0.0%	0.0%	4.1%	22.2%	0.0%	11.1%	13.2%	0.0%	0.0%	0.0%
4.医療と介護の両職種が、気軽にコミュニケーションが取れる環境の存在・整備	N	21	3	8	32	6	7	3	16	5	3	8
	%	42.9%	33.3%	50.0%	43.2%	33.3%	63.6%	33.3%	42.1%	62.5%	42.9%	53.3%
5.多職種間の情報職種が（例えばICT等で）仕組み化・効率化	N	9	4	0	13	4	4	2	10	4		4
	%	18.4%	44.4%	0.0%	17.6%	22.2%	36.4%	22.2%	26.3%	50.0%	0.0%	26.7%
6.病院と在宅側（医療・介護）との退院調整や急変時対応における連携の仕組み化	N	39	6	12	57	9	9	8	26	7	3	10
	%	79.6%	66.7%	75.0%	77.0%	50.0%	81.8%	88.9%	68.4%	87.5%	42.9%	66.7%
7.患者（利用者）本人や家族への、自宅での看取りに関する啓発や教育の実施	N	28	5	11	44	8	5	5	18	5	6	11
	%	57.1%	55.6%	68.8%	59.5%	44.4%	45.5%	55.6%	47.4%	62.5%	85.7%	73.3%
回答者数合計		49	9	16	74	18	11	9	38	8	7	15

③　②で１または２を選択しなかった場合、看取り件数を増やすために重要だと思う項目

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③横浜下位	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.スタッフの増員（事務所のチーム体制の複数化）の容易さ	N	6	4	4	14	1	3	0	4	2	2	4
	%	15.8%	33.3%	30.8%	22.2%	16.7%	50.0%	0.0%	26.7%	33.3%	16.7%	22.2%
2.自宅看取りのスキルを学ぶ研修会や、ケースカンファレンスなどへ参加できる機会の多さ	N	2	3	1	6	1	0	0	1	1	2	3
	%	5.3%	25.0%	7.7%	9.5%	16.7%	0.0%	0.0%	6.7%	16.7%	16.7%	16.7%
3.実際の看取りケースを（同行等で）間近で体験し学ぶ機会の多さ	N	1	2	3	6	0	1	0	1		1	1
	%	2.6%	16.7%	23.1%	9.5%	0.0%	16.7%	0.0%	6.7%	0.0%	8.3%	5.6%
4.医療と介護の両職種が、気軽にコミュニケーションが取れる環境の存在・整備	N	18	6	2	26	3	4	1	8	3	5	8
	%	47.4%	50.0%	15.4%	41.3%	50.0%	66.7%	33.3%	53.3%	50.0%	41.7%	44.4%
5.多職種間の情報職種が（例えばICT等で）仕組み化・効率化	N	13	2	4	19	3	2	1	6		1	1
	%	34.2%	16.7%	30.8%	30.2%	50.0%	33.3%	33.3%	40.0%	0.0%	8.3%	5.6%
6.病院と在宅側（医療・介護）との退院調整や急変時対応における連携の仕組み化	N	27	8	10	45	4	4	2	10	4	9	13
	%	71.1%	66.7%	76.9%	71.4%	66.7%	66.7%	66.7%	66.7%	66.7%	75.0%	72.2%
7.患者（利用者）本人や家族への、自宅での看取りに関する啓発や教育の実施	N	26	9	11	46	4	4	3	11	3	11	14
	%	68.4%	75.0%	84.6%	73.0%	66.7%	66.7%	100.0%	73.3%	50.0%	91.7%	77.8%
回答者数合計	N	38	12	13	63	6	6	3	15	6	12	18

問 1 基礎情報

①都道府県、②市区町村

全国

		都市名		
都道府県名	市区町村名	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市
千葉	我孫子市		1	
	館山市		2	
	市川市	6		
	船橋市	4		
	大網白里市		1	
東京	羽村市		3	
	葛飾区	9		
	世田谷区	14		
神奈川	横須賀市	7		
	三浦市		1	
新潟	十日町市		3	
富山	富山市			9
静岡	牧之原市		1	
愛知	長久手市		1	
	豊田市			3
三重	四日市市	7		
大阪	岸和田市	5		
	高槻市	5		
	豊中市	5		
兵庫	伊丹市	4		
	加古川市	6		
	西宮市	9		
	宝塚市	3		
和歌山	岩出市		1	
島根	松江市			7
香川	坂出市		3	
長崎	佐世保市			6
佐賀	鳥栖市		4	
鹿児島	鹿児島市			17
	小計	84	21	42

横浜

		都市名		
都道府県名	市区町村名	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜
神奈川	横浜市栄区	5		
	横浜市港北区	5		
	横浜市瀬谷区	3		
	横浜市鶴見区	7		
	横浜市神奈川区	5		
	横浜市戸塚区		2	
	横浜市青葉区		2	
	横浜市中区			3
	横浜市旭区			4
	横浜市磯子区			3
	小計	25	4	10

ベストプラクティス

		都市名	
都道府県名	市区町村名	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出
栃木	小山市		2
千葉	柏市	8	
東京	板橋区	6	
富山	南砺市		1
滋賀	東近江市		3
奈良	桜井市		4
広島	尾道市		8
	小計	25	4

③看護師・准看護師数

常勤

	全国			横浜			任意抽出	
	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出
度数	83	23	40	28	25	19	14	17
平均値	4.28	3.78	4.55	4.11	4.96	4.05	5.50	5.24
中央値	4	4	3.45	4	3	4	4	4
標準偏差	2.31	1.62	2.84	2.18	4.11	2.04	5.20	4.44
最小値	1	1	0	1	1	1	1	1
最大値	14	8	14	10	21	9	22	18

非常勤

	全国			横浜			任意抽出	
	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出
度数	75	20	36	25	23	18	14	15
平均値	3.28	3.76	2.59	3.12	4.52	3.67	3.71	4.13
中央値	2	3	2	2	3	3	3	3
標準偏差	3.23	2.98	2.65	2.85	3.74	2.85	2.55	4.12
最小値	0	0	0	0	0	0	1	0
最大値	17	11	9	12	12	12	12	13

常勤換算

	全国			横浜			任意抽出	
	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出
度数	75	22	33	26	24	17	13	14
平均値	5.34	4.64	4.84	5.12	6.64	5.09	6.79	6.65
中央値	4.6	3.9	4	4.35	5.125	4.6	5	4.25
標準偏差	2.83	2.27	3.17	2.62	4.48	2.10	6.39	5.30
最小値	2.2	1	0.5	2.5	2.5	2.5	1	0
最大値	17.6	9	16.1	13.38	18	10	26.7	18.9

⑥事業所で対応できない医療処置

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.点滴・静脈注射	N	2	0	2	4	0	0	0	0	1	0	1
	%	3.1%	0.0%	6.1%	3.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	4.3%
2.中心静脈栄養	N	2	3	3	8	0	1	1	2	1	0	1
	%	3.1%	16.7%	9.1%	7.0%	0.0%	5.0%	7.7%	3.7%	8.3%	0.0%	4.3%
3.経鼻胃管栄養	N	3	0	2	5	0	3	0	3	1	0	1
	%	4.7%	0.0%	6.1%	4.3%	0.0%	15.0%	0.0%	5.6%	8.3%	0.0%	4.3%
4.透析（血液・腹膜）	N	41	12	25	78	17	16	8	41	5	5	10
	%	64.1%	66.7%	75.8%	67.8%	81.0%	80.0%	61.5%	75.9%	41.7%	45.5%	43.5%
5.胃ろう、腸ろう	N	1	0	2	3	0	0	0	0	1	0	1
	%	1.6%	0.0%	6.1%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	4.3%
6.人工肛門	N	1	0	2	3	0	0	0	0	1	0	1
	%	1.6%	0.0%	6.1%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	4.3%
7.酸素療法	N	1	0	2	3	0	0	0	0	1	0	1
	%	1.6%	0.0%	6.1%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	4.3%
8.気管切開の処置	N	2	2	5	9	0	1	0	1	1	0	1
	%	3.1%	11.1%	15.2%	7.8%	0.0%	5.0%	0.0%	1.9%	8.3%	0.0%	4.3%
9.人工呼吸器の管理	N	14	3	8	25	4	3	2	9	1	3	4
	%	21.9%	16.7%	24.2%	21.7%	19.0%	15.0%	15.4%	16.7%	8.3%	27.3%	17.4%
10.疼痛管理	N	1	1	2	4	0	0	0	0	1	0	1
	%	1.6%	5.6%	6.1%	3.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	4.3%
11.褥瘡の管理	N	1	0	2	3	0	0	0	0	1	0	1
	%	1.6%	0.0%	6.1%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	4.3%
12.リハビリ	N	0	1	2	3	0	0	0	0	1	0	1
	%	0.0%	5.6%	6.1%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	4.3%
13.留置カテーテル	N	2	1	2	5	0	0	0	0	1	0	1
	%	3.1%	5.6%	6.1%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	4.3%
14.喀痰吸引	N	2	0	2	4	0	1	0	1	1	0	1
	%	3.1%	0.0%	6.1%	3.5%	0.0%	5.0%	0.0%	1.9%	8.3%	0.0%	4.3%
15.輸血	N	52	17	21	90	15	17	10	42	12	5	17
	%	81.3%	94.4%	63.6%	78.3%	71.4%	85.0%	76.9%	77.8%	100.0%	45.5%	73.9%
16.その他	N	0	0	1	1	1	2	0	3	1	0	1
	%	0.0%	0.0%	3.0%	0.9%	4.8%	10.0%	0.0%	5.6%	8.3%	0.0%	4.3%
合計回答者数	N	64	18	33	115	21	20	13	54	12	11	23

⑦現住所での事業所開設年

	全国			横浜			任意抽出	
	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出
度数	75	20	38	28	24	17	12	17
平均値	2003.35	2009.00	2004.45	2009.36	2006.13	2005.53	2006.58	2003.65
中央値	2004	2011.5	2004	2012.5	2008.5	2006	2008	2008
標準偏差	9.61	6.11	7.59	6.52	7.33	6.23	7.67	7.82
最小値	1951	1994	1992	1995	1995	1995	1995	1992
最大値	2016	2015	2016	2014	2016	2014	2015	2014

⑧自治体内の訪問看護職能団体（訪問看護連絡会など）への参加の状況

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
参加	N	75	20	38	133	27	23	17	67	14	16	30
	%	93.7%	87.0%	90.5%	91.7%	93.1%	100.0%	89.5%	94.4%	100.0%	94.1%	96.8%
不参加	N	5	3	4	12	2	0	2	4	0	1	1
	%	6.3%	13.0%	9.5%	8.3%	6.9%	0.0%	10.5%	5.6%	0.0%	5.9%	3.2%
全体	N	80	23	42	145	29	23	19	71	14	17	31
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑨同一法人内に在宅療養支援診療所/病院があり、患者・利用者の支援で連携しているかどうか

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.法人内医療機関と連携している	N	75	20	38	133	27	23	17	67	14	16	30
	%	93.7%	87.0%	90.5%	91.7%	93.1%	100.0%	89.5%	100.0%	100.0%	94.1%	96.8%
2.法人内に在宅で連携する医療機関はない	N	5	3	4	12	2	0	2	4	0	1	1
	%	6.3%	13.0%	9.5%	8.3%	6.9%	0.0%	10.5%	100.0%	0.0%	5.9%	3.2%
全体	N	80	23	42	145	29	23	19	71	14	17	31
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑩法人として同一事業所内での他の介護保険事業の実施状況

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.居宅介護支援	N	54	16	31	101	18	19	18	55	10	15	25
	%	83.1%	100.0%	88.6%	87.1%	81.8%	86.4%	94.7%	87.3%	76.9%	93.8%	86.2%
2.訪問介護	N	34	9	16	59	9	6	11	26	4	11	15
	%	52.3%	56.3%	45.7%	50.9%	40.9%	27.3%	57.9%	41.3%	30.8%	68.8%	51.7%
3.訪問リハビリテーション	N	14	4	14	32	8	7	4	19	1	4	5
	%	21.5%	25.0%	40.0%	27.6%	36.4%	31.8%	21.1%	30.2%	7.7%	25.0%	17.2%
4.通所介護	N	23	10	13	46	7	7	4	18	3	7	10
	%	35.4%	62.5%	37.1%	39.7%	31.8%	31.8%	21.1%	28.6%	23.1%	43.8%	34.5%
5.通所リハビリテーション	N	23	7	14	44	3	4	8	15	2	6	8
	%	35.4%	43.8%	40.0%	37.9%	13.6%	18.2%	42.1%	23.8%	15.4%	37.5%	27.6%
6.その他	N	14	4	12	30	3	4	3	10	1	6	7
	%	21.5%	25.0%	34.3%	25.9%	13.6%	18.2%	15.8%	15.9%	7.7%	37.5%	24.1%
合計回答者数	N	65	16	35	116	22	22	19	63	13	16	29

問２：９月に置ける利用者数、およびそのうち自宅療養患者数の状況

都市名		現在（平成 28 年 9 月）				2 年前（平成 26 年 9 月）				5 年前（平成 23 年 9 月）			
		利用者数（介護保険）	利用者数（医療保険）	9 月中の自宅看取り患者数	自宅で看ていたが自宅以外で亡くなった人数	利用者数（介護保険）	利用者数（医療保険）	9 月中の自宅看取り患者数	自宅で看ていたが自宅以外で亡くなった人数	利用者数（介護保険）	利用者数（医療保険）	9 月中の自宅看取り患者数	自宅で看ていたが自宅以外で亡くなった人数
①高水準市	度数	80	80	78	76	77	77	72	69	64	64	57	57
	平均値	61.33	22.94	1.23	0.96	57.01	20.43	1.51	1.07	54.59	18.36	0.88	1.33
	中央値	53.50	15.50	1.00	0.00	51.00	13.00	1.00	0.00	47.50	13.00	0.00	0.00
	標準偏差	41.91	31.93	1.99	1.85	40.33	29.88	1.99	2.14	41.46	30.02	1.38	3.68
	最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最大値	184	256	12	12	173	240	10	15	177	231	6	26
②高水準中小市	度数	21	22	22	21	20	21	21	19	14	15	15	15
	平均値	46.71	21.68	0.68	0.95	39.25	17.71	0.76	0.74	34.14	13.93	1.13	0.53
	中央値	50.00	16.50	0.50	1.00	38.00	11.00	0.00	0.00	35.50	11.00	1.00	0.00
	標準偏差	26.56	18.49	0.95	1.12	31.24	16.21	1.37	1.15	24.16	13.55	1.55	1.30
	最小値	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最大値	90	63	4	3	109	58	5	4	84	48	5	5
③低水準市	度数	42	42	41	40	40	39	40	35	31	30	29	29
	平均値	41.36	16.95	0.34	0.55	35.98	14.95	0.30	0.37	29.42	10.30	0.34	0.38
	中央値	42.00	12.00	0.00	0.00	29.50	9.00	0.00	0.00	29.00	9.50	0.00	0.00
	標準偏差	35.39	18.15	0.69	0.81	28.39	15.83	0.69	0.55	24.58	8.80	0.67	0.94
	最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最大値	211	83	3	3	129	66	3	2	106	36	2	4
①高水準横浜	度数	26	26	27	27	23	22	23	23	12	12	11	12
	平均値	73.58	17.85	1.04	0.93	66.65	17.00	1.17	0.65	77.17	13.08	0.36	1.42
	中央値	67.00	15.00	0.00	1.00	66.00	16.00	0.00	0.00	71.50	14.00	0.00	1.00
	標準偏差	41.71	12.77	1.43	1.41	46.92	12.08	1.70	1.23	46.20	7.44	0.67	1.73
	最小値	7	1	0	0	2	0	0	0	12	0	0	0
	最大値	193	47	5	6	189	40	5	4	148	22	2	6
②中水準横浜	度数	24	25	24	23	20	20	19	17	14	14	13	13
	平均値	87.25	23.24	1.38	0.96	75.70	20.10	1.47	1.00	70.50	19.36	1.00	0.77
	中央値	80.50	20.00	1.00	1.00	66.50	13.00	1.00	0.00	76.50	11.00	0.00	0.00
	標準偏差	73.92	20.70	1.66	0.93	70.55	22.54	2.34	2.24	56.29	20.97	1.47	1.17
	最小値	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最大値	356	85	6	3	309	79	10	9	199	71	4	4
③低水準横浜	度数	20	20	20	20	17	18	17	16	12	11	13	12
	平均値	97.30	23.00	0.90	1.35	83.88	21.17	0.76	0.75	65.83	12.36	0.69	0.92
	中央値	83.50	14.00	0.00	1.00	56.00	14.00	0.00	1.00	46.50	6.00	0.00	0.00
	標準偏差	59.93	19.23	1.59	1.46	63.97	18.69	1.39	0.77	60.42	15.88	1.32	1.51
	最小値	14	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最大値	203	60	6	4	200	58	5	2	165	54	4	5
①大規模任意抽出	度数	14	14	14	13	12	12	11	10	10	10	9	8
	平均値	82.36	33.00	0.93	1.23	51.25	22.08	1.09	0.80	48.50	18.80	1.33	1.13
	中央値	60.50	30.50	1.00	1.00	62.00	22.50	1.00	0.50	57.00	18.00	1.00	1.50
	標準偏差	57.69	23.86	0.83	0.83	27.27	14.41	1.22	1.03	28.70	16.40	1.58	0.99
	最小値	27	12	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
	最大値	249	92	2	3	84	56	4	3	79	55	5	2
②中小規模任意抽出	度数	16	15	16	15	15	14	15	14	15	14	13	13
	平均値	74.56	26.80	1.13	1.27	82.20	24.86	1.07	0.71	72.73	18.86	0.92	1.00
	中央値	46.00	16.00	0.50	0.00	53.00	15.00	0.00	0.00	56.00	11.00	0.00	0.00
	標準偏差	77.85	23.07	1.89	2.66	86.94	20.83	1.62	1.64	79.23	18.51	1.50	3.03
	最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最大値	327	79	7	10	364	64	5	6	334	59	5	11

問３　自宅看取り件数の経年推移（トレンド）について

①訪問看護事業を行って２年目（軌道に乗って）以降、現在までの、月間の看取り件数の増減

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.現在も順調に増加してきている	N	20	5	9	34	13	10	8	31	4	5	9
	%	26.3%	23.8%	22.5%	24.8%	44.8%	40.0%	42.1%	42.5%	36.4%	31.3%	33.3%
2.現在頭打ちとなっている	N	34	12	19	65	10	7	6	23	6	9	15
	%	44.8%	57.2%	47.5%	47.4%	34.5%	28.0%	31.6%	31.5%	54.5%	56.3%	55.6%
3.現在、減少に転じている	N	22	4	12	38	6	8	5	19	1	2	3
	%	28.9%	19.0%	30.0%	27.7%	20.7%	32.0%	26.3%	26.0%	9.1%	12.5%	11.1%
全体	N	76	21	40	137	29	25	19	73	11	16	27
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

②-1 そのトレンドの背景となる要因

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.事業所の訪問看護提供体制の増加（スタッフ体制の増減、スキルの増減等）や限界が背景となっている	N	22	5	12	39	9	7	6	22	4	7	11
	%	31.4%	25.0%	32.4%	30.7%	37.5%	28.0%	35.3%	33.3%	22.2%	50.0%	35.3%
2.地域のほかの医療機関や事業所との連携の増減（連携強化や連携の解消等）が背景となっている	N	26	3	15	44	5	10	10	25	4	6	10
	%	37.1%	15.0%	40.5%	34.6%	20.8%	40.0%	58.8%	37.9%	33.3%	46.2%	40.0%
3.地域の競合訪問看護事業所の増減が背景となっている	N	34	6	12	52	11	13	4	28	7	1	8
	%	48.6%	30.0%	32.4%	40.9%	45.8%	52.0%	23.5%	42.4%	58.3%	7.7%	32.0%
4.地域の需要の増減（高齢者人口の増減、自宅看取りニーズの増減等）が背景となっている	N	33	14	18	65	12	12	11	35	7	9	16
	%	47.1%	70.0%	48.6%	51.2%	50.0%	48.0%	64.7%	53.0%	58.3%	69.2%	64.0%
回答者数合計	N	70	20	37	127	24	25	17	66	12	13	25

②-2　設問①のトレンドで「1.増加」を選択した場合、その背景

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.事業所の訪問看護提供体制の増加（スタッフ体制の増減、スキルの増減等）や限界が背景となっている	N	1	1	0	2	3	1	2	6	1	2	3
	%	5.6%	20.0%	0.0%	6.3%	27.3%	10.0%	28.6%	21.4%	12.5%	40.0%	23.1%
2.地域のほかの医療機関や事業所との連携の増減（連携強化や連携の解消等）が背景となっている	N	5	1	6	12	3	2	2	7	3	1	4
	%	27.8%	20.0%	66.7%	37.5%	27.3%	20.0%	28.6%	25.0%	37.5%	20.0%	30.8%
3.地域の競合訪問看護事業所の増減が背景となっている	N	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%
4.地域の需要の増減（高齢者人口の増減、自宅看取りニーズの増減等）が背景となっている	N	12	3	3	18	5	5	3	13	4	2	6
	%	66.7%	60.0%	33.3%	56.3%	45.5%	50.0%	42.9%	46.4%	50.0%	40.0%	46.2%
全体	N	18	5	9	32	11	10	7	28	8	5	13
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

②-2　設問①のトレンドで「3.減少」を選択した場合、その背景

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.事業所の訪問看護提供体制の増加（スタッフ体制の増減、スキルの増減等）や限界が背景となっている	N	5	1	1	7	0	3	0	3	0	0	0
	%	23.8%	33.3%	10.0%	20.6%	0.0%	37.5%	0.0%	18.8%	0.0%	0.0%	0.0%
2.地域のほかの医療機関や事業所との連携の増減（連携強化や連携の解消等）が背景となっている	N	4	0	2	6	0	2	0	2	0	0	0
	%	19.0%	0.0%	20.0%	17.6%	0.0%	25.0%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%
3.地域の競合訪問看護事業所の増減が背景となっている	N	7	1	2	10	4	3	1	8	0	0	0
	%	33.4%	33.4%	20.0%	29.4%	80.0%	37.5%	33.3%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
4.地域の需要の増減（高齢者人口の増減、自宅看取りニーズの増減等）が背景となっている	N	5	1	5	11	1	0	2	3	1	2	3
	%	23.8%	33.3%	50.0%	32.4%	20.0%	0.0%	66.7%	18.8%	100.0%	100.0%	100.0%
全体	N	21	3	10	34	5	8	3	16	1	2	3
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

③　②で１または２を選択した場合、その具体的な理由

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.スタッフの増員（事務所のチーム体制の複数化）の容易さ	N	23	3	9	35	5	9	10	24	2	7	9
	%	63.9%	60.0%	40.9%	55.6%	45.5%	69.2%	83.3%	66.7%	50.0%	77.8%	69.2%
2.自宅看取りのスキルを学ぶ研修会や、ケースカンファレンスなどへ参加できる機会の多さ	N	7	2	5	14	3	3	4	10	0	1	1
	%	19.4%	40.0%	22.7%	22.2%	27.3%	23.1%	33.3%	27.8%	0.0%	11.1%	7.7%
3.実際の看取りケースを（同行等で）間近で体験し学ぶ機会の多さ	N	9	1	8	18	5	2	4	11	0	1	1
	%	25.0%	20.0%	36.4%	28.6%	45.5%	15.4%	33.3%	30.6%	0.0%	11.1%	7.7%
4.医療と介護の両職種が、気軽にコミュニケーションが取れる環境の存在・整備	N	14	1	10	25	4	2	1	7	1	4	5
	%	38.9%	20.0%	45.5%	39.7%	36.4%	15.4%	8.3%	19.4%	25.0%	44.4%	38.5%
5.多職種間の情報職種が（例えばICT等で）仕組み化・効率化	N	4	1	3	8	3	6	2	11	2	1	3
	%	11.1%	20.0%	13.6%	12.7%	27.3%	46.2%	16.7%	30.6%	50.0%	11.1%	23.1%
6.病院と在宅側（医療・介護）との退院調整や急変時対応における連携の仕組み化	N	21	3	16	40	8	9	9	26	3	6	9
	%	58.3%	60.0%	72.7%	63.5%	72.7%	69.2%	75.0%	72.2%	75.0%	66.7%	69.2%
7.患者（利用者）本人や家族への、自宅での看取りに関する啓発や教育の実施	N	26	4	15	45	4	9	7	20	3	8	11
	%	72.2%	80.0%	68.2%	71.4%	36.4%	69.2%	58.3%	55.6%	75.0%	88.9%	84.6%
合計回答者数	N	36	5	22	63	11	13	12	36	4	9	13

③　②で１または２を選択しなかった場合、看取り件数を増やすために重要だと思う項目

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③横浜下位	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.スタッフの増員（事務所のチーム体制の複数化）の容易さ	N	16	8	4	28	4	5	1	10	6	2	8
	%	47.1%	57.1%	26.7%	44.4%	25.0%	55.6%	20.0%	33.3%	75.0%	28.6%	53.3%
2.自宅看取りのスキルを学ぶ研修会や、ケースカンファレンスなどへ参加できる機会の多さ	N	6	1	2	9	3	1	0	4	1	1	2
	%	17.6%	7.1%	13.3%	14.3%	18.8%	11.1%	0.0%	13.3%	12.5%	14.3%	13.3%
3.実際の看取りケースを（同行等で）間近で体験し学ぶ機会の多さ	N	7	2	4	13	4	2	1	7	1	2	3
	%	20.6%	14.3%	26.7%	20.6%	25.0%	22.2%	20.0%	23.3%	12.5%	28.6%	20.0%
4.医療と介護の両職種が、気軽にコミュニケーションが取れる環境の存在・整備	N	14	7	10	31	8	7	3	18	3	6	9
	%	41.2%	50.0%	66.7%	49.2%	50.0%	77.8%	60.0%	60.0%	37.5%	85.7%	60.0%
5.多職種間の情報職種が（例えばICT等で）仕組み化・効率化	N	4	2	1	7	6	3	1	10	1	2	3
	%	11.8%	14.3%	6.7%	11.1%	37.5%	33.3%	20.0%	33.3%	12.5%	28.6%	20.0%
6.病院と在宅側（医療・介護）との退院調整や急変時対応における連携の仕組み化	N	24	12	11	47	13	7	3	23	5	6	11
	%	70.6%	85.7%	73.3%	74.6%	81.3%	77.8%	60.0%	76.7%	62.5%	85.7%	73.3%
7.患者（利用者）本人や家族への、自宅での看取りに関する啓発や教育の実施	N	24	8	13	45	6	4	4	14	5	6	11
	%	70.6%	57.1%	86.7%	71.4%	37.5%	44.4%	80.0%	46.7%	62.5%	85.7%	73.3%
合計回答者数		34	14	15	63	16	9	5	30	8	7	15

【A 票】訪問看護事業所　問 1-3

問 1 基礎情報

①都道府県、②市区町村

全国

		都市名		
都道府県名	市区町村名	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市
栃木	壬生町		1	
埼玉	上里町		1	
千葉	我孫子市		7	
	館山市		2	
	市川市	18		
	船橋市	27		
	大網白里市		2	
東京	羽村市		1	
	葛飾区	24		
	世田谷区	34		
神奈川	横須賀市	30		
	三浦市		4	
富山	富山市			28
福井	小浜市		6	
新潟	十日町市		7	
岐阜	下呂市		5	
静岡	牧之原市		8	
愛知	長久手市		2	
	豊田市			10
三重	四日市市	19		
滋賀	米原市		2	
大阪	岸和田市	13		
	高槻市	14		
	豊中市	26		
兵庫	伊丹市	13		
	加古川市	11		
	西宮市	14		
	宝塚市	15		
	豊岡市		6	
和歌山	岩出市		2	
島根	松江市			18
香川	坂出市		5	
佐賀	鳥栖市		5	
長崎	佐世保市			20
鹿児島	鹿児島市			41
	小計	258	66	117

横浜

		都市名		
都道府県名	市区町村名	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜
神奈川	横浜市栄区	6		
	横浜市港北区	11		
	横浜市瀬谷区	7		
	横浜市金沢区	13		
	横浜市鶴見区	12		
	横浜市神奈川区	9		
	横浜市戸塚区		15	
	横浜市港南区		17	
	横浜市青葉区		16	
	横浜市都筑区		10	
	横浜市南区		12	
	横浜市保土ヶ谷区		11	
	横浜市中区			13
	横浜市旭区			14
	横浜市緑区			8
	横浜市磯子区			13
	横浜市西区			6
	横浜市泉区			10
	合計	58	81	64

ベストプラクティス

		都市名	
都道府県名	市区町村名	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出
栃木	小山市		7
千葉	柏市	23	
東京	板橋区	19	
奈良	桜井市		8
富山	南砺市		8
広島	尾道市		15
滋賀	東近江市		6
	合計	42	44

③ケアマネジャー数

常勤

	全国			横浜			任意抽出	
	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出
度数	256	66	115	57	80	64	42	44
平均値	3.16	3.06	3.46	3.11	3.35	2.94	3.14	3.38
中央値	3	3	3	3	3	3	3	3
標準偏差	1.75	1.51	2.06	2.29	2.07	1.44	1.60	2.01
最小値	1	1	1	0	1	1	1	1
最大値	11	7	15	10	12	7	9	9

非常勤

	全国			横浜			任意抽出	
	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出
度数	201	43	75	46	61	53	35	34
平均値	1.28	0.79	0.57	1.63	1.28	1.42	0.60	1.69
中央値	1	1	0	1	1	1	0	1
標準偏差	1.39	1.12	0.87	2.05	1.20	1.35	1.31	3.36
最小値	0	0	0	0	0	0	0	0
最大値	8	6	4	12	6	5	7	18

常勤換算

	全国			横浜			任意抽出	
	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出
度数	205	51	77	47	71	61	35	36
平均値	4.05	4.64	3.04	9.78	4.54	3.76	2.76	3.44
中央値	3	3	3	3	3.1	3.1	3	2.85
標準偏差	5.67	10.21	1.97	44.50	7.79	4.17	1.71	2.78
最小値	0	0	0	0	0	0	0	0
最大値	65	75	11	308	66	33	7	13.5

④上記③のなかで看護師の資格を持つもの

	全国			横浜			任意抽出	
	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出
度数	234	56	110	54	75	60	40	42
平均値	0.43	0.52	0.86	0.50	0.23	0.20	0.25	1.12
中央値	0	0	1	0	0	0	0	0
標準偏差	0.81	1.11	0.88	1.36	0.45	0.55	0.59	2.18
最小値	0	0	0	0	0	0	0	0
最大値	5	6	3	9	2	3	3	13

④上記③のなかで介護福祉士の資格を持つもの

	全国			横浜			任意抽出	
	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出
度数	250	65	113	53	79	64	40	43
平均値	3.21	2.68	2.46	3.11	3.48	3.08	2.65	2.76
中央値	3	2	2	3	3	3	3	2
標準偏差	1.87	1.59	1.62	2.07	2.31	1.66	1.41	1.55
最小値	0	0	0	0	1	0	0	1
最大値	10	7	11	9	12	8	8	7

⑤利用者総数および介護度別利用者

利用者総数

	全国			横浜			任意抽出	
	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出
度数	176	48	84	37	42	44	29	36
平均値	114.58	103.42	99.75	131.19	143.19	125.63	98.07	122.00
中央値	100.5	104	84.5	109	128.5	114.5	88	99
標準偏差	67.05	56.45	59.16	102.29	84.64	91.27	47.12	80.05
最小値	8	22	10.7	24	32	21	30	22
最大値	350	300	325	473	364	598	195	428

要支援１

	全国			横浜			任意抽出	
	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出
度数	221	56	79	54	71	54	35	43
平均値	8.62	6.86	2.87	8.89	8.04	5.67	5.23	7.07
中央値	5	5	1	6.5	7	3.5	4	5
標準偏差	11.44	7.58	3.92	8.17	5.99	5.75	5.46	7.70
最小値	0	0	0	0	0	0	0	0
最大値	118	38	15	31	24	22	27	32

要支援２

	全国			横浜			任意抽出	
	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出
度数	223	57	81	53	71	55	35	44
平均値	10.77	8.63	3.59	14.09	15.21	13.24	7.09	12.30
中央値	8	7	2	10	13	11	6	9.5
標準偏差	10.68	6.62	4.29	13.81	10.18	10.18	6.62	11.34
最小値	0	0	0	0	0	0	0	0
最大値	68	31	15	73	44	52	30	47

要介護 1

	全国			横浜			任意抽出	
	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出
度数	240	63	110	54	72	55	38	44
平均値	30.88	30.90	39.10	25.98	23.64	22.62	28.11	34.18
中央値	27.5	26	32.5	21	22.5	21	30	26
標準偏差	19.15	21.69	26.61	22.93	14.95	12.62	16.56	25.84
最小値	4	3	4	1	3	5	1	3
最大値	107	104	200	134	60	61	77	117

要介護 2

	全国			横浜			任意抽出	
	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出
度数	240	62	109	54	72	55	38	44
平均値	27.76	25.11	29.47	34.96	41.22	36.02	29.97	36.82
中央値	24.5	21.5	23	30	33	35	26.5	28.5
標準偏差	17.78	14.29	21.77	28.21	31.27	19.65	19.33	28.29
最小値	2	2	7	0	7	4	5	8
最大値	98	67	144	140	166	89	105	169

要介護 3

	全国			横浜			任意抽出	
	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出
度数	240	62	109	54	72	55	38	44
平均値	16.56	15.65	16.57	15.91	20.43	17.09	16.58	18.80
中央値	15	14	12	14	17	17	13	13
標準偏差	10.90	11.34	12.85	12.21	15.81	9.38	11.34	16.11
最小値	0	2	3	2	2	1	3	1
最大値	56	59	77	66	99	37	58	95

要介護 4

	全国			横浜			任意抽出	
	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出
度数	240	62	108	54	72	55	39	44
平均値	10.63	9.60	9.98	11.15	12.33	11.15	9.82	11.05
中央値	9	8.5	8	9	9	9	8	9
標準偏差	7.36	6.73	7.88	8.75	9.29	8.47	6.72	7.25
最小値	0	1	1	0	1	1	0	0
最大値	41	30	41	46	55	54	29	34

要介護 5

	全国			横浜			任意抽出	
	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出
度数	238	62	108	54	72	54	39	44
平均値	7.83	6.18	6.08	8.02	8.33	6.91	7.41	6.93
中央値	6	5.5	4	6	7	6	5	6
標準偏差	6.47	4.64	5.91	7.59	6.32	4.86	5.66	4.61
最小値	1	0	0	0	0	1	1	0
最大値	43	26	30	42	33	23	23	23

⑥現住所での事業所開設年

	全国			横浜			任意抽出	
	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出
度数	224	53	103	51	67	56	35	42
平均値	2005.18	2005.23	2003.57	2004.94	2005.09	2004.36	2006.71	2003.24
中央値	2004	2005	2003	2005	2005	2004	2006	2000.5
標準偏差	5.86	5.91	7.59	5.70	5.22	5.48	5.14	4.41
最小値	1990	1990	1947	1991	1994	1992	2000	1999
最大値	2016	2016	2015	2016	2013	2016	2016	2012

⑦自治体内の居宅介護支援職能団体への参加の状況

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
参加	N	239	65	100	404	51	79	62	192	38	43	81
	%	94.1%	98.5%	87.7%	93.1%	92.7%	98.7%	98.4%	97.0%	97.4%	97.7%	97.6%
不参加	N	15	1	14	30	4	1	1	6	1	1	2
	%	5.9%	1.5%	12.3%	6.9%	7.3%	1.3%	1.6%	3.0%	2.6%	2.3%	2.4%
全体	N	254	66	114	434	55	80	63	198	39	44	83
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑧同一法人内に在宅療養支援診療所/病院があり、患者・利用者の支援で連携している

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.法人内医療機関と連携している	N	59	11	37	107	10	22	7	39	8	16	24
	%	24.0%	16.7%	32.2%	25.1%	17.9%	28.9%	11.5%	20.2%	20.0%	37.2%	28.9%
2.法人内に在宅で連携する医療機関はない	N	187	55	78	320	46	54	54	154	32	27	59
	%	76.0%	83.3%	67.8%	74.9%	82.1%	71.1%	88.5%	79.8%	80.0%	62.8%	71.1%
全体	N	246	66	115	427	56	76	61	193	40	43	83
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑨同一法人内（もしくは訪問圏内の別の事業所）で、法人として行っている介護保険事業

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.訪問看護	N	74	11	41	126	16	31	19	66	15	14	29
	%	31.1%	17.7%	36.9%	30.7%	32.0%	43.1%	31.1%	36.1%	38.5%	33.3%	35.8%
2.訪問介護	N	167	36	71	274	28	42	31	101	25	21	46
	%	70.2%	58.1%	64.0%	66.7%	56.0%	58.3%	50.8%	55.2%	64.1%	50.0%	56.8%
3.訪問リハビリテーション	N	20	5	29	54	4	3	5	12	4	6	10
	%	8.4%	8.1%	26.1%	13.1%	8.0%	4.2%	8.2%	6.6%	10.3%	14.3%	12.3%
4.通所介護	N	134	43	85	262	30	40	36	106	14	29	43
	%	56.3%	69.4%	76.6%	63.7%	60.0%	55.6%	59.0%	57.9%	35.9%	69.0%	53.1%
5.通所リハビリテーション	N	36	11	35	82	5	8	6	19	5	15	20
	%	15.1%	17.7%	31.5%	20.0%	10.0%	11.1%	9.8%	10.4%	12.8%	35.7%	24.7%
6.その他	N	63	16	26	105	11	12	9	32	6	14	20
	%	26.5%	25.8%	23.4%	25.5%	22.0%	16.7%	14.8%	17.5%	15.4%	33.3%	24.7%
回答者数合計	N	238	62	111	411	50	72	61	183	39	42	81

問２：９月に置ける利用者数及び自宅看取りとなった方の人数

都市名		現在（平成 28 年 9 月）			2 年前（平成 26 年 9 月）			5 年前（平成 23 年 9 月）		
		9 月時点の利用者のうち、訪問診療を受けながら自宅療養していた人の数	この 1 年での利用者の看取り件数	この 1 年で自宅療養していた方のうち、途中から自宅以外へ戻らなかった利用者の数	9 月時点の利用者のうち、訪問診療を受けながら自宅療養していた人の数	この 1 年での利用者の看取り件数	この 1 年で自宅療養していた方のうち、途中から自宅以外へ戻らなかった利用者の数	9 月時点の利用者のうち、訪問診療を受けながら自宅療養していた人の数	この 1 年での利用者の看取り件数	この 1 年で自宅療養していた方のうち、途中から自宅以外へ戻らなかった利用者の数
①高水準市	度数	242	239	234	202	203	202	167	165	166
	平均値	10.71	5.45	6.77	8.61	3.98	6.39	6.82	2.80	5.96
	中央値	6.00	3.00	4.00	5.00	2.00	4.00	3.00	1.00	3.00
	標準偏差	12.86	20.07	7.46	10.65	5.65	7.40	9.84	3.95	7.36
	最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最大値	100	300	40	82	39	42	79	23	40
②高水準中小市	度数	61	62	60	49	50	48	32	32	32
	平均値	7.90	4.65	6.33	5.27	3.56	4.85	3.50	2.78	5.72
	中央値	4.00	2.50	3.50	3.00	2.50	3.00	2.50	1.50	3.00
	標準偏差	12.96	7.06	6.63	6.06	4.47	6.41	3.93	3.59	8.10
	最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最大値	87	40	26	24	20	30	17	12	34
③低水準市	度数	110	110	105	95	95	92	83	85	80
	平均値	8.27	1.56	8.05	7.58	1.81	7.65	5.66	1.42	6.70
	中央値	4.00	1.00	5.00	3.00	1.00	3.50	2.00	1.00	3.00
	標準偏差	13.46	2.36	9.49	14.18	2.50	10.37	9.71	2.18	9.65
	最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最大値	103	12	42	96	12	45	55	12	45
①高水準横浜	度数	55	53	53	45	45	44	39	38	37
	平均値	10.62	4.11	7.62	8.91	2.98	7.64	6.54	2.32	7.65
	中央値	8.00	3.00	5.00	4.00	2.00	4.50	4.00	2.00	3.00
	標準偏差	11.52	4.98	9.06	9.92	3.65	11.10	7.94	3.59	13.70
	最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最大値	58	26	45	45	20	60	30	20	75
②中水準横浜	度数	74	72	69	60	59	60	50	50	50
	平均値	11.50	4.81	8.86	8.78	3.80	7.22	7.20	2.58	6.96
	中央値	9.50	2.00	5.00	6.00	2.00	4.00	4.00	1.00	3.00
	標準偏差	10.04	6.78	11.90	9.67	5.79	9.94	9.34	3.67	9.22
	最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最大値	50	35	60	52	29	50	45	16	40
③低水準横浜	度数	60	61	61	52	54	54	42	44	43
	平均値	8.68	3.39	6.93	8.06	2.87	6.43	5.52	2.16	6.23
	中央値	6.00	2.00	5.00	5.00	2.00	5.00	4.00	1.00	4.00
	標準偏差	11.95	4.53	7.80	10.67	4.06	7.57	7.65	3.84	8.04
	最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最大値	75	24	40	60	24	40	45	24	40
①大規模任意抽出	度数	42	42	42	37	37	35	33	33	33
	平均値	11.57	3.69	7.24	8.51	2.49	5.31	7.48	2.30	4.58
	中央値	9.00	2.00	4.50	6.00	2.00	3.00	4.00	1.00	2.00
	標準偏差	9.83	4.14	8.82	8.61	3.09	7.02	10.68	3.97	6.13
	最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最大値	46	18	42	43	13	37	52	20	24
②中小規模任意抽出	度数	42	43	41	37	38	38	34	36	35
	平均値	8.62	3.30	10.41	8.95	2.87	12.08	7.32	2.11	10.66
	中央値	8.00	2.00	6.00	8.00	2.00	5.00	5.00	1.50	5.00
	標準偏差	6.88	3.47	13.82	7.08	3.17	19.80	6.97	2.29	20.38
	最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最大値	28	18	80	24	15	115	24	7	120

問３　自宅看取り件数の経年推移（トレンド）について

①居宅介護支援事業を開始して２年目（軌道に乗って）以降の月間の看取り件数の増減

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.現在も順調に増加してきている	N	106	25	23	154	25	39	20	84	19	19	38
	%	43.4%	39.0%	21.1%	36.9%	43.9%	48.7%	32.3%	42.2%	45.2%	43.2%	44.2%
2.現在頭打ちとなっている	N	98	27	55	180	22	30	30	82	12	16	28
	%	40.2%	42.2%	50.5%	43.2%	38.6%	37.5%	48.4%	41.2%	28.6%	36.4%	32.6%
3.現在、減少に転じている	N	40	12	31	83	10	11	12	33	11	9	20
	%	16.4%	18.8%	28.4%	19.9%	17.5%	13.8%	19.4%	16.6%	26.2%	20.5%	23.3%
全体	N	244	64	109	417	57	80	62	199	42	44	86
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

②-1 そのトレンドの背景となる要因

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.事業所のケアマネジメント提供体制の方針の変化や維持が背景となっている	N	45	12	13	70	13	18	9	40	3	4	7
	%	19.8%	21.4%	13.1%	18.3%	26.0%	24.7%	16.7%	22.6%	9.1%	11.1%	10.1%
2.地域のほかの医療機関や看護介護事業所との連携の増減（連携強化や連携の解消等）が背景となっている	N	136	35	53	224	25	45	22	92	22	21	43
	%	59.9%	62.5%	53.5%	58.6%	50.0%	61.6%	40.7%	52.0%	66.7%	58.3%	62.3%
3.地域の競合となる居宅介護支援事業所の増減が背景となっている	N	31	3	10	44	8	11	8	27	1	1	2
	%	13.7%	5.4%	10.1%	11.5%	16.0%	15.1%	14.8%	15.3%	3.0%	2.8%	2.9%
4.地域の需要の増減（高齢者人口の増減、自宅看取りニーズの増減等）が背景となっている	N	136	37	68	241	27	42	34	103	22	24	46
	%	59.9%	66.1%	68.7%	63.1%	54.0%	57.5%	63.0%	58.2%	66.7%	66.7%	66.7%
回答者数合計	N	227	56	99	382	50	73	54	177	33	36	69

②-2　設問①のトレンドで「1.増加」を選択した場合、その背景

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.事業所のケアマネジメント提供体制の方針の変化や維持が背景となっている	N	4	2	5	11	1	4	1	6	1	0	1
	%	4.0%	8.7%	22.7%	7.5%	4.2%	11.4%	5.6%	7.8%	5.8%	0.0%	2.9%
2.地域のほかの医療機関や看護介護事業所との連携の増減（連携強化や連携の解消等）が背景となっている	N	54	12	11	77	10	20	9	39	8	12	20
	%	53.5%	52.2%	50.0%	52.7%	41.6%	57.1%	50.0%	50.6%	47.1%	66.7%	57.1%
3.地域の競合となる居宅介護支援事業所の増減が背景となっている	N	2	0	0	2	1	0	0	1	0	0	0
	%	2.0%	0.0%	0.0%	1.4%	4.2%	0.0%	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%
4.地域の需要の増減（高齢者人口の増減、自宅看取りニーズの増減等）が背景となっている	N	41	9	6	56	12	11	8	31	8	6	14
	%	40.6%	39.1%	27.3%	38.4%	50.0%	31.4%	44.4%	40.3%	47.1%	33.3%	40.0%
全体	N	101	23	22	146	24	35	18	77	17	18	35
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

②-2　設問①のトレンドで「3.減少」を選択した場合、その背景

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.事業所のケアマネジメント提供体制の方針の変化や維持が背景となっている	N	4	2	0	6	3	1	0	4	0	1	1
	%	11.1%	18.2%	0.0%	8.2%	33.4%	11.1%	0.0%	14.3%	0.0%	14.3%	6.7%
2.地域のほかの医療機関や看護介護事業所との連携の増減（連携強化や連携の解消等）が背景となっている	N	7	4	4	15	3	2	1	6	2	2	4
	%	19.4%	36.4%	15.4%	20.5%	33.3%	22.2%	10.0%	21.4%	25.0%	28.6%	26.7%
3.地域の競合となる居宅介護支援事業所の増減が背景となっている	N	6	0	1	7	0	2	5	7	0	0	0
	%	16.7%	0.0%	3.8%	9.6%	0.0%	22.2%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%
4.地域の需要の増減（高齢者人口の増減、自宅看取りニーズの増減等）が背景となっている	N	19	5	21	45	3	4	4	11	6	4	10
	%	52.8%	45.5%	80.8%	61.6%	33.3%	44.4%	40.0%	39.3%	75.0%	57.1%	66.7%
全体	N	36	11	26	73	9	9	10	28	8	7	15
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

③　②で１または２を選択した場合、その具体的な理由

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①横浜上位	②横浜中位	③横浜下位	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.スタッフの増員（事務所のチーム体制の複数化）の容易さ	N	28	2	7	37	5	7	1	13	10	3	13
	%	18.9%	5.0%	12.7%	15.2%	15.6%	14.6%	3.8%	12.3%	45.5%	13.6%	29.5%
2.自宅看取りのスキルを学ぶ研修会や、ケースカンファレンスなどへ参加できる機会の多さ	N	50	18	24	92	10	20	13	43	9	8	17
	%	33.8%	45.0%	43.6%	37.9%	31.3%	41.7%	50.0%	40.6%	40.9%	36.4%	38.6%
3.実際の看取りケースを（同行等で）間近で体験し学ぶ機会の多さ	N	31	6	13	50	9	9	8	26	5	5	10
	%	20.9%	15.0%	23.6%	20.6%	28.1%	18.8%	30.8%	24.5%	22.7%	22.7%	22.7%
4.医療と介護の両職種が、気軽にコミュニケーションが取れる環境の存在・整備	N	104	32	36	172	23	39	19	81	14	14	28
	%	70.3%	80.0%	65.5%	70.8%	71.9%	81.3%	73.1%	76.4%	63.6%	63.6%	63.6%
5.多職種間の情報職種が（例えばICT等で）仕組み化・効率化	N	32	11	12	55	9	13	5	27	7	5	12
	%	21.6%	27.5%	21.8%	22.6%	28.1%	27.1%	19.2%	25.5%	31.8%	22.7%	27.3%
6.病院と在宅側（医療・介護）との退院調整や急変時対応における連携の仕組み化	N	112	30	45	187	25	35	19	79	15	17	32
	%	75.7%	75.0%	81.8%	77.0%	78.1%	72.9%	73.1%	74.5%	68.2%	77.3%	72.7%
7.患者（利用者）本人や家族への、自宅での看取りに関する啓発や教育の実施	N	76	18	27	121	14	22	10	46	8	12	20
	%	51.4%	45.0%	49.1%	49.8%	43.8%	45.8%	38.5%	43.4%	36.4%	54.5%	45.5%
回答者数合計	N	148	40	55	243	32	48	26	106	22	22	44

③　②で１または２を選択しなかった場合、看取り件数を増やすために重要だと思う項目

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①横浜上位	②横浜中位	③横浜下位	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.スタッフの増員（事務所のチーム体制の複数化）の容易さ	N	11	4	10	25	4	5	1	10	5	2	7
	%	12.0%	18.2%	18.5%	14.9%	16.7%	17.9%	3.1%	11.9%	26.3%	10.0%	17.9%
2.自宅看取りのスキルを学ぶ研修会や、ケースカンファレンスなどへ参加できる機会の多さ	N	30	6	19	55	5	13	12	30	3	6	9
	%	32.6%	27.3%	35.2%	32.7%	20.8%	46.4%	37.5%	35.7%	15.8%	30.0%	23.1%
3.実際の看取りケースを（同行等で）間近で体験し学ぶ機会の多さ	N	18	4	4	26	4	4	5	13	3	2	5
	%	19.6%	18.2%	7.4%	15.5%	16.7%	14.3%	15.6%	15.5%	15.8%	10.0%	12.8%
4.医療と介護の両職種が、気軽にコミュニケーションが取れる環境の存在・整備	N	52	14	28	94	17	14	19	50	9	10	19
	%	56.5%	63.6%	51.9%	56.0%	70.8%	50.0%	59.4%	59.5%	47.4%	50.0%	48.7%
5.多職種間の情報職種が（例えばICT等で）仕組み化・効率化	N	26	6	17	49	7	4	7	18	8	3	11
	%	28.3%	27.3%	31.5%	29.2%	29.2%	14.3%	21.9%	21.4%	42.1%	15.0%	28.2%
6.病院と在宅側（医療・介護）との退院調整や急変時対応における連携の仕組み化	N	71	14	37	122	18	24	23	65	14	14	28
	%	77.2%	63.6%	68.5%	72.6%	75.0%	85.7%	71.9%	77.4%	73.7%	70.0%	71.8%
7.患者（利用者）本人や家族への、自宅での看取りに関する啓発や教育の実施	N	53	16	39	108	12	16	22	50	13	18	31
	%	57.6%	72.7%	72.2%	64.3%	50.0%	57.1%	68.8%	59.5%	68.4%	90.0%	79.5%
回答者数合計	N	92	22	54	168	24	28	32	84	19	20	39

問5　地域の医療機関・介護サービス等は、地域の在宅療養・在宅看取りの需要に応えられているか

①在宅療養の需要

		在支診				訪看				居宅			
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計
1.十分対応できている	N	9	2	4	15	11	2	2	15	23	2	11	36
	%	9.3%	8.3%	11.4%	9.6%	13.4%	8.7%	5.0%	10.3%	9.2%	3.1%	9.5%	8.3%
2.対応できている	N	60	11	16	87	57	12	28	97	166	34	66	266
	%	61.9%	45.9%	45.7%	55.8%	69.5%	52.2%	70.0%	66.9%	66.1%	52.3%	56.9%	61.6%
3.対応できていない	N	17	5	8	30	9	5	8	22	49	23	31	103
	%	17.5%	20.8%	22.9%	19.2%	11.0%	21.7%	20.0%	15.2%	19.5%	35.4%	26.7%	23.8%
4.不明	N	11	6	7	24	5	4	2	11	13	6	8	27
	%	11.3%	25.0%	20.0%	15.4%	6.1%	17.4%	5.0%	7.6%	5.2%	9.2%	6.9%	6.3%
全体	N	97	24	35	156	82	23	40	145	251	65	116	432
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

②在宅看取りの需要

		在支診				訪看				居宅			
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計
1.十分対応できている	N	9	2	3	14	7	1	2	10	19	3	5	27
	%	9.3%	8.0%	8.6%	8.9%	8.5%	4.3%	5.1%	6.9%	7.7%	4.7%	4.3%	6.3%
2.対応できている	N	46	10	18	74	52	13	17	82	159	31	64	254
	%	47.4%	40.0%	51.4%	47.1%	63.4%	56.5%	43.6%	56.9%	64.1%	48.4%	55.7%	59.5%
3.対応できていない	N	27	6	8	41	14	6	15	35	49	23	36	108
	%	27.8%	24.0%	22.9%	26.1%	17.1%	26.1%	38.5%	24.3%	19.8%	35.9%	31.3%	25.3%
4.不明	N	15	7	6	28	9	3	5	17	21	7	10	38
	%	15.5%	28.0%	17.1%	17.8%	11.0%	13.0%	12.8%	11.8%	8.5%	10.9%	8.7%	8.9%
全体	N	97	25	35	157	82	23	39	144	248	64	115	427
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問6　在宅療養の推進という観点からの市町村の医療・介護資源の過不足感

①在宅療養支援診療所の数

		在支診				訪看				居宅			
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計
1.十分対応できている	N	8	1	2	11	3	0	0	3	7	0	2	9
	%	8.42%	4.00%	5.71%	7.10%	3.66%	0.00%	0.00%	2.08%	2.79%	0.00%	1.72%	2.09%
2.対応できている	N	38	10	15	63	37	5	8	50	115	21	30	166
	%	40.00%	40.00%	42.86%	40.65%	45.12%	22.73%	20.00%	34.72%	45.82%	32.81%	25.86%	38.52%
3.不足している	N	29	10	12	51	31	16	29	76	104	35	71	210
	%	30.53%	40.00%	34.29%	32.90%	37.80%	72.73%	72.50%	52.78%	41.43%	54.69%	61.21%	48.72%
4.不足を隣接自治体の資源で補完	N	1	0	0	1	3	1	0	4	5	5	0	10
	%	1.05%	0.00%	0.00%	0.65%	3.66%	4.55%	0.00%	2.78%	1.99%	7.81%	0.00%	2.32%
5.わからない	N	19	4	6	29	8	0	3	11	20	3	13	36
	%	20.00%	16.00%	17.14%	18.71%	9.76%	0.00%	7.50%	7.64%	7.97%	4.69%	11.21%	8.35%
全体	N	95	25	35	155	82	22	40	144	251	64	116	431
	%	100.00%	100.00%	100.00%	######	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

②24時間対応の訪問看護ステーションの数

		在支診				訪看				居宅			
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計
1.十分対応できている	N	4	3	2	9	13	2	0	15	11	0	3	14
	%	4.2%	12.0%	5.7%	5.8%	15.7%	10.0%	0.0%	10.5%	4.3%	0.0%	2.6%	3.2%
2.対応できている	N	42	11	14	67	49	7	26	82	122	17	47	186
	%	43.8%	44.0%	40.0%	42.9%	59.0%	35.0%	65.0%	57.3%	47.8%	26.2%	40.2%	42.6%
3.不足している	N	38	8	15	61	16	9	9	34	112	42	63	217
	%	39.6%	32.0%	42.9%	39.1%	19.3%	45.0%	22.5%	23.8%	43.9%	64.6%	53.8%	49.7%
4.不足を隣接自治体の資源で補完	N	0	0	0	0	2	1	2	5	1	5	0	6
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.4%	5.0%	5.0%	3.5%	0.4%	7.7%	0.0%	1.4%
5.わからない	N	12	3	4	19	3	1	3	7	9	1	4	14
	%	12.5%	12.0%	11.4%	12.2%	3.6%	5.0%	7.5%	4.9%	3.5%	1.5%	3.4%	3.2%
全体	N	96	25	35	156	83	20	40	143	255	65	117	437
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

③24 時間対応の訪問介護事業所の数

		在支診				訪看				居宅			
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計
1.十分対応できている	N	2	0	1	3	2	1	0	3	1	0	0	1
	%	2.1%	0.0%	2.9%	1.9%	2.4%	4.3%	0.0%	2.1%	0.4%	0.0%	0.0%	0.2%
2.対応できている	N	33	8	9	50	9	2	3	14	24	2	14	40
	%	34.4%	32.0%	25.7%	32.1%	10.8%	8.7%	7.5%	9.6%	9.5%	3.1%	12.1%	9.2%
3.不足している	N	44	12	16	72	58	14	26	98	211	59	96	366
	%	45.8%	48.0%	45.7%	46.2%	69.9%	60.9%	65.0%	67.1%	83.4%	90.8%	82.8%	84.3%
4.不足を隣接自治体の資源で補完	N	2	0	0	2	1	2	1	4	3	2	1	6
	%	2.1%	0.0%	0.0%	1.3%	1.2%	8.7%	2.5%	2.7%	1.2%	3.1%	0.9%	1.4%
5.わからない	N	15	5	9	29	13	4	10	27	14	2	5	21
	%	15.6%	20.0%	25.7%	18.6%	15.7%	17.4%	25.0%	18.5%	5.5%	3.1%	4.3%	4.8%
全体	N	96	25	35	156	83	23	40	146	253	65	116	434
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

④自宅看取りに習熟しているケアマネジャーの数

		在支診				訪看				居宅			
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計
1.十分対応できている	N	2	0	1	3	0	0	0	0	1	1	0	2
	%	2.1%	0.0%	2.9%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	1.5%	0.0%	0.5%
2.対応できている	N	21	8	7	36	6	3	3	12	70	16	25	111
	%	21.9%	32.0%	20.0%	23.1%	7.2%	13.0%	7.3%	8.2%	27.5%	24.6%	21.6%	25.5%
3.不足している	N	54	9	15	78	62	15	26	103	130	33	61	224
	%	56.3%	36.0%	42.9%	50.0%	74.7%	65.2%	63.4%	70.1%	51.0%	50.8%	52.6%	51.4%
4.不足を隣接自治体の資源で補完	N	1	0	0	1	1	0	1	2	0	0	0	0
	%	1.0%	0.0%	0.0%	0.6%	1.2%	0.0%	2.4%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
5.わからない	N	18	8	12	38	14	5	11	30	54	15	30	99
	%	18.8%	32.0%	34.3%	24.4%	16.9%	21.7%	26.8%	20.4%	21.2%	23.1%	25.9%	22.7%
全体	N	96	25	35	156	83	23	41	147	255	65	116	436
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑤レスパイト施設の数

		在支診				訪看				居宅			
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計
1.十分対応できている	N	1	0	2	3	0	0	0	0	2	0	1	3
	%	1.1%	0.0%	5.7%	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	0.9%	0.7%
2.対応できている	N	18	4	10	32	10	2	2	14	29	15	25	69
	%	19.4%	16.0%	28.6%	20.9%	12.0%	8.7%	4.9%	9.5%	11.4%	23.1%	21.4%	15.8%
3.不足している	N	51	11	14	76	66	20	29	115	198	42	81	321
	%	54.8%	44.0%	40.0%	49.7%	79.5%	87.0%	70.7%	78.2%	77.6%	64.6%	69.2%	73.5%
4.不足を隣接自治体の資源で補完	N	4	2	1	7	1	0	2	3	8	5	0	13
	%	4.3%	8.0%	2.9%	4.6%	1.2%	0.0%	4.9%	2.0%	3.1%	7.7%	0.0%	3.0%
5.わからない	N	19	8	8	35	6	1	8	15	18	3	10	31
	%	20.4%	32.0%	22.9%	22.9%	7.2%	4.3%	19.5%	10.2%	7.1%	4.6%	8.5%	7.1%
全体	N	93	25	35	153	83	23	41	147	255	65	117	437
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑥病院の退院調整機能

		在支診				訪看				居宅			
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計
1.十分対応できている	N	3	0	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0
	%	3.2%	0.0%	2.9%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
2.対応できている	N	35	6	15	56	25	6	8	39	108	29	48	185
	%	36.8%	24.0%	44.1%	36.4%	30.5%	26.1%	20.5%	27.1%	42.7%	44.6%	41.4%	42.6%
3.不足している	N	34	13	9	56	45	14	17	76	114	28	48	190
	%	35.8%	52.0%	26.5%	36.4%	54.9%	60.9%	43.6%	52.8%	45.1%	43.1%	41.4%	43.8%
4.不足を隣接自治体の資源で補完	N	1	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	2
	%	1.1%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	1.5%	0.0%	0.5%
5.わからない	N	22	6	9	37	12	3	14	29	30	7	20	57
	%	23.2%	24.0%	26.5%	24.0%	14.6%	13.0%	35.9%	20.1%	11.9%	10.8%	17.2%	13.1%
全体	N	95	25	34	154	82	23	39	144	253	65	116	434
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑦急変時に受入可能なバックベッドの数

		在支診				訪看				居宅			
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計
1.十分対応できている	N	1	0	1	2	0	0	3	3	0	0	0	0
	%	1.0%	0.0%	2.9%	1.3%	0.0%	0.0%	7.5%	2.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
2.対応できている	N	24	6	15	45	10	3	8	21	23	8	27	58
	%	25.0%	24.0%	42.9%	28.8%	12.0%	13.0%	20.0%	14.4%	9.0%	12.9%	23.5%	13.4%
3.不足している	N	58	16	15	89	60	17	18	95	187	45	66	298
	%	60.4%	64.0%	42.9%	57.1%	72.3%	73.9%	45.0%	65.1%	73.3%	72.6%	57.4%	69.0%
4.不足を隣接自治体の資源で補完	N	0	0	0	0	0	0	0	0	4	3	0	7
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	4.8%	0.0%	1.6%
5.わからない	N	13	3	4	20	13	3	11	27	41	6	22	69
	%	13.5%	12.0%	11.4%	12.8%	15.7%	13.0%	27.5%	18.5%	16.1%	9.7%	19.1%	16.0%
全体	N	96	25	35	156	83	23	40	146	255	62	115	432
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑧特別養護老人ホーム

		在支診				訪看				居宅			
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計
1.十分対応できている	N	2	1	1	4	0	1	1	2	3	2	1	6
	%	2.1%	4.0%	2.9%	2.6%	0.0%	4.3%	2.4%	1.4%	1.2%	3.1%	0.9%	1.4%
2.対応できている	N	21	8	16	45	15	10	14	39	77	25	47	149
	%	21.9%	32.0%	45.7%	28.8%	18.1%	43.5%	34.1%	26.5%	30.4%	38.5%	40.5%	34.3%
3.不足している	N	56	11	14	81	48	9	18	75	162	33	64	259
	%	58.3%	44.0%	40.0%	51.9%	57.8%	39.1%	43.9%	51.0%	64.0%	50.8%	55.2%	59.7%
4.不足を隣接自治体の資源で補完	N	1	1	0	2	1	1	1	3	3	3	1	7
	%	1.0%	4.0%	0.0%	1.3%	1.2%	4.3%	2.4%	2.0%	1.2%	4.6%	0.9%	1.6%
5.わからない	N	16	4	4	24	19	2	7	28	8	2	3	13
	%	16.7%	16.0%	11.4%	15.4%	22.9%	8.7%	17.1%	19.0%	3.2%	3.1%	2.6%	3.0%
全体	N	96	25	35	156	83	23	41	147	253	65	116	434
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑨介護老人保健施設

		在支診				訪看				居宅			
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計
1.十分対応できている	N	4	1	1	6	0	1	1	2	3	1	3	7
	%	4.2%	4.0%	2.9%	3.8%	0.0%	4.3%	2.5%	1.4%	1.2%	1.5%	2.6%	1.6%
2.対応できている	N	24	8	15	47	20	11	15	46	101	23	51	175
	%	25.0%	32.0%	42.9%	30.1%	24.4%	47.8%	37.5%	31.7%	39.5%	35.4%	44.3%	40.1%
3.不足している	N	47	10	15	72	38	9	15	62	135	38	51	224
	%	49.0%	40.0%	42.9%	46.2%	46.3%	39.1%	37.5%	42.8%	52.7%	58.5%	44.3%	51.4%
4.不足を隣接自治体の資源で補完	N	1	1	0	2	3	1	1	5	7	2	3	12
	%	1.0%	4.0%	0.0%	1.3%	3.7%	4.3%	2.5%	3.4%	2.7%	3.1%	2.6%	2.8%
5.わからない	N	20	5	4	29	21	1	8	30	10	1	7	18
	%	20.8%	20.0%	11.4%	18.6%	25.6%	4.3%	20.0%	20.7%	3.9%	1.5%	6.1%	4.1%
全体	N	96	25	35	156	82	23	40	145	256	65	115	436
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑩比較的低価格な介護付有料老人ホームやサ高住など

		在支診				訪看				居宅			
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計
1.十分対応できている	N	7	1	4	12	2	3	3	8	11	3	6	20
	%	7.4%	4.0%	11.8%	7.8%	2.4%	13.0%	7.3%	5.4%	4.3%	4.6%	5.2%	4.6%
2.対応できている	N	22	11	7	40	15	6	10	31	70	13	45	128
	%	23.2%	44.0%	20.6%	26.0%	18.1%	26.1%	24.4%	21.1%	27.3%	20.0%	38.8%	29.3%
3.不足している	N	49	7	15	71	38	10	14	62	146	38	51	235
	%	51.6%	28.0%	44.1%	46.1%	45.8%	43.5%	34.1%	42.2%	57.0%	58.5%	44.0%	53.8%
4.不足を隣接自治体の資源で補完	N	0	0	0	0	4	0	0	4	6	2	3	11
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.8%	0.0%	0.0%	2.7%	2.3%	3.1%	2.6%	2.5%
5.わからない	N	17	6	8	31	24	4	14	42	23	9	11	43
	%	17.9%	24.0%	23.5%	20.1%	28.9%	17.4%	34.1%	28.6%	9.0%	13.8%	9.5%	9.8%
全体	N	95	25	34	154	83	23	41	147	256	65	116	437
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問７　この市区町村における在宅療養の推進や介護連携のリーダーシップ

①積極的にリーダーシップを発揮しているのは誰か

		在支診				訪看				居宅			
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計
1.自治体	N	18	5	2	25	18	8	4	30	67	28	21	116
	%	18.4%	14.3%	8.0%	15.8%	21.7%	19.5%	18.2%	20.5%	26.4%	24.1%	32.8%	26.7%
2.医師会	N	42	10	10	62	33	13	11	57	92	20	28	140
	%	42.9%	28.6%	40.0%	39.2%	39.8%	31.7%	50.0%	39.0%	36.2%	17.2%	43.8%	32.3%
3.介護系の職能団体	N	8	0	2	10	4	3	0	7	29	10	5	44
	%	8.2%	0.0%	8.0%	6.3%	4.8%	7.3%	0.0%	4.8%	11.4%	8.6%	7.8%	10.1%
4.特定の医師や看護師、ｹｱﾏﾈ等の個人	N	48	14	6	68	38	19	7	64	98	32	27	157
	%	49.0%	40.0%	24.0%	43.0%	45.8%	46.3%	31.8%	43.8%	38.6%	27.6%	42.2%	36.2%
5.特定の医療機関や介護施設、法人	N	34	7	4	45	20	17	1	38	61	37	17	115
	%	34.7%	20.0%	16.0%	28.5%	24.1%	41.5%	4.5%	26.0%	24.0%	31.9%	26.6%	26.5%
6.自治会などの地域住民組織	N	1	0	0	1	0	0	0	0	3	0	0	3
	%	1.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	0.7%
7.特に音頭を取っている主体はない	N	8	5	5	18	5	4	2	11	25	13	5	43
	%	8.2%	14.3%	20.0%	11.4%	6.0%	9.8%	9.1%	7.5%	9.8%	11.2%	7.8%	9.9%
8.その他	N	1	0	2	3	4	0	0	4	10	5	3	18
	%	1.0%	0.0%	8.0%	1.9%	4.8%	0.0%	0.0%	2.7%	3.9%	4.3%	4.7%	4.1%
9.わからない	N	10	7	3	20	13	4	4	21	33	16	8	57
	%	10.2%	20.0%	12.0%	12.7%	15.7%	9.8%	18.2%	14.4%	13.0%	13.8%	12.5%	13.1%
全体	N	98	35	25	158	83	41	22	146	254	116	64	434
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問８　市区町村で、自宅看取りに対する希望や件数は増えているか

①在宅療養を希望する人

		在支診				訪看				居宅			
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計
増加	N	31	7	8	46	38	7	12	57	111	26	25	162
	%	33.33%	28.00%	22.86%	30.07%	47.50%	31.82%	31.58%	40.71%	44.05%	41.27%	21.55%	37.59%
以前と同じ	N	35	11	8	54	29	11	17	57	91	25	51	167
	%	37.63%	44.00%	22.86%	35.29%	36.25%	50.00%	44.74%	40.71%	36.11%	39.68%	43.97%	38.75%
減少	N	10	0	5	15	6	2	1	9	23	4	19	46
	%	10.75%	0.00%	14.29%	9.80%	7.50%	9.09%	2.63%	6.43%	9.13%	6.35%	16.38%	10.67%
不明	N	17	7	14	38	7	2	8	17	27	8	21	56
	%	18.28%	28.00%	40.00%	24.84%	8.75%	9.09%	21.05%	12.14%	10.71%	12.70%	18.10%	12.99%
全体	N	93	25	35	153	80	22	38	140	252	63	116	431
	%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

②実際に在宅療養となる人数

		在支診				訪看				居宅			
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計
増加	N	25	3	6	34	37	7	13	57	105	21	18	144
	%	26.88%	12.00%	17.14%	22.22%	45.12%	31.82%	34.21%	40.14%	41.67%	33.87%	15.65%	33.57%
以前と同じ	N	37	12	8	57	28	10	16	54	87	25	56	168
	%	39.78%	48.00%	22.86%	37.25%	34.15%	45.45%	42.11%	38.03%	34.52%	40.32%	48.70%	39.16%
減少	N	14	3	7	24	9	2	3	14	29	8	27	64
	%	15.05%	12.00%	20.00%	15.69%	10.98%	9.09%	7.89%	9.86%	11.51%	12.90%	23.48%	14.92%
不明	N	17	7	14	38	8	3	6	17	31	8	14	53
	%	18.28%	28.00%	40.00%	24.84%	9.76%	13.64%	15.79%	11.97%	12.30%	12.90%	12.17%	12.35%
全体	N	93	25	35	153	82	22	38	142	252	62	115	429
	%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

③自宅看取りを希望する人数

		在支診				訪看				居宅			
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計
増加	N	23	8	5	36	33	7	12	52	85	20	19	124
	%	25.0%	32.0%	14.3%	23.7%	41.3%	31.8%	31.6%	37.1%	33.9%	32.3%	16.4%	28.9%
以前と同じ	N	30	10	8	48	26	8	13	47	99	20	42	161
	%	32.6%	40.0%	22.9%	31.6%	32.5%	36.4%	34.2%	33.6%	39.4%	32.3%	36.2%	37.5%
減少	N	18	0	6	24	10	3	6	19	37	11	34	82
	%	19.6%	0.0%	17.1%	15.8%	12.5%	13.6%	15.8%	13.6%	14.7%	17.7%	29.3%	19.1%
不明	N	21	7	16	44	11	4	7	22	30	11	21	62
	%	22.8%	28.0%	45.7%	28.9%	13.8%	18.2%	18.4%	15.7%	12.0%	17.7%	18.1%	14.5%
全体	N	92	25	35	152	80	22	38	140	251	62	116	429
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

④実際に自宅看取りとなる人数

		在支診				訪看				居宅			
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計
増加	N	23	9	5	37	28	6	11	45	70	15	14	99
	%	25.8%	37.5%	14.3%	25.0%	36.9%	31.5%	29.7%	34.1%	29.7%	25.4%	13.1%	24.6%
以前と同じ	N	28	7	10	45	25	9	11	45	97	24	45	166
	%	31.5%	29.2%	28.6%	30.4%	32.9%	47.4%	29.7%	34.1%	41.1%	40.7%	42.1%	41.3%
減少	N	17	4	9	30	14	1	7	22	34	12	32	78
	%	19.1%	16.7%	25.7%	20.3%	18.4%	5.3%	18.9%	16.7%	14.4%	20.3%	29.8%	19.4%
不明	N	21	4	11	36	9	3	8	20	35	8	16	59
	%	23.6%	16.7%	31.4%	24.3%	11.8%	15.8%	21.7%	15.2%	14.8%	13.6%	15.0%	14.7%
全体	N	89	24	35	148	76	19	37	132	236	59	107	402
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問 9（問 8-④で「1. 増加」を選択した場合）自宅看取りの増加に寄与したと思われる市区町村の環境的要因

（寄与したものすべて）

		在支診				訪看				居宅			
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計
1. 24 時間対応可能な在宅医が地域に多いこと	N	17	7	3	27	22	5	5	32	53	11	15	79
	%	73.9%	63.6%	75.0%	71.1%	75.9%	71.4%	45.5%	68.1%	68.8%	68.8%	78.9%	70.5%
2. 病院の退院調整が早期かつ丁寧で、連携がよく機能していたこと	N	15	5	2	22	15	1	5	21	43	9	12	64
	%	65.2%	45.5%	50.0%	57.9%	51.7%	14.3%	45.5%	44.7%	55.8%	56.3%	63.2%	57.1%
3. 24 時間対応可能な訪問看護ステーションが地域に多いこと	N	16	9	3	28	23	5	7	35	57	12	17	86
	%	69.6%	81.8%	75.0%	73.7%	79.3%	71.4%	63.6%	74.5%	74.0%	75.0%	89.5%	76.8%
4. 24 時間対応可能な訪問介護事業所が地域に多いこと	N	4	3	0	7	7	2	4	13	13	1	5	19
	%	17.4%	27.3%	0.0%	18.4%	24.1%	28.6%	36.4%	27.7%	16.9%	6.3%	26.3%	17.0%
5. 自宅看取りに習熟しているケアマネジャーが地域に多いこと	N	7	5	1	13	7	0	2	9	23	6	5	34
	%	30.4%	45.5%	25.0%	34.2%	24.1%	0.0%	18.2%	19.1%	29.9%	37.5%	26.3%	30.4%
6. 在宅対応型薬局が地域に多いこと	N	8	3	1	12	16	0	3	19	17	4	5	26
	%	34.8%	27.3%	25.0%	31.6%	55.2%	0.0%	27.3%	40.4%	22.1%	25.0%	26.3%	23.2%
7. 急変時に受け入れ可能な後方支援病床が地域に多いこと	N	11	3	3	17	7	0	2	9	18	0	7	25
	%	47.8%	27.3%	75.0%	44.7%	24.1%	0.0%	18.2%	19.1%	23.4%	0.0%	36.8%	22.3%
8. 看取りの経験豊富な在宅医・訪問看護師が地域に多いこと	N	14	7	3	24	25	4	6	35	48	12	12	72
	%	60.9%	63.6%	75.0%	63.2%	86.2%	57.1%	54.5%	74.5%	62.3%	75.0%	63.2%	64.3%
9. 疼痛コントロールが可能な在宅医が地域に多いこと	N	8	4	2	14	19	2	3	24	32	6	5	43
	%	34.8%	36.4%	50.0%	36.8%	65.5%	28.6%	27.3%	51.1%	41.6%	37.5%	26.3%	38.4%
10. 医療・介護の多職種連携や相互交流が活発な地域だったこと	N	12	7	2	21	13	2	0	15	38	6	9	53
	%	52.2%	63.6%	50.0%	55.3%	44.8%	28.6%	0.0%	31.9%	49.4%	37.5%	47.4%	47.3%
11. 行政が医療介護連携強化（研修や交流の場づくり等）に積極的なこと	N	6	5	0	11	8	1	2	11	30	4	4	38
	%	26.1%	45.5%	0.0%	28.9%	27.6%	14.3%	18.2%	23.4%	39.0%	25.0%	21.1%	33.9%
12. 自宅での療養や看取りの文化や認識が昔から一般的な地域であること	N	4	1	0	5	3	3	1	7	5	4	2	11
	%	17.4%	9.1%	0.0%	13.2%	10.3%	42.9%	9.1%	14.9%	6.5%	25.0%	10.5%	9.8%
13. 自宅療養や看取りに関する住民向け啓発活動が盛んなあ地域であること	N	6	3	0	9	8	1	1	10	12	3	2	17
	%	26.1%	27.3%	0.0%	23.7%	27.6%	14.3%	9.1%	21.3%	15.6%	18.8%	10.5%	15.2%
14. 隣近所の互助やボランティア組織による生活支援が充実していること	N	1	0	0	1	2	0	0	2	4	2	3	9
	%	4.3%	0.0%	0.0%	2.6%	6.9%	0.0%	0.0%	4.3%	5.2%	12.5%	15.8%	8.0%
15. 行政による住宅改修補助等の各種支援施策が充実していること	N	1	1	0	2	4	1	3	8	4	1	4	9
	%	4.3%	9.1%	0.0%	5.3%	13.8%	14.3%	27.3%	17.0%	5.2%	6.3%	21.1%	8.0%
16 その他	N	2	1	0	3	1	0	2	3	8	0	0	8
	%	8.7%	9.1%	0.0%	7.9%	3.4%	0.0%	18.2%	6.4%	10.4%	0.0%	0.0%	7.1%
合計回答者数	N	23	11	4	38	29	7	11	47	77	16	19	112

（特に重要なもの上位 3 つ）

		在支診				訪看				居宅			
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計
1. 24 時間対応可能な在宅医が地域に多いこと	N	11	5	3	19	17	5	8	30	39	9	13	61
	%	55.0%	71.4%	75.0%	61.3%	63.0%	100.0%	80.0%	71.4%	57.4%	56.3%	76.5%	60.4%
2. 病院の退院調整が早期かつ丁寧で、連携がよく機能していたこと	N	7	1	2	10	8	1	0	9	22	6	6	34
	%	35.0%	14.3%	50.0%	32.3%	29.6%	20.0%	0.0%	21.4%	32.4%	37.5%	35.3%	33.7%
3. 24 時間対応可能な訪問看護ステーションが地域に多いこと	N	13	6	3	22	15	4	5	24	36	11	12	59
	%	65.0%	85.7%	75.0%	71.0%	55.6%	80.0%	50.0%	57.1%	52.9%	68.8%	70.6%	58.4%
4. 24 時間対応可能な訪問介護事業所が地域に多いこと	N	0	1	0	1	0	0	2	2	6	1	3	10
	%	0.0%	14.3%	0.0%	3.2%	0.0%	0.0%	20.0%	4.8%	8.8%	6.3%	17.6%	9.9%
5. 自宅看取りに習熟しているケアマネジャーが地域に多いこと	N	0	0	0	0	1	0	2	3	9	3	3	15
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.7%	0.0%	20.0%	7.1%	13.2%	18.8%	17.6%	14.9%
6. 在宅対応型薬局が地域に多いこと	N	4	0	0	4	1	0	2	3	2	1	0	3
	%	20.0%	0.0%	0.0%	12.9%	3.7%	0.0%	20.0%	7.1%	2.9%	6.3%	0.0%	3.0%
7. 急変時に受け入れ可能な後方支援病床が地域に多いこと	N	4	0	1	5	3	0	2	5	6	0	3	9
	%	20.0%	0.0%	25.0%	16.1%	11.1%	0.0%	20.0%	11.9%	8.8%	0.0%	17.6%	8.9%
8. 看取りの経験豊富な在宅医・訪問看護師が地域に多いこと	N	8	4	1	13	15	3	5	23	30	6	7	43
	%	40.0%	57.1%	25.0%	41.9%	55.6%	60.0%	50.0%	54.8%	44.1%	37.5%	41.2%	42.6%
9. 疼痛コントロールが可能な在宅医が地域に多いこと	N	3	0	0	3	9	1	1	11	10	2	0	12
	%	15.0%	0.0%	0.0%	9.7%	33.3%	20.0%	10.0%	26.2%	14.7%	12.5%	0.0%	11.9%
10. 医療・介護の多職種連携や相互交流が活発な地域だったこと	N	3	1	0	4	5	0	2	7	15	3	3	21
	%	15.0%	14.3%	0.0%	12.9%	18.5%	0.0%	20.0%	16.7%	22.1%	18.8%	17.6%	20.8%
11. 行政が医療介護連携強化（研修や交流の場づくり等）に積極的なこと	N	1	0	0	1	0	0	0	0	10	2	0	12
	%	5.0%	0.0%	0.0%	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.7%	12.5%	0.0%	11.9%
12. 自宅での療養や看取りの文化や認識が昔から一般的な地域であること	N	1	0	0	1	0	1	0	1	2	1	0	3
	%	5.0%	0.0%	0.0%	3.2%	0.0%	20.0%	0.0%	2.4%	2.9%	6.3%	0.0%	3.0%
13. 自宅療養や看取りに関する住民向け啓発活動が盛んなあ地域であること	N	3	0	0	3	3	0	1	4	1	2	0	3
	%	15.0%	0.0%	0.0%	9.7%	11.1%	0.0%	10.0%	9.5%	1.5%	12.5%	0.0%	3.0%
14. 隣近所の互助やボランティア組織による生活支援が充実していること	N	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%	1.0%
15. 行政による住宅改修補助等の各種支援施策が充実していること	N	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
16 その他	N	0	1	0	1	0	0	0	0	5	0	0	5
	%	0.0%	14.3%	0.0%	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.4%	0.0%	0.0%	5.0%
合計回答者数	N	20	7	4	31	27	5	10	42	68	16	17	101

問5　地域の医療機関・介護サービス等が、地域の在宅療養・在宅看取りの需要に応えられているか

①在宅療養の需要

		在支診				訪看				居宅			
		①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計
1.十分対応できている	N	2	4	1	7	4	3	3	10	7	9	6	22
	%	7.7%	20.0%	7.7%	11.9%	13.8%	12.5%	15.8%	13.9%	12.1%	11.4%	9.8%	11.1%
2.対応できている	N	12	11	8	31	18	16	12	46	33	48	38	119
	%	46.2%	55.0%	61.5%	52.5%	62.1%	66.7%	63.2%	63.9%	56.9%	60.9%	62.3%	60.1%
3.対応できていない	N	5	3	1	9	2	2	3	7	13	19	12	44
	%	19.2%	15.0%	7.7%	15.3%	6.9%	8.3%	15.8%	9.7%	22.4%	24.1%	19.7%	22.2%
4.不明	N	7	2	3	12	5	3	1	9	5	3	5	13
	%	26.9%	10.0%	23.1%	20.3%	17.2%	12.5%	5.2%	12.5%	8.6%	3.8%	8.2%	6.6%
全体	N	26	20	13	59	29	24	19	72	58	79	61	198
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

②在宅看取りの需要

		在支診				訪看				居宅			
		①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計
1.十分対応できている	N	2	4	1	7	3	5	2	10	7	8	7	22
	%	7.7%	20.0%	7.7%	11.9%	10.3%	20.0%	10.5%	13.7%	12.3%	10.3%	11.7%	11.3%
2.対応できている	N	10	10	6	26	17	15	11	43	29	45	34	108
	%	38.5%	50.0%	46.1%	44.1%	58.7%	60.0%	57.9%	58.9%	50.9%	57.7%	56.7%	55.4%
3.対応できていない	N	7	3	3	13	5	2	5	12	15	21	13	49
	%	26.9%	15.0%	23.1%	22.0%	17.2%	8.0%	26.3%	16.4%	26.3%	26.9%	21.7%	25.1%
4.不明	N	7	3	3	13	4	3	1	8	6	4	6	16
	%	26.9%	15.0%	23.1%	22.0%	13.8%	12.0%	5.3%	11.0%	10.5%	5.1%	10.0%	8.2%
全体	N	26	20	13	59	29	25	19	73	57	78	60	195
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問6　在宅療養の推進という観点からの市町村の医療・介護資源の過不足感

①在宅療養支援診療所の数

		在支診				訪看				居宅			
		①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計
1.十分対応できている	N	0	1	1	2	0	1	1	2	2	2	0	4
	%	0.0%	5.0%	8.3%	3.5%	0.0%	4.0%	5.0%	2.7%	3.5%	2.6%	0.0%	2.1%
2.対応できている	N	8	7	5	20	12	11	3	26	19	44	22	85
	%	32.0%	35.0%	41.7%	35.1%	41.4%	44.0%	15.0%	35.1%	33.3%	56.4%	37.9%	44.0%
3.不足している	N	10	5	4	19	16	11	14	41	29	27	32	88
	%	40.0%	25.0%	33.3%	33.3%	55.2%	44.0%	70.0%	55.4%	50.9%	34.6%	55.2%	45.6%
4.不足を隣接自治体の資源で補完	N	0	0	0	0	1	1	1	3	1	1	3	5
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.4%	4.0%	5.0%	4.1%	1.8%	1.3%	5.2%	2.6%
5.わからない	N	7	7	2	16	0	1	1	2	6	4	1	11
	%	28.0%	35.0%	16.7%	28.1%	0.0%	4.0%	5.0%	2.7%	10.5%	5.1%	1.7%	5.7%
全体	N	25	20	12	57	29	25	20	74	57	78	58	193
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

②24時間対応の訪問看護ステーションの数

		在支診				訪看				居宅			
		①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計
1.十分対応できている	N	0	2	1	3	4	0	3	7	2	7	3	12
	%	0.0%	10.0%	8.3%	5.3%	13.8%	0.0%	15.0%	9.5%	3.6%	8.9%	4.8%	6.1%
2.対応できている	N	12	12	5	29	19	20	11	50	28	48	35	111
	%	48.0%	60.0%	41.7%	50.9%	65.5%	80.0%	55.0%	67.6%	50.0%	60.8%	56.5%	56.3%
3.不足している	N	6	2	4	12	6	4	6	16	23	22	21	66
	%	24.0%	10.0%	33.3%	21.1%	20.7%	16.0%	30.0%	21.6%	41.1%	27.8%	33.9%	33.5%
4.不足を隣接自治体の資源で補完	N	1	0	0	1	0	0	0	0	1	1	3	5
	%	4.0%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	1.3%	4.8%	2.5%
5.わからない	N	6	4	2	12	0	1	0	1	2	1	0	3
	%	24.0%	20.0%	16.7%	21.1%	0.0%	4.0%	0.0%	1.4%	3.6%	1.3%	0.0%	1.5%
全体	N	25	20	12	57	29	25	20	74	56	79	62	197
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

③24 時間対応の訪問介護事業所の数

		在支診				訪看				居宅			
		①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計
1.十分対応できている	N	0	1	2	3	0	0	1	1	0	1	1	2
	%	0.0%	5.0%	16.7%	5.3%	0.0%	0.0%	5.0%	1.4%	0.0%	1.3%	1.6%	1.0%
2.対応できている	N	8	7	1	16	7	8	3	18	11	16	13	40
	%	32.0%	35.0%	8.3%	28.1%	24.1%	34.8%	15.0%	25.0%	19.0%	20.3%	20.6%	20.0%
3.不足している	N	10	6	6	22	20	10	12	42	43	60	47	150
	%	40.0%	30.0%	50.0%	38.6%	69.0%	43.5%	60.0%	58.3%	74.1%	75.9%	74.6%	75.0%
4.不足を隣接自治体の資源で補完	N	0	0	0	0	0	0	1	1	2	1	2	5
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.0%	1.4%	3.4%	1.3%	3.2%	2.5%
5.わからない	N	7	6	3	16	2	5	3	10	2	1	0	3
	%	28.0%	30.0%	25.0%	28.1%	6.9%	21.7%	15.0%	13.9%	3.4%	1.3%	0.0%	1.5%
全体	N	25	20	12	57	29	23	20	72	58	79	63	200
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

④自宅看取りに習熟しているケアマネジャーの数

		在支診				訪看				居宅			
		①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計
1.十分対応できている	N	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1
	%	0.0%	5.0%	0.0%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%	0.0%	0.5%
2.対応できている	N	4	7	1	12	3	4	3	10	11	23	20	54
	%	16.0%	35.0%	8.3%	21.1%	10.7%	16.0%	15.0%	13.7%	19.6%	29.5%	31.7%	27.4%
3.不足している	N	11	6	6	23	20	17	14	51	31	37	30	98
	%	44.0%	30.0%	50.0%	40.4%	71.4%	68.0%	70.0%	69.9%	55.4%	47.4%	47.6%	49.7%
4.不足を隣接自治体の資源で補完	N	0	0	0	0	2	0	2	4	1	0	0	1
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	10.0%	5.5%	1.8%	0.0%	0.0%	0.5%
5.わからない	N	10	6	5	21	3	4	1	8	13	17	13	43
	%	40.0%	30.0%	41.7%	36.8%	10.7%	16.0%	5.0%	11.0%	23.2%	21.8%	20.6%	21.8%
全体	N	25	20	12	57	28	25	20	73	56	78	63	197
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑤レスパイト施設の数

		在支診				訪看				居宅			
		①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計
1.十分対応できている	N	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	1	2
	%	0.0%	0.0%	9.1%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%	1.6%	1.0%
2.対応できている	N	1	4	1	6	5	1	2	8	10	17	11	38
	%	4.0%	21.1%	9.1%	10.9%	17.2%	4.0%	10.0%	10.8%	17.9%	22.4%	17.5%	19.5%
3.不足している	N	14	7	5	26	20	19	14	53	43	52	41	136
	%	56.0%	36.8%	45.5%	47.3%	69.0%	76.0%	70.0%	71.6%	76.8%	68.4%	65.1%	69.7%
4.不足を隣接自治体の資源で補完	N	2	0	0	2	1	3	3	7	3	3	3	9
	%	8.0%	0.0%	0.0%	3.6%	3.4%	12.0%	15.0%	9.5%	5.4%	3.9%	4.8%	4.6%
5.わからない	N	8	8	4	20	3	2	1	6	0	3	7	10
	%	32.0%	42.1%	36.4%	36.4%	10.3%	8.0%	5.0%	8.1%	0.0%	3.9%	11.1%	5.1%
全体	N	25	19	11	55	29	25	20	74	56	76	63	195
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑥病院の退院調整機能

		在支診				訪看				居宅			
		①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計
1.十分対応できている	N	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	1	1
	%	4.0%	0.0%	8.3%	3.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	0.5%
2.対応できている	N	5	5	2	12	8	5	6	19	24	31	31	86
	%	20.0%	25.0%	16.7%	21.1%	27.6%	20.8%	30.0%	26.0%	42.1%	40.3%	49.2%	43.7%
3.不足している	N	11	8	5	24	13	13	8	34	27	37	22	86
	%	44.0%	40.0%	41.7%	42.1%	44.8%	54.2%	40.0%	46.6%	47.4%	48.1%	34.9%	43.7%
4.不足を隣接自治体の資源で補完	N	0	0	0	0	1	1	3	5	2	0	2	4
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.4%	4.2%	15.0%	6.8%	3.5%	0.0%	3.2%	2.0%
5.わからない	N	8	7	4	19	7	5	3	15	4	9	7	20
	%	32.0%	35.0%	33.3%	33.3%	24.1%	20.8%	15.0%	20.5%	7.0%	11.7%	11.1%	10.2%
全体	N	25	20	12	57	29	24	20	73	57	77	63	197
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑦急変時に受入可能なバックベッドの数

		在支診				訪看				居宅			
		①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計
1.十分対応できている	N	0	0	1	1	1	0	0	1	0	0	1	1
	%	0.0%	0.0%	8.3%	1.8%	3.4%	0.0%	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%	1.6%	0.5%
2.対応できている	N	5	5	2	12	5	4	4	13	10	7	4	21
	%	20.0%	25.0%	16.7%	21.1%	17.2%	16.0%	20.0%	17.6%	17.5%	8.9%	6.3%	10.6%
3.不足している	N	15	10	7	32	18	15	10	43	38	58	47	143
	%	60.0%	50.0%	58.3%	56.1%	62.1%	60.0%	50.0%	58.1%	66.7%	73.4%	74.6%	71.9%
4.不足を隣接自治体の資源で補完	N	1	0	1	2	2	3	3	8	2	2	3	7
	%	4.0%	0.0%	8.3%	3.5%	6.9%	12.0%	15.0%	10.8%	3.5%	2.5%	4.8%	3.5%
5.わからない	N	4	5	1	10	3	3	3	9	7	12	8	27
	%	16.0%	25.0%	8.3%	17.5%	10.3%	12.0%	15.0%	12.2%	12.3%	15.2%	12.7%	13.6%
全体	N	25	20	12	57	29	25	20	74	57	79	63	199
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑧特別養護老人ホーム

		在支診				訪看				居宅			
		①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計
1.十分対応できている	N	0	1	1	2	1	0	0	1	0	0	2	2
	%	0.0%	5.0%	8.3%	3.5%	3.4%	0.0%	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%	3.2%	1.0%
2.対応できている	N	3	3	1	7	6	5	6	17	12	32	19	63
	%	12.0%	15.0%	8.3%	12.3%	20.7%	20.0%	30.0%	23.0%	21.1%	41.0%	30.2%	31.8%
3.不足している	N	15	12	7	34	14	14	7	35	39	39	36	114
	%	60.0%	60.0%	58.3%	59.6%	48.3%	56.0%	35.0%	47.3%	68.4%	50.0%	57.1%	57.6%
4.不足を隣接自治体の資源で補完	N	2	0	1	3	1	0	2	3	4	2	3	9
	%	8.0%	0.0%	8.3%	5.3%	3.4%	0.0%	10.0%	4.1%	7.0%	2.6%	4.8%	4.5%
5.わからない	N	5	4	2	11	7	6	5	18	2	5	3	10
	%	20.0%	20.0%	16.7%	19.3%	24.1%	24.0%	25.0%	24.3%	3.5%	6.4%	4.8%	5.1%
全体	N	25	20	12	57	29	25	20	74	57	78	63	198
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑨介護老人保健施設

		在支診				訪看				居宅			
		①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計
1.十分対応できている	N	0	1	1	2	0	0	0	0	1	0	2	3
	%	0.0%	5.0%	8.3%	3.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	3.2%	1.5%
2.対応できている	N	5	5	1	11	6	7	6	19	20	32	23	75
	%	20.0%	25.0%	8.3%	19.3%	20.7%	28.0%	30.0%	25.7%	35.1%	41.0%	36.5%	37.9%
3.不足している	N	11	9	7	27	15	12	6	33	29	38	32	99
	%	44.0%	45.0%	58.3%	47.4%	51.7%	48.0%	30.0%	44.6%	50.9%	48.7%	50.8%	50.0%
4.不足を隣接自治体の資源で補完	N	3	0	0	3	1	1	3	5	3	2	4	9
	%	12.0%	0.0%	0.0%	5.3%	3.4%	4.0%	15.0%	6.8%	5.3%	2.6%	6.3%	4.5%
5.わからない	N	6	5	3	14	7	5	5	17	4	6	2	12
	%	24.0%	25.0%	25.0%	24.6%	24.1%	20.0%	25.0%	23.0%	7.0%	7.7%	3.2%	6.1%
全体	N	25	20	12	57	29	25	20	74	57	78	63	198
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑩比較的低価格な介護付有料老人ホームやサ高住など

		在支診				訪看				居宅			
	値	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計
1.十分対応できている	N	0	1	1	2	1	1	0	2	2	2	1	5
	%	0.0%	5.0%	8.3%	3.5%	3.4%	4.0%	0.0%	2.7%	3.5%	2.6%	1.6%	2.5%
2.対応できている	N	5	5	0	10	9	5	4	18	5	21	11	37
	%	20.0%	25.0%	0.0%	17.5%	31.0%	20.0%	20.0%	24.3%	8.8%	26.9%	17.5%	18.7%
3.不足している	N	7	9	7	23	11	12	8	31	36	45	41	122
	%	28.0%	45.0%	58.3%	40.4%	37.9%	48.0%	40.0%	41.9%	63.2%	57.7%	65.1%	61.6%
4.不足を隣接自治体の資源で補完	N	2	0	1	3	1	1	2	4	3	0	4	7
	%	8.0%	0.0%	8.3%	5.3%	3.4%	4.0%	10.0%	5.4%	5.3%	0.0%	6.3%	3.5%
5.わからない	N	11	5	3	19	7	6	6	19	11	10	6	27
	%	44.0%	25.0%	25.0%	33.3%	24.1%	24.0%	30.0%	25.7%	19.3%	12.8%	9.5%	13.6%
全体	N	25	20	12	57	29	25	20	74	57	78	63	198
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問７　この市区町村における在宅療養の推進や介護連携のリーダーシップ

①積極的にリーダーシップを発揮しているのは誰か

		在支診				訪看				居宅			
		①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計
1.自治体	N	3			3	1	3	2	6	12	17	12	41
	%	11.1%	0.0%	0.0%	5.0%	3.4%	12.5%	10.0%	8.2%	21.4%	21.3%	19.7%	20.8%
2.医師会	N	15	10	6	31	16	11	10	37	23	32	23	78
	%	55.6%	50.0%	46.2%	51.7%	55.2%	45.8%	50.0%	50.7%	41.1%	40.0%	37.7%	39.6%
3.介護系の職能団体	N	1		1	2	2	1	2	5	4	7	4	15
	%	3.7%	0.0%	7.7%	3.3%	6.9%	4.2%	10.0%	6.8%	7.1%	8.8%	6.6%	7.6%
4.特定の医師や看護師、ｹｱﾏﾈ等の個人	N	6	10	5	21	16	10	6	32	22	38	22	82
	%	22.2%	50.0%	38.5%	35.0%	55.2%	41.7%	30.0%	43.8%	39.3%	47.5%	36.1%	41.6%
5.特定の医療機関や介護施設、法人	N	3	4		7	4	10	4	18	13	16	15	44
	%	11.1%	20.0%	0.0%	11.7%	13.8%	41.7%	20.0%	24.7%	23.2%	20.0%	24.6%	22.3%
6.自治会などの地域住民組織	N					1	1		2		1		1
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.4%	4.2%	0.0%	2.7%	0.0%	1.3%	0.0%	0.5%
7.特に音頭を取っている主体はない	N	2		1	3	1	2	2	5	1	4	4	9
	%	7.4%	0.0%	7.7%	5.0%	3.4%	8.3%	10.0%	6.8%	1.8%	5.0%	6.6%	4.6%
8.その他	N					1	2	1	4	3	2	1	6
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.4%	8.3%	5.0%	5.5%	5.4%	2.5%	1.6%	3.0%
9.わからない	N	8	3	3	14	2	4	3	9	10	9	8	27
	%	29.6%	15.0%	23.1%	23.3%	6.9%	16.7%	15.0%	12.3%	17.9%	11.3%	13.1%	13.7%
全体	N	27	20	13	60	29	24	20	73	56	80	61	197
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問８　市区町村で、自宅看取りに対する希望や件数は増えているか

①在宅療養を希望する人

		在支診				訪看				居宅			
		①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計
増加	N	7	9	6	22	17	16	8	41	29	37	18	84
	%	28.0%	47.4%	50.0%	39.3%	58.6%	66.7%	40.0%	56.2%	50.0%	46.8%	29.5%	42.4%
以前と同じ	N	8	4	4	16	9	6	8	23	18	28	31	77
	%	32.0%	21.1%	33.3%	28.6%	31.0%	25.0%	40.0%	31.5%	31.0%	35.4%	50.8%	38.9%
減少	N	2	0	1	3	0	1	0	1	1	5	7	13
	%	8.0%	0.0%	8.3%	5.4%	0.0%	4.2%	0.0%	1.4%	1.7%	6.3%	11.5%	6.6%
不明	N	8	6	1	15	3	1	4	8	10	9	5	24
	%	32.0%	31.6%	8.3%	26.8%	10.3%	4.2%	20.0%	11.0%	17.2%	11.4%	8.2%	12.1%
全体	N	25	19	12	56	29	24	20	73	58	79	61	198
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

②実際に自宅療養となる人数

		在支診				訪看				居宅			
		①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計
増加	N	9	7	5	21	18	13	9	40	26	34	21	81
	%	36.0%	36.8%	41.7%	37.5%	62.1%	54.2%	45.0%	54.8%	44.8%	43.0%	34.4%	40.9%
以前と同じ	N	8	4	4	16	8	8	6	22	20	35	24	79
	%	32.0%	21.1%	33.3%	28.6%	27.6%	33.3%	30.0%	30.1%	34.5%	44.4%	39.3%	39.9%
減少	N	2	1	0	3	1	1	1	3	3	5	10	18
	%	8.0%	5.3%	0.0%	5.4%	3.4%	4.2%	5.0%	4.1%	5.2%	6.3%	16.4%	9.1%
不明	N	6	7	3	16	2	2	4	8	9	5	6	20
	%	24.0%	36.8%	25.0%	28.6%	6.9%	8.3%	20.0%	11.0%	15.5%	6.3%	9.8%	10.1%
全体	N	25	19	12	56	29	24	20	73	58	79	61	198
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

③自宅看取りを希望する人数

		在支診				訪看				居宅			
		①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計
増加	N	9	8	5	22	15	16	9	40	20	32	20	72
	%	36.0%	42.1%	41.7%	39.3%	53.6%	66.7%	45.0%	55.6%	35.1%	41.0%	32.8%	36.7%
以前と同じ	N	7	2	3	12	10	5	6	21	19	28	25	72
	%	28.0%	10.5%	25.0%	21.4%	35.7%	20.8%	30.0%	29.2%	33.3%	35.9%	41.0%	36.7%
減少	N	2	2	1	5	0	1	1	2	7	10	10	27
	%	8.0%	10.5%	8.3%	8.9%	0.0%	4.2%	5.0%	2.8%	12.3%	12.8%	16.4%	13.8%
不明	N	7	7	3	17	3	2	4	9	11	8	6	25
	%	28.0%	36.8%	25.0%	30.4%	10.7%	8.3%	20.0%	12.5%	19.3%	10.3%	9.8%	12.8%
全体	N	25	19	12	56	28	24	20	72	57	78	61	196
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

④実際に自宅看取りとなる人数

		在支診				訪看				居宅			
		①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計
増加	N	7	5	3	15	13	10	6	29	16	31	17	64
	%	30.4%	27.8%	25.0%	28.3%	48.2%	43.6%	30.0%	41.4%	29.6%	41.9%	30.4%	34.8%
以前と同じ	N	7	7	4	18	9	9	8	26	18	30	21	69
	%	30.4%	38.8%	33.3%	34.0%	33.3%	39.1%	40.0%	37.1%	33.3%	40.5%	37.5%	37.5%
減少	N	3	1	2	6	1	1	3	5	7	7	10	24
	%	13.0%	5.6%	16.7%	11.3%	3.7%	4.3%	15.0%	7.1%	13.0%	9.5%	17.9%	13.0%
不明	N	6	5	3	14	4	3	3	10	13	6	8	27
	%	26.2%	27.8%	25.0%	26.4%	14.8%	13.0%	15.0%	14.3%	24.1%	8.1%	14.3%	14.7%
全体	N	23	18	12	53	27	23	20	70	54	74	56	184
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問９（問 8-④で「1.増加」を選択した場合）自宅看取りの増加に寄与したと思われる市区町村の環境的要因
（寄与したものすべて）

		在支診				訪看				居宅			
		①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計
1.24時間対応可能な在宅医が地域に多いこと	N	5	3	3	11	7	11	3	21	14	30	16	60
	%	71.4%	60.0%	100.0%	73.3%	50.0%	100.0%	42.9%	65.6%	73.7%	81.1%	84.2%	80.0%
2.病院の退院調整が早期かつ丁寧で、連携がよく機能していたこと	N	5	5	2	12	6	5	2	13	8	21	14	43
	%	71.4%	100.0%	66.7%	80.0%	42.9%	45.5%	28.6%	40.6%	42.1%	56.8%	73.7%	57.3%
3.24時間対応可能な訪問看護ステーションが地域に多いこと	N	5	2	2	9	11	9	6	26	15	27	17	59
	%	71.4%	40.0%	66.7%	60.0%	78.6%	81.8%	85.7%	81.3%	78.9%	73.0%	89.5%	78.7%
4.24時間対応可能な訪問介護事業所が地域に多いこと	N	3	0	0	3	0	4	3	7	2	7	5	14
	%	42.9%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	36.4%	42.9%	21.9%	10.5%	18.9%	26.3%	18.7%
5.自宅看取りに習熟しているケアマネジャーが地域に多いこと	N	3	3	1	7	4	1	0	5	6	14	10	30
	%	42.9%	60.0%	33.3%	46.7%	28.6%	9.1%	0.0%	15.6%	31.6%	37.8%	52.6%	40.0%
6.在宅対応型薬局が地域に多いこと	N	2	1	1	4	3	3	1	7	8	11	5	24
	%	28.6%	20.0%	33.3%	26.7%	21.4%	27.3%	14.3%	21.9%	42.1%	29.7%	26.3%	32.0%
7.急変時に受け入れ可能な後方支援病床が地域に多いこと	N	4	2	1	7	4	4	1	9	3	8	3	14
	%	57.1%	40.0%	33.3%	46.7%	28.6%	36.4%	14.3%	28.1%	15.8%	21.6%	15.8%	18.7%
8.看取りの経験豊富な在宅医・訪問看護師が地域に多いこと	N	4	3	2	9	11	9	5	25	14	28	14	56
	%	57.1%	60.0%	66.7%	60.0%	78.6%	81.8%	71.4%	78.1%	73.7%	75.7%	73.7%	74.7%
9.疼痛コントロールが可能な在宅医が地域に多いこと	N	2	2	2	6	8	8	4	20	6	19	8	33
	%	28.6%	40.0%	66.7%	40.0%	57.1%	72.7%	57.1%	62.5%	31.6%	51.4%	42.1%	44.0%
10.医療・介護の多職種連携や相互交流が活発な地域だったこと	N	4	4	1	9	6	6	4	16	5	21	11	37
	%	57.1%	80.0%	33.3%	60.0%	42.9%	54.5%	57.1%	50.0%	26.3%	56.8%	57.9%	49.3%
11.行政が医療介護連携強化（研修や交流の場づくり等）に積極的なこと	N	2	0	1	3	4	4	3	11	6	14	7	27
	%	28.6%	0.0%	33.3%	20.0%	28.6%	36.4%	42.9%	34.4%	31.6%	37.8%	36.8%	36.0%
12.自宅での療養や看取りの文化や認識が昔から一般的な地域であること	N	0	0	0	0	1	0	1	2	1	1	0	2
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	14.3%	6.3%	5.3%	2.7%	0.0%	2.7%
13.自宅療養や看取りに関する住民向け啓発活動が盛んなあ地域であること	N	1	0	1	2	1	0	2	3	1	0	0	1
	%	14.3%	0.0%	33.3%	13.3%	7.1%	0.0%	28.6%	9.4%	5.3%	0.0%	0.0%	1.3%
14.隣近所の互助やボランティア組織による生活支援が充実していること	N	0	0	0	0	1	0	1	2	0	1	0	1
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	14.3%	6.3%	0.0%	2.7%	0.0%	1.3%
15.行政による住宅改修補助等の各種支援施策が充実していること	N	1	0	0	1	0	2	0	2	1	0	6	7
	%	14.3%	0.0%	0.0%	6.7%	0.0%	18.2%	0.0%	6.3%	5.3%	0.0%	31.6%	9.3%
16 その他	N	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計回答者数	N	7	5	3	15	14	11	7	32	19	37	19	75

（特に重要なもの上位３つ）

		在支診				訪看				居宅			
		①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計
1.24時間対応可能な在宅医が地域に多いこと	N	4	2	2	8	8	7	3	18	12	22	13	47
	%	80.0%	40.0%	66.7%	61.5%	61.5%	70.0%	42.9%	60.0%	66.7%	78.6%	72.2%	73.4%
2.病院の退院調整が早期かつ丁寧で、連携がよく機能していたこと	N	3	3	1	7	6	5	4	15	3	5	3	11
	%	60.0%	60.0%	33.3%	53.8%	46.2%	50.0%	57.1%	50.0%	16.7%	17.9%	16.7%	17.2%
3.24時間対応可能な訪問看護ステーションが地域に多いこと	N	5	3	1	9	9	5	5	19	9	20	15	44
	%	100.0%	60.0%	33.3%	69.2%	69.2%	50.0%	71.4%	63.3%	50.0%	71.4%	83.3%	68.8%
4.24時間対応可能な訪問介護事業所が地域に多いこと	N	1	0	0	1	1	3	2	6	1	3	1	5
	%	20.0%	0.0%	0.0%	7.7%	7.7%	30.0%	28.6%	20.0%	5.6%	10.7%	5.6%	7.8%
5.自宅看取りに習熟しているケアマネジャーが地域に多いこと	N	0	2	0	2	1	0	0	1	3	6	6	15
	%	0.0%	40.0%	0.0%	15.4%	7.7%	0.0%	0.0%	3.3%	16.7%	21.4%	33.3%	23.4%
6.在宅対応型薬局が地域に多いこと	N	0	1	1	2	0	0	0	0	2	0	2	4
	%	0.0%	20.0%	33.3%	15.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	11.1%	6.3%
7.急変時に受け入れ可能な後方支援病床が地域に多いこと	N	1	3	1	5	2	0	0	2	2	1	1	4
	%	20.0%	60.0%	33.3%	38.5%	15.4%	0.0%	0.0%	6.7%	11.1%	3.6%	5.6%	6.3%
8.看取りの経験豊富な在宅医・訪問看護師が地域に多いこと	N	1	0	1	2	3	5	3	11	9	16	9	34
	%	20.0%	0.0%	33.3%	15.4%	23.1%	50.0%	42.9%	36.7%	50.0%	57.1%	50.0%	53.1%
9.疼痛コントロールが可能な在宅医が地域に多いこと	N	0	0	1	1	3	4	0	7	4	3	0	7
	%	0.0%	0.0%	33.3%	7.7%	23.1%	40.0%	0.0%	23.3%	22.2%	10.7%	0.0%	10.9%
10.医療・介護の多職種連携や相互交流が活発な地域だったこと	N	0	0	0	0	3	1	1	5	3	6	2	11
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	23.1%	10.0%	14.3%	16.7%	16.7%	21.4%	11.1%	17.2%
11.行政が医療介護連携強化（研修や交流の場づくり等）に積極的なこと	N	0	0	0	0	1	0	0	1	1	1	1	3
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%	3.3%	5.6%	3.6%	5.6%	4.7%
12.自宅での療養や看取りの文化や認識が昔から一般的な地域であること	N	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
13.自宅療養や看取りに関する住民向け啓発活動が盛んなあ地域であること	N	0	1	0	1	1	0	2	3	1	0	0	1
	%	0.0%	20.0%	0.0%	7.7%	7.7%	0.0%	28.6%	10.0%	5.6%	0.0%	0.0%	1.6%
14.隣近所の互助やボランティア組織による生活支援が充実していること	N	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%	0.0%	1.6%
15.行政による住宅改修補助等の各種支援施策が充実していること	N	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%	5.6%	3.1%
16 その他	N	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計回答者数	N	5	5	3	13	13	10	7	30	18	28	18	64

問 5　地域の医療機関・介護サービス等が、地域の在宅療養・在宅看取りの需要に応えられているか

①在宅療養の需要

		在支診			訪看			居宅		
		①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.十分対応できている	N	0	3	3	1	5	6	2	2	4
	%	0.0%	13.0%	7.7%	7.1%	27.8%	18.8%	4.8%	4.5%	4.7%
2.対応できている	N	10	14	24	10	9	19	31	28	59
	%	62.5%	60.9%	61.5%	71.4%	50.0%	59.4%	73.8%	63.6%	68.6%
3.対応できていない	N	4	3	7	2	2	4	7	11	18
	%	25.0%	13.0%	17.9%	14.3%	11.1%	12.5%	16.7%	25.0%	20.9%
4.不明	N	2	3	5	1	2	3	2	3	5
	%	12.5%	13.0%	12.8%	7.1%	11.1%	9.4%	4.8%	6.8%	5.8%
全体	N	16	23	39	14	18	32	42	44	86
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

②在宅看取りの需要

		在支診			訪看			居宅		
		①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.十分対応できている	N	2	4	6	1	4	5	2	3	5
	%	12.5%	17.4%	15.4%	7.1%	22.2%	15.6%	4.8%	6.8%	5.8%
2.対応できている	N	6	12	18	10	12	22	29	24	53
	%	37.5%	52.2%	46.2%	71.4%	66.7%	68.8%	69.0%	54.5%	61.6%
3.対応できていない	N	4	3	7	3		3	9	13	22
	%	25.0%	13.0%	17.9%	21.4%	0.0%	9.4%	21.4%	29.5%	25.6%
4.不明	N	4	4	8		2	2	2	4	6
	%	25.0%	17.4%	20.5%	0.0%	11.1%	6.3%	4.8%	9.1%	7.0%
全体	N	16	23	39	14	18	32	42	44	86
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問 6　在宅療養の推進という観点からの市町村の医療・介護資源の過不足感

①在宅療養支援診療所の数

		在支診			訪看			居宅		
		①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.十分対応できている	N	1	0	1	0	0	0	1	0	1
	%	6.7%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	2.4%	0.0%	1.2%
2.対応できている	N	8	9	17	7	6	13	22	19	41
	%	53.3%	39.1%	44.7%	50.0%	33.3%	40.6%	52.4%	44.2%	48.2%
3.不足している	N	3	10	13	4	10	14	15	20	35
	%	20.0%	43.5%	34.2%	28.6%	55.6%	43.8%	35.7%	46.5%	41.2%
4.不足を隣接自治体の資源で補完	N	0	0	0	2	1	3	3	1	4
	%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	5.6%	9.4%	7.1%	2.3%	4.7%
5.わからない	N	3	4	7	1	1	2	1	3	4
	%	20.0%	17.4%	18.4%	7.1%	5.6%	6.3%	2.4%	7.0%	4.7%
全体	N	15	23	38	14	18	32	42	43	85
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

②24 時間対応の訪問看護ステーションの数

		在支診			訪看			居宅		
		①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.十分対応できている	N	2	1	3	2	0	2	1	0	1
	%	13.3%	4.3%	7.9%	14.3%	0.0%	6.3%	2.4%	0.0%	1.2%
2.対応できている	N	7	9	16	8	9	17	22	17	39
	%	46.7%	39.1%	42.1%	57.1%	50.0%	53.1%	52.4%	38.6%	45.3%
3.不足している	N	3	10	13	3	7	10	16	24	40
	%	20.0%	43.5%	34.2%	21.4%	38.9%	31.3%	38.1%	54.5%	46.5%
4.不足を隣接自治体の資源で補完	N	0	0	0	0	1	1	1	0	1
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	3.1%	2.4%	0.0%	1.2%
5.わからない	N	3	3	6	1	1	2	2	3	5
	%	20.0%	13.0%	15.8%	7.1%	5.6%	6.3%	4.8%	6.8%	5.8%
全体	N	15	23	38	14	18	32	42	44	86
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

③24 時間対応の訪問介護事業所の数

		在支診			訪看			居宅		
		①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.十分対応できている	N	1	0	1	0	0	0	0	0	0
	%	7.1%	0.0%	2.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
2.対応できている	N	6	4	10	2	2	4	2	2	4
	%	42.9%	17.4%	27.0%	14.3%	11.8%	12.9%	4.8%	4.5%	4.7%
3.不足している	N	2	14	16	11	15	26	36	41	77
	%	14.3%	60.9%	43.2%	78.6%	88.2%	83.9%	85.7%	93.2%	89.5%
4.不足を隣接自治体の資源で補完	N	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
5.わからない	N	5	5	10	1	0	1	4	1	5
	%	35.7%	21.7%	27.0%	7.1%	0.0%	3.2%	9.5%	2.3%	5.8%
全体	N	14	23	37	14	17	31	42	44	86
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

④自宅看取りに習熟しているケアマネジャーの数

		在支診			訪看			居宅		
		①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.十分対応できている	N	2	0	2	0	0	0	0	0	0
	%	13.3%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
2.対応できている	N	4	7	11	4	4	8	10	13	23
	%	26.7%	30.4%	28.9%	28.6%	22.2%	25.0%	23.8%	29.5%	26.7%
3.不足している	N	4	10	14	9	11	20	21	19	40
	%	26.7%	43.5%	36.8%	64.3%	61.1%	62.5%	50.0%	43.2%	46.5%
4.不足を隣接自治体の資源で補完	N	0	0	0	1	0	1	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%
5.わからない	N	5	6	11	0	3	3	11	12	23
	%	33.3%	26.1%	28.9%	0.0%	16.7%	9.4%	26.2%	27.3%	26.7%
全体	N	20	31	51	21	21	42	64	56	120
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑤レスパイト施設の数

		在支診			訪看			居宅		
		①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.十分対応できている	N	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.5%	0.0%	1.2%
2.対応できている	N	0	5	5	0	4	4	8	8	16
	%	0.0%	22.7%	13.9%	0.0%	22.2%	12.5%	20.0%	18.2%	19.0%
3.不足している	N	7	10	17	13	11	24	23	33	56
	%	50.0%	45.5%	47.2%	92.9%	61.1%	75.0%	57.5%	75.0%	66.7%
4.不足を隣接自治体の資源で補完	N	0	0	0	0	1	1	2	0	2
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	3.1%	5.0%	0.0%	2.4%
5.わからない	N	7	7	14	1	2	3	6	3	9
	%	50.0%	31.8%	38.9%	7.1%	11.1%	9.4%	15.0%	6.8%	10.7%
全体	N	14	22	36	14	18	32	40	44	84
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑥病院の退院調整機能

		在支診			訪看			居宅		
		①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.十分対応できている	N	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
2.対応できている	N	2	8	10	3	8	11	15	23	38
	%	13.3%	34.8%	26.3%	23.1%	44.4%	35.5%	35.7%	53.5%	44.7%
3.不足している	N	7	9	16	10	6	16	18	15	33
	%	46.7%	39.1%	42.1%	76.9%	33.3%	51.6%	42.9%	34.9%	38.8%
4.不足を隣接自治体の資源で補完	N	0	0	0	0	1	1	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%
5.わからない	N	6	6	12	0	3	3	9	5	14
	%	40.0%	26.1%	31.6%	0.0%	16.7%	9.7%	21.4%	11.6%	16.5%
全体	N	15	23	38	13	18	31	42	43	85
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑦急変時に受入可能なバックベッドの数

		在支診			訪看			居宅		
		①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.十分対応できている	N	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
2.対応できている	N	1	8	9	2	6	8	4	10	14
	%	6.7%	34.8%	23.7%	14.3%	33.3%	25.0%	10.0%	23.8%	17.1%
3.不足している	N	10	10	20	11	7	18	28	26	54
	%	66.7%	43.5%	52.6%	78.6%	38.9%	56.3%	70.0%	61.9%	65.9%
4.不足を隣接自治体の資源で補完	N	0	0	0	1	1	2	0	1	1
	%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	5.6%	6.3%	0.0%	2.4%	1.2%
5.わからない	N	4	5	9	0	4	4	8	5	13
	%	26.7%	21.7%	23.7%	0.0%	22.2%	12.5%	20.0%	11.9%	15.9%
全体	N	19	32	51	21	21	42	62	53	115
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑧特別養護老人ホーム

		在支診			訪看			居宅		
		①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.十分対応できている	N	0	0	0	1	0	1	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%
2.対応できている	N	4	6	10	3	6	9	9	17	26
	%	25.0%	26.1%	25.6%	21.4%	33.3%	28.1%	22.5%	39.5%	31.3%
3.不足している	N	4	14	18	8	8	16	26	24	50
	%	25.0%	60.9%	46.2%	57.1%	44.4%	50.0%	65.0%	55.8%	60.2%
4.不足を隣接自治体の資源で補完	N	1	0	1	1	0	1	1	1	2
	%	6.3%	0.0%	2.6%	7.1%	0.0%	3.1%	2.5%	2.3%	2.4%
5.わからない	N	7	3	10	1	4	5	4	1	5
	%	43.8%	13.0%	25.6%	7.1%	22.2%	15.6%	10.0%	2.3%	6.0%
全体	N	16	23	39	14	18	32	40	43	83
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑨介護老人保健施設

		在支診			訪看			居宅		
		①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.十分対応できている	N	0	0	0	0	0	0	1	1	2
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.4%	2.3%	2.4%
2.対応できている	N	4	10	14	3	4	7	18	21	39
	%	26.7%	43.5%	36.8%	23.1%	22.2%	22.6%	43.9%	48.8%	46.4%
3.不足している	N	6	9	15	8	12	20	19	17	36
	%	40.0%	39.1%	39.5%	61.5%	66.7%	64.5%	46.3%	39.5%	42.9%
4.不足を隣接自治体の資源で補完	N	0	0	0	1	0	1	1	2	3
	%	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	0.0%	3.2%	2.4%	4.7%	3.6%
5.わからない	N	5	4	9	1	2	3	2	2	4
	%	33.3%	17.4%	23.7%	7.7%	11.1%	9.7%	4.9%	4.7%	4.8%
全体	N	15	23	38	13	18	31	41	43	84
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑩比較的低価格な介護付有料老人ホームやサ高住など

		在支診			訪看			居宅		
		①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.十分対応できている	N		2	2				2	1	3
	%	0.0%	8.7%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	4.8%	2.3%	3.5%
2.対応できている	N	6	3	9	6	4	10	16	8	24
	%	40.0%	13.0%	23.7%	42.9%	22.2%	31.3%	38.1%	18.6%	28.2%
3.不足している	N	4	13	17	6	9	15	21	30	51
	%	26.7%	56.5%	44.7%	42.9%	50.0%	46.9%	50.0%	69.8%	60.0%
4.不足を隣接自治体の資源で補完	N					1	1	1	1	2
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	3.1%	2.4%	2.3%	2.4%
5.わからない	N	5	5	10	2	4	6	2	3	5
	%	33.3%	21.7%	26.3%	14.3%	22.2%	18.8%	4.8%	7.0%	5.9%
全体	N	15	23	38	14	18	32	42	43	85
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問７　この市区町村における在宅療養の推進や介護連携のリーダーシップ

①積極的にリーダーシップを発揮しているのは誰か

		在支診			訪看			居宅		
		①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.自治体	N	4	3	7	8	3	11	14	7	21
	%	25.0%	13.0%	17.9%	57.1%	17.6%	35.5%	33.3%	16.3%	24.7%
2.医師会	N	13	12	25	7	7	14	17	23	40
	%	81.3%	52.2%	64.1%	50.0%	41.2%	45.2%	40.5%	53.5%	47.1%
3.介護系の職能団体	N	2		2	1	1	2	2	4	6
	%	12.5%	0.0%	5.1%	7.1%	5.9%	6.5%	4.8%	9.3%	7.1%
4.特定の医師や看護師、ｹｱﾏﾈ等の個人	N	4	9	13	4	12	16	24	15	39
	%	25.0%	39.1%	33.3%	28.6%	70.6%	51.6%	57.1%	34.9%	45.9%
5.特定の医療機関や介護施設、法人	N	3	3	6	3	3	6	14	12	26
	%	18.8%	13.0%	15.4%	21.4%	17.6%	19.4%	33.3%	27.9%	30.6%
6.自治会などの地域住民組織	N								1	1
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	1.2%
7.特に音頭を取っている主体はない	N	1	1	2	2		2	2	1	3
	%	6.3%	4.3%	5.1%	14.3%	0.0%	6.5%	4.8%	2.3%	3.5%
8.その他	N		1	1	2	4	6		4	4
	%	0.0%	4.3%	2.6%	14.3%	23.5%	19.4%	0.0%	9.3%	4.7%
9.わからない	N	1	2	3	1	1	2	4		4
	%	6.3%	8.7%	7.7%	7.1%	5.9%	6.5%	9.5%	0.0%	4.7%
全体	N	16	23	39	14	17	31	42	43	85
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問８　市区町村で、自宅看取りに対する希望や件数は増えているか

①自宅療養を希望する人

		在支診			訪看			居宅		
		①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
増加	N	6	4	10	6	5	11	17	16	33
	%	37.5%	17.4%	25.6%	46.2%	29.4%	36.7%	40.5%	37.2%	38.8%
以前と同じ	N	7	7	14	6	10	16	16	16	32
	%	43.8%	30.4%	35.9%	46.2%	58.8%	53.3%	38.1%	37.2%	37.6%
減少	N		4	4		2	2	6	7	13
	%	0.0%	17.4%	10.3%	0.0%	11.8%	6.7%	14.3%	16.3%	15.3%
不明	N	3	8	11	1		1	3	4	7
	%	18.8%	34.8%	28.2%	7.7%	0.0%	3.3%	7.1%	9.3%	8.2%
全体	N	16	23	39	13	17	30	42	43	85
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

②実際に自宅療養となる人数

		在支診			訪看			居宅		
		①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
増加	N	4	3	7	5	5	10	15	14	29
	%	25.0%	13.0%	17.9%	38.5%	31.3%	34.5%	35.7%	32.6%	34.1%
以前と同じ	N	9	10	19	7	9	16	16	18	34
	%	56.3%	43.5%	48.7%	53.8%	56.1%	55.2%	38.1%	41.9%	40.0%
減少	N		3	3		1	1	9	7	16
	%	0.0%	13.0%	7.7%	0.0%	6.3%	3.4%	21.4%	16.3%	18.8%
不明	N	3	7	10	1	1	2	2	4	6
	%	18.8%	30.4%	25.6%	7.7%	6.3%	6.9%	4.8%	9.3%	7.1%
全体	N	16	23	39	13	16	29	42	43	85
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

③自宅看取りを希望する人数

		在支診			訪看			居宅		
		①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
増加	N	2	2	4	5	4	9	13	14	27
	%	12.5%	8.7%	10.3%	38.5%	25.0%	31.0%	31.0%	32.6%	31.8%
以前と同じ	N	10	9	19	5	9	14	15	16	31
	%	62.5%	39.1%	48.7%	38.5%	56.3%	48.3%	35.7%	37.2%	36.5%
減少	N	1	4	5	2	1	3	10	7	17
	%	6.3%	17.4%	12.8%	15.4%	6.3%	10.3%	23.8%	16.3%	20.0%
不明	N	3	8	11	1	2	3	4	6	10
	%	18.8%	34.8%	28.2%	7.7%	12.5%	10.3%	9.5%	14.0%	11.8%
全体	N	16	23	39	13	16	29	42	43	85
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

④実際に自宅看取りとなる人数

		在支診			訪看			居宅		
		①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
増加	N	2	1	3	5	4	9	12	14	26
	%	13.3%	4.3%	7.9%	35.7%	25.0%	30.0%	32.5%	35.9%	34.2%
以前と同じ	N	7	8	15	6	10	16	11	10	21
	%	46.7%	34.8%	39.5%	42.9%	62.5%	53.3%	29.7%	25.7%	27.6%
減少	N	2	7	9	2	1	3	10	8	18
	%	13.3%	30.4%	23.7%	14.3%	6.3%	10.0%	27.0%	20.5%	23.7%
不明	N	4	7	11	1	1	2	4	7	11
	%	26.7%	30.4%	28.9%	7.1%	6.3%	6.7%	10.8%	17.9%	14.5%
全体	N	15	23	38	14	16	30	37	39	76
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問 9（問 8-④で「1. 増加」を選択した場合）自宅看取りの増加に寄与したと思われる市区町村の環境的要因
（寄与したものすべて）

		在支診			訪看			居宅		
		①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1. 24 時間対応可能な在宅医が地域に多いこと	N	1	1	2	5	4	9	11	9	20
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	80.0%	90.0%	78.6%	60.0%	69.0%
2. 病院の退院調整が早期かつ丁寧で、連携がよく機能していたこと	N	1	0	1	2	3	5	10	12	22
	%	100.0%	0.0%	50.0%	40.0%	60.0%	50.0%	71.4%	80.0%	75.9%
3. 24 時間対応可能な訪問看護ステーションが地域に多いこと	N	1	1	2	5	4	9	9	10	19
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	80.0%	90.0%	64.3%	66.7%	65.5%
4. 24 時間対応可能な訪問介護事業所が地域に多いこと	N	0	0	0	1	0	1	1	1	2
	%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	10.0%	7.1%	6.7%	6.9%
5. 自宅看取りに習熟しているケアマネジャーが地域に多いこと	N	0	1	1	2	2	4	4	3	7
	%	0.0%	100.0%	50.0%	40.0%	40.0%	40.0%	28.6%	20.0%	24.1%
6. 在宅対応型薬局が地域に多いこと	N	1	1	2	2	2	4	4	4	8
	%	100.0%	100.0%	100.0%	40.0%	40.0%	40.0%	28.6%	26.7%	27.6%
7. 急変時に受け入れ可能な後方支援病床が地域に多いこと	N	1	0	1	3	3	6	4	5	9
	%	100.0%	0.0%	50.0%	60.0%	60.0%	60.0%	28.6%	33.3%	31.0%
8. 看取りの経験豊富な在宅医・訪問看護師が地域に多いこと	N	1	1	2	2	3	5	9	13	22
	%	100.0%	100.0%	100.0%	40.0%	60.0%	50.0%	64.3%	86.7%	75.9%
9. 疼痛コントロールが可能な在宅医が地域に多いこと	N	0	0	0	1	2	3	5	3	8
	%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	40.0%	30.0%	35.7%	20.0%	27.6%
10. 医療・介護の多職種連携や相互交流が活発な地域だったこと	N	0	1	1	2	1	3	8	9	17
	%	0.0%	100.0%	50.0%	40.0%	20.0%	30.0%	57.1%	60.0%	58.6%
11. 行政が医療介護連携強化（研修や交流の場づくり等）に積極的なこと	N	0	1	1	2	1	3	5	5	10
	%	0.0%	100.0%	50.0%	40.0%	20.0%	30.0%	35.7%	33.3%	34.5%
12. 自宅での療養や看取りの文化や認識が昔から一般的な地域であること	N	0	0	0	1	0	1	2	0	2
	%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	10.0%	14.3%	0.0%	6.9%
13. 自宅療養や看取りに関する住民向け啓発活動が盛んなあ地域であること	N	0	0	0	0	1	1	0	2	2
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	10.0%	0.0%	13.3%	6.9%
14. 隣近所の互助やボランティア組織による生活支援が充実していること	N	0	1	1	0	0	0	0	0	0
	%	0.0%	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
15. 行政による住宅改修補助等の各種支援施策が充実していること	N	0	0	0	0	0	0	1	1	2
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	6.7%	6.9%
16 その他	N	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	3.4%
合計回答者数	N	1	1	2	5	5	10	14	15	29

（特に重要なもの上位３つ）

		在支診			訪看			居宅		
		①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.24時間対応可能な在宅医が地域に多いこと	N	1	0	1	3	3	6	9	8	17
	%	100.0%	0.0%	33.3%	60.0%	50.0%	54.5%	69.2%	53.3%	60.7%
2.病院の退院調整が早期かつ丁寧で、連携がよく機能していたこと	N	0	0	0	1	3	4	3	6	9
	%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	50.0%	36.4%	23.1%	40.0%	32.1%
3.24時間対応可能な訪問看護ステーションが地域に多いこと	N	1	1	2	4	3	7	8	8	16
	%	100.0%	50.0%	66.7%	80.0%	50.0%	63.6%	61.5%	53.3%	57.1%
4.24時間対応可能な訪問介護事業所が地域に多いこと	N	0	0	0	1	0	1	2	1	3
	%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	9.1%	15.4%	6.7%	10.7%
5.自宅看取りに習熟しているケアマネジャーが地域に多いこと	N	0	1	1	0	3	3	1	0	1
	%	0.0%	50.0%	33.3%	0.0%	50.0%	27.3%	7.7%	0.0%	3.6%
6.在宅対応型薬局が地域に多いこと	N	0	1	1	0	0	0	0	0	0
	%	0.0%	50.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
7.急変時に受け入れ可能な後方支援病床が地域に多いこと	N	1	0	1	1	1	2	0	4	4
	%	100.0%	0.0%	33.3%	20.0%	16.7%	18.2%	0.0%	26.7%	14.3%
8.看取りの経験豊富な在宅医・訪問看護師が地域に多いこと	N	0	1	1	2	3	5	5	11	16
	%	0.0%	50.0%	33.3%	40.0%	50.0%	45.5%	38.5%	73.3%	57.1%
9.疼痛コントロールが可能な在宅医が地域に多いこと	N	0	0	0	0	1	1	1	0	1
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	9.1%	7.7%	0.0%	3.6%
10.医療・介護の多職種連携や相互交流が活発な地域だったこと	N	0	2	2	2	0	2	4	5	9
	%	0.0%	100.0%	66.7%	40.0%	0.0%	18.2%	30.8%	33.3%	32.1%
11.行政が医療介護連携強化（研修や交流の場づくり等）に積極的なこと	N	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	3.6%
12.自宅での療養や看取りの文化や認識が昔から一般的な地域であること	N	0	0	0	1	0	1	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%
13.自宅療養や看取りに関する住民向け啓発活動が盛んなあ地域であること	N	0	0	0	0	1	1	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%
14.隣近所の互助やボランティア組織による生活支援が充実していること	N	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
15.行政による住宅改修補助等の各種支援施策が充実していること	N	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	0.0%	3.6%
16 その他	N	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	3.6%
合計回答者数	N	1	2	3	5	6	11	13	15	28

【B-1 票】

問１　基本情報

①性別

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
男性	N	186	41	68	295	37	49	40	126	26	27	53
	%	54.4%	53.9%	48.9%	53.0%	42.0%	47.6%	53.3%	47.4%	49.1%	41.5%	44.9%
女性	N	156	35	71	262	51	54	35	140	27	38	65
	%	45.6%	46.1%	51.1%	47.0%	58.0%	52.4%	46.7%	52.6%	50.9%	58.5%	55.1%
合計	N	342	76	139	557	88	103	75	266	53	65	118
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

②年齢

②-1 退院時の年齢

	全国			横浜			任意抽出	
	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	③低水準市	②中水準横浜	③低水準横浜	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出
度数	320	70	134	81	99	71	49	63
中央値	83.00	84.00	87.00	85.00	84.00	84.00	80.00	86.00
平均値	83.43	83.71	86.66	83.91	84.45	83.99	80.41	84.60
標準偏差	8.07	8.58	7.33	10.51	8.29	7.28	11.56	8.58
最小値	50	65	64	28	64	63	40	55
最大値	101	109	106	100	102	102	100	102

②-1 看取り時の年齢

	全国			横浜			任意抽出	
	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出
度数	330	71	137	86	101	72	50	64
中央値	84.00	85.00	88.00	86.00	84.00	84.50	82.50	86.50
平均値	84.41	84.25	87.36	85.00	85.59	84.60	81.84	85.25
標準偏差	8.17	8.75	7.33	10.36	8.41	7.41	12.09	8.74
最小値	51	66	66	28	64	63	40	55
最大値	103	109	106	100	102	103	100	102

③退院後に戻った本人の自宅の状況

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
本人持家・戸建住宅	N	249	68	119	436	63	74	54	191	36	61	97
	%	73.2%	90.7%	86.2%	78.8%	72.4%	71.2%	72.0%	71.8%	67.9%	93.8%	82.2%
本人持家・マンション等集合住宅	N	38	3	6	47	11	14	10	35	8	0	8
	%	11.2%	4.0%	4.3%	8.5%	12.6%	13.5%	13.3%	13.2%	15.1%	0.0%	6.8%
本人賃貸・戸建住宅	N	4	0	4	8	2	0	0	2	2	0	2
	%	1.2%	0.0%	2.9%	1.4%	2.3%	0.0%	0.0%	0.8%	3.8%	0.0%	1.7%
本人賃貸・アパート等集合住宅	N	48	4	9	61	11	16	11	38	7	4	11
	%	14.1%	5.3%	6.5%	11.0%	12.6%	15.4%	14.7%	14.3%	13.2%	6.2%	9.3%
不明	N	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	%	0.3%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	N	340	75	138	553	87	104	75	266	53	65	118
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

④自宅のバリアフリー状況

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
玄関までの通路や屋内生活導線中に段差がない	N	76	8	17	101	17	19	24	60	8	7	15
	%	23.4%	10.8%	12.5%	18.9%	20.0%	19.6%	32.9%	24.8%	16.0%	10.9%	13.2%
玄関までの通路や屋内生活導線中に段差がある	N	249	66	119	434	68	78	49	182	42	57	99
	%	76.6%	89.2%	87.5%	81.1%	80.0%	80.4%	67.1%	75.2%	84.0%	89.1%	86.8%
合計	N	325	74	136	535	85	97	73	242	50	64	114
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問２　退院時～自宅復帰時の情報

問２−１　病状・病態について

①在宅サービス提供のきっかけとなった入院の、原因となっていた主傷病名

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.感染症および寄生中症	N	3	0	0	3	4	2	2	8	0	0	0
	%	0.9%	0.0%	0.0%	0.5%	4.7%	2.0%	2.7%	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%
2.新生物	N	93	24	31	148	19	27	16	62	16	12	28
	%	27.7%	32.4%	22.0%	26.9%	22.1%	27.0%	21.3%	23.8%	29.6%	18.8%	23.7%
3.血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	N	5	2	1	8	0	1	1	2	2	2	4
	%	1.5%	2.7%	0.7%	1.5%	0.0%	1.0%	1.3%	0.8%	3.7%	3.1%	3.4%
4.内分泌、栄養および代謝疾患	N	3	2	6	11	5	2	1	8	0	1	1
	%	0.9%	2.7%	4.3%	2.0%	5.8%	2.0%	1.3%	3.1%	0.0%	1.6%	0.8%
5.精神および行動の障害	N	8	2	2	12	0	2	1	3	1	2	3
	%	2.4%	2.7%	1.4%	2.2%	0.0%	2.0%	1.3%	1.1%	1.9%	3.1%	2.5%
6.神経系の疾患	N	12	2	2	16	1	1	3	5	0	1	1
	%	3.6%	2.7%	1.4%	2.9%	1.2%	1.0%	4.0%	1.9%	0.0%	1.6%	0.8%
7.眼および付属器の疾患、耳および乳様突起の疾患	N	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
8.循環器系の疾患	N	16	4	12	32	6	6	4	16	4	4	8
	%	4.8%	5.4%	8.5%	5.8%	7.0%	6.0%	5.3%	6.1%	7.4%	6.3%	6.8%
9.呼吸器系の疾患	N	28	3	10	41	13	8	2	23	7	1	8
	%	8.3%	4.1%	7.1%	7.4%	15.1%	8.0%	2.7%	8.8%	13.0%	1.6%	6.8%
10.消化器系の疾患	N	12	2	5	19	3	3	0	6	1	0	1
	%	3.6%	2.7%	3.5%	3.4%	3.5%	3.0%	0.0%	2.3%	1.9%	0.0%	0.8%
11.皮膚および皮下組織の疾患	N	2	0	0	2	3	1	1	5	1	1	2
	%	0.6%	0.0%	0.0%	0.4%	3.5%	1.0%	1.3%	1.9%	1.9%	1.6%	1.7%
12.筋骨格系および結合組織の疾患	N	4	0	0	4	0	3	0	3	0	1	1
	%	1.2%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	3.0%	0.0%	1.1%	0.0%	1.6%	0.8%
13.腎尿路性器系の疾患	N	9	3	3	15	1	0	3	4	2	2	4
	%	2.7%	4.1%	2.1%	2.7%	1.2%	0.0%	4.0%	1.5%	3.7%	3.1%	3.4%
14.損傷、中毒およびその他の外因の影響	N	2	0	2	4	0	2	1	3	0	0	0
	%	0.6%	0.0%	1.4%	0.7%	0.0%	2.0%	1.3%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%
15.その他	N	15	1	4	20	3	3	2	8	3	5	8
	%	4.5%	1.4%	2.8%	3.6%	3.5%	3.0%	2.7%	3.1%	5.6%	7.8%	6.8%
16.悪性新生物	N	126	23	48	197	22	27	33	82	20	22	42
	%	37.5%	31.1%	34.0%	35.8%	25.6%	27.0%	44.0%	31.4%	37.0%	34.4%	35.6%
17.認知症	N	3	0	4	7	3	2	2	7	0	2	2
	%	0.9%	0.0%	2.8%	1.3%	3.5%	2.0%	2.7%	2.7%	0.0%	3.1%	1.7%
18.パーキンソン病・パーキンソン病関連疾患	N	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0
	%	0.9%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
19.脳卒中	N	10	4	5	19	4	1	1	6	1	6	7
	%	3.0%	5.4%	3.5%	3.4%	4.7%	1.0%	1.3%	2.3%	1.9%	9.4%	5.9%
20.急性心筋梗塞または狭心症	N	2	0	2	4	1	0	2	3	1	0	1
	%	0.6%	0.0%	1.4%	0.7%	1.2%	0.0%	2.7%	1.1%	1.9%	0.0%	0.8%
21.急性心不全	N	10	1	4	15	4	5	3	12	1	1	2
	%	3.0%	1.4%	2.8%	2.7%	4.7%	5.0%	4.0%	4.6%	1.9%	1.6%	1.7%
22.肺炎（誤嚥性肺炎を含む）	N	15	3	6	24	5	10	5	20	5	7	12
	%	4.5%	4.1%	4.3%	4.4%	5.8%	10.0%	6.7%	7.7%	9.3%	10.9%	10.2%
23.COPD	N	8	2	1	11	2	4	1	7	0	1	1
	%	2.4%	2.7%	0.7%	2.0%	2.3%	4.0%	1.3%	2.7%	0.0%	1.6%	0.8%
24.胆のう炎・胆管炎	N	3	2	4	9	0	0	0	0	0	0	0
	%	0.9%	2.7%	2.8%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
25.イレウス	N	0	0	1	1	0	1	0	1	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.7%	0.2%	0.0%	1.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%
26.尿路感染症	N	5	1	3	9	1	0	1	2	0	1	1
	%	1.5%	1.4%	2.1%	1.6%	1.2%	0.0%	1.3%	0.8%	0.0%	1.6%	0.8%
27.下肢・骨盤の骨折	N	7	2	1	10	3	4	1	8	1	0	1
	%	2.1%	2.7%	0.7%	1.8%	3.5%	4.0%	1.3%	3.1%	1.9%	0.0%	0.8%
28.以外の骨折	N	6	0	3	9	0	1	1	2	0	1	1
	%	1.8%	0.0%	2.1%	1.6%	0.0%	1.0%	1.3%	0.8%	0.0%	1.6%	0.8%
合計回答者数		336	74	141	551	86	100	75	261	54	64	118

②退院後、自宅復帰に必要な医療

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.インシュリン等自己注射	N	14	2	8	24	5	3	2	10	2	0	2
	%	4.9%	3.1%	6.8%	5.2%	7.5%	3.4%	2.9%	4.5%	4.3%	0.0%	2.1%
2.中心静脈栄養	N	33	6	21	60	7	8	12	27	9	8	17
	%	11.7%	9.2%	17.9%	12.9%	10.4%	9.1%	17.4%	12.1%	19.6%	15.7%	17.5%
3.経鼻胃管栄養	N	5	0	1	6	4	2	0	6	1	4	5
	%	1.8%	0.0%	0.9%	1.3%	6.0%	2.3%	0.0%	2.7%	2.2%	7.8%	5.2%
4.透析（血液・腹膜）	N	5	0	0	5	1	0	0	1	0	0	0
	%	1.8%	0.0%	0.0%	1.1%	1.5%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%
5.胃ろう、腸ろう	N	19	5	8	32	3	4	4	11	3	6	9
	%	6.7%	7.7%	6.8%	6.9%	4.5%	4.5%	5.8%	4.9%	6.5%	11.8%	9.3%
6.人工肛門	N	14	4	6	24	1	8	3	12	2	1	3
	%	4.9%	6.2%	5.1%	5.2%	1.5%	9.1%	4.3%	5.4%	4.3%	2.0%	3.1%
7.酸素療法	N	69	14	26	109	17	24	9	50	12	5	17
	%	24.4%	21.5%	22.2%	23.4%	25.4%	27.3%	13.0%	22.3%	26.1%	9.8%	17.5%
8.気管切開の処置	N	5	1	3	9	0	1	0	1	1	0	1
	%	1.8%	1.5%	2.6%	1.9%	0.0%	1.1%	0.0%	0.4%	2.2%	0.0%	1.0%
9.人工呼吸器の管理	N	9	2	3	14	1	1	4	6	2	0	2
	%	3.2%	3.1%	2.6%	3.0%	1.5%	1.1%	5.8%	2.7%	4.3%	0.0%	2.1%
10.疼痛管理	N	95	28	48	171	19	38	27	84	20	21	41
	%	33.6%	43.1%	41.0%	36.8%	28.4%	43.2%	39.1%	37.5%	43.5%	41.2%	42.3%
11.褥瘡の管理	N	79	16	27	122	20	21	24	65	11	18	29
	%	27.9%	24.6%	23.1%	26.2%	29.9%	23.9%	34.8%	29.0%	23.9%	35.3%	29.9%
12.リハビリ	N	39	6	21	66	9	15	12	36	6	6	12
	%	13.8%	9.2%	17.9%	14.2%	13.4%	17.0%	17.4%	16.1%	13.0%	11.8%	12.4%
13.留置カテーテル	N	45	17	20	82	15	19	15	49	9	10	19
	%	15.9%	26.2%	17.1%	17.6%	22.4%	21.6%	21.7%	21.9%	19.6%	19.6%	19.6%
14.喀痰吸引	N	65	14	31	110	17	16	17	50	5	16	21
	%	23.0%	21.5%	26.5%	23.7%	25.4%	18.2%	24.6%	22.3%	10.9%	31.4%	21.6%
15.輸血	N	9	1	2	12	0	0	1	1	1	0	1
	%	3.2%	1.5%	1.7%	2.6%	0.0%	0.0%	1.4%	0.4%	2.2%	0.0%	1.0%
16.その他	N	19	5	9	33	8	6	7	21	2	4	6
	%	6.7%	7.7%	7.7%	7.1%	11.9%	6.8%	10.1%	9.4%	4.3%	7.8%	6.2%
合計回答者数		283	65	117	465	67	88	69	224	46	51	97

③-1 認知症の状況

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
認知症なし	N	163	41	62	266	32	58	40	130	31	27	58
	%	48.7%	53.9%	44.3%	48.3%	37.6%	56.3%	53.3%	49.4%	59.6%	44.3%	51.3%
認知症あり	N	172	35	78	285	53	45	35	133	21	34	55
	%	51.3%	46.1%	55.7%	51.7%	62.4%	43.7%	46.7%	50.6%	40.4%	55.7%	48.7%
合計	N	335	76	140	551	85	103	75	263	52	61	113
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

③-2 認知症生活自立度の状況

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
自立	N	54	12	20	86	10	17	12	39	5	5	10
	%	20.8%	23.5%	18.9%	20.7%	15.2%	22.7%	23.1%	20.2%	13.9%	10.6%	12.0%
Ⅰ	N	34	7	15	56	4	15	3	22	10	8	18
	%	13.1%	13.7%	14.2%	13.5%	6.1%	20.0%	5.8%	11.4%	27.8%	17.0%	21.7%
Ⅱb	N	24	2	9	35	6	4	5	15	4	3	7
	%	9.3%	3.9%	8.5%	8.4%	9.1%	5.3%	9.6%	7.8%	11.1%	6.4%	8.4%
Ⅱb	N	38	7	16	61	7	11	5	23	4	9	13
	%	14.7%	13.7%	15.1%	14.7%	10.6%	14.7%	9.6%	11.9%	11.1%	19.1%	15.7%
Ⅲa	N	42	9	12	63	9	9	14	32	6	4	10
	%	16.2%	17.6%	11.3%	15.1%	13.6%	12.0%	26.9%	16.6%	16.7%	8.5%	12.0%
Ⅲb	N	19	4	11	34	11	4	5	20	1	4	5
	%	7.3%	7.8%	10.4%	8.2%	16.7%	5.3%	9.6%	10.4%	2.8%	8.5%	6.0%
Ⅳ	N	35	7	21	63	13	13	3	29	5	8	13
	%	13.5%	13.7%	19.8%	15.1%	19.7%	17.3%	5.8%	15.0%	13.9%	17.0%	15.7%
M	N	9	1	2	12	4	2	4	10	1	5	6
	%	3.5%	2.0%	1.9%	2.9%	6.1%	2.7%	7.7%	5.2%	2.8%	10.6%	7.2%
不明	N	4	2	0	6	2	0	1	3	0	1	1
	%	1.5%	3.9%	0.0%	1.4%	3.0%	0.0%	1.9%	1.6%	0.0%	2.1%	1.2%
合計	N	259	51	106	416	66	75	52	193	36	47	83
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

④退院後、自宅での療養を開始した際の要介護度

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
要支援１	N	6	2	0	8	1	1	2	4	0	1	1
	%	1.8%	2.8%	0.0%	1.5%	1.2%	1.0%	2.8%	1.6%	0.0%	1.5%	0.9%
要支援２	N	7	0	3	10	1	4	4	9	1	3	4
	%	2.1%	0.0%	2.2%	1.9%	1.2%	4.0%	5.6%	3.5%	2.0%	4.6%	3.4%
要介護１	N	26	4	12	42	6	12	6	24	4	9	13
	%	7.9%	5.6%	8.9%	7.9%	7.2%	11.9%	8.5%	9.4%	7.8%	13.8%	11.2%
要介護２	N	49	18	21	88	13	14	11	38	8	8	16
	%	14.9%	25.4%	15.6%	16.5%	15.7%	13.9%	15.5%	14.9%	15.7%	12.3%	13.8%
要介護３	N	59	11	28	98	13	12	16	41	8	7	15
	%	18.0%	15.5%	20.7%	18.4%	15.7%	11.9%	22.5%	16.1%	15.7%	10.8%	12.9%
要介護４	N	67	16	23	106	19	28	12	59	14	13	27
	%	20.4%	22.5%	17.0%	19.9%	22.9%	27.7%	16.9%	23.1%	27.5%	20.0%	23.3%
要介護５	N	109	18	44	171	28	29	20	77	16	24	40
	%	33.2%	25.4%	32.6%	32.0%	33.7%	28.7%	28.2%	30.2%	31.4%	36.9%	34.5%
非該当	N	5	2	4	11	2	1	0	3	0	0	0
	%	1.5%	2.8%	3.0%	2.1%	2.4%	1.0%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	N	328	71	135	534	83	101	71	255	51	65	116
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑤同時点での障害高齢者の日常生活自立度

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
自立	N	11	2	4	17	2	4	1	7	0	1	1
	%	3.3%	2.7%	3.0%	3.1%	2.4%	4.0%	1.4%	2.7%	0.0%	1.6%	0.9%
J1	N	7	0	3	10	1	3	6	10	1	0	1
	%	2.1%	0.0%	2.2%	1.8%	1.2%	3.0%	8.6%	3.9%	1.9%	0.0%	0.9%
J2	N	21	4	6	31	1	5	1	7	5	4	9
	%	6.3%	5.5%	4.4%	5.7%	1.2%	5.0%	1.4%	2.7%	9.6%	6.3%	7.8%
A1	N	19	2	3	24	2	6	4	12	0	2	2
	%	5.7%	2.7%	2.2%	4.4%	2.4%	5.9%	5.7%	4.7%	0.0%	3.2%	1.7%
A2	N	45	7	14	66	11	12	8	31	12	7	19
	%	13.5%	9.6%	10.4%	12.2%	12.9%	11.9%	11.4%	12.1%	23.1%	11.1%	16.5%
B1	N	46	10	19	75	17	9	12	38	4	4	8
	%	13.8%	13.7%	14.1%	13.8%	20.0%	8.9%	17.1%	14.8%	7.7%	6.3%	7.0%
B2	N	48	9	19	76	9	18	15	42	10	11	21
	%	14.4%	12.3%	14.1%	14.0%	10.6%	17.8%	21.4%	16.4%	19.2%	17.5%	18.3%
C1	N	60	23	35	118	16	18	11	45	12	13	25
	%	18.0%	31.5%	25.9%	21.8%	18.8%	17.8%	15.7%	17.6%	23.1%	20.6%	21.7%
C2	N	73	15	32	120	26	23	11	60	7	21	28
	%	21.9%	20.5%	23.7%	22.1%	30.6%	22.8%	15.7%	23.4%	13.5%	33.3%	24.3%
不明	N	4	1	0	5	0	3	1	4	1	0	1
	%	1.2%	1.4%	0.0%	0.9%	0.0%	3.0%	1.4%	1.6%	1.9%	0.0%	0.9%
合計	N	334	73	135	542	85	101	70	256	52	63	115
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑥同時点における ADL

A 移動

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
自立	N	25	5	9	39	7	4	3	14	8	4	12
	%	7.3%	6.7%	6.5%	7.0%	8.2%	3.8%	3.9%	5.3%	15.1%	6.3%	10.3%
見守り	N	54	6	15	75	8	21	11	40	8	6	14
	%	15.8%	8.0%	10.9%	13.5%	9.4%	20.0%	14.5%	15.0%	15.1%	9.4%	12.0%
一部介助	N	90	20	36	146	17	25	27	69	15	9	24
	%	26.4%	26.7%	26.1%	26.4%	20.0%	23.8%	35.5%	25.9%	28.3%	14.1%	20.5%
介助	N	171	44	78	293	53	54	35	142	22	45	67
	%	50.1%	58.7%	56.5%	52.9%	62.4%	51.4%	46.1%	53.4%	41.5%	70.3%	57.3%
不明	N	1	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0
	%	0.3%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	1.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	N	341	75	138	554	85	105	76	266	53	64	117
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

B 移動

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
自立	N	74	11	20	105	13	18	12	43	12	12	24
	%	21.7%	14.7%	14.6%	19.0%	15.1%	17.5%	15.8%	16.2%	22.6%	18.8%	20.5%
見守り	N	53	14	20	87	8	24	11	43	11	10	21
	%	15.5%	18.7%	14.6%	15.7%	9.3%	23.3%	14.5%	16.2%	20.8%	15.6%	17.9%
一部介助	N	97	24	41	162	25	25	26	76	17	8	25
	%	28.4%	32.0%	29.9%	29.3%	29.1%	24.3%	34.2%	28.7%	32.1%	12.5%	21.4%
介助	N	115	26	54	195	40	36	27	103	13	34	47
	%	33.7%	34.7%	39.4%	35.3%	46.5%	35.0%	35.5%	38.9%	24.5%	53.1%	40.2%
不明	N	2	0	2	4	0	0	0	0	0	0	0
	%	0.6%	0.0%	1.5%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	N	341	75	137	553	86	103	76	265	53	64	117
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

C 排泄

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
自立	N	43	7	14	64	10	14	8	32	11	6	17
	%	12.6%	9.2%	10.2%	11.6%	11.6%	13.3%	10.5%	12.0%	20.8%	9.4%	14.5%
見守り	N	36	4	10	50	7	13	8	28	5	5	10
	%	10.6%	5.3%	7.3%	9.0%	8.1%	12.4%	10.5%	10.5%	9.4%	7.8%	8.5%
一部介助	N	85	17	32	134	13	20	20	53	14	10	24
	%	25.0%	22.4%	23.4%	24.2%	15.1%	19.0%	26.3%	19.9%	26.4%	15.6%	20.5%
介助	N	176	48	81	305	56	58	40	154	23	43	66
	%	51.8%	63.2%	59.1%	55.2%	65.1%	55.2%	52.6%	57.7%	43.4%	67.2%	56.4%
不明	N	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	N	340	76	137	553	86	105	76	267	53	64	117
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

D 入浴

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
自立	N	16	3	3	22	2	4	3	9	1	3	4
	%	4.7%	3.9%	2.2%	4.0%	2.4%	3.8%	3.9%	3.4%	1.9%	4.8%	3.4%
見守り	N	20	1	4	25	5	12	3	20	5	0	5
	%	5.9%	1.3%	2.9%	4.5%	5.9%	11.4%	3.9%	7.5%	9.4%	0.0%	4.3%
一部介助	N	84	14	31	129	12	21	18	51	17	13	30
	%	24.8%	18.4%	22.8%	23.4%	14.1%	20.0%	23.7%	19.2%	32.1%	20.6%	25.9%
介助	N	211	57	95	363	63	67	52	182	27	45	72
	%	62.2%	75.0%	69.9%	65.9%	74.1%	63.8%	68.4%	68.4%	50.9%	71.4%	62.1%
不明	N	8	1	3	12	3	1	0	4	3	2	5
	%	2.4%	1.3%	2.2%	2.2%	3.5%	1.0%	0.0%	1.5%	5.7%	3.2%	4.3%
合計	N	339	76	136	551	85	105	76	266	53	63	116
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

E 着替え

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
自立	N	35	4	6	45	5	11	7	23	8	5	13
	%	10.3%	5.3%	4.3%	8.1%	5.8%	10.6%	9.2%	8.6%	15.1%	7.8%	11.1%
見守り	N	30	4	13	47	6	12	1	19	5	4	9
	%	8.8%	5.3%	9.4%	8.5%	7.0%	11.5%	1.3%	7.1%	9.4%	6.3%	7.7%
一部介助	N	100	22	38	160	21	30	30	81	18	14	32
	%	29.3%	28.9%	27.5%	28.8%	24.4%	28.8%	39.5%	30.5%	34.0%	21.9%	27.4%
介助	N	176	46	80	302	54	51	38	143	22	41	63
	%	51.6%	60.5%	58.0%	54.4%	62.8%	49.0%	50.0%	53.8%	41.5%	64.1%	53.8%
不明	N	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.7%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	N	341	76	138	555	86	104	76	266	53	64	117
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問 2-2　世帯・同居状況について

①同居人の有無

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
あり	N	307	71	130	508	71	92	66	229	48	64	112
	%	90.0%	92.2%	92.2%	90.9%	82.6%	87.6%	88.0%	86.1%	92.3%	98.5%	95.7%
なし	N	34	6	11	51	15	13	9	37	4	1	5
	%	10.0%	7.8%	7.8%	9.1%	17.4%	12.4%	12.0%	13.9%	7.7%	1.5%	4.3%
合計	N	341	77	141	559	86	105	75	266	52	65	117
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

②同居人のカテゴリ

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.配偶者	N	187	38	62	287	35	42	46	123	31	29	60
	%	60.1%	53.5%	48.1%	56.2%	46.1%	44.7%	69.7%	52.1%	62.0%	45.3%	52.6%
2.娘	N	100	17	51	168	33	35	27	95	14	20	34
	%	32.2%	23.9%	39.5%	32.9%	43.4%	37.2%	40.9%	40.3%	28.0%	31.3%	29.8%
3.息子	N	82	28	46	156	22	39	17	78	19	27	46
	%	26.4%	39.4%	35.7%	30.5%	28.9%	41.5%	25.8%	33.1%	38.0%	42.2%	40.4%
4.子供の配偶者	N	45	16	48	109	17	30	16	63	5	27	32
	%	14.5%	22.5%	37.2%	21.3%	22.4%	31.9%	24.2%	26.7%	10.0%	42.2%	28.1%
5.孫	N	45	13	29	87	8	21	13	42	6	18	24
	%	14.5%	18.3%	22.5%	17.0%	10.5%	22.3%	19.7%	17.8%	12.0%	28.1%	21.1%
6.親戚	N	6	2	0	8	2	1	1	4	1	1	2
	%	1.9%	2.8%	0.0%	1.6%	2.6%	1.1%	1.5%	1.7%	2.0%	1.6%	1.8%
7.友人	N	1	0	1	2	1	0	1	2	0	0	0
	%	0.3%	0.0%	0.8%	0.4%	1.3%	0.0%	1.5%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%
8.その他	N	9	3	3	15	3	2	1	6	0	3	3
	%	2.9%	4.2%	2.3%	2.9%	3.9%	2.1%	1.5%	2.5%	0.0%	4.7%	2.6%
合計回答者数		311	71	129	511	76	94	66	236	50	64	114

③主たる介護者

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
配偶者	N	146	31	44	221	23	32	33	88	23	22	45
	%	42.8%	40.8%	31.2%	39.6%	27.4%	30.8%	45.8%	33.8%	45.1%	33.8%	38.8%
娘	N	105	21	46	172	33	30	23	86	15	22	37
	%	30.8%	27.6%	32.6%	30.8%	39.3%	28.8%	31.9%	33.1%	29.4%	33.8%	31.9%
息子	N	36	10	20	66	16	13	7	36	5	10	15
	%	10.6%	13.2%	14.2%	11.8%	19.0%	12.5%	9.7%	13.8%	9.8%	15.4%	12.9%
子供の配偶者	N	25	8	24	57	5	18	5	28	3	9	12
	%	7.3%	10.5%	17.0%	10.2%	6.0%	17.3%	6.9%	10.8%	5.9%	13.8%	10.3%
孫	N	6	2	1	9	0	0	0	0	0	0	0
	%	1.8%	2.6%	0.7%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
親戚	N	9	3	1	13	2	2	2	6	1	0	1
	%	2.6%	3.9%	0.7%	2.3%	2.4%	1.9%	2.8%	2.3%	2.0%	0.0%	0.9%
友人	N	0	0	1	1	0	0	0	0	2	0	2
	%	0.0%	0.0%	0.7%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.9%	0.0%	1.7%
介護不要（本人自立のため）	N	2	0	1	3	0	1	1	2	1	0	1
	%	0.6%	0.0%	0.7%	0.5%	0.0%	1.0%	1.4%	0.8%	2.0%	0.0%	0.9%
その他	N	12	1	3	16	5	8	1	14	1	2	3
	%	3.5%	1.3%	2.1%	2.9%	6.0%	7.7%	1.4%	5.4%	2.0%	3.1%	2.6%
合計	N	341	76	141	558	84	104	72	260	51	65	116
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

④主たる介護者との同居の有無

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
同居	N	274	65	122	461	66	86	64	216	45	60	105
	%	81.8%	85.5%	87.8%	83.8%	81.5%	85.1%	90.1%	85.4%	90.0%	92.3%	91.3%
近距離別居（30分以内で行き来が可能）	N	44	9	13	66	9	8	3	20	4	2	6
	%	13.1%	11.8%	9.4%	12.0%	11.1%	7.9%	4.2%	7.9%	8.0%	3.1%	5.2%
遠距離別居（往復に30分以上）	N	17	2	4	23	6	7	4	17	1	3	4
	%	5.1%	2.6%	2.9%	4.2%	7.4%	6.9%	5.6%	6.7%	2.0%	4.6%	3.5%
合計	N	335	76	139	550	81	101	71	253	50	65	115
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑤主たる介護者の就労の有無

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
就労あり（フルタイム）	N	57	11	20	88	10	21	11	42	5	15	20
	%	17.9%	15.3%	15.5%	16.9%	13.2%	22.1%	16.2%	17.6%	10.2%	23.8%	17.9%
就労あり（パート）	N	52	11	21	84	9	14	9	32	8	10	18
	%	16.3%	15.3%	16.3%	16.2%	11.8%	14.7%	13.2%	13.4%	16.3%	15.9%	16.1%
就労なし	N	202	49	88	339	53	57	48	158	35	37	72
	%	63.3%	68.1%	68.2%	65.2%	69.7%	60.0%	70.6%	66.1%	71.4%	58.7%	64.3%
不明	N	8	1	0	9	4	3	0	7	1	1	2
	%	2.5%	1.4%	0.0%	1.7%	5.3%	3.2%	0.0%	2.9%	2.0%	1.6%	1.8%
合計	N	319	72	129	520	76	95	68	239	49	63	112
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問 2-３本人の自宅復帰に関する意思決定

①本人が自宅復帰を希望したことについての聴取の状況

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
本人は意思疎通困難な状態だったので、聴取はできていない（家族や病院スタッフ等が証言する本人の過去の言動等から、本人の自宅復帰の希望が明らかであると推察した）	N	204	47	84	335	43	63	45	151	28	28	56
	%	59.6%	61.0%	59.6%	59.8%	50.0%	60.0%	59.2%	56.6%	54.9%	43.1%	48.3%
本人は意志疎通可能な状態で、本人の希望を直接（自身、もしくは他の医療・介護のスタッフが）聞いた	N	75	13	23	111	16	20	16	52	14	17	31
	%	21.9%	16.9%	16.3%	19.8%	18.6%	19.0%	21.1%	19.5%	27.5%	26.2%	26.7%
本人は意思疎通可能な状態であったが、本人の意向は家族から間接的聞いた	N	63	17	34	114	27	22	15	64	9	20	29
	%	18.4%	22.1%	24.1%	20.4%	31.4%	21.0%	19.7%	24.0%	17.6%	30.8%	25.0%
合計	N	342	77	141	560	86	105	76	267	51	65	116
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

②家族の本人の退院後の行先に関する意向

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
家族としても、本人が自宅に戻ることを望んでいた	N	262	55	100	417	61	78	52	191	38	49	87
	%	77.1%	71.4%	70.9%	74.7%	71.8%	75.0%	70.3%	72.6%	73.1%	75.4%	74.4%
家族としてはどちらでもよかったが、本人が自宅を希望するのであれば応援したいと思っていた	N	54	17	26	97	11	18	18	47	10	14	24
	%	15.9%	22.1%	18.4%	17.4%	12.9%	17.3%	24.3%	17.9%	19.2%	21.5%	20.5%
家族としては本人の自宅復帰に消極的だが、本人の希望が強いので、認めざるを得ない状況だった	N	21	4	14	39	8	6	1	15	3	2	5
	%	6.2%	5.2%	9.9%	7.0%	9.4%	5.8%	1.4%	5.7%	5.8%	3.1%	4.3%
そもそも家族はいなかった	N	3	1	1	5	5	2	3	10	1	0	1
	%	0.9%	1.3%	0.7%	0.9%	5.9%	1.9%	4.1%	3.8%	1.9%	0.0%	0.9%
合計	N	340	77	141	558	85	104	74	263	52	65	117
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

③-1 自宅復帰の希望形成の背景

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
A（本人の強いこだわり）	N	141	31	61	233	26	38	35	99	20	21	41
	%	49.5%	47.7%	53.5%	50.2%	39.4%	44.2%	53.0%	45.4%	48.8%	43.8%	46.1%
やや A	N	99	22	31	152	20	34	22	76	13	16	29
	%	34.7%	33.8%	27.2%	32.8%	30.3%	39.5%	33.3%	34.9%	31.7%	33.3%	32.6%
やや B	N	30	10	12	52	8	7	6	21	6	7	13
	%	10.5%	15.4%	10.5%	11.2%	12.1%	8.1%	9.1%	9.6%	14.6%	14.6%	14.6%
B（家族等周囲の方のこだわり）	N	15	2	10	27	12	7	3	22	2	4	6
	%	5.3%	3.1%	8.8%	5.8%	18.2%	8.1%	4.5%	10.1%	4.9%	8.3%	6.7%
合計	N	285	65	114	464	66	86	66	218	41	48	89
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

③-2 本人の自宅復帰希望の背景となる感情

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
A（住み慣れた自宅に戻りたい）	N	186	41	76	303	40	59	39	138	20	26	46
	%	63.5%	63.1%	66.7%	64.2%	60.6%	67.0%	60.0%	63.0%	48.8%	53.1%	51.1%
ややA	N	71	15	21	107	17	21	12	50	13	15	28
	%	24.2%	23.1%	18.4%	22.7%	25.8%	23.9%	18.5%	22.8%	31.7%	30.6%	31.1%
ややB	N	25	5	10	40	5	4	7	16	6	4	10
	%	8.5%	7.7%	8.8%	8.5%	7.6%	4.5%	10.8%	7.3%	14.6%	8.2%	11.1%
B（病院や入院生活への拒絶感）	N	11	4	7	22	4	4	7	15	2	4	6
	%	3.8%	6.2%	6.1%	4.7%	6.1%	4.5%	10.8%	6.8%	4.9%	8.2%	6.7%
合計	N	293	65	114	472	66	88	65	219	41	49	90
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

③-3 本人の自宅復帰の希望と経済力の関係

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
A（本人の強いこだわり）	N	115	21	54	190	26	31	27	84	21	18	39
	%	39.8%	32.8%	48.6%	40.9%	40.6%	35.6%	40.9%	38.7%	50.0%	39.1%	44.3%
ややA	N	112	25	33	170	21	30	23	74	11	16	27
	%	38.8%	39.1%	29.7%	36.6%	32.8%	34.5%	34.8%	34.1%	26.2%	34.8%	30.7%
ややB	N	37	16	15	68	12	20	13	45	7	10	17
	%	12.8%	25.0%	13.5%	14.7%	18.8%	23.0%	19.7%	20.7%	16.7%	21.7%	19.3%
B（経済的に自宅以外に選択肢がなかった）	N	25	2	9	36	5	6	3	14	3	2	5
	%	8.7%	3.1%	8.1%	7.8%	7.8%	6.9%	4.5%	6.5%	7.1%	4.3%	5.7%
合計	N	289	64	111	464	64	87	66	217	42	46	88
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

③-4 サービス提供者が自宅へ頻繁に訪問しに来ることに対する本人の意識

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
A（自宅への訪問には全く抵抗がなかった）	N	161	34	66	261	36	51	40	127	19	32	51
	%	55.7%	52.3%	58.4%	55.9%	54.5%	58.0%	60.6%	57.7%	45.2%	66.7%	56.7%
ややA	N	71	15	29	115	18	22	15	55	10	10	20
	%	24.6%	23.1%	25.7%	24.6%	27.3%	25.0%	22.7%	25.0%	23.8%	20.8%	22.2%
ややB	N	41	12	11	64	11	12	9	32	9	5	14
	%	14.2%	18.5%	9.7%	13.7%	16.7%	13.6%	13.6%	14.5%	21.4%	10.4%	15.6%
B（抵抗感があった）	N	16	4	7	27	1	3	2	6	4	1	5
	%	5.5%	6.2%	6.2%	5.8%	1.5%	3.4%	3.0%	2.7%	9.5%	2.1%	5.6%
合計	N	289	65	113	467	66	88	66	220	42	48	90
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

③-5 本人の希望における自宅復帰と自宅看取りの関係

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
A（自宅看取りまで明確に想定していた）	N	103	25	50	178	30	43	27	100	17	25	42
	%	35.3%	38.5%	44.2%	37.9%	45.5%	48.9%	40.9%	45.5%	41.5%	51.0%	46.7%
ややA	N	88	19	32	139	18	17	18	53	12	12	24
	%	30.1%	29.2%	28.3%	29.6%	27.3%	19.3%	27.3%	24.1%	29.3%	24.5%	26.7%
ややB	N	57	10	18	85	10	16	14	40	6	5	11
	%	19.5%	15.4%	15.9%	18.1%	15.2%	18.2%	21.2%	18.2%	14.6%	10.2%	12.2%
B（看取り場所までは明確に想定していなかった）	N	44	11	13	68	8	12	7	27	6	7	13
	%	15.1%	16.9%	11.5%	14.5%	12.1%	13.6%	10.6%	12.3%	14.6%	14.3%	14.4%
合計	N	292	65	113	470	66	88	66	220	41	49	90
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

③-6 急変時・増悪時の対応イメージ

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
A（入院は絶対にしない）	N	100	27	39	166	30	32	14	76	14	17	31
	%	32.4%	40.3%	31.0%	33.1%	39.0%	35.6%	20.6%	32.3%	31.8%	29.8%	30.7%
ややA	N	58	17	43	118	20	20	22	62	12	12	24
	%	18.8%	25.4%	34.1%	23.5%	26.0%	22.2%	32.4%	26.4%	27.3%	21.1%	23.8%
ややB	N	83	14	24	121	14	17	19	50	10	19	29
	%	26.9%	20.9%	19.0%	24.1%	18.2%	18.9%	27.9%	21.3%	22.7%	33.3%	28.7%
B（必要に応じて一時的な入院はあり得る）	N	68	9	20	97	13	21	13	47	8	9	17
	%	22.0%	13.4%	15.9%	19.3%	16.9%	23.3%	19.1%	20.0%	18.2%	15.8%	16.8%
合計	N	309	67	126	502	77	90	68	235	44	57	101
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問 2-4 自宅のバリアフリーの状況

①退院時、自宅のバリアフリー環境

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
バリアフリー環境に関しては問題ない状態だったので、そのまま退院となった	N	135	26	55	216	38	40	36	114	20	22	42
	%	39.6%	33.8%	39.0%	38.6%	44.2%	38.1%	47.4%	42.7%	38.5%	33.8%	35.9%
バリアフリー環境が不十分だったので、住宅改修を行って環境を改善し、退院となった	N	37	2	14	53	2	15	13	30	9	4	13
	%	10.9%	2.6%	9.9%	9.5%	2.3%	14.3%	17.1%	11.2%	17.3%	6.2%	11.1%
バリアフリー環境が不十分だったが、そのまま退院となった	N	169	49	72	290	46	50	27	123	23	39	62
	%	49.6%	63.6%	51.1%	51.9%	53.5%	47.6%	35.5%	46.1%	44.2%	60.0%	53.0%
合計	N	341	77	141	559	86	105	76	267	52	65	117
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

②不十分だった住宅の要素

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.生活導線の中でどうしても階段や段差が介在する	N	149	41	61	251	38	48	22	108	6	7	13
	%	76.4%	80.4%	75.3%	76.8%	82.6%	78.7%	55.0%	73.5%	54.5%	70.0%	61.9%
2.廊下等に手すりがない	N	69	18	23	110	14	28	18	60	7	6	13
	%	35.4%	35.3%	28.4%	33.6%	30.4%	45.9%	45.0%	40.8%	63.6%	60.0%	61.9%
3.お風呂がバリアフリーになっていない	N	91	22	36	149	17	37	20	74	6	2	8
	%	46.7%	43.1%	44.4%	45.6%	37.0%	60.7%	50.0%	50.3%	54.5%	20.0%	38.1%
4.トイレがバリアフリーになっていない	N	56	19	26	101	16	30	19	65	5	3	8
	%	28.7%	37.3%	32.1%	30.9%	34.8%	49.2%	47.5%	44.2%	45.5%	30.0%	38.1%
5.ベッド等の寝る場所がバリアフリーになっていない	N	35	8	17	60	14	15	5	34	2	1	3
	%	17.9%	15.7%	21.0%	18.3%	30.4%	24.6%	12.5%	23.1%	18.2%	10.0%	14.3%
6.その他	N	19	5	8	32	5	1	4	10	1	1	2
	%	9.7%	9.8%	9.9%	9.8%	10.9%	1.6%	10.0%	6.8%	9.1%	10.0%	9.5%
合計回答者数		419	113	171	703	104	159	88	351	27	20	47

問 3 自宅看取りに至るまでの本人の状態・周辺の状況に関する情報

問 3-1 身体の状態の変化

①自宅復帰時と比べて追加で増えた医療処置

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.インシュリン等自己注射	N	2	1	2	5	1	0	0	1	1	0	1
	%	0.9%	2.3%	2.0%	1.4%	2.0%	0.0%	0.0%	0.6%	2.9%	0.0%	1.3%
2.中心静脈栄養	N	18	6	9	33	2	4	5	11	2	6	8
	%	8.3%	14.0%	9.2%	9.2%	4.1%	6.3%	11.9%	7.1%	5.7%	15.0%	10.7%
3.経鼻胃管栄養	N	3	0	0	3	1	2	0	3	1	1	2
	%	1.4%	0.0%	0.0%	0.8%	2.0%	3.2%	0.0%	1.9%	2.9%	2.5%	2.7%
4.透析（血液・腹膜）	N	3	1	0	4	0	0	0	0	0	0	0
	%	1.4%	2.3%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
5.胃ろう、腸ろう	N	9	1	2	12	0	1	1	2	1	3	4
	%	4.1%	2.3%	2.0%	3.3%	0.0%	1.6%	2.4%	1.3%	2.9%	7.5%	5.3%
6.人工肛門	N	1	0	0	1	0	1	1	2	0	0	0
	%	0.5%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	1.6%	2.4%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%
7.酸素療法	N	63	8	22	93	17	18	9	44	10	14	24
	%	28.9%	18.6%	22.4%	25.9%	34.7%	28.6%	21.4%	28.6%	28.6%	35.0%	32.0%
8.気管切開処置	N	3	0	0	3	0	0	0	0	0	1	1
	%	1.4%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.5%	1.3%
9.人工呼吸器の管理	N	2	1	2	5	0	0	0	0	0	0	0
	%	0.9%	2.3%	2.0%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
10.疼痛管理	N	74	13	33	120	15	25	16	56	17	13	30
	%	33.9%	30.2%	33.7%	33.4%	30.6%	39.7%	38.1%	36.4%	48.6%	32.5%	40.0%
11.褥瘡の管理	N	82	17	39	138	14	23	13	50	13	13	26
	%	37.6%	39.5%	39.8%	38.4%	28.6%	36.5%	31.0%	32.5%	37.1%	32.5%	34.7%
12.リハビリ	N	20	3	10	33	4	3	6	13	8	1	9
	%	9.2%	7.0%	10.2%	9.2%	8.2%	4.8%	14.3%	8.4%	22.9%	2.5%	12.0%
13.留置カテーテル	N	30	5	17	52	4	16	6	26	3	6	9
	%	13.8%	11.6%	17.3%	14.5%	8.2%	25.4%	14.3%	16.9%	8.6%	15.0%	12.0%
14.喀痰吸引	N	60	15	28	103	15	20	8	43	6	15	21
	%	27.5%	34.9%	28.6%	28.7%	30.6%	31.7%	19.0%	27.9%	17.1%	37.5%	28.0%
15.輸血	N	5	0	10	15	0	0	1	1	1	0	1
	%	2.3%	0.0%	10.2%	4.2%	0.0%	0.0%	2.4%	0.6%	2.9%	0.0%	1.3%
16.その他	N	27	6	16	49	6	8	7	21	3	5	8
	%	12.4%	14.0%	16.3%	13.6%	12.2%	12.7%	16.7%	13.6%	8.6%	12.5%	10.7%
合計回答者数		218	43	98	359	49	63	42	154	35	40	75

②-1 認知症の状況

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
依然、認知症なし	N	137	36	56	229	30	52	38	120	25	26	51
	%	46.6%	53.7%	48.3%	48.0%	44.8%	57.1%	56.7%	53.3%	54.3%	45.6%	49.5%
療養中に認知症発症	N	53	11	15	79	8	8	9	25	6	11	17
	%	18.0%	16.4%	12.9%	16.6%	11.9%	8.8%	13.4%	11.1%	13.0%	19.3%	16.5%
療養中に悪化	N	104	20	45	169	29	31	20	80	15	20	35
	%	35.4%	29.9%	38.8%	35.4%	43.3%	34.1%	29.9%	35.6%	32.6%	35.1%	34.0%
合計	N	294	67	116	477	67	91	67	225	46	57	103
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

②-2 最終的な認知症生活自立度の状況

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
自立	N	44	7	18	69	8	11	12	31	7	5	12
	%	16.5%	14.6%	17.5%	16.5%	12.9%	14.9%	22.2%	16.3%	18.9%	10.4%	14.1%
Ⅰ	N	26	7	13	46	5	15	3	23	3	6	9
	%	9.8%	14.6%	12.6%	11.0%	8.1%	20.3%	5.6%	12.1%	8.1%	12.5%	10.6%
Ⅱb	N	18	3	7	28	0	2	1	3	3	4	7
	%	6.8%	6.3%	6.8%	6.7%	0.0%	2.7%	1.9%	1.6%	8.1%	8.3%	8.2%
Ⅱb	N	38	5	11	54	4	4	5	13	4	7	11
	%	14.3%	10.4%	10.7%	12.9%	6.5%	5.4%	9.3%	6.8%	10.8%	14.6%	12.9%
Ⅲa	N	34	9	11	54	8	8	9	25	5	4	9
	%	12.8%	18.8%	10.7%	12.9%	12.9%	10.8%	16.7%	13.2%	13.5%	8.3%	10.6%
Ⅲb	N	21	3	7	31	12	5	12	29	2	5	7
	%	7.9%	6.3%	6.8%	7.4%	19.4%	6.8%	22.2%	15.3%	5.4%	10.4%	8.2%
Ⅳ	N	49	5	18	72	16	23	3	42	8	8	16
	%	18.4%	10.4%	17.5%	17.3%	25.8%	31.1%	5.6%	22.1%	21.6%	16.7%	18.8%
M	N	21	5	12	38	4	5	7	16	5	7	12
	%	7.9%	10.4%	11.7%	9.1%	6.5%	6.8%	13.0%	8.4%	13.5%	14.6%	14.1%
不明	N	15	4	6	25	5	1	2	8	0	2	2
	%	5.6%	8.3%	5.8%	6.0%	8.1%	1.4%	3.7%	4.2%	0.0%	4.2%	2.4%
合計	N	266	48	103	417	62	74	54	190	37	48	85
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

③最終的な要介護度

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
要支援１	N	4	1	0	5	0	0	0	0	0	1	1
	%	1.2%	1.5%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	0.9%
要支援２	N	3	0	1	4	1	1	1	3	0	2	2
	%	0.9%	0.0%	0.7%	0.8%	1.2%	1.0%	1.4%	1.2%	0.0%	3.1%	1.8%
要介護１	N	9	2	10	21	4	6	4	14	3	4	7
	%	2.8%	3.0%	7.5%	4.0%	4.9%	6.1%	5.6%	5.6%	6.0%	6.3%	6.1%
要介護２	N	43	16	17	76	10	9	10	29	2	5	7
	%	13.4%	23.9%	12.7%	14.6%	12.2%	9.2%	14.1%	11.6%	4.0%	7.8%	6.1%
要介護３	N	48	9	27	84	13	7	13	33	6	10	16
	%	15.0%	13.4%	20.1%	16.1%	15.9%	7.1%	18.3%	13.1%	12.0%	15.6%	14.0%
要介護４	N	67	16	22	105	19	33	13	65	21	14	35
	%	20.9%	23.9%	16.4%	20.1%	23.2%	33.7%	18.3%	25.9%	42.0%	21.9%	30.7%
要介護５	N	142	23	56	221	34	41	30	105	18	28	46
	%	44.2%	34.3%	41.8%	42.3%	41.5%	41.8%	42.3%	41.8%	36.0%	43.8%	40.4%
非該当	N	5	0	1	6	1	1	0	2	0	0	0
	%	1.6%	0.0%	0.7%	1.1%	1.2%	1.0%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	N	321	67	134	522	82	98	71	251	50	64	114
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

④最終的な日常生活自立度

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
自立	N	3	0	0	3	2	0	1	3	0	0	0
	%	0.9%	0.0%	0.0%	0.6%	2.5%	0.0%	1.5%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%
J1	N	0	0	1	1	0	0	1	1	1	0	1
	%	0.0%	0.0%	0.7%	0.2%	0.0%	0.0%	1.5%	0.4%	2.0%	0.0%	0.9%
J2	N	4	1	2	7	1	2	1	4	1	1	2
	%	1.3%	1.4%	1.5%	1.3%	1.3%	2.0%	1.5%	1.6%	2.0%	1.6%	1.8%
A1	N	8	0	0	8	0	0	1	1	1	0	1
	%	2.5%	0.0%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%	1.5%	0.4%	2.0%	0.0%	0.9%
A2	N	15	0	3	18	1	3	1	5	1	1	2
	%	4.7%	0.0%	2.2%	3.5%	1.3%	3.1%	1.5%	2.0%	2.0%	1.6%	1.8%
B1	N	24	5	6	35	6	4	3	13	0	3	3
	%	7.6%	7.2%	4.4%	6.7%	7.5%	4.1%	4.5%	5.3%	0.0%	4.8%	2.7%
B2	N	26	5	5	36	5	7	8	20	6	3	9
	%	8.2%	7.2%	3.7%	6.9%	6.3%	7.1%	11.9%	8.2%	12.2%	4.8%	8.0%
C1	N	98	28	47	173	22	36	22	80	17	18	35
	%	30.9%	40.6%	34.8%	33.2%	27.5%	36.7%	32.8%	32.7%	34.7%	28.6%	31.3%
C2	N	131	27	67	225	43	45	28	116	22	34	56
	%	41.3%	39.1%	49.6%	43.2%	53.8%	45.9%	41.8%	47.3%	44.9%	54.0%	50.0%
不明	N	8	3	4	15	0	1	1	2	0	3	3
	%	2.5%	4.3%	3.0%	2.9%	0.0%	1.0%	1.5%	0.8%	0.0%	4.8%	2.7%
合計	N	317	69	135	521	80	98	67	245	49	63	112
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑤最終的な ADL

A 移動

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
自立	N	3	2	0	5	1	0	0	1	0	0	0
	%	0.9%	2.6%	0.0%	0.9%	1.2%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%
見守り	N	9	1	5	15	2	2	0	4	1	0	1
	%	2.7%	1.3%	3.6%	2.7%	2.3%	1.9%	0.0%	1.5%	2.0%	0.0%	0.9%
一部介助	N	25	3	2	30	4	8	9	21	3	4	7
	%	7.4%	3.9%	1.4%	5.4%	4.7%	7.8%	12.0%	8.0%	6.0%	6.2%	6.1%
介助	N	298	68	129	495	79	91	66	236	45	60	105
	%	88.2%	89.5%	93.5%	89.7%	91.9%	88.3%	88.0%	89.4%	90.0%	92.3%	91.3%
不明	N	3	2	2	7	0	2	0	2	1	1	2
	%	0.9%	2.6%	1.4%	1.3%	0.0%	1.9%	0.0%	0.8%	2.0%	1.5%	1.7%
合計	N	338	76	138	552	86	103	75	264	50	65	115
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

B 食事

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
自立	N	11	3	0	14	2	2	0	4	1	1	2
	%	3.3%	3.9%	0.0%	2.6%	2.3%	2.0%	0.0%	1.5%	2.0%	1.6%	1.8%
見守り	N	16	4	7	27	5	3	3	11	2	3	5
	%	4.8%	5.3%	5.1%	4.9%	5.8%	3.0%	4.0%	4.2%	3.9%	4.8%	4.4%
一部介助	N	57	15	13	85	10	17	12	39	9	10	19
	%	17.0%	19.7%	9.5%	15.5%	11.6%	17.0%	16.0%	14.9%	17.6%	15.9%	16.7%
介助	N	244	52	115	411	69	76	58	203	37	48	85
	%	72.6%	68.4%	83.9%	74.9%	80.2%	76.0%	77.3%	77.8%	72.5%	76.2%	74.6%
不明	N	8	2	2	12	0	2	2	4	2	1	3
	%	2.4%	2.6%	1.5%	2.2%	0.0%	2.0%	2.7%	1.5%	3.9%	1.6%	2.6%
合計	N	336	76	137	549	86	100	75	261	51	63	114
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

C 排泄

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
自立	N	7	2	0	9	1	1	0	2	0	0	0
	%	2.1%	2.6%	0.0%	1.6%	1.2%	1.0%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%
見守り	N	6	0	5	11	1	1	1	3	1	1	2
	%	1.8%	0.0%	3.6%	2.0%	1.2%	1.0%	1.3%	1.1%	2.0%	1.5%	1.7%
一部介助	N	24	7	3	34	4	11	6	21	3	4	7
	%	7.1%	9.2%	2.2%	6.2%	4.7%	10.7%	8.0%	8.0%	5.9%	6.2%	6.0%
介助	N	296	66	129	491	80	90	68	238	46	60	106
	%	88.1%	86.8%	93.5%	89.3%	93.0%	87.4%	90.7%	90.2%	90.2%	92.3%	91.4%
不明	N	3	1	1	5	0	0	0	0	1	0	1
	%	0.9%	1.3%	0.7%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%	0.0%	0.9%
合計	N	336	76	138	550	86	103	75	264	51	65	116
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

D 入浴

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
自立	N	2	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0
	%	0.6%	1.3%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
見守り	N	2	1	2	5	1	1	0	2	0	0	0
	%	0.6%	1.3%	1.5%	0.9%	1.2%	1.0%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%
一部介助	N	19	4	2	25	3	6	4	13	4	3	7
	%	5.7%	5.3%	1.5%	4.6%	3.5%	5.8%	5.3%	4.9%	8.3%	4.7%	6.3%
介助	N	295	67	129	491	78	94	71	243	42	56	98
	%	88.3%	89.3%	94.9%	90.1%	91.8%	91.3%	94.7%	92.4%	87.5%	87.5%	87.5%
不明	N	16	2	3	21	3	2	0	5	2	5	7
	%	4.8%	2.7%	2.2%	3.9%	3.5%	1.9%	0.0%	1.9%	4.2%	7.8%	6.3%
合計	N	334	75	136	545	85	103	75	263	48	64	112
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

E 着替え

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
自立	N	4	1	0	5	1	1	0	2	0	0	0
	%	1.2%	1.3%	0.0%	0.9%	1.2%	1.0%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%
見守り	N	7	1	2	10	2	1	0	3	1	1	2
	%	2.1%	1.3%	1.4%	1.8%	2.3%	1.0%	0.0%	1.1%	2.0%	1.5%	1.7%
一部介助	N	31	7	9	47	6	11	10	27	5	3	8
	%	9.1%	9.2%	6.5%	8.5%	7.0%	10.7%	13.3%	10.2%	9.8%	4.6%	6.9%
介助	N	294	66	126	486	77	90	65	232	43	61	104
	%	86.7%	86.8%	91.3%	87.9%	89.5%	87.4%	86.7%	87.9%	84.3%	93.8%	89.7%
不明	N	3	1	1	5	0	0	0	0	2	0	2
	%	0.9%	1.3%	0.7%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.9%	0.0%	1.7%
合計	N	339	76	138	553	86	103	75	264	51	65	116
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問 3-2　サービス提供体制の変化
①状態の推移に伴う家族介護・介護サービス提供の変化

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.状態の悪化に対し、保険（医療・介護）サービスを増やすことで対応した	N	289	71	120	480	72	92	63	227	43	53	96
	%	85.8%	92.2%	85.7%	86.6%	84.7%	90.2%	84.0%	86.6%	86.0%	81.5%	83.5%
2.状態の悪化に対し、家族介護を増やすことで対応した	N	104	14	54	172	15	32	19	66	15	21	36
	%	30.9%	18.2%	38.6%	31.0%	17.6%	31.4%	25.3%	25.2%	30.0%	32.3%	31.3%
3.状態の悪化に対し、自費（市場）サービスを増やすことで対応した	N	20	2	4	26	3	2	6	11	3	2	5
	%	5.9%	2.6%	2.9%	4.7%	3.5%	2.0%	8.0%	4.2%	6.0%	3.1%	4.3%
4.状態は悪化せず、退院時と変わらないサービス提供体制のままで対応した	N	22	3	6	31	11	7	6	24	1	7	8
	%	6.5%	3.9%	4.3%	5.6%	12.9%	6.9%	8.0%	9.2%	2.0%	10.8%	7.0%
合計回答者数		337	77	140	554	85	102	75	262	50	65	115

問 3-3 本人の看取りへ向けた意思決定について
①看取りが実態に近づいたタイミングでの自宅看取りの意思の再確認状況

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
行った	N	250	56	113	419	64	87	57	208	38	46	84
	%	74.4%	72.7%	80.1%	75.6%	74.4%	83.7%	76.0%	78.5%	73.1%	70.8%	71.8%
行ってない	N	86	21	28	135	22	17	18	57	14	19	33
	%	25.6%	27.3%	19.9%	24.4%	25.6%	16.3%	24.0%	21.5%	26.9%	29.2%	28.2%
合計	N	336	77	141	554	86	104	75	265	52	65	117
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

②再確認時の聴取の状況

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
本人は意志疎通可能な状態で、本人の希望を直接（自身、もしくは他の医療・介護のスタッフが）聞いた	N	97	26	44	167	20	40	26	86	21	11	32
	%	30.2%	36.6%	33.1%	31.8%	25.0%	39.6%	36.6%	34.1%	42.9%	17.7%	28.8%
本人は意思疎通可能な状態であったが、本人の意向は家族から間接的聞いた	N	92	20	29	141	20	23	19	62	14	18	32
	%	28.7%	28.2%	21.8%	26.9%	25.0%	22.8%	26.8%	24.6%	28.6%	29.0%	28.8%
本人は意思疎通困難な状態だったので、聴取はできていない（家族や病院スタッフ等が証言する本人の過去の言動等から、本人の自宅復帰の希望が明らかであると推察した）	N	132	25	60	217	40	38	26	104	14	33	47
	%	41.1%	35.2%	45.1%	41.3%	50.0%	37.6%	36.6%	41.3%	28.6%	53.2%	42.3%
合計	N	321	71	133	525	80	101	71	252	49	62	111
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

③本人の自宅看取りへ向けた意思の変化に関し、最も近いもの

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
退院時と変わっていない	N	167	40	67	274	41	61	43	145	25	34	59
	%	50.0%	53.3%	48.2%	50.0%	49.4%	58.7%	57.3%	55.3%	48.1%	52.3%	50.4%
退院時よりも、さらに自宅看取りに前向きになっていた	N	50	16	28	94	11	15	12	38	14	7	21
	%	15.0%	21.3%	20.1%	17.2%	13.3%	14.4%	16.0%	14.5%	26.9%	10.8%	17.9%
退院時よりも、自宅看取りに対して、消極的になっていた	N	13	1	2	16	1	2	2	5	2	0	2
	%	3.9%	1.3%	1.4%	2.9%	1.2%	1.9%	2.7%	1.9%	3.8%	0.0%	1.7%
不明	N	104	18	42	164	30	26	18	74	11	24	35
	%	31.1%	24.0%	30.2%	29.9%	36.1%	25.0%	24.0%	28.2%	21.2%	36.9%	29.9%
合計	N	334	75	139	548	83	104	75	262	52	65	117
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

④家族の自宅看取りへ向けた意思の変化に関し、最も近いもの

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
退院時と変わっていない	N	164	32	57	253	44	47	28	119	26	28	54
	%	49.7%	41.6%	41.6%	46.5%	52.4%	46.1%	40.0%	46.5%	52.0%	43.1%	47.0%
退院時よりも、さらに自宅看取りに前向きになっていた	N	127	37	63	227	30	43	37	110	19	27	46
	%	38.5%	48.1%	46.0%	41.7%	35.7%	42.2%	52.9%	43.0%	38.0%	41.5%	40.0%
退院時よりも、自宅看取りに対して、消極的になっていた	N	23	6	11	40	2	5	2	9	3	5	8
	%	7.0%	7.8%	8.0%	7.4%	2.4%	4.9%	2.9%	3.5%	6.0%	7.7%	7.0%
不明	N	16	2	6	24	8	7	3	18	2	5	7
	%	4.8%	2.6%	4.4%	4.4%	9.5%	6.9%	4.3%	7.0%	4.0%	7.7%	6.1%
合計	N	330	77	137	544	84	102	70	256	50	65	115
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑤-1 自宅での看取りに関し、本人や家族は不安を感じていたと思うか

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
不安を感じていた	N	68	15	23	106	13	21	13	47	12	14	26
	%	20.2%	19.5%	16.8%	19.3%	15.5%	20.8%	17.1%	18.0%	23.1%	21.5%	22.2%
もともと感じていたが、当初の不安は取り除かれていた	N	68	15	20	103	13	20	19	52	10	10	20
	%	20.2%	19.5%	14.6%	18.7%	15.5%	19.8%	25.0%	19.9%	19.2%	15.4%	17.1%
そもそも最初から不安は一切かんじていなかった	N	73	16	40	129	21	18	13	52	12	11	23
	%	21.7%	20.8%	29.2%	23.5%	25.0%	17.8%	17.1%	19.9%	23.1%	16.9%	19.7%
わからない	N	127	31	54	212	37	42	31	110	18	30	48
	%	37.8%	40.3%	39.4%	38.5%	44.0%	41.6%	40.8%	42.1%	34.6%	46.2%	41.0%
合計	N	336	77	137	550	84	101	76	261	52	65	117
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑤-2 同居家族の不安について

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
不安を感じていた	N	146	36	55	237	26	41	29	96	18	29	47
	%	46.5%	48.6%	40.7%	45.3%	34.2%	41.8%	41.4%	39.3%	36.0%	45.3%	41.2%
もともと感じていたが、当初の不安は取り除かれていた	N	120	27	61	208	37	48	33	118	20	27	47
	%	38.2%	36.5%	45.2%	39.8%	48.7%	49.0%	47.1%	48.4%	40.0%	42.2%	41.2%
そもそも最初から不安は一切かんじていなかった	N	31	9	10	50	7	4	4	15	7	4	11
	%	9.9%	12.2%	7.4%	9.6%	9.2%	4.1%	5.7%	6.1%	14.0%	6.3%	9.6%
わからない	N	17	2	9	28	6	5	4	15	5	4	9
	%	5.4%	2.7%	6.7%	5.4%	7.9%	5.1%	5.7%	6.1%	10.0%	6.3%	7.9%
合計	N	314	74	135	523	76	98	70	244	50	64	114
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑥本人や家族の不安を軽減させたのはだれか

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.在宅医	N	246	47	112	405	59	81	62	202	39	49	88
	%	85.4%	73.4%	86.8%	84.2%	84.3%	87.1%	91.2%	87.4%	90.7%	86.0%	88.0%
2.訪問看護師	N	255	62	119	436	57	87	64	208	38	53	91
	%	88.5%	96.9%	92.2%	90.6%	81.4%	93.5%	94.1%	90.0%	88.4%	93.0%	91.0%
3.ケアマネージャー	N	139	27	53	219	37	51	36	124	23	26	49
	%	48.3%	42.2%	41.1%	45.5%	52.9%	54.8%	52.9%	53.7%	53.5%	45.6%	49.0%
4.ヘルパー	N	75	11	24	110	15	26	18	59	11	10	21
	%	26.0%	17.2%	18.6%	22.9%	21.4%	28.0%	26.5%	25.5%	25.6%	17.5%	21.0%
5.民生委員	N	2	1	1	4	1		1	2	1		1
	%	0.7%	1.6%	0.8%	0.8%	1.4%	0.0%	1.5%	0.9%	2.3%	0.0%	1.0%
6.近所の友人等	N	16	2	7	25	2	1	4	7	1	2	3
	%	5.6%	3.1%	5.4%	5.2%	2.9%	1.1%	5.9%	3.0%	2.3%	3.5%	3.0%
7.親戚	N	31	7	19	57	8	4	5	17	6	3	9
	%	10.8%	10.9%	14.7%	11.9%	11.4%	4.3%	7.4%	7.4%	14.0%	5.3%	9.0%
8.その他の人	N	19	5	9	33	5	4	1	10	5	3	8
	%	6.6%	7.8%	7.0%	6.9%	7.1%	4.3%	1.5%	4.3%	11.6%	5.3%	8.0%
9.誰も不安を取り除くことはできていなかった	N	3			3		2	2	4		1	1
	%	1.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	2.2%	2.9%	1.7%	0.0%	1.8%	1.0%
合計回答者数		288	64	129	481	70	93	68	231	43	57	100

⑦あらかじめ急性疾患で増悪したときに入院や救急搬送するか本人・家族と合意していたか

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
どんな場合でも入院（救急搬送含む）はせず、自宅で治療する（場合によっては看取る）	N	146	39	73	258	48	52	41	141	29	34	63
	%	43.5%	51.3%	52.5%	46.8%	55.8%	51.5%	53.9%	53.6%	55.8%	53.1%	54.3%
主治医の判断に従い、状況次第で入院（救急搬送含む）を選択することにしていた	N	128	20	39	187	24	27	21	72	14	16	30
	%	38.1%	26.3%	28.1%	33.9%	27.9%	26.7%	27.6%	27.4%	26.9%	25.0%	25.9%
状況に応じ、本人や家族の判断で入院（救急搬送含む）を選択することになっていた	N	52	14	24	90	10	20	13	43	7	12	19
	%	15.5%	18.4%	17.3%	16.3%	11.6%	19.8%	17.1%	16.3%	13.5%	18.8%	16.4%
特に明確な取り決め・合意を形成していなかった	N	10	3	3	16	4	2	1	7	2	2	4
	%	3.0%	3.9%	2.2%	2.9%	4.7%	2.0%	1.3%	2.7%	3.8%	3.1%	3.4%
合計	N	336	76	139	551	86	101	76	263	52	64	116
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問４　実際の看取りに関する情報

問４-1 看取り時の状況

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
事前の合意通り、搬送するか否かで混乱することもなく、自宅での看取りとなった	N	279	68	123	470	76	86	69	231	41	57	98
	%	83.8%	88.3%	88.5%	85.6%	89.4%	85.1%	90.8%	88.2%	80.4%	89.1%	85.2%
事前の合意と異なり、搬送するか否かで混乱はあったが、何とか自宅での看取りとなった	N	28	4	8	40	6	10	3	19	4	2	6
	%	8.4%	5.2%	5.8%	7.3%	7.1%	9.9%	3.9%	7.3%	7.8%	3.1%	5.2%
事前に確固たる合意が形成できていなかったが、何とか自宅でも看取りとなった	N	18	5	7	30	3	3	0	6	4	3	7
	%	5.4%	6.5%	5.0%	5.5%	3.5%	3.0%	0.0%	2.3%	7.8%	4.7%	6.1%
その他	N	8	0	1	9	0	2	4	6	2	2	4
	%	2.4%	0.0%	0.7%	1.6%	0.0%	2.0%	5.3%	2.3%	3.9%	3.1%	3.5%
合計	N	333	77	139	549	85	101	76	262	51	64	115
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問 4-2 この自宅看取りの満足度

①同居家族がいた場合、今回の自宅看取りをめぐっての家族の満足度

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
非常に満足	N	215	47	90	352	57	62	50	169	31	41	72
	%	64.8%	61.8%	64.7%	64.4%	68.7%	62.6%	70.4%	66.8%	60.8%	63.1%	62.1%
やや満足	N	87	21	38	146	20	30	15	65	15	17	32
	%	26.2%	27.6%	27.3%	26.7%	24.1%	30.3%	21.1%	25.7%	29.4%	26.2%	27.6%
どちらでもない	N	18	5	8	31	3	3	2	8	3	2	5
	%	5.4%	6.6%	5.8%	5.7%	3.6%	3.0%	2.8%	3.2%	5.9%	3.1%	4.3%
やや不満	N	4	1	2	7	0	1	1	2	1	1	2
	%	1.2%	1.3%	1.4%	1.3%	0.0%	1.0%	1.4%	0.8%	2.0%	1.5%	1.7%
とても不満	N	1	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0
	%	0.3%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	1.4%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%
不明	N	7	2	1	10	3	3	2	8	1	4	5
	%	2.1%	2.6%	0.7%	1.8%	3.6%	3.0%	2.8%	3.2%	2.0%	6.2%	4.3%
合計	N	332	76	139	547	83	99	71	253	51	65	116
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

②-1 支援に関わった記入者本人のこの看取りを振り返った印象

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
非常によい自宅看取りだったように思う	N	260	58	105	423	75	82	61	218	40	51	91
	%	77.6%	75.3%	75.5%	76.8%	87.2%	81.2%	80.3%	82.9%	76.9%	78.5%	77.8%
多くの反省点と課題の残る自宅看取りだったように思う	N	27	7	13	47	4	8	3	15	4	4	8
	%	8.1%	9.1%	9.4%	8.5%	4.7%	7.9%	3.9%	5.7%	7.7%	6.2%	6.8%
評価はどちらともいえない自宅看取りだったように思う	N	48	12	21	81	7	11	12	30	8	10	18
	%	14.3%	15.6%	15.1%	14.7%	8.1%	10.9%	15.8%	11.4%	15.4%	15.4%	15.4%
合計	N	335	77	139	551	86	101	76	263	52	65	117
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問 5

問 5-1-1 本人・家族の状態で、寄与したこと

A 退院後自宅復帰できたことに寄与した要因（上位 5 つ）

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1. 本人の自宅への強い意志・こだわりがあったこと	N	192	43	77	312	41	58	42	141	26	30	56
	%	61.7%	60.6%	59.7%	61.1%	53.9%	61.7%	63.6%	59.7%	52.0%	46.9%	49.1%
2. 本人の希望を抑圧しない、周囲の人たちの態度・理解があったこと	N	212	46	101	359	47	63	45	155	30	42	72
	%	68.2%	64.8%	78.3%	70.3%	61.8%	67.0%	68.2%	65.7%	60.0%	65.6%	63.2%
3. 同居（近居）家族の介護力があったこと	N	188	41	92	321	44	54	41	139	30	38	68
	%	60.5%	57.7%	71.3%	62.8%	57.9%	57.4%	62.1%	58.9%	60.0%	59.4%	59.6%
4. 同居（近居）家族が協力的だったこと	N	190	43	93	326	51	71	44	166	26	46	72
	%	61.1%	60.6%	72.1%	63.8%	67.1%	75.5%	66.7%	70.3%	52.0%	71.9%	63.2%
5. 独居等、同居家族がおらず、本人自身で意思決定ができたこと	N	14	2	2	18	9	4	5	18	4	0	4
	%	4.5%	2.8%	1.6%	3.5%	11.8%	4.3%	7.6%	7.6%	8.0%	0.0%	3.5%
6. 経済的な余裕があったこと	N	128	20	49	197	32	32	26	90	19	18	37
	%	41.2%	28.2%	38.0%	38.6%	42.1%	34.0%	39.4%	38.1%	38.0%	28.1%	32.5%
7. 経済的な余裕がなく、自宅以外の選択肢がなかったこと	N	24	6	11	41	15	10	6	31	3	9	12
	%	7.7%	8.5%	8.5%	8.0%	19.7%	10.6%	9.1%	13.1%	6.0%	14.1%	10.5%
8. 自宅が持家で家賃の負担がなかったこと	N	66	16	34	116	15	20	9	44	7	12	19
	%	21.2%	22.5%	26.4%	22.7%	19.7%	21.3%	13.6%	18.6%	14.0%	18.8%	16.7%
9. 自宅が持家で、バリアフリー改修が容易だったこと	N	19	3	11	33	3	2	6	11	4	3	7
	%	6.1%	4.2%	8.5%	6.5%	3.9%	2.1%	9.1%	4.7%	8.0%	4.7%	6.1%
10. もともと自宅がバリアフリーだったこと	N	29	4	9	42	12	10	6	28	10	3	13
	%	9.3%	5.6%	7.0%	8.2%	15.8%	10.6%	9.1%	11.9%	20.0%	4.7%	11.4%
11. がん等、予後予測が可能（短期的）な疾患だったこと	N	135	35	65	235	38	45	38	121	21	26	47
	%	43.4%	49.3%	50.4%	46.0%	50.0%	47.9%	57.6%	51.3%	42.0%	40.6%	41.2%
12. 認知症がなかった（軽かった）こと	N	76	21	20	117	20	32	17	69	11	13	24
	%	24.4%	29.6%	15.5%	22.9%	26.3%	34.0%	25.8%	29.2%	22.0%	20.3%	21.1%
13. 吸引等、家族介護力が必要な医療行為が必要なかったこと	N	85	16	36	137	23	22	20	65	17	18	35
	%	27.3%	22.5%	27.9%	26.8%	30.3%	23.4%	30.3%	27.5%	34.0%	28.1%	30.7%
14. 在宅医の特殊なスキルが必要（輸血等）な状態にならなかったこと	N	61	13	26	100	18	18	11	47	12	15	27
	%	19.6%	18.3%	20.2%	19.6%	23.7%	19.1%	16.7%	19.9%	24.0%	23.4%	23.7%
15. 本人や家族に自宅療養や自宅看取りのイメージの素地があったこと	N	95	16	38	149	24	22	19	65	13	28	41
	%	30.5%	22.5%	29.5%	29.2%	31.6%	23.4%	28.8%	27.5%	26.0%	43.8%	36.0%
16. その他	N	13	5	12	30	2	3	3	8	0	3	3
	%	4.2%	7.0%	9.3%	5.9%	2.6%	3.2%	4.5%	3.4%	0.0%	4.7%	2.6%
合計回答者数		311	71	129	511	76	94	66	236	50	64	114

A 退院後自宅復帰できたことに寄与した要因（最も寄与したもの）

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1. 本人の自宅への強い意志・こだわりがあったこと	N	98	23	43	164	19	34	15	68	19	19	38
	%	32.1%	34.3%	32.1%	32.4%	24.4%	36.6%	21.1%	28.1%	43.2%	31.7%	36.5%
2. 本人の希望を抑圧しない、周囲の人たちの態度・理解があったこと	N	67	16	27	110	14	19	17	50	13	9	22
	%	22.0%	23.9%	20.1%	21.7%	17.9%	20.4%	23.9%	20.7%	29.5%	15.0%	21.2%
3. 同居（近居）家族の介護力があったこと	N	87	18	23	128	19	16	13	48	10	9	19
	%	28.5%	26.9%	17.2%	25.3%	24.4%	17.2%	18.3%	19.8%	22.7%	15.0%	18.3%
4. 同居（近居）家族が協力的だったこと	N	68	11	26	105	18	23	17	58	5	12	17
	%	22.3%	16.4%	19.4%	20.8%	23.1%	24.7%	23.9%	24.0%	11.4%	20.0%	16.3%
5. 独居等、同居家族がおらず、本人自身で意思決定ができたこと	N	4	0	0	4	4	2	2	8	2	0	2
	%	1.3%	0.0%	0.0%	0.8%	5.1%	2.2%	2.8%	3.3%	4.5%	0.0%	1.9%
6. 経済的な余裕があったこと	N	33	4	7	44	7	5	3	15	2	3	5
	%	10.8%	6.0%	5.2%	8.7%	9.0%	5.4%	4.2%	6.2%	4.5%	5.0%	4.8%
7. 経済的な余裕がなく、自宅以外の選択肢がなかったこと	N	10	1	3	14	8	5	3	16	3	3	6
	%	3.3%	1.5%	2.2%	2.8%	10.3%	5.4%	4.2%	6.6%	6.8%	5.0%	5.8%
8. 自宅が持家で家賃の負担がなかったこと	N	18	2	5	25	4	4	3	11	2	0	2
	%	5.9%	3.0%	3.7%	4.9%	5.1%	4.3%	4.2%	4.5%	4.5%	0.0%	1.9%
9. 自宅が持家で、バリアフリー改修が容易だったこと	N	2	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0
	%	0.7%	0.0%	0.7%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
10. もともと自宅がバリアフリーだったこと	N	6	0	1	7	3	1	0	4	0	1	1
	%	2.0%	0.0%	0.7%	1.4%	3.8%	1.1%	0.0%	1.7%	0.0%	1.7%	1.0%
11. がん等、予後予測が可能（短期的）な疾患だったこと	N	33	12	7	52	6	10	12	28	5	5	10
	%	10.8%	17.9%	5.2%	10.3%	7.7%	10.8%	16.9%	11.6%	11.4%	8.3%	9.6%
12. 認知症がなかった（軽かった）こと	N	10	3	2	15	4	4	1	9	1	2	3
	%	3.3%	4.5%	1.5%	3.0%	5.1%	4.3%	1.4%	3.7%	2.3%	3.3%	2.9%
13. 吸引等、家族介護力が必要な医療行為が必要なかったこと	N	16	4	2	22	4	5	1	10	3	1	4
	%	5.2%	6.0%	1.5%	4.3%	5.1%	5.4%	1.4%	4.1%	6.8%	1.7%	3.8%
14. 在宅医の特殊なスキルが必要（輸血等）な状態にならなかったこと	N	4	1	2	7	2	3	0	5	0	3	3
	%	1.3%	1.5%	1.5%	1.4%	2.6%	3.2%	0.0%	2.1%	0.0%	5.0%	2.9%
15. 本人や家族に自宅療養や自宅看取りのイメージの素地があったこと	N	12	3	9	24	5	2	4	11	3	4	7
	%	3.9%	4.5%	6.7%	4.7%	6.4%	2.2%	5.6%	4.5%	6.8%	6.7%	6.7%
16. その他	N	9	0	3	12	1	2	1	4	0	1	1
	%	3.0%	0.0%	2.2%	2.4%	1.3%	2.2%	1.4%	1.7%	0.0%	1.7%	1.0%
合計回答者数		305	67	134	506	78	93	71	242	44	60	104

B 最終的な自宅看取りの成功に寄与した要因（上位５つ）

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1. 本人の自宅への強い意志・こだわりがあったこと	N	157	36	68	261	31	52	35	118	21	24	45
	%	53.8%	52.2%	50.7%	52.7%	40.3%	55.9%	53.8%	50.2%	43.8%	38.7%	40.9%
2. 本人の希望を抑圧しない、周囲の人たちの態度・理解があったこと	N	201	47	88	336	52	65	43	160	31	40	71
	%	68.8%	68.1%	65.7%	67.9%	67.5%	69.9%	66.2%	68.1%	64.6%	64.5%	64.5%
3. 同居（近居）家族の介護力があったこと	N	197	49	94	340	47	56	39	142	25	40	65
	%	67.5%	71.0%	70.1%	68.7%	61.0%	60.2%	60.0%	60.4%	52.1%	64.5%	59.1%
4. 同居（近居）家族が協力的だったこと	N	194	48	106	348	54	71	48	173	31	47	78
	%	66.4%	69.6%	79.1%	70.3%	70.1%	76.3%	73.8%	73.6%	64.6%	75.8%	70.9%
5. 独居等、同居家族がおらず、本人自身で意思決定ができたこと	N	9	3	2	14	8	4	4	16	2		2
	%	3.1%	4.3%	1.5%	2.8%	10.4%	4.3%	6.2%	6.8%	4.2%	0.0%	1.8%
6. 経済的な余裕があったこと	N	114	23	43	180	31	31	21	83	19	17	36
	%	39.0%	33.3%	32.1%	36.4%	40.3%	33.3%	32.3%	35.3%	39.6%	27.4%	32.7%
7. 経済的な余裕がなく、自宅以外の選択肢がなかったこと	N	20	7	9	36	13	6	4	23	1	8	9
	%	6.8%	10.1%	6.7%	7.3%	16.9%	6.5%	6.2%	9.8%	2.1%	12.9%	8.2%
8. 自宅が持家で家賃の負担がなかったこと	N	49	14	30	93	13	19	6	38	9	11	20
	%	16.8%	20.3%	22.4%	18.8%	16.9%	20.4%	9.2%	16.2%	18.8%	17.7%	18.2%
9. 自宅が持家で、バリアフリー改修が容易だったこと	N	11	1	6	18	2	1	4	7	2		2
	%	3.8%	1.4%	4.5%	3.6%	2.6%	1.1%	6.2%	3.0%	4.2%	0.0%	1.8%
10. もともと自宅がバリアフリーだったこと	N	17	2	5	24	9	7	4	20	8	2	10
	%	5.8%	2.9%	3.7%	4.8%	11.7%	7.5%	6.2%	8.5%	16.7%	3.2%	9.1%
11. がん等、予後予測が可能（短期的）な疾患だったこと	N	147	36	67	250	37	41	41	119	22	30	52
	%	50.3%	52.2%	50.0%	50.5%	48.1%	44.1%	63.1%	50.6%	45.8%	48.4%	47.3%
12. 認知症がなかった（軽かった）こと	N	62	14	22	98	17	25	13	55	10	15	25
	%	21.2%	20.3%	16.4%	19.8%	22.1%	26.9%	20.0%	23.4%	20.8%	24.2%	22.7%
13. 吸引等、家族介護力が必要な医療行為が必要なかったこと	N	88	20	36	144	26	19	22	67	18	17	35
	%	30.1%	29.0%	26.9%	29.1%	33.8%	20.4%	33.8%	28.5%	37.5%	27.4%	31.8%
14. 在宅医の特殊なスキルが必要（輸血等）な状態にならなかったこと	N	64	15	29	108	20	24	17	61	14	19	33
	%	21.9%	21.7%	21.6%	21.8%	26.0%	25.8%	26.2%	26.0%	29.2%	30.6%	30.0%
15. 本人や家族に自宅療養や自宅看取りのイメージの素地があったこと	N	110	20	46	176	24	39	23	86	17	27	44
	%	37.7%	29.0%	34.3%	35.6%	31.2%	41.9%	35.4%	36.6%	35.4%	43.5%	40.0%
16. その他	N	21	3	13	37	1	6	4	11	1	5	6
	%	7.2%	4.3%	9.7%	7.5%	1.3%	6.5%	6.2%	4.7%	2.1%	8.1%	5.5%
合計回答者数		292	69	134	495	77	93	65	235	48	62	110

B 最終的な自宅看取りの成功に寄与した要因（最も寄与したもの）

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1. 本人の自宅への強い意志・こだわりがあったこと	N	64	9	23	96	12	27	11	50	11	8	19
	%	20.9%	13.4%	17.2%	18.9%	15.8%	27.8%	15.9%	20.7%	23.9%	13.8%	18.3%
2. 本人の希望を抑圧しない、周囲の人たちの態度・理解があったこと	N	65	15	26	106	17	17	15	49	14	12	26
	%	21.2%	22.4%	19.4%	20.9%	22.4%	17.5%	21.7%	20.2%	30.4%	20.7%	25.0%
3. 同居（近居）家族の介護力があったこと	N	107	19	34	160	20	22	18	60	14	9	23
	%	35.0%	28.4%	25.4%	31.6%	26.3%	22.7%	26.1%	24.8%	30.4%	15.5%	22.1%
4. 同居（近居）家族が協力的だったこと	N	76	14	36	126	21	29	20	70	8	12	20
	%	24.8%	20.9%	26.9%	24.9%	27.6%	29.9%	29.0%	28.9%	17.4%	20.7%	19.2%
5. 独居等、同居家族がおらず、本人自身で意思決定ができたこと	N	0	0	0	0	2	2	1	5	1		1
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%	2.1%	1.4%	2.1%	2.2%	0.0%	1.0%
6. 経済的な余裕があったこと	N	35	3	7	45	5	5	2	12	3	3	6
	%	11.4%	4.5%	5.2%	8.9%	6.6%	5.2%	2.9%	5.0%	6.5%	5.2%	5.8%
7. 経済的な余裕がなく、自宅以外の選択肢がなかったこと	N	5	1	2	8	5	3	2	10	3	4	7
	%	1.6%	1.5%	1.5%	1.6%	6.6%	3.1%	2.9%	4.1%	6.5%	6.9%	6.7%
8. 自宅が持家で家賃の負担がなかったこと	N	20	1	5	26	4	5	3	12	2	1	3
	%	6.5%	1.5%	3.7%	5.1%	5.3%	5.2%	4.3%	5.0%	4.3%	1.7%	2.9%
9. 自宅が持家で、バリアフリー改修が容易だったこと	N	2	0	0	2	0	0	0	0			
	%	0.7%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
10. もともと自宅がバリアフリーだったこと	N	6	0	0	6	2	1	0	3			
	%	2.0%	0.0%	0.0%	1.2%	2.6%	1.0%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%
11. がん等、予後予測が可能（短期的）な疾患だったこと	N	46	11	8	65	6	11	11	28	6	6	12
	%	15.0%	16.4%	6.0%	12.8%	7.9%	11.3%	15.9%	11.6%	13.0%	10.3%	11.5%
12. 認知症がなかった（軽かった）こと	N	6	2	1	9	4	3	1	8	1	3	4
	%	2.0%	3.0%	0.7%	1.8%	5.3%	3.1%	1.4%	3.3%	2.2%	5.2%	3.8%
13. 吸引等、家族介護力が必要な医療行為が必要なかったこと	N	21	9	2	32	7	3	3	13	5		5
	%	6.9%	13.4%	1.5%	6.3%	9.2%	3.1%	4.3%	5.4%	10.9%	0.0%	4.8%
14. 在宅医の特殊なスキルが必要（輸血等）な状態にならなかったこと	N	11	1	3	15	2	4	0	6	1	2	3
	%	3.6%	1.5%	2.2%	3.0%	2.6%	4.1%	0.0%	2.5%	2.2%	3.4%	2.9%
15. 本人や家族に自宅療養や自宅看取りのイメージの素地があったこと	N	19	3	10	32	6	6	5	17	3	6	9
	%	6.2%	4.5%	7.5%	6.3%	7.9%	6.2%	7.2%	7.0%	6.5%	10.3%	8.7%
16. その他	N	10	2	4	16	1	3	1	5		2	2
	%	3.3%	3.0%	3.0%	3.2%	1.3%	3.1%	1.4%	2.1%	0.0%	3.4%	1.9%
合計回答者数		306	67	134	507	76	97	69	242	46	58	104

問 5-1-1 居住地域の状態で、寄与したこと

A 退院後自宅復帰できたことに寄与した要因（上位 5 つ）

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1. 24 時間対応可能な在宅医が地域に多いこと	N	211	37	82	330	50	64	43	157	35	37	72
	%	72.8%	56.9%	64.1%	68.3%	64.1%	71.9%	67.2%	68.0%	77.8%	66.1%	71.3%
2. 病院の退院調整が早期かつ丁寧で、連携がよく機能していたこと	N	175	41	76	292	45	54	42	141	21	28	49
	%	60.3%	63.1%	59.4%	60.5%	57.7%	60.7%	65.6%	61.0%	46.7%	50.0%	48.5%
3. 24 時間対応可能な訪問看護ステーションが地域に多いこと	N	231	45	107	383	55	77	52	184	37	41	78
	%	79.7%	69.2%	83.6%	79.3%	70.5%	86.5%	81.3%	79.7%	82.2%	73.2%	77.2%
4. 24 時間対応可能な訪問介護事業所が地域に多いこと	N	38	8	22	68	16	14	8	38	10	2	12
	%	13.1%	12.3%	17.2%	14.1%	20.5%	15.7%	12.5%	16.5%	22.2%	3.6%	11.9%
5. 自宅看取りに習熟しているケアマネージャーが地域に多いこと	N	77	19	24	120	17	26	10	53	10	15	25
	%	26.6%	29.2%	18.8%	24.8%	21.8%	29.2%	15.6%	22.9%	22.2%	26.8%	24.8%
6. 在宅対応型の薬局が地域に多いこと	N	56	4	19	79	11	14	10	35	10	4	14
	%	19.3%	6.2%	14.8%	16.4%	14.1%	15.7%	15.6%	15.2%	22.2%	7.1%	13.9%
7. 急変時に受け入れ可能な後方支援病床が地域に多いこと	N	70	13	48	131	22	25	11	58	13	16	29
	%	24.1%	20.0%	37.5%	27.1%	28.2%	28.1%	17.2%	25.1%	28.9%	28.6%	28.7%
8. 看取りの経験豊富な在宅医・訪問看護師が地域に多いこと	N	202	48	86	336	56	66	56	178	32	42	74
	%	69.7%	73.8%	67.2%	69.6%	71.8%	74.2%	87.5%	77.1%	71.1%	75.0%	73.3%
9. 疼痛コントロールが可能な在宅医が地域に多いこと	N	80	17	30	127	15	25	20	60	11	14	25
	%	27.6%	26.2%	23.4%	26.3%	19.2%	28.1%	31.3%	26.0%	24.4%	25.0%	24.8%
10. 医療・介護の他職種連携や相互交流が活発な地域だったこと	N	110	29	56	195	33	34	25	92	20	29	49
	%	37.9%	44.6%	43.8%	40.4%	42.3%	38.2%	39.1%	39.8%	44.4%	51.8%	48.5%
11. 行政が医療介護連携強化（研修や交流の場づくり等）に積極的なこと	N	47	10	13	70	15	5	12	32	14	7	21
	%	16.2%	15.4%	10.2%	14.5%	19.2%	5.6%	18.8%	13.9%	31.1%	12.5%	20.8%
12. 自宅での療養や看取りの文化や認識が昔から一般的な地域であること	N	24	8	14	46	3	6	4	13	3	9	12
	%	8.3%	12.3%	10.9%	9.5%	3.8%	6.7%	6.3%	5.6%	6.7%	16.1%	11.9%
13. 自宅療養や看取りに関する住民向け啓発活動が盛んな地域であること	N	19	3	2	24	7	3	4	14	3	4	7
	%	6.6%	4.6%	1.6%	5.0%	9.0%	3.4%	6.3%	6.1%	6.7%	7.1%	6.9%
14. 隣近所の互助やボランティア組織による生活支援が充実していること	N	10	1	2	13	5	1	5	11	0	0	0
	%	3.4%	1.5%	1.6%	2.7%	6.4%	1.1%	7.8%	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%
15. 行政による住宅改修補助等の各種支援施策が充実していること	N	13	0	11	24	1	5	1	7	3	1	4
	%	4.5%	0.0%	8.6%	5.0%	1.3%	5.6%	1.6%	3.0%	6.7%	1.8%	4.0%
16. その他	N	5	7	5	17	0	2	2	4	0	2	2
	%	1.7%	10.8%	3.9%	3.5%	0.0%	2.2%	3.1%	1.7%	0.0%	3.6%	2.0%
合計回答者数		290	65	128	483	78	89	64	231	45	56	101

A 退院後自宅復帰できたことに寄与した要因（最も寄与したもの）

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1. 24 時間対応可能な在宅医が地域に多いこと	N	90	14	47	151	15	25	15	55	14	12	26
	%	31.6%	22.6%	39.5%	32.4%	21.7%	28.4%	22.1%	24.4%	35.9%	21.8%	27.7%
2. 病院の退院調整が早期かつ丁寧で、連携がよく機能していたこと	N	70	17	29	116	19	22	14	55	12	11	23
	%	24.6%	27.4%	24.4%	24.9%	27.5%	25.0%	20.6%	24.4%	30.8%	20.0%	24.5%
3. 24 時間対応可能な訪問看護ステーションが地域に多いこと	N	79	12	19	110	16	23	18	57	6	8	14
	%	27.7%	19.4%	16.0%	23.6%	23.2%	26.1%	26.5%	25.3%	15.4%	14.5%	14.9%
4. 24 時間対応可能な訪問介護事業所が地域に多いこと	N	5	1	3	9	1	2	0	3	0	0	0
	%	1.8%	1.6%	2.5%	1.9%	1.4%	2.3%	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%
5. 自宅看取りに習熟しているケアマネージャーが地域に多いこと	N	21	3	0	24	1	7	1	9	1	0	1
	%	7.4%	4.8%	0.0%	5.2%	1.4%	8.0%	1.5%	4.0%	2.6%	0.0%	1.1%
6. 在宅対応型の薬局が地域に多いこと	N	6	0	0	6	4	2	0	6	2	0	2
	%	2.1%	0.0%	0.0%	1.3%	5.8%	2.3%	0.0%	2.7%	5.1%	0.0%	2.1%
7. 急変時に受け入れ可能な後方支援病床が地域に多いこと	N	14	1	3	18	0	2	1	3	4	1	5
	%	4.9%	1.6%	2.5%	3.9%	0.0%	2.3%	1.5%	1.3%	10.3%	1.8%	5.3%
8. 看取りの経験豊富な在宅医・訪問看護師が地域に多いこと	N	76	14	17	107	20	25	22	67	7	12	19
	%	26.7%	22.6%	14.3%	23.0%	29.0%	28.4%	32.4%	29.8%	17.9%	21.8%	20.2%
9. 疼痛コントロールが可能な在宅医が地域に多いこと	N	12	2	1	15	4	4	1	9	1	3	4
	%	4.2%	3.2%	0.8%	3.2%	5.8%	4.5%	1.5%	4.0%	2.6%	5.5%	4.3%
10. 医療・介護の他職種連携や相互交流が活発な地域だったこと	N	15	6	8	29	3	8	9	20	8	5	13
	%	5.3%	9.7%	6.7%	6.2%	4.3%	9.1%	13.2%	8.9%	20.5%	9.1%	13.8%
11. 行政が医療介護連携強化（研修や交流の場づくり等）に積極的なこと	N	7	2	5	14	2	1	3	6	3	1	4
	%	2.5%	3.2%	4.2%	3.0%	2.9%	1.1%	4.4%	2.7%	7.7%	1.8%	4.3%
12. 自宅での療養や看取りの文化や認識が昔から一般的な地域であること	N	6	2	1	9	0	0	2	2	1	3	4
	%	2.1%	3.2%	0.8%	1.9%	0.0%	0.0%	2.9%	0.9%	2.6%	5.5%	4.3%
13. 自宅療養や看取りに関する住民向け啓発活動が盛んな地域であること	N	1	0	0	1	0	0	1	1	0	1	1
	%	0.4%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	1.5%	0.4%	0.0%	1.8%	1.1%
14. 隣近所の互助やボランティア組織による生活支援が充実していること	N	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1	2
	%	0.0%	0.0%	0.8%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%	1.8%	2.1%
15. 行政による住宅改修補助等の各種支援施策が充実していること	N	1	0	1	2	0	0	0	0	1	2	3
	%	0.4%	0.0%	0.8%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%	3.6%	3.2%
16. その他	N	2	3	5	10	0	0	1	1	1	2	3
	%	0.7%	4.8%	4.2%	2.1%	0.0%	0.0%	1.5%	0.4%	2.6%	3.6%	3.2%
合計回答者数		285	62	119	466	69	88	68	225	39	55	94

B 最終的な自宅看取りの成功に寄与した要因（上位５つ）

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.24 時間対応可能な在宅医が地域に多いこと	N	217	37	86	340	53	78	45	176	34	37	71
	%	75.6%	55.2%	67.2%	70.5%	71.6%	85.7%	71.4%	77.2%	72.3%	66.1%	68.9%
2.病院の退院調整が早期かつ丁寧で、連携がよく機能していたこと	N	120	31	57	208	32	43	27	102	13	22	35
	%	41.8%	46.3%	44.5%	43.2%	43.2%	47.3%	42.9%	44.7%	27.7%	39.3%	34.0%
3.24 時間対応可能な訪問看護ステーションが地域に多いこと	N	234	48	108	390	55	77	57	189	41	41	82
	%	81.5%	71.6%	84.4%	80.9%	74.3%	84.6%	90.5%	82.9%	87.2%	73.2%	79.6%
4.24 時間対応可能な訪問介護事業所が地域に多いこと	N	38	8	21	67	17	15	8	40	9	2	11
	%	13.2%	11.9%	16.4%	13.9%	23.0%	16.5%	12.7%	17.5%	19.1%	3.6%	10.7%
5.自宅看取りに習熟しているケアマネージャーが地域に多いこと	N	81	17	28	126	18	35	9	62	14	14	28
	%	28.2%	25.4%	21.9%	26.1%	24.3%	38.5%	14.3%	27.2%	29.8%	25.0%	27.2%
6.在宅対応型の薬局が地域に多いこと	N	53	7	18	78	10	13	10	33	9	4	13
	%	18.5%	10.4%	14.1%	16.2%	13.5%	14.3%	15.9%	14.5%	19.1%	7.1%	12.6%
7.急変時に受け入れ可能な後方支援病床が地域に多いこと	N	69	13	47	129	18	19	12	49	9	15	24
	%	24.0%	19.4%	36.7%	26.8%	24.3%	20.9%	19.0%	21.5%	19.1%	26.8%	23.3%
8.看取りの経験豊富な在宅医・訪問看護師が地域に多いこと	N	215	48	93	356	56	76	57	189	36	44	80
	%	74.9%	71.6%	72.7%	73.9%	75.7%	83.5%	90.5%	82.9%	76.6%	78.6%	77.7%
9.疼痛コントロールが可能な在宅医が地域に多いこと	N	86	19	31	136	15	31	22	68	16	16	32
	%	30.0%	28.4%	24.2%	28.2%	20.3%	34.1%	34.9%	29.8%	34.0%	28.6%	31.1%
10.医療・介護の他職種連携や相互交流が活発な地域だったこと	N	102	27	58	187	29	38	30	97	16	16	32
	%	35.5%	40.3%	45.3%	38.8%	39.2%	41.8%	47.6%	42.5%	34.0%	28.6%	31.1%
11.行政が医療介護連携強化（研修や交流の場づくり等）に積極的なこと	N	47	10	16	73	12	4	10	26	19	30	49
	%	16.4%	14.9%	12.5%	15.1%	16.2%	4.4%	15.9%	11.4%	40.4%	53.6%	47.6%
12.自宅での療養や看取りの文化や認識が昔から一般的な地域であること	N	22	10	17	49	5	4	4	13	11	7	18
	%	7.7%	14.9%	13.3%	10.2%	6.8%	4.4%	6.3%	5.7%	23.4%	12.5%	17.5%
13.自宅療養や看取りに関する住民向け啓発活動が盛んな地域であること	N	18	3	3	24	5	2	5	12	4	8	12
	%	6.3%	4.5%	2.3%	5.0%	6.8%	2.2%	7.9%	5.3%	8.5%	14.3%	11.7%
14.隣近所の互助やボランティア組織による生活支援が充実していること	N	8	1	2	11	3		4	7	2	4	6
	%	2.8%	1.5%	1.6%	2.3%	4.1%	0.0%	6.3%	3.1%	4.3%	7.1%	5.8%
15.行政による住宅改修補助等の各種支援施策が充実していること	N	10		7	17		4	1	5	1	0	1
	%	3.5%	0.0%	5.5%	3.5%	0.0%	4.4%	1.6%	2.2%	2.1%	0.0%	1.0%
16.その他	N	7	9	6	22		1	2	3	0	2	2
	%	2.4%	13.4%	4.7%	4.6%	0.0%	1.1%	3.2%	1.3%	0.0%	3.6%	1.9%
合計回答者数		287	67	128	482	74	91	63	228	47	56	103

B 最終的な自宅看取りの成功に寄与した要因（最も寄与したもの）

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.24 時間対応可能な在宅医が地域に多いこと	N	99	17	46	162	22	27	16	65	12	14	26
	%	34.4%	27.0%	37.7%	34.2%	31.9%	29.3%	23.9%	28.5%	29.3%	26.4%	27.7%
2.病院の退院調整が早期かつ丁寧で、連携がよく機能していたこと	N	32	9	14	55	2	9	7	18	6	5	11
	%	11.1%	14.3%	11.5%	11.6%	2.9%	9.8%	10.4%	7.9%	14.6%	9.4%	11.7%
3.24 時間対応可能な訪問看護ステーションが地域に多いこと	N	87	15	28	130	19	24	19	62	11	9	20
	%	30.2%	23.8%	23.0%	27.5%	27.5%	26.1%	28.4%	27.2%	26.8%	17.0%	21.3%
4.24 時間対応可能な訪問介護事業所が地域に多いこと	N	4	1	1	6	2	3		5			
	%	1.4%	1.6%	0.8%	1.3%	2.9%	3.3%	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%
5.自宅看取りに習熟しているケアマネージャーが地域に多いこと	N	14	2		16	1	6	1	8	1		1
	%	4.9%	3.2%	0.0%	3.4%	1.4%	6.5%	1.5%	3.5%	2.4%	0.0%	1.1%
6.在宅対応型の薬局が地域に多いこと	N	6			6	2	3		5	2		2
	%	2.1%	0.0%	0.0%	1.3%	2.9%	3.3%	0.0%	2.2%	4.9%	0.0%	2.1%
7.急変時に受け入れ可能な後方支援病床が地域に多いこと	N	11	1	3	15	1	4	2	7	3		3
	%	3.8%	1.6%	2.5%	3.2%	1.4%	4.3%	3.0%	3.1%	7.3%	0.0%	3.2%
8.看取りの経験豊富な在宅医・訪問看護師が地域に多いこと	N	103	21	31	155	28	40	26	94	13	20	33
	%	35.8%	33.3%	25.4%	32.8%	40.6%	43.5%	38.8%	41.2%	31.7%	37.7%	35.1%
9.疼痛コントロールが可能な在宅医が地域に多いこと	N	19	2	1	22	3	6		9	4	2	6
	%	6.6%	3.2%	0.8%	4.7%	4.3%	6.5%	0.0%	3.9%	9.8%	3.8%	6.4%
10.医療・介護の他職種連携や相互交流が活発な地域だったこと	N	17	1	6	24	3	10	9	22	6	4	10
	%	5.9%	1.6%	4.9%	5.1%	4.3%	10.9%	13.4%	9.6%	14.6%	7.5%	10.6%
11.行政が医療介護連携強化（研修や交流の場づくり等）に積極的なこと	N	10	1	4	15	3	2	3	8	4		4
	%	3.5%	1.6%	3.3%	3.2%	4.3%	2.2%	4.5%	3.5%	9.8%	0.0%	4.3%
12.自宅での療養や看取りの文化や認識が昔から一般的な地域であること	N	5	1	1	7	1		1	2		2	2
	%	1.7%	1.6%	0.8%	1.5%	1.4%	0.0%	1.5%	0.9%	0.0%	3.8%	2.1%
13.自宅療養や看取りに関する住民向け啓発活動が盛んな地域であること	N	1			1			1	1			
	%	0.3%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	1.5%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%
14.隣近所の互助やボランティア組織による生活支援が充実していること	N			1	1							
	%	0.0%	0.0%	0.8%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
15.行政による住宅改修補助等の各種支援施策が充実していること	N			1	1							
	%	0.0%	0.0%	0.8%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
16.その他	N	2	6	6	14			1	1	1	2	3
	%	0.7%	9.5%	4.9%	3.0%	0.0%	0.0%	1.5%	0.4%	2.4%	3.8%	3.2%
合計回答者数		288	63	122	473	69	92	67	228	41	53	94

【B-2 票】

問１　基本情報

①性別

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
男性	N	152	48	83	283	51	48	50	149	29	32	61
	%	51.0%	64.9%	57.2%	54.7%	60.0%	48.5%	69.4%	58.2%	55.8%	50.0%	52.6%
女性	N	146	26	62	234	34	51	22	107	23	32	55
	%	49.0%	35.1%	42.8%	45.3%	40.0%	51.5%	30.6%	41.8%	44.2%	50.0%	47.4%
合計	N	298	74	145	517	85	99	72	256	52	64	116
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

②年齢

②-1 退院時の年

	全国			横浜			任意抽出	
	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出
度数	290	74	136	81	94	68	49	63
平均値	83.02	83.47	82.25	81.49	82.07	83.18	80.96	81.48
中央値	83	85	81	82	82	82	82	82
標準偏差	8.81	7.77	6.51	7.81	7.97	7.69	8.41	9.40
最小値	7	61	64	56	45	59	56	52
最大値	102	102	99	96	99	101	101	101

②-1 在宅療養中

	全国			横浜			任意抽出	
	①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出
度数	289	73	135	82	95	71	49	63
平均値	83.78	84.11	83.36	82.45	82.81	84.13	82.39	82.05
中央値	84	85	83	83	83	83	84	83
標準偏差	9.01	7.79	6.67	7.88	7.90	7.91	8.56	9.42
最小値	7	61	64	56	45	59	57	52
最大値	103	102	99	98	99	101	104	103

③退院後に戻った本人の自宅の状況

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
本人持家・戸建住宅	N	222	63	120	405	53	55	44	152	31	55	86
	%	73.8%	82.9%	83.9%	78.0%	63.1%	56.7%	61.1%	60.1%	59.6%	87.3%	74.8%
本人持家・マンション等集合住宅	N	22	6	6	34	11	23	11	45	12	0	12
	%	7.3%	7.9%	4.2%	6.6%	13.1%	23.7%	15.3%	17.8%	23.1%	0.0%	10.4%
本人賃貸・戸建住宅	N	5	1	3	9	2	1	1	4	0	2	2
	%	1.7%	1.3%	2.1%	1.7%	2.4%	1.0%	1.4%	1.6%	0.0%	3.2%	1.7%
本人賃貸・アパート等集合住宅	N	45	4	11	60	18	17	13	48	9	6	15
	%	15.0%	5.3%	7.7%	11.6%	21.4%	17.5%	18.1%	19.0%	17.3%	9.5%	13.0%
不明	N	6	2	3	11	0	1	3	4	0	0	0
	%	2.0%	2.6%	2.1%	2.1%	0.0%	1.0%	4.2%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	N	301	76	143	519	84	97	72	253	52	63	115
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

④自宅のバリアフリー状況

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
玄関までの通路や屋内生活導線中に段差がない	N	80	9	21	110	17	26	17	60	17	7	24
	%	27.9%	13.0%	15.3%	22.3%	22.4%	27.7%	23.6%	33.0%	33.3%	11.1%	21.1%
玄関までの通路や屋内生活導線中に段差がある	N	207	60	116	383	59	68	55	182	34	56	90
	%	72.1%	87.0%	84.7%	77.7%	77.6%	72.3%	76.4%	75.2%	66.7%	88.9%	78.9%
合計	N	287	69	137	493	76	94	72	242	51	63	114
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問２　退院時～自宅復帰時の情報
問２－１病状･病態について
①在宅サービス提供のきっかけとなった入院の原因主傷病名

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.感染症および寄生中症	N	4	0	2	6	2	0	1	3	0	1	1
	%	1.3%	0.0%	1.4%	1.1%	2.4%	0.0%	1.4%	1.2%	0.0%	1.3%	0.7%
2.新生物	N	62	22	35	119	23	24	11	58	17	14	31
	%	20.5%	28.6%	24.5%	22.8%	27.4%	24.5%	14.9%	22.7%	26.0%	19.2%	22.5%
3.血液および造血器疾患ならびに免疫機構の障害	N	7	1	3	11	3	0	1	4	1	0	1
	%	2.3%	1.3%	2.1%	2.1%	3.6%	0.0%	1.4%	1.6%	2.7%	0.0%	1.3%
4.内分泌、栄養および代謝疾患	N	6	1	1	8	2	2	3	7	1	1	2
	%	2.0%	1.3%	0.7%	1.5%	2.4%	2.0%	4.1%	2.7%	2.7%	1.3%	2.0%
5.精神および行動の障害	N	9	1	3	13	0	4	2	6	2	4	6
	%	3.0%	1.3%	2.1%	2.5%	0.0%	4.1%	2.7%	2.3%	2.7%	5.1%	4.0%
6.神経系の疾患	N	7	2	2	11	1	2	1	4	1	2	3
	%	2.3%	2.6%	1.4%	2.1%	1.2%	2.0%	1.4%	1.6%	1.4%	2.6%	2.0%
7.眼および付属器の疾患、耳および乳様突起の疾患	N	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0
	%	0.0%	1.3%	0.0%	0.2%	0.0%	1.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%
8.循環器系の疾患	N	21	6	6	33	4	10	4	18	5	4	9
	%	7.0%	7.8%	4.2%	6.3%	4.8%	10.2%	5.4%	7.0%	8.2%	5.1%	6.6%
9.呼吸器系の疾患	N	34	8	10	52	7	8	10	25	6	3	9
	%	11.3%	10.4%	7.0%	10.0%	8.3%	8.2%	13.5%	9.8%	12.3%	5.1%	8.6%
10.消化器系の疾患	N	8	1	3	12	3	2	2	7	3	1	4
	%	2.6%	1.3%	2.1%	2.3%	3.6%	2.0%	2.7%	2.7%	4.1%	2.6%	3.3%
11.皮膚および皮下組織の疾患	N	2	0	1	3	0	0	1	1	0	0	0
	%	0.7%	0.0%	0.7%	0.6%	0.0%	0.0%	1.4%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%
12.筋骨格系および結合組織の疾患	N	14	4	1	19	0	5	1	6	0	0	0
	%	4.6%	5.2%	0.7%	3.6%	0.0%	5.1%	1.4%	2.3%	4.1%	0.0%	2.0%
13.腎尿路性器系の疾患	N	2	1	5	8	0	1	0	1	1	0	1
	%	0.7%	1.3%	3.5%	1.5%	0.0%	1.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%
14.損傷、中毒およびその他の外因の影響	N	2	0	2	4	1	0	0	1	1	0	1
	%	0.7%	0.0%	1.4%	0.8%	1.2%	0.0%	0.0%	0.4%	2.7%	0.0%	1.3%
15.その他	N	6	2	1	9	3	0	1	4	2	6	8
	%	2.0%	2.6%	0.7%	1.7%	3.6%	0.0%	1.4%	1.6%	5.5%	9.0%	7.3%
16.悪性新生物	N	102	21	57	180	34	26	25	85	18	24	42
	%	33.8%	27.3%	39.9%	34.5%	40.5%	26.5%	33.8%	33.2%	35.6%	42.3%	39.1%
17.認知症	N	3	3	3	9	1	1	1	3	0	1	1
	%	1.0%	3.9%	2.1%	1.7%	1.2%	1.0%	1.4%	1.2%	1.4%	1.3%	1.3%
18.パーキンソン病・パーキンソン病関連疾患	N	2	1	2	5	2	1	0	3	1	1	2
	%	0.7%	1.3%	1.4%	1.0%	2.4%	1.0%	0.0%	1.2%	1.4%	1.3%	1.3%
19.脳卒中	N	11	2	4	17	0	7	6	13	4	2	6
	%	3.6%	2.6%	2.8%	3.3%	0.0%	7.1%	8.1%	5.1%	6.8%	2.6%	4.6%
20.急性心筋梗塞または狭心症	N	4	1	1	6	1	3	1	5	2	1	3
	%	1.3%	1.3%	0.7%	1.1%	1.2%	3.1%	1.4%	2.0%	2.7%	1.3%	2.0%
21.急性心不全	N	12	1	6	19	2	3	4	9	3	1	4
	%	4.0%	1.3%	4.2%	3.6%	2.4%	3.1%	5.4%	3.5%	5.5%	2.6%	4.0%
22.肺炎（誤嚥性肺炎を含む）	N	24	4	5	33	1	11	6	18	2	4	6
	%	7.9%	5.2%	3.5%	6.3%	1.2%	11.2%	8.1%	7.0%	2.7%	6.4%	4.6%
23.COPD	N	9	4	5	18	3	1	4	8	1	0	1
	%	3.0%	5.2%	3.5%	3.4%	3.6%	1.0%	5.4%	3.1%	1.4%	2.6%	2.0%
24.胆のう炎・胆管炎	N	2	1	0	3	0	1	0	1	1	0	1
	%	0.7%	1.3%	0.0%	0.6%	0.0%	1.0%	0.0%	0.4%	1.4%	0.0%	0.7%
25.イレウス	N	2	0	0	2	0	0	0	0	1	0	1
	%	0.7%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%	0.0%	0.7%
26.尿路感染症	N	0	1	0	1	2	2	1	5	0	0	0
	%	0.0%	1.3%	0.0%	0.2%	2.4%	2.0%	1.4%	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%
27.下肢・骨盤の骨折	N	4	1	3	8	3	3	1	7	1	1	2
	%	1.3%	1.3%	2.1%	1.5%	3.6%	3.1%	1.4%	2.7%	1.4%	1.3%	1.3%
28.以外の骨折	N	4	1	3	8	0	0	0	0	0	0	0
	%	1.3%	1.3%	2.1%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計回答者数		302	77	143	522	84	98	74	256	51	63	114

②退院後、自宅復帰に必要な医療

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.インシュリン等自己注射	N	14	7	2	23	5	2	2	9	1	2	3
	%	5.9%	6.9%	3.6%	5.8%	7.8%	2.5%	4.0%	4.7%	2.6%	3.9%	3.4%
2.中心静脈栄養	N	17	9	4	30	4	5	4	13	4	7	11
	%	7.2%	8.8%	7.1%	7.6%	6.3%	6.3%	8.0%	6.7%	10.5%	13.7%	12.4%
3.経鼻胃管栄養	N	5	3		8	1	1		2	1		1
	%	2.1%	2.9%	0.0%	2.0%	1.6%	1.3%	0.0%	1.0%	2.6%	0.0%	1.1%
4.透析（血液・腹膜）	N	11	1	2	14	1	4		5	1	1	2
	%	4.6%	1.0%	3.6%	3.5%	1.6%	5.1%	0.0%	2.6%	2.6%	2.0%	2.2%
5.胃ろう、腸ろう	N	12	2	2	16	4	6	4	14		4	4
	%	5.1%	2.0%	3.6%	4.1%	6.3%	7.6%	8.0%	7.3%	0.0%	7.8%	4.5%
6.人工肛門	N	11	5	3	19	7	3	4	14	2	2	4
	%	4.6%	4.9%	5.4%	4.8%	10.9%	3.8%	8.0%	7.3%	5.3%	3.9%	4.5%
7.酸素療法	N	50	24	6	80	14	17	11	42	9	6	15
	%	21.1%	23.5%	10.7%	20.3%	21.9%	21.5%	22.0%	21.8%	23.7%	11.8%	16.9%
8.気管切開の処置	N	2	2		4		1	1	2			
	%	0.8%	2.0%	0.0%	1.0%	0.0%	1.3%	2.0%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%
9.人工呼吸器の管理	N	4	3		7	3	1		4	1		1
	%	1.7%	2.9%	0.0%	1.8%	4.7%	1.3%	0.0%	2.1%	2.6%	0.0%	1.1%
10.疼痛管理	N	73	45	28	146	18	26	12	56	14	18	32
	%	30.8%	44.1%	50.0%	37.0%	28.1%	32.9%	24.0%	29.0%	36.8%	35.3%	36.0%
11.褥瘡の管理	N	44	17	10	71	13	17	13	43	10	12	22
	%	18.6%	16.7%	17.9%	18.0%	20.3%	21.5%	26.0%	22.3%	26.3%	23.5%	24.7%
12.リハビリ	N	47	24	12	83	15	22	18	55	6	10	16
	%	19.8%	23.5%	21.4%	21.0%	23.4%	27.8%	36.0%	28.5%	15.8%	19.6%	18.0%
13.留置カテーテル	N	30	16	8	54	9	9	7	25	5	9	14
	%	12.7%	15.7%	14.3%	13.7%	14.1%	11.4%	14.0%	13.0%	13.2%	17.6%	15.7%
14.喀痰吸引	N	27	16	4	47	10	11	7	28	4	6	10
	%	11.4%	15.7%	7.1%	11.9%	15.6%	13.9%	14.0%	14.5%	10.5%	11.8%	11.2%
15.輸血	N	1	3	1	5	1	1		2			
	%	0.4%	2.9%	1.8%	1.3%	1.6%	1.3%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%
16.その他	N	26	10	2	38	3	5	6	14	2	4	6
	%	11.0%	9.8%	3.6%	9.6%	4.7%	6.3%	12.0%	7.3%	5.3%	7.8%	6.7%
合計回答者数		237	102	56	395	64	79	50	193	38	51	89

③-1 認知症の状況

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
認知症なし	N	137	30	71	238	51	54	32	137	32	36	68
	%	45.8%	41.1%	50.7%	46.5%	61.4%	56.8%	43.8%	54.6%	61.5%	57.1%	59.1%
認知症あり	N	162	43	69	274	32	41	41	114	20	27	47
	%	54.2%	58.9%	49.3%	53.5%	38.6%	43.2%	56.2%	45.4%	38.5%	42.9%	40.9%
合計	N	299	73	140	512	83	95	73	251	52	63	115
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

③-2 認知症生活自立度の状況

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
自立	N	44	12	21	77	20	24	7	51	11	11	22
	%	19.1%	19.7%	19.4%	19.3%	32.3%	33.3%	12.7%	27.0%	30.6%	23.9%	26.8%
Ⅰ	N	38	11	19	68	13	14	10	37	6	5	11
	%	16.5%	18.0%	17.6%	17.0%	21.0%	19.4%	18.2%	19.6%	16.7%	10.9%	13.4%
Ⅱb	N	37	6	19	62	9	6	8	23	3	6	9
	%	16.1%	9.8%	17.6%	15.5%	14.5%	8.3%	14.5%	12.2%	8.3%	13.0%	11.0%
Ⅱb	N	26	14	13	53	6	5	6	17	4	12	16
	%	11.3%	23.0%	12.0%	13.3%	9.7%	6.9%	10.9%	9.0%	11.1%	26.1%	19.5%
Ⅲa	N	40	10	15	65	9	6	11	26	6	5	11
	%	17.4%	16.4%	13.9%	16.3%	14.5%	8.3%	20.0%	13.8%	16.7%	10.9%	13.4%
Ⅲb	N	16	2	9	27	2	6	7	15	2	3	5
	%	7.0%	3.3%	8.3%	6.8%	3.2%	8.3%	12.7%	7.9%	5.6%	6.5%	6.1%
Ⅳ	N	24	5	9	38	3	8	5	16	3	2	5
	%	10.4%	8.2%	8.3%	9.5%	4.8%	11.1%	9.1%	8.5%	8.3%	4.3%	6.1%
M	N	2	0	3	5	0	3	1	4	1	1	2
	%	0.9%	0.0%	2.8%	1.3%	0.0%	4.2%	1.8%	2.1%	2.8%	2.2%	2.4%
不明	N	3	1	0	4	0	0	0	0	0	1	1
	%	1.3%	1.6%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%	1.2%
合計	N	230	61	108	399	62	72	55	189	36	46	82
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

④退院後、自宅での療養を開始した際の要介護度

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
要支援１	N	3	0	3	6	2	1	1	4	0	1	1
	%	1.0%	0.0%	2.1%	1.2%	2.4%	1.0%	1.4%	1.6%	0.0%	1.6%	0.9%
要支援２	N	9	2	4	15	5	5	1	11	1	3	4
	%	3.0%	2.7%	2.8%	2.9%	6.0%	5.1%	1.4%	4.3%	1.9%	4.8%	3.5%
要介護１	N	46	13	28	87	12	11	7	30	8	10	18
	%	15.5%	17.3%	19.7%	16.9%	14.5%	11.2%	9.6%	11.8%	15.4%	16.1%	15.8%
要介護２	N	60	13	29	102	16	27	23	66	13	14	27
	%	20.2%	17.3%	20.4%	19.8%	19.3%	27.6%	31.5%	26.0%	25.0%	22.6%	23.7%
要介護３	N	66	15	22	103	11	17	7	35	13	10	23
	%	22.2%	20.0%	15.5%	20.0%	13.3%	17.3%	9.6%	13.8%	25.0%	16.1%	20.2%
要介護４	N	52	24	27	103	21	17	12	50	7	8	15
	%	17.5%	32.0%	19.0%	20.0%	25.3%	17.3%	16.4%	19.7%	13.5%	12.9%	13.2%
要介護５	N	57	7	24	88	13	19	20	52	10	13	23
	%	19.2%	9.3%	16.9%	17.1%	15.7%	19.4%	27.4%	20.5%	19.2%	21.0%	20.2%
非該当	N	4	1	5	10	3	1	2	6	0	3	3
	%	1.3%	1.3%	3.5%	1.9%	3.6%	1.0%	2.7%	2.4%	0.0%	4.8%	2.6%
合計	N	297	75	142	514	83	98	73	254	52	62	114
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑤同時点での障害高齢者の日常生活自立度

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
自立	N	10	3	4	17	6	5	2	13	5	2	7
	%	3.4%	4.1%	2.8%	3.3%	7.3%	5.3%	2.8%	5.2%	9.6%	3.2%	6.1%
J1	N	6	1	3	10	4	5	4	13	3	1	4
	%	2.0%	1.4%	2.1%	1.9%	4.9%	5.3%	5.6%	5.2%	5.8%	1.6%	3.5%
J2	N	18	0	8	26	8	3	3	14	3	3	6
	%	6.1%	0.0%	5.6%	5.1%	9.8%	3.2%	4.2%	5.6%	5.8%	4.8%	5.2%
A1	N	29	4	12	45	6	7	10	23	5	9	14
	%	9.8%	5.4%	8.3%	8.8%	7.3%	7.4%	13.9%	9.2%	9.6%	14.3%	12.2%
A2	N	62	23	38	123	13	25	13	51	8	7	15
	%	20.9%	31.1%	26.4%	23.9%	15.9%	26.3%	18.1%	20.5%	15.4%	11.1%	13.0%
B1	N	49	12	31	92	11	17	11	39	4	10	14
	%	16.6%	16.2%	21.5%	17.9%	13.4%	17.9%	15.3%	15.7%	7.7%	15.9%	12.2%
B2	N	59	15	21	95	11	12	14	37	8	12	20
	%	19.9%	20.3%	14.6%	18.5%	13.4%	12.6%	19.4%	14.9%	15.4%	19.0%	17.4%
C1	N	33	4	12	49	13	13	10	36	9	11	20
	%	11.1%	5.4%	8.3%	9.5%	15.9%	13.7%	13.9%	14.5%	17.3%	17.5%	17.4%
C2	N	26	11	12	49	9	8	5	22	7	8	15
	%	8.8%	14.9%	8.3%	9.5%	11.0%	8.4%	6.9%	8.8%	13.5%	12.7%	13.0%
不明	N	4	1	3	8	1	0	0	1	0	0	0
	%	1.4%	1.4%	2.1%	1.6%	1.2%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	N	296	74	144	514	82	95	72	249	52	63	115
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑥同時点における ADL

A 移動

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
自立	N	39	6	17	62	16	14	7	37	8	6	14
	%	12.8%	7.8%	11.7%	11.8%	18.8%	14.1%	9.5%	14.3%	15.1%	9.5%	12.1%
見守り	N	70	21	44	135	16	24	14	54	9	14	23
	%	23.0%	27.3%	30.3%	25.7%	18.8%	24.2%	18.9%	20.9%	17.0%	22.2%	19.8%
一部介助	N	99	23	43	165	26	33	31	90	20	17	37
	%	32.6%	29.9%	29.7%	31.4%	30.6%	33.3%	41.9%	34.9%	37.7%	27.0%	31.9%
全介助	N	95	27	41	163	27	28	22	77	16	26	42
	%	31.3%	35.1%	28.3%	31.0%	31.8%	28.3%	29.7%	29.8%	30.2%	41.3%	36.2%
不明	N	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	%	0.3%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	N	304	77	145	526	85	99	74	258	53	63	116
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

B 食事

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
自立	N	93	17	48	158	28	32	18	78	17	21	38
	%	30.4%	22.1%	33.1%	29.9%	32.9%	32.3%	24.3%	30.2%	32.1%	32.8%	32.5%
見守り	N	82	25	39	146	22	23	18	63	14	15	29
	%	26.8%	32.5%	26.9%	27.7%	25.9%	23.2%	24.3%	24.4%	26.4%	23.4%	24.8%
一部介助	N	74	23	35	132	21	24	26	71	13	18	31
	%	24.2%	29.9%	24.1%	25.0%	24.7%	24.2%	35.1%	27.5%	24.5%	28.1%	26.5%
全介助	N	55	11	23	89	14	19	12	45	8	10	18
	%	18.0%	14.3%	15.9%	16.9%	16.5%	19.2%	16.2%	17.4%	15.1%	15.6%	15.4%
不明	N	2	1	0	3	0	1	0	1	1	0	1
	%	0.7%	1.3%	0.0%	0.6%	0.0%	1.0%	0.0%	0.4%	1.9%	0.0%	0.9%
合計	N	306	77	145	528	85	99	74	258	53	64	117
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

C 排泄

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
自立	N	67	8	32	107	24	20	14	58	12	13	25
	%	22.0%	10.4%	22.1%	20.3%	28.2%	20.2%	18.9%	22.5%	22.6%	20.3%	21.4%
見守り	N	42	15	23	80	8	21	10	39	10	9	19
	%	13.8%	19.5%	15.9%	15.2%	9.4%	21.2%	13.5%	15.1%	18.9%	14.1%	16.2%
一部介助	N	103	28	51	182	26	28	24	78	17	18	35
	%	33.8%	36.4%	35.2%	34.5%	30.6%	28.3%	32.4%	30.2%	32.1%	28.1%	29.9%
全介助	N	93	26	39	158	27	30	26	83	14	24	38
	%	30.5%	33.8%	26.9%	30.0%	31.8%	30.3%	35.1%	32.2%	26.4%	37.5%	32.5%
不明	N	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	N	305	77	145	527	85	99	74	258	53	64	117
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

D 入浴

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
自立	N	15	2	11	28	8	13	7	28	6	1	7
	%	4.9%	2.6%	7.6%	5.3%	9.4%	13.1%	9.5%	10.9%	11.3%	1.6%	6.0%
見守り	N	31	9	14	54	7	6	5	18	5	3	8
	%	10.2%	11.7%	9.7%	10.3%	8.2%	6.1%	6.8%	7.0%	9.4%	4.7%	6.8%
一部介助	N	116	28	60	204	33	34	25	92	19	28	47
	%	38.2%	36.4%	41.4%	38.8%	38.8%	34.3%	33.8%	35.7%	35.8%	43.8%	40.2%
全介助	N	137	37	60	234	36	45	36	117	23	30	53
	%	45.1%	48.1%	41.4%	44.5%	42.4%	45.5%	48.6%	45.3%	43.4%	46.9%	45.3%
不明	N	5	1	0	6	1	1	1	3	0	2	2
	%	1.6%	1.3%	0.0%	1.1%	1.2%	1.0%	1.4%	1.2%	0.0%	3.1%	1.7%
合計	N	304	77	145	526	85	99	74	258	53	64	117
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

E 着替え

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
自立	N	50	6	19	75	20	14	11	45	12	6	18
	%	16.3%	7.8%	13.1%	14.2%	23.5%	14.1%	14.9%	17.4%	22.6%	9.4%	15.4%
見守り	N	38	13	19	70	13	16	7	36	2	7	9
	%	12.4%	16.9%	13.1%	13.3%	15.3%	16.2%	9.5%	14.0%	3.8%	10.9%	7.7%
一部介助	N	120	34	73	227	31	39	34	104	22	29	51
	%	39.2%	44.2%	50.3%	43.0%	36.5%	39.4%	45.9%	40.3%	41.5%	45.3%	43.6%
全介助	N	98	24	34	156	21	30	22	73	17	22	39
	%	32.0%	31.2%	23.4%	29.5%	24.7%	30.3%	29.7%	28.3%	32.1%	34.4%	33.3%
不明	N	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	N	306	77	145	528	85	99	74	258	53	64	117
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問 2-2

①同居人の有無

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
あり	N	257	65	121	443	68	80	60	208	44	54	98
	%	84.0%	84.4%	83.4%	83.9%	80.0%	80.8%	81.1%	80.6%	83.0%	84.4%	83.8%
なし	N	49	12	24	85	17	19	14	50	9	10	19
	%	16.0%	15.6%	16.6%	16.1%	20.0%	19.2%	18.9%	19.4%	17.0%	15.6%	16.2%
合計	N	306	77	145	528	85	99	74	258	53	64	117
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

②同居人のカテゴリ

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1. 配偶者	N	146	37	76	259	43	49	39	131	31	41	72
	%	47.7%	48.1%	52.4%	49.1%	50.6%	49.5%	52.7%	50.8%	58.5%	64.1%	61.5%
2. 娘	N	73	16	30	119	19	25	19	63	16	13	29
	%	23.9%	20.8%	20.7%	22.5%	22.4%	25.3%	25.7%	24.4%	30.2%	20.3%	24.8%
3. 息子	N	81	28	41	150	22	22	18	62	14	19	33
	%	26.5%	36.4%	28.3%	28.4%	25.9%	22.2%	24.3%	24.0%	26.4%	29.7%	28.2%
4. 子供の配偶者	N	43	21	31	95	11	15	20	46	4	11	15
	%	14.1%	27.3%	21.4%	18.0%	12.9%	15.2%	27.0%	17.8%	7.5%	17.2%	12.8%
5. 孫	N	38	12	24	74	8	13	16	37	4	5	9
	%	12.4%	15.6%	16.6%	14.0%	9.4%	13.1%	21.6%	14.3%	7.5%	7.8%	7.7%
6. 親戚	N	4	0	1	5	3	1	1	5	0	0	0
	%	1.3%	0.0%	0.7%	0.9%	3.5%	1.0%	1.4%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%
7. 友人	N	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
8. その他	N	10	4	5	19	2	1	2	5	1	2	3
	%	3.3%	5.2%	3.4%	3.6%	2.4%	1.0%	2.7%	1.9%	1.9%	3.1%	2.6%
合計回答者数		306	77	145	528	85	99	74	258	53	64	117

③主たる介護者

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
配偶者	N	122	33	64	219	34	42	29	105	24	31	55
	%	40.8%	44.0%	44.8%	42.4%	42.0%	42.9%	40.8%	42.0%	47.1%	50.8%	49.1%
娘	N	80	15	38	133	17	29	19	65	18	13	31
	%	26.8%	20.0%	26.6%	25.7%	21.0%	29.6%	26.8%	26.0%	35.3%	21.3%	27.7%
息子	N	47	11	16	74	14	13	9	36	5	6	11
	%	15.7%	14.7%	11.2%	14.3%	17.3%	13.3%	12.7%	14.4%	9.8%	9.8%	9.8%
子供の配偶者	N	23	7	14	44	3	5	6	14	2	8	10
	%	7.7%	9.3%	9.8%	8.5%	3.7%	5.1%	8.5%	5.6%	3.9%	13.1%	8.9%
孫	N	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	2.1%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
親戚	N	9	3	2	14	6	4	3	13	0	1	1
	%	3.0%	4.0%	1.4%	2.7%	7.4%	4.1%	4.2%	5.2%	0.0%	1.6%	0.9%
友人	N	2	2	1	5	1	1	1	3	0	1	1
	%	0.7%	2.7%	0.7%	1.0%	1.2%	1.0%	1.4%	1.2%	0.0%	1.6%	0.9%
介護不要（本人自立のため）	N	3	1	0	4	2	3	1	6	0	0	0
	%	1.0%	1.3%	0.0%	0.8%	2.5%	3.1%	1.4%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	N	13	3	5	21	4	1	3	8	2	1	3
	%	4.3%	4.0%	3.5%	4.1%	4.9%	1.0%	4.2%	3.2%	3.9%	1.6%	2.7%
合計	N	299	75	143	517	81	98	71	250	51	61	112
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

④主たる介護者との同居の有無

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
同居	N	231	60	108	399	65	72	57	194	38	51	89
	%	76.2%	81.1%	75.5%	76.7%	81.3%	75.8%	83.8%	79.8%	74.5%	83.6%	79.5%
近距離別居（30分以内で行き来が可能）	N	40	9	26	75	6	10	7	23	7	8	15
	%	13.2%	12.2%	18.2%	14.4%	7.5%	10.5%	10.3%	9.5%	13.7%	13.1%	13.4%
遠距離別居（往復に30分以上）	N	32	5	9	46	9	13	4	26	6	2	8
	%	10.6%	6.8%	6.3%	8.8%	11.3%	13.7%	5.9%	10.7%	11.8%	3.3%	7.1%
合計	N	303	74	143	520	80	95	68	243	51	61	112
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑤主たる介護者の就労の有無

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
就労あり（フルタイム）	N	64	9	26	99	22	19	12	53	13	9	22
	%	22.0%	12.9%	18.7%	19.8%	28.9%	21.3%	18.2%	22.9%	26.0%	16.1%	20.8%
就労あり（パート）	N	41	8	24	73	13	13	7	33	4	9	13
	%	14.1%	11.4%	17.3%	14.6%	17.1%	14.6%	10.6%	14.3%	8.0%	16.1%	12.3%
就労なし	N	182	53	86	321	41	55	47	143	32	37	69
	%	62.5%	75.7%	61.9%	64.2%	53.9%	61.8%	71.2%	61.9%	64.0%	66.1%	65.1%
不明	N	4	0	3	7	0	2	0	2	1	1	2
	%	1.4%	0.0%	2.2%	1.4%	0.0%	2.2%	0.0%	0.9%	2.0%	1.8%	1.9%
合計	N	291	70	139	500	76	89	66	231	50	56	106
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問 2-3　本人の自宅復帰に関する意思決定

①本人が自宅復帰を希望したことについての聴取の状況

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
本人は意志疎通可能な状態で、本人の希望を直接（自身、もしくは他の医療・介護のスタッフが）聞いた	N	210	56	101	367	56	61	39	156	40	48	88
	%	69.3%	73.7%	70.1%	70.2%	65.9%	61.6%	52.7%	60.5%	75.5%	75.0%	75.2%
本人は意思疎通可能な状態であったが、本人の意向は家族から間接的聞いた	N	52	12	28	92	21	26	23	70	9	8	17
	%	17.2%	15.8%	19.4%	17.6%	24.7%	26.3%	31.1%	27.1%	17.0%	12.5%	14.5%
本人は意思疎通困難な状態だったので、聴取はできていない（家族や病院スタッフ等が証言する本人の過去の言動等から、本人の自宅復帰の希望が明らかであると推察した）	N	41	8	15	64	8	12	12	32	4	8	12
	%	13.5%	10.5%	10.4%	12.2%	9.4%	12.1%	16.2%	12.4%	7.5%	12.5%	10.3%
合計	N	303	76	144	523	85	99	74	258	53	64	117
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

②家族の本人の退院後の行先に関する意向

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
家族としても、本人が自宅に戻ることを望んでいた	N	179	46	71	296	40	57	41	138	32	33	65
	%	58.9%	60.5%	50.4%	56.8%	47.6%	57.6%	56.2%	53.9%	60.4%	51.6%	55.6%
家族としてはどちらでもよかったが、本人が自宅を希望するのであれば応援したいと思っていた	N	76	16	44	136	26	26	15	67	15	19	34
	%	25.0%	21.1%	31.2%	26.1%	31.0%	26.3%	20.5%	26.2%	28.3%	29.7%	29.1%
家族としては本人の自宅復帰に消極的だが、本人の希望が強いので、認めざるを得ない状況だった	N	42	11	25	78	14	12	12	38	6	10	16
	%	13.8%	14.5%	17.7%	15.0%	16.7%	12.1%	16.4%	14.8%	11.3%	15.6%	13.7%
そもそも家族はいなかった	N	7	3	1	11	4	4	5	13	0	2	2
	%	2.3%	3.9%	0.7%	2.1%	4.8%	4.0%	6.8%	5.1%	0.0%	3.1%	1.7%
合計	N	304	76	141	521	84	99	73	256	53	64	117
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

③退院時の本人の希望の性質

③-1 自宅復帰の希望形成の背景

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
A（本人の強いこだわり）	N	118	35	65	218	35	36	24	95	20	27	47
	%	43.4%	48.6%	51.2%	46.3%	44.3%	40.9%	35.3%	40.4%	41.7%	45.0%	43.5%
ややA	N	99	25	46	170	26	38	28	92	21	24	45
	%	36.4%	34.7%	36.2%	36.1%	32.9%	43.2%	41.2%	39.1%	43.8%	40.0%	41.7%
ややB	N	39	9	10	58	11	9	8	28	5	4	9
	%	14.3%	12.5%	7.9%	12.3%	13.9%	10.2%	11.8%	11.9%	10.4%	6.7%	8.3%
B（家族等周囲の方のこだわり）	N	16	3	6	25	7	5	8	20	2	5	7
	%	5.9%	4.2%	4.7%	5.3%	8.9%	5.7%	11.8%	8.5%	4.2%	8.3%	6.5%
合計	N	272	72	127	471	79	88	68	235	48	60	108
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

③-2 本人の自宅復帰希望の背景となる感情

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
A（住み慣れた自宅に戻りたい）	N	139	41	79	259	41	46	34	121	29	38	67
	%	51.1%	57.7%	61.7%	55.0%	51.9%	52.3%	50.7%	51.7%	58.0%	63.3%	60.9%
ややA	N	97	23	30	150	29	33	21	83	14	17	31
	%	35.7%	32.4%	23.4%	31.8%	36.7%	37.5%	31.3%	35.5%	28.0%	28.3%	28.2%
ややB	N	21	4	10	35	4	6	6	16	5	2	7
	%	7.7%	5.6%	7.8%	7.4%	5.1%	6.8%	9.0%	6.8%	10.0%	3.3%	6.4%
B（病院や入院生活への拒絶感）	N	15	3	9	27	5	3	6	14	2	3	5
	%	5.5%	4.2%	7.0%	5.7%	6.3%	3.4%	9.0%	6.0%	4.0%	5.0%	4.5%
合計	N	272	71	128	471	79	88	67	234	50	60	110
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

③-3 本人の自宅復帰の希望と経済力の関係

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
A（本人の強いこだわり）	N	104	22	49	175	28	35	27	90	17	22	39
	%	38.7%	31.0%	38.9%	37.6%	35.9%	38.9%	39.1%	38.0%	34.0%	37.3%	35.8%
ややA	N	77	31	38	146	21	32	19	72	25	18	43
	%	28.6%	43.7%	30.2%	31.3%	26.9%	35.6%	27.5%	30.4%	50.0%	30.5%	39.4%
ややB	N	55	14	27	96	18	15	16	49	6	12	18
	%	20.4%	19.7%	21.4%	20.6%	23.1%	16.7%	23.2%	20.7%	12.0%	20.3%	16.5%
B（経済的に自宅以外に選択肢がなかった）	N	33	4	12	49	11	8	7	26	2	7	9
	%	12.3%	5.6%	9.5%	10.5%	14.1%	8.9%	10.1%	11.0%	4.0%	11.9%	8.3%
合計	N	269	71	126	466	78	90	69	237	50	59	109
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

③-4 サービス提供者が自宅へ頻繁に訪問しに来ることに対する本人の意識

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
A（自宅への訪問には全く抵抗がなかった）	N	113	36	65	214	50	43	35	128	20	31	51
	%	42.0%	50.7%	50.8%	45.7%	63.3%	48.3%	50.7%	54.0%	40.0%	51.7%	46.4%
ややA	N	85	11	38	134	12	24	19	55	17	18	35
	%	31.6%	15.5%	29.7%	28.6%	15.2%	27.0%	27.5%	23.2%	34.0%	30.0%	31.8%
ややB	N	58	14	18	90	13	17	12	42	9	8	17
	%	21.6%	19.7%	14.1%	19.2%	16.5%	19.1%	17.4%	17.7%	18.0%	13.3%	15.5%
B（抵抗感があった）	N	13	10	7	30	4	5	3	12	4	3	7
	%	4.8%	14.1%	5.5%	6.4%	5.1%	5.6%	4.3%	5.1%	8.0%	5.0%	6.4%
合計	N	269	71	128	468	79	89	69	237	50	60	110
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

③-5 本人の希望における自宅復帰と自宅看取りの関係

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
A（自宅看取りまで明確に想定していた）	N	23	4	21	48	11	12	7	30	6	7	13
	%	8.5%	5.6%	16.4%	10.2%	13.9%	13.5%	10.1%	12.7%	12.0%	11.7%	11.8%
ややA	N	47	15	20	82	12	19	15	46	7	15	22
	%	17.3%	20.8%	15.6%	17.4%	15.2%	21.3%	21.7%	19.4%	14.0%	25.0%	20.0%
ややB	N	91	24	27	142	21	31	23	75	15	13	28
	%	33.5%	33.3%	21.1%	30.1%	26.6%	34.8%	33.3%	31.6%	30.0%	21.7%	25.5%
B（看取り場所までは明確に想定していなかった）	N	111	29	60	200	35	27	24	86	22	25	47
	%	40.8%	40.3%	46.9%	42.4%	44.3%	30.3%	34.8%	36.3%	44.0%	41.7%	42.7%
合計	N	272	72	128	472	79	89	69	237	50	60	110
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

③-6 急変時・増悪時の対応イメージ

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
A（入院は絶対にしない）	N	20	9	9	38	7	2	3	12	5	4	9
	%	7.1%	12.7%	6.8%	7.9%	8.5%	2.2%	4.2%	4.9%	10.2%	6.7%	8.3%
ややA	N	28	5	12	45	7	12	8	27	5	6	11
	%	10.0%	7.0%	9.0%	9.3%	8.5%	12.9%	11.3%	11.0%	10.2%	10.0%	10.1%
ややB	N	59	14	29	102	11	25	14	50	7	16	23
	%	21.1%	19.7%	21.8%	21.1%	13.4%	26.9%	19.7%	20.3%	14.3%	26.7%	21.1%
B（必要に応じて一時的な入院はあり得る）	N	173	43	83	299	57	54	46	157	32	34	66
	%	61.8%	60.6%	62.4%	61.8%	69.5%	58.1%	64.8%	63.8%	65.3%	56.7%	60.6%
合計	N	280	71	133	484	82	93	71	246	49	60	109
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問 2-4　自宅のバリアフリーの状況

①退院時、自宅のバリアフリー環境

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
バリアフリー環境に関しては問題ない状態だったので、そのまま退院となった	N	120	31	52	203	35	40	24	99	25	15	40
	%	39.5%	40.8%	36.1%	38.7%	42.2%	40.4%	32.4%	38.7%	47.2%	23.8%	34.5%
バリアフリー環境が不十分だったので、住宅改修を行って環境を改善し、退院となった	N	45	14	23	82	9	17	13	39	6	14	20
	%	14.8%	18.4%	16.0%	15.6%	10.8%	17.2%	17.6%	15.2%	11.3%	22.2%	17.2%
バリアフリー環境が不十分だったが、そのまま退院となった	N	139	31	69	239	39	42	37	118	22	34	56
	%	45.7%	40.8%	47.9%	45.6%	47.0%	42.4%	50.0%	46.1%	41.5%	54.0%	48.3%
合計	N	304	76	144	524	83	99	74	256	53	63	116
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

②不十分だった住宅の要素

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.生活導線の中でどうしても階段や段差が介在する	N	133	33	80	246	38	49	37	124	7	13	20
	%	73.9%	76.7%	89.9%	78.8%	79.2%	84.5%	74.0%	79.5%	58.3%	81.3%	71.4%
2.廊下等に手すりがない	N	79	18	40	137	23	22	24	69	3	9	12
	%	43.9%	41.9%	44.9%	43.9%	47.9%	37.9%	48.0%	44.2%	25.0%	56.3%	42.9%
3.お風呂がバリアフリーになっていない	N	87	17	38	142	21	24	18	63	4	9	13
	%	48.3%	39.5%	42.7%	45.5%	43.8%	41.4%	36.0%	40.4%	33.3%	56.3%	46.4%
4.トイレがバリアフリーになっていない	N	69	12	31	112	19	17	11	47	5	6	11
	%	38.3%	27.9%	34.8%	35.9%	39.6%	29.3%	22.0%	30.1%	41.7%	37.5%	39.3%
5.ベッド等の寝る場所がバリアフリーになっていない	N	43	7	16	66	12	16	4	32	2	7	9
	%	23.9%	16.3%	18.0%	21.2%	25.0%	27.6%	8.0%	20.5%	16.7%	43.8%	32.1%
6.その他	N	9	5	7	21	5	5	7	17	1	0	1
	%	5.0%	11.6%	7.9%	6.7%	10.4%	8.6%	14.0%	10.9%	8.3%	0.0%	3.6%
合計回答者数		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問３　自宅療養の終了に至るまでの本人の状態・周辺状況の変化に関する情報

問 3-1 身体状態の変化

①自宅復帰時と比べて追加で増えた医療処置

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.インシュリン等自己注射	N	5	0	2	7	0	1	1	2	1	1	2
	%	2.8%	0.0%	2.5%	2.4%	0.0%	1.5%	2.4%	1.3%	3.1%	2.8%	2.9%
2.中心静脈栄養	N	9	7	10	26	0	3	3	6	1	6	7
	%	5.1%	17.5%	12.5%	8.8%	0.0%	4.6%	7.1%	3.8%	3.1%	16.7%	10.3%
3.経鼻胃管栄養	N	3	1	2	6	1	1	1	3	1	2	3
	%	1.7%	2.5%	2.5%	2.0%	2.0%	1.5%	2.4%	1.9%	3.1%	5.6%	4.4%
4.透析（血液・腹膜）	N	3	0	0	3	0	2	0	2	0	0	0
	%	1.7%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%	3.1%	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%
5.胃ろう、腸ろう	N	6	0	1	7	1	2	2	5	0	0	0
	%	3.4%	0.0%	1.3%	2.4%	2.0%	3.1%	4.8%	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%
6.人工肛門	N	1	1	1	3	1	0	0	1	1	1	2
	%	0.6%	2.5%	1.3%	1.0%	2.0%	0.0%	0.0%	0.6%	3.1%	2.8%	2.9%
7.酸素療法	N	52	13	14	79	12	14	13	39	9	8	17
	%	29.5%	32.5%	17.5%	26.7%	24.5%	21.5%	31.0%	25.0%	28.1%	22.2%	25.0%
8.気管切開処置	N	2	0	0	2	1	0	1	2	0	0	0
	%	1.1%	0.0%	0.0%	0.7%	2.0%	0.0%	2.4%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%
9.人工呼吸器の管理	N	0	2	1	3	3	0	0	3	0	0	0
	%	0.0%	5.0%	1.3%	1.0%	6.1%	0.0%	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%
10.疼痛管理	N	57	21	33	111	12	27	11	50	14	13	27
	%	32.4%	52.5%	41.3%	37.5%	24.5%	41.5%	26.2%	32.1%	43.8%	36.1%	39.7%
11.褥瘡の管理	N	36	7	24	67	10	21	9	40	9	8	17
	%	20.5%	17.5%	30.0%	22.6%	20.4%	32.3%	21.4%	25.6%	28.1%	22.2%	25.0%
12.リハビリ	N	27	5	11	43	1	7	7	15	7	9	16
	%	15.3%	12.5%	13.8%	14.5%	2.0%	10.8%	16.7%	9.6%	21.9%	25.0%	23.5%
13.留置カテーテル	N	13	5	9	27	5	7	7	19	3	4	7
	%	7.4%	12.5%	11.3%	9.1%	10.2%	10.8%	16.7%	12.2%	9.4%	11.1%	10.3%
14.喀痰吸引	N	28	8	11	47	6	17	9	32	4	5	9
	%	15.9%	20.0%	13.8%	15.9%	12.2%	26.2%	21.4%	20.5%	12.5%	13.9%	13.2%
15.輸血	N	6	1	4	11	2	1	1	4		1	1
	%	3.4%	2.5%	5.0%	3.7%	4.1%	1.5%	2.4%	2.6%	0.0%	2.8%	1.5%
16.その他	N	19	3	7	29	12	8	7	27	4	7	11
	%	10.8%	7.5%	8.8%	9.8%	24.5%	12.3%	16.7%	17.3%	12.5%	19.4%	16.2%
合計回答者数		176	40	80	296	49	65	42	156	32	36	68

①-2 その中で特に自宅療養の終了に直接的な影響を与えた医療行為

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.インシュリン等自己注射	N	3	1	1	5	1	2	2	5	0	1	1
	%	3.1%	4.2%	1.9%	2.9%	3.1%	5.1%	8.3%	5.3%	0.0%	4.0%	2.6%
2.中心静脈栄養	N	5	4	2	11	1	0	2	3	0	1	1
	%	5.2%	16.7%	3.7%	6.3%	3.1%	0.0%	8.3%	3.2%	0.0%	4.0%	2.6%
3.経鼻胃管栄養	N	2	1	1	4	0	1	0	1	0	2	2
	%	2.1%	4.2%	1.9%	2.3%	0.0%	2.6%	0.0%	1.1%	0.0%	8.0%	5.3%
4.透析（血液・腹膜）	N	1	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0
	%	1.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	2.6%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%
5.胃ろう、腸ろう	N	4	0	1	5	3	3	2	8	0	0	0
	%	4.2%	0.0%	1.9%	2.9%	9.4%	7.7%	8.3%	8.4%	0.0%	0.0%	0.0%
6.人工肛門	N	0	0	0	0	1	0	0	1	1	1	2
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.1%	0.0%	0.0%	1.1%	7.7%	4.0%	5.3%
7.酸素療法	N	18	5	6	29	4	6	5	15	4	3	7
	%	18.8%	20.8%	11.1%	16.7%	12.5%	15.4%	20.8%	15.8%	30.8%	12.0%	18.4%
8.気管切開処置	N	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.1%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%
9.人工呼吸器の管理	N	0	2	0	2	1	0	0	1	0	0	0
	%	0.0%	8.3%	0.0%	1.1%	3.1%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%
10.疼痛管理	N	28	10	22	60	7	13	5	25	7	11	18
	%	29.2%	41.7%	40.7%	34.5%	21.9%	33.3%	20.8%	26.3%	53.8%	44.0%	47.4%
11.褥瘡の管理	N	13	1	2	16	0	4	3	7	2	1	3
	%	13.5%	4.2%	3.7%	9.2%	0.0%	10.3%	12.5%	7.4%	15.4%	4.0%	7.9%
12.リハビリ	N	5	0	4	9	0	1	2	3	0	0	0
	%	5.2%	0.0%	7.4%	5.2%	0.0%	2.6%	8.3%	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%
13.留置カテーテル	N	3	1	2	6	0	1	1	2	0	0	0
	%	3.1%	4.2%	3.7%	3.4%	0.0%	2.6%	4.2%	2.1%	0.0%	0.0%	0.0%
14.喀痰吸引	N	17	4	12	33	6	7	6	19	0	4	4
	%	17.7%	16.7%	22.2%	19.0%	18.8%	17.9%	25.0%	20.0%	0.0%	16.0%	10.5%
15.輸血	N	3	0	2	5	3	0	0	3	0	1	1
	%	3.1%	0.0%	3.7%	2.9%	9.4%	0.0%	0.0%	3.2%	0.0%	4.0%	2.6%
16.その他	N	5	1	4	10	7	4	2	13	0	1	1
	%	5.2%	4.2%	7.4%	5.7%	21.9%	10.3%	8.3%	13.7%	0.0%	4.0%	2.6%
合計回答者数		96	24	54	174	32	39	24	95	13	25	38

②-1 認知症の状況

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
依然、認知症なし	N	129	25	70	224	40	47	30	117	31	31	62
	%	56.1%	49.0%	63.1%	57.1%	58.8%	61.0%	56.6%	59.1%	73.8%	59.6%	66.0%
療養中に認知症発症	N	101	26	41	168	28	30	23	81	11	21	32
	%	43.9%	51.0%	36.9%	42.9%	41.2%	39.0%	43.4%	40.9%	26.2%	40.4%	34.0%
合計	N	230	51	111	392	68	77	53	198	42	52	94
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

②-2 最終的な認知症生活自立度の状況

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
自立	N	39	8	16	63	14	13	6	33	11	16	27
	%	17.7%	13.8%	16.3%	16.8%	23.7%	19.1%	11.5%	18.4%	29.7%	30.2%	30.0%
Ⅰ	N	27	8	16	51	8	10	12	30	8	2	10
	%	12.3%	13.8%	16.3%	13.6%	13.6%	14.7%	23.1%	16.8%	21.6%	3.8%	11.1%
Ⅱb	N	29	6	8	43	4	5	5	14	1	4	5
	%	13.2%	10.3%	8.2%	11.4%	6.8%	7.4%	9.6%	7.8%	2.7%	7.5%	5.6%
Ⅱb	N	27	13	16	56	7	7	4	18	3	11	14
	%	12.3%	22.4%	16.3%	14.9%	11.9%	10.3%	7.7%	10.1%	8.1%	20.8%	15.6%
Ⅲa	N	32	8	14	54	11	10	13	34	5	8	13
	%	14.5%	13.8%	14.3%	14.4%	18.6%	14.7%	25.0%	19.0%	13.5%	15.1%	14.4%
Ⅲb	N	20	7	10	37	3	5	6	14	1	5	6
	%	9.1%	12.1%	10.2%	9.8%	5.1%	7.4%	11.5%	7.8%	2.7%	9.4%	6.7%
Ⅳ	N	26	6	12	44	8	13	4	25	6	4	10
	%	11.8%	10.3%	12.2%	11.7%	13.6%	19.1%	7.7%	14.0%	16.2%	7.5%	11.1%
M	N	9	0	4	13	2	3	1	6	1	1	2
	%	4.1%	0.0%	4.1%	3.5%	3.4%	4.4%	1.9%	3.4%	2.7%	1.9%	2.2%
不明	N	11	2	2	15	2	2	1	5	1	2	3
	%	5.0%	3.4%	2.0%	4.0%	3.4%	2.9%	1.9%	2.8%	2.7%	3.8%	3.3%
合計	N	220	58	98	376	59	68	52	179	37	53	90
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

②-3 認知症生活自立度の悪化と自宅療養終了の関係性

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
自宅療養終了の直接的な原因だった	N	6	2	3	11	4	3	1	8	1	0	1
	%	3.1%	4.3%	3.6%	3.4%	8.3%	5.2%	2.1%	5.2%	4.0%	0.0%	1.6%
自宅療養の終了に療養を与えた	N	26	7	11	44	9	13	8	30	5	9	14
	%	13.4%	14.9%	13.3%	13.6%	18.8%	22.4%	17.0%	19.6%	20.0%	23.1%	21.9%
自宅療養の終了とは関係がない（影響を与えていない）	N	145	32	60	237	30	36	32	98	16	25	41
	%	74.7%	68.1%	72.3%	73.1%	62.5%	62.1%	68.1%	64.1%	64.0%	64.1%	64.1%
不明	N	17	6	9	32	5	6	6	17	3	5	8
	%	8.8%	12.8%	10.8%	9.9%	10.4%	10.3%	12.8%	11.1%	12.0%	12.8%	12.5%
合計	N	194	47	83	324	48	58	47	153	25	39	64
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

③最終的な要介護度

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
要支援１	N	2	1	3	6	0	0	0	0	0	1	1
	%	0.7%	1.4%	2.1%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	0.9%
要支援２	N	5	2	1	8	2	4	0	6	0	3	3
	%	1.7%	2.7%	0.7%	1.6%	2.4%	4.2%	0.0%	2.4%	0.0%	4.8%	2.7%
要介護１	N	28	9	22	59	8	7	6	21	5	7	12
	%	9.5%	12.2%	15.3%	11.5%	9.6%	7.4%	8.5%	8.4%	10.2%	11.3%	10.8%
要介護２	N	52	9	27	88	15	19	15	49	9	10	19
	%	17.6%	12.2%	18.8%	17.2%	18.1%	20.0%	21.1%	19.7%	18.4%	16.1%	17.1%
要介護３	N	53	16	25	94	16	14	9	39	12	9	21
	%	18.0%	21.6%	17.4%	18.3%	19.3%	14.7%	12.7%	15.7%	24.5%	14.5%	18.9%
要介護４	N	71	25	28	124	25	20	14	59	11	14	25
	%	24.1%	33.8%	19.4%	24.2%	30.1%	21.1%	19.7%	23.7%	22.4%	22.6%	22.5%
要介護５	N	80	11	32	123	14	31	25	70	12	15	27
	%	27.1%	14.9%	22.2%	24.0%	16.9%	32.6%	35.2%	28.1%	24.5%	24.2%	24.3%
非該当	N	4	1	6	11	3	0	2	5	0	3	3
	%	1.4%	1.4%	4.2%	2.1%	3.6%	0.0%	2.8%	2.0%	0.0%	4.8%	2.7%
合計	N	295	74	144	513	83	95	71	249	49	62	111
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

④最終的な日常生活自立度

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
自立	N	2	2	0	4	4	3	0	7	1	1	2
	%	0.7%	2.8%	0.0%	0.8%	5.1%	3.2%	0.0%	2.9%	2.1%	1.6%	1.8%
J1	N	3	0	3	6	2	0	1	3	0	0	0
	%	1.0%	0.0%	2.2%	1.2%	2.5%	0.0%	1.4%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%
J2	N	9	0	0	9	0	2	2	4	2	3	5
	%	3.1%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	2.2%	2.8%	1.6%	4.2%	4.8%	4.5%
A1	N	10	0	4	14	3	3	4	10	1	2	3
	%	3.4%	0.0%	3.0%	2.8%	3.8%	3.2%	5.6%	4.1%	2.1%	3.2%	2.7%
A2	N	31	9	20	60	3	9	11	23	3	7	10
	%	10.7%	12.7%	14.8%	12.1%	3.8%	9.7%	15.5%	9.5%	6.3%	11.3%	9.1%
B1	N	41	11	22	74	11	7	11	29	8	6	14
	%	14.1%	15.5%	16.3%	14.9%	13.9%	7.5%	15.5%	11.9%	16.7%	9.7%	12.7%
B2	N	53	17	20	90	13	15	10	38	6	10	16
	%	18.3%	23.9%	14.8%	18.1%	16.5%	16.1%	14.1%	15.6%	12.5%	16.1%	14.5%
C1	N	59	11	30	100	22	32	18	72	14	19	33
	%	20.3%	15.5%	22.2%	20.2%	27.8%	34.4%	25.4%	29.6%	29.2%	30.6%	30.0%
C2	N	71	19	31	121	20	21	13	54	12	13	25
	%	24.5%	26.8%	23.0%	24.4%	25.3%	22.6%	18.3%	22.2%	25.0%	21.0%	22.7%
不明	N	11	2	5	18	1	1	1	3	1	1	2
	%	3.8%	2.8%	3.7%	3.6%	1.3%	1.1%	1.4%	1.2%	2.1%	1.6%	1.8%
合計	N	290	71	135	496	79	93	71	243	48	62	110
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑤-1 最終的なADL

A 移動

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
自立	N	7	4	3	14	3	4	0	7	4	2	6
	%	2.3%	5.3%	2.1%	2.7%	3.5%	4.0%	0.0%	2.7%	7.8%	3.1%	
見守り	N	25	2	13	40	7	6	7	20	1	6	7
	%	8.2%	2.6%	9.0%	7.6%	8.2%	6.1%	9.6%	7.8%	2.0%	9.4%	
一部介助	N	78	16	42	136	22	20	22	64	10	13	23
	%	25.5%	21.1%	29.2%	25.9%	25.9%	20.2%	30.1%	24.9%	19.6%	20.3%	
全介助	N	191	54	86	331	53	68	42	163	35	43	78
	%	62.4%	71.1%	59.7%	62.9%	62.4%	68.7%	57.5%	63.4%	68.6%	67.2%	
不明	N	5	0	0	5	0	1	2	3	1	0	1
	%	1.6%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%	1.0%	2.7%	1.2%	2.0%	0.0%	
合計	N	306	76	144	526	85	99	73	257	51	64	115
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

B 食事

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
自立	N	28	7	14	49	11	5	5	21	6	10	16
	%	9.2%	9.2%	9.7%	9.3%	12.9%	5.1%	6.9%	8.2%	11.8%	15.6%	13.9%
見守り	N	51	9	26	86	11	14	13	38	5	6	11
	%	16.7%	11.8%	17.9%	16.3%	12.9%	14.1%	18.1%	14.8%	9.8%	9.4%	9.6%
一部介助	N	84	28	43	155	23	26	21	70	19	17	36
	%	27.5%	36.8%	29.7%	29.4%	27.1%	26.3%	29.2%	27.3%	37.3%	26.6%	31.3%
全介助	N	139	31	60	230	38	52	30	120	19	30	49
	%	45.4%	40.8%	41.4%	43.6%	44.7%	52.5%	41.7%	46.9%	37.3%	46.9%	42.6%
不明	N	4	1	2	7	2	2	3	7	2	1	3
	%	1.3%	1.3%	1.4%	1.3%	2.4%	2.0%	4.2%	2.7%	3.9%	1.6%	2.6%
合計	N	306	76	145	527	85	99	72	256	51	64	115
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

C 排泄

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
自立	N	18	3	7	28	7	7	2	16	4	4	8
	%	5.9%	3.9%	4.8%	5.3%	8.2%	7.1%	2.8%	6.3%	7.8%	6.3%	7.0%
見守り	N	17	2	10	29	6	6	9	21	2	6	8
	%	5.6%	2.6%	6.9%	5.5%	7.1%	6.1%	12.5%	8.2%	3.9%	9.4%	7.0%
一部介助	N	80	22	41	143	17	18	18	53	14	10	24
	%	26.2%	28.9%	28.3%	27.2%	20.0%	18.2%	25.0%	20.7%	27.5%	15.6%	20.9%
全介助	N	187	49	87	323	55	67	40	162	30	43	73
	%	61.3%	64.5%	60.0%	61.4%	64.7%	67.7%	55.6%	63.3%	58.8%	67.2%	63.5%
不明	N	3	0	0	3	0	1	3	4	1	1	2
	%	1.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	1.0%	4.2%	1.6%	2.0%	1.6%	1.7%
合計	N	305	76	145	526	85	99	72	256	51	64	115
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

D 入浴

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
自立	N	2	2	3	7	1	2	0	3	3	1	4
	%	0.7%	2.6%	2.1%	1.3%	1.2%	2.0%	0.0%	1.2%	5.9%	1.6%	3.5%
見守り	N	8	2	5	15	4	2	3	9	0	2	2
	%	2.6%	2.6%	3.5%	2.9%	4.8%	2.0%	4.1%	3.5%	0.0%	3.2%	1.8%
一部介助	N	63	12	25	100	14	18	19	51	9	12	21
	%	20.7%	15.8%	17.6%	19.1%	16.9%	18.4%	26.0%	20.1%	17.6%	19.0%	18.4%
全介助	N	217	59	106	382	64	73	47	184	35	45	80
	%	71.1%	77.6%	74.6%	73.0%	77.1%	74.5%	64.4%	72.4%	68.6%	71.4%	70.2%
不明	N	15	1	3	19	0	3	4	7	4	3	7
	%	4.9%	1.3%	2.1%	3.6%	0.0%	3.1%	5.5%	2.8%	7.8%	4.8%	6.1%
合計	N	305	76	142	523	83	98	73	254	51	63	114
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

E 着替え

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
自立	N	14	4	6	24	4	3	2	9	4	2	6
	%	4.6%	5.3%	4.2%	4.6%	4.7%	3.0%	2.7%	3.5%	7.8%	3.1%	5.2%
見守り	N	12	1	9	22	3	3	8	14	1	2	3
	%	3.9%	1.3%	6.3%	4.2%	3.5%	3.0%	11.0%	5.4%	2.0%	3.1%	2.6%
一部介助	N	91	24	43	158	27	26	18	71	16	16	32
	%	29.7%	31.6%	29.9%	30.0%	31.8%	26.3%	24.7%	27.6%	31.4%	25.0%	27.8%
全介助	N	185	47	86	318	51	66	42	159	29	43	72
	%	60.5%	61.8%	59.7%	60.5%	60.0%	66.7%	57.5%	61.9%	56.9%	67.2%	62.6%
不明	N	4	0	0	4	0	1	3	4	1	1	2
	%	1.3%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	1.0%	4.1%	1.6%	2.0%	1.6%	1.7%
合計	N	306	76	144	526	85	99	73	257	51	64	115
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑤-2 特に在宅療養の終了に直接影響を与えた悪化項目

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
A:移動	N	73	21	35	129	24	24	15	63	15	12	27
	%	38.4%	48.8%	43.8%	41.2%	47.1%	45.3%	37.5%	43.8%	45.5%	23.5%	32.1%
B:食事	N	103	22	41	166	30	27	25	82	18	35	53
	%	54.2%	51.2%	51.3%	53.0%	58.8%	50.9%	62.5%	56.9%	54.5%	68.6%	63.1%
C:排泄	N	54	19	26	99	29	20	14	63	15	16	31
	%	28.4%	44.2%	32.5%	31.6%	56.9%	37.7%	35.0%	43.8%	45.5%	31.4%	36.9%
D:入浴	N	17	7	9	33	11	7	4	22	5	2	7
	%	8.9%	16.3%	11.3%	10.5%	21.6%	13.2%	10.0%	15.3%	15.2%	3.9%	8.3%
E:着替え	N	9	5	4	18	8	3	2	13	3	1	4
	%	4.7%	11.6%	5.0%	5.8%	15.7%	5.7%	5.0%	9.0%	9.1%	2.0%	4.8%
合計回答者数		190	43	80	313	51	53	40	144	33	51	84

⑥在宅療養終了に最も影響を与えた身体状況の推移の項目

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
医療依存度（喀痰吸引等を含む）の上昇	N	143	43	75	261	44	40	40	124	27	34	61
	%	49.3%	58.9%	56.0%	52.5%	53.0%	44.4%	55.6%	50.6%	57.4%	57.6%	57.5%
認知症の悪化	N	12	2	3	17	3	4	3	10	1	1	2
	%	4.1%	2.7%	2.2%	3.4%	3.6%	4.4%	4.2%	4.1%	2.1%	1.7%	1.9%
ADLの低下と身体介護必要量の増加	N	135	28	56	219	36	46	29	111	19	24	43
	%	46.6%	38.4%	41.8%	44.1%	43.4%	51.1%	40.3%	45.3%	40.4%	40.7%	40.6%
合計	N	290	73	134	497	83	90	72	245	47	59	106
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問 3-2 本人の看取りへ向けた意思決定について

①在宅療養終了に至る、本人の意思の変化の聴取状況

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
本人の意思の変化を直接（自身、もしくは他の医療・介護スタッフが）聞いた	N	94	22	43	159	28	34	15	77	20	22	42
	%	31.2%	29.7%	31.2%	31.0%	33.7%	34.3%	20.5%	30.2%	39.2%	35.5%	37.2%
本人の意思の変化を聞いた家族から、間接的に聞いた	N	91	21	38	150	25	30	30	85	14	17	31
	%	30.2%	28.4%	27.5%	29.2%	30.1%	30.3%	41.1%	33.3%	27.5%	27.4%	27.4%
本人の意思疎通は困難になってしまったため、聴取はできていない	N	116	31	57	204	30	35	28	93	17	23	40
	%	38.5%	41.9%	41.3%	39.8%	36.1%	35.4%	38.4%	36.5%	33.3%	37.1%	35.4%
合計	N	301	74	138	513	83	99	73	255	51	62	113
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

②在宅療養終了に至る本人の意思の変化に関し、最も近いもの

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
退院時と変わらず、本人は自宅での療養を望んでいた	N	68	14	38	120	19	29	16	64	9	14	23
	%	22.4%	18.7%	26.4%	22.9%	22.4%	29.3%	22.2%	25.0%	17.6%	21.9%	20.0%
退院時と異なり、自宅療養にこだわらなくなった	N	76	23	46	145	25	17	24	66	14	17	31
	%	25.0%	30.7%	31.9%	27.7%	29.4%	17.2%	33.3%	25.8%	27.5%	26.6%	27.0%
退院時と異なり、自宅以外の場所での療養を望むようになった	N	63	17	17	97	19	21	8	48	13	11	24
	%	20.7%	22.7%	11.8%	18.5%	22.4%	21.2%	11.1%	18.8%	25.5%	17.2%	20.9%
不明	N	97	21	43	161	22	32	24	78	15	22	37
	%	31.9%	28.0%	29.9%	30.8%	25.9%	32.3%	33.3%	30.5%	29.4%	34.4%	32.2%
合計	N	304	75	144	523	85	99	72	256	51	64	115
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

③在宅療養終了に至る家族の意思の変化に関し、最も近いもの

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
退院時と変わらず、本人の自宅での療養を望んでいた	N	49	7	16	72	13	19	10	42	5	7	12
	%	16.9%	9.5%	11.3%	14.2%	16.9%	20.7%	14.5%	17.6%	10.0%	12.3%	11.2%
退院時と異なり、本人の自宅療養にこだわらなくなった	N	64	16	35	115	18	23	19	60	9	18	27
	%	22.1%	21.6%	24.6%	22.7%	23.4%	25.0%	27.5%	25.2%	18.0%	31.6%	25.2%
退院時と異なり、自宅以外の場所での療養を望むようになった	N	146	47	79	272	37	43	32	112	30	28	58
	%	50.3%	63.5%	55.6%	53.8%	48.1%	46.7%	46.4%	47.1%	60.0%	49.1%	54.2%
不明	N	31	4	12	47	9	7	8	24	6	4	10
	%	10.7%	5.4%	8.5%	9.3%	11.7%	7.6%	11.6%	10.1%	12.0%	7.0%	9.3%
合計	N	290	74	142	506	77	92	69	238	50	57	107
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

④急性疾患で増悪した際に入院や救急搬送するかを本人・家族と合意していたか

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
どんな場合でも入院（救急搬送含む）はせず、自宅で治療する（場合によっては看取る）ことにしていた	N	19	4	4	27	9	4	3	16	5	4	9
	%	6.2%	5.3%	2.8%	5.1%	10.7%	4.0%	4.1%	6.3%	9.8%	6.3%	7.9%
主治医の判断に従い、状況次第で入院（救急搬送含む）選択することにしていた	N	126	31	56	213	25	38	39	102	19	25	44
	%	41.3%	40.8%	38.9%	40.6%	29.8%	38.4%	53.4%	39.8%	37.3%	39.7%	38.6%
状況に応じ、本人や家族の判断で入院（救急搬送含む）を選択することにしていた	N	148	38	73	259	48	46	25	119	27	30	57
	%	48.5%	50.0%	50.7%	49.3%	57.1%	46.5%	34.2%	46.5%	52.9%	47.6%	50.0%
特に明確な取り決め・合意を形成してはいなかった	N	12	3	11	26	2	11	6	19	0	4	4
	%	3.9%	3.9%	7.6%	5.0%	2.4%	11.1%	8.2%	7.4%	0.0%	6.3%	3.5%
合計	N	305	76	144	525	84	99	73	256	51	63	114
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問 4 実際の在宅療養終了時の状況および移動先に関する情報

問 4-1 在宅療養終了時の状況

①在宅療養の終了のタイプ

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
【計画型】介護施設や高齢者向け住宅、療養型病院等への計画的な入所・入院によって療養場所を移した	N	67	12	25	104	23	13	13	49	9	5	14
	%	22.3%	16.0%	17.7%	20.2%	27.4%	13.5%	17.8%	19.4%	17.6%	8.1%	12.4%
【突発型】肺炎等の急性疾患の増悪により突発的に入院となり、そのまま二度と自宅へは戻らなかった	N	233	63	116	412	61	83	60	204	42	57	99
	%	77.7%	84.0%	82.3%	79.8%	72.6%	86.5%	82.2%	80.6%	82.4%	91.9%	87.6%
合計	N	300	75	141	516	84	96	73	253	51	62	113
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問 4-2 在宅療養終了の原因

①療養場所の移動に至った背景

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.医療依存度の上昇に対応可能な住宅医がいなかったため	N	8	4	13	25	0	6	3	9	5	3	8
	%	7.1%	20.0%	24.5%	13.5%	0.0%	17.6%	16.7%	10.6%	31.3%	16.7%	23.5%
2.訪問看護や訪問介護等の 24 時間対応可能な保険サービスが、地域に十分になかったため	N	3	1	2	6	2	1	2	5	1	1	2
	%	2.7%	5.0%	3.8%	3.2%	6.1%	2.9%	11.1%	5.9%	6.3%	5.6%	5.9%
3.訪問看護や訪問介護等のニーズが、介護保険の限度額を超え、保険だけでは賄えなくなったため	N	5	1	4	10	1	1	0	2	1	1	2
	%	4.5%	5.0%	7.5%	5.4%	3.0%	2.9%	0.0%	2.4%	6.3%	5.6%	5.9%
4.家族による介護継続が困難になったため(家族の疲弊や介護拒否、転居等)	N	79	16	32	127	22	20	12	54	7	9	16
	%	70.5%	80.0%	60.4%	68.6%	66.7%	58.8%	66.7%	63.5%	43.8%	50.0%	47.1%
5.家族介護力は減っていないが、それでも足りなくなってしまったため	N	15	1	7	23	3	3	6	12	5	3	8
	%	13.4%	5.0%	13.2%	12.4%	9.1%	8.8%	33.3%	14.1%	31.3%	16.7%	23.5%
6.ADL 低下に伴い必要となった追加の自宅バリアフリー化(改修等)に対応できなかったため	N	6	0	4	10	0	3	1	4	0	0	0
	%	5.4%	0.0%	7.5%	5.4%	0.0%	8.8%	5.6%	4.7%	0.0%	0.0%	0.0%
7.特養等の、経済的負担の少ない介護施設へ入居できることになったため	N	5	0	1	6	0	0	0	0	0	1	1
	%	4.5%	0.0%	1.9%	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	2.9%
8.子供の援助等で、介護付き有料老人ホームやサ高住に入居できることになったため	N	3	0	2	5	0	0	1	1	0	0	0
	%	2.7%	0.0%	3.8%	2.7%	0.0%	0.0%	5.6%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%
9.その他	N	28	2	13	43	9	11	2	22	4	8	12
	%	25.0%	10.0%	24.5%	23.2%	27.3%	32.4%	11.1%	25.9%	25.0%	44.4%	35.3%
10.不明	N	0	1	0	1	1	0	0	1	0	0	0
	%	0.0%	5.0%	0.0%	0.5%	3.0%	0.0%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%
合計回答者数	N	112	20	53	185	33	34	18	85	16	18	34

②移動先

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
特別養護老人ホーム	N	6	2	2	10	0	0	0	0	0	1	1
	%	5.0%	9.5%	3.7%	5.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.0%	2.6%
介護老人保健施設	N	8	2	3	13	1	2	3	6	0	1	1
	%	6.6%	9.5%	5.6%	6.6%	2.9%	5.6%	15.0%	6.6%	0.0%	5.0%	2.6%
有料老人ホーム	N	4	0	1	5	3	1	3	7	1	0	1
	%	3.3%	0.0%	1.9%	2.6%	8.6%	2.8%	15.0%	7.7%	5.6%	0.0%	2.6%
サービス付き高齢者向け住宅	N	7	0	3	10	0	0	0	0	0	1	1
	%	5.8%	0.0%	5.6%	5.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.0%	2.6%
グループホーム	N	0	1	0	1	1	0	0	1	0	0	0
	%	0.0%	4.8%	0.0%	0.5%	2.9%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%
ケアハウス	N	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	1.9%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
一般病棟	N	48	12	21	81	12	18	8	38	8	13	21
	%	39.7%	57.1%	38.9%	41.3%	34.3%	50.0%	40.0%	41.8%	44.4%	65.0%	55.3%
緩和ケア病棟	N	33	2	15	50	16	7	4	27	6	1	7
	%	27.3%	9.5%	27.8%	25.5%	45.7%	19.4%	20.0%	29.7%	33.3%	5.0%	18.4%
療養病棟	N	12	2	6	20	2	7	1	10	2	3	5
	%	9.9%	9.5%	11.1%	10.2%	5.7%	19.4%	5.0%	11.0%	11.1%	15.0%	13.2%
その他	N	3	0	1	4	0	1	1	2	1	0	1
	%	2.5%	0.0%	1.9%	2.0%	0.0%	2.8%	5.0%	2.2%	5.6%	0.0%	2.6%
不明	N	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	1.9%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	N	121	21	54	196	35	36	20	91	18	20	38
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問 4-3 突発的入院の原因について

①入院の経路

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
予定入院（緊急搬送でない）	N	52	10	30	92	9	20	17	46	8	19	27
	%	21.1%	17.2%	24.6%	21.5%	14.1%	24.1%	26.2%	21.7%	18.6%	32.2%	26.5%
緊急搬送による入院	N	195	48	92	335	55	63	48	166	35	40	75
	%	78.9%	82.8%	75.4%	78.5%	85.9%	75.9%	73.8%	78.3%	81.4%	67.8%	73.5%
合計	N	247	58	122	427	64	83	65	212	43	59	102
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

②入院を誰が判断したか

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
主治医の判断による	N	131	34	70	235	30	43	34	107	25	44	69
	%	52.8%	54.0%	56.9%	54.1%	46.9%	50.0%	54.0%	50.2%	56.8%	74.6%	67.0%
本人の判断による	N	11	5	4	20	8	8	3	19	3	2	5
	%	4.4%	7.9%	3.3%	4.6%	12.5%	9.3%	4.8%	8.9%	6.8%	3.4%	4.9%
家族の判断による	N	82	17	41	140	21	28	18	67	15	11	26
	%	33.1%	27.0%	33.3%	32.3%	32.8%	32.6%	28.6%	31.5%	34.1%	18.6%	25.2%
ケアマネージャーの判断による	N	3	0	2	5	2	2	0	4	0	0	0
	%	1.2%	0.0%	1.6%	1.2%	3.1%	2.3%	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%
訪問看護氏の判断による	N	14	7	6	27	3	5	7	15	1	1	2
	%	5.6%	11.1%	4.9%	6.2%	4.7%	5.8%	11.1%	7.0%	2.3%	1.7%	1.9%
その他	N	7	0	0	7	0	0	1	1	0	1	1
	%	2.8%	0.0%	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%	1.6%	0.5%	0.0%	1.7%	1.0%
合計	N	248	63	123	434	64	86	63	213	44	59	103
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

③入院の判断は事前に医療介護スタッフと本人家族間で合意されていた内容と合致していたか

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
合致する、適切なものだった	N	171	46	82	299	42	62	45	149	32	38	70
	%	53.6%	55.4%	52.9%	53.7%	48.8%	62.0%	60.0%	57.1%	59.3%	55.9%	57.4%
急変時の混乱の中でも判断で、合致しないものだった	N	44	5	18	67	16	14	9	39	8	12	20
	%	13.8%	6.0%	11.6%	12.0%	18.6%	14.0%	12.0%	14.9%	14.8%	17.6%	16.4%
そもそも合意は形成されてなかった	N	25	8	16	49	4	5	7	16	1	4	5
	%	7.8%	9.6%	10.3%	8.8%	4.7%	5.0%	9.3%	6.1%	1.9%	5.9%	4.1%
不明	N	8	4	7	19	2	4	3	9	3	5	8
	%	2.5%	4.8%	4.5%	3.4%	2.3%	4.0%	4.0%	3.4%	5.6%	7.4%	6.6%
合計	N	319	83	155	557	86	100	75	261	54	68	122
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

④入院後の状況

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
入院後、短期間でそのままお看取り（病院看取り）となった	N	214	56	103	373	58	72	54	184	39	53	92
	%	86.6%	90.3%	84.4%	86.7%	89.2%	83.7%	83.1%	85.6%	88.6%	89.8%	89.3%
治療ののち病状は安定したが、退院先は自宅以外の場所となった	N	30	5	18	53	5	12	10	27	5	6	11
	%	12.1%	8.1%	14.8%	12.3%	7.7%	14.0%	15.4%	12.6%	11.4%	10.2%	10.7%
不明	N	3	1	0	4	2	1	1	4	0	0	0
	%	1.2%	1.6%	0.0%	0.9%	3.1%	1.2%	1.5%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	N	247	62	121	430	65	85	65	215	44	59	103
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑤自宅に戻らなかった理由

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1. 医療依存度や ADL の重度化によるやむを得ない理由のため	N	55	16	32	103	11	16	16	43	10	11	21
	%	74.3%	72.7%	71.1%	73.0%	61.1%	72.7%	76.2%	70.5%	62.5%	61.1%	61.8%
2. 本人が自宅復帰に消極的となったため	N	5	1	2	8	4	3	2	9	3	1	4
	%	6.8%	4.5%	4.4%	5.7%	22.2%	13.6%	9.5%	14.8%	18.8%	5.6%	11.8%
3. 家族が自宅復帰に消極的となったため	N	25	4	13	42	8	9	6	23	6	9	15
	%	33.8%	18.2%	28.9%	29.8%	44.4%	40.9%	28.6%	37.7%	37.5%	50.0%	44.1%
4. その他	N	3	2	3	8	1	1	2	4	2	1	3
	%	4.1%	9.1%	6.7%	5.7%	5.6%	4.5%	9.5%	6.6%	12.5%	5.6%	8.8%
5. 不明	N	1		1	2	1			1		1	1
	%	1.4%	0.0%	2.2%	1.4%	5.6%	0.0%	0.0%	1.6%	0.0%	5.6%	2.9%
合計回答者数		74	22	45	141	18	22	21	61	16	18	34

問 5-1 自宅復帰の成功に影響を与えた要因に関する情報

問 5-1-1 本人家族の状態で自宅復帰に貢献したこと（寄与度の高いもの上位 5 つ）

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1. 本人の自宅への強い意志・こだわりがあったこと	N	186	45	94	325	44	59	36	139	31	40	71
	%	65.3%	64.3%	70.1%	66.5%	57.9%	65.6%	53.7%	59.7%	64.6%	69.0%	67.0%
2. 本人の希望を抑圧しない、周囲の人たちの態度・理解があったこと	N	199	51	78	328	47	51	45	143	37	37	74
	%	69.8%	72.9%	58.2%	67.1%	61.8%	56.7%	67.2%	61.4%	77.1%	63.8%	69.8%
3. 同居（近居）家族の介護力があったこと	N	123	27	68	218	34	40	31	105	17	22	39
	%	43.2%	38.6%	50.7%	44.6%	44.7%	44.4%	46.3%	45.1%	35.4%	37.9%	36.8%
4. 同居（近居）家族が協力的だったこと	N	172	39	70	281	41	58	40	139	21	29	50
	%	60.4%	55.7%	52.2%	57.5%	53.9%	64.4%	59.7%	59.7%	43.8%	50.0%	47.2%
5. 独居等、同居家族がおらず、本人自身で意思決定ができたこと	N	19	4	10	33	12	6	8	26	5	7	12
	%	6.7%	5.7%	7.5%	6.7%	15.8%	6.7%	11.9%	11.2%	10.4%	12.1%	11.3%
6. 経済的な余裕があったこと	N	117	26	60	203	24	41	26	91	23	21	44
	%	41.1%	37.1%	44.8%	41.5%	31.6%	45.6%	38.8%	39.1%	47.9%	36.2%	41.5%
7. 経済的な余裕がなく、自宅以外の選択肢がなかったこと	N	45	8	17	70	14	20	12	46	5	10	15
	%	15.8%	11.4%	12.7%	14.3%	18.4%	22.2%	17.9%	19.7%	10.4%	17.2%	14.2%
8. 自宅が持家で家賃の負担がなかったこと	N	64	16	27	107	16	11	15	42	8	18	26
	%	22.5%	22.9%	20.1%	21.9%	21.1%	12.2%	22.4%	18.0%	16.7%	31.0%	24.5%
9. 自宅が持家で、バリアフリー改修が容易だったこと	N	26	7	17	50	5	9	6	20	1	9	10
	%	9.1%	10.0%	12.7%	10.2%	6.6%	10.0%	9.0%	8.6%	2.1%	15.5%	9.4%
10. もともと自宅がバリアフリーだったこと	N	28	10	14	52	10	7	5	22	7	5	12
	%	9.8%	14.3%	10.4%	10.6%	13.2%	7.8%	7.5%	9.4%	14.6%	8.6%	11.3%
11. がん等、予後予測可能（短期的）疾患だったこと	N	112	37	53	202	35	42	29	106	20	22	42
	%	39.3%	52.9%	39.6%	41.3%	46.1%	46.7%	43.3%	45.5%	41.7%	37.9%	39.6%
12. 認知症がなかった（軽かった）こと	N	106	26	42	174	28	26	29	83	19	26	45
	%	37.2%	37.1%	31.3%	35.6%	36.8%	28.9%	43.3%	35.6%	39.6%	44.8%	42.5%
13. 吸引等、家族介護力が必要な医療行為が必要なかったこと	N	103	31	45	179	29	27	26	82	20	19	39
	%	36.1%	44.3%	33.6%	36.6%	38.2%	30.0%	38.8%	35.2%	41.7%	32.8%	36.8%
14. 在宅医の特殊なスキルが必要（輸血等）な状態にならなかったこと	N	63	12	25	100	17	20	8	45	12	6	18
	%	22.1%	17.1%	18.7%	20.4%	22.4%	22.2%	11.9%	19.3%	25.0%	10.3%	17.0%
15. 本人や家族に自宅療養や自宅看取りのイメージの素地があったこと	N	45	6	27	78	16	13	7	36	9	7	16
	%	15.8%	8.6%	20.1%	16.0%	21.1%	14.4%	10.4%	15.5%	18.8%	12.1%	15.1%
16. その他	N	11	2	4	17	2	6	1	9	4	1	5
	%	3.9%	2.9%	3.0%	3.5%	2.6%	6.7%	1.5%	3.9%	8.3%	1.7%	4.7%
合計回答者数	N	285	70	134	489	76	90	67	233	48	58	106

（最も寄与度の高いもの）

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.本人の自宅への強い意志・こだわりがあったこと	N	92	28	44	164	26	34	19	79	17	20	37
	%	33.7%	40.6%	33.6%	34.7%	35.6%	40.0%	28.8%	35.3%	38.6%	35.7%	37.0%
2.本人の希望を抑圧しない、周囲の人たちの態度・理解があったこと	N	63	15	19	97	15	12	11	38	7	6	13
	%	23.1%	21.7%	14.5%	20.5%	20.5%	14.1%	16.7%	17.0%	15.9%	10.7%	13.0%
3.同居（近居）家族の介護力があったこと	N	29	7	21	57	10	9	13	32	4	9	13
	%	10.6%	10.1%	16.0%	12.1%	13.7%	10.6%	19.7%	14.3%	9.1%	16.1%	13.0%
4.同居（近居）家族が協力的だったこと	N	43	11	17	71	10	10	7	27	3	9	12
	%	15.8%	15.9%	13.0%	15.0%	13.7%	11.8%	10.6%	12.1%	6.8%	16.1%	12.0%
5.独居等、同居家族がおらず、本人自身で意思決定ができたこと	N	3	0	4	7	5	1	1	7	0	1	1
	%	1.1%	0.0%	3.1%	1.5%	6.8%	1.2%	1.5%	3.1%	0.0%	1.8%	1.0%
6.経済的な余裕があったこと	N	12	4	9	25	4	5	0	9	3	1	4
	%	4.4%	5.8%	6.9%	5.3%	5.5%	5.9%	0.0%	4.0%	6.8%	1.8%	4.0%
7.経済的な余裕がなく、自宅以外の選択肢がなかったこと	N	5	0	7	12	2	1	5	8	3	2	5
	%	1.8%	0.0%	5.3%	2.5%	2.7%	1.2%	7.6%	3.6%	6.8%	3.6%	5.0%
8.自宅が持家で家賃の負担がなかったこと	N	7	3	1	11	1	0	1	2	1	2	3
	%	2.6%	4.3%	0.8%	2.3%	1.4%	0.0%	1.5%	0.9%	2.3%	3.6%	3.0%
9.自宅が持家で、バリアフリー改修が容易だったこと	N	2	1	1	4	0	0	0	0	0	1	1
	%	0.7%	1.4%	0.8%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	1.0%
10.もともと自宅がバリアフリーだったこと	N	2	0	2	4	0	0	0	0	0	1	1
	%	0.7%	0.0%	1.5%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	1.0%
11.がん等、予後予測が可能（短期的）な疾患だったこと	N	25	6	12	43	6	8	7	21	2	9	11
	%	9.2%	8.7%	9.2%	9.1%	8.2%	9.4%	10.6%	9.4%	4.5%	16.1%	11.0%
12.認知症がなかった（軽かった）こと	N	8	1	2	11	2	1	1	4	1	2	3
	%	2.9%	1.4%	1.5%	2.3%	2.7%	1.2%	1.5%	1.8%	2.3%	3.6%	3.0%
13.吸引等、家族介護力が必要な医療行為が必要なかったこと	N	17	2	4	23	3	2	2	7	2	1	3
	%	6.2%	2.9%	3.1%	4.9%	4.1%	2.4%	3.0%	3.1%	4.5%	1.8%	3.0%
14.在宅医の特殊なスキルが必要（輸血等）な状態にならなかったこと	N	2	0	1	3	0	1	0	1	0	0	0
	%	0.7%	0.0%	0.8%	0.6%	0.0%	1.2%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%
15.本人や家族に自宅療養や自宅看取りのイメージの素地があったこと	N	2	2	3	7	2	1	1	4	1	1	2
	%	0.7%	2.9%	2.3%	1.5%	2.7%	1.2%	1.5%	1.8%	2.3%	1.8%	2.0%
16.その他	N	4	0	0	4	0	4	1	5	2	0	2
	%	1.5%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	4.7%	1.5%	2.2%	4.5%	0.0%	2.0%
合計回答者数	N	273	69	131	473	73	85	66	224	44	56	100

問 5-1-2 居住地域の状態で、自宅復帰に貢献したこと

（寄与度の高いもの上位 5 つ）

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.24 時間対応可能な在宅医が地域に多いこと	N	160	45	72	277	39	49	39	127	28	24	52
	%	57.6%	65.2%	56.7%	58.4%	53.4%	55.7%	59.1%	55.9%	62.2%	42.1%	51.0%
2.病院の退院調整が早期かつ丁寧で、連携がよく機能していたこと	N	171	40	81	292	44	54	56	154	28	30	58
	%	61.5%	58.0%	63.8%	61.6%	60.3%	61.4%	84.8%	67.8%	62.2%	52.6%	56.9%
3.24 時間対応可能な訪問看護ステーションが地域に多いこと	N	205	53	78	336	49	61	51	161	35	35	70
	%	73.7%	76.8%	61.4%	70.9%	67.1%	69.3%	77.3%	70.9%	77.8%	61.4%	68.6%
4.24 時間対応可能な訪問介護事業所が地域に多いこと	N	33	11	19	63	9	12	6	27	8	8	16
	%	11.9%	15.9%	15.0%	13.3%	12.3%	13.6%	9.1%	11.9%	17.8%	14.0%	15.7%
5.自宅看取りに習熟しているケアマネージャーが地域に多いこと	N	68	17	22	107	18	19	10	47	7	14	21
	%	24.5%	24.6%	17.3%	22.6%	24.7%	21.6%	15.2%	20.7%	15.6%	24.6%	20.6%
6.在宅対応型の薬局が地域に多いこと	N	57	10	18	85	13	13	7	33	3	7	10
	%	20.5%	14.5%	14.2%	17.9%	17.8%	14.8%	10.6%	14.5%	6.7%	12.3%	9.8%
7.急変時に受け入れ可能な後方支援病床が地域に多いこと	N	133	24	57	214	35	41	27	103	23	25	48
	%	47.8%	34.8%	44.9%	45.1%	47.9%	46.6%	40.9%	45.4%	51.1%	43.9%	47.1%
8.看取りの経験豊富な在宅医・訪問看護師が地域に多いこと	N	165	39	73	277	43	53	38	134	30	32	62
	%	59.4%	56.5%	57.5%	58.4%	58.9%	60.2%	57.6%	59.0%	66.7%	56.1%	60.8%
9.疼痛コントロールが可能な在宅医が地域に多いこと	N	59	19	24	102	20	21	17	58	9	14	23
	%	21.2%	27.5%	18.9%	21.5%	27.4%	23.9%	25.8%	25.6%	20.0%	24.6%	22.5%
10.医療・介護の他職種連携や相互交流が活発な地域だったこと	N	121	26	54	201	29	36	21	86	19	25	44
	%	43.5%	37.7%	42.5%	42.4%	39.7%	40.9%	31.8%	37.9%	42.2%	43.9%	43.1%
11.行政が医療介護連携強化（研修や交流の場づくり等）に積極的なこと	N	36	15	16	67	11	10	7	28	5	8	13
	%	12.9%	21.7%	12.6%	14.1%	15.1%	11.4%	10.6%	12.3%	11.1%	14.0%	12.7%
12.自宅での療養や看取りの文化や認識が昔から一般的な地域であること	N	29	3	13	45	5	8	4	17	2	5	7
	%	10.4%	4.3%	10.2%	9.5%	6.8%	9.1%	6.1%	7.5%	4.4%	8.8%	6.9%
13.自宅療養や看取りに関する住民向け啓発活動が盛んな地域であること	N	14	5	8	27	5	3	1	9	1	5	6
	%	5.0%	7.2%	6.3%	5.7%	6.8%	3.4%	1.5%	4.0%	2.2%	8.8%	5.9%
14.隣近所の互助やボランティア組織による生活支援が充実していること	N	17	1	9	27	6	4	4	14	1	2	3
	%	6.1%	1.4%	7.1%	5.7%	8.2%	4.5%	6.1%	6.2%	2.2%	3.5%	2.9%
15.行政による住宅改修補助等の各種支援施策が充実してること	N	26	2	10	38	6	5	7	18	2	4	6
	%	9.4%	2.9%	7.9%	8.0%	8.2%	5.7%	10.6%	7.9%	4.4%	7.0%	5.9%
16.その他	N	6	2	8	16	1	5	2	8	3	5	8
	%	2.2%	2.9%	6.3%	3.4%	1.4%	5.7%	3.0%	3.5%	6.7%	8.8%	7.8%
合計回答者数	N	278	69	127	474	73	88	66	227	45	57	102

（最も寄与度の高いもの）

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準市	中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.24時間対応可能な在宅医が地域に多いこと	N	68	14	22	104	12	20	12	44	7	7	14
	%	26.2%	20.9%	18.0%	23.2%	17.6%	25.0%	19.0%	20.9%	17.5%	13.2%	15.1%
2.病院の退院調整が早期かつ丁寧で、連携がよく機能していたこと	N	48	16	28	92	16	18	18	52	11	11	22
	%	18.5%	23.9%	23.0%	20.5%	23.5%	22.5%	28.6%	24.6%	27.5%	20.8%	23.7%
3.24時間対応可能な訪問看護ステーションが地域に多いこと	N	47	21	24	92	17	19	8	44	7	13	20
	%	18.1%	31.3%	19.7%	20.5%	25.0%	23.8%	12.7%	20.9%	17.5%	24.5%	21.5%
4.24時間対応可能な訪問介護事業所が地域に多いこと	N	2	2	1	5	2	0	0	2	1	1	2
	%	0.8%	3.0%	0.8%	1.1%	2.9%	0.0%	0.0%	0.9%	2.5%	1.9%	2.2%
5.自宅看取りに習熟しているケアマネージャーが地域に多いこと	N	7	2	3	12	3	2	0	5	1	0	1
	%	2.7%	3.0%	2.5%	2.7%	4.4%	2.5%	0.0%	2.4%	2.5%	0.0%	1.1%
6.在宅対応型の薬局が地域に多いこと	N	0	0	0	0	1	1	0	2	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%	1.3%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%
7.急変時に受け入れ可能な後方支援病床が地域に多いこと	N	24	4	9	37	7	8	5	20	4	5	9
	%	9.2%	6.0%	7.4%	8.2%	10.3%	10.0%	7.9%	9.5%	10.0%	9.4%	9.7%
8.看取りの経験豊富な在宅医・訪問看護師が地域に多いこと	N	43	6	20	69	9	8	15	32	7	9	16
	%	16.5%	9.0%	16.4%	15.4%	13.2%	10.0%	23.8%	15.2%	17.5%	17.0%	17.2%
9.疼痛コントロールが可能な在宅医が地域に多いこと	N	6	1	1	8	1	1	0	2	2	0	2
	%	2.3%	1.5%	0.8%	1.8%	1.5%	1.3%	0.0%	0.9%	5.0%	0.0%	2.2%
10.医療・介護の他職種連携や相互交流が活発な地域だったこと	N	22	7	6	35	3	2	5	10	1	3	4
	%	8.5%	10.4%	4.9%	7.8%	4.4%	2.5%	7.9%	4.7%	2.5%	5.7%	4.3%
11.行政が医療介護連携強化（研修や交流の場づくり等）に積極的なこと	N	6	2	5	13	2	1	0	3	1	1	2
	%	2.3%	3.0%	4.1%	2.9%	2.9%	1.3%	0.0%	1.4%	2.5%	1.9%	2.2%
12.自宅での療養や看取りの文化や認識が昔から一般的な地域であること	N	13	1	3	17	1	2	0	3	0	1	1
	%	5.0%	1.5%	2.5%	3.8%	1.5%	2.5%	0.0%	1.4%	0.0%	1.9%	1.1%
13.自宅療養や看取りに関する住民向け啓発活動が盛んな地域であること	N	1	2	1	4	1	1	0	2	0	2	2
	%	0.4%	3.0%	0.8%	0.9%	1.5%	1.3%	0.0%	0.9%	0.0%	3.8%	2.2%
14.隣近所の互助やボランティア組織による生活支援が充実していること	N	3	0	3	6	0	0	0	0	0	0	0
	%	1.2%	0.0%	2.5%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
15.行政による住宅改修補助等の各種支援施策が充実してること	N	2	0	0	2	0	0	1	1	0	0	0
	%	0.8%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	1.6%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%
16.その他	N	0	0	4	4	0	1	0	1	0	2	2
	%	0.0%	0.0%	3.3%	0.9%	0.0%	1.3%	0.0%	0.5%	0.0%	3.8%	2.2%
合計回答者数	N	260	67	122	449	68	80	63	211	40	53	93

問 5-2 在宅療養の終了に影響を与えた要因

問 5-2-1 本人家族の状態で自宅看取りの阻害要因になったこと

（寄与度の高いもの上位 5 つ）

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準市	中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.本人の自宅への強い意志・こだわりがなかったこと	N	110	29	52	191	34	29	29	92	19	18	37
	%	38.9%	42.6%	38.5%	39.3%	44.7%	32.6%	43.9%	39.8%	38.8%	31.6%	34.9%
2.本人の希望を抑圧しない、周囲の人たちの態度・理解がなかったこと	N	34	9	25	68	12	7	7	26	8	12	20
	%	12.0%	13.2%	18.5%	14.0%	15.8%	7.9%	10.6%	11.3%	16.3%	21.1%	18.9%
3.同居（近居）家族の介護力がなかったこと	N	145	41	73	259	40	48	30	118	29	30	59
	%	51.2%	60.3%	54.1%	53.3%	52.6%	53.9%	45.5%	51.1%	59.2%	52.6%	55.7%
4.同居（近居）家族が協力的でなかったこと	N	46	10	27	83	13	17	13	43	9	17	26
	%	16.3%	14.7%	20.0%	17.1%	17.1%	19.1%	19.7%	18.6%	18.4%	29.8%	24.5%
5.独居等、同居家族がおらず、本人自身で意思決定ができなかったこと	N	66	24	29	119	18	14	18	50	13	14	27
	%	23.3%	35.3%	21.5%	24.5%	23.7%	15.7%	27.3%	21.6%	26.5%	24.6%	25.5%
6.経済的な余裕がなかったこと	N	48	11	23	82	19	18	6	43	3	12	15
	%	17.0%	16.2%	17.0%	16.9%	25.0%	20.2%	9.1%	18.6%	6.1%	21.1%	14.2%
7.経済的な余裕があり、自宅以外の選択肢があったこと	N	102	22	43	167	24	27	24	75	19	17	36
	%	36.0%	32.4%	31.9%	34.4%	31.6%	30.3%	36.4%	32.5%	38.8%	29.8%	34.0%
8.自宅が持家でなく、家賃の負担があったこと	N	11	2	7	20	5	3	3	11	0	2	2
	%	3.9%	2.9%	5.2%	4.1%	6.6%	3.4%	4.5%	4.8%	0.0%	3.5%	1.9%
9.自宅が持家でなく、バリアフリー改修が容易でなかったこと	N	17	5	8	30	3	8	3	14	2	5	7
	%	6.0%	7.4%	5.9%	6.2%	3.9%	9.0%	4.5%	6.1%	4.1%	8.8%	6.6%
10.もともと自宅がバリアフリーでなかったこと	N	54	18	19	91	15	11	14	40	9	6	15
	%	19.1%	26.5%	14.1%	18.7%	19.7%	12.4%	21.2%	17.3%	18.4%	10.5%	14.2%
11.がん等、予後予測が可能（短期的）な疾患ではなかったこと	N	70	8	27	105	16	21	10	47	14	14	28
	%	24.7%	11.8%	20.0%	21.6%	21.1%	23.6%	15.2%	20.3%	28.6%	24.6%	26.4%
12.認知症があった（重かった）こと	N	71	15	31	117	21	25	8	54	14	11	25
	%	25.1%	22.1%	23.0%	24.1%	27.6%	28.1%	12.1%	23.4%	28.6%	19.3%	23.6%
13.吸引等、家族介護力が必要な医療行為が必要な状態になったこと	N	146	37	66	249	34	46	34	114	19	25	44
	%	51.6%	54.4%	48.9%	51.2%	44.7%	51.7%	51.5%	49.4%	38.8%	43.9%	41.5%
14.在宅医の特殊なスキルが必要（輸血等）な状態になったこと	N	73	13	30	116	17	20	14	51	9	14	23
	%	25.8%	19.1%	22.2%	23.9%	22.4%	22.5%	21.2%	22.1%	18.4%	24.6%	21.7%
15.本人や家族に自宅療養や自宅看取りのイメージの素地がなかったこと	N	140	42	63	245	41	45	30	116	22	25	47
	%	49.5%	61.8%	46.7%	50.4%	53.9%	50.6%	45.5%	50.2%	44.9%	43.9%	44.3%
16.その他	N	58	17	35	110	15	21	23	59	11	13	24
	%	20.5%	25.0%	25.9%	22.6%	19.7%	23.6%	34.8%	25.5%	22.4%	22.8%	22.6%
合計回答者数	N	283	68	135	486	76	89	66	231	49	57	106

（最も寄与度の高いもの）

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.本人の自宅への強い意志・こだわりがなかったこと	N	32	7	10	49	7	9	9	25	4	6	10
	%	12.1%	10.6%	7.8%	10.7%	9.7%	10.8%	14.5%	11.5%	9.3%	11.3%	10.4%
2.本人の希望を抑圧しない、周囲の人たちの態度・理解がなかったこと	N	1	0	5	6	2	2	0	4	0	1	1
	%	0.4%	0.0%	3.9%	1.3%	2.8%	2.4%	0.0%	1.8%	0.0%	1.9%	1.0%
3.同居（近居）家族の介護力がなかったこと	N	58	15	28	101	12	12	11	35	7	10	17
	%	21.9%	22.7%	21.9%	22.0%	16.7%	14.5%	17.7%	16.1%	16.3%	18.9%	17.7%
4.同居（近居）家族が協力的でなかったこと	N	6	3	4	13	2	5	3	10	2	1	3
	%	2.3%	4.5%	3.1%	2.8%	2.8%	6.0%	4.8%	4.6%	4.7%	1.9%	3.1%
5.独居等、同居家族がおらず、本人自身で意思決定ができなかったこと	N	12	3	4	19	1	2	1	4	2	2	4
	%	4.5%	4.5%	3.1%	4.1%	1.4%	2.4%	1.6%	1.8%	4.7%	3.8%	4.2%
6.経済的な余裕がなかったこと	N	5	2	4	11	3	3	1	7	1	2	3
	%	1.9%	3.0%	3.1%	2.4%	4.2%	3.6%	1.6%	3.2%	2.3%	3.8%	3.1%
7.経済的な余裕があり、自宅以外の選択肢があったこと	N	14	4	4	22	3	3	2	8	3	5	8
	%	5.3%	6.1%	3.1%	4.8%	4.2%	3.6%	3.2%	3.7%	7.0%	9.4%	8.3%
8.自宅が持家でなく、家賃の負担があったこと	N	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
9.自宅が持家でなく、バリアフリー改修が容易でなかったこと	N	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0
	%	0.0%	1.5%	0.8%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
10.もともと自宅がバリアフリーでなかったこと	N	7	3	2	12	1	0	2	3	0	0	0
	%	2.6%	4.5%	1.6%	2.6%	1.4%	0.0%	3.2%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%
11.がん等、予後予測が可能（短期的）な疾患ではなかったこと	N	18	1	5	24	4	3	1	8	3	5	8
	%	6.8%	1.5%	3.9%	5.2%	5.6%	3.6%	1.6%	3.7%	7.0%	9.4%	8.3%
12.認知症があった（重かった）こと	N	9	0	2	11	7	4	2	13	4	1	5
	%	3.4%	0.0%	1.6%	2.4%	9.7%	4.8%	3.2%	6.0%	9.3%	1.9%	5.2%
13.吸引等、家族介護力が必要な医療行為が必要な状態になったこと	N	48	14	23	85	12	14	14	40	7	12	19
	%	18.1%	21.2%	18.0%	18.5%	16.7%	16.9%	22.6%	18.4%	16.3%	22.6%	19.8%
14.在宅医の特殊なスキルが必要（輸血等）な状態になったこと	N	14	2	9	25	4	6	4	14	3	2	5
	%	5.3%	3.0%	7.0%	5.4%	5.6%	7.2%	6.5%	6.5%	7.0%	3.8%	5.2%
15.本人や家族に自宅療養や自宅看取りのイメージの素地がなかったこと	N	24	10	11	45	9	9	1	19	4	5	9
	%	9.1%	15.2%	8.6%	9.8%	12.5%	10.8%	1.6%	8.8%	9.3%	9.4%	9.4%
16.その他	N	42	9	24	75	13	13	12	38	5	6	11
	%	15.8%	13.6%	18.8%	16.3%	18.1%	15.7%	19.4%	17.5%	11.6%	11.3%	11.5%
合計回答者数	N	265	66	128	459	72	83	62	217	43	53	96

問 5-2-2 居住地域の状態で、自宅看取りの阻害要因となったこと

（寄与度の高いもの上位 5 つ）

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.24 時間対応可能な在宅医が地域に少なかったこと	N	74	12	30	116	18	21	11	50	10	20	30
	%	30.3%	21.1%	25.6%	27.8%	28.1%	27.6%	19.3%	25.4%	23.8%	42.6%	33.7%
2.病院の退院調整が早期かつ丁寧で、連携がよく機能していなかったこと	N	51	7	22	80	11	9	4	24	9	7	16
	%	20.9%	12.3%	18.8%	19.1%	17.2%	11.8%	7.0%	12.2%	21.4%	14.9%	18.0%
3.24 時間対応可能な訪問看護ステーションが地域に少ないこと	N	44	4	24	72	10	14	6	30	7	12	19
	%	18.0%	7.0%	20.5%	17.2%	15.6%	18.4%	10.5%	15.2%	16.7%	25.5%	21.3%
4.24 時間対応可能な訪問介護事業所が地域に少ないこと	N	109	25	52	186	29	31	20	80	20	21	41
	%	44.7%	43.9%	44.4%	44.5%	45.3%	40.8%	35.1%	40.6%	47.6%	44.7%	46.1%
5.自宅看取りに習熟しているケアマネージャーが地域に少ないこと	N	45	11	22	78	20	20	11	51	12	10	22
	%	18.4%	19.3%	18.8%	18.7%	31.3%	26.3%	19.3%	25.9%	28.6%	21.3%	24.7%
6.在宅対応型の薬局が地域に少ないこと	N	29	8	14	51	6	8	6	20	4	10	14
	%	11.9%	14.0%	12.0%	12.2%	9.4%	10.5%	10.5%	10.2%	9.5%	21.3%	15.7%
7.急変時に受け入れ可能な後方支援病床が地域に少ないこと	N	89	20	41	150	22	30	16	68	9	23	32
	%	36.5%	35.1%	35.0%	35.9%	34.4%	39.5%	28.1%	34.5%	21.4%	48.9%	36.0%
8.看取りの経験豊富な在宅医・訪問看護師が地域に少ないこと	N	27	6	19	52	9	19	4	32	2	9	11
	%	11.1%	10.5%	16.2%	12.4%	14.1%	25.0%	7.0%	16.2%	4.8%	19.1%	12.4%
9.疼痛コントロールが可能な在宅医が地域に少ないこと	N	50	12	20	82	16	17	12	45	5	10	15
	%	20.5%	21.1%	17.1%	19.6%	25.0%	22.4%	21.1%	22.8%	11.9%	21.3%	16.9%
10.医療・介護の多職種連携や相互交流が活発ではない地域だったこと	N	38	10	18	66	10	13	9	32	5	4	9
	%	15.6%	17.5%	15.4%	15.8%	15.6%	17.1%	15.8%	16.2%	11.9%	8.5%	10.1%
11.行政が医療介護連携強化（研修や交流の場づくり等）に消極的なこと	N	42	12	23	77	12	14	8	34	5	4	9
	%	17.2%	21.1%	19.7%	18.4%	18.8%	18.4%	14.0%	17.3%	11.9%	8.5%	10.1%
12.自宅での療養や看取りの文化や認識が昔から一般的でない地域であること	N	100	28	44	172	22	29	25	76	17	16	33
	%	41.0%	49.1%	37.6%	41.1%	34.4%	38.2%	43.9%	38.6%	40.5%	34.0%	37.1%
13.自宅療養や看取りに関する住民向け啓発活動があまり行われていない地域であること	N	122	30	53	205	36	44	28	108	16	22	38
	%	50.0%	52.6%	45.3%	49.0%	56.3%	57.9%	49.1%	54.8%	38.1%	46.8%	42.7%
14.隣近所の互助やボランティア組織による生活支援が充実していないこと	N	126	39	60	225	29	34	28	91	17	22	39
	%	51.6%	68.4%	51.3%	53.8%	45.3%	44.7%	49.1%	46.2%	40.5%	46.8%	43.8%
15.行政による住宅改修補助等の各種支援施策が充実していないこと	N	35	11	16	62	11	6	7	24	2	4	6
	%	14.3%	19.3%	13.7%	14.8%	17.2%	7.9%	12.3%	12.2%	4.8%	8.5%	6.7%
16.その他	N	35	9	21	65	10	13	21	44	7	4	11
	%	14.3%	15.8%	17.9%	15.6%	15.6%	17.1%	36.8%	22.3%	16.7%	8.5%	12.4%
合計回答者数	N	244	57	117	418	64	76	57	197	42	47	89

（最も寄与度の高いもの）

		全国				横浜				任意抽出		
		①高水準市	②高水準中小市	③低水準市	小計	①高水準横浜	②中水準横浜	③低水準横浜	小計	①大規模任意抽出	②中小規模任意抽出	小計
1.24時間対応可能な在宅医が地域に多いこと	N	30	4	14	48	7	8	3	18	2	11	13
	%	13.6%	7.7%	13.5%	12.8%	11.7%	11.8%	6.3%	10.2%	5.1%	27.5%	16.5%
2.病院の退院調整が早期かつ丁寧で、連携がよく機能していたこと	N	23	4	10	37	1	2	1	4	5	1	6
	%	10.5%	7.7%	9.6%	9.8%	1.7%	2.9%	2.1%	2.3%	12.8%	2.5%	7.6%
3.24時間対応可能な訪問看護ステーションが地域に多いこと	N	3	2	9	14	5	3	3	11	3	2	5
	%	1.4%	3.8%	8.7%	3.7%	8.3%	4.4%	6.3%	6.3%	7.7%	5.0%	6.3%
4.24時間対応可能な訪問介護事業所が地域に多いこと	N	29	5	9	43	5	3	6	14	9	4	13
	%	13.2%	9.6%	8.7%	11.4%	8.3%	4.4%	12.5%	8.0%	23.1%	10.0%	16.5%
5.自宅看取りに習熟しているケアマネージャーが地域に多いこと	N	5	1	4	10	6	2	1	9	1	0	1
	%	2.3%	1.9%	3.8%	2.7%	10.0%	2.9%	2.1%	5.1%	2.6%	0.0%	1.3%
6.在宅対応型の薬局が地域に多いこと	N	2	0	0	2	1	0	0	1	1	1	2
	%	0.9%	0.0%	0.0%	0.5%	1.7%	0.0%	0.0%	0.6%	2.6%	2.5%	2.5%
7.急変時に受け入れ可能な後方支援病床が地域に多いこと	N	26	6	12	44	8	12	3	23	4	9	13
	%	11.8%	11.5%	11.5%	11.7%	13.3%	17.6%	6.3%	13.1%	10.3%	22.5%	16.5%
8.看取りの経験豊富な在宅医・訪問看護師が地域に多いこと	N	8	0	3	11	1	4	1	6	1	2	3
	%	3.6%	0.0%	2.9%	2.9%	1.7%	5.9%	2.1%	3.4%	2.6%	5.0%	3.8%
9.疼痛コントロールが可能な在宅医が地域に多いこと	N	12	1	4	17	6	4	2	12	0	2	2
	%	5.5%	1.9%	3.8%	4.5%	10.0%	5.9%	4.2%	6.8%	0.0%	5.0%	2.5%
10.医療・介護の多職種連携や相互交流が活発な地域だったこと	N	4	1	1	6	0	1	1	2	0	0	0
	%	1.8%	1.9%	1.0%	1.6%	0.0%	1.5%	2.1%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%
11.行政が医療介護連携強化（研修や交流の場づくり等）に積極的なこと	N	5	1	0	6	1	3	0	4	0	0	0
	%	2.3%	1.9%	0.0%	1.6%	1.7%	4.4%	0.0%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%
12.自宅での療養や看取りの文化や認識が昔から一般的な地域であること	N	24	10	13	47	4	8	8	20	6	2	8
	%	10.9%	19.2%	12.5%	12.5%	6.7%	11.8%	16.7%	11.4%	15.4%	5.0%	10.1%
13.自宅療養や看取りに関する住民向け啓発活動が盛んな地域であること	N	26	4	7	37	8	6	6	20	3	3	6
	%	11.8%	7.7%	6.7%	9.8%	13.3%	8.8%	12.5%	11.4%	7.7%	7.5%	7.6%
14.隣近所の互助やボランティア組織による生活支援が充実していること	N	12	6	5	23	5	2	2	9	1	2	3
	%	5.5%	11.5%	4.8%	6.1%	8.3%	2.9%	4.2%	5.1%	2.6%	5.0%	3.8%
15.行政による住宅改修補助等の各種支援施策が充実していないこと	N	0	2	0	2	0	1	0	1	0	0	0
	%	0.0%	3.8%	0.0%	0.5%	0.0%	1.5%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
16.その他	N	23	7	19	49	8	10	11	29	5	3	8
	%	10.5%	13.5%	18.3%	13.0%	13.3%	14.7%	22.9%	16.5%	12.8%	7.5%	10.1%
合計回答者数	N	220	52	104	376	60	68	48	176	39	40	79

平成 28 年度老人保健事業推進費等補助金老人健康増進等事業
医療・介護ニーズがある高齢者等の
地域居住のあり方に関する調査研究事業

報告書

平成２９年３月

発　　行　　一般財団法人　高齢者住宅財団
東京都中央区八丁堀 2 丁目 20 番 9 号八丁堀 FRONT4 階
http://koujuuzai.or.jp/
※無断転載厳禁